

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター年報

令和 3 年 度



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

緒 言

東京都健康長寿医療センターは平成21年4月より地方独立行政法人として運営を始め、現在は中期計画の第3期目にあたり、システム構築と経営を含めた基盤の構築強化を継続して図りつつ、臨床と研究の成果の社会実装、見える化を図る最難関のステージに入っています。業務の増加から独法開始時の職員数758名は令和3年には約1,000名に増加して居ます。

令和3年度は、経営面ではこれまでの業務形態見直しを継続し、診療科別採算性意識の徹底による運営交付金の適切効率的な運用を図るとともに、事務方の努力により給食、清掃、電気など契約関係の見直しに着手し、経費の削減を実現しました。診療面では、新任の部長を迎えた脳神経内科、肝胆膵外科、放射線治療科、高齢診療科で診療、教育の充実が見られ、「認知症未来社会創造センター」、「フレイル予防センター」での、研究とケアの受け皿モデルを骨格とするプロジェクトが進展してきました。認知症では、これまで、AIを用いた研究や、地域研究の統合によるビッグデータベースの稼働などの成果があり、フレイルでは、本邦初の「フレイルサポート医」を東京都医師会、板橋区医師会と協力して継続して広がりを図って居ます。

一方、新型コロナウイルス感染症が周期的に拡大するなか、施設内感染予防対策を充実し、城北部(東京都区西北部医療圏)の感染対策医療機関として、近隣医療機関と連携しました。ECMOを含む最重症患者の受け入れ体制を整え、地域のかかりつけ医からのPCR検査の受け皿となる「連携検査外来」を年間を通じて稼働させ、PCR検査は5,000例以上となりました。さらに、ホテル療養支援のため、病棟2フロア(2病棟=約90床)を閉鎖し、看護師最大50名を常時4箇所程度のホテル療養に派遣しています。東京都のワクチン接種にも薬剤師、看護師を派遣しました。認知症を含む都内広域の超高齢者のコロナ感染症患者を積極的に受け入れ、退院支援にも力を注ぎました。

研究面では、認知症高齢者の再入院の原因を明らかにし、交流が実と結びつく研究成果や、希少な成果を得ました。また、ゴミ屋敷症候群の実態を本邦で初めて報告し、行政の課題を明らかにしました。ガン研究では、難治性ガンの転移機序の解明によるガンの新しい治療法の開発、ビタミンCや水素水など実用性の高い研究成果を得ることができました。糖鎖の高レベルの研究が評価され全国プロジェクトへの参加も始まって居ます。競争的資金の獲得では10億円を超え、文部科研の採択率は21位以内を保持して居ます。また、4件の厚労科件を受託し、政策医療研究にも貢献しました。

ここに、東京都健康長寿医療センターの令和3年度の事業・活動内容をまとめた「地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報」が完成しましたのでお届けいたします。

引き続き、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
理事長 鳥羽 研二



目 次

緒言

第一部 概要	1
1 概要.....	2
2 沿革.....	3
3 基本理念及び運営方針.....	6
(1) 基本理念.....	6
(2) 運営方針.....	6
(3) 患者権利章典.....	6
4 組織.....	7
(1) 組織図.....	7
(2) 職員構成.....	9
(3) 看護部配置状況.....	9
(4) 非常勤職員配置状況.....	10
5 予算.....	11
6 センターにおける会議.....	12
(1) 地方独立行政法人東京都健康 長寿医療センター運営協議会.....	12
(2) 会議.....	12
7 指定・許可・学会認定.....	14
(1) 指定・許可状況.....	14
(2) 各種学会認定状況.....	15
(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧.....	15
8 事務局.....	17
9 令和3年度業務実績の全体的な概要.....	19
(1) 総括と課題.....	19
(2) 事業の進捗状況及び特記事項.....	20

第二部 病院部門	24
I 令和3年度運営報告.....	24
内科総括.....	25
総合内科・高齢診療科.....	28
膠原病・リウマチ科.....	29
腎臓内科・血液透析科.....	30
糖尿病・代謝・内分泌内科.....	31
循環器内科.....	33
呼吸器内科.....	34
消化器・内視鏡内科.....	35
脳神経内科・脳卒中科.....	36
血液内科.....	38
感染症内科.....	40
精神科.....	41
もの忘れ外来.....	42
緩和ケア内科.....	43
外科総括.....	45
外科.....	46
血管外科.....	47
心臓血管外科.....	48
脳神経外科.....	49
呼吸器外科.....	50
整形・脊椎外科.....	51
皮膚科.....	52
泌尿器科.....	53
眼科.....	54
耳鼻咽喉科.....	55
歯科口腔外科.....	56
救急診療部.....	58
麻酔科.....	60
中央手術室.....	62
特定集中治療室.....	63
リハビリテーション科.....	64
放射線診断科.....	69
放射線治療科.....	71
化学療法科.....	73
臨床検査科.....	74
輸血・細胞療法科.....	75
病理診断科.....	76



薬剤科	77	放射線診断科	180
栄養科	79	放射線治療科	183
臨床工学科	81	化学療法科	185
高齢者バイオリソースセンター	82	臨床検査科	186
高齢者健康増進センター	83	輸血・細胞療法科	187
がん相談支援センター	84	病理診断科	188
看護部	85	薬剤科	193
医療連携室	96	栄養科	194
在宅医療・福祉相談室	97	高齢者バイオリソースセンター	195
老年学情報センター	98	高齢者健康増進センター	198
養育院・渋沢記念コーナー	99	病院部門課題研究費で行われた研究	200
 II 令和3年度研究活動報告		 III 統計	
名誉理事長 井藤英喜	102	外来診療の状況	
理事長 鳥羽研二	103	1. 診療科別外来患者数	
センター長 許俊鋭	104	2. 診療科・初診・再診別外来患者数	
副院長 原田和昌	106	3. 外来初診予約時の状況	
副院長 荒木厚	111	4. 救急患者取扱状況	
副院長 時村文秋	118	入院退院の状況	
総合内科・高齢診療科	119	5. 病床利用状況	
膠原病・リウマチ科	120	6. 病床利用率	
腎臓内科・血液透析科	122	7. 月別入院退院状況	
糖尿病・代謝・内分泌内科	123	8. 平均在院日数	
循環器内科	134	9. 入院患者の年齢別内訳	
呼吸器内科	143	10. 入院患者平均年齢（入院時）	
消化器・内視鏡内科	146	11. 地域別入院患者数	
脳神経内科・脳卒中科	147	12. 退院者の在院期間	
血液内科	154	入院患者の死亡状況	
感染症内科	156	13. 死亡者内訳及び剖検数	
精神科・もの忘れ外来	157	14. 年齢別死亡者数	
外科	159	15. 死亡原因別死亡者数	
血管外科	160	16. 死亡者の入院期間	
心臓血管外科	161	部署別業務状況	
脳神経外科	164	17. 手術件数	
呼吸器外科	165	18. 疾病別手術件数	
整形・脊椎外科	166	19. リハビリテーション取扱実績	
皮膚科	167	20. 理学療法実施状況	
眼科	168	21. 作業療法実施状況	
耳鼻咽喉科	170	22. 言語療法実施状況	
歯科口腔外科	171		
麻酔科	177		
リハビリテーション科	178		



23. 心理検査等取扱件数	219
24. 調剤実施状況	220
25. 製剤実施状況	220
26. 院外処方箋発行率	220
27. 薬品管理状況	221
28. 薬効別薬品使用比率（薬価）	221
29. 麻薬取扱状況	222
30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務	223
31. 外来服薬指導実施状況	223
32. 外来がん患者指導業務	223
33. 病棟業務実施状況	224
34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）処方箋取扱数	224
35. 医薬品情報業務	224
36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況	225
37. 病理学的業務実施状況	226
38. 臨床検査実施状況	227
39. 放射線部門取扱数	228
40. 給食実施状況	230
41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況	230
42. 個人栄養食事指導実施状況	231
43. 集団栄養食事指導実施状況	231
44. 在宅看護相談室の看護実施状況	232
45. 在宅酸素療法実績	233
46. 在宅人工呼吸療法実績	233
47. 病歴取扱状況	234
48. 医療相談室相談件数	235

診療費の収入状況

49. 診療実績	237
50. 診療実績：前年度比較	238
51. 診療実績（入院）	239
52. 診療実績（外来）	240
53. 入院患者（入院時）保険種別内訳	241
54. 外来患者（新患）保険種別内訳	242

疾病統計

55. 退院患者の疾患内訳 （ICD10コードによる大分類）	243
56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳	

（ICD10コードによる中分類）	249

第三部 研究部門

I チーム研究等（令和3年度活動報告）

チーム研究	255
老化機構研究チーム	256
老化制御研究チーム	269
老化脳神経科学研究チーム	277
老年病態研究チーム	289
老年病理学研究チーム	296
神経画像研究チーム	307
社会参加と地域保健研究チーム	318
自立促進と精神保健研究チーム	347
福祉と生活ケア研究チーム	376
研究支援施設等	396
アイソトープ施設	396
実験動物施設	397
高齢者健康増進事業支援室	400
研究情報管理室	402
東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター	403

II 長期縦断研究等

SONIC研究	406
虚弱（frailty）の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究	408
板橋お達者健診（コホートおよび介入研究）	410
認知症を中心とした老年医学・老年学研究のプラットフォームの構築（高島平長期縦断研究）	412
全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究（JAHEAD）	415
健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）	417

III 普及活動等

1 新聞・雑誌・テレビ等	421
2 プレス発表	423
3 老年学・老年医学公開講座等	424
4 友の会	425



第四部 病院・研究所連携部門 427

フレイル予防センター..... 428

認知症未来社会創造センター..... 431

健康長寿イノベーションセンター..... 433

第五部 補助金等 438

研究補助金・助成金等受入状況..... 439

1 受託研究 439

2 共同研究 439

3 奨学寄附 440

4 国庫補助 443

5 民間助成金..... 443

6 受託事業 445

7 学術指導 446

8 科学研究費..... 448

9 日本医療研究開発機構委託研究開発【研究代表者・研究分担者】 454

10 研究委託費..... 457

第一部 概 要

1 概 要

■名称	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
■所在地	東京都板橋区栄町35番 2 号
■電話	03-3964-1141（病院部門代表） 03-3964-3241（研究部門代表）
■設立団体	東京都
■開設年月日	平成21年 4 月 1 日
■役員	理事長 鳥羽 研二 理 事 許 俊鋭 中川原 米俊 監 事 鶴川 正樹 溝口 敬人
■建物	構造－鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造） 規模－地下 2 階、地上12階、塔屋 1 階 面積－延61,628.28㎡
〈病院部門〉	
■診療規模	医療法定床 550床（一般520床、精神30床） 外来 平均741人／日（令和 3 年度実績）
■診療科目	[内科系] 内科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科、老年内科 [外科系] 外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科 【その他部門】リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科 ※臨床研修指定病院（医師法、歯科医師法） ※診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置 （令和 4 年 3 月31日現在）

■施設基準等の届出関係（令和 4 年 3 月 1 日現在）

☐ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	☐ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
☐ 歯科外来診療環境体制加算 2	☐ 地域包括ケア病棟入院料 2
☐ 一般病棟入院基本料	☐ 緩和ケア病棟入院料 1
☐ 精神病棟入院基本料	☐ 入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）
☐ 救急医療管理加算	☐ 歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算
☐ 超急性期脳卒中加算	及び歯科治療時医療管理料
☐ 診療録管理体制加算 1	☐ 外来栄養食事指導料の注 2
☐ 医師事務作業補助体制加算 1	☐ 心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる
☐ 急性期看護補助体制加算	遠隔モニタリング加算
☐ 療養環境加算	☐ 糖尿病合併症管理料
☐ 重症者等療養環境特別加算	☐ がん性疼痛緩和指導管理料
☐ 無菌治療室管理加算 1	☐ がん患者指導管理料Ⅰ
☐ 無菌治療室管理加算 2	☐ がん患者指導管理料Ⅱ
☐ 緩和ケア診療加算	☐ がん患者指導管理料Ⅲ
☐ 精神科身体合併症管理加算	☐ 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
☐ 精神科リエゾンチーム加算	☐ 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する
☐ 栄養サポートチーム加算	救急搬送看護体制加算 2
☐ 医療安全対策加算 1	☐ 外来放射線照射診療料
☐ 感染防止対策加算 1	☐ がん治療連携計画策定料
☐ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	☐ がん治療連携指導料
☐ 後発医薬品使用体制加算 1	☐ 薬剤管理指導料
☐ 病棟薬剤業務実施加算 1	☐ 医療機器安全管理料 1
☐ データ提出加算	☐ 医療機器安全管理料 2
☐ 入退院支援加算	☐ 医療機器安全管理料（歯科）
☐ 認知症ケア加算	☐ 精神科退院時共同指導料 2
☐ せん妄ハイリスク患者ケア加算	☐ 在宅患者訪問看護・指導料
☐ 精神科急性期医師配置加算	及び同一建物居住者訪問看護・指導料
☐ 地域医療体制確保加算	☐ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する
☐ 特定集中治療室管理料 3	遠隔モニタリング加算

- 在宅植込型補助人工心臓(非拍動型)指導管理料
- 持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 及び皮下連続式グルコース測定
- 持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- 遺伝学的検査
- 有床義歯咀嚼機能検査 1 のロ及び咀嚼能力検査
- 有床義歯咀嚼機能検査 2 のロ及び咬合圧検査
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
- 検体検査管理加算 (Ⅰ)
- 検体検査管理加算 (Ⅳ)
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップティルト試験
- 人工臓器検査、人工臓器療法
- 単線維筋電図
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- 内服・点滴誘発試験
- 画像診断管理加算 1
- ポジトロン断層撮影
- ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- CT撮影及びMRI撮影
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 連携充実加算
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)
- 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)
- 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)
- 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)
- がん患者リハビリテーション料
- 歯科口腔リハビリテーション料 2
- 医療保護入院等診療料
- 人工腎臓
- 導入期加算 1
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 磁気による膀胱等刺激法
- 手術用顕微鏡加算
- CAD/CAM冠
- 椎間板内酵素注入療法
- 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱)
- 緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独) (センチネルリンパ節生検 (単独))
- 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
- 経カテーテル大動脈弁置換術
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)
- 両心室ペースメーカー移植術 (経静脈電極の場合) 及び両心室ペースメーカー交換術 (経静脈電極の場合)
- 植込型除細動器移植術 (経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術 (その他のもの) 及び経静脈電極除去術
- 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 (経静脈電極の場合) 及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 (経静脈電極の場合)
- 大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
- 経皮的循環補助法 (ポンプカテーテルを用いたもの)
- 補助人工心臓
- 経皮の下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎 (尿管) 悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下膵尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 膀胱水圧拡張術
- 人工尿道括約筋植込・置換術
- 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に規定する手術
- 輸血管理料 Ⅰ
- 輸血適正使用加算
- コーディネート体制充実加算
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 歯根端切除手術の注 3
- 麻酔管理料 (Ⅰ)
- 麻酔管理料 (Ⅱ)
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 画像誘導放射線治療 (IGRT)
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 保険医療機関間の連携による病理診断
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- 口腔病理診断管理加算 2
- クラウン・ブリッジ維持管理料

■救急告示 昭和40年 3 月 18 日 (更新 令和 2 年 1 月 31 日)

〈研究部門〉

- 研究体制 [自然科学系研究] 老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、老年病理学研究チーム、神経画像研究チーム
- [社会科学系研究] 社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム

2 沿革

- 明治 5. 10. 15 養育院創立
- 5. 12. 1 病室建築に着手
- 6. 2. 3 病室を建築し、嘱託医師入所者の医療業務を開始
- 8. 4. 8 東京府下生活困窮者の伝染病治療をはじめ
- 10. 6. 7 東京府下生活困窮者の無料診療、施薬開始
- 22. 11. 26 出獄罹病者診療のための収容開始
- 37. 10. 7 ハンセン病患者収容室、結核患者病室設置
- 大正 3. 10. 24 肺結核・痼疾患者の隔離治療のため板橋分院を開始

昭和	4.	12.	27	板橋分院に一病棟増設、定員33名
	5.	10.	1	本院医療施設、病院として開設許可
	8.	2.	9	本院作業室の一部を改造、高齢患者の病後静養室開設
	11.	4.	10	外来診療所を開所、救護法による患者診療の実施
	11.	5.	2	本院医療施設、定員731名で認可
	16.	10.	1	医療保護法による医療保護施設として府知事より認可
	17.	3.	18	医療保護施設として定員763名
	20.	4.	13	米空軍B29による大空襲により、病院焼失
	20.	9.	25	板橋の元陸軍造兵廠工員宿舎を借り、病院として再発足
	22.	7.	24	医務課を廃止、付属病院開設
	33.	3.	31	附属病院建設工事竣工（470床）
	44.	1.		美濃部都知事、1,000床の老人専門病院建設の意向表明
	44.	3.	1	老人病院建設準備室設置
	45.	7.		老人病院建設工事着工
	45.	10.		老人病院開設準備委員会設置
	47.	4.		東京都老人総合研究所開所（研究部門）
	47.	4.	1	村上元孝病院長就任
	47.	4.		新附属病院及び「老人総合研究所」開設
	47.	6.	1	外来診療開始
	47.	6.	7	旧病院より新病院へ入院患者を移送
	47.	8.	31	第1回養育院附属病院運営協議会開催 （現在の病院は、昭和47年に竣工したものであり、この時より一般都民も利用できる高齢者医療の専門病院という形で運営されている。）
	53.	6.	1	病院防災工事開始
	53.	8.	20	第11回国際老年学会の事務局となる
	54.	5.	11	精神科病棟開設
	56.	10.		財団法人東京都老人総合研究所に改組（研究部門）
	59.	1.	4	「老年学情報センター」開設
	59.	4.	1	村上元孝病院長は名誉院長となる
	59.	4.	2	豊倉康夫病院長就任
	59.	9.		米国国立老化研究所（NIA）との間で研究協力に関する協定の締結（研究部門）
	59.	12.	1	事務室医事課における医事事務の電算化を実施
	60.	12.	3	血液科病棟においてクリーンルーム（2床）を開設
	61.	4.	1	「老人医療センター」と名称を変更
	62.	4.	1	臨床研修病院の指定を受ける
	63.	3.	25	MR棟竣工
	63.	3.		中華人民共和国北京老年病医療研究中心との研究交流事業に関する協定に調印（研究部門）
	63.	9.		ソビエト連邦医学アカデミー老年学研究所との間で研究協力覚書の交換（研究部門）（現ウクライナ医学アカデミー老年学研究所）
	63.	10.	5	結核病棟を廃止、普通病棟とする
平成	2.	4.	1	豊倉康夫院長は名誉院長となる
	2.	4.	1	藏本築院長就任
	2.	7.	1	精神科病棟内に痴呆病床10床開床
	2.	7.	2	外来処方・予約コンピュータ導入
	2.	8.	6	研究系1研究施設に組織改正（研究部門）
	2.	9.		ポジトロン医学研究施設開設（研究部門）
	3.	2.	15	病棟改修のため4病棟閉鎖
	3.	4.	1	病棟改修工事着工
	4.	7.	4	20周年記念講演会都民ホールで開催
	5.	4.	2	小澤利男院長就任
	6.	5.	31	全病棟改修工事竣工
	6.	6.	11	第1回養育院老年学会開催
	6.	7.	1	総合診療病棟開設
	7.	3.	30	養育院老人医療センター運営基本方針策定
	7.	6.	10	第2回養育院老年学会開催
	8.	3.	15	老人医療センター改修工事竣工
	8.	4.	10	ICU・CCU開設
	8.	9.	28	第3回養育院老年学会開催
	9.	4.	1	藏本院長は名誉院長となる
	9.	4.	2	折茂肇院長就任
	9.	7.	16	高齢者施策推進室の発足
	9.	9.	1	脳卒中診療のユニットの開設
	9.	10.	8	第4回東京都老年学会開催
	9.	12.	1	エイズ診療拠点病院の指定を受ける
	9.	12.	10	板橋区、板橋区医師会との地域連携3事業開始
	10.	10.	8	研究系1研究施設に組織改正（研究部門）
	10.	10.	8	第5回東京都老年学会開催
	11.	1.	11	もの忘れ外来開設

11.	4.	1	小澤病院長は名誉院長となる
11.	5.		「中期経営計画」策定（研究部門）
11.	7.	26	区西北部医師会、歯科医師会、薬剤師会と医療連携に関する協定締結を開始（11. 12. 13 協定締結終了）
11.	9.	30	デイホスピタル終了
11.	10.	4	ペインクリニック外来の開設
11.	10.	18	国際高齢者年記念講演会開催
11.	10.	29	第6回東京都老年学会開催
12.	1.		区西北部二次保健医療圏等医療連携協議会の開催
12.	4.	1	老人医療センターホームページを開設
12.	10.		地域連携室の開設
12.	10.	13	第7回東京都老年学会開催
13.	1.		高血圧外来、不整脈外来、めまい外来の開設
13.	2.		東洋医学外来の開設
13.	4.	1	高齢者施策推進室は福祉局に統合となる
13.	12.		老人医療センター院内LAN稼働
13.	12.	18	第8回東京都老年学会開催
14.	4.		地域福祉財団と統合し、新たに財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所として 発足 グループ研究制に組織改正（研究部門）
14.	9.	21	老人医療センター30周年記念式典開催
14.	10.	1	林泰史院長就任
14.	11.	29	第9回東京都老年学会開催
15.	7.	16	オーダーメイド医療実現化プロジェクト参画
15.	10.	15	第10回東京都老年学会開催
15.	12.	8	高齢者いきいき外来の開設
16.	8.	1	「福祉局」と「健康局」が統合され「福祉保健局」となる
16.	8.	23	病院機能評価認定
16.	11.	5	第11回東京都老年学会開催
18.	1.	12	東京都老年学会と東京都保健医療学会が統合され東京都福祉保健医療学会として開設
17.	4.		コア研究体制に組織改正（研究部門）
18.	4.	1	井藤英喜院長就任
18.	7.	13	東京都が発表した「行財政改革実行プログラム」の中で、老人医療センターと老人総合研究所は、地方独立 行政法人への移行を目指すことに決定。
18.	11.	2	平成18年度東京都福祉保健医療学会開催
19.	5.	31	福祉保健局が「板橋キャンパス再編整備基本構想」を公表。
21.	4.	1	東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所が統合し、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センタ ーとして新たに出発。 松下正明理事長、井藤英喜センター長、中村彰吾経営企画局長就任 外来化学療法室の開設 新施設開設建設室の設置
23.	1.		新施設建設着工
23.	9.		緩和ケア内科の開設
24.	1.		救急診療部の開設
24.	2.		東京都認知症患者医療センターの指定を受ける
24.	3.		東京都大腸がん診療連携協力病院の指定を受ける
25.	3.		在宅医療連携病床の新設
25.	4.	1	呼吸器外科の開設
25.	6.		新施設開設 旧病院より新病院へ入院患者を移送 電子カルテシステムの導入
25.	6.	30	新施設開設建設室の廃止
25.	12.		東京都災害拠点病院指定
26.	4.	1	婦人科の廃止
27.	4.	1	井藤英喜理事長、許俊鋭センター長就任 事務部門の組織改正（事務部長の設置、4課から3課体制に改編） 認知症支援推進センターの設置
27.	7.	1	臨床試験管理センターの設置、治験管理センター（治験事務局）の廃止
28.	1.	1	がん相談支援センターの設置
28.	4.	1	医療戦略室の設置
29.	1.	4	病院機能評価認定
29.	6.	12	第10,000例目の病理解剖を実施
29.	10.		ICU・CCUの再編・SCUの開設
30.	8.	1	健康長寿イノベーションセンターの設置
31.	1.	1	電子カルテシステムの更新
令和元.	6.	1	鳥羽研二理事長就任
元.	6.	1	井藤英喜名誉理事長就任
2.	4.	1	認知症未来社会創造センターの設置
2.	4.	1	フレイル予防センターの設置

3 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。

(2) 運営方針

ア 病院運営方針

- ・患者さま本位の質の高い医療サービスを提供します。
- ・高齢者に対する専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的包括的医療を提供します。
- ・地域の医療機関や福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療を提供します。
- ・診療科や部門・職種の枠にとらわれないチーム医療を実践します。
- ・高齢者医療・フレイル予防を担う人材の育成及び研究所との連携による研究を推進します。

イ 研究所運営方針

- ・東京都の高齢者医療・保健・福祉行政を研究分野で支えます。
- ・地域の自治体や高齢者福祉施設と連携して研究を進めます。
- ・国や地方公共団体、民間企業等と活発に共同研究を行います。
- ・諸外国の代表的な老化研究機関と積極的に研究交流を行います。
- ・最先端技術を用いて老年病・認知症などの研究を行います。
- ・研究成果を公開講座や出版によりみなさまに還元します。

(3) 患者権利章典

患者さまは、人間として尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は、患者さまと医療提供者とが、信頼関係に基づいてともに作り上げていくものです。

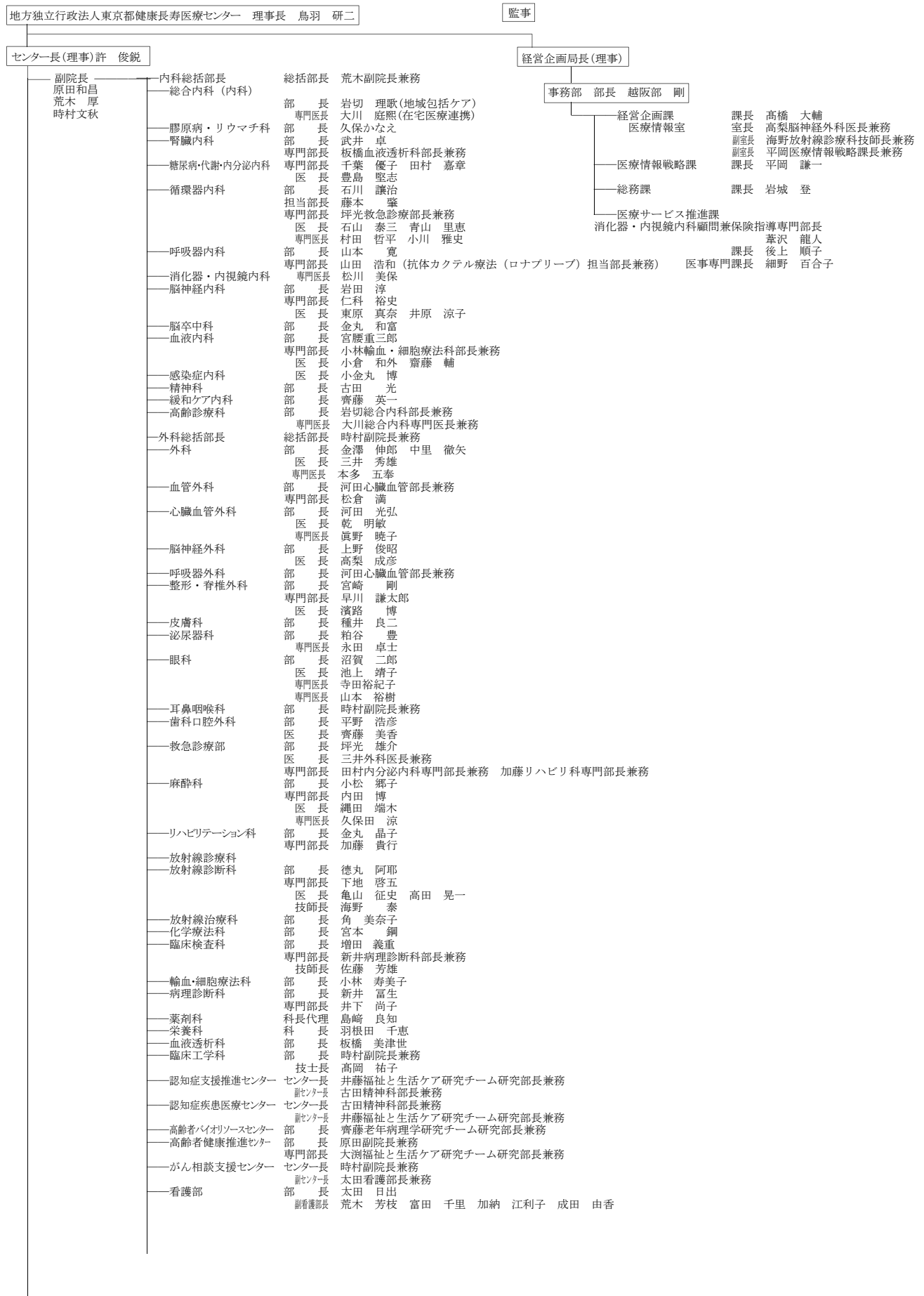
当センターは、このような考え方にに基づき「患者権利章典」を制定し、これを守り、患者さま中心の医療を実践していきます。

患者さまもこの趣旨をご理解いただき、自らの意思と責任で医療に参加してくださるようお願いいたします。

- 1 だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2 だれもが、一人の人間として尊重され、医師や看護師など医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります。
- 3 病気や検査、治療について、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。
- 4 治療方法などを自分の意思で選択する権利があります。
- 5 自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 6 診療の過程で得られた患者さまの個人情報や療養中のプライバシーが守られる権利があります。
- 7 研究途上にある医療に関し、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、その医療を受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでもその医療を拒否する権利があります。
- 8 良質な医療を実現するためには、医師をはじめとする医療提供者に対し、患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責任と義務があります。
- 9 納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する責任と義務があります。
- 10 すべての患者さまが適切な医療を受けられるようにするため、患者さまには、他の患者さまの治療や病院職員による医療提供に支障を与えないよう配慮する責任と義務があります。

4 組織

(1) 組織図 (令和4年3月31日現在)



副所長 (自然科学系) 重本 和宏	老化機構研究チーム	研究部長 井上 聡 研究副部長 萬谷 博 三浦 ゆり 専門副部長 高山 賢一
	老化制御研究チーム	研究部長 石神 昭人 研究副部長 大澤 郁朗
	老化脳神経科学研究チーム	研究部長 遠藤 昌吾 堀田 晴美 西宗 裕史 専門副部長 内田 さえ
	老年病態研究チーム	研究部長 重本副所長兼務 研究副部長 豊田 雅士
	老年病理学研究チーム 神経画像研究チーム	研究部長 石渡 俊行 齊藤 祐子 村山 繁雄 研究副部長 石井 賢二 研究部長 豊原 潤 専門副部長 石橋 賢士
副所長 (社会科学系) 栗田 圭一	社会参加と地域保健研究チーム	研究部長 藤原 佳典 研究副部長 村山 洋史 小林 江里香 専門副部長 青柳 幸利
	自立促進と精神保健研究チーム	研究部長 金 憲経 平野歯科口腔外科部長兼務 研究副部長 岡村 毅
	福祉と生活ケア研究チーム	専門副部長 小原 由紀 岩崎 正則 研究部長 石崎 達郎 大淵 修一 井藤 佳恵
研究支援施設等	アイトープ施設	研究副部長 三浦老化機構研究チーム研究副部長兼務
	実験動物施設	研究部長 重本副所長兼務
	高齢者健康増進事業支援室	研究部長 大淵福祉と生活ケア研究チーム研究部長兼務
	研究情報管理室	研究部長 重本副所長兼務
	介護予防・フレイル予防推進支援センター	研究部長 藤原社会参加と地域保健研究チーム研究部長兼務
健康長寿医療イノベーションセンター センター長 原田副院長兼務 副センター長 重本副所長兼務	研究開発ユニット	ユニット長 金井 信雄 健康データ科学研究室長 田中 紀子
	事務ユニット	ユニット長 高橋経営企画課長兼務
認知症未来社会創造センター センター長 栗田副所長兼務 副センター長 井藤福祉と生活ケア研究チーム研究部長兼務	オープンデータベースチーム	副センター長 金井健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長兼務
	デジタルヘルス・バイオマーカーチーム	副センター長 岩田脳神経内科部長兼務
	A I 診断システムチーム	副センター長 石井神経画像研究チーム研究部長兼務
	コホート研究データ統合活用チーム	副センター長 藤原社会参加と地域保健研究チーム研究部長兼務
フレイル予防センター センター長 荒木副院長兼務		
医療安全対策室 感染対策室		

(2) 職員構成 (職種と定数)

(令和4年3月31日現在)

職 種		計画数	職 種		計画数
事務系	一般事務	86	医療技術	薬剤師	36
	計	86		診療放射線技師	30
福祉	福祉(MSW)	11		歯科衛生士	1
	心理	8		歯科技工士	1
	福祉技術(ST)	4		理学療法士	17
	計	23		作業療法士	8
医師	医師	121		臨床検査技師	44
	歯科医師	3		栄養士	7
	計	124		医療技術(臨床工学技士)	15
研究員	研究員	88		視能訓練士	2
	計	88		技能	1
				計	162
			看護	看護師	481
				計	481
				計	964

※ 役員は含んでいない。

(3) 看護部配置状況

(令和4年3月31日現在)

病棟・診療科	定床数	現 員				夜勤体制 (準一深)
		管理職	看護師長 (次)	看護師	計	
5 東 循環器内科、心臓血管外科、呼吸器外科 血管外科、呼吸器内科	36		1	26	27	3-3
5 西 循環器内科	36		2	23	25	3-3
6 東 整形・脊椎外科、眼科	36		1	25	26	3-3
6 西 糖尿病・代謝・内分泌内科、高齢診療科(在宅 医療連携病床)、整形・脊椎外科、リハビリテー ション科、歯科口腔外科、内科系・外科系共通	37		1	22	23	3-3
7 東 外科、眼科	36		1	22	23	3-3
7 西 外科、泌尿器科、高齢診療科、耳鼻咽喉科 呼吸器内科、皮膚科	36		1	23	24	3-3
8 東 糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、 膠原病・リウマチ科、脳神経内科・脳卒中科	36		2	24	26	3-3
8 西 消化器・内視鏡内科、 糖尿病・代謝・内分泌内科	36		2	23	25	3-3
9 東 コロナ対応病床	20		1	25	26	3-3
9 西 コロナ対応病床	15		2	22	24	3-3
10 西 脳神経内科、脳卒中科、脳神経外科	36		1	25	26	3-3
11 東 精神科	30		1	16	17	2-2
11 西 血液内科、化学療法科	36		1	22	23	3-3
12 階 緩和ケア内科	20		1	16	17	3-3
特定集中治療室 (ICU/CCU)	8		1	25	26	4-4
SCU	6		1	15	16	2-2
手術室			1	22	23	
外来			1	19	20	
救急外来			1	22	23	
在宅看護			1	2	3	
看護部		5	7	2	14	
再 掲	セーフティマネージャー		1		1	
	病床管理担当		1		1	
	感染管理認定看護師		1		1	
	皮膚・排泄ケア認定看護師		1			
	認知症看護認定看護師		1			
	緩和ケア認定看護師			1		
合 計		5	31	421	457	

※ 育休、休職の職員は含んでいない。

※ 定床数は、コロナ対応に伴う病棟制限等を踏まえた稼働病棟を記載している。

(4) 非常勤職員配置状況

(令和4年3月31日現在)

種別	科目	診療科目・診療																													

5 予算（令和3年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
営業収益	19,676
医業収益	13,572
研究事業収益	56
運営費負担金	2,761
運営費交付金	3,042
補助金	114
寄附金	-
雑益	131
営業外収益	121
寄附金	0
雑収益	121
資本収入	-
運営費交付金	-
長期借入金	-
その他の資本収入	-
受託研究等外部資金収入	601
計	20,397
支出	
営業費用	18,949
医業費用	15,645
給与費	8,133
材料費	4,251
委託費	1,173
設備関係費	1,152
研究研修費	74
経費	861
研究事業費用	2,681
給与費	985
研究材料費	39
委託費	161
設備関係費	159
研究研修費	1,213
経費	125
一般管理費	623
営業外費用	-
資本支出	1,039
建設改良費	262
長期借入金償還金	777
その他の支出	-
受託研究等外部資金支出	539
計	20,527

6 センターにおける会議

(令和4年3月31日現在)

(1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター運営協議会

- 目的：外部有識者による意見や助言を受け、都民ニーズに応えた業務運営を実施するため
- 審議事項：センターの事業内容及び運営方針、その他運営上必要な事項に関する事
- 構成委員：以下のとおり

(敬称略)

氏名	所属
折 茂 肇	公益財団法人骨粗鬆症財団 理事長
鈴 木 隆 雄	桜美林大学 老年学総合研究所 所長
新 田 國 夫	一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 会長
秋 山 正 子	株式会社ケアーズ 代表取締役 白十字訪問看護ステーション 統括所長 マギーズ東京 共同代表理事
坂 本 健	板橋区長
平 川 博 之	公益社団法人東京都医師会 副会長
平 井 貴 志	公益社団法人豊島区医師会 会長
増 田 幹 生	一般社団法人東京都北区医師会 会長
齋 藤 英 治	公益社団法人板橋区医師会 会長
田 中 雅 博	公益社団法人東京都板橋区歯科医師会 副会長
伊 藤 大 介	一般社団法人練馬区医師会 会長
植 木 浩	患者代表
山 口 真 吾	東京都福祉保健局高齢社会対策部長
鳥 羽 研 二	東京都健康長寿医療センター 理事長
許 俊 鋭	東京都健康長寿医療センター センター長
中 川 原 米 俊	東京都健康長寿医療センター 経営企画局 理事
原 田 和 昌	東京都健康長寿医療センター 副院長
荒 木 厚	東京都健康長寿医療センター 副院長兼内科総括部長
時 村 文 秋	東京都健康長寿医療センター 副院長兼外科総括部長
太 田 日 出	東京都健康長寿医療センター 副院長兼看護部長
重 本 和 宏	東京都健康長寿医療センター 研究所副所長
栗 田 主 一	東京都健康長寿医療センター 研究所副所長

(2) 会議

ア 理事会

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、監事
- 理事長が必要と認めたとき開催

イ 経営戦略会議

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長（理事）、副院長、副所長、看護部長、事務部長、経営企画課長、医療情報戦略課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第3木曜日開催

ウ 病院運営会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、事務部長、リハビリテーション科技師長、放射線診療科技師長、臨床検査科技師長、臨床工学科技士長、薬剤科長、栄養科長、経営企画課長、医療情報戦略課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第4月曜日開催

エ 病院幹部会

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副院長、各診療部門長・技師長、各診療部門専門部長、各臨床研究部門長、看護部長、副看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療情報戦略課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第4火曜日開催

オ 認知症未来社会創造センター運営会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長（オブザーバー）、副所長、健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長、脳神経内科部長、神経画像研究チーム部長、老年病理学研究チーム神経病理学研究部長、社会参加と地域保健研究チーム部長、認知症疾患医療センター長、認知症支援推進センター長、健康長寿イノベーションセンター健康データ科学研究室長、事務部長、健康長寿イノベーションセンター事務ユニット長、総務課長、医療情報戦略課長
- 毎月最終水曜日

カ 研究推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副所長、研究部長、事務部長（オブザーバー）、健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長、健康長寿イノベーションセンター事務ユニット長
- 毎月第1、第3木曜日開催

キ 研究所幹部会議

- メンバー：センター長、理事長（オブザーバー）、副所長、研究部長、専門部長、研究副部長、専門副部長、特任研究員、健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長、健康長寿イノベーションセンター健康データ科学研究室長、健康長寿イノベーションセンター事務ユニット長
- 第3木曜日開催

ク トランスレーショナルリサーチ推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副院長、副所長、健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長（オブザーバー）
- 原則年1回

7 指定・許可・学会認定

(1) 指定・許可状況

指 定 ・ 許 可 年 月 日	事 項	根拠法令等
昭和5. 10. 1	開設許可	医療法第7条
25. 5. 4	生活保護法指定医療機関	生活保護法第49条
37. 4. 16	結核予防法指定医療機関（医療機関指定書第4251号）	結核予防法第36条第1項
40. 3. 18	救急病院告示医療機関	厚生省「救急病院等を定める省令」
45. 6. 1	保険医療機関指定	保険医療機関及び保険薬局並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令
45. 6. 1	国民健康保険法療養取扱機関	国民健康保険法第37条第3項
46. 4. 10	東京都以外の区域の保険者に係る療養の給付を担当する旨の申し出について（46養病医第556号）	国民健康保険法第37条第5項
48. 12. 1	地公災東京都支部協定医療機関	地方公務員災害補償法第26条（都立病院との協定に準ずる）
52. 1. 1	被爆者一般疾病医療機関（指定番号 原病176） 東京都職員共済組合契約医療機関 心身障害者(児)医療費助成制度にもとづく同意医療機関 特殊疾病対策医療費助成制度にもとづく契約医療機関 公害医療機関	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律 共済組合との契約による心身障害者の医療費の助成に関する条例 東京都医療費助成実施要綱及び厚生事務次官通知 公害健康被害補償法第20条（全健保適用医療機関）
54. 10. 7	心臓循環器（CCU）救急医療事業協力医療施設	都 心臓循環器（CCU）救急医療実施要綱（衛生局）
61. 6. 1	紹介型病院の承認	厚生省告示第177号
62. 3. 16	病院群による臨床研修を行う病院	医師法第16条の2第1項
平成9. 12. 1	エイズ診療拠点病院	都 エイズ診療協力病院運営要綱（衛生局）
15. 11. 1	救急救命士再教育（病院実習）実施医療機関	救急救命士の再教育（病院実習）に関する協定書
15. 11. 19	臨床研修病院	医師法第16条の2第1項
19. 1. 31	指定自立支援医療機関（精神通院医療）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 4. 1	指定自立支援医療機関（免疫）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 7. 10	東京都肝臓専門医医療機関	東京都難病患者等に係る医療費等の助成に関する規則
21. 1. 30	東京都脳卒中急性期医療機関	東京都脳卒中急性期医療機関設置要綱第3の3
21. 4. 1	開設許可（東京都健康長寿医療センター）	医療法第7条
24. 2. 9	東京都認知症疾患医療センター	東京都認知症疾患医療センター運営事業実施要綱（福祉保健局）
24. 3. 22	東京都大腸がん診療連携協力病院	東京都大腸がん診療連携協力病院設置要綱（福祉保健局）
25. 12. 19	東京都災害拠点病院	東京都災害拠点病院設置運営要綱（福祉保健局）
26. 4. 23	臨床修練指定病院	外国医師等が行う臨床修練に係る医師法第17条等の特例等に関する法律第2条第4号
27. 1. 1	難病医療費助成指定医療機関	難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項

（２）各種学会認定状況

日本内科学会認定教育施設（教育病院） 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本麻酔科学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年精神医学会専門医制度認定施設 日本老年歯科医学会認定研修歯科診療施設 日本感染症学会認定研修施設	日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本手外科学会研修施設 日本脳卒中学会専門医制度研修教育病院 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 腹部ステントグラフト実施施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設 日本脳神経外科学会専門医研修プログラム研修施設 日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本核医学会専門医教育病院 日本脈管学会認定研修指定施設 日本眼科学会専門医制度眼科研修プログラム施行施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床細胞学会施設 呼吸器外科専門医関連施設 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 日本内科学会認定医教育病院 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設（TAVI） 日本核医学会　PET撮像施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 非血縁者間骨髓採取認定施設 非血縁者間末梢幹細胞採取認定施設 補助人工心臓治療関連学会協議会IMPELLA実施施設 NCD参加施設 日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 日本肝臓学会関連施設 日本脳卒中学会一時脳卒中センター 認定臨床実習指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本臨床生理学会認定施設

（３）各種学会施設認定に伴う指導医等一覧

（令和４年３月31日現在）

学会名	指導医等名（卒業年次）			
日 本 内 科 学 会	鳥羽 研二（S53）	村山 繁雄（S54）	金丸 和富（S58）	
	荒木 厚（S58）	宮腰重三郎（S59）	原田 和昌（S60）	
	小林寿美子（S61）	岩切 理歌（H1）	加藤 貴行（H2）	
	宮本 鋼（H3）	仁科 裕史（H3）	山田 浩和（H4）	
	坪光 雄介（H5）	岩田 淳（H5）	石川 譲治（H6）	
	武井 卓（H7）	千葉 優子（H7）	久保かなえ（H7）	
	板橋美津世（H8）	田村 嘉章（H8）	藤本 肇（H8）	
	石山 泰三（H8）	眞野 暁子（H8）	山本 寛（H9）	
	小倉 和外（H10）	東原 真奈（H13）	小金丸 博（H13）	
	小川 雅史（H13）	井原 涼子（H14）	豊島 堅志（H16）	
	青山 里恵（H17）	村田 哲平（H17）	大庭 和人（H18）	
	鳥羽 梓弓（H18）	松川 美保（H18）	波多野 敬子（H19）	
	片岡 愛（H20）	大川 庭熙（H21）	石橋 昌幸（H21）	
	松川 美穂（H21）	小寺 玲美（H22）	志賀 雅代（H22）	
	十菱 千尋（H22）	佐塚まなみ（H23）	野木森智江美（H23）	
	小林 聖未（H23）	齊藤 陽子（H24）	栗原 正典（H24）	
	中山 智博（H25）	山中 法子（H27）	羽鳥 清華（H27）	
	館鼻 彩（H27）	大隅 瞬（H27）	清水 瑠理（H27）	
日 本 老 年 医 学 会	鳥羽 研二（S53）	荒木 厚（S58）	宮腰重三郎（S59）	
	原田 和昌（S60）	岩切 理歌（H1）	宮本 鋼（H3）	
	石川 譲治（H6）	千葉 優子（H7）	田村 嘉章（H8）	
	藤本 肇（H8）	山本 寛（H9）	豊島 堅志（H16）	
	青山 里恵（H17）	大庭 和人（H18）	鳥羽 梓弓（H18）	
	片岡 愛（H20）	小寺 玲美（H22）	佐塚まなみ（H23）	
	野木森智江美（H23）	齊藤 陽子（H24）		

学会名	指導医等名（卒業年次）		
日本消化器病学会	金澤 伸郎（H1）	本多 五奉（H21）	松川 美保（H18）
日本消化器内視鏡学会	金澤 伸郎（H1）	中里 徹矢（H13）	松川 美保（H18）
日本神経学会	村山 繁雄（S54）	金丸 和富（S58）	加藤 貴行（H2）
	仁科 裕史（H3）	岩田 淳（H5）	東原 真奈（H13）
	井原 涼子（H14）	波多野 敬子（H19）	松川 美穂（H21）
	栗原 正典（H24）		
日本循環器学会	許 俊鋭（S49）	原田 和昌（S60）	坪光 雄介（H5）
	石川 譲治（H6）	石山 泰三（H8）	藤本 肇（H8）
	眞野 暁子（H8）	河田 光弘（H9）	小川 雅史（H13）
	青山 里恵（H17）	村田 哲平（H17）	鳥羽 梓弓（H18）
	小松 俊介（H20）	十菱 千尋（H22）	
日本呼吸器学会	山田 浩和（H4）	山本 寛（H9）	片岡 愛（H20）
	石橋 昌幸（H21）	佐塚まなみ（H23）	野木森智江美（H23）
日本血液学会	宮腰重三郎（S59）	小林寿美子（S61）	岩切 理歌（H1）
	宮本 鋼（H3）	小倉 和外（H10）	齋藤 輔（H10）
	橘 盛昭（H24）		
日本糖尿病学会	荒木 厚（S58）	千葉 優子（H7）	田村 嘉章（H8）
	豊島 堅志（H16）	大庭 和人（H18）	小寺 玲美（H22）
日本超音波医学会	許 俊鋭（S49）	石川 譲治（H6）	
日本外科学会	許 俊鋭（S49）	葦沢 龍人（S54）	金澤 伸郎（H1）
	三井 秀雄（H8）	河田 光弘（H9）	中里 徹矢（H13）
	松倉 満（H17）	乾 明敏（H19）	本多 五奉（H21）
	村田 知洋（H22）	吉岡 孝房（H22）	登 祐哉（H25）
日本整形外科学会	時村 文秋（S61）	宮崎 剛（H5）	濱路 博（H7）
	早川 謙太郎（H14）	正田奈緒子（H15）	金子 雅子（H16）
	中村 伸哉（H21）		
日本眼科学会	沼賀 二郎（S59）	池上 靖子（S61）	寺田裕紀子（H18）
	山本 裕樹（H19）	福田 祥子（H20）	高尾 博子（H21）
日本耳鼻咽喉科学会	森 友里絵（H25）	小山 雄太郎（H25）	
日本泌尿器科学会	粕谷 豊（H2）	永田 卓士（H15）	
日本皮膚科学会	種井 良二（S62）	宮澤理恵子（H21）	
日本麻酔科学会	内田 博（S59）	小松 郷子（S60）	縄田 瑞木（H11）
	久保田 涼（H12）	廣瀬 佳代（H18）	
日本リウマチ学会	山田 浩和（H4）	宮崎 剛（H5）	久保かなえ（H7）
	小林 聖未（H23）		
日本医学放射線学会	徳丸 阿耶（S60）	角 美奈子（S61）	下地 啓五（H10）
	高田 晃一（H10）		
日本リハビリテーション医学会	村山 繁雄（S54）	金丸 晶子（S61）	加藤 貴行（H2）
	正田奈緒子（H15）	齊藤 陽子（H24）	
日本病理学会	新井 富生（S59）	井下 尚子（H6）	
日本臨床細胞学会	新井 富生（S59）	井下 尚子（H6）	
日本高血圧学会	原田 和昌（S60）	石川 譲治（H6）	青山 里恵（H17）
	鳥羽 梓弓（H18）		
日本認知症学会	鳥羽 研二（S53）	村山 繁雄（S54）	金丸 和富（S58）
	金丸 晶子（S61）	加藤 貴行（H2）	仁科 裕史（H3）
	岩田 淳（H5）	古田 光（H8）	井原 涼子（H14）
	大森 佑貴（H22）		
日本心血管インターベンション学会	坪光 雄介（H5）	藤本 肇（H8）	青山 里恵（H17）
	村田 哲平（H17）		
日本消化器外科学会	葦沢 龍人（S54）	金澤 伸郎（H1）	中里 徹矢（H13）
	本多 五奉（H21）		
日本臨床検査医学会	新井 富生（S59）		
日本内分泌学会	千葉 優子（H7）	田村 嘉章（H8）	大庭 和人（H18）
	古田 光（H8）	栗田 主一（S59）	藤原 佳典（H5）
日本老年精神医学会	大森 佑貴（H22）		
	平野 浩彦（H2）	齊藤 美香（H7）	森 美由紀（H18）
日本透析医学会	武井 卓（H7）	板橋美津世（H8）	
日本腎臓学会	武井 卓（H7）	久保かなえ（H7）	板橋美津世（H8）
日本手外科学会	時村 文秋（S61）		
日本脳卒中学会	村山 繁雄（S54）	岩田 淳（H5）	
	許 俊鋭（S49）	河田 光弘（H9）	松倉 満（H17）
日本心臓血管外科学会	乾 明敏（H19）		
	古田 光（H8）	松井 仁美（H21）	大森 佑貴（H22）

学会名	指導医等名（卒業年次）		
日本脳神経外科学会	上野 俊昭（H1）	高梨 成彦（H14）	吉田 拓也（H27）
日本脈管学会	松倉 満（H17）	青山 里恵（H17）	村田 哲平（H17）
日本アレルギー学会	山田 浩和（H4）		
日本口腔外科学会	森 美由紀（H18）		
日本大腸肛門病学会	金澤 伸郎（H1）		
日本肝臓学会	葦沢 龍人（S54）		
日本医師会産業医	増田 義重（S58）	宮腰重三郎（S59）	山田 浩和（H4）
	田村 嘉章（H8）	小金丸 博（H13）	金子 雅子（H16）
	片岡 愛（H20）	小松 俊介（H20）	金子 泰三（H20）
	大森 佑貴（H22）	野木森智江美（H23）	羽鳥 清華（H27）
日本病態栄養学会	荒木 厚（S58）		
日本胸部外科学会	許 俊鋭（S49）		
日本呼吸器内視鏡学会	山本 寛（H9）	石橋 昌幸（H21）	
日本顎咬合学会	齊藤 美香（H7）		

8 事務局

経営企画局事務局

（ア）経営企画課

経営企画課は、理事長のトップマネジメントを補佐する役割を担い、課内はもとより総務課、医療サービス推進課及び医療情報戦略課と情報を共有し綿密に意思疎通を図りながら、センター第三期中期計画及び年度計画の達成に向け、病院及び研究所の円滑な業務運営をサポートした。また、第三期中期計画の5年目となる令和4年度計画を策定するとともに、センターが抱える諸課題の解決に向けて果敢に取り組んだ。

① 経営改善に向けた取組

センター経営の改善・効率化を図るため、経営戦略会議及び病院運営会議等の各種会議において、センターの収支、実績等の報告及び分析を行い、課題点と改善策の検討を行った。検討にあたり、より実効性ある経営改善につなげるため、各診療科の診療実績の検証や課題の把握、改善に向け、各診療部門からのヒアリングなどを実施した。さらに、令和4年度予算の策定にあたっては、予算要求部署へのヒアリングを行い、既存業務の見直しを図るなど、一層の経費の削減に努めた。

② 経営状況の把握と効率的な会計処理方法の検討

適時の経営判断に資するため、長期的な資金計画の策定や更新、月次決算などの充実を図り、財務内容の分析をきめ細かく行った。また、法人が抱えるリスクを洗い出し、適法性、合理性及び効率性の観点から適切な内部監査を実施したほか、会計監査人及び監事監査の指摘や意見について適切に対応した。

（イ）医療情報戦略課

医療情報システム等に蓄積されている情報やDPCデータを用い、経営指標数値の抽出及び傾向分析を行った。

診療科別の原価計算を実施し、科別の費用配分により収支状況を可視化した。

医療情報システムを始めとするシステムの安定稼働のサポートやコロナ禍におけるシステムの活用を拡充した。

① 原価計算による収支分析

診療科別の原価計算を実施するとともに、各科の収支課題の可視化を図った。

② 医療の質評価とDPCデータの公表

今年度も全国自治体病院協議会による「医療の質の評価・公表等推進事業」に引き続き参加し、データ提供を行った。また、DPCデータを使用した「病院情報の公表」や、医療実績のホームページ掲載を継続し、センターにおける診療実績の発信に努めた。

③ 医療情報システムの安定稼働

医療情報システムの課題に対し、システムベンダや各部署の職員と連携を取りながら迅速に改善し、より効率的な診療業務ができるよう推進した。また、財務会計システム及び人事給与システムが安定的に稼働するようサポートをした。

④ 全職員PCR検査実施

感染拡大防止のため、2度目の研究所によるプール方式のPCR検査（唾液）を全職員に対し実施した。なお、陽性者は1件もなかった。

⑥ 職員（職員家族）および住民へのコロナワクチン接種

職員（職員家族）および住民に対して、コロナワクチン接種（1回目・2回目・3回目）を行うにあたり、安全にワクチン接種ができる環境整備および運用調整、人員確保を行った。医師・看護師・薬剤師の協力はもとより、受付および誘導は、全事務職員の協力により実施した。

（ウ）総務課

① 人材確保及び人材養成

高齢者医療を安定的・継続的に提供するため必要な法人の人材として、令和3年度は医師19名、研究員10名、看護師54名、医療技術員8名、事務17名を採用した。看護師採用については7対1看護導入を受け積極的にを行い、保育料の助成制度等の看護師確保対策・離職防止対策を実施した。

医療従事者及び研究者の育成については、医科・歯科研修医61名、都立看護学校を始め計30施設から499名の実習生及び研修生を受け入れたほか、連携大学院や大学・研究機関から学生や研究者を受け入れた。

② 契約状況

令和3年度の契約状況は、物品の買入れ371件、修理・修繕77件、印刷製本99件、委託421件、物品借り入れ86件、工事5件、人材派遣20件で、合計1,079件であった。

③ 施設・設備の維持・管理と環境整備

施設・設備に不具合が生じた際には、必要性・緊急性なども考慮しながら順次改善を図っている。また、新施設稼働から9年経過したこともあり、経年劣化への対応や消耗部品の交換など、計画的に修理・補修を行い、施設を最善の状況に保つよう留意している。さらに、光熱水費等についても、使用量の管理と適切な需給契約締結により、省エネルギーの実現と経費節減に向けた対策を実施している。

③ 災害・危機管理対策の実施

災害拠点病院として、令和2年度に引き続きコロナウイルス感染拡大防止の観点から大規模災害訓練は中止した。部分訓練として、令和3年11月に配備資機材である簡易型無線機の実機操作訓練を行い、令和4年3月には、深夜の病棟火災を想定した要担送患者の避難訓練を実施した。

⑤ 診療内容及び研究成果の広報普及

ホームページ、広報誌、YouTube用動画、Twitter等により積極的にセンター事業についての情報を発信している。また、コロナ禍の影響を鑑み、公開講座を開催できなかったため、動画の撮影、作成を内製化しセンター公式YouTubeチャンネルを充実させた。

- ・ 病院広報誌「糸でんわ」 年間6回発行
- ・ 研究所広報誌「研究所NEWS」 年間4回発行

（エ）医療サービス推進課

高齢者の急性期病院として、医療資源の有効活用と健全な病院経営を目指し、在院日数の短縮と病床稼働率の確保を組織的な目標として掲げている。在院日数の短縮について、退院支援チームの活動や各病棟別の在院患者一覧表による管理を実施することにより、令和3年度平均在院日数は11.8日、病棟稼働率は72.1%であった（対稼働病床86.6%）。診療録の開示については213件、セカンドオピニオン利用患者数は28名であった。

院内の医療安全管理対策については、医療安全管理委員会等の事務局として、院内各診療科・各部門との協力体制により年度活動計画を策定し、医療安全管理講習会の開催、各種研修会・勉強会及び医療安全推進週間を設定し、安全管理体制の徹底と職員の医療安全に対する意識の向上に取り組んでいる。令和3年度は、医療安全管理講演会を2回開催し、延出席数は2,900名であった。

患者様の声（ご意見箱への投書）は「意見・要望」84件、「感謝」15件であった。また、入院患者満足度調査を適宜実施し、毎月の集計結果を職員向けに公開している。

※令和3年度入院患者満足度 89.0%（令和2年度 90.3%）

9 令和3年度業務実績の全体的な概要

（1）総括と課題

第三期中期目標期間の4年目となる令和3年度は、昨年度に引き続き、国や都と連携し、新型コロナウイルス患者への対応や感染拡大防止に取り組むとともに、三つの重点医療や生活機能の維持・回復のための医療の提供を進めた。また、積極的な救急患者の受入れ、地域医療機関との連携強化などを推進し、急性期病院としての役割を果たし、地域医療の体制確保に貢献した。

さらに、東京都における公的研究機関として高齢者の健康増進や自立した生活の継続に向けた研究を推進し、成果の普及・還元に努めた。

加えて、事業の実施に当たり一層の経営基盤の強化を図るなど、中期計画及び年度計画に定める内容を着実に実施し、「高齢者医療モデル」の確立と普及に向けた取組を推進した。

ア 組織運営

理事会や経営戦略会議を定期的及び随時開催し、法人運営の重要事項を審議・決定するとともに、病院部門、研究部門の幹部職員で構成する会議等を通じて、事業運営の検討や情報の共有を図った。

また、外部有識者で構成する運営協議会を開催し、法人運営に関する意見や助言を受けるとともに、研究活動の妥当性について、外部評価委員会から評価を受けるなど、透明性を確保しつつ都民ニーズに的確に対応した法人運営を行った。

イ 病院運営

病院幹部職員で構成する病院運営会議において、病院運営に関する課題の把握や検証を行い、改善すべき事項や新たにに取り組むべき事業の検討を行うとともに、中間ヒアリング（令和3年度は書面開催）及び期末ヒアリングにより、各診療科の診療実績の検証や課題の把握、改善に向けた行動計画の策定を行った。

また、コロナ禍においても、引き続き三つの重点医療を中心に高度な治療の提供や積極的な救急患者の受け入れ等を推進するとともに、高齢診療科を新たに開設し、老年症候群を主訴とする紹介患者を積極的に受け入れる等、地域との連携強化に努めた。

さらに、コロナ禍により入院面会が禁止となる中、研究所の協力の下、PCR検査・抗原検査を積極的に提供し、必要不可欠な症例に対し最大限の面会機会を確保した。

ウ 研究所運営

研究所幹部職員で構成する研究推進会議において、定期的に研究所運営や研究支援に関する意見交換を行うとともに、外部評価委員会、内部評価委員会等により、各研究の進行管理と評価を実施した。

また、臨床研究法や各種倫理指針に基づく厳正な倫理審査など、研究者や臨床医師が行う研究を包括的に支援する組織「健康長寿イノベーションセンター（HAIC）」において、認定臨床研究審査委員会の運営や、知的財産活動の普及・促進のための体制整備など、研究推進のための基盤強化に取り組んだ。

さらに、「認知症未来社会創造センター」においては、センターの保有する各種データベースの統合、生体試料の保管・提供及びゲノム解析、低コスト・低侵襲な体液バイオマーカーの開発、AIを活用した画像診断システム及び自動会話プログラムの開発などに向けて各種取組を進めた。

加えて、フレイル予防センターにおいて、区や自治体との意見交換会の実施、フレイルサポート医・コメディカルの育成等を行い、地域のフレイル対策を推進した。

エ 経営改善

各診療科が経営改善に向けた具体的な行動計画を作成し収支改善に向けた取組を推進した。また、新たな施設基準の取得、外部研究資金の積極的な獲得等に努めたほか、新型コロナにかかる補助金を積極的に活用するなどにより、収益確保に努めた。さらに、材料費をはじめとした一層のコスト削減策の検討・実施を行うなど、経営改善に向けた取組を推進した。

(2) 事業の進捗状況及び特記事項

以下、中期計画及び年度計画に記された主要な事項に沿って、令和3年度の事業進捗状況を記す。

1) 高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及

(ア) 3つの重点医療を始めとする高齢者医療の充実

センターが重点医療として掲げる血管病・高齢者がん・認知症について、研究所と連携しながら、高齢者の特性に配慮した低侵襲な医療の提供及び患者が安心できる医療体制を推進する。

① 血管病医療への取組

ハートチームを中心に経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）や補助循環用ポンプカテーテル（IMPELLA）等、高度かつ低侵襲な治療を引き続き実施し、高齢者の身体的負担に配慮した医療を提供するとともに、急性期患者の積極的な受入を行った。特に、新型コロナ感染拡大の中においても、PCR検査や抗原検査の実施体制を活用する等十分な感染対策を行うことで、急性大動脈スーパーネットワーク及び東京都CCUネットワークからの受入れを積極的に実施した結果、昨年度を大きく上回る受入件数を達成した。

また、虚血性心疾患に対するPCI治療や不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に実施した。

② 高齢者がん医療への取組

昨年度に引き続き、肝胆膵領域における高難度手術を積極的に行うなど、高度ながん治療を提供した。

また、NBI内視鏡を用いた検査によるがんの早期発見・早期治療や内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）や内視鏡的粘膜切除術（EMR）等の低侵襲な治療等を推進した。

さらに、抗がん剤を使用した化学療法や高齢者血液疾患に対する造血幹細胞移植療法の安全な実施に加え、放射線治療において、世界標準の放射線治療器を導入し、高齢者に対する放射線治療を推進した。

③ 認知症医療への取組

認知症未来社会創造センター（IRIDE）として、医療と研究とを統合した取組を実施した。

具体的には、認知症診断の精度向上に向けた取組を推進したほか、MRIや脳血流SPECT等を着実に実施し、認知症の早期診断に積極的に取り組んだ。

また、もの忘れ外来では、精神科・脳神経内科・研究所医師が共同で診療を行い、認知症の精査・原因診断と治療導入を行うとともに、認知症専門相談室と連携することで、かかりつけ医が円滑に診療を継続できるよう努めた。

④ 生活機能の維持・回復のための医療

各診療科の急性疾患治療後にフレイル発症を予防するための早期介入を実施する院内フレイル診療ネットワークを整備するとともに、フレイル外来を中心に高齢者に対するフレイル評価、高齢者総合機能評価（CGA）や術前・術後の評価を行った。

また、高齢診療科では小冊子「健康長寿の秘訣」を作成し、フレイル予防や高齢者への生活指導を実施した。

さらに、1型糖尿病患者に対するFGMを継続し、血糖変動抑制や低血糖予防を重視した治療を提供するとともに、CGM外来では、血糖の2週間モニタリングを行った。

⑤ 医療の質の確保・向上

医師・看護師の専門能力の向上のため、緩和ケア認定医の取得に加え、認定看護師対象特定行

為研修を院内で実施し、呼吸関連及び循環動態に係る薬剤投与並びに創傷管理で研修を修了するなど、高齢者医療の専門人材を育成した。

(イ) 地域医療の体制の確保

① 救急医療

二次救急医療機関及び「救急医療の東京ルール」に定められた区西北部医療圏における東京都地域救急医療センターとして、地域の救急医療機関とも協力・連携して救急患者の受入れを行うとともに、新型コロナ疑い救急患者の東京ルールについても積極的に参加した。

また、コロナ禍においても、急性大動脈スーパーネットワークや東京都CCUネットワークからの患者受入を推進し、昨年度を上回る受入実績を達成するとともに、急性期脳卒中患者に対するより適切な医療提供体制を確立するため、SCU（脳卒中ケアユニット）を6床運用し、高稼働率を維持した。

② 地域連携の推進

コロナ禍において地域医療連携システム（C@RNAシステム）を活用することで、地域からのCT、MRI等のオンライン予約を積極的に受け入れ、検査依頼件数を向上させた。

また、引き続き地域の医療機関と連携を強め、患者の受け入れを行うとともに、急性期を脱した患者を地域に返すことで、紹介率・逆紹介率を向上させた。

③ 医療安全対策の徹底

転倒転落カンファレンスシートについて、既存の転倒スコアシートと一体化させ、より転倒評価をしやすい体制を整備するとともに、転倒リスクが低いと判断された患者に対しても、転倒標準予防計画を組み、全患者の転倒予防を実施した。

また、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による処方介入や入院患者に対する多剤併用対策を行った。

④ 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

初診予約の待機時間を減らすため、各科の初診最短取得日数を院内会議にて毎月モニタリングし、必要に応じて医師の補充や予約枠の拡充を行うなどにより、初診予約の最短取得日までの日数を短縮した。

また、研究所の協力の下、PCR 検査・無料TOBIRA抗原検査を積極的に提供し、必要不可欠な症例に対し最大限の面会機会を確保した。

2) 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

(ア) 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究

化学スクリーニングより同定・最適化した RNA 結合タンパク質 PSF の機能を阻害する低分子化合物が、治療抵抗性前立腺がん及び乳がんの治療効果があることの発見により、創薬の方向性を示し、論文・学会・プレス発表、国際特許の出願を行った。

また、幹細胞性維持に必須な OCT4 が前立腺がんでは相分離現象を起こし、前立腺がんの悪性化にかかわるメカニズムとその創薬への応用を提唱し、論文・学会・プレス発表と特許出願を行った。

さらに、高齢の慢性腎臓病患者は、血中ビタミンC濃度が低く、血液透析によりビタミンCが減少することを明らかにした。

(イ) 高齢者の地域での生活を支える研究

歯科衛生士の配置がある介護老人保健施設や、入所定員に対し言語聴覚士、薬剤師、看護師、介護職員が多く配置されている老健施設の方が、そうでない老健施設に比べて、入所30日以内（入所直後）の入院発生を抑制している可能性を明らかにした。

また、いわゆるごみ屋敷症候群は、一人暮らしの高齢者が、認知症が進行し身体機能が衰えてきたときに適切な支援が得られないことと深く関連することを明らかにした。

さらに、高齢者の体組成・体力とその健康影響について、男性では骨格筋量、女性では脂肪量が筋力・歩行能力と独立して余命に影響することを明らかにした。

（ウ）老年学研究におけるリーダーシップの発揮

国立長寿医療研究センターと共同で「AIを用いたチャットボットによる高齢者に対する情緒的支援に関する研究」を実施し、チャットボットの開発を進めた。

また、日本医師会と連携した「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」などのプロジェクトを新規に開始し、老年学研究においてリーダーシップを発揮している。

（エ）研究推進のための基盤強化と成果の還元

ワンストップ窓口の新設により、企業等との共同・受託研究、学術指導等の可能性が出た早い段階に研究者等から相談を受け、秘密情報や研究成果の保護、適切な契約締結に向けた検討、適切な受入れ研究費の交渉に努めた。

また、認定臨床研究審査委員会では、センターにおける特定臨床研究の審査だけでなく、都立病院関連施設に加え、他県の病院施設の審査業務も併せて実施した。

さらに、公的研究費の応募や産学公連携活動を推進し、昨年度を上回る科研費新規採択率を達成した。

3) 医療と研究が一体となった取組の推進

（ア）トランスレーショナル・リサーチの推進（医療と研究の連携）

「顔で認知症をスクリーニングする安定したAIモデルの開発」、「タウ毒性検出および中和抗体の作成」の新規研究2件をスタートした。

また、産学公連携の成果として、臨床ニーズのひとつであった、高齢患者による採尿カップの重ね置きの問題に対して、研究開発ユニット、臨床検査科及び民間企業で検討を重ね、職務発明審査会の承認を経て「採尿カップスタンド」（TMG-100JP）の特許共同出願を行った。

（イ）認知症支援の推進に向けた取組

認知症医療・ケアに携わる専門職の育成を目的として研修会を企画運営した。（令和3年度は、新型コロナ流行拡大の影響を受け、すべての研修をオンラインで実施）

認知症未来社会創造センター（IRIDE）の取組の中で、「TOKYO健康長寿データベース」の構築において、もの忘れ外来、統合コホートの過去データをデータベースに格納するとともに、基盤データベースの設計・構築作業を進め、試験運用を実施した。また、認知症バイオマーカー開発において、既存バイオマーカーの測定システムの構築を行い、パイロット的にサンプルの測定を実施した。さらに、AIチャットボットの開発において、自動会話プログラムのプロトタイプをバージョンアップし、会話データや対応可能なドメインを増加させるなど、チームごとに取組を進めた。

（ウ）介護予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組

東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターとして、介護予防・フレイル予防のノウハウの普及と人材育成を促進することで、介護予防・フレイル予防につながる地域づくりに取り組む区市町村を支援した。

また、フレイル予防センターとして、自治体や医師会と連携しながらフレイルサポート医、フレイルサポート栄養士の育成を行い、地域のフレイル対策を進めるとともに、全国で初めて、センター内全看護師を対象とし、「フレイルサポート看護師」養成の院内研修を実施した。

4) 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

研修医向けホームページの更新や高齢医学セミナーでのPRを図ることなどにより、初期臨床研修医マッチング試験を46名が受験し、今後の高齢者医療・研究を担う人材の確保・育成に努めた。

また、連携大学院協定に基づき、連携大学院から14名、他大学の修士・博士課程の学生25名を受入れ、若手老年学・老年医学研究者の育成に貢献した。

さらに、若手研究者の育成に向け、「対面でのポスター発表」を試験的に導入し、交流と議論のさらなる活性化を図った。

5) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

医師事務作業補助者の継続的な採用により、4月より医師事務作業補助者体制加算20対1を取得

するとともに、副院長や看護部長も参画する検討会議を通じて、組織的な負担軽減や計画的なタスクシフト/シェアを検討・実施し、効率化と生産性向上を推進した。

また、保険指導の専門家が、保健医療機関として法制度に則した保険診療の実施の重要性を周知するため、職員に対して研修を実施した。(計2回)

さらに、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正を受け、令和3年度から不正防止計画等に係る理事会審議、監査等に係る監事との共有・意見交換、不正防止の啓発活動(年4回)等を新たに実施し研究不正防止対策を強化した。

6) 財務内容の改善に関する事項

収入面においては、新型コロナ患者の受入れに当たり手厚い看護体制を整備し、臨時的な取扱いによる「ハイケアユニット入院医療管理料2」を算定して収益を確保した。

また、詳細病名・副傷病名選択の重要性の周知並びに適切なDPCコーディングの提案を行い、各診療科医師と協力し取り組み、増収を図った。

費用面においては、材料費について、令和4年度予算編成において、決算状況も踏まえた経費精査を実施したほか、ベンチマークシステムを活用した効果的な価格交渉、安価な製品への切替、院内各組織の情報を活用し診療材料等の償還状況のチェックなどを図ることで、費用削減に取り組んだ。

7) その他業務運営に関する重要事項(センター運営におけるリスク管理)

新型コロナに対し、都や地域と連携し、陽性患者の受入れや宿泊療養施設への看護師派遣などを積極的に実施したほか、研究所の協力のもと、緊急入院を含めたハイリスク患者へのPCR検査・抗原検査により、院内の感染防止対策を徹底した。

また、情報セキュリティ研修と個人情報保護研修を、e-ラーニング形式で実施した。e-ラーニングでは、理解度確認テスト及び自己点検が実施できるようにするなど、受講する職員の一層の理解度向上を図り、受講率100%を達成した。

さらに、病棟火災を想定した初期消火・避難誘導訓練を実施し、防火区画、担送が必要な場合の移送手段について確認・検証した。

8) 新型コロナへの対応

前述の取組のほか、都の設置するワクチン大規模接種会場へセンター看護師・薬剤師を派遣した。

また、他病院からの重症患者に対し、体外式膜型人工肺(ECMO)等の高度医療を提供した。

さらに、研究所の遺伝子解析技術を応用した検査や病院部門の全自動遺伝子解析装置の活用により、変異株解析も含め、緊急入院を含むハイリスク入院患者のスクリーニング実施体制を整備するなど、必要な取組を行った。

第二部 病 院 部 門

I 令和 3 年度運営報告

内科総括

副院長・内科総括部長 荒木 厚

1 人員体制（敬称略）

〈部長〉

荒木厚（副院長・内科総括部長）、岩切理歌（高齢診療科・総合内科部長）、石川譲治（循環器内科部長）、藤本肇（循環器内科担当部長）、坪光雄介（救急診療部部長）、岩田淳（脳神経内科部長）、金丸和富（脳卒中科部長）、仁科浩史（脳神経内科専門部長）、上垣佐登子（消化器・内視鏡科部長）、千葉優子（糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長）、田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長）、宮腰重三郎（血液内科部長）、宮本鋼（化学療法科部長）、小林寿美子（輸血・細胞療法科部長）、武井卓（腎臓内科部長）、板橋美津世（血液透析科部長）、山本寛（呼吸器内科部長）、山田浩和（呼吸器内科専門部長）、久保かなえ（膠原病・リウマチ科部長）、齊藤英一（緩和ケア内科部長）、古田光（精神科部長）、増田義重（臨床検査科部長）

〈医長〉

石山泰三（循環器内科医長）、青山里恵（循環器内科医長）、村田哲平（循環器内科専門医長）、小川雅史（循環器内科専門医長）、東原真奈（脳神経内科医長）、井原涼子（脳神経内科医長）、松川美保（消化器・内視鏡科専門医長）、豊島堅志（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、小金丸博（感染症内科医長）、大川庭熙（高齢診療科・総合内科専門医長）、小倉和外（血液内科医長）、齋藤輔（血液内科医長）

〈常勤〉

（総合内科）片岡愛、中山智博、（循環器内科）杉江正光、鳥羽梓弓、十菱千尋、清水瑠理、小松俊介（消化器内科）羽鳥清華、大隅瞬、（脳神経内科）波多野敬子、松川美穂、栗原正典、（糖尿病・代謝・内分泌内科）大庭和人、小寺玲美、舘鼻彩（腎臓内科）、山中法子（呼吸器内科）佐塚まなみ、石橋昌幸、野木森智江美、（膠原病・リウマチ科）小林 聖未、（精神科）松井仁美、大森佑貴、堤広祐、二井矢峻、（緩和ケア内科）小西治子、志賀雅代

〈人事異動〉

令和3年度は4月1日に膠原病・リウマチ科に小林聖未、消化器・内視鏡科に大隅瞬、精神科に堤広祐、二井矢峻、8月1日に脳神経内科に栗原正典、2月1日に緩和ケア内科に志賀雅代が赴任した。

12月31日付けで緩和ケア内科の小西治子、3月31日付けで循環器内科の青山里恵、小川雅史、杉江正光、精神科の堤広祐、二井矢峻が退職した。が退職した。これまでセンターの診療の発展に貢献されたことに感謝の意を表する。

〈シニアレジデント〉

（高齢診療科・総合内科）北郷萌、小林孝史、近藤壮一郎、（糖尿病・代謝・内分泌内科）勝俣悠*、佐藤元彌、全秀剛、高橋寿枝、與口健太郎（10月から）、（脳神経内科）東野将志、小松大樹*、後藤良司（10月から）（腎臓内科）橋本征治、荒井誠大、（消化器内視鏡科）白倉英知、富野琢朗、正谷一石*、（循環器内科）橘昌利、宮脇正次、（呼吸器内科）永井博之、（血液内科）久能美香、（精神科）半田剛久、（ローテーション）米山雅彦、山本英善、

〈ジュニアレジデント〉

（1年目）は中西恵、堀越裕介、玉田歩、伊藤志帆、村瀬開、小森雄太、橋本のぞみ、藤井昭朗、東京大学からのたすき掛けで、千葉えみり、倉島葵が研修した。（2年目）國部亜希、中出麻美、嶋崎亮介、沼賀由佳、國廣祐公子、帯刀健太、林卓矢、南研人、河本千明、東京大学からのたすき掛けで植村哲也が研修した。2年生は産休の國部亜希以外の8人が初期研修を修了した。

2 診療活動・実績

（1）外来部門

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年度比
延外来患者数	110,704	101,694	106,777	105.0%
初診算定外来者数	4,113	4,566	4,957	108.6%
1日平均外来患者数	461.2	418.5	441.2	105.4%

(2) 救急部門

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年度比
救急外来受診数	5,958	5,573	6,819	122.4%

COVID-19感染症に関わらず、内科系の外来患者数は延外来患者数、初診患者数、1日の平均外来患者数は増加した。救急外来は二次救急として24時間体制で行った。日勤帯は常勤医の医師が指導医として3週に1回担当し、ジュニアレジデント1年目と2～4年目の医師の3人体制で救急外来を担当した。救急患者も22.4%と大幅に増加した。感染流行期のピークには、余りにも多くの受診希望で、入院を受け入れることができないこともあったが、それ以外では院内でPCR検査体制の整備や病棟の効率的な運営の結果、多くの救急患者を受け入れることができたように思われる。

内科外来自体は、指導医とシニアレジデントの2人が主として担当し、シニアレジデントの外来の教育を兼ねて行っている。高齢診療科外来は月～金曜日午後で老年症候群の鑑別やフレイル外来と連携し、高齢者総合機能評価を行う外来であるが、総合内科と合わせて3,503人と大幅に増加した。

フレイル外来は、フレイルや認知機能などを総合的に評価する外来であるが、入院患者を含めると838人の受診があり、昨年度と比べ増加した。

(3) 入院

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年度比
内科延入院患者数	104,994	88,625	89,185	100.6%
内科新規入院患者数	4,544	4,116	4,076	99.0%
内科転入院患者数	2,180	1,874	2,403	128.2%
内科退院患者数	6,438	5,673	6,160	108.6%
病床利用率(%)	89.6	80.8	80.8	—
内科在院日数	17.9	16.9	16.2	—
転入出込在院日数	14.6	13.8	12.8	—

COVID-19感染症の影響がありながらも、内科系の新規入院患者数は同様で、退院患者数は増加したことは救急患者を多く受け入れたことを意味する。病床運営はCOVID-19対応病床を9階東20床、9階西15床、ICU3床を作り、内科系（8科）と外科系に分けて各科に順番に診療する体制に変更した。感染症内科医長の小金丸先生や看護師の出崎さんの指導のもとに内科各科が一致協力し、多くのCOVID-19患者をシニアレジデントや初期研修医が積極的に担当したことに感謝の意を表したい。

病棟編成は目まぐるしく変わったが、消化器内科の人員不足に対しても、内科各科の協力と救急患者を外科が分担してくれたおかげで、何とか運営できた。

地域包括ケア病棟は総合内科の岩切先生を中心に、内科病棟から在宅復帰のための患者を受け入れ、在院日数短縮、患者・家族の負担軽減、経営の効率化に貢献した。在宅医療支援病床は大川先生が担当した。

3 感染対策

研究所の協力もあり、入院患者全例のPCR検査体制で予約入院は入院前に連携検査外来で唾液PCRを行い、救急患者は入院当日に鼻咽頭PCR、2日目に研究所唾液PCRを行ってから個室から一般床に移動する体制になった。職員のワクチン接種の2回目、3回目が行われ、内科系医師、外科系医師は問診を行い、ER担当は循環器内科が担当した。

4 研修・教育活動

研修医は新たにジュニアレジデント10名が4月より研修を開始し、2年目と合わせて計20名が研修を行った。研修医は、所属の科のカンファとともに、モーニングカンファ、昼のクルズス、病院CC、病院CPC、研修医CPC、高齢診療科・総合内科の外来研修などに参加し、幅広い研修が行われた。JMECCの研修も村田哲平先生が中心に1回行うことができた。初期研修医2年目は産休に入った1人を除き、初期研修プログラムを修了した。プラネックス研修はCOVID-19感染症流行のために中止となった。

病院CCは研修医教育のために毎週木曜日に行われ、ジュニアレジデントが発表し、シニアレジデントまたは若手医師がコメンテーター、指導医が指導する3人体制で行なわれた。

モーニングカンファはレジデントが夜間の一般内科救急患者の症例の検討を救急診療部の坪光先生、田村先生、加藤先生などの指導のもとに行った。昼のクルズスは板橋先生、千葉先生を中心に管理し、毎週1回、内科のみならず、全科の先生が講義を行った。

研修医のリクルート活動として、レジナビはオンラインとなり、6月23日に病院の紹介動画と研修医、専攻医、

指導医が集まって、学生の質問に答えるような形式として開催された。7月24日午後にハイブリッド形式で高齢医学セミナーを行った。初期研修医の定員は8人となったが、マッチングの試験には約6倍の医学生が受験し、第一希望者は22名で2.75倍と高倍率を維持している。

内科専攻医プログラムは当センターのプログラムとして新たに勝俣悠先生、小松大樹先生、正谷一石先生の3人が研修を開始した。また、東京大学、東京医科大学、多摩総合医療センターからの派遣もあり、合計22人が当センターで研修を行った。

5 学会発表・論文発表

今年度の内科全体の学会発表数は111（昨年度126）と減少したが、研修医、専攻医の学会発表数は38（昨年度27）と大幅に増加した。また、内科地方会または内科学会総会への発表も9題（内、研修医9題）となり、ここ2年増加している。内科全体の論文発表数は186（昨年度174）や研修医、専攻医の論文発表数は12（昨年度6）と増加した。今後は、さらに指導医が学会発表だけでなく、論文作成を促すことが大切である。

6 今後の課題

今後の課題としてポストコロナに向けた入院患者の確保、教育・研修体制の強化、臨床研究の推進、働き方改革が挙げられる。

今年度の入院患者は減少に歯止めができたが、従来よりも患者数はまだ少ないのが現状である。ポストコロナに向けて患者数を増やすことが必要である。消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、循環器内科、膠原病・リウマチ科は人員を増やすことも必要であるが、地域に向けて専門の外来をアピールし、地域連携をさらに活性化することが重要となる。

初期研修医、専攻医の研修とも症例の登録と研修の評価をきちんと行うことが必要であるが、まだ不十分な点が少なくない。指導医においては研修評価やサマリーの査読の業務が多くなり負担が増えているので、多くの先生で分担し、1～2年ごと交代する仕組みが必要であり、業績評価において何らかの評価を与えることが望まれる。また、評価や査読の期限に定期的にリマインドを行う事務作業を行うことも必要である。

臨床研究の推進のためには病院の臨床データのデータベースを作成することが必要である。当センターは救急患者を多く診療し、苦勞して在宅医療に戻しているが、そうした臨床データに基づく論文の発表は少ないのが現状である。電子カルテの医師、看護師などが評価して認知機能、ADL、栄養、薬剤、社会的な問題などのCGAの部分を共通のシートにして電子カルテを用いたフレイル指標を作り、それを各科の研究に使用したり、退院支援に役立てたりすることができないかを検討している。また、病院と研究所との共同研究を推進することも重要である。今年度は糖尿病・代謝・内分泌内科の若い先生が研究所の疫学調査のお達者健診に参加した。今後、こうした試みを各科に広げていきたいと考えている。2月15日に「病院・研究所のネットワーク研究発表会」を開催し、それぞれ2名が発表し、活発な討論が行われ、病院と研究所の有意義な交流の機会となった。症例報告は学会の発表数に比べて論文発表の数が少ないので、若い先生の論文の作成を支援する組織も必要である。

働き方改革の一環として研修医・専攻医は当直明けの日には12時までの勤務となっているが、これを常勤医に広げていく必要がある。外来も含めて複数の主治医体制を作り、少数の科同士が組んでグループ診療体制を構築できるかが課題である。医師事務補助を活用することで外来診療の効率化を図り16時には診療を終え、カンファレンスに参加できるような体制を作ることが望ましい。

総合内科・高齢診療科

部長 岩切 理歌

1 人員体制

〈部長〉 岩切理歌
 〈専門医長〉(在宅療養病床担当) 大川庭熙
 〈医員〉 片岡愛 中山智博
 〈初期研修医〉 植村哲也
 〈後期研修医〉 北郷 萌、近藤壮一郎、小林孝史、山本英善

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

- (1) 総合内科・高齢診療科外来：年間初診料算定患者数：500 人（前年度 468 人）
 1 日平均初診料算定外来患者数：2.1 人（前年度 1.9 人）痛み、食欲不振・体重減少、めまい精査など
 フレイル予防対策、ポリファーマシー対策、在宅支援にも力を入れている。
 初期研修医の外来研修の場としての指導も兼ねている。
- (2) ポリファーマシー外来
 2018 年 10 月、火木の午後に開設した。薬のことで問題を抱えている患者を対象とし、内服状況や副作用の有無について確認し、必要に応じて内服回数や内服数の軽減を提案することを目的としている。

■入院診療の実績

- (1) 総合内科・高齢診療科 7 西病棟 6 西病棟
 新入院患者数 150 人、転入患者数は 322 人（前年度はそれぞれ 162 人、195 人）。他院からの転院患者、救外からの緊急入院患者、内科外来、高齢診療科外来からの精査目的の患者の診察を行った。

■診療内容

- ・感染症や脱水症などの治療、食欲不振・体重減少などの精査、在宅療養環境の調整など。
- ・COVID-19 感染患者の治療、在宅療養患者のレスパイト入院。

■地域包括ケア病棟

病状が安定した後、数日から約 3 週間、自宅退院に向けて生活機能向上を目的とした調整を行っている。年間入棟患者数は 670 人（前年度 614 人）。在宅復帰率（施設基準 $\geq$ 70%）の平均は 82.5%（前年度 85.7%）、直入率（施設基準 $\geq$ 40%）は 51.2%（前年度 46.3%）であった。

■その他：冊子「健康長寿の秘訣」を作成

フレイル予防指導の際に使用する A5 版 8 ページの冊子を、研究所、歯科口腔外科、栄養科、薬剤科、広報普及係の協力のもとで作成した。

3 研修・研究活動

- (1) 入院患者についての症例検討会：毎週月曜日に施行。
- (2) 抄読会・勉強会：月 1～2 回、毎回担当者が自分でテーマを決めて発表している。
- (3) ポリファーマシーカンファレンス 高齢診療科、循環器内科医師、6 階担当薬剤師を中心に、週一回、6 階地域包括ケア病棟、整形・脊椎外科病棟に入院中の内服数が多い患者（通常は 8 剤以上内服している患者）に対し薬の見直しを呼び掛けている。
- (4) お昼のクルズ 2021 年 6 月、高齢者の多剤併用について 岩切理歌
- (5) 高齢医学セミナー 2021 年 7 月 13 日、高齢化社会におけるポリファーマシーの現状と課題 岩切理歌
- (6) 高齢医学セミナー 2021 年 7 月 24 日、高齢診療科の役割 岩切理歌
- (7) 病院研究課題発表会 2022 年 3 月 10 日
 ポリファーマシーの解消に向けて ～10 剤以上内服している入院患者の内服の実態と対策～ 岩切理歌

膠原病・リウマチ科

部長 久保 かなえ

1 人員体制

〈部長〉久保かなえ 〈医員〉小林聖未

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

専門外来 久保；月曜/水曜午前午後、
小林；金曜午前午後

非常勤として杉原；火曜、楠田；水曜、瀬理；木曜

昨年度から1名常勤医が増えたため、外来初診患者数が増加し、病状の安定した症例の逆紹介や病診連携を進めながらも、再診患者数も増加した。高齢発症の関節炎疾患として高齢発症関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE 症候群が多いが、脊椎関節炎など比較的若年症例もさらに増加傾向にあり、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、皮膚筋炎／多発性筋炎などの膠原病、巨細胞性動脈炎や ANCA 関連血管炎を含む血管炎症候群など多彩な難病診療を継続して行った。

■入院診療の実績

COVID-19 対策のため、8 東病棟において4床に減じて運営したが、固有床を超える入院症例数に対応した。当科外来症例に合併した一般内科疾患は他病棟で加療していただいたが、引き続き濃密に専門的精査加療を要する症例の診療を行った。昨年度より入院症例数は増加し、他科と連携することで、間質性肺疾患や神経疾患、肺高血圧症など、膠原病関連疾患を背景とした多彩な臓器病変の診療を行った。

毎日研修医と病棟カンファレンスとラウンドを行い、最新の文献を確認しながら診療を行うことを心掛けた。

3 研修・教育活動

当院は日本リウマチ学会の教育指定病院である。久保医師は日本リウマチ学会認定専門医、指導医、評議員として学会関連の仕事、教育目的の総説の作成、臨床研究業務に従事し、研修医の専門診療教育と臨床研究および学会発表の指導を行った。小林医師は日本リウマチ学会認定専門医、指導医として、ともに研修医の教育に携わった。複数の臨床研究を継続し、大学と連携した研究の立ち上げ、日本リウマチ学会および日本臨床免疫学会での学会発表、リウマチ領域の主要な雑誌への論文発表を行った。

当科で研修をした初期研修医において、1名は2021年度日本内科学会関東地方会で、2名は2021年度日本リウマチ学会で、症例報告を行った。2名は院内CCで症例発表を行った。

腎臓内科・血液透析科

部長 武井 卓・板橋 美津世

1 人員体制

〈腎臓内科部長〉武井卓

〈血液透析科部長・腎臓内科専門部長〉板橋美津世

〈常勤医〉山中法子

〈後期研修医〉橋本征治、荒井誠大(4-10月)、山本英善(4-5月)

〈初期研修医〉13名(1-2ヶ月ローテーション)

〈非常勤医〉湯村和子、清水章、齋藤誉子、鶴田悠木、山口靖子 以上が診療に当たった。

2 診療活動・実績

(1) 外来

外来は腎臓内科一般、特に高齢者の腎障害を中心に診療を行っている。腎炎・血管炎にも力を入れ、紹介を頂いている。令和3年度延べ外来患者数8,274名(前年度+152名)、初診患者数は159名(前年度+24名)であった。

透析センター(17床)は、業務を月水金および火木土の午前・午後の4クールで運営している。治療法はHD、ECUM、OHDF、オフラインHDFであった。さらに腹膜透析を開始し、腹膜透析外来を開設した。また外来透析患者の質的向上を目指しフットケア回診、フレイル・栄養評価を継続した。平成29年度より取り入れたエルゴメータなどを利用しての運動療法も継続的に施行した。

(2) 病棟

病棟診療においては、腎不全保存期教育入院、透析導入入院、維持透析合併症治療入院などを行った。またクリニカルパスを利用したネフローゼ症候群やANCA関連血管炎に対するリツキシマブ治療および腎生検入院を積極的に行った。腎生検は他科依頼の症例に対しても施行し、検体採取のみにとどまらず、当院病理診断科と組織診断まで首尾一貫して行っている。透析導入に関しては腹膜透析導入も令和元年より可能とし、腎代替療法選択が可能となった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症による病棟編成により病床数17床で運営し、延べ入院患者数5,424名と前年度に比べ-1,587名であった。また平均在院日数は17.6日と前年に比して-2日短縮した。

(3) 透析センター

透析センターでの治療法はHD、ECUM、OHDF、オフラインHDF、CHDF、血漿交換、吸着療法及び関連診療として血管再生・末梢血幹細胞移植のためのリンパ球分離である。血液透析新規導入は69名(+12名)、腹膜透析新規導入は2名であった。入院による透析患者数は156名であった。

3 研修・教育活動

当院は日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設に認定されている。

研修医の報告・論文報告を推進している(令和3年日本老年医学会総会に後期研修医2例、内科学会関東地方会に初期研修医2例発表、英文論文を初期研修医3本(原著論文1本、症例2本)報告)。

院内では病棟カンファレンスを週1回、透析カンファレンスを週1回、腎病理カンファレンスを月1回、CPCカンファレンスを1回/年、透析部門スタッフ対象の透析診療セミナーは週1回行った。また実習生・見学生を受け入れを行った。

板橋美津世は東京女子医科大学第四内科講師として東京女子医科大学医学部腎臓内科講義など学生教育に貢献した。

糖尿病・代謝・内分泌内科

副院長・内科総括部長 荒木 厚

1 人員体制

糖尿病・代謝・内分泌内科は、常勤7名とシニアレジデント5名で運営した。

〈副院長・内科総括部長〉荒木 厚

〈専門部長〉千葉優子、田村嘉章

〈医長〉豊島堅志

〈医員〉大庭和人、小寺玲美、館鼻彩

〈シニアレジデント〉全秀剛、高橋寿枝、松尾佳紀、佐藤元彌、勝俣悠

〈非常勤医〉森聖二郎、豊島弘一、大村卓也（研究所医師）、飯塚あい（研究所医師）

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

外来患者数は1日69.6人（昨年度64.8人）、延外来患者数は16,846人（昨年度15,750人）と、それぞれ7.4%、7.0%増加した。初診算定患者数も330人と昨年度の274人と比べて約20.4%増加している。フットケア外来は年間延べ526人となっているが、今後、さらに対象者を増やすことで準備している。

毎週金曜日に持続血糖モニター（CGM）やFGMを導入するCGM外来を行っている。また、高齢者でも1型糖尿病患者でインスリンポンプ療法、SAP療法を少しずつ導入している。また、外来で新規の週1回のGLP-1受容体作動薬や持効型インスリンとGLP-1受容体作動薬の配合剤を導入する例が増えている。外来診療の専門性が高くなったことより、来年度から糖尿病認定看護師を含めた看護外来の開設を計画している。

■入院診療の実績

糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、内分泌疾患、低血糖などの患者の他、多くの内科救急患者を担当した。COVID-19感染症の影響下にありながら、指導医、専攻医、または初期研修医を加えた担当医2～3人による診療体制により、多くの患者を受け入れることができた。

病床はCOVID-19感染症のために、最終的に35床（8階東西＋6階西）となった。新入院患者211人と転入（救急）患者503人を合わせた714人を受け入れ、昨年度より約8.8%増加した。専攻医の協力のものに昨年度よりも誤嚥性肺炎、COVID-19感染症などの入院を多く受け入れたことが原因と考えられる。転入込みの在院日数は14.6日と昨年度と同様であった。

当科は医師、看護師、栄養士、薬剤師などのチーム医療による糖尿病教育と治療を行っている。入院患者の医師による糖尿病教室は毎週月曜日の午後に行われている。週2回の多職種による退院支援カンファレンスなどにも在院日数の短縮に貢献できている。また、入院および外来患者に対して、フレイル外来を利用し、認知機能やフレイルの評価を含めた高齢者総合機能評価（CGA）を行い、CGAの情報に基づいて退院後の生活を考慮したインスリン治療の単純化などを行っている。また、人工臓器による周術期の血糖管理は中止することになった。

3 研修・教育活動

糖尿病・代謝・内分泌内科は毎週月曜日の午後5時30分より臨床カンファレンスを行い、患者の治療方針の詳細な検討とレジデント教育を行っている。毎週水曜日の午前8時30分より最新の英語論文またはADAの糖尿病教科書を読むジャーナルクラブを実施している。

J-CDEの数は看護師7名（認定5名＋2名）、栄養科6名（常勤5名、非常勤1名）、薬剤部3名、リハビリ1名の合計17名となり、院内の糖尿病の教育体制の充実を図っている。

4 患者教育、患者会活動

糖尿病患者を対象に行われていた糖尿病教室、世界糖尿病デー行事、患者会活動は COVID-19 感染症のために中止となっている。しかしながら、令和 3 年度の区西北部合同糖尿病区民公開講座や区中央部糖尿病医療連携検討会主催市民講座で「いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養方法～フレイル（虚弱）の対策を立てよう」というタイトルで患者を含めた一般市民向けに web 講演を行っている。

循環器内科

部長 石川 譲治

1 人員体制

- 〈副院長〉原田和昌
- 〈部長〉石川譲治
- 〈専門部長〉坪光雄介、藤本肇、石山泰三
- 〈医長〉石山泰三、青山里恵、村田哲平、小川雅史
- 〈常勤〉杉江正光、小松俊介、鳥羽梓弓、十菱千尋、清水瑠璃
- 〈非常勤医師〉山本文、鈴木歩
- 〈専攻医〉橘昌利、宮脇正次

病棟は、循環器内科で5階西病棟、心臓外科・呼吸器外科との共同で5階東病棟を運営している。従前より日本循環器学会教育施設・日本心血管インターベンション学会研修施設、日本超音波医学会研修施設という教育施設認定を受け、診療面では東京都CCUネットワーク/大動脈スーパーネットワーク支援施設に加盟している。後期レジデントとして宮脇正次医師（東京大学老年病科より派遣）および橘昌利医師が勤務した。

2 診療活動・実績

	令和2年度	令和3年度	対前年度	対前年度比
延入院患者数	19,052	18,239	-813	95.7%
新入院患者数	999	938	-61	93.9%
病床利用率	90.9	98.9	+8.0	108.8%
平均在院日数	15.9	15.8	-0.1	99.4%
延初診外来患者数	834	925	+91	110.9%
延外来患者数	27,980	28,327	+347	101.2%

当院は東京都CCUネットワーク、大動脈スーパーネットワークの支援病院として東京都の循環器救急医療の一躍を担っている。令和3年度の急性大動脈スーパーネットワーク受け入れは27件、CCUネットワークの受け入れは63件で、令和2年度より増加した。疾患別では、近隣の救急病院の循環器科では虚血性心疾患・不整脈疾患が多数を占めるのに対し、当院では心不全症例を積極的に受け入れているのが特徴的である。DPCデータに基づく血管病による入院患者の年齢構成は、65歳以上の高齢者が87.2%と大多数を占め、75歳以上の後期高齢者が67.5%であった。

主な検査・治療件数は、心カテ総数：609件、経皮的冠動脈形成術：214件、ロータブレード10件、ELCA（エレクトロシマレーザ）24件：肥大型閉塞性心筋症に対する経カテーテル的経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）2件：血管内治療（EVT）18件：大動脈バルーンパンピング（IABP）20件、インペラ4件、経皮的心肺補助（PCPS）・経皮的膜型人工肺（ECMO）14件、Diamond Backが24件であった。経カテーテル的大動脈弁置換術は13件であった。不整脈ならびに心室再同期療法については、ペースメーカー（新規57例、交換13例、合計70例）、植え込み型除細動器留置（新規1例、交換1例、合計2例）、両心室ペーシング（新規4例（除細動あり）、新規0例（除細動なし）交換3例、合計7例）、カテーテルアブレーション（総数41例、心房細動26例を含む）、カテーテルアブレーション＋電気生理学的検査（総数51例、電気生理学的検査のみの症例数9例は心室頻拍の精査）であった。心エコー図検査6661件、経食道心エコー図検査204件（術中72件）であった。24時間自由行動下血圧モニタリング316件、ホルター心電図854件であった。

3 研修・教育活動

毎朝8時15分よりCCUで症例検討カンファを行い、月曜夕方にクリニカル・カンファ、論文抄読会、水曜午前に副院長回診、夕方に心臓外科との合同カンファ、カテーテル症例カンファ、木曜午後に心エコー図カンファを開いている。また別紙のとおり学会・研究会での発表を行った。

（文責：部長 石川譲治）

呼吸器内科

部長 山本 寛

1 人員体制

〈部長〉山本寛 〈専門部長〉山田浩和
〈医員〉石橋昌幸、野木森智江美、佐塚まなみ
〈非常勤〉齋藤朗、村野陽子、(専攻医)永井博之

2 診療活動・実績

■入院診療の実績

病床数21床。退院（転科を含む）症例は計388例（△65例）で、男性256例、女性132例。入院患者の年齢中央値は79歳（16-102歳）、緊急入院が55.9%（△7.9%）。死亡退院は30例（剖検例なし）。入院日数の中央値は12日（1-99日）、平均在院日数は15.9日（▼2.7日）であった。入院患者の疾患内訳（のべ）は下記の通り（主なもののみ示す）。

原発性肺癌	163
原発性肺癌の疑い	33
COPD	144
間質性肺疾患	113
気管支喘息	67
肺炎・気管支肺炎・気管支炎	103
COVID-19	52
膿胸	8
非結核性抗酸菌症	11
気管支拡張症	10
気胸	18
胸水貯留	56
睡眠時無呼吸症候群	13

■外来診療の実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響も減り、令和3年度の初診料算定外来患者数は205人（△48人）、延外来患者数は9,625人（△705人）とそれぞれ大きく増加した。重症喘息に対する生物学的製剤の投与も可能となり、症例数が徐々に増加している。外来化学療法加算算定件数も294件（△142件）と大幅に増加した。

■手術・検査実績

令和3年度の呼吸器内視鏡検査施行症例数

呼吸器内視鏡検査施行症例数	73
(内訳)	
TBLB/TBB	24
EBUS-GS	20
EBUS-TBNA	19
BAL	7
COVID-19	9
局所麻酔下胸腔鏡	5

常時、最新の気管支ファイバーを取り揃え、検査を行っている。Synapse Vincentによる仮想気管支鏡画像を用いた気管支ナビゲーション、(極)細径気管支鏡を用いて正確に関与気管支を同定し、EBUS-GSでwith-inを確認して生検、さらに、病理診断科と共同で開発した迅速染色法(改変Ultrafast Papanicolaou染色)を用いてROSE (rapid on-site evaluation)を行うことで、診断精度が高まり、当センターの志向する、高齢者にもやさしい質の高い検査が可能になった。局所麻酔下胸腔鏡検査を、呼吸器外科と合同で、合計5例の膿胸症例に行った。

3 研修・教育活動

呼吸器内科カンファ：毎週火曜日16:30-
呼吸器内科・呼吸器外科・病理診断科・放射線治療科合同カンファ、抄読会：毎週金曜日16:30-
呼吸器がんサードボード：毎月第2金曜日16:30-

●病棟勉強会、院内研修会

- ① 佐塚まなみ：間質性肺炎. 5東病棟勉強会. 令和4年2月3日.
- ② 山本寛、佐塚まなみ：[ファシリテーター]第5回緩和ケア研修会. 令和3年9月25日
- ③ 山本寛：75歳以上手術不能・進行非小細胞肺癌患者の治療意思決定と生活機能障害の抽出におけるDASC-21の有用性に関する検討. 第1回病院・研究所ネットワーク研究発表会. 令和3年12月15日
- ④ 山本寛：COPD. フレイル予防セミナー. 令和4年1月25日

●お昼のクルズス

山本寛：胸部単純X線写真の読み方. お昼のクルズス. 令和3年8月31日.

●専門医・指導医取得

佐塚まなみ：日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本老年医学会老年科指導医
野木森智江美：日本老年医学会老年科指導医

(文責：山本寛)

消化器・内視鏡内科

部長 小野 敏嗣

1 人員体制

〈専門医長〉松川美保
〈常勤医〉羽鳥清香
〈常勤医〉大隅瞬
〈非常勤医〉白倉英知
〈非常勤医〉正谷一石
〈顧問医〉葦沢龍人

令和2年度から常勤1名、非常勤1名の増員となったものの、上垣部長のご逝去もあり病棟診療や検査は十分に対応し難い状況が続いていた。通常業務については非常勤の雇用により凌いでいたが、緊急入院や緊急検査、夜間休日の内視鏡当番に関しては十分な対応ができなかった。

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

延外来患者数 12,543人（前年比+1,854人）
令和2年度に引き続き令和3年度も厳しい人員であったにもかかわらず、外来診療の増加を達成することができた。次年度は常勤3名の大幅な増員となるため更なる増加が期待される。

■入院診療の実績

延入院患者数 10,464人（前年比+13人）
令和3年度もコロナ禍の影響は続いていたが、その中で前年度から横ばいもしくは微増を達成することができた。増員に伴いこちらも次年度での増加が期待できるものとする。

■手術・検査実績

内視鏡的粘膜下層剥離術	100件(前年比+26件)
内視鏡的逆行性膵胆管造影検査	162件(前年比-12件)
超音波内視鏡下穿刺吸引法	47件(前年比-1件)

人員減に加えてコロナ禍の影響を受けてはいたが、非常勤医師の活用によりESD症例はむしろ増加させることができた。また、ERCPやEUS-FNAは横ばいから若干減少となったが、むしろこの程度で凌いだという印象である。今後は上記のように増員もあり、ポストコロナに向けて症例数の回復から増加が期待される。

3 研修・教育活動

前年度同様に、カンファレンスを週1回月曜午後に入院患者と外来や他科患者の相談症例、化学療法症例の検討を行った。また、月1回の消化器がんサードボードは外科と病理診断科と合同で行った。人員減少に伴い学会発表などは十分に行うことができなかったが、こちらについても人員増加に伴い次年度での改善が期待される。

脳神経内科・脳卒中科

部長 金丸 和富、岩田 淳

1 人員体制

〈部長〉金丸和富、岩田淳

〈専門部長〉仁科裕史

〈医長〉東原真奈、井原涼子

〈医員〉波多野敬子、松川美穂(産休中)、栗原正典(9月より)

〈兼任〉齋藤祐子、村山繁雄(ブレインバンク)、石井賢二、石橋賢士(神経画像研究チーム)

〈外来非常勤〉江口桂、森本悟、広吉祐子、吉野正俊、松原知康、神経心理：武田克彦、てんかん：松平敬史、脳波：大南伸也、頸動脈エコー：本山りえ

その他後期研修医3名、初期研修医1-2名の体制で、常勤の日本神経学会専門医は8人体制である。神経変性疾患から脳梗塞まで、幅広い専門的な対応が可能となっている。

2 診療活動・実績

病棟：10階西病棟36床(4/1～7/9) 28床(7/10～11/28) 24床(11/29～3/31)(コロナ状況により病床数の変動有) 脳梗塞超急性期のtPA治療等は脳卒中ケアユニット(SCU6床)で診療している。脳卒中ユニットSCUは脳神経外科とともに運営し、24時間対応で急性期脳卒中診療を行うとともに、リハビリ科との協力により急性期リハビリにも取り組んでいる。令和3年度の新入院転入患者数は966人。初診外来患者数は1126人である。神経・筋疾患については、電気生理学的検査・カンファランスで適応を検討の上生検を行っている。肺炎・尿路感染症・脱水症などの内科疾患にも対応。病棟では、毎朝のカンファ、火曜日、金曜日に新患回診を行い、研修医には週に一度個別指導のBed side teachingを行い、問題症例は月1回の症例カンファで討論している(金丸、岩田)。

外来：神経内科外来は予約制であり、月曜日から金曜日まで常勤スタッフおよび非常勤スタッフ、研究所所属医師が、初診・再来患者診療を行った。救急対応は、救急外来、また、毎日設けている神経内科外来予約外診療(予約新患にも対応)にて行っている。毎週月(井原)、水曜日午後(交代制)には“物忘れ外来”も担当。また、てんかん外来(松平)、神経心理外来(武田)も継続している。その他、眼瞼痙攣を対象にボツリヌス治療を行っている(金丸)。神経心理検査は常勤(小幡)・非常勤心理士が対応している。**検査**：針筋電図、神経伝導検査、誘発電位など電気生理学的検査(東原)、神経・筋、皮膚生検(仁科)、頸動脈エコー(本山)、脳脊髄液バイオマーカー検査(t-tau、A β 42)(金丸)を行っている。神経・筋はバイオリソースセンター組織リソース、脳脊髄液はバイオマーカーリソースとして蓄積を継続している(令和3年度、脳脊髄液検体数176)。病理診断は神経病理専門医(斉藤、村山)が行っている。放射線検査として、CTおよびMRIが24時間対応可能で、神経放射線専門医が対応している。問題症例は、研究所に依頼しPET検査を積極的に行っている(石井・石橋)。死亡患者の剖検許可をご遺族より得て高齢者ブレインバンクに登録することに加え、生前同意を得る努力も行っており、臨床・画像・病理連関に基づき、診療に生かす努力を高齢者ブレインバンク・バイオバンクプロジェクトとして行っている(村山)。在宅診療：板橋区医師会神経難病の在宅往診診療を行っている(金丸)。

3 研修・教育・研究活動

検討会：毎朝、新規入院症例の検討を行っている。脳神経内科入院中の問題症例については、毎週火曜日に症例検討会を行い診断および治療方針の検討を行っている。死亡例については、高齢者ブレインバンクと共同でブレインカッティングおよび臨床病理検討会(CPC)を行い診療レベルの向上に努めている。また、月1回、精神科・放射線科・リハビリテーション科と合同で物忘れカンファを行っている。

学会発表：国内学会として、神経学会総会・関東地方会、神経病理学会総会・関東地方会、Neuromuscular

Conference、脳卒中学会、認知症学会に発表を行っている。国際学会として、Alzheimer Association International Conference, ADPD2022, 2021 Asian Oceanian Congress of Neurology, Clinical Trials on Alzheimer' s disease, International Symposium on ALS/MND に発表を行っている。

血液内科

部長 宮腰 重三郎

1 人員体制

〈血液内科部長〉宮腰重三郎

〈血液内科医長〉小倉和外 齊藤輔 久能(原田)美香

〈血液内科 移植コーディネーター〉赤川順子

〈輸血細胞療法科部長 血液内科専門部長〉小林寿美子

昨年度より後期レジデントとして久能(原田)美香医師が着任したが、2021年12月をもって、帝京大学溝の口病院の後期レジデントとして転出した。血液内科は主に血液造血組織に関する疾患を扱っている。病床数は完全無菌室36床、例年通り入院患者の90%以上が血液疾患症例であり、このうち約半数が急性骨髄性白血病を中心とした急性白血病と骨髄異形成症候群であった。今年度も入院患者の80%以上が移植関連の症例が占めていた。昨年度は新型コロナウイルス禍にて他病院への訪問回診等が施行できず、入院症例は減少したが、今年度は増加を認めた。

2 診療活動・実績

〈外来〉延べ外来患者数は昨年度より若干減少したが、造血幹細胞移植目的での紹介が多く、セカンドオピニオン外来は、当院全セカンドオピニオン28件中25件を血液内科が占めた。石川県、山形県よりの遠方からのセカンドオピニオンもあった。紹介患者の大部分は区西北部医療圏の地域連携での患者である。大学病院など公的病院、一般病院での高齢者血液悪性疾患患者の受け入れは十分といえず、当科が受け皿となっている現状は例年と変わりはなかった。

〈入院〉前年度に比較し、延べ入院患者数、病床利用率は増加した。2018年度25例、2019年度26例と2020年度は22例であった造血幹細胞移植症例は今年度24例と例年と同様であった。平均在院日数は24.8日(昨年度26.3日)と若干短縮した。65歳以上の移植件数は17例で70歳以上は9例で、さらに臍帯血移植は18例で、当科の特徴を示していた。新型コロナウイルス感染やPCR陽性症例は皆無であった。多剤耐性菌のブレイクスルーがないように細心の注意を払い、ブレイクスルーは認めなかった。施設は11階西病棟に36床の無菌病室(管理加算-1:3000点/日対応 14個室、管理加算-2:2000点/日 対応の多床室22ベッド)。血液内科病棟は陰圧室2床を有効利用し、コロナ禍前より耐性菌ブレイクスルーを起こさないように、培養結果を確認されるまで、陰圧室にて管理、その後他床室へと移動をするシステムを継続中である。これは現在当院が施行しているシステムである。さらに面会者には健康チェック表を使用していた経験が生かされていると思われる。

また、2017年1月に骨髄バンク認定採取病院になり、さらに2017年4月日本造血・免疫細胞移植学会認定の移植認定病院となった。このことにより非血縁者間臍帯血移植以外にも骨髄バンクからの骨髄移植や末梢血幹細胞移植が可能となった。バンクドナーからの造血幹細胞採取は骨髄採取6例、末梢血幹細胞採取6例 計12例であった。

病院情報局による血液系症例数ランキングは都内33位、骨髄異形成症候群の症例数別ランキングでは東京都内7位であった。

3 研修・教育活動

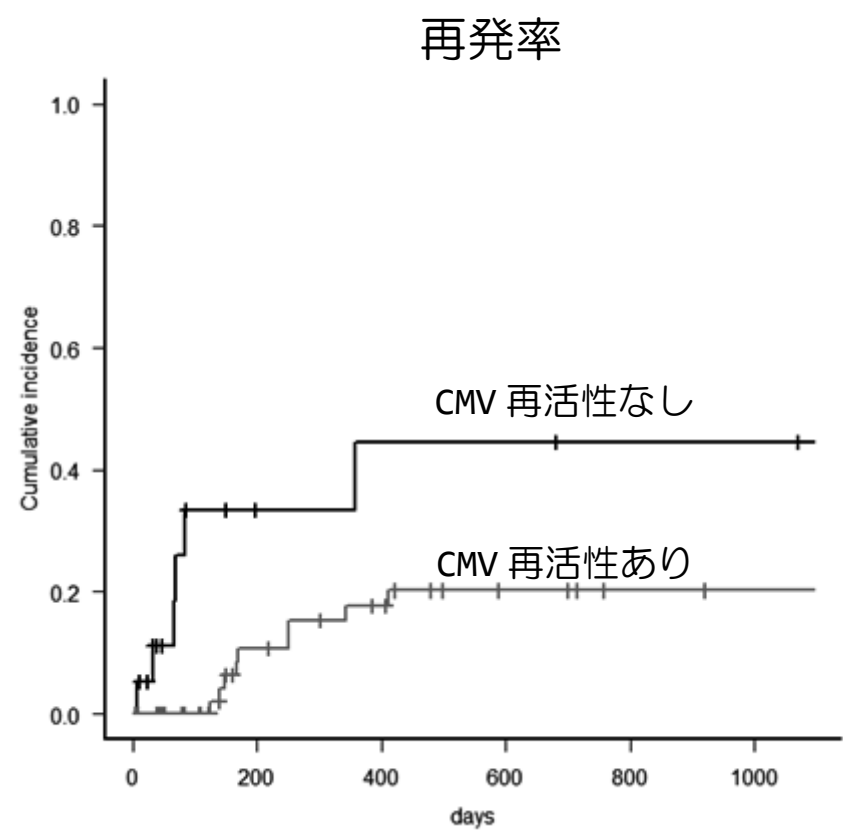
例年と同様に新臨床研修制度を充実させるため、骨髄標本読み会を通して、血液疾患に対する理解を深めている。特に骨髄標本読み会においては、大型モニターを利用し、同時に多くの先生とディスカッションできるように工夫をしている。血液悪性疾患の治療にはコメディカルの協力が不可欠である。このため血液疾患の特性、治療上の留意点など、さらに理解を深めてもらうため定期的に病棟カンファランスを開催している。病棟薬剤師、栄養士の方々も参加してもらった。血液悪性疾患についてのカンファランスを行った。

回診も強化し、週3回の回診と毎日朝の移植症例回診を充実させた。学会活動も積極的に行った。

研究面では、高齢者血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植の安全性確立に関して、継続して移植後合併症をいかに減少させるかに注力し、その成果を学会で発表した。

移植後の2大死因は、移植関連死亡と再発である。移植後再発予防のリスク解析を行い、CMV(サイトメガロウイルス)再活性化が再発率を下げる事が判明した(図1)。

図1 CMV 再活性化の有無による再発率



感染症内科

医長 小金丸 博

1 人員体制

〈医長〉小金丸博

〈非常勤医〉稲松孝思、吉田敦

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

外来業務として、感染症内科外来4単位を担当した。感染症内科外来では、肺炎、結核などの呼吸器疾患、梅毒などの性行為感染症、発熱疾患などの診療を行った。

肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の接種を行った。また、少数であるがB型肝炎ワクチン、破傷風トキソイドの接種を行った。R3年度はインフルエンザワクチンの供給不足のため、住民に対する接種は行わなかった。

■入院診療の実績

R3年度は入院患者を主治医として直接担当する業務は行わず、コンサルテーションを主体としたサポートを行った。COVID-19の流行により、担当患者のほとんどをCOVID-19が占めた。軽症～重症まで、すべてのCOVID-19入院患者の診療を他科医師とともにこなった。1年間で入院したCOVID-19患者は551名であった。重症患者の治療を主に呼吸器外科、心臓血管外科とともにこなった。人工呼吸器装着例は9例で、そのうち3例はECMO治療をおこなった。COVID-19死亡例は23例（うち剖検2例）だった。

■院内感染対策の取り組み

病院全体の院内感染対策を中心的立場で取り組み、特定感染症予防対策委員会の運営を担った。血液培養陽性例に対しては、原則全例診療録に所見を記載し、担当医の診療の一助となるように努めた。また、院内感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チームの一員として、週1回の血液培養陽性例、広域抗菌薬の長期投与例、コンサルト例に対して回診を行った。

COVID-19の診断、治療、院内感染対策に関して、中心的な立場で取り組んだ。検査科、研究所の協力を得て、十分なPCR検査が行える体制を整えた。連携医療機関および保健所からの診察依頼に対応するため救急外来に発熱外来を開設した。また、職員および一般の方を対象に新型コロナウイルスワクチンの接種を行うための体制を構築し実施した。

3 研修・教育活動

- (1) 第1回院内感染対策講演会 2021/9/9～9/30
- (2) 第2回院内感染対策講演会 2022/2/21～3/10
- (3) 初期研修医対象勉強会 抗菌薬の使い方（基礎知識編） 2021/6/2
- (4) 初期研修医対象勉強会 抗菌薬の使い方（実践編） 2021/6/16

精神科

部長 古田 光

1 人員体制

医師：〈部長〉古田光

〈常勤医員〉松井仁美、大森佑貴、大矢雅樹、堤広祐 〈シニアレジデント〉半田剛久

〈非常勤医員〉長谷川裕美、四手井友紀

臨床心理士：

〈常勤〉扇澤史子、岡本一枝、今村陽子 〈非常勤〉高岡陽子、青島希、植田那月、宮寺奈々子、足立亜矢

2020年4月常勤医師として大矢雅樹、堤広祐が入職し、古田光、松井仁美、大森佑貴とあわせ常勤医5名体制で年度がスタートした。大矢、堤は2022年3月末で退職した。シニアレジデントとして2021年4月～2022年3月半田剛久が研修を行った。非常勤医師として長谷川裕美が外来診療を継続、2022年3月で退職した。2021年4月から四手井友紀が外来診療を開始した。中出麻美、嶋崎亮介、沼賀由佳、糸数祐公子、帯刀健太、林卓矢、南研人、河本千明、植村哲也の計9名のジュニアレジデントが、豊島病院神経科の協力を得て精神科で研修を行った。2021年6月心理士の高岡陽子、青島希の2名が常勤となった。2021年6月末に宮寺奈々子が、9月末に足立亜矢が退職した。

2 診療活動・実績

〔1〕外来

2021年度の総初診患者数は再初診も含め当科台帳上計446名（男性162名、女性284名）、平均年齢77.9±11.2歳（22-101歳）、初診時主診断はICD-10分類F0（認知症・せん妄を含む器質性精神疾患）60.7%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）1.1%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）5.4%、F3（うつ病など気分障害）15.2%、F4（不安障害、適応障害などの神経症圏）9.2%、F5（不眠症や摂食障害等）4.0%、F6・F7・F8・F9（パーソナリティ障害や精神遅滞、発達障害）1.1%、Gコード（てんかんなどの神経系の疾患）2.0%であった。他病院からの紹介患者62.3%、院内紹介が17.7%であった。初診患者の居住地は板橋区59.9%、区西北部二次医療圏の患者で87.4%を占めた。コロナ禍は続いていたが、常勤医増で初診患者数は増加した。

〔2〕入院

定数30床（うち有料個室1床）＋定数外保護室2床の閉鎖病棟で、看護基準10：1の体制を継続した。精神科急性期医師配置加算の算定を継続した。2021年度の精神保健法上の入院患者数はのべ計244名（男性95名、女性149名）、平均年齢80.4±8.2歳（50-96歳）、退院時主診断のICD-10分類、F0：77.9%、F1：1.2%、F2：3.3%、F3：16.4%、F4：0.4%であった。ECTの施行件数は計275件であった。引き続きのコロナ禍の中新規入院患者は前年度と同様であった。

〔3〕コンサルテーションリエゾン

■入院中他科コンサルテーションリエゾン

2020年度精神科に診察依頼のあった他病棟入院中患者は計325名（男性165名、女性160名）、平均年齢は77.3±14.5歳（22-97歳）であった。64歳以下の非高齢者の割合は14.4%であった。精神科主診断内訳はF0が57.7%と半数以上を占めた。

■精神科リエゾンチーム

白取認知症看護認定看護師、精神科医師（大森医師が中心）、心理師、精神保健福祉士、薬剤師で構成する精神科リエゾンチームが週1回全病棟の回診と都度の臨時対応を継続した2020年度はのべ410名に介入を行った。また、COVID-19で入院した患者のせん妄リスク評価を継続した。COVID19に対する取り組みは職員提案で表彰された。

〔4〕緩和ケアチーム

松井医師が担当した。

3 研修・教育活動

各種学会で医師、コメディカルらが発表を行うとともに、各種講師をつとめた。東京都立板橋看護専門学校の精神看護学講義を松井医師が引き続き担当した。認知症支援推進センターの島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業に医師、臨床心理士が参加した。行動制限最小化委員会の勉強会を2回開催した。詳細は認知症疾患医療センターの報告書を参照のこと。

もの忘れ外来

精神科部長 古田 光

1 人員体制

もの忘れ外来では引き続き精神科・脳神経内科・研究所の協力態勢で診療を行った。精神科・脳神経内科の常勤・非常勤医師のほか、鳥羽理事長、研究所栗田主一医師、藤原佳典医師、井藤佳恵医師、岡村毅医師がもの忘れ外来で診療を継続した。

2 診療活動・実績

もの忘れ外来では区西北部二次保健医療圏患者の優先診療を継続した。初診患者（再初診含む）は833名、平均年齢81.2±7.4歳（40-96歳）であった。（男性274名、平均年齢79.6±8.7歳：女性559名、平均年齢82.0±6.6歳）。患者居住地域は板橋区60.0%、豊島区9.6%、北区10.6%、練馬区13.0%と区西北部4区在住の患者で93.2%を占めた。他医療機関からの紹介患者は82.4%、院内他科からの依頼は2.5%であった。初診時診断は、正常または健常4.8%、軽度認知障害（MCI）29.9%、アルツハイマー型認知症39.3%、血管性認知症4.4%、レビー小体型認知症9.6%、前頭側頭型認知症1.1%、その他の認知症9.0%、認知症以外の精神疾患1.0%、認知症以外の神経疾患0.2%であった。

引き続き認知症専門相談室でトリアージを行い、緊急性の高い患者は個別での対応を行った。コロナ禍の中でも引き続き、認知症初期集中支援チーム、認知症疾患医療センターアウトリーチ事業、板橋区おとしより専門相談事業と連携した受診調整を行った。東京都公安委員会からの依頼による臨時適正検査を継続した。

3 その他

2021年度も引き続き東京都認知症疾患医療センター運営事業の委託を受け活動した。コロナ禍の中で、研修、患者・家族サポートプログラムをオンラインで継続した。詳細は認知症疾患医療センターの項を参照のこと。

緩和ケア内科

部長 齊藤 英一

1 人員体制

常勤医 齊藤 英一

非常勤医 三戸部 聖子

心理士 小野 恵里香、大野 麻美 加藤 元美

音楽療法士 神藤 雅子、渡邊 えりか

園芸療法士 近藤 孫範

2 診療活動・実績

(1) 緩和ケア病棟入棟実績 (緩和ケア委員会資料より)

	令和3年度	令和2年度
入棟患者総数	272	296
内) 新入院	181	189
内) 院内転棟	91	107
退院患者総数	262	274
内) 生存退院	83	97
内) 死亡	179	177
転出患者数	12	24
延入院患者数	5,206	6,068
平均在院日数 (単純集計)	18.1	19.5
平均在院日数 (施設基準)	19	22
病床利用率	71.3%	83.1%

COVIDへの取り組みとして、センターとしては面会禁止化の状況で試行錯誤しながらも家族ケアのために適宜PCR検査を行い制限付きながら面会を許可とした。幸いに感染者を発生させずに病棟運営ができた。

(2) 緩和ケア病棟入院相談外来

入院相談はCOVIDによる面会制限のため減少した。しかし、入院相談外来は、がん相談支援センターと併せて必ずしも入院相談だけの働きだけではなく、今後の過ごし方や療養の場を相談する働きも強めている。さらに入院相談から緩和ケア外来への受診者も増加し、早期からの緩和ケア介入が可能となっている。

院内からの紹介や緩和ケアチームで介入している患者については臨時で相談を持つことで相談までの待ち時間や転棟までの待機日数も縮小した。

ア 緩和ケア病棟入院相談件数

	院内	院外
相談件数	150	450
内受診に至った件数	115	191
未受診	35	259

※未受診理由：患者死亡 概要説明のみ希望 状態悪化 他院へ入院 本人希望せず など

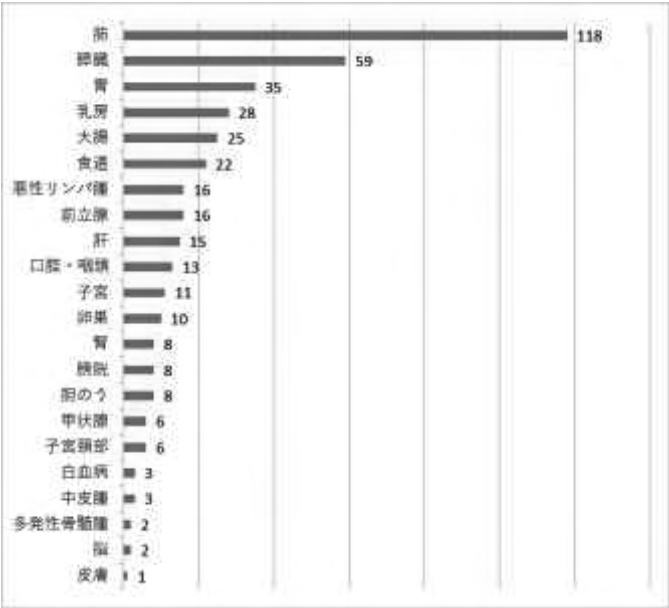
イ 平均待機日数

	院内	院外
申し込み～受診	8.2	9.9
受診～入院	3.8	

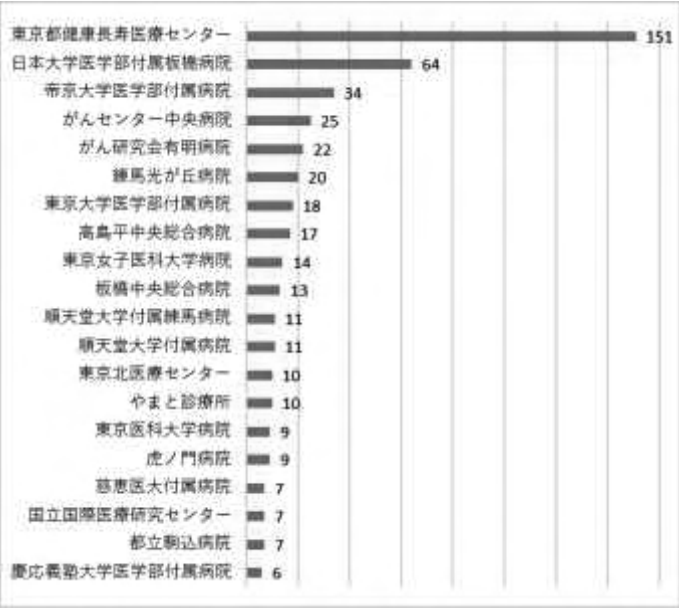
ウ 平均年齢

院内：81.2歳 院外：75.3歳

エ 疾患別相談件数



オ 紹介元医療機関（上位20位）



（3）緩和ケア内科外来

症状マネジメントと意思決定支援を中心に開いている。相談外来より、症状マネジメントが必要な患者が緩和ケア外来に受診したり、抗がん治療中の患者の支持療法や意思決定支援に受診する患者も少なくない。紹介元との連携も緩和ケア外来の大切な働きである。緩和ケア外来に通院している患者の緊急入院や臨時の外来もあった。また緩和ケアチームで介入した患者の退院後の主科受診に合わせて緩和ケア外来での併診も行っている。

3 緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、回診とカンファレンスを定期的に行き、患者家族、病棟看護師、医師、MSWと緩和ケアチームへの依頼を職種や部署を限定しないようにしている。緩和ケアチームは専任医を置き診療加算を取得している。また心不全をはじめ非がん症例が多いのも特徴である。

ア 緩和ケアチーム依頼件数

依頼総数	169
がん	129
非がん	40

ウ 依頼診療科



イ 依頼目的

第1依頼目的	件数
症状緩和	141
意思決定支援	0
療養環境調整	7
気持ちのつらさ	13
家族ケア	7
その他	1

外科総括

副院長・外科総括部長 時村 文秋

1 人員体制

令和3年度の外科系診療体制は、外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、リハビリテーション科の12科であった。また当然ながら手術を支える麻酔科、中央手術室と密接に連携をとって診療にあたった。

人事異動

本年度新たに赴任した外科系の常勤医は（以下敬称略）、令和3年4月久保田涼（麻酔科専門医長）、金子泰三（整形・脊椎外科医員）、吉田拓也（脳神経外科医員）、小山雄太郎（耳鼻咽喉科医員）、大和田啓暉、小松えり（麻酔科医員）、10月松倉満（血管外科専門部長）、乾明敏（心臓血管外科医長）、登裕哉（呼吸器外科医員）、永井雄高、中山雄太（整形・脊椎外科医員）、秋澤千尋（麻酔科医員）の各医師である。

退職された外科系常勤医師は令和3年9月安楽真樹（呼吸器外科部長）、伊達数馬（心臓血管外科医長）、石川由規（整形・脊椎外科医員）、小松絵里（麻酔科医員）、12月高橋正時（耳鼻咽喉科医長）、3月本田五奉（外科専門医長）、永井雄高（整形・脊椎外科医員）、森友里絵（耳鼻咽喉科医員）、大和田啓暉、秋澤千尋（麻酔科医員）であった。

また、令和3年4月に上野俊昭（脳神経外科部長）、早川謙太郎（整形・脊椎外科専門医長）、永田卓士（泌尿器科専門医長）、山本裕樹（眼科専門医長）が各々昇任した。

2 診療活動・実績

令和3年度は前年度に引き続きコロナ感染に対応した。外科系では、安楽部長を中心に呼吸器外科、心臓血管外科、麻酔科で重症チームを作成、エクモ治療を含む重症患者対応を行った。エクモ治療を行った患者4名（通算8名）中、残念ながら1名が死亡した。また、前年度からの連携検査外来におけるPCR検査の継続以外に令和3年6月からはコロナ感染増加に対応し、外科系診療科も入院担当に参加、中和抗体の点滴投与入院、センター職員および近隣医療機関医療従事者および患者のワクチン接種問診にも参加した。コロナ感染確定患者2名に対して、合計4回の手術を行った。またコロナ感染が否定できない患者の緊急手術にも各診療科、麻酔科、手術室、臨床工学室が協力し、陰圧室を利用する体制を確立し、対応した。

本年度の中央手術室利用件数はCovid-19感染の影響もあったが、4315件と昨年度（4199件）より126件増加した。

外科系診療科の利用内訳は、眼科（2086件）を筆頭に、外科（520件）、泌尿器科（314件）、整形外科（312件）、脳神経外科（162件）、心臓血管外科（146件）、脊椎外科（134件）、血管外科（98件）、呼吸器外科（53件）、耳鼻咽喉科（32件）、皮膚科（32件）、歯科口腔外科（8件）の順であった。

3 研修・教育活動

令和3年度は、新たに10名の初期研修医を受け入れた。当センターの初期研修プログラムでは内科研修が主体であるが、外科系各科での研修も行った。特に初期研修2年目の先生方はリハビリテーション科、外科、皮膚科、麻酔科、眼科、産婦人科（帝京）での研修を行った。

地域連携の一環として、毎年、地域連携ニュースに各診療科の案内を掲載している。外科系では令和3年12月外科中里部長が「肝胆膵外科専門外来」、脳神経外科高梨医長が「特発性生常圧水頭症」、令和4年3月に心臓血管外科河田部長が「ハートチーム、-TAVI最新のtopics-」を掲載した。

高齢者に対する専門病院としての地位を確固たるものとすべく、各職員が日々努力しているのはいままでのない。外科系各診療科では安全確実、適切な手術、診療を行うことにより、患者様へ満足できるサービスを提供したいものとする。そのために、新たな人材の育成、日々の診療を行いながらの新しい技術の習得・研鑽に努めていきたいと考えている。

外科

部長 金澤 伸郎

1 人員体制

〈部長〉金澤伸郎、中里徹矢

〈医長〉三井秀雄（救急診療部兼務）

〈専門医長〉本多五奉

〈外科専攻医〉深沢智將、大森春佑、磯野優花

人員体制としては、前年度末に吉田専門部長、飯塚医師が退職し、杏林大学から外科専攻医として大森春佑医師が着任された。また、帝京大学から磯野医師が1年間外科専攻医として派遣された。

2 診療活動・実績

外科外来は、月曜から金曜まで消化器外科を中心に一般外科、乳腺・内分泌外科など幅広く診療に当たっている。専門外来は金曜に肝胆膵外科専門外来、木曜に内視鏡下胃瘻造設に対応するためPEG専門外来、及びストマケア・スキンケア外来を行い、皮膚・排泄ケア認定看護師とともに人工肛門管理に加え、褥瘡の処置・指導を行っている。また、がん検診からの受け皿として便潜血外来を、腹腔鏡手術の増加に伴い腹腔鏡外科外来を週4日間開設している。術前検査センターも活用し、術前検査を外来で施行する頻度が高まり入院期間が短縮されている。DPCが導入されたこともあり、外来での検査が増加傾向にある。

外科単科で当直も含め、24時間、365日、2名でのon call 体制を取っており、緊急手術も含めた救急医療に対応している。しかし、10年以上主力として在籍していた2名の医師が退職したことは、手術において前立ちができる医師数の減少を意味しており、外来はもとより、手術の運用にもかなり苦労した。しかし、全員の努力の甲斐もあって、前年度と比較して、手術件数は減らすこと無く、かえって増やすことができた。また、若い医師が増えたことにより、科としても活発化した印象がある。

大腸癌の手術症例が増加しており、肝胆膵領域の疾患も安定して症例数が増えつつある。これは便潜血外来からの拾い上げや、肝胆膵領域が専門の中里医師の存在が周知されつつあることによると考える。

減少していた胃癌症例が増えつつあり、この流れを続けるには、今年はできなかった板橋区胃がん検診（内視鏡検査）への参加を、消化器内科・内視鏡科と協力して行い、新規患者の獲得に努める必要があると考える。

他科の外来・入院患者への検査、治療にも積極的に対応しており、依頼があれば、リンパ節生検やCV（ポートも含めた）挿入術などは、曜日にかかわらず迅速に対応している。毎週に行われる褥瘡回診、栄養療法のためのNST回診にも積極的に参加している。東京都がん診療連携協力病院としての対象となっている大腸がん、胃がんに関しては、東京都医療連携手帳の活用も行っている。

他科との連携も密に取っており、消化器内科・内視鏡科・病理診断科とのカンサーボード（消化器CPC）、緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師と共同で、がん患者に対するカウンセリングを行っている。

対外的には消化器癌に関するセカンドオピニオンを担当しており、がん相談支援センターの活動にも積極的に参加している。

3 研修・研究活動

外科カンファランスは毎週火曜、木曜に行い、画像診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。又、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。カンサーボード（消化器CPC）も病理診断科、消化器内科、内視鏡科と共同で定期的に開催している。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、日本外科学会による外科専門医修得や論文作成などにも力を入れている。また、腹腔鏡下手術の技術獲得を目的として、腹腔鏡手術手技研修会などへの参加を促し、手技向上を図っている。

院内活動では、病院研修の一環として、初期研修医に対する様々なシミュレーション研修（プラネックス研修）の指導を行っていたが、今年度もコロナ禍の影響で中止となった。

同様に、年度末に予定していた消化器フォーラム2021を開催する予定であったが、これもコロナ禍で中止となった。

金澤伸郎（ファシリテーター） P E A C E 研修会 2021年9月25日（土曜）

血管外科

専門部長 松倉 満

1 人員体制

〈血管外科部長兼任・心臓血管外科部長〉河田光弘(2021/4/1～)
 〈血管外科専門部長〉松倉 満(2021/10/1～)
 〈心臓血管外科医長〉伊達数馬(2021/4/1～9/30) 乾明敏(2021/10/1～)
 〈心臓血管外科医員〉村田知洋(2021/4/1～)
 〈血管外科非常勤医員〉高山利夫、露木翔太、名木田明幸、遠藤貴士、松原和英

2021年3月31日で血管外科を専門とするチームが退職したため、4月1日～心臓血管外科チームが血管外科診療(手術・外来診療・検査)を担当した。並行して新たな血管外科専門チームを形成するために、非常勤医として2021年4月1日から松倉満(東京大学病院血管外科)が非常勤医として外来診療を担当し始め、10月1からは常勤医師として血管外科専門部長に就任した。10月1日から心臓血管外科チームの協力体制は継続している。2022年4月1日から花田和正医師が東京大学病院血管外科から医員として赴任する予定である。

2 診療活動・実績

今年度は1名体制であり、心臓血管外科スタッフと共同して診療に従事した。東京大学 血管外科スタッフを招請して手術施行した他に、循環器内科と共同でエキシマレーザーによるEVTも施行した。

外来患者数は堅調に推移しており、新規紹介患者は月20名程度と増加傾向である。

来年度は200-250件の手術件数を見込んでいる。

- ・新入院患者数 75人 (令和元年度 320人)
- ・延入院患者数 718人 (令和元年度 2825人)

総手術実績 96 例

- ・腹部大動脈瘤 8例 (EVAR 5例、開腹Y字型人工血管置換術3例)
- ・腸骨動脈瘤 1例 (EVAR 1例)
- ・閉塞性動脈硬化症 24例 (EVT19例、TEA 1例、F-F+PTA 1例、F-P(BK) 1例、SFA-Pop(BK) 1例、DFA-TP 1例)
- ・下肢静脈瘤 18例
(ベナシール 6例、血管内焼灼術9例、高位結紮1例、ストリッピング術 2例)
- ・透析用ブラッドアクセス 32例
(内シャント造設 23例、シャントPTA 5例、シャントグラフト移植1例、動脈表在化 3例)
- ・その他 13例
(腹腔動脈瘤 1例、脾動脈瘤 1例、内腸骨動脈塞栓 1例、大腿切断 4例、足趾切断 5例、皮下腫瘍 1例)

3 研修・教育活動

血管外科カンファレンスは心臓血管外科スタッフと合同で適宜行った。

(文責：血管外科 専門部長 松倉 満)

心臓血管外科

部長 河田 光弘

1 人員体制

〈センター長〉許 俊鋭

〈部長〉河田光弘

〈血管外科専門部長〉松倉 満(2021/10/1～)

〈医長〉伊達数馬(～2021/9/30) 乾 明敏(2021/10/1～)

〈専門医長〉眞野暁子

〈医員〉村田知洋

〈顧問〉小野稔(東京大学心臓外科・教授)

〈非常勤〉竹谷剛(三井記念病院心臓血管外科・科長) 木下修(東京大学心臓外科・講師) 山本真由(帝京大学放射線科・講師) 近藤浩史(帝京大学放射線科・教授)

令和3年度は人事異動があり、9/30をもって医長の伊達数馬が千葉県 総合病院国保旭中央病院へ異動し、10/1からは埼玉医科大学総合医療センターより乾 明敏が医長として赴任した。

また、2021/4/1からは心臓血管外科チームが血管外科診療(手術、外来診療)を担当。非常勤医として4/1から松倉満(東京大学病院血管外科)が、血管外科外来診療を水曜日に担当し、10/1からは血管外科専門部長として当院に赴任したことにより血管外科診療が充実した。心臓血管外科・血管外科ともに協力し合い、5階東病棟を一般床として、術前管理、術後から退院までの診療を行い、特定集中治療室(CCU・ICU)にて術直後の集中治療を行っている。

2 診療活動・実績

令和3年度前半は、新型コロナウイルス感染症による国内外の医療体制逼迫状況が継続していたが、後半からようやく落ち着き始めて来た。ハートチームとして経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)正式認定施設を維持し、5月に河田がTAVI(TAVR)指導医認定(SAPIENシリーズ)を取得する事が出来た。8月からCoreValveシリーズ(EvolutPRO+)を再開する事が出来た。それに備えて、座学、手術室でのDry run、急変時の対応シュミレーションもしっかりハートチームで行った。Impella(補助循環用ポンプカテーテル・経皮的補助人工心臓)の施設基準を満たす事ができて、2022年に更新申請をする予定である。急性心不全、重症心不全増悪に対してIABP、VA-ECMO(PCPS)とともに病態に応じて、各MCSを有効に使用する事が出来てきた。

昨年同様に院内の施設基準等管理部会にて、定期的に施設基準を維持してゆくために、必要な条件を満たすための手術数、検査数を明らかにして、それを満たせるように努力している。

急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈支援病院として24時間体制でCOVID-19対策での緊急SARS-CoV-2PCR検査を行った上で、緊急手術も積極的に受け入れ続けた。しかしながら定時手術においては、COVID-19の影響もあり、減少傾向であった。MICS(低侵襲開心術)について準備を進め、3回他施設に見学に行った。その内1回は手術室看護師、MEと共にチームで見学に行き多職種での視点で準備を進めている。

外来診療は、紹介患者さん、術前患者さんの評価、指導を医師事務の協力を得て効率的に行っている。

3 研修・教育活動

術前カンファレンスは令和2年同様に心臓血管外科、麻酔科、臨床工学士(ME)、手術室、集中治療室、病棟看護師と共に水曜日午後に実施している。

症例検討については、ハートチーム(心臓血管外科・循環器内科・麻酔科・リハビリテーション科・手術室・集中治療室・病棟看護師・エコー技師・臨床工学士(ME)・放射線技師・輸血科)として水曜日午後に実施している。また、病棟カンファレンス、VADカンファレンスは金曜日に、それぞれ多職種で行い情報共有を行っている。

全症例をNational Clinical Database(NCD)へ登録している。NCDから算出されるJapan Scoreを用いて患者さん・ご家族への手術説明の際の危険度を具体的に提示する事で手術に対する理解を深めていただいている。

4 その他

高齢者に対する心臓大血管手術の現状、成績、問題点を定期的にまとめて学会発表・論文発表を行っている。国際学会はCOVID-19でweb開催となったASCVTS2022(30th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery)2022/3/24-27で発表を行った。

2021年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)に『急性大動脈解離での肺酸素化障害抑制に向けた水素ガス吸入療法の検討』で2021/4/1時点で採択され、院内の認定臨床研究審査委員会承認を得た(整理番号H20-03)『急性大動脈解離Stanford B型患者に起こる肺酸素化障害に対する水素ガス吸入の安全性試験』を開始した。また10施設での治験『冠動脈バイパス手術(CABG)を施行する虚血性心疾患に伴う重症心不全患者に対するヒト(同種)iPS細胞由来心筋球(HS-001)の第I/II相試験』を治験審査委員会承認を得て(整理番号T20-08)、適応患者さんを募集している。

脳神経外科

部長 上野俊昭

1 人員体制

令和3年度の脳神経外科は、上野俊昭脳神経外科部長（日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療専門医・指導医）、高梨成彦医長（日本脳神経外科学会専門医、脳血管内治療専門医）、東京大学脳神経外科医局から4月1日に赴任した吉田拓也医員の常勤医師3名で診療にあたった。2021年10月からは東京大学脳神経外科医局から専攻医として岳田安奈が派遣されて2022年1月まで在籍した。非常勤医として、西山恭平が毎週半日勤務3～4回と当直業務を担当しているほか、橋本秀子が正常圧水頭症外来（毎週火曜日）を担当しており、幸田俊一郎が脳卒中データベース管理や手術支援を担当している。

脳神経外科外来は、週日の一般外来において脳血管障害・頭部外傷・頭痛・水頭症・めまい・脳腫瘍等の診療を行っていることに加えて、毎週火曜日に正常圧水頭症外来を新設した。入院業務は、これまでの10階東病棟が新型コロナウイルスのホテル療養事業への看護師派遣に伴って閉鎖されているため、引き続き8階東病棟にて定床数は10-15床で運用している。2017年10月に開床された4階のSCU病床6床を脳神経内科とともに運営した。

毎週月、水、金曜日朝、勤務医師全員による回診と症例検討、金曜日午後3時からの脳卒中カンファレンス（神経内科、リハビリテーション科合同）に参加した。全身麻酔の手術前後と重要症例については、随時検討会を行った。定時の手術日は毎週火曜（開頭術・水頭症）、木曜午後（血管内治療）の2日で、必要時に応じてその他の週日に定時手術を追加し、随時の緊急手術を行った。脳卒中の救急入院はSCUで診療し、大手術後の患者は原則として特定集中治療室で術後管理を行った。

2 診療活動・実績

脳神経外科の外来診療は、外来患者数は昨年度より12.5%増加して3193人（1日13.2人）、初診料算定患者数も昨年度から22.7%増えて330人（1日1.4人）といずれも前年度を上回った。

脳神経外科の新入院患者数は269人であった。内訳は脳血管障害（未破裂脳動脈瘤も含む）133人（脳出血75、くも膜下出血8/脳動脈瘤31、脳梗塞19）、脳腫瘍13人、頭部外傷43人（外傷性頭蓋内出血12、慢性硬膜下血腫29）、水頭症17人、その他94人であった。

脳血管障害が全体の49%、頭部外傷が16%、水頭症6%を占めた。前年と比べて、新型コロナウイルスの影響により入院数は減少したが、内訳の割合は同傾向だった。

中央手術室における手術件数は総数122件で、ハイブリッド室で実施した低侵襲の血管内手術が57件（脳動脈瘤等のコイル塞栓術27件、頸動脈ステント留置術13件、経皮的脳血栓回収術8件、その他9件）と全手術の47%を占めた。その他の手術は、髄液シャント術16件と、慢性硬膜下血腫の穿頭術37件、が主となり、脳腫瘍の摘出術5件、開頭血腫除去術2件が続いた。

脳卒中ホットラインを運用して、24時間の脳卒中救急患者受入れ態勢を強化した。東京都脳卒中救急搬送体制によるtPA患者の受入れに協力し、必要に応じて急性期再開通療法を行った。

3 研修・教育活動

上野俊昭が板橋看護学校の脳神経外科の講義（年3回）を担当した。金曜日午後に抄読会を開催した。

日本脳神経外科学会により2015年開始されたJNR（Japan Neurosurgery Registry. National Clinical Database）を利用した手術症例の登録事業）から2018年1月に発展的に移行した、施設ごとの脳神経外科全入院症例登録：JND（Japan Neurosurgical Database）に、274症例を登録した。

2019年1月から参画している日本脳卒中データバンク事業（施設ごとの脳卒中入院全症例登録）に、345症例を登録した。

東京大学脳神経外科の専門研修プログラムに研修施設として参加した。帝京大学脳神経外科の専門研修プログラムに連携施設として参加した。

（文責：部長 上野俊昭）

呼吸器外科

部長 河田 光弘

1 人員体制

- 〈部長〉安樂真樹（R1.7～R3.9）河田光弘（R3.10～）
- 〈医員〉吉岡孝房（R1.10～）登祐哉（R3.10～）
- 〈顧問〉中島淳（東京大学呼吸器外科）
- 〈非常勤〉安樂真樹（R3.10～）（杏林大学呼吸器外科）

2 診療活動・実績

2021年9月に安樂真樹が異動し、10月より河田光弘が心臓血管外科と呼吸器外科の部長を兼任している。同年10月より登祐哉が赴任し、吉岡孝房と常勤医3名体制で診療を行っている。

主な対象疾患は、胸部良悪性腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など）、続発性気胸、膿胸、感染性肺疾患等である。2020年4月より新型コロナ肺炎患者の受け入れをECMOチームとして行っており、計19例のECMO症例を含む重症例の治療に携わってきた。

（1）外来・入院

月曜午後、水曜午後、金曜午後が外来日である。毎週月曜午前には呼吸器内科と共同で呼吸器腫瘍外来を開設した。また検診異常陰影を指摘された症例の受け入れとして肺がん検診外来も行っている。

外来患者数

	R3	R2	対前年	対前年比
1日平均外来患者数	6.3	7.7	-1.4	81.8%
初診患者数	54	74	-20	73.0%

入院患者数

	R3	R2	対前年	対前年比
新規入院患者数	57	75	-18	76.0%
平均在院日数	14.4	12.8	+1.6	113%

（2）手術

毎週火曜日が手術日である。
令和3年度の手術総数は57(前年度68)件で、対前年度で11件減少(83.8%)であった。疾患内訳(下記)では肺癌が最も多く、全体の6割を占める。全体の約8割(75.4%)、肺癌症例の75.7%に胸腔鏡下手術による低侵襲手術が施行された。

術後診断	R3	R2	疾患割合(%)
肺癌	37	42	64.9
気胸	3	4	5.3
胸腺腫瘍	2	1	3.5
膿胸	2	5	3.5
転移性肺腫瘍	2	1	3.5
その他	11	15	19.3

3 研修・教育活動

呼吸器内科、放射線治療科、病理部との合同カンファレンスを毎週金曜日に行い、手術・化学療法・放射線治療、緩和医療などの適応・方針について検討を行っている。当科ローテートを希望する研修医には手術、論文等の指導を行っている。

4 その他

- ・National Clinical Database (NCD)登録
- ・呼吸器外科専門研修連携施設登録（日本呼吸器外科学会）

整形外科・脊椎外科

部長 宮崎 剛・専門部長 早川 謙太郎

1 人員体制

令和3年度の整形・脊椎外科は、時村文秋（副院長）、宮崎剛、濱路博、早川謙太郎、金子雅子、中村伸哉、石川由規、長谷部奨の8名と、4月1日より金子泰三を迎え、合計9名でのスタートとなった。4月1日より早川医長が専門部長に昇進した。10月1日より、石川・長谷部の後任として永井雄高・中山雄太が赴任した。9名は、外来・病棟・手術・勉強会などすべて協力して活動した。非常勤医としては例年通り、石橋英明（ロコモ外来含む）・穴水依人が外来および手術指導を担当した。

2 診療活動・実績

新病院移転後9年目となり、脊椎外科のホームページもリニューアルした。新任医師の赴任に際しても大きな混乱はなかった。コロナ禍に際し、予定入院、医療連携経由の手術目的の転院、緊急入院もその社会情勢に応じた増減があった。

整形・脊椎外科外来は処置室以外に4ブースの割り当てがあり、合計5部屋で診療を行った。外来は月曜から金曜日まで水曜日を除き、再診2列、初診1列、処置1列の計4ブースないし5ブースで診察を行った。ブロック等の処置患者で混雑し、ブースが不足した際は処置室をさらにカーテンで区切って使用した。内科のブースを使用させていただくこともあった。処置内容は例年通り、関節内注射・仙骨硬膜外ブロックが主で、ギプス巻きも時に行った。専門外来としては脊椎外来（早川、石川、永井）、人工関節外来（宮崎、濱路、金子（泰）、中村）、股関節外来（濱路）、ロコモ外来（石橋）、骨粗鬆症外来（時村、金子（雅））を行った。

令和3年度延外来患者数は13,737名（前年12,681名）、初診外来患者数は1,040名（前年935名）、1日平均外来患者数は56.8名（前年52.2名）で、前年度より増加した。

病棟は、コロナ禍に際し、病棟再編が重なり、6東病棟30～36床と6西病棟10～16床と変動した。

入院患者は例年通り、変形性膝関節症、変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、手根管症候群などが主体であった。延入院患者数は13,511名（前年12,579名）、新規入院患者数は521名（前年474名）といずれも前年より増加した。平均在院日数は、24.3日（前年25.6日）であった。

手術は合計448件（前年473件）であり、コロナ禍にて減少となった。内訳は大腿骨頸部骨折関連74件（人工骨頭置換術30件、観血的整復内固定術44件）、人工膝関節置換術77件、人工股関節置換術65件、脊椎関連手術132件（頸椎手術34件、胸椎手術9件、腰椎手術74件、椎体形成術15件など）、手外科関連手術72件（手根管開放術27件）等であった。人工関節手術件数の推移は以下の通り[82件(H26)→106件(H27)→143件(H28)→148件(H29)→150件(H30)→170件(R1)→124件(R2)→142件(R3)]。

3 研修・教育活動

例年通り、月曜夕方の術前カンファレンス、抄読会、水曜朝および夕方のレントゲンカンファレンス、病棟カンファレンス、外来カンファレンス以外に、有志で火曜朝に自主勉強会を行った。

研究に関しては、東大整形外科関連施設で行う、清潔整形外科手術部位感染に関する臨床研究に参加し、現在も解析中である。平成26年度以来、現在もトランスレーショナルリサーチ：骨代謝イメージングNaF-PET研究を継続し、症例数を伸ばしている。学会発表は、時村、宮崎、中山が行った。論文は、時村、宮崎、金子（泰）、安江、長谷部が作成した。臨床研究、論文作成、学会発表は次年度も積極的に行う予定である。

4 その他

特になし

皮膚科

部長 種井 良二

1 人員体制

〈部長〉種井良二

〈医員〉宮澤理恵子

〈専攻医〉河邊 護

以上3名で当センターの皮膚科外来受診患者や入院患者の診療、他科入院患者の診察・往診、研修医の指導などの業務に従事した。

2 診療活動・実績

当院の皮膚科受診患者は湿疹や皮膚掻痒症、蕁麻疹や痒疹、皮膚真菌症、带状疱疹や単純性疱疹、丹毒・蜂巣炎、薬疹・中毒疹、皮膚壊疽・血行障害・褥瘡、熱傷、皮膚良性・悪性腫瘍、疥癬、膠原病・血管炎、角化異常症、爪の疾患、皮膚の加齢徴候、アレルギー性皮膚炎が主な対象疾患である。令和3年度の皮膚科外来延患者数は7,497人で、新規入院患者数は74人、病床利用率83.6%、DPCⅡ超率45.1%、平均在院日数15.1日、中央手術室でのOpe件数は32件であった。例年通り連携病院、高齢者保健施設、他科入院中の患者の診療や生検依頼が非常に多く、専門医による視診やダーモスコピーあるいは皮膚生検により、診断を確定（種井は皮膚病理報告書を病理専門医と共同作成）し、内服・外用・光線療法や手術による治療でこれに対応した。

主な入院対象疾患は带状疱疹や丹毒・蜂巣炎の点滴治療、皮膚癌・癌前駆症や皮膚良性腫瘍の手術、類天疱瘡のステロイド全身投与治療、熱傷・褥瘡の治療、皮膚壊疽・血行障害の精査と治療、薬疹・中毒疹や重症湿疹・痒疹などの原因検索や治療であり、例年通り带状疱疹や類天疱瘡あるいは褥瘡などの疾患では病診連携や救急依頼での入院症例が多くみられた。また、毎週水曜日に執り行なわれている褥瘡ラウンドでは宮澤医師が中心メンバーとして参加して、各科入院中患者の褥瘡の評価・治療に尽力した。さらに種井は新型コロナワクチン問診係に参画した。兎に角、コロナパンデミックによって皮膚科の通常業務や診療が大きく影響を受けた1年であった。

令和4年度より河邊 護先生に代わり山村稔朗先生が皮膚科専攻医としてスタッフに加わっている。

3 研修・教育活動

皮膚科の短期研修を希望する初期研修医（林 卓矢先生、中山麻美先生、糸数祐公子先生、南 研人先生、嶋崎亮介先生、帯刀健太先生）に皮膚科診療の基本的な取り組みかた（発疹の診方、各種検査や治療の方法）・手技（皮膚生検や皮膚外科）などについて河邊・宮澤・種井が指導医となり研修指導を実施した。

院内・院外の研修・教育活動として種井がお昼のクルーズで「知っておきたい高齢者の皮膚疾患」の講義を行った。

泌尿器科

部長 粕谷 豊

1 人員体制

〈部長〉粕谷豊

〈常勤〉永田卓士、安部芳紀、菊池あき（後期研修）

泌尿器科は粕谷部長および永田医員、安部芳紀、菊池あきの4名で腎臓癌、尿路上皮癌、前立腺癌、前立腺肥大症、尿路結石、排尿障害の診療にあった。

令和3年度の人事面では、沼畑医師と交代で4月より安部医師がN T T 東日本関東病院から着任し、また菊池医師院内研修を終了し後期研修医として4人体制で泌尿器科疾患の診断・治療を行った。

2 診療活動・実績

（1）外来

現在、外来を2列で診療に当たっているが、外来延べ患者数13251名で、125名増加、新規患者数は360名で2名の減少し紹介患者数は447名で30名減少したが外来収入は一昨年の750万から外来化学療法の導入で大幅増の6375万であった。

（2）入院

手術件数は314件で7.5%ほど増加した、腎・腎尿管悪性腫瘍手術が11症例（小切開）で6例増加した。前立腺癌の腹腔鏡下小切開根治的前立腺拡大全摘術が6例であった。膀胱癌症例では可能な限りPDDを使用したTUR-B tを行った。経尿道的手術は97例であった、平均在院日数は8.7であった、また病床稼働率は71.0%と改善し単価も57506から66335に増加し、収入額は昨年に比し1089万増加した。

3 研修・教育活動

（1）臨床手技の完全解説2021～22年度版 粕谷豊

（2）今日の治療指針 2021 年度版 粕谷豊

眼科

部長 沼賀 二郎

1 人員体制

- 〈部長〉沼賀二郎
- 〈医長〉池上靖子
- 〈専門医長〉寺田裕紀子、山本裕樹
- 〈常勤〉福田祥子、高尾博子
- 〈係長〉植沙織（ORT）
- 〈常勤〉佐野友弘（ORT）
- 〈非常勤医師〉新家眞、太田良枝、本庄恵、青木彩、坂田礼、外山琢、小関信之
- 〈専攻医〉野田拓也、岡野夏海、中川美和子、松浦智之、寺島まり絵

2 診療活動・実績

〔1〕外来

	R2	R3	対前年	対前年比
延外来患者数	14289	16300	2011	114.0%
初診外来者数	876	1162	286	132.6%
1日平均外来患者数	58.8	67.4	8.6	114.6%

〔2〕外来手術件数（レーザー治療）

	R2	R3	対前年	対前年比
マルチカラー	128	170	42	132.8%
ヤグ	117	94	-23	80.3%

〔3〕入院

	R2	R3	対前年	対前年比
延入院患者数	3714	4184	470	112.7%
新規入院患者数	1886	2081	195	110.3%
病床利用率	68.7	69.5	0.8	101.2%
1日平均入院患者数	10.2	11.5	1.3	112.7%

〔4〕入院手術件数（中央手術室）

	R2	R3	対前年	対前年比
白内障関連	1332	1438	105	108.0%
硝子体関連	87	102	15	117.2%
緑内障関連	39	75	36	192.3%
外眼部関連	63	60	-2	95.2%
硝子体注射	397	394	-3	99.2%

3 研修・教育活動

スタッフは時間があるかぎり東大病院、眼科専門外来（糖尿病網膜症）に参加し、研修を行った。

耳鼻咽喉科

医長 高橋 正時

1 人員体制

〈医長〉高橋正時

〈医員〉森友里絵、小山雄太郎

〈非常勤医師〉岸本誠司、川島慶之、鈴木康弘

耳鼻咽喉科の診療体制は、常勤医師3名（2022年1月より2名）で診療にあたった。その他、外来担当非常勤医2名、手術指導担当非常勤医2名で構成された。病棟は7階西病棟の2床を運用した。主に中耳炎・副鼻腔炎の手術パス入院症例と顔面神経麻痺・突発性難聴パス入院症例が多かった。また、低侵襲手術の導入により入院日数の大幅な削減を継続しており、今後手術症例の増加に努める予定である。

2 診療活動・実績

（1）外来

外来診療実績は、新型コロナウイルス感染症の影響が持続し、延べ外来患者数、初診外来患者数ともに少ない状況が継続した。全国的に耳鼻咽喉科の受診者は減少しており、特に高齢者専門病院である当センターは高齢者の受診控えの影響が大きく出ているものと考えられる。しかし、紹介患者や初診外来患者は徐々に増加傾向にあり、今後新型コロナウイルス感染症に対する制限緩和に伴い、徐々に増加してくることが望まれる。

（2）入院

入院患者数は、昨年度とほぼ同様であった。新型コロナウイルス感染症の影響で予定手術を延期し、入院患者が減少する状況は昨年度と大きな変化はなかった。外来診療実績と連動し、入院患者数が徐々に増加してくることが望まれる。

3 研修・教育活動

毎週月曜日、水曜日、金曜日の外来終了後に紹介患者の症例検討会を行い、臨床技術の向上、症例のブラッシュアップを行っている。また、臨床研究のデータ蓄積のためのカンファレンスも同時に行っており、専門外来の補聴器外来カンファレンスも行い、質の高い診療を目指している。

今後、専門外来の種類を増やし、より専門性を重視した診療ができる体制作りを行っていく。

4 その他

超高齢社会の到来により、今後増加すると思われる加齢性難聴、高齢者平衡障害に対するアプローチとして、補聴器外来の充実、難聴・平衡障害の他覚的精密検査枠の充実を目指してきた。その成果により、昨年度と同様の外来聴覚検査枠、ABR検査枠、平衡機能検査枠、補聴器適合検査を維持することができた。今後も質の高い聴平衡診療を実現させ、超高齢者のQOLを向上させることを目標に診療を行っていく予定である。

また新型コロナウイルス感染症のため施行しにくかった嚥下機能評価についても、今後少しずつ以前の水準に戻していきたいと考えている。短期入院手術や、日帰り手術なども積極的に行っていく。

歯科口腔外科

部長 平野 浩彦

1 人員体制

- 〈歯科口腔外科部長〉 平野浩彦
- 〈歯科口腔外科医長〉 斉藤美香
- 〈常勤〉 森美由紀
- 〈非常勤〉 大鶴洋、高野智史
- 〈初期研修医〉 河合 絢、清水 梓
- 〈歯科衛生士〉 常 勤：五十嵐麻奈三、宮本敦子
非常勤：高橋恵子（令和3年9月末退職）、市川果歩、宮島沙紀

2 診療活動・実績

- （１）運営方針以下を目標とした。
- ① 医療連携を強化する
地域歯科医師会の口腔保健センターなどを通じ、施設入所患者、在宅療養患者などの要介護高齢者の歯科治療の受け入れを実施した。特に認知症患者の受け入れを積極的に行った。
骨吸収抑制薬（BPまたはデノスマブ）関連顎骨壊死患者および骨吸収抑制薬服用患者の紹介が増加した。
抗血栓療法実施患者の抜歯など観血的処置も積極的に実施した。
また、地域歯科医院への逆紹介も積極的に実施し円滑な初診患者受け入れの体制を整備した。
- ② 口腔衛生・機能管理支援の充実
手術（がん、心臓血管、人工股関節置換など）、化学療法対象患者への対応を各該当科と連携しきめ細かく行い、周術期口腔管理を実施した。また病棟への歯科衛生士派遣を積極的に行い、患者負担の軽減を図った。これまでの周術期口腔管理に実施状況データをまとめ課題の抽出を行い対応の検討を適宜行った。
入院療養に際して生じる口腔衛生・機能低下への対応を、他科（高齢診療科なそ）と連携し病棟ラウンドなどを通し積極的に実施した。
- ③ 保険外診療の導入
患者ニーズの多様化に対応するため、歯科補綴治療（義歯、歯冠補綴など）を中心に保険外診療を導入した。
導入に際しては地域歯科医師会などとの調整を行った。

（２）患者数：令和２年度の各患者数を表に示す。

	外来患者数		前年度比
	令和２年度	令和３年度	
初診	2,245	2,404	(7.1%増)
再診	8,125	8,135	(1.2%増)

	周術期管理患者数		前年度比
	令和２年度	令和３年度	
初診	665	557	(16.2%減)

3 研修・教育活動

- （１）臨床研修
ア 河合 絢、清水 梓が臨床研修を行った。
イ 臨床研修歯科医第24期生として7名の応募があり、大沢 啓、が選考された。
- （２）院内研修
・もの忘れ外来家族交流会、オレンジの会などに講師を派遣し、患者および家族への口腔衛生の具体的な手法、摂食嚥下機能低下への対応法などの啓発を実施している。
・高齢者看護エキスパート研修会、栄養士研修会など院内各職域研修へ講師を派遣し、口腔衛生および機能管理の視点および手法についての実習なども含めた研修を行っている。

4 その他

今後の課題と展望

- ア 自己収支比率の改善を図る。
- イ 周術期口腔管理を充実する。
- ウ 臨床研修を充実する。
- エ 歯科衛生士の育成を図る。

救急診療部

部長 坪光 雄介

1 人員体制

坪光雄介（循環器内科専門部長）
 加藤貴行（リハビリテーション科専門部長）
 田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科先生専門部長）
 仁科裕史（神経内科専門部長，脳卒中A担当部長）
 三井秀雄（外科医長）

「断らない救急医療」の徹底を重要課題とし、救急診療部を 2012 年 1 月に新設、救急診療部の核となる医師（各科の主力メンバー）を配置している。日中の救急外来診療には、当番医（指導医 1 名、初期・後期研修医 2 ～ 3 名）に加えて、毎日（水曜日除く）帝京大学医学部附属病院救命救急センターより非常勤医師を派遣して頂いている。初期研修医 1 年目を初期研修医 2 年目が指導、初期研修医 2 年目を後期研修医 3 年目が指導、後期研修医を指導医が指導するいわゆる「屋根瓦方式」にて研修・実践をしている。

2 診療活動・実績

当センターは救急告示医療機関であり、東京都の二次救急医療機関に指定されている。休日・全夜間問わず積極的な救急の受け入れを行っている。加えて区西北部保険医療圏内における東京ルール事案（受入困難症例）の受け入れ、または受け入れ調整を行う「地域救急医療センター」としての役割も担っている。今年度は、昨年度（105 例）を大幅に上回る過去最高の東京ルール事案受入件数を記録（193 例）した。受入率 27.7%。

新型コロナウイルス感染拡大（2020 年 1 月）に伴い、昨年度は救急患者受入・救急車受入台数ともに減少傾向にあったが、今年度は救急患者受入総数 9,591 人（前年比+20.7%）、救急車受入総数 4,330 台（前年比+22.2%）増加に転じた。お断り率は、29.9%（前年比-6.7%）であった。お断り率は、10%未満が目標であるが、発熱患者対応ベットとして陰圧個室③室、オープンスペース⑦室が対応ベットとなるが、発熱対応ベットが使用している場合は、発熱を有する救急患者をお断りとなってしまう。ハード面でお断りするケースが多くなっており課題事項となっている。

3 研修・教育活動

「朝カンファランス」

毎朝 8 時 15 分から、初期研修医が当直して診療に携わった症例（2 症例）について、主訴、バイタルサイン、血液検査、画像所見などをもとに何を鑑別診断として挙げ、暫定診断に至った経緯をプレゼンテーションしている。指導医は指導・教育を行っている。また、当直研修医が直接に診察していない専門当直の診察した科（循環器内科・脳神経内科・外科症例）においても、指導医を通して症例の解説を加えている。

「テルモメディカルプラネックス研修」

今年度も新型コロナウイルス影響で、6 月末に予定していたテルモプラネックス研修は昨年引き続き中止となった。

内容：

- ① 縫合（手洗い・ガウンテクニック・豚皮を用いた縫合術：消毒、局麻、縫合、結節縫合、埋没縫合）
- ② 簡易気管切開（豚気管を用いたミニトラック：トラヘルパー挿入術の実践、および気管切開）
- ③ 気管内挿管（模擬人形）麻酔科医指導

- ④ シムマン（模擬人形）を用いたシミュレーション：（3 パターン：症候性てんかん，アナフィラキシーショック，急性冠症候群）
- ⑤ 超音波ガイド下、内頸静脈より中心静脈カテーテル挿入（シュミレーター（模擬人形）使用）

＊年度別，救急患者受入総数，救急車受入総数，お断り率（端末 off 除外）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
救急患者受入総数（名）	9,312	8,911	8,792	7,948	9,591
救急車受入台総数（台）	4,497	4,257	4,138	3,544	4,330
救急患者お断り率（%）	9.5	13.1	15.0	31.9	29.9

麻酔科

部長 小松 郷子

1 人員体制

【常勤】

〈部長〉小松郷子
〈専門部長〉内田博
〈医長〉縄田瑞木
〈専門医長〉久保田涼
〈医員〉廣瀬佳代、大和田啓暉、小松えり（4-9月）、秋澤千尋（10-3月）

【非常勤】脊山雅子（週3日）、相川和之、碓井久子、露寄仁志、芳野泰史、永谷雅子、五十嵐健史

令和3年度は専門医長として久保田涼医師が採用となった。医員では廣瀬佳代医師が引き続き勤務、東京大学麻酔科から田所賢人医師に代わり大和田啓暉が、また杏林大学麻酔科から小松えり医師（4-9月）、秋澤千尋医師（10-3月）が半年交代でローテーションし、常勤医7名体制となった。

非常勤には、外来診察と説明同意取得を毎週火曜日に相川和之医師に、一般手術麻酔を脊山雅子医師（週3日）、五十嵐健史医師、碓井久子医師に担当いただいた。また、心臓麻酔指導を露寄仁志医師（毎月曜）、芳野泰史医師（毎水曜）永谷雅子医師（毎木曜）にお願いした。

2 診療活動・実績

（1）麻酔科管理症例数

令和3年度麻酔科管理症例数は1580件で、COVID-19の影響で減少した令和2年度より回復傾向となった【表1】。
（JSA PIMSからのデータを表示）

表1. 麻酔科管理症例数

H30	R1	R2	R3	対前年
1,566	1,662	1,515	1,580	+65

（2）術前評価および麻酔科診察/IC

術前検査センターからのコンサルト（カルテ診察・外来診察）および術前検査センターでの麻酔科診察/説明同意取得は770件と、2年連続+168件であった【表2】。

表2. 術前評価および麻酔科診察/説明同意取得

H29	H30	R1	R2	R3	対前年
391	460	434	602	770	+168

（3）他科からの麻酔科コンサルト依頼

パスのない疾患や内科系入院中患者の手術、準緊急手術患者は高リスクの頻度も高い。より安全な周術期管理のために麻酔科術前耐術能評価コンサルトを令和2年度より本格的に始めたが、次第に各科に浸透し件数は437件と増加した【表3】。

表3. 他科からの麻酔科コンサルト依頼

R1	R2	R3	対前年
129	250	437	+187

（4）ペインクリニック外来

経営戦略上ペインクリニック外来は休診となった。状況の好転後、院内の需要に応じて常勤医による再開を目指している。

3 研修・教育活動

- (1) 本年度麻酔科を回った初期研修医は、沼賀由佳、中出麻美、河本千明、嶋崎亮介、南研人、國部亜希、村瀬開、小森雄太、千葉えみり、倉島葵の各医師である。
- (2) 東京大学医学部6年生（一部5年生）1-2名に対して数か月間毎週木曜日に当センター手術室にて実施されていた臨床実習は、COVID-19の影響で昨年同様中止となった
- (3) 院内研修として当センター看護師対象に静脈注射講習を行った。
- (4) 院外では板橋看護専門学校において看護学生2年生に対して、手術麻酔に関する講義を7回にわたって行った。

4 その他

- (1) 基幹施設としての東京都健康長寿医療センター麻酔科専門研修プログラムは、2022 年開始のプログラムを策定し認可された。また東京大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラムのA連携施設として前年同様に専門研修医を 1 名受け入れた。杏林大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラムのB連携施設として前年度から専門研修医を受け入れているが、今年度は半年交代でのべ2名受け入れた。
- (2) 医療収入増加の一つとして、精神科電気痙攣療法におけるマスクまたは気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔を行った場合の 900 点を所定点数に加算できるように部門システム（ORSYS）を修正した。

中央手術室

副院長・外科総括部長 時村 文秋

1 人員体制

中央手術室の日々の運営は、小松部長、内田専門部長を中心に、麻酔科と手術室看護師により行われた。

手術は一般手術室 9 室＋ハイブリッド手術室の全 10 室を利用している。電子カルテシステム、手術室管理システム、映像管理システムなどのシステムが導入されているが、日常の手術室管理においては、看護師が非常に大きな役割を担っている。看護師は宇野看護師長を中心に日々の業務を担当した。手術材料については、日中は、SPD がその大半を管理し、手術用物品の効率的運用と看護師の管理業務の負担軽減が計られている。また手術用医療機器の維持管理に関しては、臨床工学士が担当している。

2 診療活動・実績

令和 3 年度も Covid-19 感染の影響が続いていたが、令和 3 年度の中央手術室の利用件数は 4315 件と令和 2 年度から 126 件増加した（表）。血管外科は赤木医長退職の影響があり、年度前半は利用件数が大幅に減少したが、10 月に松倉部長が常勤となり再び増加傾向となっている。眼科（192 件）外科（83 件）、心臓血管外科（41 件）、脳神経外科（27 件）、泌尿器科（22 件）、循環器内科（19 件）、整形外科（11 件）の順に手術室利用件数が増加した。年間の救急手術件数は 194 件と昨年（215 件）に比べ 19 件減少した。

コロナ感染が持続している中で、感染確定患者 2 名に対して、合計 4 回の手術を行った。またコロナ感染が否定できない患者の緊急手術にも各診療科、麻酔科、手術室、臨床工学室が協力し、陰圧室を利用する体制を確立し、対応した。

令和 3 年度の手術室運営部会は、メールでの会議のみであった。

手術室の円滑な運用開始のため、麻酔科及び各診療科、手術室看護師、コメディカル、事務方等多くの部門に協力をいただいている。今後さらに各科、各部門の協力を得て、手術室の安全と効率的運用を目指していく予定である。

表. 科別手術室利用件数

(単位：件)		
区 分	令和2年度	令和3年度
外科	437	520
血管外科	351	98
脳神経外科	135	162
整形外科	300	312
脊椎外科	133	134
泌尿器科	292	314
眼科	1894	2086
耳鼻咽喉科	36	32
精神科	281	275
麻酔科	6	0
循環器内科	94	113
皮膚科	32	32
心臓外科	106	146
呼吸器外科	70	53
歯科口腔外科	10	8
消化器内科	1	0
神経内科	13	11
血液内科	5	5
腎臓内科	0	8
リハビリ	0	0
合計	4,199	4,315

特定集中治療室

副院長・外科総括部長 時村文秋

特定集中治療室（特治）は平成30年度10月より8床で運用されており、CCU（冠動脈疾患ユニット）、ICU（集中治療ユニット、脳卒中以外の脳外科、神経内科の患者を含む）、RCU（呼吸器疾患ユニット）が共用で重症患者を受け入れ、その治療を行った。急性期脳卒中患者に対しては、脳卒中ケアユニット（SCU）6床を独立させて治療にあたった。令和3年度も、covid-19感染患者の中で重症例に対して、集中治療室の陰圧個室を利用し、呼吸器外科、心臓外科を中心に、看護、臨床工学科が重症チームとして対応した。東京都のCovid-19感染対策としての看護師のホテル派遣に伴い、令和4年2月後半から3月末までICUを6床として運用した。

また例年通り、混雑時には状態の安定した患者さんは早期に一般病棟に戻れるように、また満床時にさらに重症の患者さんが生じた場合には、主治医と相談のうえで状態が安定している患者さんを病棟へ移動するなど、各病棟の協力を得て、積極的に重症患者の受け入れに努めている。

1 人員体制

特定集中治療室の運営は、藤本循環器内科担当部長が室長を務め（CCU担当）、金澤外科部長（ICU担当）、上野脳神経外科部長（SCU担当）、金丸脳卒中科部長（SCU担当）、山本呼吸器内科部長（RCU担当）が副室長として、お互いに協力して行われている。

入室患者さんは担当科の主治医が受け持ち医となり、病態により副室長ないし他科専門医の協力を得ながら重症患者の治療にあたっている。看護体制は2:1看護であり、定期的にカンファレンスや勉強会を行い、業務に関する専門的な知識や技術の習得に努めている。また特治担当薬剤師1名が、薬剤の使用状況の把握や安全管理に努めている。令和3年度からは、ICU担当の管理栄養士1名を配属し、患者の早期離床、在宅復帰を推進する観点から、入室後早期から、経腸栄養等の必要な栄養管理を行っている。

2 診療活動・実績

令和3年度の入室患者数は、前年度同様にコロナ感染拡大に伴う手術件数の減少の影響もあったが、合計702例と昨年度（588例）に比較して114例増加した。内訳はCCU：222例、ICU：402例、SCU：78例、RCU：0例であり、年間平均病床利用率ICU65.7%、SCU97.3%であった。

また例年と同様に、状態の落ち着いた患者さんは病棟への移動をお願いし、また術後の患者さんであっても手術直後から病棟で治療をお願いするなど、各病棟に協力をお願いした。

CCU症例は、急性心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈などが主であり、虚血性心疾患の適応症例には緊急冠動脈インターベンション治療が行われた。昨年度同様東京都CCUネットワークに参画し、当番日には特治に空床を確保して、ホットライン要請に応えられるよう努めた。

ICUの入室者は、外科199例、心臓血管外科76例、呼吸器外科49例、感染症内科・血液内科32例、泌尿器科13例、血管外科12例、消化器内科11例、整形外科・脊椎外科10例で例年通り、外科系各科の術後管理目的が大半を占めた。

SCUを利用した診療科の内訳は脳神経外科46例、脳神経内科32例であった。今年度は外科の利用件数は増加、心臓血管外科は微増、呼吸器外科の利用件数はやや減少した。また脳神経疾患では、脳外科術後管理、痙攣重積、全身状態悪化などの患者さんであり、急性期脳卒中はSCUで受け入れた。RCUの利用患者はいなかった。令和3年2月はコロナ第6波に対する看護師派遣の影響で一時的にICUを6床で運用した。

コロナ感染患者は合計47例がICUを利用した。内、人工呼吸管理となった患者は8例、さらにエクモ治療を行った患者は4例であった。エクモ治療を行った患者4例中1例は一般病棟に転棟後、残念ながら亡くなられた。コロナ重症例に対しては呼吸器外科、心臓血管外科を中心に重症チームを作成、対応した。重症患者入室中は毎日、朝夕、コロナ重症患者カンファレンスを開催。呼吸器外科、心臓血管外科、感染症内科、麻酔科、循環器内科、ME、看護（看護部、ICU、9東、夜勤看護師長）が出席、情報の共有、治療方針の検討その他を行った。

またコロナ感染患者の診療には陰圧室である453、454、458室を利用した。

3 研修・教育活動

今年度も集中治療室で行われる専門的医療の充実、技術習得を目指し、計画的に各種研修会への参加を推進した。引き続き、特治の治療体制の充実、向上を目指す方針である。

リハビリテーション科

部長 金丸 晶子

1 人員体制

- 〈部長〉金丸晶子
- 〈専門部長〉加藤貴行
- 〈医員〉正田奈緒子，齊藤陽子
- 〈理学療法士〉寺澤泉，榎本洋司，高山祐子，江渕貴裕，熊木陽平，藤本静香，池田光範，山口真依，朴文華，田嶋真由美，真藤嗣正，篠山絵里奈，樋口和奏，鈴木圭，木村和哉，工藤卓人（12月31日退職），館智憲（2月15日退職）
- 〈作業療法士〉増田典子，本田拓也，清水彩，奥野由佳，澁野由希奈，榎戸理沙，山田大翔，高橋佳子（12月31日退職）
- 〈言語聴覚士〉田中春奈，大村有希，植村ほのか，藤井友美（6月入職）
- 〈臨床心理士〉桑田直弥，河地由恵，後藤貴浩，牧田彩加，卯埜静奈
- 〈非常勤職員〉太田隆（理学療法士），藤田博暁（理学療法士）

内、途中産休・育休入りが2名

2 診療活動・実績

■外来診療の実績

2021年度のリハビリテーション外来の初診総数は2195件で、その内訳は、院内入院中2043件（一般病棟1980件・地域包括63件）、外来症例の初診152件であった。2195件中、リハビリテーションを処方したのは1993件で、202件は診察と医師によるリハビリテーション方法などの指導を行った。

初診2195件の疾患内訳は、中枢病変（脳血管・神経変性疾患等）892件、廃用症候群（膠原病・消化器疾患・感染症などによるADL低下症例など）421件、脊椎疾患・運動器（骨関節など）131件（整形外科・脊椎外科の入院症例を除く）、心大血管403件、呼吸器227件、悪性疾患36件、摂食嚥下6件、その他79件であった。

火曜日午前中の装具診療の初診は65件で、脳血管障害後遺症・リウマチ・脳性麻痺後遺症などによる変形に対し補装具処方や装具の再調整などを実施し、装具採型作製56件・装具修理24件であった。適宜、義肢装具士・担当理学療法士・外来看護師らと協力し、補装具に関連した創部や皮膚の処置も実施した。

火曜日午後のボトックス外来は、延べ40件に対しボトックス施注を実施した。安全かつ確実に実施するため、筋肉エコーによる筋同定と施注時電気刺激による確認を行った。PT・OTと共同で、ボトックス外来とは別枠で施注前評価・施注後のリハビリテーションも実施した。

高齢者いきいき外来の初診は69件であった。

■入院診療の実績

入院症例は41例で疾患内訳は、脳血管等（神経変性疾患・脊髄損傷含む）7例、運動器3例、呼吸・循環器1例、その他30例（COVID-19症例が主）であった。

■リハビリテーション科外来取扱実績：リハビリテーション科医師の初診数・処方数（表1-5）

表 1-a リハビリテーション科外来での初診数と
リハビリテーション処方数

	初診総数	リハビリテーション処方	
		有	無
中枢（CVD, PDなど）	865	795	70
廃用症候群	421	421	0
脊髄疾患	27	23	4
運動器（骨関節）	131	111	20
心大血管	403	355	48
呼吸器	227	227	0
悪性疾患	36	36	0
摂食機能療法	6	6	0
その他	79	19	60
合計	2195	1993	202

表 1-b リハビリテーション科専門外来件数

	高齢者いきいき外来	装具外来	ボツリヌス外来
新患件数	51	65	11
延べ患者数	69	89	40

表2 リハビリテーション科での理学療法（PT）処方数

理学療法	リハビリテーション科			整形外科・脊髄			合計
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
中枢（脳血管, PD, 脊髄など）	687	37	724	48	0	48	772
廃用症候群	405	0	405	0	0	0	405
運動器（骨関節）	104	1	105	710	0	710	815
心大血管	352	1	353	0	0	0	353
呼吸	224	0	224	0	0	0	224
がん	21	0	21	0	0	0	21
算定なし（緩和ケア）	21	0	21	0	0	0	21
算定なし（評価）	16	0	16	0	0	0	16
合計	1,830	39	1,869	758	0	758	2,611

表3 リハビリテーション科での作業療法（OT）処方数

作業療法	リハビリテーション科			整形外科・脊髄			合計
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
中枢（脳血管, PD, 脊髄など）	621	28	649	40	0	40	689
廃用症候群	200	1	201	0	0	0	201
運動器（骨関節）	62	7	69	57	0	57	126
心大血管	12	0	12	0	0	0	12
呼吸	56	0	56	0	0	0	56
がん	8	0	8	0	0	0	8
算定なし（緩和ケア）	11	0	11	0	0	0	11
算定なし（評価）	0	0	0	0	0	0	0
合計	970	36	1,006	97	0	97	1,103

表4 リハビリテーション科での言語聴覚療法（ST）処方数

言語聴覚療法	リハビリテーション科		
	入院	外来	合計
中枢（脳血管, PD, 脊髄など）	484	14	498
廃用	113	0	113
呼吸	104	1	105
がん	1	0	1
摂食機能療法	9	0	9
算定なし（緩和ケア）	2	0	2
算定なし（評価）	4	1	5
合計	717	16	733

表5 リハビリテーション科での臨床心理（CP）処方数

臨床心理	リハビリテーション科		
	入院	外来	合計
算定なし【中枢（CVD,PD,脊髄など）】	339	10	349
算定なし【中枢（CVD,PD,脊髄など）以外】	360	70	430
合計	699	80	779

■SCU・ICUにおける急性期症例の実績（表6）

表6-a SCU・ICUの
リハビリテーション件数と単位数

	診察数（例）		実施単位数
	処方有件数	処方無件数	
SCU	334	2	4,240
ICU	128	5	240
合計	462	7	4,480

表6-b SCU・ICUにおける脳血管リハビリテーション訓練の
件数と単位数

	SCU		ICU・CCU		合計	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
理学療法	974	1,396	38	41	1,012	1,437
作業療法	882	1,173	15	16	897	1,189
言語聴覚療法	754	1,021	2	2	756	1,023
臨床心理	356	648	2	2	358	650
合計	2,966	4,238	57	61	3,023	4,299

SCUおよびICUの新規リハビリテーション診察数は469例（前年度370例）、新規リハビリテーション処方件数は462例（前年度368例）で（表6-a）、いずれも前年度の1.3倍弱と増加し、リハビリテーション処方例ではほぼ全例で初期加算と早期加算をとっている。処方数は増加したが、SCU・ICUにおける脳血管リハビリテーション訓練の実施件数および単位数は、表6-bに示すように3023件で前年度の9割7分程度、実施単位数は4299単位で前年度の9割3分程度であった。SCUに在棟している日数が減少したことで、SCUでの単位数が減って見えていたが、SCUから一般床に転床後のリハビリテーションを含めてみると、表7-表10に示すように、脳血管のリハビリテーションの単位数は前年度より増加していた。

■リハビリテーション訓練取扱実績（表7-10）

脳血管障害の急性期リハビリテーション、廃用症候群のリハビリテーション、心臓外科周術期のリハビリテーション・その他の心大血管リハビリテーション、呼吸器のリハビリテーション、摂食嚥下療法、がん・緩和のリハビリテーション、また、各科の治療前評価などを実施した。必要症例に、土曜日もリハビリテーションを行うなど、急性期の早期介入に努めた。コロナ禍でも、感染管理の手順に乗っ取り急性期のリハビリテーションを実施した。

理学療法

表7 理学療法の総件数と総単位数、および、早期件数と早期加算単位

理学療法 (PT)	すべて		初期加算		早期加算	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
中枢 (CVD, PD, 脊髄など)	8,325	13,532	3,957	6,360	6,568	10,745
廃用症候群	4,861	7,934	1,298	2,070	3,178	5,198
運動器 (骨関節)	8,427	16,702	4,018	7,518	7,101	14,053
心大血管	3,336	5,980	1,748	3,088	2,720	4,846
呼吸器	2,404	3,885	1,147	1,869	1,869	3,067
がん	186	296				
算定なし (緩和ケア)	164	261				
算定なし (評価)	48	62				
合計	27,751	48,652	12,168	20,905	21,436	37,909

作業療法

表8 作業療法の総件数と総単位数、および、早期件数と早期加算単位

作業療法 (OT)	すべて		初期加算		早期加算	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
中枢 (CVD, PD, 脊髄など)	7,290	11,892	3,586	5,758	5,853	9,625
廃用症候群	2,207	3,782	535	890	1,463	2,506
運動器 (骨関節)	1,242	2,419	513	934	932	1,768
心大血管	98	130	47	58	80	111
呼吸	542	923	290	492	433	739
がん	105	170				
算定なし (緩和ケア)	72	110				
算定なし (評価)	43	93				
合計	11,599	19,519	4,971	8,132	8,761	14,749

言語聴覚療法

表9 言語聴覚療法の総件数と総単位数、および、早期件数と早期加算単位

言語聴覚療法 (ST)	すべて		初期加算		早期加算	
	件数	単位数	件数	単位数	件数	単位数
中枢 (CVD, PD, 脊髄など)	5,102	7,941	2,591	3,952	4,117	6,398
廃用症候群	1,033	1,442	280	380	657	883
呼吸	976	1,373	405	524	696	944
がん	11	22				
摂食・嚥下	65	65				
算定なし (嚥下評価)	123	158				
算定なし (緩和ケア)	12	16				
算定なし (評価)	3	8				
合計	7,325	11,025	3,276	4,856	5,470	8,225

臨床心理療法

表10 臨床心理療法の総件数と総単位数、および、心理検査実施件数

臨床心理 (CP)	すべて	
	件数	単位数
算定なし (脳血管)	3,351	6,281
算定なし (脳血管以外)	3,882	7,418
合計	7,233	13,699

臨床心理 (CP) 実施項目	入院	外来	件数合計
その他の心理検査 (極めて複雑)	9	4	13
その他の心理検査 (複雑)	314	125	439
その他の心理検査 (容易/その他)	892	47	939
その他の心理検査 (容易/簡易/MMSE)	425	2	427
発達・知能検査 (極めて複雑)	1	1	2
発達・知能検査 (複雑)	0	0	0
発達・知能検査 (容易)	541	24	565
人格検査 (複雑)	45	0	45
人格検査 (容易)	8	1	9
合計	2235	204	2439

■地域包括ケア病棟実績 (表11)

地域包括ケア病棟でのリハビリテーションの現状と病棟ケア件数について、表11に示す。

表11 リハビリテーションと病棟ケア

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
リハビリ提供総単位数	1,378	1,160	959	1,216	1,257	1,005	879	773	1,020	1,092	992	1,035	12,766
リハビリ1日平均単位数	2.13	2.18	2.61	2.51	2.31	2.28	2.33	1.84	2.26	2.27	2.31	2.34	2.27
リハビリ対象患者延べ数	646	532	368	484	544	441	377	419	452	481	430	442	5,616
リハビリ処方数	52	42	34	48	47	44	35	42	40	40	52	42	518
心大血管疾患リハ	1	1	3	4	4	2	0	1	1	1	3	6	27
脳血管疾患等リハ	9	6	8	14	10	9	12	9	10	9	16	13	125
廃用症候群リハ	7	3	3	5	7	8	7	12	6	9	8	5	80
運動器リハ	31	28	17	22	25	23	13	17	20	20	23	17	256
呼吸器リハ	4	4	3	3	1	2	3	3	3	1	2	1	30
がんリハ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
疾患別合計 (リハビリ処方数)	52	42	34	48	48	44	35	42	40	40	52	42	519

■廃用防止ラウンド (TRAHAD) (表12)

当センターでは急性期医療現場で、2015年より急性期に廃用防止ラウンド (以下、TRAHAD: Team-Round Against Hospitalization -Associated Disability) を開始している。TRAHAD実施病棟では、新規入院患者を評価して病棟ケアやリハビリテーションが必要かどうかの判断を行い、病棟ケアで対応できる症例に関しては看護師にフィードバックしてきた。しかし、2020年年明けからのコロナ禍において、TRAHADの実施を控えざるを得ない状況となった。2021年3月から1病棟で再開している。病棟医師や看護での早期リハビリテーション依頼や病棟での早期離床が進み、以前よりはラウンド時にリハビリテーション処方が必要なケースは以前より減少している。

表 12 TRAHAD 実施回数・リハビリテーション処方数

	TRAHAD 回数	TRAHAD 月毎 実施症例数	各回の平均 症例数	月毎の リハビリテーション 処方数	各回の平均 リハビリテーション 処方数
4月	4	19	4.8	6	1.5
5月	4	18	4.5	9	2.3
6月	4	13	3.3	8	2.0
7月	4	18	4.5	5	1.3
8月	4	19	4.8	4	1.0
9月	4	20	5.0	4	1.0
10月	4	19	4.8	7	1.8
11月	4	16	4.0	5	1.3
12月	4	19	4.8	7	1.8
1月	4	16	4.0	4	1.0
2月	4	12	3.0	4	1.0
3月	4	21	5.3	11	2.8
平均	4.0	17.5	4.4	6.2	1.5
1年合計	48	210	210	74	74

■NSTラウンド（表13）

言語聴覚士は毎週のNSTラウンドに参加、リハビリテーション科医師は月1回ラウンドを担当した。嚥下障害などの問題症例は、必要に応じ往診などで評価を実施。時には、STだけでなくPTと協同して摂食嚥下に対するアプローチを行うこともあった。継続的なアプローチが望まれる症例では、摂食嚥下療法を処方し、嚥下訓練・食形態の検討・摂食介助方法の指導を実施した。

表 13 NSTでの月毎の回診患者数・嚥下評価件数など

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回診対象患者数	37	26	34	18	29	34	18	18	27	25	13	38	317
NSTでの 嚥下評価件数	10	7	5	7	9	6	8	3	24	13	15	18	125
NST 診療報酬（点） （回診対象者×250）	9,250	6,500	8,500	4,500	7,250	8,500	4,500	4,500	6,750	6,250	3,250	9,500	79,250

■経口摂取開始チャートの運用

言語聴覚士、管理栄養士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、リハビリテーション科医師が協力し、経口摂取開始チャートの改定を2021年度も実施した。

実際の経口摂取開始チャートを運用するために、栄養士・言語聴覚士のペアがチャート運用方法を各病棟で指導を行った。少なくとも16病棟各1回ずつ指導を実施した。

経口摂取開始チャートの正しい運用につなげる目的で、2021年度も嚥下学習用e-ラーニングを作成し悉皆研修として実施した。病棟看護師のe-ラーニング受講率100%であったが、医師の受講率向上のため新入医師は入職研修時に受講をするなどの工夫を継続している。

3 研修・教育活動

1) リハビリテーション科内研修：

- 2021/10/20：神経内科疾患のリハビリテーションにおけるリスク管理（講師：加藤先生）
- 2021/11/16：急変時対応演習（エレベーター内の患者急変対応）
- 2021/11/17：心筋梗塞のリハビリテーションの注意点について（PT江渕）
- 2021/11/30：東京都福祉保健局の医療安全研修伝達講習（増田OT）
- 2022/3/5：体幹について（鈴木PT）
- 2022/3/15：心臓外科術後のリハビリテーション（江渕PT）
- 2022/3/22：吸引勉強会（講師：安全管理看護師 西川）
- 2022/3/29：仕事について（講師：前リハビリテーション科技師長 太田）

2) ADL介助法の研修：看護・ケアの技術向上に貢献するため、理学療法士が講師となり、新入看護職員研修を

2021/4/15に実施した（センター3階会議室）。

- 3) SCU看護師勉強会：移乗動作、早期リハビリテーション介入の必要性などについて、理学療法士が講師となり勉強会を2021/7/15に実施した。
- 4) ICU看護師勉強会：心臓外科術後のリハビリテーションについて、理学療法士が講師となり勉強会を2022/1/25に実施した。
- 5) NST講演会：嚥下障害について、リハビリテーション科医師・薬剤師・管理栄養士・看護師・言語聴覚士が講師となり院内講演会を2022/2/2に実施した。その後、WEBでも配信した。
- 6) 経口摂取開始フローチャート：院内の『経口摂取開始フローチャート』普及に向けて、リハビリテーション科医師・管理栄養士・看護師・言語聴覚士で各病棟での講習（7～9月）、eラーニング（12～1月）を企画・運営した。
- 7) カンファランス・勉強会
 - ① 神経内科・脳外科・SCUとの脳卒中カンファランス（毎週金曜日）：リハビリテーション科医師・神経内科医師・脳外科医師・病棟看護師・PT・OT・ST・CP・MSWで、情報交換とリハビリテーションを含めた方針の検討
 - ② リハビリテーション病棟カンファランス：金曜日に、医師・看護師・リハビリテーション科スタッフでリハビリテーション科入院症例の検討会を実施
 - ③ 心臓外科カンファランス（毎週金曜日）：心臓外科医・看護師（病棟やICU）・ME・PT等で症例検討
 - ④ SCU朝のケースカンファランス：SCU看護師長、医師（脳外科・神経内科・リハビリテーション科）、PT、MSWが参加
 - ⑤ 研修医のための朝カンファランス：平日朝8時15分より実施、リハビリテーション科医師（加藤貴行・救急部兼務）も協力してカンファランス運営を実施
 - ⑥ MCIカンファランス（月1回）：医師とリハビリテーション科各部門の代表メンバーが参加、MCI研究の進捗状況と問題点、症例検討など

4 その他

■一般向け講演会

リハビリテーション科主催で“健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦”を実施してきたが、コロナ禍のため会場での実施はできなかった。その代わり、2021/8/6、当センター公式YouTubeチャンネルに、リハビリテーションWEB講演会「おうちでコツコツロコトレ」「脳の老化への挑戦！！軽度認知障害」の二つをアップロードした。それぞれの視聴回数は、2022年7月現在で順に1813回、3080回となっている。



放射線診断科

部長 徳丸 阿耶

1 人員体制

〈部長〉徳丸阿耶

〈専門部長〉下地啓五（令和3年度末順天堂大学医学部放射線科へ異動） 今林悦子（令和3年度10月末放射線医学研究所へ異動）

〈医長〉亀山征史、高田晃一

〈非常勤医〉12名

2 診療活動・実績

（1）検査件数

・RI 総検査数：4,608 件（研究用 PET 併せて 5,031 件）

①脳血流 SPECT：891 件 ②DaT スキャン：475 件

③MIBG 心筋シンチ：258 件 ④骨シンチ：136 件

①～③は、アルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病診断に有用で、国際診断基準にも採用されている。

・保険収載 PET 件数 430 件

①FDG 腫瘍：385 件

②その他：45 件

①は、早期の悪性腫瘍評価、転移評価に有用である。

・アミロイド PET：187 件

・タウ PET：73 件

アミロイド、タウ PET は、アルツハイマー病や嗜銀顆粒性認知症などの病因に迫る検査法であり、高精度の認知症診断技術開発に直結する検査である。これらは、アルツハイマー病治療薬開発治験にも欠かせないツールとなっており、PET センター、認知症センター、関係各科との協力、カンファレンスを通じ臨床および研究、治験が施行されている。

（2）放射線診断

・CT 検査総数：21,140 件

・MRI 検査総数：8,050 件

・認知症関連 MRI は 1,392 例。保険収載範囲で、認知症の背景を推定する技術開発が進み、その診断技術は国内外をリードする。

（3）地域連携

・MRI 検査数は 303 件、CT 検査数は 364 件

・オンライン予約：52.3%がオンライン予約となり、COVID19 感染下において飛躍的に利用が広がっている。オンライン予約システム稼働から5年を経て、かかりつけ医（地域の主治医）の先生方に各種画像診断をインターネットで24時間いつでも予約できるシステム（地域医療連携システム）の利便性が浸透しつつあるところに、COVID19 感染下のオンライン活用の波が重なり、@CARNA システム活用が格段に広がった。令和2年度 COVID19 感染拡大時にオンライン活用での先端医療機器地域医療活用の意義が図らずも明確になったと考えていたが、令和3年度には COVID19 感染傾向に左右されることなくオンライン活用の流れが定着してきたと思われる。電話でお待たせすることなく、土日・祝日を含む時間外にも検査内容の選択、患者情報などの入力だけで予約が可能なオンライン連携システムを無料で地域の医療機関に提供させていただいており、今後の活用幅の広がりが一層期

待される。

(4) 画像診断報告書

- ・放射線診断専門医による画像診断報告書の重要性は日々高まっている。
- ・CT 報告書作成率：98.7%、MRI 報告書作成率は98%（報告書作成中を含めるとほぼ100%）である。

3 研究教育活動

徳丸は、東邦大学佐倉医療センター放射線科客員教授、帝京大学医学部非常勤講師として大学院、および医学部生に対し神経放射線診断の基礎及び応用の講義を行い、また多施設共同研究において、認知症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症など早期診断研究に供される MR 画像の中央診断に関与している。神経病理学会関東地方会神経画像コンサルタント、日本神経放射線学会評議員、NR 懇話会世話人等。下地は生理学研究所と基礎生物学研究所を中核機関とする先端バイオイメージング支援プラットフォームに参画し、北海道大学、東北大学、国立精神・神経医療研究センター、名古屋大学、九州大学など全国各地の研究機関と脳画像解析に関連した共同研究や技術支援を行い、令和4年度には順天堂大学放射線科への栄転となる。今林は、核医学の専門家として研究所の神経画像研究チームでの活動を広げ、放射線医学研究所へ異動。日本認知症学評議員、亀山は、脳循環代謝学会評議員、Fellow of Asian Nuclear Medicine Board となり、AI（人工知能）活用での認知症診断など国内外での臨床および研究活動の幅を広げ、顔を認識することで認知症を評価する AI システムの社会実装のリーダーとして、また東京都認知症未来社会創造センターにおける研究活動に従事している。高田は、帝京大学での講義、臨床研修医への臨床画像の丁寧な教育など臨床教育に力を発揮している。

常勤医師と後期研修医は火曜日に行われる神経内科、認知症カンファレンス、水曜日に行われる病理解剖スライドカンファレンス、木曜日に行われる臨床各科と病理診断科による CPC カンファレンスへの参加を継続している。

4 その他

放射線診断科は、病院のスタンダードを守る砦であり、一同そのスタンダードレベルを上げることに腐心してきた。重点医療のがん診断における画像診断の意義は大きく、できるだけ遅滞なく検査を施行し、また翌診療日までに診断レポートを提出することに努めている。さらに、最新検査機器を育て、十全に機能させることにまい進したい。

画像検査の重要性が増すとともに検査依頼件数の増加は著しい一方、対応する機械・人員には限界があり、予約待ちの増加が課題となっており、常勤技師、放射線科専門看護師、常勤医師の増員が課題となる。高齢者救急病院として、救急における緊急検査に可及的対応を重ねているが、十全な対応維持のためにも、医療スタッフの充実が課題となる。新たに新設された3TMRIは、東京都認知症未来創造プロジェクトへの客観的バイオマーカーとしての画像データベース構築への寄与、研究所の各種コホートに活用を広げることが期待される。画質の標準化、精度管理に苦慮しつつの立ち上げが続いている。また、画像データベース構築に研究所の神経画像研究チーム、MR 機器メーカーとの協力が進められている。

画像診断は、今日の認知症診断においては欠かせない重要診断ツールとなっている。早期の正確な診断は、その後の治療、介護、看護の適切な介入に直結するものであり、保険収載されている診断技術の洗練とともに、最新鋭の診断技術との連携を経て、最新の正確な診断技術を提供することが、本院放射線診断科の役割である。

放射線治療科

部長 角 美奈子

1 人員体制

〈放射線治療科部長〉 角 美奈子

2 診療活動・実績

●診療実績 () 内の数字は前年度実績

令和3年度も施設基準が満たされ、放射線治療料の10割保険請求を維持でき対する。放射線治療専任加算(330点)、外来放射線 治療加算(100点/日)も維持できている。

治療装置更新のため、令和3年度は5/17をもって新装置による放射線治療を開始した。年間のべ治療患者数は、高エネルギーX線：1,259人(1,412人)、4,878件(3,633件)、高エネルギー電子線：14人(62人)、14件(62件)、放射線治療管理料：114例(136例)であった。前年度より2か月長い期間であったが新型コロナウイルス感染症の影響下、放射線治療管理料は22例減少したが、新装置導入の影響下、X線治療件数は22%増加した。

令和3年度の放射線治療症例数は72例(78例)と、感染症の影響を受け減少した。新装置への更新により可能となった画像誘導放射線治療は、X線治療症例の全例で実施している。高精度放射線治療は、体幹部定位放射線治療1例、強度変調放射線治療3例で応用した。緩和的放射線治療においては、主として骨転移に対し、8Gy 1回照射を15件(9件)で実施した。放射線症例の内訳は、肺癌24例、乳癌7例、血液がん10例、消化器・消化管11例、頭頸部癌6例、泌尿器癌8例、皮膚癌2例、その他4例であった。全身照射も2例で実施した。

患者の年齢は、80～89歳は27例(29例)、90歳以上は5例(6例)であった。

5/16以前は、公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 放射線治療科に、当院患者の放射線治療を依頼し実施していただいた。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響下のため、肺の体幹部定位放射線治療は実施していない。乳癌温存術実施例に対する術後照射では、全例で短期照射を施行した。

3 研修・教育活動

松井技師は放射線治療専門放射線技師に認定されている。角は日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会の放射線治療専門医及び日本医学放射線学会研修指導者として認定されている。

城西放射線技術専門学校、東京電子専門学校・診療放射線学科、日本医療科学大学・診療放射線学科の学生に、放射線治療について教育実習を行っている。

4 その他

東京都がん診療連携協力病院に認定されており(平成28年4月1日～)、放射線治療を提供している。

表 放射線治療症例数

	2019	2020	2021
治療患者数	121 例	78 例	72 例
治療件数	145 件	88 件	83 件
年齢： 80～89 歳	36 例	29 例	27 例

年齢： 90 歳以上	8 例	6 例	5 例
緩和的放射 線治療例数 と件数	55 例 64 件	61 例 71 件	46 例 57 件
原発部位			
肺	34	28	24
乳腺	12	9	7
血液	10	12	10
消化管/器	26	13	11
頭頸部	9	4	6
泌尿器	12	9	8
皮膚	3	1	2
その他	15	2	4

化学療法科

部長 宮本 鋼

1 人員体制

〈部長〉 宮本 鋼

〈医員〉 橘 盛昭

〈後期研修医〉 上江田 優美

2 診療活動・実績

(1) 検査件数

化学療法科は外来部門である外来化学療法室および11階西病棟を中心に運営されている。11階西病棟に10床を擁し、血液悪性疾患を対象として入院加療を行っている。

外来化学療法室においては、7床で運営し、呼吸器内科、リウマチ膠原病内科、血液内科、外科、消化器内科、泌尿器科による御協力を頂き運用した。関係各位に深く御礼申し上げる。運用の実績としては年間患者総数1464名であり昨年度(1148人)に比し著増した(図1)。内訳は下記の如くである(図2)。

化学療法科単独での外来については年間実績で延外来患者数2441人であり、前年と比し微増した。年間実績で延初診患者数は45人であり、こちらも前年より微増した。なお、この数値は院外よりの紹介新患者のみである。当科の性質上、院内紹介による初診患者は多数受け入れているため、真の新規患者総数を推測するものとしての新規入院患者は126人であり昨年とほぼ同等の結果だった。化学療法科単独での全体の入院加療については年間実績で延入院患者数2850人であり、前年より減少した。入院加療体制の推進により、今後も成長を目指す。一方収益は、前年比5.3%の増益であった。

3 研修・教育活動

ベットサイドカンファレンスを血液内科と月曜正午より共同運営している。

近年の悪性リンパ腫、骨髄腫対象の薬物療法は長足の発展を遂げ、その開発スピードは目を見張るものがある。当科に於いても適時導入しているが、その適応の判断は時に困難な場合もあり、悪性リンパ腫、骨髄腫専門カンファレンスを木曜午後に運営している。

別紙のごとく研修医の方は、学会発表を必須のものとして指導している。

今季は後期研修医1名が当科後期研修プログラムに参加してくれた。当院の前期研修から引き続いての研修継続である。当科開設以降2人目の入職であり、内科専門医、血液専門医取得に向けてバックアップして行く。

4 今後の展望

外来化学療法の存在意義は悪性疾患患者管理において非常に大きい。前年度に引き続き増患の傾向が確認され、後ますます増大していくであろう。高額な抗腫瘍薬も次々に認可、使用開始されており、これからも安全かつ的確な化学療法の施行を第一に運用していく。

臨床検査科

部長 増田 義重

1 人員体制

〈部長〉増田義重

〈専門部長〉新井富生（病理診断科部長兼務）

〈技師長〉佐藤芳雄

〈副技師長〉桜山千恵子、太田和志

〈生理機能部門〉清水優、高梨大輔、夏目采、河野ますよ、前田哲平、釜井愛、奥野恵子、小野秀子、小林敬翔、井上美香、倉部美奈、塚越茉咲

非常勤：高荷香奈、吉村由香子

〈検体検査部門〉岩澤大地、猪股聡史、真井沙織、但馬夕季、高山紗桜理、福田香織、今井伶佳、加藤彩奈、山岸夕夏

非常勤：高野麻衣

〈細菌検査部門〉浅見諒子、野口穰、古川友子、矢作和規

非常勤：東條未希、三上真由

〈採血室〉非常勤：奥野瑞穂、藤宮真奈美、倉持恵美子、田中真理子、金子由加里

看護師：高橋晴美、後藤マリ子、櫻井英利子

令和2年度は常勤3名採用、2名退職、短縮勤務3名、非常勤延べ12名採用、4名退職
当直に関しては、輸血・細胞療法科所属の臨床検査技師2名と協力して行っている。

2 診療活動・実績

技師長・副技師長・主任を中心に生理機能部門・検体検査部門・細菌検査部門協力して、日常業務・作業マニュアル等の改定を行った。

検体検査部門は診療支援部門として、365日24時間体制の緊急検査の報告時間短縮、安全対策、検査精度の向上など業務改善を実施している。検体受付から報告までの工程管理を強化し、TATの短縮に貢献できるようにした。検査件数は、横ばいか微増している。

生理機能部門においても定期的な内部勉強会を実施し、検査技術と知識的部分の向上を図っている。新型コロナウイルス感染症流行により、受診患者は減少した。超音波検査については、心臓超音波、血管超音波件数の増加傾向は持続している。

細菌検査部門では、新型コロナウイルス感染症の検査として、Filmarray TorchシステムとTRC装置を利用してPCR検査と定性抗原検査を行った。また研究所の豊田部長に協力して、唾液検体を中心とする新型コロナウイルスPCR検査の検体処理を行った。

患者サービス向上では、患者様に不愉快な思いをさせない接遇を心がけている。生理検査部門と外来採血室においては待ち時間短縮と患者間違い防止に注力し、各職員の技術向上に努めている。また、混雑時の応援体制の強化と非常勤職員を採用し、待ち時間に対する患者クレームは対応した。

チーム医療として、生理検査部門はハートチームの一員としてカンファランスに参加し、TAVI術中エコーへの参画、VAD・ECMO症例では臨床側と積極的に連携して検査を行っている。脊椎手術の術中神経モニタリングを行った。

細菌検査部門ではFilmarray Torchシステム活用して検査を迅速化しICT/ASTに積極的に参画している。

薬剤科、栄養科とともにNSTにも参画している。

若手の女性の多い職場であり、産休/育休/短縮勤務による人員の減少への対策を考慮していく必要がある。

3 研修・教育活動

臨床検査技師の分野においても専門性を求められる中で、ベテラン職員による若手技師への技術指導と知識の向上など人材育成にも力を注ぎ、各職員が認定資格取得を目指して研鑽している。部門内でも勉強会/Web講習会に参加している。また、各学会や研修会に参加できるよう勤務調整の他、参加費等の援助も行っている。

技師6名が認定資格を更新した。係長試験に1名、主任試験に1名合格した。

輸血・細胞療法科

部長 小林 寿美子

1 人員体制

〈医師〉小林寿美子（部長）、小倉和外 齋藤 輔
 〈常勤〉谷田部元野、小菅隆雄、阿部真愛、土田沙貴

当科のスタッフは、医師3名（2名輸血認定医）、常勤臨床検査技師4名の計7名体制である。

2 診療活動・実績

主な業務内容は、1）輸血関連検査（血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験）、2）輸血用血液製剤の管理、3）移植細胞の管理、4）自己血貯血と管理である。令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）の輸血実績は、赤血球製剤（自己血除く）2,751件（6,639単位）、濃厚血小板1,242件（13,160単位）、新鮮凍結血漿484件（1,960単位）でRBCは前年度の5%増加であったが、FFPとPCは前年度の5%減少であった。令和3年度の自己血輸血の実績は、87例（244単位）で対前年度25%減少であった。自己血貯血の実施は週4回で年齢の上限を設けずに高齢者対応を行っている。当科の最大の目標である安全な輸血療法の実施に向けて、1）適応に合致する輸血療法の実施、2）人為的ミスの排除、3）輸血療法による副作用への対策を柱として、現状の把握と改善策の具体化を常に心がけている。1）については輸血療法の適応について担当医との協議を行い、また当院での適正な輸血療法の指針を具体的に提案し、輸血・細胞療法委員会で審議の上、院内に周知している。安全な輸血医療の実践のための輸血・細胞療法委員会は、年6回実施している。2）については輸血用血液およびアルブミン製剤を輸血・細胞療法科が一元的管理を行い、製剤の品質管理を徹底している。ABO不適合の移植患者では、移植後使用する血液製剤が製剤種毎に血液型が異なるため、システム化し製剤毎の血液型不適合輸血を防止に努めている。また輸血委員会が中心となり令和3度も廃棄率の徹底が維持されている。3）については輸血副作用の情報収集につとめ、事後処理が適切に行えるよう必要な情報を担当医に速やかに提供する体制を整えている。このような業務管理により、血液製剤の使用および管理の適正性が評価され、診療報酬の輸血管理料Ⅰ及び輸血適正使用加算を継続中である。平成30年3月末には日本骨髓バンク認定採取施設（末梢血幹細胞採取、DLI採取、骨髓採取）を取得し以降、骨髓バンクカテゴリⅠを維持し、1年間で14件の採取を行い、コロナの影響を受けつつも前年度の8件から大幅増加で骨髓バンク活動に貢献中である。本年度より新たな細胞療法として間葉系幹細胞による治療を開始した。

3 細胞採取プロセッシング

さらに細胞プロセッシング業務として、造血幹細胞移植での細胞採取に参画し細胞処理業務を行った。血液内科との連携のもと、末梢血幹細胞移植6例（自家移植2例）、骨髓バンクドナー14症例（骨髓採取6例、末梢血幹細胞採取7例、ドナーリンパ球採取1例）を継続受け入れしており、細胞採取ならびに処理を実施しバンク関連業務の拡大に寄与している。また臍帯血移植保存管理は18例で対前年と同等であった。

4 研修・研究・教育活動

- 1）研修医の研修では当直時間帯における血液型検査、血液製剤の適正使用について教育を実施。年度初めには全員への啓蒙を実施した。
- 2）令和2年度に採用された臨床検査科職員を中心に輸血関連検査等の研修を実施し、当直時にも対応できる体制を整え新システムのコンピュータに対応可能な教育を随時行っている。
- 3）内部精度管理として当直者を対象に血液型、間接抗グロブリン試験の実技と手技の確認と凝集判定の目合わせを行った。
- 4）臨技臨床検査精度管理調査に参加した。
- 5）都内医療大学より実習生を4名受け入れ研修教育活動を実施した。
- 6）全看護師を対象に【輸血用血液製剤の取り扱い】についてeラーニングを行い部署毎の評価を行った。

病理診断科

部長 新井 富生

1 人員体制

〈部長〉新井富生 〈専門部長〉井下尚子 〈後期研修医〉小松明子、織田麻琴 〈非常勤医師〉熊坂利夫、坂本 啓、倉田盛人、久保起与子 〈技師等〉鈴木明美、白幡浩人、江坂四季音、中島裕理、今泉雅之(12月まで)、木曾有里、児島宏哉、緑川広紀 〈非常勤技師〉川尻 優 〈非常勤事務〉岸 律子

2 診療活動・実績

■生検・手術、細胞診、術中迅速検体、免疫染色、電子顕微鏡検査

検査種類	令和2年度	令和3年度	対前年度	対前年度比
生検・手術検体	2,919	2,871	-48	98.4%
細胞診	1,641	1,579	-62	96.2%
術中迅速	163	95	-68	58.3%
免疫染色	985	810	-175	82.2%
電子顕微鏡	246	40	-206	16.3%
検査中迅速（細胞診）	17	15	-2	88.2%
術中迅速（細胞診）	60	52	-8	86.7%

■病理解剖の実績

	令和2年度	令和3年度	対前年度	対前年度比
解剖数	43	50	+7	116.3%
院内剖検率	7.0%	7.4%	+0.4%	105.7%

■慰霊祭

令和2年度病理解剖例を慰霊する目的で、センター3階第3会議室で令和3年11月17日に慰霊祭が執り行われた。

3 研修・教育活動

(1) 研修医・細胞検査士の教育体制

当センター病理診断科は日本専門医機構から基幹病院として承認されている。「東京都健康長寿医療センター病理研修プログラム」により後期研修医1名が研修した。また、口腔病理専門医を目指す歯科医師1名が研修した。

(2) 剖検のカンファレンス

オルガンコントロールを20回（第1537～1556回）、スライドカンファレンスを23回（第1766～1788回）実施した。

(3) 臨床病理検討会（CPC）

CPCを8回（第851～858回）開催した。8回のCPCには、RCPC（reversed CPC）1回が含まれる。

(4) Weekly review、細胞診と組織診の対比の会

病理診断に関わる知識・技能の向上を目的として、典型例・診断困難例・稀用例などを病理医が全員集まって鏡検する検討会を随時開催した。また、細胞検査士が中心となり細胞診と組織診の対比の勉強会を18回開催した。

(5) キャンサーボード

胃癌・大腸癌(10回)、肺癌(11回)、前立腺癌(11回)に対するキャンサーボードを関係する部署と開催した。

薬剤科

科長代理 島崎 良知

1 人員体制

常勤薬剤師31名※、非常勤薬剤師4名（2.18名）、非常勤事務員6名（4.2名）により運営した。

※産休育休3名、時短勤務2名含む

2 診療活動・実績

（1）調剤

外来院内処方箋取扱枚数は4,560枚（前年度比32.9%増）、院外処方箋発行率は96.2%（0.9%減）、入院処方箋は89,241枚（同3.2%増）であった。看護業務の負担軽減を目的とした内服定期処方配薬セットは継続して行っている。注射調剤（個人セット）は89,937枚（同11%減）であった。

（2）薬剤管理指導・病棟薬剤業務

薬剤管理指導料算定件数は、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）が使用されている患者（380点）が6,550件、それ以外の患者（325点）が5,174件の合計11,724件（前年度比13.0%減）であった。算定減理由については、コロナ禍に係る病床稼働率の低下、退職や産休育休などの職員数減少など複合的な要因が考えられるが、中央業務の効率化などは継続的に行っておりある程度の減少はやむを得ない。一方、その中でも薬剤師を全病棟配置する病棟薬剤業務を維持することで年間約2,600万円の診療報酬を計上するとともに、病棟常駐薬剤師が医薬品使用に対し様々な確認を行うことで、リスク管理に大きく貢献することができている。高齢診療科と協働したポリファーマシー活動については地域包括ケア病棟を中心に継続して取り組んでおり、僅かながら薬剤総合評価調整加算の算定を行っている。

（3）医薬品安全管理

医薬品の安全管理対策として、令和3年度疑義照会件数は1,071件で減少傾向にあったが、重要な事例については、日本病院薬剤師会へプレアボイドとしてほぼ例年通り263件を報告した。特に安全対策の取り組みとして指示簿指示に係る疾患禁忌薬剤を重点的に周知し、報告例数は減少傾向となっている。

ハイリスク薬及び規制医薬品の適正使用の推進及び適正な在庫管理を目的とした医薬品安全管理点検業務を毎月1回実施した。加えて、薬剤師がICU及び手術室、救急外来、透析室、検査科、内視鏡科へ出向き、麻薬、毒薬及び向精神薬などの重点規制医薬品の補充及び使用実績の確認業務を行い、適正使用はもとより盗難・紛失など病院運営に影響を及ぼすような事例防止に取り組んだ。

（4）医薬品管理

令和3年度末での採用医薬品数は1,666品目と前年度より26品目増加した。年間出庫金額は薬価ベースで17億2,056万円（前年度比22.2%増）であった。今年度の品目数増加は、ファーストインクラスの薬剤導入により代替削除が難しかったことや、導入薬剤の多規格採用などによると思われる。出庫金額の増加は、新型コロナウイルス関連医薬品の購入増や、抗がん剤などの高額医薬品使用が相次いだこと、後発医薬品の供給遅延等による採用切り替えが頻回に発生したことなども要因として挙げられる。

（5）医薬品情報（DI）

医薬品情報提供は、毎月の薬事委員会結果報告、院内副作用情報、隔月発行の薬局ジャーナル等、各部署へのお知らせにより行っている。

（6）無菌製剤（抗がん剤混合調製、TPN及び末梢点滴の混合調製）

抗がん剤の混合調製は、外来及び全病棟の全患者に休祭日を含めた全日を対象に行っている。全病棟を対象にしたTPN混合調製業務及び11階西病棟の末梢点滴の混合調整は平日を対象に行っている。

（7）外来がん患者指導業務

令和3年度も薬剤師による「がん患者指導管理料ハ」の算定を継続して行っている。

（8）東京都ワクチン大規模接種への対応

令和3年度初め、東京都は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、警察や消防、医療関係者をはじめとした職域関連接種、降車せず接種可能であるドライブスルー接種、予約なし接種など、目的に応じた大規模ワクチン

ン接種事業を開始した。都庁から依頼を受けたセンターは、薬剤師・看護師を長期派遣し、迅速性が求められるスケジュールの中で人的・物的資源を有効活用しながら適切な感染対策や接種ノウハウを提供するなど、同事業への円滑な運営に多大な貢献をすることができた。

＜薬剤師派遣施設：以下16か所＞

築地ワクチン接種センター、都庁北展望室ワクチン接種センター、都庁南展望室ワクチン接種センター、代々木公園ワクチン接種センター、立川地域防災センター、立川グリーンスプリングス、調布グリーンホール、丸の内行幸通り、井の頭公園、渋谷区立勤労福祉会館、多摩ペペリビル、立川南、乃木坂we work、神代植物公園、産業サポートスクエアTAMA、東京都立大南大沢キャンパス

3 研修・教育活動

(1) 長期実務実習受け入れ

令和3年度は実習生の受け入れは第2期4名、第3期4名、第4期3名の計11名を受け入れた。教育活動にも更に力を入れ、センター収入も増加させる予定である。

(2) 各種認定取得について

令和3年度末現在の主な認定取得状況は、

NST専門療法士3名、日本糖尿病療養指導士2名、老年薬学会評議員1名、老年薬学指導薬剤師1名、老年薬学認定薬剤師3名、認定実務実習指導薬剤師7名、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師3名、日病薬病院薬学認定薬剤師15名、日本臨床薬理学会認定CRC1名、日本臨床試験学会認定GCPパスポート1名、がん薬物療法認定薬剤師2名、外来がん治療専門薬剤師1名、外来がん治療認定薬剤師2名、感染制御専門薬剤師1名、感染制御認定薬剤師3名、抗菌化学療法認定薬剤師2名、精神科薬物療法認定薬剤師1名、骨粗鬆症マネージャー1名、管理栄養士1名
となっている。

4 その他

チーム医療への参画

栄養サポートチーム (NST)、感染制御チーム (ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム (AST)、緩和ケアチーム (PCT) 精神科リエゾンチーム (PLT)

(文責：科長代理 島崎 良知)

栄養科

科長 羽根田 千恵

1 人員体制

〈科長〉羽根田千恵

令和3年度は、常勤7名（育休1名）、非常勤8名で運営した。

2 活動内容・実績

臨床栄養管理推進と患者サービスの向上を図ることを目的に、治療食の調整等食事療養業務、入院時の臨床栄養管理及び栄養食事指導に努めた。

（1）栄養食事指導

個別指導は、入院及び外来患者とその家族を対象に実施し、入院767件、外来3,313件の計4,080件で前年度に比較してコロナ禍の中にもかかわらず、195件増加した。対象疾患は、糖尿病が2,200件54%と最も多く、心臓・高血圧症、腎臓病の順であった。令和2年度より開始した化学療法室にて化学療法中に行う栄養指導も件数を伸ばしている。集団指導は、コロナの影響があり外来患者で行うことができず、糖尿病の教育入院のみ102名が受講した。

（2）治療食の調整等入院時食事療養業務

1日当たり給食数は928食であり、内訳は、一般治療食436食（47.0%）、特別治療食492食（53.0%）であり、前年度と同様、特別食の割合が高かった。特別治療食の内訳では、食塩エネルギー調整食が19.8%と最も多く、2番目が嚥下調整食15.3%だった。当センターでは、誤嚥の心配な患者割合が多く、嚥下調整食の必要性がある患者が増加している結果であろう。きざみやブレンダーなどの再加工食は、総食数の26.9%を占め、患者の病状や嗜好等に配慮した禁止・個別対応食は、33.9%となった。低栄養患者への早期介入を行い、個別の患者対応を行うことが必要エネルギー量・たんぱく質を充足することに繋がると考え、取り組みを行った結果と考える。

また、令和3年度4月から調理業務受託会社がプロポーザル選考により、(株)LEOCに変更となった。調理業務内容が円滑に引き継がれるよう、仕様書内容の見直しを行うとともに、業務確認を行った。

（3）臨床栄養管理について

入院患者へ、医師、看護師と共に栄養状態等の評価を行い、必要栄養量・食形態を個別に考慮した「栄養管理計画書」を作成し、栄養改善が必要な患者には、病棟担当の管理栄養士が医師や看護師と連携して栄養管理の提案を行った。また、禁食中の患者に対して摂食嚥下機能に即した経口摂取開始のためのフローチャートを作成し、啓蒙活動を前年度に引き続き行った。この結果、禁食率は14.7%と低割合を維持することができた。

チーム医療の取り組みとして、NST回診総件数は298件であった。必要栄養量の評価、食事の内容や形態、経管栄養剤の調整がNSTの主な提案内容であり、エネルギー及びたんぱく質の充足率をアップさせ、治療に貢献できるように取り組みを行った。

そのほかにも令和2年度より、緩和ケアチームへ参加し、個別栄養食事管理加算の算定を90件、ICUと取り組みを開始した早期栄養介入加算の算定件数は421件だった。

3 研修・教育活動

（1）研修

高齢患者を中心とした臨床栄養管理が実践できることを目標に局研修・各種学会研修などに参加した。

（2）各種認定取得

令和3年度末の主な認定取得状況は、日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導士7人、日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士5人、日本病態栄養学会認定管理栄養士2人、日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士2人、日本栄養士会 摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士1人、災害支援チーム（JDA-DAT）1人となっており、今後も、専門・高度化する臨床栄養に対応する人材を養成し、治療に貢献していく。

（3）実習生の受け入れ

大学院生（臨床研究）1大学2グループの受け入れ、臨地実習訓練生2大学2グループの研修を行った。

4 その他

当センターの患者は、平均年齢が78歳の急性期高齢者であり、原疾患による栄養調整はもとより、合併症や加齢による摂食嚥下問題を有する患者も多い。病棟担当管理栄養士が、カンファレンスの参加やラウンドを行うことにより患者の病態把握に努め、適切な時期に食事内容や形態の提案を行えるよう体制を強化し、継続している。

さらに元年度からは、患者や家族及び退院後の行先に入院中の食事内容の説明を文書化した食事情報提供書を作成し、退院後の栄養管理に繋がるよう取り組みを開始した。

令和2年度は緩和ケアチーム、I C Uとの早期栄養介入加算などの新たなチーム医療の取り組みを開始し、3年度も継続して行った。

今後とも、多職種と連携し、管理栄養士が中核となって患者の栄養管理に取り組み、発展させていきたい。

臨床工学科

部長 時村 文秋

1 人員体制

〈部長〉副院長 時村文秋

〈技士長〉高岡祐子 〈主任技術員〉石井正晃・本田博一 〈主任〉小澤直人・新谷剛・和田智至・村野井一樹

〈主事〉若杉卓矢・梶真悠子・柴村真希・玉田史織・佐藤優・益山春香・石田みのり・金澤佑樹・山中健司

6月菅原美希が退職。7月高岡祐子が技士長となる。3月末の時点で、常勤16名。(内障害者枠技士2名)

2 診療活動・実績

1) コロナにおける対応

コロナ患者における機器操作や、周辺機器の整備依頼について迅速に対応。人工呼吸器、ECMO装置の更新を実施。コロナ関連業務サポートとして、都立病院への技士1名の派遣を行った。

2) 当直体制

現在11名が1直2勤務体制で当直を実施。夜間帯は特定集中治療室(ICU)での血液浄化・補助循環管理、病棟での機器トラブル対応、緊急心臓カテーテル業務、EMコール対応を行っている。オンコール者を毎日1名配置し、緊急手術や特殊治療対応などの複数名必要とする業務も安全に務められるように配慮している。

3) 透析センター

現在17床(内1床は陰圧室)、月～土曜日の午前・午後2クール制。腹膜透析の患者も対応。ICUでの血液浄化業務や病棟依頼の腹水濾過濃縮業務なども透析センタースタッフが対応している。入れ替え時間には他部署スタッフが応援することで、最小限の人員配置でスムーズな入れ替えができるようにしている。

4) 末梢血幹細胞業務

コロナの状況を考慮し、透析センターから病棟へ採取場所を変更し、血液内科依頼の末梢血幹細胞採取業務を臨床工学技士2名病棟出張し、医師の指示のもと採取業務に従事。

5) 手術室・ICU補助循環業務

手術室では人工心肺業務時は3名体制とし、通常業務として、手術室内の機器トラブル対応可能者を1～2名配置している。2008年導入した人工心肺装置を更新。

TAVIについてはハートチームの一員として、臨床工学技士3～4名を配置している。

ICUでのIABP、IMPELLA、ECMOなどの補助循環業務時には準備から維持管理まで医師・看護師と連携対応した。

7) 補助人工心臓管理

人工心臓管理技術認定士4人が看護師と協力し、植込型補助人工心臓患者(VAD)の管理や外来対応実施。

8) 血管造影室・ハイブリット室業務

心臓カテーテル業務には1名体制でポリグラフの操作、血管内超音波IVUS、光干渉断層法OCT、心臓カテーテル治療デバイスとしてエキシマレーザー治療やダイヤモンドバックの操作補助を担っている。コロナ禍であることから緊急入院カテーテル治療時は2名体制とし放射線科と安全治療体制を整えた。

9) 不整脈治療

不整脈治療対応者3名がアブレーション治療装置の操作、恒久的ペースメーカ植込み、手術患者の植込みペースメーカモード変更対応、院内・外来患者データーcheck、MRI撮像時の立会など幅広い業務対応を行っている。遠隔モニタリング管理も、現在5機種に対応し、医師業務負担軽減やメーカー立合い件数を減らせるよう努めている。

10) 血管外科業務

新たに、IVUS操作や、炭酸ガス造影対応業務依頼があり実施。

11) MEセンター業務

中央管理機器の貸出・返却・保守・点検、院内すべての修理の一元管理を行っている。在宅持ち込み患者機器についても毎日1日1回のラウンドし、転院サポートで搬送同行を行っている。医療機器の勉強会は看護部からの新人研修や、病棟での少人数対応することで、院内の安心・安全に貢献している。点検・修理業務は移設8年目ということもあり修理不能品が増加傾向にある。適正な更新が必要な機器が今後も増えていくため、事務と連携し、業務に支障が起きないような修理・更新対応を行っている。

3 今後の事業拡大について

毎年様々な業務依頼について、人員が増えないながらも対応可能者を育成している。医師時間外削減にむけタスクシフト/シェア可能な業務について、臨床工学技士が関与できるように、研修や資格取得を目指し、病院内のルール化を進めていきたい。今後の内視鏡業務、手術室・集中治療室常駐者の配置は人力的な補充を進めつつ、高齢者医療におけるセンターの変容に対応できるような体制づくりを行っていく。

高齢者バイオリソースセンター

部長 齊藤 祐子

1 人員体制

〈部長〉齊藤祐子（本務 研究所神経病理研究部長）

〈医師〉村山繁雄（同上 常勤特任研究員、クロスアポイント：大阪大学大学院連合小児発達学研究科ブレインバンク・バイオリソース部門）

〈臨床心理士〉小幡真希

〈臨床検査技師〉古賀裕、仁科春香

この他、非常勤研究員または兼務として約10名が活動している。バイオリソースセンターは、脳神経内科、放射線科、研究所テーマ神経病理、臨床画像と密接に連携している。

2 診療活動・実績

当センターにおける開頭剖検に加わり、研究所神経病理部門と協力し、半脳・脊髄・末梢神経・筋の凍結を原則として死後脳・脊髄・末梢組織リソースの蓄積と、生前臨床情報、PETを含む画像、体液バイオマーカーとの紐付けを継続した。当施設神経病理診断は、国内外で一流の評価を得ている。蓄積したバイオリソースは、高齢者ブレインバンクを通じて医学研究のために役立てられた。高齢者ブレインバンクでは、新学術コホート・生体試料支援プラットフォーム (<http://cohort.umin.jp/>) のホームページより、リソースを希望する研究者からの申請計画を常時受け付けている。申請計画は、各施設における倫理審査承認を前提とし、守秘義務下の学術審査として、日本神経科学ブレインバンクネットワーク構成施設責任者の一次審査、外部学術委員による二次審査承認後、健康長寿倫理委員会迅速審査承認を経るプロセスを踏む。利用希望者の要望に最適なリソース提供を目的に、インターネットカンファレンスを行う。令和3年度のバイオリソース共同研究数（高齢者ブレインバンクを含む）は48件と増加し、2021年度にもNature誌2件を含む、原著英文論文、32件に貢献できた。また当ブレインバンクオリジナルの論文もNeurologyを含め、10本と堅調に増加している。

欧米のブレインバンクは脳だけの蓄積であるのに対し、本邦では全身剖検を前提とするため、脊髄、末梢臓器の部分凍結も貴重な試料となる。髄液、血清についても蓄積を継続し、認知症に関連するサロゲートバイオマーカー検査結果と紐付けしてデータベース化することで、バイオバンク構築を継続した。

高齢者ブレインバンク生前献脳事前登録のため、治験と同様責任者が説明を行い、常勤臨床心理士がコーディネーターとして同意取得を行った。高齢者ブレインバンク生前同意事前登録者は2021年度までに累積216名（年間平均20例）となり、依頼元病院や医師の幅も広がっており、アウトリーチ活動の成果である。死亡後剖検し、高齢者ブレインバンクに本登録した数の累計は84名となった（2016以降年間10例を超える年度が増えている）。

ブレインバンク事業を全国規模に拡大するため、高齢者ブレインバンクを中核とする日本ブレインバンクネットワークの構築を進めており、東京大学、大阪大学をはじめとする国立大学、ナショナルセンター、国立病院機構の協力を得ている。生前献脳同意登録者の死亡時、ブレインバンク本登録支援に、日本の各地に拠点を形成するために出張支援を行うことで、オールジャパン体制の確立に貢献できた。

3 研修・教育活動

脳神経内科、研究所神経病理部門と共同で、毎週剖検例についてブレインカッティング、および臨床病理検討会（CPC）をWebで配信し、若手医師の脳神経内科診療レベルの向上と、神経病理学的診断のトレーニングを行っている。また、連携大学院生および研究生を多数受け入れ、教育的指導を行っている。

国内学会として、コロナの影響で、日本神経学会総会、日本神経病理学会総会、日本認知症学会、運動障害学会、自律神経学会、TOBIRA等において広報活動を行い、リソースを用いた研究発表を支援した。国際学会としては、国際アルツハイマー会議、米国神経病理学会に高齢者ブレインバンク年次活動報告を行った。

4 その他

本邦唯一のブレインバンクとして、国際的知名度を高める努力に加え、今後さらに精進していく予定である。

高齢者健康増進センター

部長 原田 和昌

1 人員体制

〈部長〉原田和昌副院長

〈副部長〉大淵修一（研究所）

〈医員〉杉江正光

〈非常勤〉奈良毬那（一般社団法人日本健康寿命延伸協会）

2 診療活動・実績

高齢者健康増進センターは平成23、24年度、「経済産業省 医療介護周辺サービス産業創出調査事業」への参画を通して、地域在住高齢者やフレイル高齢者を対象に健康増進の取り組みを実施し、平成25年の日本再興戦略：戦略市場創造プラン『国民の「健康寿命」の延伸』の施策に合致した健康寿命の延伸産業の育成を、健康増進センター業務受託企業（一社）日本健康寿命延伸協会と協働研究などを通して実施してきた。フレイル予防効果及び健康増進効果は高齢者健康増進センターが研究開発した「有酸素及びレジスタンス運動」と「遠赤外線低温サウナ」プログラムに確認されたことが論文で報告されている。またフレイル状況の可視化を容易にした健康寿命・フレイル評価プログラム「高齢者健康寿命総合評価（特許第6281690号）」を基に「有酸素及びレジスタンス運動」もしくは「遠赤外線低温サウナ」のどちらが適切な介入プログラムなのかを自動算出するプログラムも開発した（2020年特願）。その波及は群馬県富岡市の医療機関、神奈川県小田原市の事業者、群馬県南牧村（自治体）や千代田区に（一社）日本健康寿命延伸協会を通して及んだ。また本事業は、非常に注目され内閣官房健康医療戦略室や厚労省、経産省、また神奈川県庁、群馬県庁を始めとする自治体や、海外からの視察を受け入れてきた。

しかしながら、2020年は新型コロナウイルス感染症（Covid-19）のパンデミックによりPCR検査会場の開設が必要となり、また高齢者健康増進センターにおける3密回避の必要性もあることから2021年4月より高齢者健康増進センターをPCR検査会場として貸し出すこととなり、以降、増進センター運営は46名の待機者を残して一時閉鎖となった。

さらに、センターがフレイル予防センターを開設する方針となり、2021年3月をもって2011年度より10年運営した高齢者健康増進センターは運営を閉鎖する方針となった。2021年7月～9月3カ月間のみ46名の待機者への高齢者健康増進センター事業の提供を終えた後、高齢者健康増進センターは閉鎖する。

3 その他

閉鎖する方針となった増進センターでは、太陽生命株式会社やトヨタ自動車株式会社、東和薬品株式会社などの企業より共同研究の提案を受けたが、2020年閉鎖する方針となったことを受け、上記、（一社）日本健康寿命延伸協会をフロントとし、その監修を行うに留め活動した。

4 今後の展望

平成25年の日本再興戦略：戦略市場創造プラン『国民の「健康寿命」の延伸』にある「健康寿命の延伸産業の育成」を（一社）日本健康寿命延伸協会をカウンターパートとして実施してきた実績を踏まえ今後は高齢者健康増進センターモデルの広報普及や民間企業間での共同研究などを（一社）日本健康寿命延伸協会に担って頂く。

（文責：杉江 正光）

がん相談支援センター

センター長 時村 文秋

1 人員体制

東京都がん診療連携協力病院として平成28年度4月1日よりがん相談支援センターを開設。

令和3年度は副院長 時村(がん相談支援センター長)、看護部長 太田(同副センター長)、MSW 瀬川(専従相談員)、MSW 川口(専任相談員)を配置。またサポーターとして、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、薬剤師、臨床心理士、歯科衛生士、管理栄養士に運営協力を仰ぎ、連携して相談支援の充実を図った。

2 診療活動・実績

がん相談支援センターは、患者・家族のほか地域住民を対象に、がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについての相談支援、がんに関する情報提供・啓発を行うことを目的としている。

令和3年度の相談件数は872件。相談内容は、緩和ケア相談、転院相談、療養上の相談、治療の相談、不安・精神的苦痛に関する相談が上位を占めた。

広報活動として院内の外来エリアや病棟にポスターを掲示し、がん相談支援センターを周知。また、相談件数の多い呼吸器内科診察室には、がん相談支援センターのリーフレットを継続的に配布している。ほか、がん診療に携わる診療科の外来エリア(22番ブロック：呼吸器内科、消化器・内視鏡内科・外科)と、化学療法室に『疾患別冊子』(国立がん研究センター/がん情報サービス発行)の閲覧環境を整えた。地域住民に向けては、ホームページの掲載案内や、院内の渋沢サロンにがん情報コーナーを設けるなど情報提供を行っている。

患者サロン〈おれんじの会〉(例年は年4回開催)は、新型コロナウイルス感染予防のため、令和元年2月以降やむを得ず開催を見合わせている。コロナ禍に代替できる取り組みを模索した結果、今年度は院内広報誌『糸でんわ』に「がん相談支援センターだより」を掲載。がん患者にとって必要な情報を専門分野別に投稿し、年度内は、歯科衛生士編・がん化学療法看護認定看護師編・MSW編に分け計3回の記事掲載を行った。

3 研修・教育活動

専従・専任相談員、サポーターの認定看護師等とともに定期的にミーティング(毎月第3水曜日)を実施し、がん相談支援センターの運営について協議、各種ケースの相談や検証を行っている。

がん相談支援センター相談員研修(国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター主催)は、今年度、基礎研修(3)をMSW2名が申し込んだが希望者多数にて抽選外となり受講の機会を得られなかった。また基礎研修(1)(2)はMSW西山・MSW賀来2名が受講終了となった。

東京都がん診療連携協議会において、今年度共通テーマ「がん相談の質の向上」についてWeb会議での参加発表を行った。

4 課題

令和3年度も例年に引き続き〈院内外来診療との連携〉を重視した。しかし、がん相談支援センターの役割、機能については、さらなる周知が必要である。医師・外来看護師との連携、がん相談支援センタースタッフ間で密な情報共有が行える体制の構築が課題である。診断時から継続した相談支援が行える体制を目指す。

〈おれんじの会〉に関しては、新型コロナウイルスの収束や動向を見計らい再開を検討する。対面を避けるオンラインサービスの活用に関しては、高齢期の患者が多い当院の特徴を鑑み実用的か模索中である。そのため現状においては、院内広報誌『糸でんわ』に「がん相談支援センターだより」の投稿することで、がん患者の疑問や不安解消に寄与していく。

今後も院内、院外問わず適切な相談支援を提供し、患者・家族に寄り添ったがん相談支援センターの運営を継続する。

(文責：MSW 瀬川寿行)

看護部

部長 太田 日出

1 人員体制

〈部長〉太田日出

〈副看護部長〉荒木芳枝、富田千里、加納江利子、成田由香

令和3年度は、看護師定数473名。採用者数は、新人看護師32名、経験者看護師15名であった。

2 診療活動・実績

(1) 看護部の目標への取り組み

看護部では、①安全で安心な高齢者看護を提供する②正しい知識に基づいた、正しい感染予防対策を実施する③明確な目標を持ち、自ら学ぶ職員を育成する④職員の疑問や不安を解決できる組織リーダーを育成する⑤病院経営に参画する。5つの目標のもと、委員会、主任研修等で取り組んだ。

(2) 新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う活動

COVID-19 陽性患者を2病棟で、ECMO装着を要する重症者をICU病棟で受け入れを継続した。また臨時的に中和抗体治療病棟を設置する等、感染状況に応じて柔軟な病床再編に伴う人事異動を実施した。

2020年より、新型コロナウイルス感染症軽症者療養施設への看護師派遣を継続、感染状況に応じてその人数を調整した。また、都民へのワクチン接種会場開設の依頼を受け、21会場+訪問接種に看護師を派遣した。

3 研修・教育活動

(1) 看護実習の受け入れ

都立看護専門学校1校、看護大学4校の臨地実習を受け入れ予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により1大学の実習が中止となった。認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア学科等の実習を受け入れた。

(2) 各種認定の取得

特定行為研修を含む摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程2名、がん化学療法看護認定看護師教育課程1名修了、特定行為研修(在宅パッケージ)に1名派遣した。特定行為を含む糖尿病看護認定看護師2名、がん化学療法看護認定看護師1名が合格した。

(3) 研究・学会関連

4部署が看護研究を開始し、院内看護研究中間発表会にて発表した。日本老年看護学会、日本エンドオブライフケア学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会、環境感染学会等で研究発表をした。

●委員会活動

1 キャリアサポート委員会

活動内容：感染症対策を徹底し感染発生なく計画通りに院内研修を実施した。

(1) 新人看護職員臨床研修

臨床研修はOJTを中心とし、節目に集合研修を行った。配属前、年度後半にローテーション研修を実施し、体験できなかった看護技術や興味のある部署のケアを学ぶ機会とした。

(2) 院内研修

成果：キャリアラダーレベルⅠ28名、レベルⅡ40名、レベルⅢ41名が修了した。9月より第3期高齢者看護エキスパート研修を開始した。また、全2回にわたるフレイル予防セミナーを開催した。

2 看護記録委員会

活動内容：看護記録の質向上に向けて以下に取り組んだ。

(1) 看護記録監査の実施

看護記録の質監査に加えて、全病棟の1患者の記録のプロセスを、記録検討会で振り返り改善点等について部署へフィードバックした。

(2) 急変対応時記録の充実・リアルタイム記録実態調査・重症度、医療・看護必要度の精度向上に取り組んだ。

3 クリニカルパス委員会

活動内容：クリニカルパスの新規作成や見直し及びバリエーション分析に取り組み、DPCに関する勉強会を実施した。クリニカルパス適応率は46.2%、有効率は77.1%であった。

4 実習指導者委員会

活動内容：実習の中止や期間短縮となる中で、質の高い実習ができるよう指導のポイント等の学習会を実施した。WEBによるカンファレンスの開催等、学校とともに実習環境の整備に取り組んだ。

5 看護サービス向上委員会

活動内容： 看護サービス向上を目的に取り組んだ。

(1) 身だしなみ点検の実施

ポスターを年に2回作成し、全看護職員にメールにて周知した。また、身だしなみのアンケート調査を実施、結果分析・検討を行うことで職員に課題を周知することができた。

(2) 接遇の見直しについて

接遇マニュアルの見直しを行い、電話・メール・会話における注意点と基本を示し接遇の他者評価が向上した。

(3) 看護白衣のリサイクル会を開催、新人や妊婦から好評を博し、また、在庫整理・有効活用に繋がった。

6 システム委員会

活動内容： 電子カルテシステムに関する改善要望の検討とシステム停止に関する整備を行った。

(1) 入力項目の正確性や業務の効率化を目的に経過表のセット展開の充実のほか、安全管理の視点でシステム改善の要望を提案した。

(2) システムダウン時の紙カルテ運用に伴う記録用紙、伝票類の整備をおこなった。

7 看護部感染対策委員会

活動内容： 新型コロナウイルス感染症流行下においても、安心・安全な看護および療養環境の提供を行った。

(1) 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス対策として、職員自身の感染対策の徹底と、患者自身の感染予防策として、入院・外来共にマスク装着の必要性の指導と装着確認を行った。

(2) 手指衛生推進として各部署での動画撮影によるKYT活動、ベストプラクティス活用による環境整備推進を行った。

8 リスクマネジメント看護分科会

活動内容： 安全な看護の提供を目指し、下記の取り組みを行った。

(1) 患者誤認ゼロ：現場で指差し呼称を正しく行えるように指導し、全看護師のチェックを実施した。

(2) 転倒転落防止：転倒転落防止のアセスメントスコアシートとカンファレンスシートを見直し統合した。

(3) 急変時対応能力の向上：急変時対応DVDを全職員が視聴し、訓練を全看護師が実施した。

(4) 内服・注射：前年度のインシデントレポートの分析を行い、マニュアルの改訂を行った。

9 褥瘡・栄養サポート委員会

活動内容： 褥瘡対策および栄養サポート、排泄ケアに関する知識・技術の向上、褥瘡・スキンケアの発生予防、栄養・排泄状態の維持改善を目標に取り組んだ。

(1) 褥瘡発生防止対策

褥瘡に関するデータ集計・分析、褥瘡対策チームラウンドカンファレンスを毎週実施。院内(自重)褥瘡発生率は1.1%(全国平均値1.2%)であった。医療機器関連圧迫創傷(医原性)は、0.7%(全国平均値0.26%)、コロナ感染症に起因する酸素マスク・酸素カニューレ・医療用サージカルマスク等の影響があったと考える。

(2) 禁食患者に対する経口摂取開始への取り組みとして、誤嚥性肺炎患者に対し、オーラルヘルスアセスメントツール(OHAT)を用いたケアの統一と経口摂取開始チャートを用い、経口摂取移行率41%の成果を挙げた。

(3) 排泄アセスメントの周知を図り、排泄についてアセスメントした記録記載が昨年度比48%向上した。

10 退院支援チーム

活動内容： 以下の取り組みを行い、リンクナースへの教育、退院支援内容の強化を図った。

(1) 退院支援に関する基礎知識の5分学習会を行い、各部署での伝達講習会を実施

(2) 看護サマリ・マニュアルの見直し、記録の質監査 (3) 退院支援ラダーの実施、疾患別マニュアルの活用

11 認定看護師・専門看護師連絡会

活動内容： コロナ禍でも変わらない看護の原点を伝える取り組みを行った。

(1) ナーシングスキルによる学習動画の作成：『排泄』をテーマに趣向を凝らした動画を作成し配信した。

(2) 「看護を語る会」を開催し、4名の看護師の心に残った看護について語る会を実施した。

(3) たんぽぽ会はオンライン開催とし、9施設(内新規2施設)18名が参加、非常に満足90%の結果を得た。

12 認知症ケア委員会

活動内容： 認知機能障害のある患者への尊厳に配慮したケアの実践を目指し、以下の活動を行った。

(1) 認知機能障害のある患者に対するアセスメント能力向上への取り組みとして、認知症ケアに関する自己チェック(知識編)を実施し、知識不足の内容について勉強会を実施した。

(2) ADL(食事)に関するアセスメント能力の向上をめざし、認知症患者の食事を包括的にアセスメントできるKTバランスチャートを活用し、事例の分析を実施した。

(3) 個別性のある看護過程の可視化への取り組みとして、認知症患者の特徴に適した看護診断のフローチャートを作成した。

(4) 身体抑制の最小化と評価に向け、病棟別毎にアンケートを行い身体抑制に関する課題を抽出した。

1 令和3年度 東京都健康長寿医療センター 看護部院内研修年間実績報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

コース名		対象者	研修名	予定時間	講師	会議室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ベ ー シ ッ ク コ ー ス	レ ベ ル I	令和3年 4月採用者	新人看護職員臨床研修	看護部概要Ⅰ・Ⅱ	1時間	看護部	3階AB	1 (木)										
				看護倫理	0.5時間	看護部	3階AB	1 (木)										
				感染管理Ⅰ－①	1時間	院内講師	3階AB	1 (木)										
				感染管理Ⅰ－②	3時間	院内講師	多目的室	7 (水)										
				接遇研修	3時間30分	外部講師	3階AB	7 (木)										
				電子カルテ操作研修	3時間	院内講師	カンファレンス室	13 (火)										
				災害対応（防火・防災設備について）	2.5時間	院内講師	3階AB	13 (火)										
				安全管理Ⅰ－①	3時間	セーフティマネジャー	3階AB	14 (水)										
				高齢者看護総論	2時間	院内講師	3階AB	14 (水)										
				看護記録Ⅰ－①（必要度含む）	2時間	院内講師	3階AB	15 (木)										
				高齢者看護Ⅰ（摂食嚥下①）	2時間	院内講師	3階AB	15 (木)										
				トランスファー	2時間	院内講師	3階AB	15 (木)										
				ME機器	3時間	外部講師	3階AB	16 (金)										
				採血	3時間	院内講師	3階AB		17 (月) PM									
				サポートカンファレンス	計5時間30分	院内講師	3階AB	7 (木) 13 (火)	17 (月) PM	8 (木)		28 (火) PM		2 (火)				
				高齢者看護Ⅰ（フィジカルアセスメント）	計7時間30分	外部講師	3階AB			8 (木)		2 (木)		2 (火)				
				看護記録Ⅰ－②	8時間	外部講師	3階AB			9 (金)								
				事例検討Ⅰ	4時間30分	院内講師	3階AB					2 (木) PM				14 (金) 発表		
				安全管理Ⅰ－②	3時間	セーフティマネジャー	3階AB					28 (火) PM						
				高齢者看護Ⅰ（摂食嚥下②） 選択研修	3時間	院内講師	3階AB						8 (金) PM					
				静脈注射	4時間	院内講師	3階AB							29 (月)				
				高齢者看護Ⅰ（認知機能障害）	4時間	院内講師	3階AB								3 (金) PM			
				事例検討Ⅰに係る付与時間	4時間													
			レベルⅠ 合計		75時間													

1 令和3年度 東京都健康長寿医療センター 看護部院内研修年間実績報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

コース名		対象者	研修名	予定時間	講師	会議室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ベーシックコース	レベルⅡ	レベルⅠ 修了者	看護倫理Ⅱ	各3時間	院内講師	3階AB		27 (木) 31 (月)										
			事例検討Ⅱ	各5時間	院内講師	3階AB		27 (木) 31 (月)							17 (金) 発表 20 (月) 発表			
			看護記録Ⅱ	8時間	外部講師	3階AB			11 (金)									
			安全管理Ⅱ	各1時間30分	セーフティマネージャー	3階AB				12 (月) 14 (水)								
			感染管理Ⅱ	各1時間30分	院内講師	3階AB				12 (月) 14 (水)								
			高齢者看護Ⅱ (認知機能障害)	各4時間	院内講師	3階AB							18 (月) 19 (火)					
			リーダーシップⅡ	2時間	院内講師	3階AB										31日 (月) PM		
			事例検討Ⅱに係る付与時間	7時間		3階AB												
			レベルⅡ合計	28時間														
	レベルⅢ	レベルⅡ 修了者	事例研究	計8時間	院内講師	3階AB		14 (金)									18 (金) 発表 21 (月) 発表	
			事例研究相談 選択研修 (付与時間使用)	2時間	院内講師	3階AB				6 (火) AM								
			高齢者看護Ⅲ (エンド・オブ・ライフケア)	各3時間	院内講師	3階AB			3 (木) PM 7 (月) PM									
			安全管理Ⅲ	各4時間	セーフティマネージャー	3階AB				5 (月) PM 6 (火) PM								
			看護記録Ⅲ	7時間	外部講師	3階AB							13 (月)					
			感染管理Ⅲ	各1時間	外部講師	3階AB			3 (木) PM 7 (月) PM				13 (月)					
			高齢者看護Ⅲ 統合演習	各4時間	院内講師	3階AB								15 (月) PM 16 (火) PM				
			事例研究に係る付与時間	12時間														
			レベルⅢ合計	41時間														
ジェネラルコース	レベルⅣ	レベルⅢ 修了者	看護倫理Ⅳ (2回は同一内容)	各4時間	院内講師	3階AB		25 (火)				29 (水)						
			リーダーシップⅣ	計11時間	外部講師	3階AB			18 (金)					5 (金) PM				
			高齢者看護Ⅳ (フィジカルアセスメント)	計6時間	院内講師	3階A他			21 (月) PM						13 (月) PM		3 (木) PM	
			指導者	各8時間	外部講師	3階A			28 (月) 2部制									11 (金) 次年度対象者
			看護記録Ⅳ (看護記録指導者)	計12時間	外部講師	3階A						10 (金)			8 (金) AM			
			教育担当者	2時間	院内講師	3階A												3 (木) PM
			看護研究導入研修	各3時間	外部講師	3階A			10 (木)				7 (木)					
			看護研究面接・発表	計43時間	外部講師	3階A		13 (木)		22 (木)		21 (火)		25 (木)		6 (木)	21 (月) 発表	
			高齢者看護エキスパートコース	計48時間	外部講師 院内講師	3階A等							4 (月)	19 (金)	2 (木)	7 (金)	4 (金)	14 (月)
			レベルⅣ合計	137時間														

1 令和3年度 東京都健康長寿医療センター 看護部院内研修年間実績報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

コース名		対象者	研修名	予定時間	講師	会議室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全レベル対象			メンタルヘルスケア	各1時間			23 (金)	21 (金)	15 (火)	20 (火)		9 (火)	12 (火)	30 (火)	10 (金)	11 (火)	15 (火)	8 (火)	
			退院調整・支援	4時間										15 (金)					
マスターコース	マネジメントコース		看護マネジメント研修	各2時間	看護部	3階AB		27 (木)	24 (木)	29 (木)		17 (金)	28 (木)	10 (水)	17 (金) 23 (木)	12 (水) 27 (木)	24 (木)	24 (木)	
			係長昇任前研修	1時間	看護部	3階AB												7 (月)	
			主任昇任前研修	2時間	看護部	3階AB												3 (木)	
			昇任主任研修	2時間	看護部	3階AB												10 (木)	
			主任課題研修	各2時間	看護部	3階AB				27 (火)		6 (月)	5 (火)	12 (金)	21 (火)	21 (金)			
			経験者採用		経験者採用職員研修	各8時間	院内講師	トレーニング ルーム等	1 (木) 2 (金)					1 (水)		1 (月)		4 (火)	1 (火)
フォローアップ研修 (1ヶ月・3ヵ月・6ヶ月)	計5時間	院内講師			3階A		7 (金)	30 (水)					29 (金)						
看護助手			看護助手の役割	各1時間	看護部	3階AB			14 (月) 22 (火)										
			医療安全(安全)	各1時間	セーフティマネジャー	3階AB			14 (月) 22 (火)										
			食事介助、移動・移送	2時間	院内講師	3階AB						17 (金)							
			医療安全(感染)	各1時間	院内講師	3階AB										6 (月) 10 (金)			

2 令和3度 看護部院外研修派遣実績

研修内容	対象者数(人)	研修日数(日)	延べ人数(人)
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ	29	1	29
9/3、10/15、11/9、3/4			
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ	1	1	1
11/27			
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅲ	1	1	1
2/20			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：臨地実習指導者研修	2	2	4
4/22、23			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：リスクマネジメント（基礎）	2	2	4
10/26、11/11			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：リスクマネジメント（リーダー養成）	2	2	4
11/11、26			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：看護倫理入門（Ａクラス・Ｂクラス）	4	1	4
各6/8、11/25			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：看護倫理リーダー研修	2	5	10
9/14、22、10/5、27、28			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：院内教育担当者研修	2	5	10
6/11、29、7/6、15、20			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：人材育成スキルアップ研修	3	4	12
10/19、20、11/4、18			
東京都福祉保健財団・病院経営本部研修：看護記録監査者研修	2	5	10
6/1、4、18、7/2、16			
東京都看護協会：あなたもできる退院支援・退院調整～実践事例で学ぼう～	1	1	1
8/17			
東京都看護協会：医療安全管理者養成研修（フォローアップ研修）	1	1	1
8/20			
東京都看護協会：看護補助者活用促進のための看護管理者研修改訂版2020	2	1	2
10/2			
株）ビジネスブレーン：看護管理者研修 看護補助者の活用と成長支援	1	1	1
4/4			
透析療法従事者研修	1	2	2
8/23、24			
同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修	1	1	1
9/19			
救急車同乗研修（板橋消防署）	2	1	2
各9/16、10/21			
東京都政策連携団体：課長代理研修	6	1	6
各10/1、11/4			
認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」	2	40	80
9/3～10/23埼玉医科大学職員キャリアアップセンター、12/5～2/3東京都看護協会			
合計	67	78	185

3 令和3年度 学会派遣実績

NO	学会名称	開催日	会場（開催地）	対象者数（人）	研修日数（日）	延べ人数（人）
1	日本老年看護学会第26回学術集会	6/12～13	WEB開催	1	1	1
2	第26回 日本緩和医療学会学術大会	6/18～19	WEB開催	3	1	3
3	第30回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	7/3～5	WEB開催	3	1	3
4	日本看護学教育学会第31回学術集会	8/18	WEB開催	1	1	1
5	日本看護研究学会第47回学術集会	8/21～22	WEB開催	1	1	1
6	第25回 日本看護管理学会学術集会	8/28～29	WEB開催	5	1	5
7	日本災害看護学会第23回年次大会	9/4～5	WEB開催	1	1	1
8	第23回 日本褥瘡学会学術集会	9/10～9/11	WEB開催	4	1	4
9	日本エンドオブライフケア学会	9/18～19	WEB開催	3	1	3
10	第26回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9/18～19	WEB開催	1	1	1
11	第36回 日本環境感染学会総会・学術集会	9/19～20	WEB開催	5	1	5
12	第52回 日本看護学会（幕張メッセ）	9/28～29	WEB開催	3	1	3
13	第25回 日本心不全学会学術大会	10/1～3	WEB開催	5	1	5
14	日本家族看護学会第28回学術集会	10/2～3	WEB開催	1	1	1
15	日本看護技術学会第19回学術集会	10/9～10	WEB開催	2	1	2
16	第35回 日本手術看護学会年次大会	10/16～17	WEB開催	2	1	2
17	第23回 日本救急看護学会学術集会	11/12～13	WEB開催	1	1	1
18	第31回日本呼吸ケアリハビリテーション学会・学術集会	11/12～13	WEB開催	1	1	1
19	第24回 日本腎不全看護学会学術集会・総会	11/13～14	WEB開催	2	1	2
20	第52回 日本看護学会（朱鷺メッセ）	11/18～19	WEB開催	1	1	1
21	第59回 日本人工臓器学会大会	11/25～27	WEB開催	2	1	2
22	第21回 日本クリニカルパス学会学術集会	11/26～27	WEB開催	1	1	1
23	第16回 医療の質・安全学会学術集会	11/27～28	WEB開催	5	1	5
24	第2回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会	12/ 4～5	WEB開催	2	1	2
25	第17回 東京都福祉保健医療学会	12/17～27	WEB開催	3	1	3
26	第36回 日本がん看護学会学術集会	2/19～20	WEB開催	7	1	7
27	第38回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2/26～27	WEB開催	1	1	1
28	第44回 日本造血細胞移植学会総会	3/10～12	WEB開催	2	1	2
29	第47回 日本脳卒中学会学術大会	3/17～19	WEB開催	2	1	2
30	第49回 日本集中治療医学会学術集会	3/18～20	WEB開催	1	1	1
31	第9回 PNS研究会	3/6	WEB開催	15	1	15
	合計	-	-	87	87	87

4 令和3年度 研修生受け入れ実績

	研修内容	受入数	実習日数	延人数	主催施設
特定行為研修 区分別科目 「栄養及び水分管理に係わる薬剤投与関連」 10月13日～10月29日	臨地実習	2	13	26	愛知県看護協会
特定行為研修 領域別パッケージ研修 「在宅・慢性期領域」 3月14日～5月31日	臨地実習	1	10	10	日本看護協会看護研修学校
認定看護師教育課程「皮膚・排泄ケア学科」 10月26日～12月9日	臨地実習	2	27	54	日本看護協会看護研修学校
認定看護師教育課程「認知症看護学科」 10月7日～8日 10月11日～12日	臨地実習 (見学実習)	5	2	10	日本看護協会看護研修学校
合計		10	52	100	

5 看護実習生受け入れ実績

学 校 名	学生数	実習日数	延人数	実習科目
都立板橋看護専門学校	42	2	84	基 礎 実 習 I
	38	4	152	老 年 看 護 I
	33	9	297	老 年 看 護 II
	17	8	136	成 人 看 護 学 I
	11	8	88	成 人 看 護 学 III
	42	4	168	統 合
東京都立大学	2	7	14	総合臨地看護学実習 (高 齢 者)
帝京平成大学	70	1	70	基礎看護学Ⅰ-① (リ モ ー ト)
日本医療科学大学保健医療学部看護学科	30	1	30	基礎看護学Ⅰ-①
	24	4	96	基 礎 看 護 学 II
	18	7	126	統 合 実 習
	21	2	42	高 齢 者 看 護 学 II
合計	348	57	1,303	

6 令和3年度 看護体験受け入れ実績

開催なし

7 令和3年度 講師派遣実績

	講 師 名	科 目 (講義内容)	時間数	回数	施設名
1	加 納 江 利 子	看護管理	3時間	3回	東京都立板橋看護専門学校
2	蛭 原 大 作	災害危機管理Ⅰ 組織マネジメント論	1時間半	1回	国際医療福祉大学大学院
3	蛭 原 大 作	災害看護	1時間半	2回	東京都立板橋看護専門学校
4	蛭 原 大 作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
5	蛭 原 大 作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
6	蛭 原 大 作	効果的な実習指導	6時間	1回	東京都ナースプラザ
7	野 島 陽 子	高齢者の排泄ケア	3時間	1回	東京都ナースプラザ
8	野 島 陽 子	演習 排泄障害の管理	6時間	1回	公益社団法人日本看護協会 看護研修学校
9	野 島 陽 子	女性のための排泄ケア講座	2時間	1回	板橋区保健所 板橋区女性健康支援センター
10	野 島 陽 子	医師の視点と看護の視点を統合させた新しい創傷管理	3時間	1回	コンパテック ジャパン株式会社
11	白 取 絹 恵	高齢者と介護・医療に関する基礎知識「こころとからだの理解」	3時間	1回	公益財団法人東京都福祉保健財団
12	白 取 絹 恵	認知症のひととのコミュニケーション	3時間	2回	東京都ナースプラザ
13	白 取 絹 恵	「東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ」講義動画、演習講師	3時間	5回	東京都地域拠点型認知症疾患医療センター 東京都健康長寿医療センター
14	白 取 絹 恵	「東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ」講義動画、演習講師	3時間	5回	東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター
15	白 取 絹 恵	「東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅲ」講義動画、演習講師	3時間	5回	東京都福祉保健局
16	木 村 陽 子	統合実習 認知症看護認定看護師インタビュー講義	1時間	1回	帝京平成大学
17	木 村 陽 子	「自宅で生活する認知症の方の最善の医療とケアの選択支援」 ZOOM勉強会	2時間	2回	千駄木訪問看護ステーション
18	出 崎 奈 美	放射線技師に必要な感染対策	1時間半	1回	日本医療科学大学診療放射線学科
19	出 崎 奈 美	高齢者支援において気を付ける衛生面のポイント	1.5時間	1回	社会福祉法人 府中市社会福祉協議会
20	佐 々 木 知 輝	北海道医療大学生涯学習講座「ちょっと役立つ看護の知恵」	2時間	1回	北海道医療大学
21	石 川 峻	臨床推論とリーダーシップ	4時間	1回	公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院
22	石 川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
23	石 川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
24	高 木 美 那	高齢者の健康障害時の看護	4時間	2回	東京都立板橋看護専門学校
25	高 木 美 那	高齢者のスキンケアと褥瘡ケア	3時間	2回	東京都ナースプラザ
26	松 崎 弘 美 根 岸 由 香 江 渕 澄	コロナ禍での退院支援について ケアマネ交流勉強会	1時間半	1回	常盤台地域包括支援センター
27	仲 程 知 恵	フットケアに対する悩みを共有して、あなたにもできるフット ケアを考える	3時間半	1回	株式会社 三和化学研究所
28	前 田 浩 子	東京都ナースプラザ 実習指導者研修 (31日間) 指導案作成指導	3時間	4回	東京都ナースプラザ

8 令和3年度 著書（執筆）実績

	著者名	論文名	書名	出版社
1	石川 峻	超高齢重症患者へのクリティカルケア ～面会制限のなかで意思決定支援を強いられた事例～	看護技術 2022年3月号	メヂカルフレンド社
2	野島 陽子	「創傷における薬物療法について」	Uro-Lo	メディカ出版
3	野島 陽子	「皮膚疾患・皮膚障害の見方とケア方法：逝去時のスキンケア」	看護技術2021年12月号	メヂカルフレンド社
4	佐藤 雅美	「皮膚疾患・皮膚障害の見方とケア方法：逝去時のスキンケア」	看護技術2021年12月号	メヂカルフレンド社
5	白取 絹恵	「症状の変化・進行にあわせた本人や家族との対話 事例：かかりつけ医のすすめで受診を受け入れて来院したCさんと心配する妻」	「認知症plus意思表明支援」	日本看護協会出版会
6	白取 絹恵	「BPSDの理解、認知症ケアの基本原則、認知症ケアにおけるアセスメントツールと活用法、認知症ケア認知症ケアの具体的な実践、正常圧水頭症のケア、AGDのケア、認知症患者への環境調整、認知症ケアにおける倫理的課題」	「認知症ケア・マネジメント図鑑 認知症ビジュアルガイド」	学研
7	佐々木 知輝	今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント「高齢者へのフレイル 予防ケア～日常生活に焦点を当てた支援～」	WOCNursing 2021 Vor.9 NO. 7	医学出版
8	高木 美那	「ろう孔に対するアセスメントとケア」	看護技術2021年5月号	メヂカルフレンド社
9	高木 美那	「IADに対するアセスメントとケア」	看護技術2021年8月号	メヂカルフレンド社

9 令和3年度 学会発表実績

NO	研究者名	演 題 名	学会名称	年月日	発表形式
1	石川 峻	IDを応用した心肺蘇生教育の実装の普及 ～院内医療者へのAHA BLS・ACLS～	第14回 日本教授医療システム学会学術集会	令和3年6月	シンポジスト
2	佐々木 知輝	心不全をもつ高齢者と医療者における終末期を見据えた療養に関する対話の現状	日本老年看護学会第26回学術集会	令和3年6月	示説
3	野島 陽子、高木 美那	乳がん患者への創傷ケア介入から見えた私達皮膚・排泄ケア認定看護師の役割について	第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	令和3年7月	示説
4	木村 陽子、亀谷 由佳子	急性期一般病棟で経験した超高齢患者の看取りと倫理検討	日本エンドオブライフケア学会第4回学術集会	令和3年9月	示説
5	堀川 由加里、亀谷 由佳子、佐藤 雅美、佐々木 知輝	当院エンドオブライフケア委員会におけるACP実践に向けての取り組み報告	日本エンドオブライフケア学会第4回学術集会	令和3年9月	示説
6	中島 恵、出崎 奈美	医師への個人防護具着脱教育	第36回日本環境感染学会総会・学術集会	令和3年9月	示説
7	園田 都美子、篠原 悠、糸井 進司	新型コロナウイルス感染症の軽症者等宿泊療養施設における看護師体制の構築 ～看護師支援で見えてきたもの～	第17回東京都福祉保健医療学会	令和3年12月	口頭
8	松崎 弘美、根岸 由衣、江渕 香澄、荒木 芳枝	COVID-19流行下での高齢者・家族への退院支援	第17回東京都福祉保健医療学会	令和3年12月	口頭
9	千葉 まり、菅原 志保、宇野 珠里	入院中に行った退院支援と実際の生活との差異	第17回東京都福祉保健医療学会	令和3年12月	口頭
10	新上 優美、鉄谷 祥子	集中治療室入室中の末期心不全患者の意思決定支援におけるナース・アドボカシーの実践	第86回日本循環器学会学術集会	令和4年3月	示説
11	富田 千里、太田 日出、荒木 芳枝、加納 江利子、成田 由香、小笠原 裕子、鉄谷 祥子、蛸原 大作	PNS導入への取り組み	第9回PNS研究会	令和4年3月	口頭
12	石堂 正枝、治久丸 尚美、水木 宗一郎、成田 由香	コロナ禍における看護方式の違いによる他病棟での業務の現状と課題	第9回PNS研究会	令和4年3月	口頭

医療連携室

室長 竹内 雅貴

1 令和3年度の活動

○令和元年度実績について

紹介率 70.7%（令和2年度：69.1%）

逆紹介率 82.2%（令和2年度：77.7%）

紹介状受取件数 13,705件（令和2年度：13,153件）

○センターにおける急性期治療が終了し、かかりつけ医をお持ちでない患者さんへ、かかりつけ医紹介窓口にて、医療機関の紹介を行った。

窓口対応件数 396件（令和2年度：286件）

○センターのPRのため、医療機関への訪問、連携NEWSの発行、製薬会社と共催にて各種セミナー、公開CPCの開催（日本医師会生涯教育制度における単位取得）連携医療機関数の増加に努めた。

連携医療機関登録数 806件（令和2年度：795件）

※令和3年度は52件の新規登録があったが、閉院等もあり前年比11件の増加となった。

各診療科セミナーは5回開催した。

【内容】

令和3年4月8日（木）

第3回高齢者医療を考える会 ～健康寿命を延ばすための治療とは～

令和3年4月13日（火）

糖尿病セミナー

令和3年7月13日（火）

高齢医学セミナー

令和3年10月20日（水）

健康寿命の延伸を考える会 ～心血管系イベント抑制とフレイルー高齢医学セミナー～

令和4年3月29日（火）

心臓弁膜症治療講演会 ～高齢者に対するTAVIの実際と治療ガイドライン～

○救急外来患者増加を目指し、救急部会の事務局として活動している。

救急患者受入総数10,339人（令和2年度：8,683人）

救急車受入件数は4,333台（令和2年度：3,575台）

断り率は26.7%（令和2年度：28.5%）※主な断り理由は適応ベッド満床、専門医不在等の理由である。

○病床利用率（病院全体）72.1%（令和2年度：70.4%）

平均在院在院日数（病院全体）11.8日（令和2年度：12.4日）

新入院患者数 11,337名（令和2年度：10,552名）

○東京都在宅難病患者一時入院事業実績

24件（令和2年度：20件）

○連携病院の協力体制の強化、後方病床確保のため継続して医師派遣を行っている。

○慈誠会グループとは、継続してWGを開催している。

在宅医療・福祉相談室

室長 奥村 真木

1 人員体制

【係長】奥村真木、中馬かつら（年度途中育休復帰） 【次席】川口東子【主任】清水義尉、津川晴奈、瀬川寿行、西山亜矢子【主事】竹原史穂、賀来尚人、杉山由実子、岩崎藍子【非常勤】小澤利香（産休代替）

2 活動内容・実績

【相談件数・内容】

相談業務総件数は78,026件。相談内容の内訳は、退院に伴う相談が最も多く81.4%（内、転院・施設入所の相談75.8%、自宅退院に向けての相談が7.1%）。次いで療養上の相談4.3%、経済相談3.1%、福祉制度の相談3.1%となっている。

転院相談では、長期療養可能な療養型病院をはじめ、治療継続な一般病院、回復期リハビリテーション病院、地域包括ケア病院、介護施設への入所には、老健・有料ホーム・サ高住など様々なニーズに応じて情報提供を行った。自宅への退院調整には、ケース内容（点滴・酸素・吸引など医療行為がある患者で手技指導が必要な場合）により同室の在宅看護相談室と協力しながら進めている。

【退院支援】

在宅医療・福祉相談室は、積極的な早期介入・早期退院、在院日数の短縮とベッド稼働率とのバランスに努めている。具体的には、日々病棟カンファレンスへの参加、病棟ラウンドを実施。チーム医療を意識し医師・看護師・コメディカル・事務員等スタッフとの情報共有、方針協議を日々積極的に行っている。とりわけ、入院前からの早期介入を心掛け各種支援を行った。

今年度も新型コロナウイルスの流行は収まらず、板橋区「新型コロナウイルス対策に係る病院間連携体制整備事業」〈板橋区医師会 療養相談室〉の活用を中心に新型コロナウイルス感染患者の円滑な退院支援にも注力した。今年度、上記事業による退院調整件数は52件であった。

退院支援をより効率的に行うため〈脳卒中地域連携パス〉の利用も推進。現在、8病院と連携パス協定を結び、速やかにリハビリへ移行出来るよう転院調整を進めている。

また、専従MSWによるセンター全体の長期入院患者管理を開始して6年目を迎えた。これは、入院が長期化している理由を解明し、今後の方向性を各診療科部長及び主治医等に確認し速やかな退院支援を推し進めるものである。前年までは入院25日以上患者を対象としてきたが、長期入院をより一層、予防すべく、今年度より入院18日以上患者を対象とするよう基準を改めた。今後も、専任MSW及び医師・看護師等多職種で協働しながら長期入院患者数の削減を促進する。

【退院支援加算Ⅰ】

今年度も引き続き「入退院支援加算Ⅰ」（600点/件）の算定に尽力した。コスト算定のため日頃から病棟や在宅看護と積極的に連携している。算定要件は従前同様、入院後3日以内に患者の状況を把握、7日以内に患者・家族の意向確認、同じく7日以内に4者（病棟看護師・病棟専任MSW・在宅看護師・専従社会福祉士）間で多職種カンファレンスを実施、20医療機関等と年3回面会し情報共を図ると定められている。医療機関等との面会は、コロナ渦ゆえに例年行われていた会議（対面）の中止や地域の医療機関・介護施設等への訪問等を控えざるを得ない状況が継続したが、リモート会議の導入や感染者数の動向、時期を見計らっての会議開催など解決策を模索し連携強化に取り組んだ。結果、令和3年度のコスト件数は、3,954件であり、前年度より988件増加した。

【その他の業務】

医療・福祉情報紙『ごぞんじですか?』作成・配布/退院支援チーム参加（12回/年）/東京都脳卒中地域連携パス合同会議（1回/年）/慈誠会SW部会参加（3回/年）/看護部院内研修講師（1回/年）

（文責：川口東子）

老年学情報センター

宮本 孝一

老年学情報センターは、健康長寿医療センター職員用図書館として、臨床・教育・調査・研究を、資料の収集・提供及び学会発表の補助で支援している。

看護部の院内研修では、文献検索・文献入手、老年学情報センターの利用案内、スライド作成について講義を行った。

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行

新型コロナウイルス感染症の流行は令和3年度もつづき、各種学会は集会型からオンライン型開催になったため、学会ポスター作成の補助作業はなかった。文献取り寄せの申し込み件数は前年度と同等で、減少は見られなかった。

(2) 購読雑誌の選定

洋雑誌は2020年購読誌のうち12誌が購読中止となった。年間購読価格は平均2.2%程度の値上がりとなった。円高の影響もあり値上げ率は抑えられた。2022年の購読誌の選定では、半年の調査で利用が少なかった冊子購読誌4誌が購読中止に決定した。またオンラインジャーナル2誌が新たに加わった。

和雑誌は、前年に比べ1誌中止（休刊）・1誌追加となった。令和4年度の購読誌の選定では、半年間の調査で利用が無かった10誌を購読中止とし、新たに1誌追加となった。

(3) 図書の購入

夏の図書購入では、インターネット通販で価格が定価より安価な図書の購入を初めて行った。冬は日程的な都合から通常通り、書店発注での図書購入のみ実施した。

(4) 広報

センター公式Twitterで、養育院・渋沢記念コーナーに関する情報発信を行うこととなった。センターホームページでは、情報センターの紹介ページや養育院・渋沢記念コーナー、養育院史に関するページを大幅に改訂した。職員向けにはTwitter風のミニニュースも開始。

●運営報告

①資料の収集・整理 令和3年度

雑誌	外国雑誌	42	冊子 7 オンライン 35	+シュプリング・メドライン・コレクション約470誌パッケージ
	国内雑誌	52	冊子のみ	
図書	職員用図書	54	購入 48 寄贈 6	※厚生統計協会刊行の統計類除く
	一般向け図書	87	購入 83 寄贈 4	

②蔵書数 令和4年3月31日現在

雑誌（和・洋）	169	タイトル数 オンラインジャーナル単独誌契約含む シュプリング・メドライン・コレクションは含まない
図書	1,232	
一般向け図書	1,445	老人総合研究所・老人医療センター・健康長寿医療センター刊行物や厚生統計類除く冊数

③貸出 令和3年度

職員用図書	雑誌	一般向け図書
57	180	98

④文献取り寄せへの対応 令和3年度

	都医学研	都立（公社等）病院	大学図書館	病院図書室	当室所蔵	WEBフリー公開	入手不能
入手	10	0	3,061	282	241	561	95
送付	0	18	0	3	-	-	-

養育院・渋沢記念コーナー

顧問医 稲松 孝思 老年学情報センター 宮本 孝一

2013年の新施設開設に際し、2階に『養育院・渋沢記念コーナー』が設置された。1階ホールの養育院幾星霜の図（山口晃）、養育院記念中央広場、渋沢栄一銅像、養育院本院跡碑、庭園とともに、患者等の来訪者に特徴ある癒し空間を提供している。このコーナーは、明治5年の養育院開設から現在の東京都健康長寿医療センターに至る歴史を紹介している。また、センター各部門の催しの広報、患者・家族のための医療・健康情報を提供している。診察予告表示板（コンピューター連動）があり、外来患者が待ち時間を過ごす場ともなっている。2024年の1万円札肖像予定、2021年のNHK大河ドラマ：「青天を衝く」の放送で注目度が増した。

1) 「養育院・渋沢記念コーナー」の利用状況

病院施設では他にあまり例を見ない場所として好評を得ている。来院見学者への当センターの説明の場、新人職員の教育の場としての機能も果たしている。なお、令和2年4月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食は禁止し、ボランティア活動は休止しているが、展示、休憩場所の提供は続けている。

2) 歴史展示・櫻園通信

- ・当院の歴史資料とパネル、渋沢の墨跡、各種写真を展示、歴史ビデオ、講演スライドも供覧。
- ・展示物を解説した冊子「ようこそ養育院・渋沢記念コーナーへ」を配布している。
- ・歴史案内「櫻園通信」の作成、配布は継続し、従来の0～71号に加えて今年度は以下の号を発行した
 - 72. 巣鴨分院の子どもたちと渋沢邸の園遊会
 - 73. 長寿の秘訣？ 渋沢栄一の健康長寿法
 - 74. 渋沢危篤と羊羹の金魚
 - 75. 養育館と養育院
 - 76. 養育院附属病院から健康長寿医療センターへ

3) なるほど！からだラウンジ

- ・展示・大判掲示：フレイル対策、高齢者自粛対策
- ・患者図書室サービス：疾患や治療法の理解、介護生活、健康増進に役立つ図書及び渋沢栄一・養育院関連図書の収集と貸出。

4) 広報

- ・公開講座など、当院主催、共催講演会の広報。
- ・治験の募集案内。
- ・がん相談支援センター案内とリーフレット設置。

5) 読書の愉しみ

- ・手続き不要の図書貸出コーナー。
- ・職員の出版した一般向け図書紹介と購入案内。
- ・寄贈図書の受け入れ。

6) 養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア活動

約30人のボランティアが日替わりで主に10～14時に待機、本の貸し出し、展示の説明などを行っている。また、養育院関連の歴史資料のリスト整備、櫻園通信の発行などに協力頂いている。

- ・夏冬、年2回の維持ボランティア交流会で、展示、運営上の問題などを相談。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、自粛期間中、活動を休止している。

7) 「ヒポクラテスの木」について

- ・2012年に東大から分与されたヒポクラテスの木の実生苗を育成。2014年センター玄関巨石門脇に移植。医育機関のシンボルとして育成。

8) 養育院史などに関する講演、著作

- ・稲松孝思：板橋の渋沢栄一養育院銅像の数奇な運命. 第122回日本医史学会. WEB開催, 9月18日-19日, 2021.

- ・稲松孝思：都区職員のための渋沢栄一. 都政新報（2019年9月より月1回連載）. 4月23日, 2021.
- ・稲松孝思（監修）：渋沢栄一のあゆみからみる今日の福祉 1-12. 月刊福祉 1月号-7月号, 2021.
- ・栄畑南美：渋沢栄一と養育院巣鴨分院の子どもたち. 青淵 873:10-12, 2021.
- ・宮本孝一：渋沢院長と養育院の歴史を教材に. 青淵 877:38-40, 2022.

9) 情報発信

- ・センターホームページ「養育院・渋沢記念コーナー」再編集、バーチャルツアー動画制作・公開（2021.9.27 公開）.
- ・センターホームページ「養育院から東京都健康長寿医療センターへ」新設（2021.9.27 公開）.
- ・センター公式 Twitter で情報発信（2021.11.18 開始）.

10) NHK 大河ドラマ「青天を衝け」放映と渋沢栄一関連

- ・稲松孝思・宮本孝一（資料提供など）：板橋区「板橋版 澁澤栄一地図 1840-2022」（2022年3月16日刊行）.
- ・稲松孝思（インタビュー）：渋沢栄一と養育院について. 日本大学豊山女子高等学校放送部. 8月, 2021.
- ・宮本孝一（放送内容確認）：広報番組「魅力発信！いたばしナビ」板橋区. 10月19日, 2021.
- ・稲松孝思（撮影協力）：NHK「青天を衝け紀行」. 9月14日, 2021.
- ・宮本孝一（取材協力）：都医ニュース「趣味の散歩」. 11月17日, 2021.
- ・宮本孝一（取材）：日本経済新聞「東京都健康長寿医療センターの今に生きる渋沢の精神」. 10月20日掲載.
- ・宮本孝一（画像提供・記事内容確認）：毎日新聞熊谷支局「松平定信の心願書と渋沢栄一の讃」. 毎日新聞埼玉版 2022年3月5日掲載、他日他都県版にも掲載.
- ・稲松孝思, 宮本孝一（資料貸出など）：日本赤十字看護大学「澁澤栄一展」9月16日-10月31日, 2021.
- ・宮本孝一（資料調査）：東京商工会議所広報部経済資料センター「田中太郎」11月17日, 2021.
- ・宮本孝一（インタビュー）：「瓜生岩子」福島放送. 1月24日, 2022（3月 東北各県で放映）.

11) 病院・研究所創立 50 周年, 養育院創設 150 年記念誌関連

- ・「病院・研究所組織の変遷図」都公文書館調査、原稿作成。
- ・「各部署の 50 年」 記入要綱原案、原稿フォーマット作成。
- ・「養育院 150 年の歩み」都公文書館・都立中央図書館調査、原稿作成。
- ・「職員業績リスト 50 年」データベース検索と論文リスト作成, 職員用データ作成マニュアル、データ提出フォーマット作成。

Ⅱ 令和 3 年度研究活動報告

名誉理事長 井藤 英喜

<雑誌論文>

1. Takuya Omura, Yoshiaki Tamura, Takashi Sakurai, Hiroyuki Umegaki, Satoshi Iimuro, Yasuo Ohashi, Hideki Ito, Atsushi Araki : the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group Functional category based on cognition and activities of daily living predicts all-cause mortality in older adults with diabetes mellitus: the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatrics & Gerontology International* 21(6):512-518, 2021.
2. Chika Horikawa, Rei Aida, Shiro Tanaka, Chiemi Kamada, Sachiko Tanaka, Yukio Yoshimura, Remi Koderu, Kazuya Fujihara, Ryo Kawasaki, Tatsumi Moriya, Hidetoshi Yamashita, Hideki Ito, Hirohito Sone, Atsushi Araki : Sodium Intake and Incidence of Diabetes Complications in Elderly Patients with Type 2 Diabetes -- Analysis of data from the Japanese Elderly Diabetes Intervention Study (J-EDIT). *Nutrients* 13(2):689, 2021.
3. Takuya Omura, Hideki Ito, Atsushi Araki : Which is a better predictor for adverse events in older adults with diabetes, frailty or higher level functional incapacity?. *Geriatrics & Gerontology International* 21(6):541-542, 2021.
4. Mitsutake S, Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, Awata S, Toba K, Ito H: Agreement on dementia severity levels between the 8-item and 21-item Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System. *Geriatrics & Gerontology International* 21(8):748-749, 2021.
5. Masamitsu Sugie, Kazumasa Harada, Tetsuya Takahashi, Marina Nara, Hajime Fujimoto, Shunei Kyo, Hideki Ito : Peak oxygen uptake correlates with indices of sarcopenia, frailty and cachexia in older Japanese outpatients. *JCSM Rapid Communications* 4(2):141-149, 2021.
6. Masamitsu Sugie, Kazumasa Harada, Marina Nara, Yoshihiro Kugimiya, Tetsuya Takahashi, Moe Kitagou, Hunkyung Kim, Shunei Kyo, Hideki Ito : Prevalence, overlap, and interrelationships of physical, cognitive, psychological, and social frailty among community-dwelling older people in Japan. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 100:104659, 2022.

<単行書・報告書>

1. 井藤英喜(監修) : 介護をする家族のための介護と保健ガイドブック (2021年度版), 一般社団法人日本保健情報コンソシウム, 東京, 2021.
2. 井藤英喜(総監修), 時村文秋(監修) : 骨粗しょう症の人はとくに注意 脊椎圧迫骨折, 一般社団法人日本保健情報コンソシウム, 東京, 2021.

<学会・研究会発表>

1. 堀川千嘉, 相田 麗, 田中司朗, 鎌田智恵子, 田中佐智子, 吉村幸雄, 大橋靖雄, 井藤英喜, 曾根博仁, 荒木厚, the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Study Group : 日本人高齢2型糖尿病患者における、食塩摂取量と糖尿病合併症発症との関係 : J-EDITによる報告. 第64回日本糖尿病学会年次集会. 石川, 金沢, 5月20日-22日, 2021.
2. 大村卓也, 田村嘉章, 櫻井 孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚 : 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 : カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討 (J-EDIT研究). 第64回日本糖尿病学会年次集会. 石川, 金沢, 5月20日-22日, 2021.
3. Chika Horikawa, Rei Aida, Shiro Tanaka, Chiemi Kamada, Sachiko Tanaka, Yukio Yoshimura, Remi Koderu, Kazuya Fujihara, Ryo Kawasaki, Tatsumi Moriya, Hidetoshi Yamashita, Hideki Ito, Hirohito Sone, Atsushi Araki & The Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Study Group : Sodium Intake and Incidence of Diabetes Retinopathy in Elderly Patients with Type 2 Diabetes -- Analysis of data from the Japanese Elderly Diabetes Intervention Study (J-EDIT). 81st American Diabetes Association Scientific Sessions. Virtual, 6月25日-29日, 2021.
4. Araki A, Omura T, Tamura Y, Motokawa K, Ito H : Dietary management of older adults with diabetes focusing on prevention of frailty. The 3rd International virtual Conference of Saudi Society for Clinical Nutrition (SSCN). Riyadh, Saudi Arabia, 10月28日-30日, 2021.

理事長 鳥羽 研二

<雑誌論文>

1. Janelidze S, Teunissen CE, Zetterberg H, Allué JA, Sarasa L, Eichenlaub U, Bittner T, Ovod V, Verberk IMW, Toba K, Nakamura A, Bateman RJ, Blennow K, Hansson O : Head-to-Head Comparison of 8 Plasma Amyloid- β 42/40 Assays in Alzheimer Disease. *JAMA neurology* 78(11): 1375-1382, 2021.
2. Ito K, Ogisawa F, Furuta K, Awata S, Toba K : Development of a five-item short-form version of the Dementia Behavior Disturbance Scale. *Geriatrics & gerontology international* 21(9): 870-871, 2021.
3. Makizako H, Nishita Y, Jeong S, Otsuka R, Shimada H, Iijima K, Obuchi S, Kim H, Kitamura A, Ohara Y, Awata S, Yoshimura N, Yamada M, Toba K, Suzuki T : TRENDS IN THE PREVALENCE OF FRAILTY IN JAPAN: A META-ANALYSIS FROM THE ILSA-J. *The Journal of frailty & aging* 10(3):211-218, 2021.
4. Saji N, Makizako H, Suzuki H, Nakai Y, Tabira T, Obuchi S, Kawai H, Murotani K, Katayama N, Toba K, Uchida Y, Nakashima T : Hearing impairment is associated with cognitive function in community-dwelling older adults: A cross-sectional study. *Archives of gerontology and geriatrics* 93: 104302, 2021.
5. Saji N, Murotani K, Hisada T, Tsuduki T, Sugimoto T, Kimura A, Niida S, Toba K, Sakurai T : The Association between Cerebral Small Vessel Disease and the Gut Microbiome: A Cross-Sectional Analysis. *Journal of stroke and cerebrovascular diseases* 30(3): 105568, 2021.
6. Seike A, Sumigaki C, Takeuchi S, Hagihara J, Takeda A, Becker C, Toba K, Sakurai T : Efficacy of group-based multi-component psycho-education for caregivers of people with dementia: A randomized controlled study. *Geriatrics & gerontology international* 21(7): 561-567, 2021.
7. Mitsutake S, Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, Awata S, Toba K, Ito H : Agreement on dementia severity levels between the 8-item and 21-item Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System. *Geriatrics & gerontology international* 21(8): 748-749, 2021.
8. Mitsutake S, Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, Toba K, Ito H : Association of cognitive impairment severity with potentially avoidable readmissions: A retrospective cohort study of 8897 older patients. *Alzheimer's & dementia* 13(1): e12147, 2021.
9. Suzuki T, Nishita Y, Jeong S, Shimada H, Otsuka R, Kondo K, Kim H, Fujiwara Y, Awata S, Kitamura A, Obuchi S, Iijima K, Yoshimura N, Watanabe S, Yamada M, Toba K, Makizako H : Are Japanese Older Adults Rejuvenating? Changes in Health-Related Measures Among Older Community Dwellers in the Last Decade. *Rejuvenation research* 24(1):37-48, 2021.
10. Fujisawa C, Umegaki H, Sugimoto T, Samizo S, Huang CH, Fujisawa H, Sugimura Y, Kuzuya M, Toba K, Sakurai T : Mild hyponatremia is associated with low skeletal muscle mass, physical function impairment, and depressive mood in the elderly. *BMC geriatrics* 21(1):15, 2021.
11. Murata S, Ono R, Sugimoto T, Toba K, Sakurai T : Functional Decline and Body Composition Change in Older Adults With Alzheimer Disease: A Retrospective Cohort Study at a Japanese Memory Clinic. *Alzheimer disease and associated disorders* 35(1):36-43, 2021.
12. Saji N, Saito Y, Yamashita T, Murotani K, Tsuduki T, Hisada T, Sugimoto T, Niida S, Toba K, Sakurai T : Relationship Between Plasma Lipopolysaccharides, Gut Microbiota, and Dementia: A Cross-Sectional Study. *Journal of Alzheimer's disease* 86(4):1947-1957, 2022.
13. Saji N, Tsuduki T, Murotani K, Hisada T, Sugimoto T, Kimura A, Niida S, Toba K, Sakurai T : Relationship between the Japanese-style diet, gut microbiota, and dementia: A cross-sectional study. *Nutrition* 94: 111524, 2022.
14. Fujisawa C, Umegaki H, Sugimoto T, Huang CH, Fujisawa H, Sugimura Y, Kuzuya M, Toba K, Sakurai T : Older adults with a higher frailty index tend to have electrolyte imbalances. *Experimental gerontology* 163: 111778, 2022.
15. Abe T, Kitamura A, Yamashita M, Kim H, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K, IRIDE Cohort Study investigators : Simple screening models for cognitive impairment in community settings: The IRIDE Cohort Study. *Geriatrics & gerontology international* 22(4):292-297, 2022.
16. Saji N, Murotani K, Sato N, Tsuduki T, Hisada T, Shinohara M, Sugimoto T, Niida S, Toba K, Sakurai T : Relationship Between Plasma Neurofilament Light Chain, Gut Microbiota, and Dementia: A Cross-Sectional Study. *Journal of Alzheimer's disease* 86(3):1323-1335, 2022.

センター長 許 俊鋭

<雑誌論文>

1. Sugie M, Harada H, Takahashi T, Nara M, Fujimoto H, Kyo S, Ito H: Peak oxygen uptake correlates with indices of sarcopenia, frailty, and cachexia in older Japanese outpatients. JCSM Rapid Communications 4:141-149, 2021.
2. Ono M, Yamaguchi O, Ohtani T, Kinugawa K, Saiki Y, Sawa Y, Shiose A, Tsutsui H, Fukushima N, Matsumiya G, Yanase M, Yamazaki K, Yamamoto K, Akiyama M, Imamura T, Iwasaki K, Endo M, Ohnishi Y, Okumura T, Kashiwa K, Kinoshita O, Kubota K, Seguchi O, Toda K, Nishioka H, Nishinaka T, Nishimura T, Hashimoto T, Hatano M, Higashi H, Higo T, Fujino T, Hori Y, Miyoshi T, Yamanaka M, Ohno T, Kimura T, Kyo S, Sakata Y, Nakatani T, JCS/JSCVS/JATS/JSVS Joint Working Group: JCS/JSCVS/JATS/JSVS 2021 Guideline on Implantable Left Ventricular Assist Device for Patients With Advanced Heart Failure. Circulation Journal 86(6):1024-1058, 2022.
3. Date K, Murata T, Mano A, Kawata M, Kyo S: Perforation of the right atrial appendage during implantation of a leadless pacemaker. Journal of arrhythmia 38(1):163-165, 2021.
4. Mano A, Nishimura T, Ishii M, Murata T, Kawata M, Kyo S: Usefulness of hybrid veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation for lung ischemia-reperfusion injury after biventricular assist device implantation. Journal of artificial organs Online ahead of print, 2022.
5. 千葉由美, 山田律子, 市村久美子, 古田愛子, 椎橋依子, 中島聖子, 戸原 玄, 山脇正永, 石田 瞭, 唐帆健浩, 植田耕一郎, 平野浩彦, 許 俊鋭: 看護実践における「高齢者の胃ろう離脱のためのケアプロトコールの構成項目」の信頼性と妥当性の検証. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌 25:190-207, 2021.
6. 牧田 茂(班長), 安 隆則(副班長), 班員31名, 協力員36名, 外部評価委員6名(許 俊鋭他5名): 2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関する ガイドライン. https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Makita.pdf
7. 小野 稔(班長), 山口 修(副班長), 班員11名, 協力員22名, 外部評価委員5名(許 俊鋭他4名): 2021年改訂版 重症心不全に対する植込型補助人工心臓治療ガイドライン. https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Ono_Yamaguchi.pdf
8. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許 俊鋭: 重点病院2施設で対応不可能であったA型急性大動脈解離, 心タンポナーデ, ショック状態に対して支援病院として救命できた1例. ICU とCCU 45:S57-S60, 2021.

<総説>

1. 許 俊鋭: 心臓移植・人工心臓とともに歩んだ心臓外科医人生. 鉄門だより794:2, 2021.
2. 許 俊鋭: 追悼高久文麿先生. 集中5(MAY):36, 2022.
3. 許 俊鋭: 北島先生を偲んで. コモンズ会誌(Commons Journal) 1:4-5 2021.

<単行書・報告書>

1. 許 俊鋭: 監修および巻頭言「発刊へのメッセージ」. 植込み型補助人工心臓「DuraHeartの歴史」, テルモ株式会社, 2021.

<学会・研究会発表>

1. 許 俊鋭: 基調講演「医療と病院の安全を守るインフォームド・コンセント」. 日本医療安全学会学術総会抄録集7回: 108-109, 2021.
2. 許 俊鋭, 鳥羽 研二, 安樂 真樹: 新型コロナウイルス感染流行の現況と高齢者が注意すべきこと. 老年学・老年医学公開講座 158回: 3-19, 2021.
3. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許 俊鋭: 急性A型解離に対する上行大動脈置換術後、慢性期に全弓部置換術+オーパンステントグラフト(OSG)術後、OSG遠位端に発生したSINEに対してTEVAR施行し段階的に偽腔退縮が得られた1例. 第24回大動脈ステントグラフト研究会. 奈良, ハイブリッド形式, 11月6日, 2021.
4. 河田光弘, 磯野優花, 村田知洋, 眞野暁子, 乾 明敏, 許 俊鋭: 意識消失、右共同偏視、左片麻痺で脳卒中A対応にて搬送されたA型急性大動脈解離、severe AR、慢性B型解離に対して新型コロナ禍の救急対応を行い救命出来た1例. 第41回 東京CCU研究会. Web開催, 12月4日, 2021.
5. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許 俊鋭: 東京都健康長寿医療センターにおけるTAVIの現状 Current status of TAVI in Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology. 第

52回日本心臓血管外科学会学術総会. 横浜, 3月3日-5日, 2022年.

6. Kawata M, Murata T, Mano A, Inui A, Kyo S : Successful ascending aorta replacement using intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for acute aortic dissection type A coexistent brain infarction. 30th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS2022). Nara, March 24-27, 2022.
7. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許 俊鋭 : 心機能低下を合併した重症大動脈弁狭窄症に対して外科的大動脈弁置換術を施行した超高齢者の1例. 第25回日本心不全学会学術集会. Web開催, 10月1日, 2021.
8. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許 俊鋭 : 心大血管手術の周術期に人工臓器を有効利用するための現状と課題. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会. 東京, 現地開催+ライブ配信+オンデマンド配信, 11月3日, 2021.
9. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許 俊鋭 : 日本発の人工臓器療法: Moving Forwardを目指した最新のエビデンスと将来展望 心大血管手術周術期における人工臓器使用の限界. 人工臓器 50(2):S-49, 2021.
10. 伊達数馬, 村田知洋, 吉岡孝房, 小金丸博, 眞野暁子, 小松響子, 河田光弘, 安樂真樹, 許 俊鋭 : ECMO治療を要する重症COVID-19肺炎に対して抗凝固療法はどう行うべきか. 日本集中治療医学会雑誌 28 Supl. 2:382, 2021.
11. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許 俊鋭 : 弓部debranch TEVARでのシャントチューブの使用経験. 日本血管外科学会雑誌. 30 Supl:022-4, 2021.
12. 眞野暁子, 村田哲平, 小松俊介, 村田知洋, 伊達数馬, 河田光弘, 石川譲治, 原田和昌, 許 俊鋭 : ECPellaからImpellaに移行し効率的に治療、救命し得た劇症型心筋炎の一例. 第49回日本集中治療医学会学術集会. 仙台, 完全Web開催, 3月18日-20日, 2022年.
13. 眞野暁子, 村田知洋, 伊達数馬, 河田光弘, 許 俊鋭 : 極めて急速な経過をたどった緑膿菌敗血症の一例. 第49回日本集中治療医学会学術集会. 仙台, 完全Web開催, 3月18日-20日, 2022年.
14. 村田知洋, 眞野暁子, 乾 明敏, 河田光弘, 許 俊鋭 : 植込み型左心補助人工心臓装着後, 右心不全管理に難渋した症例. 第27回日本臨床補助人工心臓研究会学術集会. 東京, 11月25日, 2021年.
15. 金丸晶子, 加藤貴行, 齊藤陽子, 羽根田千恵, 河田光弘, 村田哲平, 武田和大, 原田和昌, 許 俊鋭 : 大動脈弁疾患に対する侵襲的治療の入院期間を規定する要因. 日本老年医学会雑誌 58 Supl:155, 2021.

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 許 俊鋭 : 重症心不全の心臓移植・補助人工心臓治療. AbioMed社の歩み・Impellaの日本導入の経緯. AbioMed Inc. 40周年記念講演会. 東京, 7月9日, 2021.
2. 許 俊鋭 : 医療事故予防のためのインフォームドコンセント. 医療安全認定臨床コミュニケーター陽性実習研修会. ハイブリッド会議, 8月19-20日, 2021.
3. 許 俊鋭 : 病院管理者からみた院内医療安全活動の取り組み方の基本. 日本医療安全基礎講座. インターネットライブ講演会, 7月7-9日, 2021.
4. 許 俊鋭 : 本邦における補助人工心臓治療-特に植込型LVADの実施施設・実施医基準について-. 第26回東大・東京女子医大VAD研修コース. 東大+Web, 5月30日, 2021.
5. 許 俊鋭 : 重症心不全の外科治療: 本邦における補助人工心臓Destination Therapyと心臓移植. 第28回山形周術期病態研究会特別講演. 山形, 10月2日, 2021.
6. 許 俊鋭 : 本邦における補助人工心臓治療-特に植込型LVADの実施施設・実施医基準について-. 第27回東大・東京女子医大VAD研修コース. 東京女子医大+Web, 12月18日, 2021.
7. 許 俊鋭 : 重症心不全の外科治療: 本邦における心臓移植・補助人工心臓治療の現状と将来展望. 第44回東京電機大学ME公開講座. WEB開催, 12月7日, 2021.
8. 許 俊鋭 : ヒューマンファクターズの視点からみた医療安全の推進方法 医療機器の安全性に関する問題点. 医療安全教育セミナー(実践編). WEB講演会, 2月16-18日, 2022.
9. 許 俊鋭 : 医療価値評価. 4(2)事例2 (医療技術: 埋込デバイス等). 医療価値評価の胎動プログラム2021年度. 東大病院, 2月18日, 2022.
10. 許 俊鋭 : 重大院内医療事故調査のスマートな進め方はどうあるべきか-病院長の立場から-. 医療事故調査教育セミナー2022. オンライン講演, 1月20日, 2022.

副院長 原田 和昌

<雑誌論文>

1. Masaharu Shinkai, Kenji Tsushima, Shingo Tanaka, Eri Hagiwara, Norihito Tarumoto, Ichiro Kawada, Yuji Hirai, Sho Fujiwara, Yuko Komase, Takeshi Saraya, Hidefumi Koh, Naho Kagiya, Megumi Shimada, Daiki Kanou, Shinichi Antoku, Yujiro Uchida, Yutaka Tokue, Mikio Takamori, Yasuhiro Gon, Kenya Ie, Yoshitaka Yamazaki, Kazumasa Harada, Naoki Miyao, Takashi Naka, Mitsunaga Iwata, Atsushi Nakagawa, Kazutoshi Hiyama, Yoshihiko Ogawa, Masahiro Shinoda, Shinichiro Ota, Takatomo Hirouchi, Jiro Terada, Shuichi Kawano, Takashi Ogura, Tsutomu Sakurai, Yoshihiko Matsumoto, Hiroyuki Kunishima, Osamu Kobayashi, Satoshi Iwata. : Efficacy and Safety of Favipiravir in Moderate COVID-19 Pneumonia Patients without Oxygen Therapy: A Randomized, Phase III Clinical Trial. Infectious diseases and therapy 10(4):2489-2509, 2021.
2. Sato M, Tsumoto H, Toba A, Soejima Y, Arai T, Harada K, Miura Y, Sawabe M. Proteome analysis demonstrates involvement of endoplasmic reticulum stress response in human myocardium with subclinical left ventricular diastolic dysfunction. Geriatrics & gerontology international 21(7):577-583, 2021.
3. Masashi Miyawaki, Rie Aoyama, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Primary cardiac B cell lymphoma in an immunocompetent patient. BMJ case reports 14:e243068, 2021.
4. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Harada K. Automated Office Blood Pressure Measurement by Elderly Patients in the Waiting Room. Blood Pressure Monitoring 26 (5):321-327, 2021.
5. Futami S, Ishikawa J, Maeda T, Kawano M, Sakurayama C, Harada K. Factors contributing to energy loss in left ventricle during diastolic and systolic phases in elderly patients. Echocardiography 38:72-80, 2021.
6. Joji Ishikawa; Satoshi Seino; Akihiko Kitamura; Ayumi Toba; Kenji Toyoshima; Yoshiaki Tamura; Yutaka Watanabe; Yoshinori Fujiwara; Hiroki Inagaki; Shuichi Awata; Shoji Shinkai; Atsushi Araki; Kazumasa Harada. The relationship between blood pressure and cognitive function. International Journal of Cardiology Cardiovascular Risk and Prevention 10:200104, 2021.
7. Masatoshi Tachibana, Akiko Kanemaru, Keiko Hatano, Tei Murata, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Hypoxemia found after hospitalization with right hemiplegia due to cerebral infarction: platypnea-orthodeoxia syndrome in the older people. Journal of Cardiology Case 25 (2):72-75, 2021.
8. Shimizu R, Aoyama R, Ishikawa J, Harada K. Prolonged sinus arrest due to the obstruction of a sinus node branch after percutaneous coronary intervention of the right coronary artery. Journal of Cardiology Cases 25: 319-322, 2022.
9. Toba A, Ishikawa J, Harada K. Increased blood pressure variability is associated with probable rapid eye movement sleep behavior disorder in elderly hypertensive patients. Blood Press. 31 (1):40-46, 2021.
10. Yamamoto T, Otsuka T, Yoshida N, Kobayashi Y, Komiyama N, Hara K, Nakamura M, Ohira H, Shibata T, Shimokawa T, Takayama T, Tejima T, Ueda T, Harada K, Nagao K, Takayama M. Hospital performance in a large urban acute myocardial infarction emergency care system: Tokyo Cardiovascular Care Unit network. Journal of cardiology 78(3):177-182, 2021.
11. 原田和昌 :【Young at HEART～若々しい心臓であり続けるために～】心臓アンチエイジングのための運動療法・食事療法. アンチ・エイジング医学 17(3):257-262, 2021.
12. 原田和昌 : 高血圧でもフレイルは防げる～健康長寿は血圧コントロールから～. 練馬医学会誌 8:5-21, 2021.

<総説>

1. 原田和昌 : 危険な秋の高血圧 インフルエンザの合併で心筋梗塞や脳梗塞のリスクアップ. タ刊フジ特別号 健康手帖 23:4-5, 2021.
2. 原田和昌, 坂田泰史, 前村浩二, 宮本恵宏 : 〈座談会〉脳卒中と循環器病克服第二次5ヵ年計画—ストップCVD(脳心血管病) 健康長寿を達成するために! 循環器医は何をすべきか—. 臨床医のための循環器診療 35:3-18, 2021.
3. 原田和昌, 伊莉裕二, 里見和浩, 野出孝一 : 〈座談会〉COVID-19禍での循環器診療. 臨床医のための循環器診療 34:3-16, 2021.
4. 鳥羽梓弓, 石川譲治, 原田和昌 : 今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント 第10章循環器疾患. WOC

Nursing 7月20日, 2021.

5. 原田和昌：大自然と体心 高血圧を防ぐ「DASH食」でこの冬を乗り切る. 致知 12月, 2021.
6. 原田和昌：目指せヘルス&ビューティーの達人「動悸・不整脈」. 毎日が発見 218:78-81, 2022.
7. 原田和昌：HFpEFに対する左心房の負荷を軽減する心房間シャントデバイスの経カテーテル留置の第Ⅲ相試験では有意な臨床効果が示されなかった. Carenet.comクリアジャーナル四天王1499, 2022. 3. 公開 (<http://www.carenet.com/news/clear/journal/53981>)

<単行書・報告書>

1. 原田和昌 (監修)：血圧ダイアリー. プラス症状チェック. 株式会社ツムラ, 2021.
2. 原田和昌：第7章「強心生活24時」不整脈 心房細動・期外収縮. 自力で良くなる！心臓病の名医陣が教える最新1分体操大全. わかさ出版, 東京, 2021.

<学会・研究会発表>

1. 原田和昌：高齢者AFの抗凝固療法におけるフレイルの意義. 第62回日本神経学会学術集会ランチョンセミナー. 東京, 5月21日, 2021.
2. 原田和昌：高齢者心房細動の抗凝固療法におけるフレイルの意義. 第67回日本不整脈心電学会学術大会スポンサーセミナーⅠ. 東京, 7月1日, 2021.
3. 原田和昌：高齢者心不全の疫学と病理. 第43回心筋生検研究会学術集会シンポジウム1 老化と心臓血管病理. 久留米, 12月10日, 2021.
4. Harada K. Cardiovascular Complications of Seasonal Influenza among People 60 Years and Older: A Retrospective Database Study as a Reference of COVID-19. 第86回日本循環器学会学術集会. 神戸, 3月11日, 2022.
5. Ayumi Toba, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Antihypertensive treatment improves left ventricular geometry at 10 years later even in elderly hypertensive patients. Council of High Blood Pressure, American Heart Association. Virtual Web meeting. Sep. 2021.
6. Saori Nakamura, Joji Ishikawa, Chieko Sakurayama, Masashi Miyawaki, Ayumi Toba, Rie Aoyama, Kazumasa Harada. Nonspecific ST-T change in electrocardiogram was associated with a reduced constructive myocardial work in hypertensive patients with preserved ejection fraction. Council of High Blood Pressure, American Heart Association. Virtual Web meeting. Sep. 2021.
7. Aoyama R. Ishikawa J. Harada K. Clinical Significance of the Assessment of Valvular Calcification Using 18F-sodium Fluoride Positron Emission Tomography. AHA, Nov. 2021
8. 鳥羽梓弓, 石川譲治, 鈴木歩, 原田和昌：高齢高血圧患者の待合室における自動診察室血圧測定. 日本高血圧学会総会, 沖縄, Web開催, 10月15-17日, 2021.
9. 中村沙織, 石川譲治, 宮脇正次, 鳥羽梓弓, 青山里恵, 原田和昌：高血圧患者における心電図ST-T変化と左室心筋仕事量の関連 ST-T Change in Electrocardiogram and Myocardial Work Load in Hypertensive Patients. 日本高血圧学会総会, 沖縄, Web開催, 10月15-17日, 2021.
10. 鳥羽梓弓, 石川譲治, 原田和昌：レム睡眠行動異常と24時間自由行動下血圧モニタリングにおける血圧変動性との関連. 日本高血圧学会総会, 沖縄, Web開催, 10月15-17日, 2021. (女性研究者奨励賞最優秀賞)
11. 小林史乃, 石川譲治, 田村嘉章, 村尾雄治, 鳥羽梓弓, 原田和昌, 荒木厚：心血管代謝危険因子を有する高齢者における抑うつ有病率と規定因子. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 11月6-7日, 2021.
12. 村尾雄治, 石川譲治, 田村嘉章, 小林史乃, 飯塚あい, 鳥羽梓弓, 原田和昌, 荒木厚：心血管代謝危険因子を有する高齢者における運動機能分析装置「zaRitz」の総合得点とフレイルとの関連. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 11月6-7日, 2021.
13. 山本栄善, 小川雅史, 宮脇正次, 村田哲平, 青山里恵, 石山泰三, 藤本肇, 坪光雄介, 石川譲治, 原田和昌：カテーテル的血栓溶解療法施行後に血栓が改善された後期高齢者の深部静脈血栓症の1例. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 11月13日, 2021.
14. 宮脇正次, 青山里恵, 鳥羽梓弓, 石川譲治, 原田和昌：姿勢依存性の左室流出路狭窄が一過性意識消失に関わったと考えられたレビー小体型認知症の一例. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 11月13日, 2021. (最優秀奨励賞受賞)
15. 藤井昭朗, 宮脇正次, 橘盛昭, 石川譲治, 宮本 鋼, 原田和昌：多発性骨髄腫・過粘稠度症候群により心不全をきたし, 血漿交換・化学療法導入が心不全管理に有用であった一例. 第675回日本内科学会関東地方会. 2月12日, 2022. (奨励賞受賞)
16. 藤本肇, 坪光雄介, 原田和昌：COVID-19パンデミックによるSTEMI患者に対する緊急PCIにおけるdoor to balloon timeへの影響についての検討. 日本心臓病学会学術集会 (抄録 69回:0-157, 2021)

17. 金丸晶子, 加藤 貴行, 齊藤陽子, 羽根田千恵, 河田光弘, 村田哲平, 武田和大, 原田和昌, 許 俊鋭: 大動脈弁疾患に対する侵襲的治療の入院期間を規定する要因. (日本老年医学会雑誌 58(Su1):155, 2021).
18. 伊藤志帆, 小松大樹, 東原真奈, 十菱千尋, 種井良二, 新井富生, 原田和昌, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田 淳: COVID-19ワクチン接種後に多巣性の感覚障害で発症した神経サルコイドーシスの1例. 日本内科学会関東地方会 (675回:42, 2022).
19. 山本 剛, 塚本 茂人, 冠木 敬之, 齊藤 正和, 佐藤 直樹, 原田 和昌, 高山 守正, 東京都CCUネットワーク: 東京都CCUnet心不全フォーラム. 再入院予防のための心不全セルフ・ケア講習会「東京都CCUnet心不全フォーラム」日本心臓病学会学術集会(抄録69回:CSS2-5, 2021).

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. Heart Failure Expert Meeting in KAWASAKI. 東京, 4月16日, 2021.
2. 原田和昌: 超高齢者のAFマネジメント～フレイルと服薬アドヒアランス～. 城東Heart meeting. 東京, 4月19日, 2021.
3. 原田和昌: 超高齢者のAFマネジメント～フレイルと服薬アドヒアランス～. 城東地区における最新の循環器診療を考える会. 東京, 4月20日, 2021.
4. 原田和昌: 心不全. メトロポリタン循環器内科研修連絡会. 東京, 4月21日, 2021.
5. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. 高齢者心不全を考える, 東京, 4月22日, 2021.
6. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. Web講演会在宅医療と心不全治療. 東京, 4月23日, 2021.
7. 原田和昌: 超高齢者のAFマネジメント～フレイルから服薬アドヒアランスまで～. 板橋区学術講演会. 東京, 5月18日, 2021.
8. 原田和昌: 心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療 Diabetes Online Meeting in 今治. 東京, 5月19日, 2021.
9. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方 ARNI WAVE in Niigata. 東京, 5月21日, 2021.
10. 原田和昌: 抗血栓療法の最新知見と高齢者における消化管出血マネジメント. Nexium Online symposium 2021. 東京, 5月24日, 2021.
11. 原田和昌: 心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療 循環器内科医と考える糖尿病治療(笠間地区). 東京, 5月28日, 2021.
12. 原田和昌: 高血圧を中心に健康管理. 練馬区民健康づくりセミナー. 東京, 6月16日, 2021.
13. 原田和昌: 高尿酸血症は心不全患者の予後を規定する. 板橋区高尿酸血症セミナー. 東京, 6月7日, 2021.
14. 原田和昌: 高血圧でもフレイルは防げる. 板橋区内科医会共催講演会循環器疾患WEB講演会. 東京, 6月15日, 2021.
15. 原田和昌: 高血圧でもフレイルは防げる. 板橋区内科医会共催講演会循環器疾患WEB講演会. 東京, 6月16日, 2021.
16. 原田和昌: 夜間高血圧の病因・病態と心血管疾患発症リスクについて-神経体液性因子との関わりを中心に- MeDiA (Medical Disease Awareness program). 東京, 6月25日, 2021.
17. 原田和昌: 高齢者心不全の特性に基づいた薬物治療とARNIへの期待～フォーカスアップデートをうけて. 第26回動脈硬化危険因子研究会. 東京, 6月26日, 2021.
18. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方 第6回心不全パンデミック講演会～ShakeOut! 心不全パンデミック～. 東京, 月30日, 2021.
19. 原田和昌: 超高齢者のAFマネジメント～フレイル, 服薬アドヒアランス, CKD～. 山形病診連携循環器セミナー. 東京, 7月6日, 2021.
20. 原田和昌: フレイル対策と漢方. Cardiology Kampo Follow-up Seminar. 東京, 2021. 7. 20月日, 2021.
21. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. ARNI 1周年記念講演会. 東京, 8月26日, 2021.
22. 原田和昌: 高齢者心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 第2回循環器・生活習慣病WEBセミナー. 東京, 8月31日, 2021.
23. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. 小田原内科医会学術講演会. 東京, 9月9日, 2021.
24. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方. 離島・へき地医療を考える会. 東京. 9月13日, 2021.
25. 原田和昌: 高齢者心不全の(さらに)新しい考え方-新しい薬物治療への期待-心不全WEBライブセミナー. 東京, 9月14日, 2021.
26. 原田和昌: 疾病と治療 I 循環器: 血圧異常. 板橋看護専門学校講義. 東京, 9月22日, 2021.
27. 原田和昌: 超高齢者AF患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. イグザレルトウェブカンファレンス. 東京, 2021. 9月27日, 2021.
28. 原田和昌: 心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. Diabetes×Cardiology Online Seminar. 東京, 9

- 月29日, 2021.
29. 原田和昌：転倒と心房細動, 抗血栓薬について. 高齢者トータルケアWeb講演会. 東京, 10月5日, 2021.
 30. 原田和昌：高齢者の心血管疾患とフレイルの深い関係～心不全と心房細動を中心に～. 高齢者医療とフレイルを考える～長崎の健康寿命延伸を目指して～. 東京, 10月7日, 2021.
 31. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. 石川県臨床内科医会学術講演会. 東京, 10月13日, 2021.
 32. 原田和昌：高齢者心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 中部北部地区心臓トータルケア講演会. 東京, 10月26日, 2021.
 33. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 循環器と漢方Web講演会. 東京, 10月28日, 2021.
 34. 原田和昌：高齢者心房細動患者のマネジメントと併存症としての心不全治療. Bayer Future Knowledge 高齢者循環器疾患を考える. 東京, 11月1日, 2021.
 35. 原田和昌：高齢者心房細動における抗凝固マネジメントと併存疾患. 高齢者のトータルケアマネジメントを考える会. 東京, 11月4日, 2021.
 36. 原田和昌：高齢者心不全のフレイル対策と漢方. 循環器Kampo Web Seminar. 東京, 11月5日, 2021.
 37. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療～HIF-PH阻害薬への期待～ ダーブロック錠Webセミナー. 東京, 11月9日, 2021.
 38. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方～ステージA・Bからの心不全治療を見据えて～ARNI適正使用講演会. 東京, 11月10日, 2021.
 39. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待. 西諸医師会・西諸内科医会合同Web学術講演会. 東京, 11月11日, 2021.
 40. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～東久留米市医師会学術講演会. 東京, 11月16日, 2021.
 41. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～ARNIへの期待～. 備北循環器疾患講演会. 東京, 11月18日, 2021.
 42. 原田和昌：超高齢者AF患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. 城東イグザレトWebカンファレンス. 東京, 11月19日, 2021.
 43. 原田和昌：心不全治療の新たな選択肢ベリキューボ～VICTORIA試験から考える～. ベリキューボ Communication for Mode of Action. 東京, 11月20日, 2021.
 44. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子. 北区医師会学術講演会. 東京, 11月24日, 2021.
 45. 原田和昌：高齢心房細動患者の抗血栓療法におけるフレイルの意義. 会津医学会学術講演会～高齢者の抗凝固療法～. 東京, 11月25日, 2021.
 46. 原田和昌：『アピキサバンを減量項目別に紐解く』－ARISTOTLE10周年迎えて－温故知新！古典から学ぶ－ARISTOTLEがNEMJの歴史に刻んだ軌跡から－（総合司会）. 東京, 12月2日, 2021.
 47. 原田和昌：高齢AF患者の抗血栓療法に関する最近の話題. 板橋区医師会循環器医会. 東京, 12月3日, 2021.
 48. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液因子～エンレストへの期待～. How To Use ARNI ～様々な観点からARNIを考察する～. 東京, 12月9日, 2021.
 49. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP経路の意義～. Heart Failure Conference～これからの心不全治療戦略～. 東京, 12月13日, 2021.
 50. 原田和昌：腎性貧血治療のパラダイムシフト. 城北腎性貧血治療webセミナー. 東京, 12月14日, 2021.
 51. 原田和昌：高齢者心不全の病態と治療～新しい薬物治療への期待～. 第454回東京保険医協会循環器研究会. 東京, 12月15日, 2021.
 52. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～Winter Hypertension Symposium in Asahikawa. 東京, 12月17日, 2021.
 53. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP経路の意義～. 市原心不全臨床懇話会. 東京, 12月20日, 2021.
 54. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方～ステージA・Bからの心不全治療を見据えて～第3回九州心血管カンファレンス. 東京, 12月21日, 2021.
 55. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 済生会千里病院連携セミナー. 東京, 1月13日, 2022.
 56. 原田和昌：高齢心房細動患者の抗血栓治療におけるフレイルの意義. 高齢者の抗血栓治療を考える会. 東京, 1月17日, 2022.
 57. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待と高血圧患者の医療連携～第76回練馬循環器セミナー. 東京, 1月19日, 2022.
 58. 原田和昌：高齢心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 福井循環器治療懇話会. 東京, 1月20日, 2022.

59. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP経路の意義～. 神明台ハートセミナー. 東京, 1月21日, 2022.
60. 原田和昌：心房細動と認知症. 高齢者トータルケアセミナー～心房細動と認知症について考える～. 東京, 1月22日, 2022.
61. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. 板橋区医師会学術部学術講演会. 東京, 1月28日, 2022.
62. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待. ～ARNI Symposium Niigata高血圧治療を考える会. 東京, 2月3日, 2022.
63. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. 第301回四日市循環器懇話会. 東京, 2月9日, 2022.
64. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. 第2回循環器内科医が考える貧血治療. 東京, 2月16日, 2022.
65. 原田和昌：高齢者心不全患者のフレイル対策と漢方薬. 神明台ハートセミナー. 東京, 2月18日, 2022.
66. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 第22回在宅漢方研究会. 東京, 2月19日, 2022.
67. 原田和昌：高齢者心不全治療における漢方薬の役割. 板橋循環器漢方講演会. 東京, 2月22日, 2022.
68. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. 貧血治療のアウトカムを考える会. 東京, 2月24日, 2022.
69. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～佐倉市・四街道市循環器領域連携の会-他疾患からみる血圧コントロールの重要性-. 東京, 3月2日, 2022.
70. 原田和昌：超高齢社会における循環器疾患のトータルマネジメント. 第17回松阪地区医師会臨床懇話会. 東京, 3月3日, 2022.
71. 原田和昌：東京都CCUネットワークから得られた心不全治療に関する知見. 第4回CCU関連セミナー. 東京, 3月5日, 2022.
72. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～ARN 高血圧 Monthly WEB symposium. 東京, 3月7日, 2022.
73. 原田和昌：高齢者心不全治療における漢方薬の役割と可能性. 循環器×漢方薬web講演会in香川. 東京, 3月14日, 2022.
74. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. WEBセミナー～心不全と貧血を再考する～. 東京, 3月24日, 2022.
75. 原田和昌：Anticoagulant Therapy in the Elderly AF Patients: With Consideration of CKD, Adherence, and Frailty Clinical Challenges in NOAC Management for NVAf Patients (台湾). 東京, 3月29日, 2022.
76. 原田和昌：高齢心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 帯広循環器疾患セミナー. 東京, 3月30日, 2022.
77. 原田和昌：高齢心房細動患者の治療と管理（監修・講演）医療関係者向け情報トーアエイヨー. 6月1日, 2021.
78. 原田和昌：低血圧を考慮した慢性心不全患者の治療戦略（監修・講演）ベリキューボNAVIバイエル撮影. 11月12日, 2021.

副院長 荒木 厚

<雑誌論文>

1. Toyoshima K, Seino S, Tamura Y, Ishikawa J, Chiba Y, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Araki A: Difference between “Physical Fitness Age” Based on Physical Function and Chronological Age Is Associated with Obesity, Hyperglycemia, Depressive Symptoms, and Low Serum Albumin. The journal of nutrition, health & aging Epub ahead of print:2022.
2. Oba K, Tamura Y, Ishikawa J, Suzuki H, Fujiwara Y, Tachibana A, Kodera R, Toyoshima K, Chiba Y, Araki A: Dynapenic abdominal obesity is associated with mild cognitive impairment in patients with cardiometabolic disease: a cross-sectional study. BMC Geriatrics 22(1):255, 2022.
3. Furuto-Kato S, Araki A, Chiba Y, Nakamura M, Shintani M, Kuwahara T, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Tagami T: Relationship between the Thyroid Function and Cognitive Impairment in the Elderly in Japan. Internal Medicine Epub ahead of print:2022.
4. Omura T, Araki A: Skeletal muscle as a treatment target for older adults with diabetes mellitus: The importance of a multimodal intervention based on functional category. Geriatrics & Gerontology International 22(2):110-120, 2022.
5. Tamura Y, Shimoji K, Ishikawa J, Matsuo Y, Watanabe S, Takahashi H, Zen S, Tachibana A, Omura T, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Tokumaru AM, Araki A: Subclinical atherosclerosis, vascular risk factors, and white matter alterations in diffusion tensor imaging findings of older adults with cardiometabolic diseases. Frontiers in Aging Neuroscience 13:712385, 2021.
6. Takeuchi M, Horikawa C, Hatta M, Takeda Y, Nedachi R, Ikeda I, Morikawa S, Kato N, Yokoyama H, Aida R, Tanaka S, Kamada C, Yoshimura Y, Saito T, Fujihara K, Araki A, Sone H: Secular Trends in Dietary Intake over a 20-Year Period in People with Type 2 Diabetes in Japan: A Comparative Study of Two Nationwide Registries; Japan Diabetes Complications Study (JDACS) and Japan Diabetes Clinical Data Management Study (JDDM). Nutrients 13:3428, 2021.
7. Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K: The relationship between blood pressure and cognitive function. International Journal of Cardiology:Cardiovascular Risk and Prevention 10:200104, 2021.
8. Chiba Y, Kodera R, Tachibana A, Oba K, Toyoshima K, Tamura Y, Araki A: Role of ultrasonography-guided fine needle aspiration cytology in diagnosing thyroid cancer in elderly patients. Annals of Geriatric Medicine and Research 7(1):1054, 2021.
9. Tanaka S, Langer J, Morton T, Hoskins N, Wilkinson L, Tanaka-Mizuno S, Kawasaki R, Moriya T, Horikawa C, Aida R, Araki A, Fujihara K, Sone H: Developing a health economic model for Asians with type 2 diabetes based on the Japan Diabetes Complications Study and the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. BMJ Open Diabetes Research & Care 9(1):e002177, 2021.
10. Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T: The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan: Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial. Frontiers in Aging Neuroscience 13:680341, 2021.
11. Tamura Y, Shimoji K, Tachibana A, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Ishikawa J, Tokumaru AM, Araki A: Associations between sarcopenia and white matter alterations in older adults with diabetes mellitus: A diffusion tensor imaging study. Journal of Diabetes Investigation 12(4):633-640, 2021.
12. Omura T, Tamura Y, Sakurai T, Umegaki H, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, Araki A, the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group: Functional categories based on cognition and activities of daily living predicts all-cause mortality in older adults with diabetes mellitus: The Japanese Elderly Diabetes Intervention. Geriatrics & Gerontology International 21(6):512-518, 2021.
13. Omura T, Ito H, Araki A: Which is a better predictor for adverse events in older adults with diabetes, frailty or higher-level functional incapacity?. Geriatrics & Gerontology International 21(6):541-542, 2021.
14. 荒木 厚: 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 日本内科学会雑誌110(4):761-768, 2021.
15. 荒木 厚: 高齢者糖尿病の食事療法のポイント. 糖尿病合併症35(2):235-239, 2021.

16. 荒木 厚：認知機能障害を考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 日本糖尿病教育・看護学会誌25:73-78, 2021.
17. 荒木 厚：高齢者糖尿病診療の実践と課題. 糖尿病合併症, 印刷中.
18. 荒木 厚：司会のことば. 高齢者糖尿病の特徴と個別化医療の実践における課題. 糖尿病合併症 35(2):244, 2021.
19. 橋本征治, 田村嘉章, 小寺玲美, 舘鼻 彩, 豊島弘一、大庭和人、豊島堅志、仁科裕史、千葉優子、荒木 厚：ウレアーゼ産生菌の尿路感染症に伴う高アンモニア血症によって意識障害をきたしたレビー小体型認知症 (DLB) の一例. 日本老年医学会雑誌58(2):297-302, 2021.
20. 松尾佳紀, 田村嘉章, 植倉弘智, 渡部 創, 高橋寿枝, 全 秀剛, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木 厚：2型糖尿病の経過中、GAD抗体陽性が判明した高齢糖尿病一疾患感受性と抵抗性の両HLA を持つ1例. 糖尿病64(5):327-332, 2021.
21. 渡部 創, 千葉優子, 大庭和人, 松川美穂, 平野浩彦, 徳丸阿耶, 小寺玲美, 豊島堅志, 田村嘉章, 荒木 厚：高浸透圧高血糖状態を契機に浸透圧性脱髄症候群による嚥下障害を発症した高齢2型糖尿病の1例. 日本老年医学会雑誌59(2):225-232, 2022.

<総説>

1. 荒木 厚：(炉辺閑話) 見事な老い方-フレイル予防から老年的超越へ. 日本医事新報 5097:40, 2022.
2. 荒木 厚：急性期医療からフレイル・認知症を考慮した老年病診療まで：東京都健康長寿医療センター. Geriatric Medicine 60(1):45-50, 2022.
3. 荒木 厚：「高齢者糖尿病治療ガイド2021」の考え方. 糖尿病・内分泌代謝科 54:94-101, 2022.
4. 荒木 厚：「高齢者糖尿病治療ガイド2021」の特徴と基本的な考えかた. 3. 糖尿病プラクティス9:14-19, 2022.
5. 荒木 厚：高齢者糖尿病の管理：認知機能とADLの評価に基づいたカテゴリー分類による包括的治療. 医学のあゆみ 279:469-473, 2021.
6. 荒木 厚：糖尿病患者をサルコペニア・フレイルにしないためのコツ. 日本医事新報 5071:18-27, 2021.
7. 荒木 厚：高齢者糖尿病を取り巻く現状と課題. PROGRESS IN MEDICINE 41(9):789-793, 2021.
8. 荒木 厚：我が国の高齢者糖尿病の実態. 月刊糖尿病139:6-13, 2021.
9. 荒木 厚：高齢者糖尿病の現状の課題と展望. Geriatric Medicine 59(4):345-350, 2021.
10. 荒木 厚：特集 COVID-19と老年医学 序文：COVID-19と老年医学の特集に寄せて. Geriatric Medicine 59(5):429-430, 2021.
11. 荒木 厚：老年症候群に対する診察：認知機能障害, 認知症. Geriatric Medicine 59(11):1113-1118, 2021.
12. 荒木 厚：第21回うつ傾向、うつ病. 【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット 4月12日配信, 2021.
13. 荒木 厚：第25回高齢者総合機能評価のしかた. 【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット 12月20日配信, 2021.
14. 荒木 厚：生活習慣病と認知症予防の深い関係を知ろう. 【ドクターズコラム】健達ネット 9月21日配信, 2021.
15. 荒木 厚：フレイル予防センター. WOC Nursing 9:85-90, 2021.
16. 荒木 厚, 高橋 寿枝：高齢者のメタボリックシンドローム. 老年内科 4:218-221, 2021.
17. 荒木 厚：Q糖尿病を患っている父. 元気がないのはサルコペニアのせい?. Health&Life 443(10):22, 2021.
18. 荒木 厚：フレイル・サルコペニアを考慮した高齢糖尿病患者の血糖および栄養管理. BEQ NEWS 42:3-4, 2021.
19. 荒木 厚：今日からできる介護予防. 座位時間を短くすることが介護予防と糖尿病予防の第一歩. 板橋区版AIP広報誌 11号, 2021.
20. 荒木 厚, 稲垣暢也：(オンライン対談) 高齢者糖尿病における現状の課題と展望. Medical Tribune 2021年9月16日版, 2021.
21. 豊島堅志, 荒木 厚：高齢者糖尿病. 内科 129:1107-1112, 2021.
22. 大庭和人, 荒木 厚：血糖降下薬以外の配合剤・週1回製剤の利点と注意点について. DM Ensemble 10:30-34, 2021.
23. 府川則子, 荒木 厚：管理栄養士の栄養指導の役割を踏まえて-求められる管理栄養士の役割. WOC Nursing 9:30-36, 2021.
24. 松尾佳紀, 荒木 厚：急増する高齢者の肥満/サルコペニア肥満：高齢者肥満症診療ガイドラインを含めて. 循環器内科 90:239-243, 2021.
25. 舘鼻 彩, 荒木 厚：血糖コントロールとフレイル. 糖尿病ケア 18:742-748, 2021.
26. 大村卓也, 荒木 厚：Q&A高齢糖尿病患者への適切な食事指導について教えてください. Aroach to Glycemic Variations. Calm 8(2):76-81, 2021.

<単行書・報告書>

1. 荒木 厚：検査値の評価. 内科学 第12版, 矢崎義雄, 小室一成 (総編集), 朝倉書店, 東京, I100-101, 2022.
2. 荒木 厚：高齢者糖尿病. 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2022-2023, 門脇 孝, 小室一成, 宮

- 地良樹(監修), メディカルビュー社, 大阪, pp. 1021-1026, 2022.
3. 荒木 厚: 高齢者の検査計画. 臨床検査データブック2021-2022, 高久史磨(監修), 黒川 清, 春日雅人, 北村聖(編集), 大西宏明(編集協力), 医学書院, 東京, pp. 75-80, 2021.
 4. 荒木 厚: 糖尿病. 身体合併症への対応. 認知症ビジュアルガイド, 鳥羽研二, 許 俊鋭(監修), 株式会社学研メディカル秀潤社, 東京, pp. 187-192, 2021.
 5. 荒木 厚: 糖尿病の治療とフレイル. 生活習慣病と健康長寿・フレイル対策, 葛谷雅文, 楽木宏美(監修), 荒井秀典(編集), 先端医学社, 東京, pp. 47-56, 2021.
 6. 荒木 厚: 認知症. 糖尿病合併症 管理・フォローアップ 包括的治療のポイント, 麻生好正(編), 文光堂, 東京, pp. 138-145, 2021.
 7. 荒木 厚: 糖尿病. スペシャリストが教える認知症を合併している患者の診かた、関わり方, 成本 迅, 谷向仁(編集), 新興医学出版社, 東京, pp. 46-54, 2021.
 8. 荒木 厚: 高齢者糖尿病. 糖尿病の最新治療2022-2024, 荒木栄一, 綿田裕孝, 山内敏正(編集), 南江堂, 東京, pp. 78-81, 2021.
 9. 荒木 厚: 生活習慣病(糖尿病、高血圧). フレイルハンドブック2022年版, 荒井秀典(監修), 佐竹昭介(編集), ライフ・サイエンス, 東京, pp. 77-78, 2022.
 10. 荒木 厚, 堅志, 羽根田千恵, 平野浩彦(執筆), 府川則子(資料協力): フレイルサポート栄養士テキスト, 東京都栄養士会, 東京都健康長寿医療センター, 東京, pp. 1-118, 2021.
 11. 秋下雅弘, 荒井秀典, 荒木 厚, 清水恵一郎, 江澤和彦, 羽鳥 裕, 羽生春夫, 松本吉郎, 楽木宏実(作成委員会): 超高齢社会におけるかかりつけ医のための適正使用の手引き5. 高血圧, 日本医師会(作成), 東京, pp. 1-15, 2021.
 12. 榎野久士, 植田太郎, 難波光義, 荒木 厚, 菊池貴子他(著): 糖尿病自分で治す最強事典, マキノ出版, 東京, 2021.

<学会・研究会発表>

1. Atsushi Araki, Takuya Omura, Yoshiaki Tamura, Keiko Motokawa, Hideki Ito: Dietary Management of Older Adults with Diabetes Focusing on Prevention of Frailty. 3rd International Conference of the Saudi Society for Clinical Nutrition. Web lecture, 10月30日, 2021.
2. Atsushi Araki: Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital: from acute care to geriatric care with consideration of frailty and dementia. 第7回老年医学イノベーションフォーラム. Web講演, 1月22日, 2022.
3. 荒木 厚: (座長) (シンポジウム 28高齢糖尿病患者に対する栄養管理と運動療法のススメ): 第64回日本糖尿病学会学術集会. Web開催, 5月22日, 2021.
4. 荒木 厚: (ジョイントシンポジウム2) Overview: 今回の高齢者糖尿病治療ガイドの改訂にあたって. 第63回日本老年医学会学術集会. Web講演, 6月12日, 2021.
5. 荒木 厚: (座長) (シンポジウム4糖尿病と認知機能障害). 第63回日本老年医学会学術集会. Web開催, 6月11日, 2021.
6. 荒木 厚: (シンポジウム1: 生活習慣病と認知症) 認知症予防を考慮した糖尿病の治療. 第21回日本抗加齢医学会総会. Web講演, 6月25日, 2021.
7. 荒木 厚: (教育講演) フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 第8回日本糖尿病療養指導学術集会. Web講演, 7月28日-8月31日, 2021.
8. 荒木 厚: (合併症学会シンポジウム 6: 高齢者糖尿病診療の実践と課題) 高齢者糖尿病の食事療法の実践と課題. 第36回日本糖尿病合併症学会. Web講演, 10月8日, 10月25日-11月8日オンデマンド配信, 2021.
9. 荒木 厚: (スポンサーセッション特別講演座長) 神崎恒一: 認知機能障害のある高齢者のフレイルと転倒. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 11月13日, 2021.
10. 荒木 厚: (スポンサーセミナー1) 高齢者糖尿病治療におけるGLP-1受容体作動薬の意義. 第32回日本糖尿病性腎症研究会. Web講演, 12月4日, 2021.
11. 荒木 厚: (専門医更新のための指定講演16) 高齢者糖尿病診療update. 第56回糖尿病学の進歩. Web講演, 2月25日-3月14日オンデマンド配信, 2022.
12. 大村卓也, 田村嘉章, 櫻井孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚: (会長企画) 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討 (J-EDIT研究). 第64回日本糖尿病学会年次学術集会, 富山(webハイブリッド開催), 5月22日, 2021.
13. 大村卓也, 田村嘉章, 豊島堅志, 千葉優子, 櫻井 孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚: 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討 (J-EDIT研究). 第64回日本糖尿病学会年次学術集会. 富山(webハイブリッド開催), 5月20日, 2021.
14. 松尾佳紀, 田村嘉章, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 石川譲治, 千葉優子, 下地啓五, 徳丸阿耶, 荒木

- 厚：高齢糖尿病患者における 大脳白質の統合性異常と転倒の関連. 第64回日本糖尿病学会学術集会. Web開催, 5月20日-22日2021.
15. 松尾佳紀, 田村嘉章, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 石川譲治, 千葉優子, 下地啓五, 徳丸阿耶, 荒木 厚：外来通院中の高齢者における 大脳白質統合性の異常と 2年後のフレイル発症の関連. 第63回日本老年医学会学術集会. Web開催, 6月11日-7月4日, 2021.
 16. 佐藤元彌, 田村 嘉章, 渡部 創, 全 秀剛, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木 厚：超高齢者におけるCSII・SAPの1例-その利点と課題-. 第21回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会. 東京, 8月29日, 2021.
 17. 佐藤元彌, 田村嘉章, 中西 恵, 糸数祐公子, 全 秀剛, 大隅 瞬, 岡崎啓明, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木 厚：著明な高トリグリセライド (TG) 血症による急性膵炎を発症した2型糖尿病の1例. 日本内科学会関東支部主催第672回関東地方会. 東京, 10月9日, 2021.
 18. 佐藤元彌, 豊島堅志, 堀越裕介, 全 秀剛, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木 厚：糖尿病ケトアシドーシスと腹腔内遊離ガスを合併した劇症1型糖尿病の1例. 第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 横浜, 1月22日, 2022.
 19. 高橋寿枝, 豊島堅志, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 千葉優子, 石川譲治, 田村嘉章, 荒木 厚：高齢糖尿病患者における ソーシャルネットワークとフレイルの関連について. 第64回日本糖尿病学会学術集会. Web開催, 5月20日-22日, 2021.
 20. 舘鼻 彩, 千葉優子, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 石川譲治, 田村嘉章, 荒木 厚：高齢糖尿病患者における MCIとフレイル・サルコペニアとの関連について. 第64回日本糖尿病学会学術集会. Web開催, 5月20日-22日, 2021.
 21. 加藤純子, 田上哲也, 浅原哲子, 山陰 一, 中村道三, 桑原 隆, 西 重生, 新谷光世, 山本果奈, 千葉優子, 荒木 厚：高齢糖尿病における甲状腺機能の検討. 第64回日本糖尿病学会学術集会. Web開催, 5月20日-22日, 2021.
 22. 大庭和人, 田村嘉章, 石川 譲治, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木 厚：高齢者の握力低下と腹部肥満で定義したダイナペニア肥満は認知機能障害と関連する. 第63回日本老年医学会学術集会. Web開催, 6月11日-7月4日, 2021.
 23. 舘鼻彩, 千葉優子, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 石川譲治, 田村嘉章, 荒木 厚：高齢糖尿病患者ではフレイル・サルコペニア評価がMCI早期発見の指標となる. 第63回日本老年医学会学術集会. Web開催, 6月11日-7月4日, 2021.
 24. 高橋寿枝, 豊島堅志, 石川譲治, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 大庭和人, 千葉優子, 田村嘉章, 荒木 厚：高齢患者のソーシャルネットワークとフレイルの関連について. 第63回日本老年医学会学術集会. 6月11日-7月4日, 2021.
 25. 勝俣 悠, 田村嘉章, 村尾雄治, 小林史乃, 飯塚あい, 大庭和人, 豊島堅志, 千葉優子, 石川譲治, 荒木 厚：COVID-19の感染拡大に伴う高齢者の活動変化の特徴とフレイルとの関連. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. Web開催, 11月13日, 2021.
 26. 高橋寿枝, 大庭和人, 田村嘉章, 松川美保, 三井秀雄, 今林悦子, 阿部光一郎, 舘鼻 彩, 小寺玲美, 豊島堅志, 千葉優子, 井下尚子, 荒木 厚：無症候性、生化学的所見陰性の後腹膜パラガングリオーマの一例. 第31回臨床内分泌代謝Update. Web開催, 11月26日-27日, 2021.
 27. 高橋寿枝, 大村卓也, 大庭和人, 舘鼻彩, 小寺玲美, 豊島堅志, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木 厚, 中山智祥：難治性低K血症を来しGitelman症候群と診断された高齢女性の1例. 第674回日本内科学会関東地方会. Web開催, 12月11日, 2021.
 28. 林 卓矢, 今林悦子, 阿部光一郎, 田村嘉章, 井下尚子, 野中敬介, 高田晃一, 下地啓五, 亀山征史, 荒木 厚, 徳丸阿耶：術前に神経内分泌腫瘍 (NET) と鑑別困難であったparagangliomaの画像所見. 第95回日本核医学会関東甲信越地方会. Web開催, 7月10日, 2021.
 29. 村尾雄治, 石川譲治, 小林史乃, 飯塚あい, 鳥羽梓弓, 原田和昌, 田村嘉章, 荒木 厚：心血管代謝危険因子を有する高齢者における運動機能分析装置「zaRitz」の総合得点とフレイルとの関連. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. Web開催, 11月6日-7日, 2021.
 30. 小林史乃, 石川譲治, 村尾雄治, 鳥羽梓弓, 田村嘉章, 原田和昌, 荒木 厚：心血管代謝危険因子を有する高齢者における抑うつ有病率と規定因子. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. Web開催, 11月6日-7日, 2021.

<講師等院外活動（講演・放送等）>

（講演）

1. 荒木 厚：（座長）田中逸：超高齢社会における糖尿病の食事・運動療法. 糖尿病セミナー. 東京, Web開催, 4月21日, 2021.
2. 荒木 厚：糖尿病, 脂質異常症, 甲状腺疾患. 杏林大学医学部加齢医学講座M4講義. 4月16日, 2020.

3. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩-高齢者糖尿病治療ガイド2021の改訂にあたって. Tokyo Web Seminar. Web開催, 4月21日, 2021.
4. 荒木 厚：認知機能障害とフレイル・AL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療-感染症流行期やポストコロナ時代に求められる対策. WEBライセミナー. Web開催, 5月6日, 2021.
5. 荒木 厚：高齢者糖尿病治療におけるGLP-1受容体作動薬の意義. GLP-1 Teams Web講演会. Web開催, 5月28日, 2021.
6. 荒木 厚：(特別講演座長) 塚本和久：糖尿病における脂質管理の状況と今後の展望. 糖尿病と脂質を考える会. Web開催, 6月15日, 2021.
7. 荒木 厚：「フレイルとは」、「フレイルとサルコペニアの評価法」. 第1回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6月18日, 2021.
8. 荒木 厚：「フレイルと栄養」. 第2回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6月22日, 2021.
9. 荒木 厚：「社会的フレイル、地域のフレイル対策」. 第3回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 7月1日, 2021.
10. 荒木 厚：フレイル・AL低下と認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. DM Conference in 品川・港. Web開催, 6月28日, 2021.
11. 荒木 厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. Urology and Diabetes Information Seminar. Web開催, 6月29日, 2021.
12. 荒木 厚：認知機能障害やADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療-高齢者糖尿病治療ガイド2021のポイントも含めて. Diabetes Update in 四国. Web開催, 6月30日, 2021.
13. 荒木 厚：認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病WEBセミナー. Web開催, 7月5日, 2021.
14. 荒木 厚：(特別講演座長) 菅原正弘：経口GLP-1作動薬の登場で糖尿病治療はこう変わる. 城北・城西糖尿病セミナー. Web開催, 7月7日, 2021.
15. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病とサルコペニア・フレイル. T2DM Patient Centricity Forum. Web開催, 7月15日, 2021.
16. 荒木 厚：(特別講演座長) 秋山純一：酸関連疾患治療の最近の動向-GERD診療ガイドライン改訂を踏まえて. 高齢医学セミナー. Web開催, 7月13日, 2021.
17. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病治療-高齢者糖尿病治療ガイド2021を踏まえて. Diabetes Update in Tokyo WEBセミナー. Web開催, 8月25日, 2021.
18. 荒木 厚：(特別講演) フレイル、サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. 第11回東近江糖尿病研究会. Web開催, 8月28日, 2021.
19. 荒木 厚：(コメント) フレイルサポート栄養士研修会ワークショップ. Web開催, 8月29日, 2021.
20. 荒木 厚：(司会) 大村卓也：個人差が大きい高齢者の血糖管理目標：カテゴリー分類に関する最近の知見. 区西北部糖尿病Webカンファレンス. Web開催, 9月9日, 2021.
21. 荒木 厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第1回Diabetes Relationship Seminar in Chiba 2021. Web開催, 9月14日, 2021.
22. 荒木 厚：高齢者糖尿病患者におけるインスリン療法-現状と今後の展望. Teams Web講演. Web開催, 9月17日, 2021.
23. 荒木 厚：(特別講演) 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病×認知症Online Seminar. Web開催, 9月21日, 2021.
24. 荒木 厚, 松久宗英：高齢者糖尿病におけるインスリン治療についての対談. Web対談, 9月22日, 2021.
25. 荒木 厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療-ポストコロナにおける注意点も含めて. プラスケア スタイルセミナー2021東京Webセミナー. 血糖値をよく見よう. Web開催, 9月24日, 2021.
26. 荒木 厚：(Discussionコメンテーター) Diabetes Expert Conference. Web開催, 9月29日, 2021.
27. 荒木 厚：中年期から取り組むフレイル予防～元気でいきいき暮らすための生活習慣管理. 令和3年度年度健康づくり事業推進指導者育成研修. web配信, 10月1日, 2021.
28. 荒木 厚：いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養方法～フレイル（虚弱）の対策を立てよう. 令和3年度区西北部合同糖尿病区民公開講座. Web配信, 11月1日-30日, 2021.
29. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩-高齢者糖尿病治療ガイド2021の改訂にあたって. 高齢者糖尿病治療を考えるオンラインセミナー. Web開催, 10月14日, 2021.
30. 荒木 厚：認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 南空知学術講演会：高齢者糖尿病セミナー. Web開催, 10月15日, 2021.
31. 荒木 厚：(座長) 循環器診療における生命予後について-心血管イベント. 健康寿命の延伸を考える会. Web開催, 10月20日, 2021.

32. 荒木 厚：(基調講演座長) 大西由紀子：糖尿病治療の進歩 - 特にGLP-1受容体作動薬とSGLT2阻害薬について. 第26回城北CDE WEBセミナー. Web開催, 10月23 日, 2021.
 33. 荒木 厚：(特別講演) サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. DUAL Seminar in 福岡. Web開催, 10月26 日, 2021.
 34. 荒木 厚：認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 京都「身体疾患と認知症」研究会. Web開催, 10月30日, 2021.
 35. 荒木 厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療. 第127回東京都城北整形外科医会. 東京, 11月11日, 2021.
 36. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩-高齢者糖尿病治療ガイド2021の改訂にあたって. 伊万里有田糖尿病weekセミナー. Web開催, 11月16日, 2021.
 37. 荒木 厚：高齢者糖尿病治療におけるGLP-1受容体作動薬の意義. GLP-1 Web講演会. Web開催, 11月19日, 2021.
 38. 荒木 厚：認知症・ADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. 在宅医療患者のQOL向上を考える会. Web開催, 11月24日, 2021.
 39. 荒木 厚：認知症を考慮した糖尿病の治療. 第3回足立区認知症ケア研修会. Web開催, 12月7日, 2021.
 40. 荒木 厚：機能カテゴリー分類に基づいた高齢者糖尿病治療. Diabetes Expert Information Seminar. Web開催, 12月17日, 2021.
 41. 荒木 厚：「フレイルを見つける」「サルコペニアを見つける」「生命予後、機能予後」フレイル予防セミナー～今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント. 東京都健康長寿医療センター, 12月24日, 2021.
 42. 荒木 厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. Teijin Expert clinician's Lecture. Web開催, 1月11 日, 2022.
 43. 荒木 厚：高齢者のフレイル・サルコペニアの最新知見について. JCHO東京新宿メディカルセンター講演会. Web開催, 1月27日, 2022.
 44. 荒木 厚：フレイルと栄養管理について. 高齢者看護エキスパート研修. 東京都健康長寿医療センター, 2月4 日, 2022.
 45. 荒木 厚：いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養のこつ-フレイル(虚弱) 対策の重要性. 区中央部糖尿病医療連携検討会主催 市民講座. Web開催, 2月5日, 2022.
 46. 荒木 厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 「フレイル」を考慮した高齢者医療-認知症と糖尿病. Web開催, 2月17日, 2022.
 47. 荒木 厚：地域連携によるフレイル予防. 在宅医療ネットワークの会. 板橋区, Web開催, 2月18日, 2022.
 48. 荒木 厚：高齢者糖尿病患者におけるインスリン療法-現状と今後の展望. Teams Web講演. Web開催, 3月8 日, 2022.
 49. 荒木 厚：サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. 板橋区医師会学術講演会. Web開催, 3月15日, 2022.
 50. 荒木 厚：(企画、開会挨拶、閉会の辞) 第27回城北CDE WEBセミナー. Web開催, 3月19 日, 2021.
 51. 荒木 厚：(座長) 小川純人：高齢者のサルコペニア・フレイルと糖尿病管理. DiaMond Seminar in 城西. Web開催, 3月22 日, 2021.
- (メディア)
52. 荒木 厚：【今から始めよう！70代まで働く健康術】糖尿病の高齢者にリスク 高血糖よりも注意したい認知症や生活動作の衰え. 夕刊フジ. 7月14日, 2021.
 53. 荒木 厚：今から始めよう！70代まで働く健康術】高齢者糖尿病患者の死亡リスクを左右する「8つの質問」. 夕刊フジ. 7月21日, 2021.
 54. 荒木 厚：【今から始めよう！70代まで働く健康術】高齢者糖尿病. 認知症と関係. 早期の肥満解消で予防を. 夕刊フジ. 7月28日, 2021.
 55. 荒木 厚：8つの質問で高齢者糖尿病をやさしく【時流◆糖尿病診療のone more step】. m3.com, 8月19日配信, 2021.
 56. 荒木 厚：高齢者糖尿病カテゴリー分類、誰にいつ使う？【時流◆糖尿病診療のone more step】. m3.com, 8月24日配信, 2021.
 57. 荒木 厚：軽度認知機能障害の画像診断や認知症予防を見据えた糖尿病治療などについて報告. 第21回日本抗加齢医学会総会. 医薬通信社, 6月29日配信, 2021年.
 58. 大村卓也, 荒木 厚：「高齢者糖尿病の血糖管理目標 (HbA1c値)」と死亡リスクの関係. CareNet. 5月14日配信, 2021.
 59. 大村卓也, 荒木 厚：高齢者糖尿病の血糖管理目標の分類と死亡リスクの相関が明らかに. HealthDay. 5月31日配信, 2021.
 60. 大村卓也, 荒木 厚：高齢者糖尿病の治療、血糖管理に加え認知機能やADLの維持が重要-都長寿研. QLifePro医療ニュース6月2日配信, 2021.
 61. 大村卓也, 荒木 厚：高齢糖尿病の新しいエビデンス. 糖尿病リソースガイド. 6月2日配信, 2021.

62. 大村卓也, 荒木 厚: 高齢者糖尿病の血糖管理目標の分類と死亡リスクの相関が明らかに. m3・臨床ニュース. 6月11日配信, 2021.

(論文査読)

1. 荒木 厚: Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism, The Lancet's EClinicalMedicine, Geriatrics and Gerontology International, BMC Geriatrics, Diabetology International, Journal of Diabetes Investigation の論文を査読

副院長 時村 文秋

<雑誌論文>

1. Yasue K, Tokimura F, Miyazaki T: 18 F-sodium fluoride positron emission tomography may help diagnose nondisplaced peri-prosthetic and peri-implant fracture. Clinical case reports 9(9):e04846, 2021.
2. 永田向生, 山田浩司, 宮崎 剛, 時村文秋, 田尻康人, 山川聖史, 松本卓也, 田中 栄, 岡崎裕司: 整形外科のSSI予防を再考する 予防的抗菌薬投与の最新知見 NOCOTA study から分かったこと. 日本整形外科学会雑誌 95(8):S1448, 2021.
3. 長谷部奨, 早川謙太郎, 濱路 博, 時村文秋, 宮崎 剛: NaF PETで異常集積パターンを示した人工関節周囲感染の1例. 関東整形災害外科学会雑誌 52(5):221-226, 2021.

総合内科・高齢診療科

<単行書に一部執筆>

1. 中山智博、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「うつ」．Geriatric Medicine 2021；59(4)：405-409
2. 碩みはる、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「睡眠障害」．Geriatric Medicine 2021；59(5)：531-537
3. 米山尚慶、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「慢性疼痛・しびれ」．Geriatric Medicine 2021；59(3)：613-617
4. 大川庭熙：高齢診療科マニュアル「息切れ」．Geriatric Medicine 2021；59(7)：717-721
5. 片岡 愛、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「嚥下機能障害」．Geriatric Medicine 2021；59(8)：815-821
6. 北郷 萌、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「食欲不振」．Geriatric Medicine 2021；59(9)：915-920
7. 北郷 萌、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「めまい・ふらつき」．Geriatric Medicine 2021；59(10)：1213-1218
8. 大川庭熙：高齢診療科マニュアル「サルコペニア」．Geriatric Medicine 2021；60(1)：67-73
9. 中山智博、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「排尿障害」．Geriatric Medicine 2021；60(2)：167-170
10. 片岡 愛、岩切理歌：高齢診療科マニュアル「排便障害」．Geriatric Medicine 2021；60(3)：257-263
11. 岩切理歌：いざという時に知っておくべき親の健康情報．毎日新聞東京社Webサイト「なかまある：2022年1月号
12. 岩切理歌：ポリファーマシー外来．毎日新聞社医療プレミア：2021；6月号

<講師など院外活動>

1. 岩切理歌：神奈川県病院薬剤師会 令和3年度医薬品情報スキルアップ講座
「外来におけるポリファーマシー対策」川崎市(Webで参加)．6月5日，2021
2. 岩切理歌：板橋区薬剤師会 板薬第80回イブニングセミナー
「高齢者におけるポリファーマシー対策」板橋区．9月9日，2021
3. 岩切理歌：東京都看護協会 「高齢者のフィジカルアセスメント～高齢者に多い症状や疾患に対するケア」
西新宿．12月15日，2021
4. 岩切理歌：公明党東京都本部 女性の健康週間
「健康長寿の秘訣～フレイルを予防するために～」渋谷区．2月27日，2022

膠原病・リウマチ科

<雑誌論文>

1. Kobayashi S, Nagafuchi Y, Okubo M, Sugimori Y, Hatano H, Yamada S, Nakano M, Yoshida R, Takeshima Y, Ota M, Tsuchida Y, Iwasaki Y, Setoguchi K, Kubo K, Okamura T, Yamamoto K, Shoda H, Fujio K. Dysregulation of the gene signature of effector regulatory T cells in the early phase of systemic sclerosis. Rheumatology (Oxford). 2022 Jan 18;keac031.
2. Yamada S, Kanda H, Abe H, Domoto YS, Yoshida R, Harada H, Kubo K, Ushiku T, Fujio K. Predominant mesangial IgM, C3, and λ light chain depositions and interstitial nephritis in a patient with overlap syndrome and positivity for anti-mitochondrial M2 antibody: a case report. Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jan 7;6(1):124-127.
3. Ota M, Nagafuchi Y, Hatano H, Ishigaki K, Terao C, Takeshima Y, Yanaoka H, Kobayashi S, Okubo M, Shirai H, Sugimori Y, Maeda J, Nakano M, Yamada S, Yoshida R, Tsuchiya H, Tsuchida Y, Akizuki S, Yoshifuji H, Ohmura K, Mimori T, Yoshida K, Kurosaka D, Okada M, Setoguchi K, Kaneko H, Ban N, Yabuki N, Matsuki K, Mutoh H, Oyama S, Okazaki M, Tsunoda H, Iwasaki Y, Sumitomo S, Shoda H, Kochi Y, Okada Y, Yamamoto K, Okamura T, Fujio K. Dynamic landscape of immune cell-specific gene regulation in immune-mediated diseases. Cell. 2021 May 27;184(11):3006-3021.e17.
4. Hanata N, Nagafuchi Y, Sugimori Y, Kobayashi S, Tsuchida Y, Iwasaki Y, Shoda H, Fujio K. Serum Amphiregulin and Heparin-Binding Epidermal Growth Factor as Biomarkers in Patients with Idiopathic Inflammatory Myopathy. J Clin Med. 2021 Aug 22;10(16):3730.
5. Yanaoka H, Nagafuchi Y, Hanata N, Takeshima Y, Ota M, Suwa Y, Shirai H, Sugimori Y, Okubo M, Kobayashi S, Hatano H, Yamada S, Tsuchida Y, Iwasaki Y, Sumitomo S, Shoda H, Okada M, Okamura T, Yamamoto K, Fujio K. Identifying the most influential gene expression profile in distinguishing ANCA-associated vasculitis from healthy controls. J Autoimmun. 2021 May;119:102617.

<総説/単行本>

1. 久保かなえ:『2. 高齢者』ここが知りたい! 膠原病診療ハンドブック 第IV章 p420-426. 中外医学社
2. 久保かなえ:『9. 若年者と高齢者の膠原病』膠原病診療をスッキリまとめました p56-63. 南江堂
3. 久保かなえ:『037 リウマチ性疾患』高齢者診療のために臨床検査ガイド 第2章 g アレルギー・免疫系 p99-101 診断と治療社

<学会・研究会発表>

1. 小林聖未, 永渕泰雄, 大久保麻衣, 杉森祐介, 波多野裕明, 山田紗依子, 中野正博, 吉田良知, 竹島雄介, 太田峰人, 土田優美, 岩崎由希子, 瀬戸口京吾, 久保かなえ, 岡村僚久, 山本一彦, 庄田宏文, 藤尾圭志. 早期全身性強皮症における免疫細胞遺伝子発現プロファイル解析. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021.4
2. 嶋崎亮介, 青山里恵, 宮脇正次, 久保かなえ. 抗SS-A抗体/抗ARS抗体陽性肺高血圧症に対し免疫抑制療法とシルデナフィル併用が有効であった一例. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021.4
3. 沼賀由佳, 久保かなえ. 発熱を契機に診断された yellow nail syndrome の一例. 第65回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021.4
4. 松本拓実, 細谷匡, 馬場洋行, 土田真吏奈, 神谷麻理, 小宮陽仁, 平野史生, 久保かなえ, 杉原毅彦. 75歳以上のMTXナীব高血圧症RA患者に対する低疾患活動性を目標とした treat-to-target の治療成績の検

討—CRANE コホート. 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021.4

5. Saeko Yamada, Yasuo Nagafuchi, Mineto Ota, Hiroaki Hatano, Yukiko Iwasaki, Hirofumi Shoda, Kanae Kubo, Kenichi Shimane, Keigo Setoguchi, Takanori Azuma, Kazuhiko Yamamoto, Tomohisa Okamura, Keishi Fujio. Immunomics analysis of rheumatoid arthritis identified pre-dendritic cells as a key cell subset of treatment resistance. ICW5 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2021.4
6. 山田紗依子、長渕泰雄、太田峰人、波多野裕明、岩崎由希子、庄田宏文、久保かなえ、島根謙一、瀬戸口京吾、東孝典、山本一彦、岡村僚久、藤尾圭志. 関節リウマチの免疫細胞プロファイリングによる治療抵抗性予測因子としての樹状細胞前駆細胞 (pre DC) の同定. 第 6 回日本骨免疫学会 2021.6
7. Saeko Yamada, Yasuo Nagafuchi, Mineto Ota, Hiroaki Hatano, Yukiko Iwasaki, Hirofumi Shoda, Kanae Kubo, Kenichi Shimane, Keigo Setoguchi, Takanori Azuma, Kazuhiko Yamamoto, Tomohisa Okamura, Keishi Fujio. Immunomics analysis of rheumatoid arthritis identified pre-dendritic cells as a key cell subset of treatment resistance. 23rd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress. 2021.8
8. 小林聖未、永渕泰雄、大久保麻衣、杉森祐介、波多野裕明、山田紗依子、中野正博、吉田良知、竹島雄介、太田峰人、土田優美、岩崎由希子、瀬戸口京吾、久保かなえ、岡村僚久、山本一彦、庄田宏文、藤尾圭志. 早期強皮症における制御性 T 細胞活性化遺伝子発現 signature の同定. 第 49 回日本臨床免疫学会総会 2021.10
9. 永渕泰雄、太田峰人、波多野裕明、井上眞璃子、小林聖未、大久保麻衣、杉森祐介、中野正博、山田紗依子、吉田良知、岩崎由希子、庄田宏文、山本一彦、岡村僚久、藤尾圭志. 関節リウマチ感受性 HLA によるナイーブ・エフェクター T 細胞受容体レパトアの制御. 第 49 回日本臨床免疫学会総会 2021.10
10. 西脇彩、駒井俊彦、永渕泰雄、太田峰人、吉田良知、波多野裕明、大久保麻衣、小林聖未、杉森祐介、中野正博、竹島雄介、土屋遥香、岩崎由希子、住友秀次、庄田宏文、山本一彦、岡村僚久、藤尾圭志. IgG4 関連疾患における末梢血免疫担当細胞サブセットと BCR レパトア解析. 第 49 回日本臨床免疫学会総会 2021.10
11. 小森雄太、小林聖未、久保かなえ. 新型コロナウイルスワクチン接種後に、嚥下機能障害を伴う筋炎を併発した高齢発症シェーグレン症候群の一例. 第 676 回内科学会関東地方会 2022.3

<講師等院外活動（講演・放送等）>

1. 久保かなえ RA-ILD の診断と治療について. CTD-ILD Web Academy 2021.4
2. 久保かなえ 高齢化社会における関節リウマチの診療を考える. 東京戌亥リウマチ WEB Seminar. 2021.5
3. 久保かなえ 高齢者 R A の病態と治療. 首都圏 web セミナー-Meet the Expert- 2021.6
4. 久保かなえ RA 治療とデバイスの歴史. RA Immunology Seminar 2022. 2022.2
5. 久保かなえ サリルマブについて. さくら膠原病医療連携の会 2022.3

腎臓内科・血液透析科

<原著論文>

1. Sugimoto H, Yumura W, Yamaguchi Y, Yamanaka N, Hashimoto S, Arai M, Matsuno S, Shimizu A, Arai T, Itabashi M, Takei T. Identification of histopathological and clinical spectrum of diabetic kidney disease based on an unsupervised hierarchical clustering analysis of elderly autopsy specimens. Nephrology. in press, 2022
2. Yamaguchi Y, Takei T, Matsuda Y, Yumura W, Itabashi M, Arai T, Shimizu A. Autopsy study examining non-chronic kidney disease versus chronic kidney disease caused by hypertensive-nephrosclerosis in elderly subjects. Clin Exp Nephrol.: doi: 10.1007/s10157-022-02189-x. Online ahead of print, 2022
3. Doshida Y, Itabashi M, Takei T, Takino Y, Sato A, Yumura W, Maruyama N, Ishigami A. Reduced Plasma Ascorbate and Increased Proportion of Dehydroascorbic Acid Levels in Patients Undergoing Hemodialysis. Life (Basel). 11(10):1023. doi: 10.3390/life11101023., 2021
4. Sugimoto H, Yamaguchi Y, Yumura W, Takei T. Efficacy and safety of low-dose corticosteroid with azathioprine in the treatment of elderly-onset IgA vasculitis with nephritis. BMJ Case Rep. 14(6):e241422. doi: 10.1136/bcr-2020-241422., 2021.

<学会抄録>

1. 湯村 和子, 杉本 光, 山中 法子, 山口 靖子, 橋本 征治, 荒井 誠大, 松野 志歩, 清水 章, 板橋 美津世, 武井 卓, 糖尿病性腎臓病の病理組織学的スペクトラムの検証、日本腎臓学会、横浜、2021.6
2. 荒井 誠大, 山中 法子, 板橋 美津世, 武井 卓, 高齢慢性腎臓病患者の透析導入時における DASC-8 の評価意義、日本老年医学会、京都、2021.5
3. 橋本 征治, 松野 志歩, 荒井 誠大, 山中 法子, 板橋 美津世, 武井 卓, 高齢慢性腎臓病患者の透析導入時の DASC-21 と退院転帰に関する検討、日本老年医学会、京都、2021.5
4. 林 卓矢, 橋本 征治, 山中 法子, 宮澤 理恵子, 板橋 美津世, 武井 卓, 紫斑により好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)との合併が考えられた IgG4 関連疾患の 1 例、日本内科学会関東地方会、東京、2021.7
5. 國部 亜希, 橋本 征治, 荒井 誠大, 山中 法子, 齋藤 輔, 板橋 美津世, 武井 卓, Lupus anticoagulant-hypoprothrombinemia syndrome(LAHPS)を伴った劇症型抗リン脂質抗体症候群(CAPS)に対しリツキシマブ(RTX)が奏効した 1 例、日本内科学会関東地方会、東京、2021.7
6. 齊藤 英一, 小西 治子, 佐藤 深雪, 香西 友佳, 亀谷 由佳子, 板橋 美津世, 山口 靖子, 武井 卓, 加登 大介, 緩和ケア病棟へ入棟した維持透析患者 3 例の症状緩和と意思決定支援 日本緩和医療学会、横浜、2021.6
7. 石田 みのり, 梶 真悠子, 小澤 直人, 和田 智至, 高岡 祐子, 久保 かなえ, 武井 卓, 板橋 美津世, 遠心法による単純血漿交換を経験して、日本透析医学会 横浜、2021.5
8. 土志田 裕太, 板橋 美津世, 武井 卓, 滝野 有花, 佐藤 綾美, 湯村 和子, 丸山 直記, 石神 昭人 血液透析は日本人透析患者の血漿アスコルビン酸濃度を低下させる、日本ビタミン学会、東京、2021.4

<院外講師>

1. 板橋美津世, 東京女子医大講師:原発性糸球体疾患、腎疾患の治療(食事および生活指導) 2021. 12

糖尿病・代謝・内分泌内科

当科スタッフは当センター研究所を含めた多くの共同研究者とともに研究を行い、その結果、誌上発表81、学会発表42、講演その他90で総発表数は213となり、昨年と比べて増加した。今年度はほとんどのスタッフが英文誌に発表できたことが特徴である。研究の主たるテーマは糖尿病と認知機能、フレイル・サルコペニア、栄養である。血糖変動と脳白質統合性異常の関連（田村）、吸引穿刺し、診断できた甲状腺癌の臨床的特徴（千葉）、体力年齢とHbA1c、BMIとの関連（豊島）、高齢者糖尿病のカテゴリー分類と死亡リスク（大村）、ダイナペニア腹部肥満と認知機能障害との関連（大庭）の論文が英文誌に掲載された

当科は長寿医療開発研究のフレイルレジストリー研究、全国の大学病院等の糖尿病患者のレジストリー研究「J-DREAMS」に参加している。

当科スタッフは合同委員会の「高齢者糖尿病診療ガイドライン2023」の執筆を行っており、2023年に刊行予定である。また、日本老年医学会の「高齢者薬物療法ガイドライン2021」の作成にも関与している。

<雑誌論文(原著論文、英文誌、学会誌)>

1. Toyoshima K, Seino S, Tamura Y, Ishikawa J, Chiba Y, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Araki A. Difference between “Physical Fitness Age” Based on Physical Function and Chronological Age Is Associated with Obesity, Hyperglycemia, Depressive Symptoms, and Low Serum Albumin. *J Nutr Health Aging* 2022 (in press).
2. Oba K, Tamura Y, Ishikawa J, Suzuki H, Fujiwara Y, Tachibana A, Kodera R, Toyoshima K, Chiba Y, Araki A. Dynapenic abdominal obesity is associated with mild cognitive impairment in patients with cardiometabolic disease: a cross-sectional study. *BMC Geriatr*. 2022;22(1):255.
3. Furuto-Kato S, Araki A, Chiba Y, Nakamura M, Shintani M, Kuwahara T, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Tagami T. Relationship between the Thyroid Function and Cognitive Impairment in the Elderly in Japan. *Intern Med*. 2022 Mar 19. Epub ahead of print.
4. Omura T, Araki A. Skeletal muscle as a treatment target for older adults with diabetes mellitus: The importance of a multimodal intervention based on functional category. *Geriatr Gerontol Int* 22(2):110-120, 2022.
5. Tamura Y, Shimoji K, Ishikawa J, Matsuo Y, Watanabe S, Takahashi H, Zen S, Tachibana A, Omura T, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Tokumaru AM, Araki A. Subclinical atherosclerosis, vascular risk factors, and white matter alterations in diffusion tensor imaging findings of older adults with cardiometabolic diseases. *Front Aging Neurosci*13:712385, 2021.
6. Takeuchi M, Horikawa C, Hatta M 4, Takeda Y, R, Nedachi R, Ikeda I, Morikawa S, Kato N, Yokoyama H, Aida R, Tanaka S, Kamada C, Yoshimura Y, Saito T, Fujihara K, Araki A, Sone H. Secular Trends in Dietary Intake over a 20-Year Period in People with Type 2 Diabetes in Japan: A Comparative Study of Two Nationwide Registries; Japan Diabetes Complications Study (JDCS) and Japan Diabetes Clinical Data Management Study (JDDM). *Nutrients* 13:3428, 2021.
7. Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K. The relationship between blood pressure and cognitive function. *Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev* 10: 200104, 2021.
8. Chiba Y, Kodera R, Tachibana A, Oba K, Toyoshima K, Tamura Y, Araki A. Role of ultrasonography-guided fine needle aspiration cytology in diagnosing thyroid cancer in elderly patients. *Ann Gerontol Geriatric Res* 7(1):1054, 2021.
9. Tanaka S, Langer J, Morton T, Hoskins N, Wilkinson L, Tanaka-Mizuno S, Kawasaki R, Moriya T, Horikawa C, Aida R, Araki A, Fujihara K, Sone H. Developing a health economic model for Asians with type 2 diabetes based on the Japan Diabetes Complications Study and the Japanese Elderly

- Diabetes Intervention Trial. BMJ Open Diabetes Res Care 9(1):e002177, 2021.
10. Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T. The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan: Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial. Front Aging Neurosci 13:680341, 2021.
 11. Tamura Y, Shimoji K, Tachibana A, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Ishikawa J, Tokumaru AM, Araki A. Associations between sarcopenia and white matter alterations in older adults with diabetes mellitus: A diffusion tensor imaging study. J Diabetes Investig 12(4):633-640, 2021.
 12. Omura T, Tamura Y, Sakurai T, Umegaki H, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, Araki A; the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Functional categories based on cognition and activities of daily living predicts all-cause mortality in older adults with diabetes mellitus: The Japanese Elderly Diabetes Intervention. Geriatr Gerontol Int 21(6):512-518, 2021.
 13. Omura T, Ito H, Araki A. Which is a better predictor for adverse events in older adults with diabetes, frailty or higher-level functional incapacity? Geriatr Gerontol Int 21(6):541-542, 2021.
 14. 荒木 厚: 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 日内会誌 110(4): 761-768, 2021.
 15. 荒木 厚: 高齢者糖尿病の食事療法のポイント. 糖尿病合併症 35(2):235-239, 2021.
 16. 荒木 厚: 認知機能障害を考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 日本糖尿病教育・看護学会誌 25:73-78, 2021
 17. 荒木 厚: 高齢者糖尿病診療の実践と課題. 糖尿病合併症, 印刷中
 18. 荒木 厚: 司会のことば. 高齢者糖尿病の特徴と個別化医療の実践における課題. 糖尿病合併症 35(2):244, 2021.
 19. 橋本征治, 田村嘉章, 小寺玲美, 館鼻彩, 豊島弘一, 大庭和人, 豊島堅志, 仁科裕史, 千葉優子, 荒木 厚. ウレアーゼ産生菌の尿路感染症に伴う高アンモニア血症によって意識障害をきたしたレビー小体型認知症 (DLB) の一例. 日本老年医学会雑誌 58(2):297-302, 2021.
 20. 松尾佳紀, 田村嘉章, 植倉弘智, 渡部創, 高橋寿枝, 全秀剛, 館鼻彩, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木 厚. 2型糖尿病の経過中、GAD 抗体陽性が判明した高齢糖尿病一疾患感受性と抵抗性の両 HLA を持つ 1 例. 糖尿病 64(5):327-332, 2021.
 21. 渡部創, 千葉優子, 大庭和人, 松川美穂, 平野浩彦, 徳丸阿耶, 小寺玲美, 豊島堅志, 田村嘉章, 荒木 厚. 高浸透圧高血糖状態を契機に浸透圧性脱髄症候群による嚥下障害を発症した高齢 2 型糖尿病の 1 例. 日本老年医学会雑誌 59(2):225-232, 2022.

<雑誌論文(総説)>

22. 荒木 厚: (炉辺閑話) 見事な老い方 - フレイル予防から老年的超越へ. 日本医事新報 5097: 40-40, 2022.
23. 荒木 厚: 急性期医療からフレイル・認知症を考慮した老年病診療まで: 東京都健康長寿医療センター. Geriatric Medicine 60(1): 45-50, 2022.
24. 荒木 厚: 「高齢者糖尿病治療ガイド 2021」の考え方. 糖尿病・内分泌代謝科 54:94-101, 2022.
25. 荒木 厚: 「高齢者糖尿病治療ガイド 2021」の特徴と基本的な考えかた. 3 糖尿病プラクティス 9:14-19, 2022.
26. 荒木 厚: 高齢者糖尿病の管理: 認知機能と ADL の評価に基づいたカテゴリー分類による包括的治療. 医学のあゆみ 279:469-473, 2021.
27. 荒木 厚: 糖尿病患者をサルコペニア・フレイルにしないためのコツ. 日本医事新報 5071:18-27, 2021.
28. 荒木 厚. 高齢者糖尿病を取り巻く現状と課題. PROGRESS IN MEDICINE 41(9): 789-793, 2021.
29. 荒木 厚: 我が国の高齢者糖尿病の実態. 月刊糖尿病 139: 6-13, 2021.
30. 荒木 厚: 高齢者糖尿病の現状の課題と展望. Geriatric Medicine 59(4): 345-350, 2021.

31. 荒木 厚：特集 COVID-19 と老年医学 序文：COVID-19 と老年医学の特集に寄せて. Geriatric Medicine 59(5)：429-430, 2021.
32. 荒木 厚：老年症候群に対する診察：認知機能障害、認知症. Geriatric Medicine 59(11)：1113-1118, 2021.
33. 荒木 厚：第 21 回うつ傾向、うつ病。【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット、4 月 12 日配信, 2021.
34. 荒木 厚：第 25 回高齢者総合機能評価のしかた。【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット、12 月 20 日配信, 2021.
35. 荒木 厚：生活習慣病と認知症予防の深い関係を知ろう。【ドクターズコラム】健達ネット、9 月 21 日配信, 2021.
36. 荒木 厚：フレイル予防センター. WOC Nursing 9：85-90, 2021
37. 荒木 厚, 高橋 寿枝：高齢者のメタボリックシンドローム. 老年内科 4:218-221, 2021.
38. 荒木 厚：Q 糖尿病を患っている父。元気がないのはサルコペニアのせい？Health&Life 443 (10):22, 2021.
39. 荒木 厚：フレイル・サルコペニアを考慮した高齢糖尿病患者の血糖および栄養管理. BEQ NEWS 42:3-4, 2021.
40. 荒木 厚：今日からできる介護予防。座位時間を短くすることが介護予防と糖尿病予防の第一歩. 板橋区版 AIP 広報誌 11 号, 2021.
41. 荒木 厚, 稲垣暢也：(オンライン対談) 高齢者糖尿病における現状の課題と展望. Medical Tribune. 2021 年 9 月 16 日版.
42. 豊島堅志, 荒木 厚：高齢者糖尿病. 内科 129:1107-1112, 2021.
43. 大庭和人, 荒木 厚：血糖降下薬以外の配合剤・週 1 回製剤の利点と注意点について. DM Ensemble 10：30-34, 2021.
44. 府川則子, 荒木 厚：管理栄養士の栄養指導の役割を踏まえて-求められる管理栄養士の役割. WOC Nursing 9：30-36, 2021.
45. 松尾佳紀, 荒木 厚：急増する高齢者の肥満/サルコペニア肥満：高齢者肥満症診療ガイドラインを含めて. 循環器内科 90:239-243, 2021.
46. 舘鼻 彩, 荒木 厚：血糖コントロールとフレイル. 糖尿病ケア 18:742-748, 2021.
47. 大村卓也, 荒木 厚：Q&A 高齢糖尿病患者への適切な食事指導について教えてください. Approach to Glycemic Variations. Calm 8(2):76-81, 2021.
48. 田村嘉章. 高齢者における肥満と動脈硬化性病変、心血管疾患 循環器内科 90：252-257, 2021
49. 田村嘉章：老年病専門医のための模擬テスト 20 老年内科 4：202, 2021.
50. 田村嘉章. 高齢者の肥満・やせ：ADL 低下・転倒・骨折・死亡との関連 老年内科 4:222-227, 2021.
51. 田村嘉章：老年病専門医のための模擬テスト 20 -解答と解説- 老年内科 4：310-311, 2021.
52. 田村嘉章：高齢糖尿病における高齢者総合機能評価の重要性 Geriatric Medicine 59：351-354, 2021.
53. 田村嘉章：臨床に役立つ Q&A 糖尿病や肥満と COVID-19 との関係について教えてください Geriatric Medicine 59：505-508, 2021.
54. 田村嘉章：高齢者の安全な薬物療法について：糖尿病. Geriatric Medicine 59：875-880, 2021.
55. 田村嘉章：認知症、認知機能低下. 糖尿病・内分泌代謝科 52：360-365, 2021.
56. 田村嘉章：高齢者糖尿病の総合機能評価. 高齢者に適した運動療法を含めて. 糖尿病プラクティス 39：20-25, 2022.
57. 田村嘉章：フレイル・サルコペニア. 並存疾患を有する糖尿病患者の診療. 診断と治療 110：345-349, 2022.
58. 田村嘉章：第 24 回高齢糖尿病患者のサルコペニア、介入タイミングと方法は？【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット、6 月 3 日配信, 2021.
59. 田村嘉章：第 11 章糖尿病. 疾患とフレイル予防、ケア. WOC Nursing 9：58-61, 2021.
60. 佐藤元彌, 田村 嘉章：高齢者の糖尿病の留意点について. 糖尿病・内分泌代謝科 54(2):110-117, 2022.

61. 千葉優子：高齢診療科外来診療マニュアル．老年症候群に対する診察 第10回 転倒・骨折．Geriatric Medicine 59 (10):1013-1018, 2021.
62. 千葉優子：高齢糖尿病患者への糖尿病治療薬はどう選ぶ？ 月刊薬事 じほう 63:1323-1330, 2021.
63. 千葉優子：甲状腺中毒症 内科疾患の診断基準・病型分類・重症度．臨床雑誌内科 127 (4): 976-979, 2021.
64. 千葉優子：糖尿病の薬物療法の現状と多剤併用について 糖尿病治療とポリファーマシー DM Ensemble 10 : 7-12, 2021.
65. 千葉優子：第23回高齢糖尿病患者の骨折リスク、骨粗鬆症にどう対応する？【高齢者糖尿病診療のコツ】ケアネット, 5月6日配信, 2021
66. 豊島堅志：高齢者のフレイル，サルコペニアに対する食事・運動指導．Medical Practice 38(7): 1075-1079, 2021.
67. 豊島堅志：臨床に役立つ Q&A 1. 高齢者糖尿病の社会資源の活用について教えてください Geriatric Medicine 59:391-394, 2021.

<雑誌論文（書籍その他）>

68. 荒木 厚：検査値の評価．内科学 第12版．矢崎義雄、小室一成（総編集）．朝倉書店，東京，I100-101, 2022.
69. 荒木 厚：高齢者糖尿病．日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2022-2023．門脇 孝，小室一成，宮地良樹（監修）．メディカルビュー社，大阪，pp1021-1026, 2022.
70. 荒木 厚：高齢者の検査計画．臨床検査データブック 2021-2022．高久史麿（監修）、黒川清、春日雅人、北村聖（編集）、大西宏明（編集協力）．医学書院、東京、pp75-80, 2021.
71. 荒木 厚：糖尿病．身体合併症への対応．認知症ビジュアルガイド．鳥羽研二、許俊鋭（監修）．株式会社学研メディカル秀潤社，東京，pp187-192, 2021.
72. 荒木 厚：糖尿病の治療とフレイル．生活習慣病と健康長寿・フレイル対策．葛谷雅文、楽木宏美（監修）、荒井秀典（編集）．先端医学社，東京，pp 47-56, 2021.
73. 荒木 厚：認知症．糖尿病合併症 管理・フォローアップ 包括的治療のポイント．麻生好正（編），文光堂，東京，pp138-145, 2021.
74. 荒木 厚：糖尿病．スペシャリストが教える認知症を合併している患者の診かた、関わり方．成本迅、谷向仁（編集），新興医学出版社，東京，pp46-54, 2021.
75. 荒木 厚：高齢者糖尿病．糖尿病の最新治療 2022-2024．荒木栄一、綿田裕孝、山内敏正（編集），南江堂，東京，pp78-81, 2021.
76. 荒木 厚：生活習慣病（糖尿病、高血圧）．フレイルハンドブック 2022年版．荒井秀典（監修）、佐竹昭介（編集）、ライフ・サイエンス、東京、pp77-78, 2022.
77. 荒木 厚、豊島堅志、羽根田千恵、平野浩彦（執筆）、府川則子（資料協力）．フレイルサポート栄養士テキスト．東京都栄養士会、東京都健康長寿医療センター、東京、pp1-118, 2021.
78. 荒木 厚（共著）：高齢者糖尿病の特徴．高齢者糖尿病治療ガイド 2021．文光堂，東京、2021.
79. 田村嘉章（共著）：高齢者糖尿病の総合機能評価 高齢者糖尿病治療ガイド 2021．文光堂，東京、2021.
80. （作成委員会）秋下雅弘，荒井秀典，荒木 厚，清水恵一郎，江澤和彦，羽鳥 裕，羽生春夫，松本吉郎，楽木宏実：超高齢社会におけるかかりつけ医のための適正使用の手引き．5. 高血圧．（作成）日本医師会，（作成協力）日本老年医学会．東京，1-15, 2021.
81. 槇野久士，植田太郎，難波光義，荒木 厚，菊池貴子，他（著）．糖尿病自分で治す最強事典．マキノ出版、東京、2021.

<学会発表>

1. Atsushi Araki, Takuya Omura, Yoshiaki Tamura, Keiko Motokawa, and Hideki Ito. Dietary Management of Older Adults with Diabetes Focusing on Prevention of Frailty. 3rd International Conference of the Saudi Society for Clinical Nutrition. Web lecture, October 30, 2021.
2. Atsushi Araki. Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital: from acute care to geriatric care with consideration of frailty and dementia. 第7回老年医学イノベーションフォーラム. Web講演, 1月22日, 2022.
3. 荒木 厚:(座長)(シンポジウム 28 高齢糖尿病患者に対する栄養管理と運動療法のススメ). 第64回日本糖尿病学会学術集会. 5月22日, Web開催、2021.
4. 荒木 厚:(ジョイントシンポジウム2) Overview: 今回の高齢者糖尿病治療ガイドの改訂にあたって. 第63回日本老年医学会学術集会. Web講演, 6月12日, 2021.
5. 荒木 厚:(座長)(シンポジウム4 糖尿病と認知機能障害). 第63回日本老年医学会学術集会. Web開催, 6月11日, 2021.
6. 荒木 厚:(シンポジウム1:生活習慣病と認知症) 認知症予防を考慮した糖尿病の治療. 第21回日本抗加齢医学会総会. Web講演, 6月25日, 2021.
7. 荒木 厚:(教育講演) フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 第8回日本糖尿病療養指導学術集会. Web講演, 7月28日~8月31日, 2021.
8. 荒木 厚:(合併症学会シンポジウム 6:高齢者糖尿病診療の実践と課題) 高齢者糖尿病の食事療法の実践と課題. 第36回日本糖尿病合併症学会. Web講演, 10月8日, 10月25日~11月8日オンデマンド配信, 2021.
9. 荒木 厚:(スポンサードセッション特別講演座長)神崎恒一:認知機能障害のある高齢者のフレイルと転倒. 第73回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 11月13日, 2021.
10. 荒木 厚:(スポンサードセミナー1)高齢者糖尿病治療におけるGLP-1受容体作動薬の意義. 第32回日本糖尿病性腎症研究会. Web講演, 12月4日, 2021.
11. 荒木 厚:(専門医更新のための指定講演 16) 高齢者糖尿病診療 update. 第56回糖尿病学の進歩. Web講演, 2月25日~3月14日オンデマンド配信, 2022.
12. 田村嘉章 (教育講演)糖尿病とフレイル. 第64回日本糖尿病学会学術集会. 5月20-22日, Web開催、2021.
13. 田村嘉章 (シンポジウム)糖尿病における認知機能障害における薬物療法の注意点. 第63回日本老年医学会学術集会 6月11-7月4日, Web開催、2021.
14. 田村嘉章 (シンポジウム)糖尿病とフレイル. 第63回日本老年医学会学術集会 6月11-7月4日, Web開催、2021.
15. 田村嘉章 (シンポジウム) 高齢者糖尿病の総合機能評価. 第63回日本老年医学会学術集会 6月11-7月4日, Web開催、2021.
16. 田村嘉章:(糖尿病療養指導に必要な知識)認知症合併糖尿病患者の療養指導. 第56回糖尿病学の進歩 2月25-26日、Web開催、2022.
17. 田村嘉章:(座長)近藤 和泉:医療・介護ロボット最前線ーリハビリテーション医療および介護予防を中心に. 第21回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会. 東京、8月29日, 2021.
18. 田村嘉章:(座長)一般演題 疫学 第21回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会. 東京、2021年8月28日, 2021.
19. 大村卓也, 田村嘉章, 櫻井孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚:(会長企画) 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討(J-EDIT研究). 第64回日本糖尿病学会年次学術集会, 富山(webハイブリッド開催), 2021年5月22日.
20. 大村卓也, 田村嘉章, 豊島堅志, 千葉優子, 櫻井孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚: 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討(J-EDIT研究). 第64回日本糖尿病学会年

次学術集会，一般演題（高齢者糖尿病）．富山（web ハイブリッド開催），2021 年 5 月 20 日．

21. 大村卓也，福永大地，森秀一，河野真子，野田義博，藤田泰典，大澤郁朗，重本和宏：骨格筋におけるミトコンドリアの加齢変化は筋線維タイプ単位に依存する．第 44 回日本分子生物学会年会．横浜（web ハイブリッド開催），2021 年 12 月 1 日．
22. 松尾佳紀、田村嘉章、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、千葉優子、下地啓五、徳丸阿耶、荒木 厚：高齢糖尿病患者における 大脳白質の統合性異常と転倒の関連．第 64 回日本糖尿病学会学術集会．5 月 20-22 日，Web 開催、2021．
23. 松尾佳紀、田村嘉章、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、千葉優子、下地啓五、徳丸阿耶、荒木 厚．外来通院中の高齢者における 大脳白質統合性の異常と 2 年後のフレイル発症の関連．第 63 回日本老年医学会学術集会 6 月 11-7 月 4 日，Web 開催、2021．
24. 佐藤元彌，田村 嘉章，渡部 創，全秀剛，舘鼻彩，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，千葉優子，荒木 厚：超高齢者における CSII・SAP の 1 例-その利点と課題-．第 21 回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．東京，8 月 29 日，2021．
25. 佐藤元彌，田村嘉章，中西恵，糸数祐公子，全秀剛，大隅瞬，岡崎啓明，豊島堅志，千葉優子，荒木 厚：著明な高トリグリセライド（TG）血症による急性膵炎を発症した 2 型糖尿病の 1 例．日本内科学会関東支部主催第 672 回関東地方会．東京，10 月 9 日，2021．
26. 佐藤元彌，豊島堅志，堀越裕介，全秀剛，舘鼻彩，小寺玲美，大庭和人，田村嘉章，千葉優子，荒木 厚：糖尿病ケトアシドーシスと腹腔内遊離ガスを合併した劇症 1 型糖尿病の 1 例．第 59 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会．横浜，1 月 22 日，2022．
27. 高橋寿枝、豊島堅志、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、千葉優子、石川譲治、田村嘉章、荒木 厚：高齢糖尿病患者における ソーシャルネットワークとフレイルの関連について．第 64 回日本糖尿病学会学術集会．5 月 20-22 日，Web 開催、2021．
28. 千葉優子：（座長）：第 59 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 一般演題（高齢者）横浜 2022 年 1 月 22 日
29. 舘鼻彩，千葉優子，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，石川譲治，田村嘉章，荒木 厚．高齢糖尿病患者における MCI とフレイル・サルコペニアとの関連について．第 64 回日本糖尿病学会学術集会．5 月 20-22 日，Web 開催、2021．
30. 加藤純子，田上哲也，浅原哲子，山陰一，中村 道三，桑原 隆，西 重生，新谷 光世，山本 果奈，千葉優子，荒木 厚：高齢糖尿病における甲状腺機能の検討．第 64 回日本糖尿病学会学術集会．5 月 20-22 日，Web 開催、2021．
31. 大庭 和人、田村嘉章、石川 譲治、舘鼻 彩、小寺 玲美、豊島 堅志、千葉 優子、荒木 厚．高齢者の握力低下と腹部肥満で定義したダイナペニア肥満は認知機能障害と関連する．第 63 回日本老年医学会学術集会 6 月 11-7 月 4 日，Web 開催、2021．
32. 舘鼻彩，千葉優子，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，石川譲治，田村嘉章，荒木 厚：高齢糖尿病患者ではフレイル・サルコペニア評価が MCI 早期発見の指標となる．第 63 回日本老年医学会学術集会 6 月 11-7 月 4 日，Web 開催、2021．
33. 高橋寿枝，豊島堅志，石川譲治，舘鼻彩，小寺玲美，大庭和人，千葉優子，田村嘉章，荒木 厚．高齢患者のソーシャルネットワークとフレイルの関連について 第 63 回 日本老年医学会学術集会 6 月 11 日から 7 月 4 日，2021．
34. 勝俣悠、田村嘉章、村尾雄治、小林史乃、飯塚あい、大庭和人、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、荒木 厚：COVID-19 の感染拡大に伴う高齢者の活動変化の特徴とフレイルとの関連．第 73 回日本老年医学会関東甲信越地方会．Web 開催，11 月 13 日，2021．
35. 村瀬開，佐塚まなみ，田村嘉章，佐藤元彌，永井博之，野木森智江美，石橋昌幸，山田浩和，山本寛．原発

性肺癌の両側副腎転移により 原発性副腎不全を呈した 1 例. 第 673 回日本内科学会関東地方会 11 月 14 日, Web 開催、2021.

36. 高橋寿枝: (症例提示) 難治性の低カリウム血症をきたした高齢女性の一例. 第 9 回高齢者診療マスタークラス (GMC). Web 開催, 9 月 29 日, 2021.
37. 高橋寿枝、大庭和人、田村嘉章、松川美保、三井秀雄、今林悦子、阿部光一郎、舘鼻彩、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、井下尚子、荒木 厚: 無症候性、生化学的所見陰性の後腹膜パラガングリオーマの一例. 第 31 回臨床内分泌代謝 Update 11 月 26-27 日, Web 開催、2021.
38. 高橋寿枝、大村卓也、大庭和人、舘鼻彩、小寺玲美、豊島堅志、田村嘉章、千葉優子、荒木 厚、中山智祥: 難治性低 K 血症を来し Gitelman 症候群と診断された高齢女性の 1 例. 第 674 回日本内科学会関東地方会 12 月 11 日, Web 開催、2021.
39. 林卓矢、今林悦子、阿部光一郎、田村嘉章、井下尚子、野中敬介、高田晃一、下地啓五、亀山征史、荒木 厚、徳丸阿耶. 術前に神経内分泌腫瘍 (NET) と鑑別困難であった paraganglioma の画像所見. 第 95 回日本核医学会関東甲信越地方会 7 月 10 日, Web 開催、2021.
40. 村尾雄治、石川譲治、小林史乃、飯塚あい、鳥羽梓弓、原田和昌、田村嘉章、荒木 厚. 心血管代謝危険因子を有する高齢者における運動機能分析装置「zaRitz」の総合得点とフレイルとの関連. 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会 11 月 6-7 日, Web 開催、2021.
41. 小林史乃、石川譲治、村尾雄治、鳥羽梓弓、田村嘉章、原田和昌、荒木 厚. 心血管代謝危険因子を有する高齢者における抑うつ有病率と規定因子. 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会 11 月 6-7 日, Web 開催、2021.
42. 中西 恵. 高 TG 血症性膵炎を発症した 2 型糖尿病の 1 例. キャリアーデザインの会, Web 開催, 7 月 6 日, 2021.

<講師等院外活動(講演)>

1. 荒木 厚: 糖尿病, 脂質異常症, 甲状腺疾患. 杏林大学医学部加齢医学講座 M4 講義. 4 月 16 日, 2020.
2. 荒木 厚: (座長) 田中逸: 超高齢社会における糖尿病の食事・運動療法. 糖尿病セミナー. 東京、Web 開催, 4 月 21 日, 2021.
3. 荒木 厚: (特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩—高齢者糖尿病治療ガイド 2021 の改訂にあたって. Tokyo Web Seminar. Web 開催, 4 月 21 日, 2021.
4. 荒木 厚: 認知機能障害とフレイル・AL 低下を考慮した高齢者糖尿病の治療—感染症流行期やポストコロナ時代に求められる対策. WEB ライセミナー. Web 開催, 5 月 6 日, 2021.
5. 荒木 厚: 高齢者糖尿病治療における GLP-1 受容体作動薬の意義. GLP-1 Teams Web 講演会. Web 開催, 5 月 28 日, 2021.
6. 荒木 厚: (特別講演座長) 塚本和久: 糖尿病における脂質管理の状況と今後の展望. 糖尿病と脂質を考える会. Web 開催, 6 月 15 日, 2021.
7. 荒木 厚: 「フレイルとは」、「フレイルとサルコペニアの評価法」. 第 1 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6 月 18 日, 2021.
8. 荒木 厚: 「フレイルと栄養」. 第 2 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6 月 22 日, 2021.
9. 荒木 厚: 「社会的フレイル、地域のフレイル対策」第 3 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 7 月 1 日, 2021.
10. 荒木 厚: フレイル・AL 低下と認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. DM Conference in 品川・港. Web 開催, 6 月 28 日, 2021.
11. 荒木 厚: フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. Urology and Diabetes Information Seminar. Web 開催,

- 6月29日, 2021.
12. 荒木 厚: 認知機能障害やADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療—高齢者糖尿病治療ガイド2021のポイントも含めて. Diabetes Update in 四国. Web開催, 6月30日, 2021.
 13. 荒木 厚: 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病WEBセミナー. Web開催, 7月5日, 2021.
 14. 荒木 厚: (特別講演座長) 菅原正弘: 経口GLP-1作動薬の登場で糖尿病治療はこう変わる. 城北・城西糖尿病セミナー. Web開催, 7月7日, 2021.
 15. 荒木 厚: (特別講演) 高齢者糖尿病とサルコペニア・フレイル. T2DM Patient Centricity Forum. Web開催, 7月15日, 2021.
 16. 荒木 厚: (特別講演座長) 秋山純一: 酸関連疾患治療の最近の動向—GERD診療ガイドライン改訂を踏まえて. 高齢医学セミナー. Web開催, 7月13日, 2021.
 17. 荒木 厚: (特別講演) 高齢者糖尿病治療—高齢者糖尿病治療ガイド2021を踏まえて. Diabetes Update in Tokyo WEBセミナー. Web開催, 8月25日, 2021.
 18. 荒木 厚: (特別講演) フレイル、サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. 第11回東近江糖尿病研究会. Web開催, 8月28日, 2021.
 19. 荒木 厚: (コメント) フレイルサポート栄養士研修会ワークショップ. Web開催, 8月29日, 2021.
 20. 荒木 厚: (司会) 大村卓也: 個人差が大きい高齢者の血糖管理目標: カテゴリー分類に関する最近の知見. 区西北部糖尿病Webカンファレンス. Web開催, 9月9日, 2021.
 21. 荒木 厚: (特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第1回Diabetes Relationship Seminar in Chiba 2021. Web開催, 9月14日, 2021.
 22. 荒木 厚: 高齢者糖尿病患者におけるインスリン療法—現状と今後の展望. Teams Web講演. Web開催, 9月17日, 2021.
 23. 荒木 厚: (特別講演) 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病×認知症Online Seminar. Web開催, 9月21日, 2021.
 24. 荒木 厚, 松久宗英: 高齢者糖尿病におけるインスリン治療についての対談. Web対談, 9月22日, 2021.
 25. 荒木 厚: 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療—ポストコロナにおける注意点も含めて. プラスケアスタイルセミナー2021東京Webセミナー. 血糖値をよく見よう. Web開催, 9月24日, 2021.
 26. 荒木 厚: (Discussion コメンテーター) Diabetes Expert Conference. Web開催, 9月29日, 2021.
 27. 荒木 厚: 中年期から取り組むフレイル予防～元気でいきいき暮らすための生活習慣管理. 令和3年度年度健康づくり事業推進指導者育成研修. web配信. 東京都福祉保健財団主催、10月1日, 2021.
 28. 荒木 厚: いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養方法～フレイル(虚弱)の対策を立てよう. Web配信, 令和3年度区西北部合同糖尿病区民公開講座. 11月1日～11月30日, 2021.
 29. 荒木 厚: (特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩—高齢者糖尿病治療ガイド2021の改訂にあたって. 高齢者糖尿病治療を考えるオンラインセミナー. Web開催, 10月14日, 2021.
 30. 荒木 厚: 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 南空知学術講演会: 高齢者糖尿病セミナー. Web開催, 10月15日, 2021.
 31. 荒木 厚: (座長) 循環器診療における生命予後について—心臓イベント. 健康寿命の延伸を考える会. Web開催, 10月20日, 2021.
 32. 荒木 厚: (基調講演座長) 大西由紀子: 糖尿病治療の進歩 - 特にGLP-1受容体作動薬とSGLT2阻害薬について. 第26回城北CDE WEBセミナー. Web開催, 10月23日, 2021.
 33. 荒木 厚: (特別講演) サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. DUAL Seminar in 福岡. Web開催, 10月26日, 2021.
 34. 荒木 厚: 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 京都「身体疾患と認知症」研究会. Web開催, 10月30日,

- 2021.
35. 荒木 厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療. 第 127 回東京都城北整形外科医会. 東京, 11 月 11 日, 2021.
 36. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者の糖尿病治療の進歩—高齢者糖尿病治療ガイド 2021 の改訂にあたって. 伊万里有田糖尿病 week セミナー. Web 開催, 11 月 16 日, 2021.
 37. 荒木 厚：高齢者糖尿病治療における GLP-1 受容体作動薬の意義. GLP-1 Web 講演会. Web 開催, 11 月 19 日, 2021.
 38. 荒木 厚：認知症・ADL 低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. 在宅医療患者の QOL 向上を考える会. Web 開催, 11 月 24 日, 2021.
 39. 荒木 厚：認知症を考慮した糖尿病の治療. 第 3 回足立区認知症ケア研修会. Web 開催, 12 月 7 日, 2021.
 40. 荒木 厚：機能カテゴリー分類に基づいた高齢者糖尿病治療. Diabetes Expert Information Seminar. Web 開催, 12 月 17 日, 2021.
 41. 荒木 厚：「フレイルを見つける」「サルコペニアを見つける」「生命予後、機能予後」フレイル予防セミナー～今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント. 東京都健康長寿医療センター. 12 月 24 日, 2021.
 42. 荒木 厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. Teijin Expert clinician' s Lecture. Web 開催, 1 月 11 日, 2022.
 43. 荒木 厚：高齢者のフレイル・サルコペニアの最新知見について. JCHO 東京新宿メディカルセンター講演会. Web 開催, 1 月 27 日, 2022.
 44. 荒木 厚：フレイルと栄養管理について. 高齢者看護エキスパート研修. 東京都健康長寿医療センター. 2 月 4 日, 2022.
 45. 荒木 厚：いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養のこつ—フレイル（虚弱）対策の重要性. 区中央部糖尿病医療連携検討会主催 市民講座. Web 開催, 2 月 5 日, 2022.
 46. 荒木 厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 「フレイル」を考慮した高齢者医療—認知症と糖尿病. Web 開催, 2 月 17 日, 2022.
 47. 荒木 厚：地域連携によるフレイル予防. 在宅医療ネットワークの会. 板橋区, Web 開催, 2 月 18 日, 2022.
 48. 荒木 厚：高齢者糖尿病患者におけるインスリン療法—現状と今後の展望. Teams Web 講演. Web 開催, 3 月 8 日, 2022.
 49. 荒木 厚：サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. 板橋区医師会学術講演会. Web 開催, 3 月 15 日, 2022.
 50. 荒木 厚：(企画、開会挨拶、閉会の辞) 第 27 回城北 CDE WEB セミナー. Web 開催, 3 月 19 日, 2021.
 51. 荒木 厚：(座長) 小川純人：高齢者のサルコペニア・フレイルと糖尿病管理. DiaMond Seminar in 城西. Web 開催, 3 月 22 日, 2021.
 52. 田村嘉章：糖尿病とフレイル. 山陽小野田臨床糖尿病講演会 Web 開催, 11 月 24 日, 2021.
 53. 田村嘉章：フレイル・サルコペニア診療における DASC8 の有用性. Remote Discussion Seminar 2021. Web 開催, 7 月 29 日, 2021.
 54. 田村嘉章：糖尿病、早期動脈硬化病変とフレイル. 健康寿命の延伸を考える会—心血管系イベント抑制とフレイル—. Web 開催, 10 月 20 日, 2021.
 55. 田村嘉章：「高齢者糖尿病」東京大学学生講義, 4 月 6 日, 2021.
 56. 田村嘉章：「高齢者糖尿病」東京大学学生講義, 7 月 6 日, 2021.
 57. 田村嘉章：「高齢者糖尿病」東京大学学生講義, 12 月 7 日, 2021.
 58. 田村嘉章：「高齢者糖尿病」東京大学学生講義, 1 月 18 日, 2021.
 59. 田村嘉章：(座長) 「新たな糖尿病治療を考えるオンライン講演会」 Web 開催, 4 月 16 日, 2021.

60. 田村嘉章：(座長)「新たな糖尿病治療を考えるオンライン講演会」 Web 開催、9 月 15 日, 2021.
61. 田村嘉章：(座長)「城北地区糖尿病 UPDATE」Web 開催、10 月 12 日, 2021.
62. 千葉優子：(座長)：糖尿病セミナー 東京, 4 月 13 日, 2021.
63. 千葉優子：(座長)：DiaMond Live seminar in 城西. 東京, 10 月 7 日, 2021.
64. 豊島堅志：フレイル対策を見据えた高齢糖尿病患者における食事療法 糖尿病セミナー 東京都健康長寿医療センター・web 開催, 4 月 13 日, 2021.
65. 豊島堅志：高齢者糖尿病のカテゴリー分類：DASC-8 の活用法. 糖尿病と脂質を考える会. Web 開催, 6 月 15 日, 2021.
66. 豊島堅志：高齢者糖尿病と CGA. DiaMond Seminar in 城北. 3 月 22 日, 2022.
67. 豊島堅志：「フレイルと疾患」. 第 1 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6 月 18 日, 2021.
68. 豊島堅志：「フレイルと運動」、「フレイルと認知機能障害・うつ」. 第 2 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 6 月 22 日, 2021.
69. 豊島堅志：「フレイルを防ぐための栄養管理」. 第 3 回フレイル予防のための講習会. 東京都健康長寿医療センター, 7 月 1 日, 2021.
70. 豊島堅志：「フレイルと疾患」、「フレイルと運動」、「フレイルと認知機能障害・うつ」、「フレイルを防ぐための栄養管理」フレイルサポート栄養士研修会講師 e-ラーニング (zoom) 2021 年 8 月 13 日～28 日
71. 小寺玲美：(コメンテーター) Diabetes Expert Conference, ガイドラインにもとづく 2 型糖尿病合併 NAFLD/NASH 診療, 東京. 9 月 29 日, 2021.
72. 小寺玲美：板橋看護専門学校講義, 疾病と治療Ⅲ 内分泌・代謝 第三回, 10 月 27 日, 2021.
73. 小寺玲美：板橋看護専門学校講義, 疾病と治療Ⅲ 内分泌・代謝 第四回, 11 月 10 日, 2021.
74. 大庭和人：板橋看護専門学校講義「内分泌総論」東京, 11 月 11 日, 2021.
75. 大庭和人：板橋看護専門学校講義「副腎・副甲状腺」東京, 11 月 18 日, 2021.
76. 大村卓也：個人差が大きい高齢者の血糖管理目標. 区西北部糖尿病 WEB カンファレンス. 東京, 2021 年 9 月 9 日.
77. 大村卓也：「今、高齢者の糖尿病を考える」—カテゴリー分類、食事・運動療法について—. ゴルトファイ講演会. 東京, 2021 年 9 月 17 日.
78. 大村卓也：日々の食生活と病気の上手な付き合い方. フレトレ講座. 東京, 2021 年 10 月 21 日.
79. 大村卓也：高齢者骨格筋と糖尿病について. Dual Symposium from 城西. 東京, 2021 年 3 月 10 日.

<講師等院外活動(放送・メディア等)>

80. 荒木 厚：【今から始めよう！70代まで働く健康術】糖尿病の高齢者にリスク 高血糖よりも注意したい認知症や生活動作の衰え. 夕刊フジ, 7 月 14 日. 版, 2021.
81. 荒木 厚：【今から始めよう！70代まで働く健康術】高齢者糖尿病患者の死亡リスクを左右する「8つの質問」夕刊フジ, p8, 7 月 21 日版, 2021.
82. 荒木 厚：【今から始めよう！70代まで働く健康術】高齢者糖尿病. 認知症と関係. 早期の肥満解消で予防を. 夕刊フジ, p8, 7 月 28 日版, 2021.
83. 荒木 厚：8つの質問で高齢者糖尿病をやさしく【時流◆糖尿病診療の one more step】m3, 2021 年 8 月 19 日配信
84. 荒木 厚：高齢者糖尿病カテゴリー分類、誰にいつ使う？【時流◆糖尿病診療の one more step】m3, 2021 年 8 月 24 日, 2021 年配信
85. 荒木 厚：軽度認知機能障害の画像診断や認知症予防を見据えた糖尿病治療などについて報告. 第 21 回日本抗加齢医学会総会. 医薬通信社, 6 月 29 日, 2021 年配信.

86. 大村卓也、荒木 厚：「高齢者糖尿病の血糖管理目標（HbA1c 値）」と死亡リスクの関係. CareNet 2021/05/14 配信
87. 大村卓也、荒木 厚： 高齢者糖尿病の血糖管理目標の分類と死亡リスクの相関が明らかに. HealthDay. 2021/5/31 配信
88. 大村卓也、荒木 厚： 高齢者糖尿病の治療、血糖管理に加え認知機能や ADL の維持が重要—都長寿研. QLifePro 医療ニュース. 2021/6/2 配信
89. 大村卓也、荒木 厚： 高齢糖尿病の新しいエビデンス. 糖尿病リソースガイド. 2021/6/2 配信
90. 大村卓也、荒木 厚： 高齢者糖尿病の血糖管理目標の分類と死亡リスクの相関が明らかに. m3・臨床ニュース. 2021/6/11 配信

<論文査読>

依頼されて以下の雑誌の査読を行った。

荒木 厚：Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism, Geriatrics and Gerontology International, BMC Geriatrics, Diabetology International, Journal of Diabetes Investigation

田村嘉章：Geriatrics and Gerontology International, Diabetology International, 糖尿病

千葉 優子：日本老年医学会雑誌

豊島堅志：Geriatrics and Gerontology International, BMC Geriatrics

大村卓也：Bioscience Biotechnology and Biochemistry, International Journal of Environmental Research and Public Health, Geriatrics.

<受賞>

1. 大村卓也. 第12回 Geriatrics & Gerontology International 優秀論文賞, 2021.
2. 大村卓也. 三井住友福祉財団研究奨励賞, 2021.

循環器内科

<論文>

1. Masashi Miyawaki, Rie Aoyama, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Primary cardiac B cell lymphoma in an immunocompetent patient. *BMJ Case Rep* 2021; 14:e243068.
2. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Harada K. Automated Office Blood Pressure Measurement by Elderly Patients in the Waiting Room. *Blood Pressure Monitoring* 2021; 26 (5): 321-327.
3. Futami S, Ishikawa J, Maeda T, Kawano M, Sakurayama C, Harada K. Factors contributing to energy loss in left ventricle during diastolic and systolic phases in elderly patients. *Echocardiography* 2021; 38: 72-80.
4. Yoshiaki Tamura, Keigo Shimoji, Joji Ishikawa, Yoshinori Matsuo, So Watanabe, Hisae Takahashi, Shugo Zen, Aya Tachibana, Takuya Omura, Remi Kodera, Kazuhito Oba, Kenji Toyoshima, Yuko Chiba, Aya M Tokumaru, Atsushi Araki. Subclinical atherosclerosis, vascular risk factors, and white matter alterations in diffusion tensor imaging findings of older adults with cardiometabolic diseases. *Frontiers in Aging Neuroscience*, 2021;13:712385.
5. Joji Ishikawa, Satoshi Seino, Akihiko Kitamura, Ayumi Toba, Kenji Toyoshima, Yoshiaki Tamura, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hiroki Inagaki, Shuichi Awata, Shoji Shinkai, Atsushi Araki, Kazumasa Harada. The relationship between blood pressure and cognitive function. *International Journal of Cardiology Cardiovascular Risk and Prevention* 2021;10: 200104.
6. Masatoshi Tachibana, Akiko Kanemaru, Keiko Hatano, Teppey Murata, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. *Hypoxemia found after hospitalization with right hemiplegia due to cerebral infarction: platypnea-orthodeoxia syndrome in the older people. Journal of Cardiology Case*, 2021; 25 (2): 72-75.
7. Shimizu R, Aoyama R, Ishikawa J, Harada K. Prolonged sinus arrest due to the obstruction of a sinus node branch after percutaneous coronary intervention of the right coronary artery *Journal of Cardiology Cases*, 2022; 25: 319-322.
8. Kazuhito Oba, Yoshiaki Tamura, Joji Ishikawa, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Aya Tachibana, Remi Kodera, Kenji Toyoshima, Yuko Chiba, Atsushi Araki. Dynapenic abdominal obesity is associated with mild cognitive impairment in patients with cardiometabolic disease: A cross-sectional study. *BMC geriatrics* 2022.
9. Toba A, Ishikawa J, Harada K. Increased blood pressure variability is associated with probable rapid eye movement sleep behavior disorder in elderly hypertensive patients. *Blood Press*. 2021 Dec; 31 (1): 40-46
10. Sato M, Tsumoto H, Toba A, Soejima Y, Arai T, Harada K, Miura Y, Sawabe M. Proteome analysis demonstrates involvement of endoplasmic reticulum stress response in human myocardium with subclinical left ventricular diastolic dysfunction. *Geriatr Gerontol Int*. 2021;21(7):577-583.
11. Masaharu Shinkai, Kenji Tsushima, Shingo Tanaka, Eri Hagiwara, Norihito Tarumoto, Ichiro Kawada, Yuji Hirai, Sho Fujiwara, Yuko Komase, Takeshi Saraya, Hidefumi Koh, Naho Kagiya, Megumi Shimada, Daiki Kanou, Shinichi Antoku, Yujiro Uchida, Yutaka Tokue, Mikio Takamori, Yasuhiro Gon, Kenya Ie, Yoshitaka Yamazaki, Kazumasa Harada, Naoki Miyao, Takashi Naka, Mitsunaga Iwata, Atsushi Nakagawa, Kazutoshi Hiyama, Yoshihiko Ogawa, Masahiro Shinoda, Shinichiro Ota, Takatomo Hirouchi, Jiro Terada, Shuichi Kawano, Takashi Ogura, Tsutomu Sakurai, Yoshihiko Matsumoto, Hiroyuki Kunishima, Osamu Kobayashi, Satoshi Iwata. Efficacy and Safety of Favipiravir in Moderate COVID-

- 19 Pneumonia Patients without Oxygen Therapy: A Randomized, Phase III Clinical Trial. Infect Dis Ther 2021 Dec;10(4):2489-2509.
12. Yamamoto T, Otsuka T, Yoshida N, Kobayashi Y, Komiyama N, Hara K, Nakamura M, Ohira H, Shibata T, Shimokawa T, Takayama T, Tejima T, Ueda T, Harada K, Nagao K, Takayama M. Hospital performance in a large urban acute myocardial infarction emergency care system: Tokyo Cardiovascular Care Unit network. J Cardiol. 2021 Sep;78(3):177-182.
13. 原田和昌 :【Young at HEART～若々しい心臓であり続けるために～】心臓アンチエイジングのための運動療法・食事療法. アンチ・エイジング医学 2021;17(3):257-262.
14. 原田和昌. 高血圧でもフレイルは防げる～健康長寿は血圧コントロールから～練馬医学会誌 2021; 28: 5-21

<雑誌>

1. 村田哲平 IABP p164- IMPELLA p167- 急性肺塞栓症・深部静脈血栓症 p185- 「ICU グリーンノート」 2021 年 6 月中外医学社
2. 村田 哲平【救急外来・ICU での採血検査】循環器領域の検査(解説/特集) レジデントノート (1344-6746)22 巻 16 号 Page3007-3012
3. 石川譲治 家庭におけるオンラインでの血圧管理は血圧コントロール率を改善する Home and Online Management and Evaluation of Blood Pressure (HOME BP) using a digital intervention in poorly controlled hypertension: randomized controlled trial. MacManus RJ, et al. BMJ 2021;372:m4858 CLEAR! ジャーナル四天王 ケアネット コメント
4. 石川譲治 降圧治療と副作用 Association between antihypertensive treatment and adverse events. BMJ 2021; 372:n189. CLEAR! ジャーナル四天王 ケアネット コメント
5. 石川譲治 治療抵抗性高血圧に対する超音波腎デナーベーションの効果Ultrasound renal denervation for hypertension resistant to a triple medication pill (RADIANCE-HTN TRIO): a randomized, multicentre, single-blind, sham-controlled trial. Lancet 2021;397(10293):2476-2486 CLEAR! ジャーナル四天王 ケアネット コメント
6. 鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌 今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント 第 10 章 循環器疾患 WOC Nursing, 2021 年 7 月 20 日
7. 石川譲治 降圧薬の第一選択としての 4 剤合剤 Initial treatment with a single pill containing quadruple combination of quarter doses of blood pressure medicines versus standard dose monotherapy in patients with hypertension (QUARTET): a phase 3, randomised, doubleblind, active-controlled trial Lancet 2021. CLEAR! ジャーナル四天王 ケアネット コメント
8. 石川譲治 代用塩 (Salt substitute) の摂取と心血管イベントや死亡の減少 Effect of Salt Substitution on Cardiovascular Events and Death NEJM2021, CLEAR! ジャーナル四天王 ケアネット コメント
9. 石川譲治 高齢者の食後低血圧にはどのようなリスクがあるのか? Web 医事新報チャンネル 2022 年 1 月 6 日配信
10. 石川譲治 降圧治療と 2 型糖尿病発症のリスク Blood pressure lowering and risk of new-onset type 2 diabetes: an individual participant data Meta-analysis. Lancet 2021; 398: 1803-1810. ケアネット CLEAR! ジャーナル四天王
11. 石川譲治、第 160 回老年学・老年医学公開講座 高齢者高血圧の最近の話題、東京都健康長寿医療センター 2022/1/26
12. 鳥羽梓弓、桑島巖 降圧利尿薬としてのサイアザイド利尿薬と非サイアザイド利尿薬の違い <臨床高血圧 125 周年～論点の整理と将来展望> Therapeutic Research2021 年 6 月 vol.42 no.6
13. 鳥羽梓弓、石川譲治 高血圧と認知症 <臨床高血圧 125 周年～論点の整理と将来展望> Therapeutic

Research2021 年 7 月 vol. 42 no. 7

14. 鳥羽梓弓、桑島巖 原発性アルドステロン症～その治療方針を巡って <臨床高血圧 125 周年～論点の整理と将来展望> Therapeutic Research2021 年 8 月 vol. 42 no. 8
15. 鳥羽梓弓、桑島巖 高齢者の適正降圧療法について <臨床高血圧 125 周年～論点の整理と将来展望> Therapeutic Research2022 年 1 月 vol. 43 no. 1
16. 原田和昌：危険な秋の高血圧 インフルエンザの合併で心筋梗塞や脳梗塞のリスクアップ. 夕刊フジ特別号 健康手帖 vol. 23 P. 4-5, 2021. 11. 16
17. 原田和昌, 坂田泰史, 前村浩二, 宮本恵宏：〈座談会〉脳卒中と循環器病克服第二次 5 ヶ年計画—ストップ CVD(脳心血管病) 健康長寿を達成するために！循環器医は何をすべきか— 臨床医のための循環器診療 2021;35:3-18
18. 原田和昌, 伊莉裕二, 里見和浩, 野出孝一：〈座談会〉COVID-19 禍での循環器診療. 臨床医のための循環器診療 2021;34:3-16
19. 鳥羽梓弓, 石川譲治, 原田和昌：今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント 第 10 章 循環器疾患 WOC Nursing, 2021 年 7 月 20 日
20. 原田和昌：大自然と体心 高血圧を防ぐ「DASH 食」でこの冬を乗り切る 致知 2021 年 12 月
21. 原田和昌：第 7 章「強心生活 24 時」不整脈 心房細動・期外収縮 自力で良くなる！心臓病の名医陣が教える最新 1 分体操大全 わかさ出版（東京）2021 年 12 月 14 日発行
22. 原田和昌：目指せヘルス&ビューティーの達人「動悸・不整脈」. 毎日が発見 2022 年 3 月号 NO. 218 P. 78-81.
23. 原田和昌：HFpEF に対する左心房の負荷を軽減する心房間シャントデバイスの経カテーテル留置の第Ⅲ相試験では有意な臨床効果が示されなかった. Carennet.com クリアジャーナル四天王 No. 1499 2022. 3. 公開 <http://www.carennet.com/news/clear/journal/53981>

<学会・発表（国内）>

1. 藤本 肇、橘 昌利、宮脇正次、小松俊介、小川雅史、村田哲平、坪光雄介 「COVID-19 パンデミックによる STEMI 患者に対する緊急 PCI における door to balloon time への影響についての検討」 第 69 回日本心臓病学会学術集会 2021 年 9 月 18 日 鳥取県米子市（WEB 開催）
2. 藤本 肇、橘 昌利、宮脇正次、小松俊介、小川雅史、村田哲平、坪光雄介、足利貴志 「ロータブレード施行困難であった複雑高度石灰化病変に対してエキシマレーザーとロータブレードを併用して PCI 施行しえた 2 症例」 第 58 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2021 年 10 月 16 日 東京
3. 藤本 肇、橘 昌利、宮脇正次、小松俊介、小川雅史、村田哲平、坪光雄介、足利貴志 「重症大動脈弁狭窄症に冠動脈高度石灰化病変を合併し、Diamond Back を用いて PCI を施行した 2 症例」 第 58 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2021 年 10 月 16 日 東京
4. 藤本 肇、斎藤義弘、児玉雄介、小宮山浩太、中村正人、山本 剛、長尾 健、高山守正 「東京都における非 ST 上昇型急性心筋梗塞患者に対する至適薬物療法の実施状況と 1 年後予後についての検討」 第 41 回 CCU 研究会 2021 年 12 月 4 日 WEB 開催
5. 小宮山 浩太、中村 正人、田邊 健吾、藤本 肇、児玉 雄介、松本 英成、斎藤 義弘、山本 剛、長尾 健、高山 守正 「急性心筋梗塞における院内予後を予測する簡易で有益な TOMIN リスクスコアの拡大検証」 第 41 回 CCU 研究会 2021 年 12 月 4 日 WEB 開催
6. Hajime Fujimoto, Yoshihiro Saito, Yusuke Kodama, Kohta Komiyama, Masato Nakamura, Takeshi Yamamoto, Ken Nagao, Morimasa Takayama ‘Comparison of the One-year Outcomes of PCI and CABG for the Unstable Angina with LMT lesion-Tokyo CCU Network Cohort Study- ‘ 第 86 回日本循環器学会学術集

会 2022 年 3 月 13 日 WEB 開催

7. 舘鼻彩、千葉優子、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚 高齢糖尿病患者における MCI とフレイル・サルコペニアとの関連について 第 64 回日本糖尿病学会学術集会 (2021 年 5 月 20 日～22 日)
8. 松尾佳紀、田村嘉章、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、千葉優子、下地啓五、徳丸阿耶、荒木厚 高齢糖尿病患者における大脳白質の統合性異常と転倒の関連 第 64 回日本糖尿病学会学術集会 (2021 年 5 月 20 日～22 日)
9. 高橋寿枝、豊島堅志、石川譲治、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、千葉優子、田村嘉章、荒木厚 高齢糖尿病患者のソーシャルネットワークとフレイルの関連について 第 64 回日本糖尿病学会学術集会 (2021 年 5 月 20 日～22 日)
10. 大庭 和人 田村 嘉章 石川 譲治 舘鼻 彩 小寺 玲美 豊島 堅志 千葉 優子 荒木 厚 高齢者の握力低下と腹部肥満で定義したダイナペニア肥満は認知機能障害と関連する 第 63 回日本老年医学会学術集会の一般演題 (2021 年 6 月 11 日～27 日)
11. 松尾佳紀、田村嘉章、舘鼻彩、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、千葉優子、下地啓五、徳丸阿耶、荒木厚 外来通院中の高齢者における大脳白質統合性の異常と 2 年後のフレイル発症の関連 第 63 回日本老年医学会学術集会 (2021 年 6 月 11 日～27 日)
12. 舘鼻彩、千葉優子、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚 高齢糖尿病患者ではフレイル・サルコペニア評価が MCI 早期発見の指標となる 第 63 回日本老年医学会学術集会 (2021 年 6 月 11 日～27 日)
13. 鳥羽梓弓、石川譲治、鈴木歩、原田和昌 高齢高血圧患者の待合室における自動診察室血圧測定 日本高血圧学会総会 2021 年 10 月 15 日～17 日、沖縄、Web 開催
14. 中村沙織、石川譲治、宮脇正次、鳥羽梓弓、青山里恵、原田和昌 高血圧患者における心電図 ST-T 変化と左室心筋仕事量の関連 ST-T Change in Electrocardiogram and Myocardial Work Load in Hypertensive Patients 日本高血圧学会総会 2021 年 10 月 15 日～17 日、沖縄 Web 開催
15. 鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌 レム睡眠行動異常と 24 時間自由行動下血圧モニタリングにおける血圧変動性との関連 日本高血圧学会総会 2021 年 10 月 15 日～17 日、沖縄 Web 開催 (女性研究者奨励賞最優秀賞)
16. 小林史乃、石川譲治、田村嘉章、村尾雄治、鳥羽梓弓、原田和昌、荒木厚 心血管代謝危険因子を有する高齢者における抑うつ有病率と規定因子 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021 年 11 月 6 日 (土) ～7 日 (日)
17. 村尾雄治、石川譲治、田村嘉章、小林史乃、飯塚あい、鳥羽梓弓、原田和昌、荒木厚 心血管代謝危険因子を有する高齢者における運動機能分析装置「zaRitz」の総合得点とフレイルとの関連 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021 年 11 月 6 日 (土) ～7 日 (日)
18. 勝俣 悠、田村 嘉章、村尾 雄治、小林 史乃、飯塚 あい、大庭 和人、豊島 堅志、千葉 優子、石川 譲治、荒木 厚 COVID-19 の感染拡大に伴う高齢者の活動変化の特徴とフレイルとの関連 第 73 回日本老年医学会関東甲信越地方会を 2021 年 11 月 13 日 (土) 東京医科大学病院
19. 山本栄善、小川雅史、宮脇正次、村田哲平、青山里恵、石山泰三、藤本肇、坪光雄介、石川譲治、原田和昌 カテーテル的血栓溶解療法施行後に血栓が改善された後期高齢者の深部静脈血栓症の 1 例、第 73 回日本老年医学会関東甲信越地方会 2021 年 11 月 13 日 (土) 東京医科大学病院
20. 宮脇正次、青山里恵、鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌 姿勢依存性の左室流出路狭窄が一過性意識消失に関わったと考えられたレビー小体型認知症の一例 第 73 回日本老年医学会関東甲信越地方会を 2021 年 11 月 13 日 (土) 東京医科大学病院 (最優秀奨励賞受賞)

21. 藤井昭朗, 宮脇正次, 橘盛昭, 石川譲治, 宮本鋼, 原田和昌 多発性骨髄腫・過粘稠度症候群により心不全をきたし、血漿交換・化学療法導入が心不全管理に有用であった一例 第 675 回日本内科学会関東地方会、2022 年 2 月 12 日 (奨励賞受賞)
22. 原田和昌: 高齢者 AF の抗凝固療法におけるフレイルの意義. 第 62 回日本神経学会学術集会ランチョンセミナー (東京) 2021. 5. 21
23. 原田和昌: 高齢者心房細動の抗凝固療法におけるフレイルの意義. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会スポンサードセミナー I (東京) 2021. 7. 1
24. 原田和昌: 高齢者心不全の疫学と病理. 第 43 回心筋生検研究会学術集会シンポジウム 1 老化と心臓血管病理 (久留米) 2021. 12. 10
25. Harada K. Cardiovascular Complications of Seasonal Influenza among People 60 Years and Older: A Retrospective Database Study as a Reference of COVID-19. 第 86 回日本循環器学会学術集会 (神戸) 2022. 3. 11
26. 金丸 晶子, 加藤 貴行, 齊藤 陽子, 羽根田 千恵, 河田 光弘, 村田 哲平, 武田 和大, 原田 和昌, 許 俊鋭: 大動脈弁疾患に対する侵襲的治療の入院期間を規定する要因 日本老年医学会雑誌 (0300-9173) 58 巻 Suppl. Page155(2021. 05)
27. 伊藤 志帆, 小松 大樹, 東原 真奈, 十菱 千尋, 種井 良二, 新井 富生, 原田 和昌, 仁科 裕史, 金丸 和富, 岩田 淳: COVID-19 ワクチン接種後に多巣性の感覚障害で発症した神経サルコイドーシスの 1 例. 日本内科学会関東地方会 675 回 Page42(2022. 02)
28. 山本 剛, 塚本 茂人, 冠木 敬之, 齊藤 正和, 佐藤 直樹, 原田 和昌, 高山 守正, 東京都 CCU ネットワーク: 東京都 CCUnet 心不全フォーラム 再入院予防のための心不全セルフ・ケア講習会「東京都 CCUnet 心不全フォーラム」日本心臓病学会学術集会抄録 69 回 Page CSS2-5(2021. 09)

<学会・発表(海外)>

1. Ayumi Toba, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Antihypertensive treatment improves left ventricular geometry at 10 years later even in elderly hypertensive patients. Council of High Blood Pressure, American Heart Association 2021, Sep. Virtual Web meeting.
2. Saori Nakamura, Joji Ishikawa, Chieko Sakurayama, Masashi Miyawaki, Ayumi Toba, Rie Aoyama, Kazumasa Harada. Nonspecific ST-T change in electrocardiogram was associated with a reduced constructive myocardial work in hypertensive patients with preserved ejection fraction. Council of High Blood Pressure, American Heart Association 2021, Sep. Virtual Web meeting.
3. Aoyama R. Ishikawa J. Harada K. Clinical Significance of the Assessment of Valvular Calcification Using 18F-sodium Fluoride Positron Emission Tomography. AHA, 2021. Nov.

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 村田哲平 板橋区医師会学術講演会 2022 年 3 月 29 日 「TAVI～最新のエビデンス～」
2. 村田哲平 第 160 回 老年学・老年医学公開講座 2022 年 1 月「弁膜症からくる息切れは要注意!？」
3. 村田哲平、武井康悦先生 (東京医大) JMECC コース 2021 年 12 月 4 日
4. 原田和昌: 高齢者心不全の (さらに) 新しい考え方. Heart Failure Expert Meeting in KAWASAKI (東京) 2021. 4. 16
5. 原田和昌: 超高齢者の AF マネジメント～フレイルと服薬アドヒアランス～. 城東 Heart meeting (東京) 2021. 4. 19
6. 原田和昌: 超高齢者の AF マネジメント～フレイルと服薬アドヒアランス～. 城東地区における最新の循環器診療を考える会 (東京) 2021. 4. 20

7. 原田和昌：心不全. メトロポリタン循環器内科研修連絡会（東京）2021. 4. 21
8. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方. 高齢者心不全を考える（東京）2021. 4. 22
9. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方. Web 講演会在宅医療と心不全治療（東京）2021. 4. 23
10. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント～フレイルから服薬アドヒアランスまで～. 板橋区学術講演会（東京）2021. 5. 18
11. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療 Diabetes Online Meeting in 今治（東京）2021. 5. 19
12. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方 ARNI WAVE in Niigata（東京）2021. 5. 21
13. 原田和昌：抗血栓療法 of 最新知見と高齢者における消化管出血マネジメント. Nexium Online symposium 2021（東京）2021. 5. 24
14. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療 循環器内科医と考える糖尿病治療（笠間地区）（東京）2021. 5. 28
15. 原田和昌：高血圧を中心に健康管理. 練馬区民健康づくりセミナー（東京）2021. 6. 6
16. 原田和昌：高尿酸血症は心不全患者の予後を規定する. 板橋区高尿酸血症セミナー（東京）2021. 6. 7
17. 原田和昌：高血圧でもフレイルは防げる. 板橋区内科医会共催講演会循環器疾患 WEB 講演会.（東京）2021. 6. 15
18. 原田和昌：高血圧でもフレイルは防げる. 板橋区内科医会共催講演会循環器疾患 WEB 講演会.（東京）2021. 6. 16
19. 原田和昌：夜間高血圧の病因・病態と心血管疾患発症リスクについて-神経体液性因子との関わりを中心に- MeDiA (Medical Disease Awareness program)（東京）2021. 6. 25
20. 原田和昌：高齢者心不全の特性に基づいた薬物治療と ARNI への期待～フォーカスアップデートをうけて. 第 26 回動脈硬化危険因子研究会（東京）2021. 6. 26
21. 原田和昌： 高齢者心不全の（さらに）新しい考え方 第 6 回心不全パンデミック講演会～ShakeOut！心不全パンデミック～（東京）2021. 6. 30
22. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント～フレイル、服薬アドヒアランス、CKD～. 山形病診連携循環器セミナー（東京）2021. 7. 6
23. 原田和昌：フレイル対策と漢方. Cardiology Kampo Follow-up Seminar（東京）2021. 7. 20
24. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方. ARNI 1 周年記念講演会（東京）2021. 8. 26
25. 原田和昌：高齢者心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 第 2 回循環器・生活習慣病 WEB セミナー（東京）2021. 8. 31
26. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方. 小田原内科医会学術講演会（東京）2021. 9. 9
27. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方. 離島・へき地医療を考える会（東京）2021. 9. 13
28. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方ー新しい薬物治療への期待ー 心不全 WEB ライブセミナー（東京）2021. 9. 14
29. 原田和昌：疾病と治療 I 循環器：血圧異常. 板橋看護専門学校講義（東京）2021. 9. 22
30. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. イグザレルトウェブカンファレンス（東京）2021. 9. 27
31. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. Diabetes×Cardiology Online Seminar（東京）2021. 9. 29
32. 原田和昌：転倒と心房細動、抗血栓薬について. 高齢者トータルケア Web 講演会（東京）2021. 10. 5
33. 原田和昌：高齢者の心血管疾患とフレイルの深い関係～心不全と心房細動を中心に～. 高齢者医療とフレイルを考える～長崎の健康寿命延伸を目指して～（東京）2021. 10. 7

34. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. 石川県臨床内科医会学術講演会（東京）2021. 10. 13
35. 原田和昌：高齢者心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 中部北部地区心臓トータルケア講演会（東京）2021. 10. 26
36. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 循環器と漢方 Web 講演会（東京）2021. 10. 28
37. 原田和昌：高齢者心房細動患者のマネジメントと併存症としての心不全治療. Bayer Future Knowledge 高齢者循環器疾患を考える（東京）2021. 11. 1
38. 原田和昌：高齢者心房細動における抗凝固マネジメントと併存疾患. 高齢者のトータルケアマネジメントを考える会（東京）2021. 11. 4
39. 原田和昌：高齢者心不全のフレイル対策と漢方. 循環器 Kampo Web Seminar（東京）2021. 11. 5
40. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療～HIF-PH 阻害薬への期待～ ダーブロック錠 Web セミナー（東京）2021. 11. 9
41. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方～ステージ A・B からの心不全治療を見据えて～ARNI 適正使用講演会（東京）2021. 11. 10
42. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待. 西諸医師会・西諸内科医会合同 Web 学術講演会（東京）2021. 11. 11
43. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～ 東久留米市医師会学術講演会（東京）2021. 11. 16
44. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子－ARNI への期待－. 備北循環器疾患講演会（東京）2021. 11. 18
45. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～腎機能低下と服薬アドヒアランス～. 城東イグザレト Web カンファレンス（東京）2021. 11. 19
46. 原田和昌：心不全治療の新たな選択肢ベリキューボ～VICTORIA 試験から考える～. ベリキューボ Communication for Mode of Action（東京）2021. 11. 20
47. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子. 北区医師会学術講演会（東京）2021. 11. 24
48. 原田和昌：高齢心房細動患者の抗血栓療法におけるフレイルの意義. 会津医学会学術講演会～高齢者の抗凝固療法～（東京）2021. 11. 25
49. 原田和昌：『アピキサバンを減量項目別に紐解く』－ARISTOTLE10 周年迎えて－温故知新！古典から学ぶ－ARISTOTLE が NEMJ の歴史に刻んだ軌跡から－（総合司会）（東京）2021. 12. 2
50. 原田和昌：高齢 AF 患者の抗血栓療法に関する最近の話題. 板橋区医師会循環器医会（東京）2021. 12. 3
51. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液因子～エンレストへの期待～. How To Use ARNI ～様々な観点から ARNI を考察する～（東京）2021. 12. 9
52. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP 経路の意義～. Heart Failure Conference～これからの心不全治療戦略～（東京）2021. 12. 13
53. 原田和昌：腎性貧血治療のパラダイムシフト. 城北腎性貧血治療 web セミナー（東京）2021. 12. 14
54. 原田和昌：高齢者心不全の病態と治療～新しい薬物治療への期待～. 第 454 回東京保険医協会循環器研究会（東京）2021. 12. 15
55. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～ Winter Hypertension Symposium in Asahikawa（東京）2021. 12. 17
56. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP 経路の意義～. 市原心不全臨床懇話会（東京）2021. 12. 20
57. 原田和昌：高齢者心不全の（さらに）新しい考え方～ステージ A・B からの心不全治療を見据えて～第 3 回

- 九州心血管カンファレンス（東京）2021. 12. 21
58. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 済生会千里病院連携セミナー（東京）2022. 1. 13
59. 原田和昌：高齢心房細動患者の抗血栓治療におけるフレイルの意義. 高齢者の抗血栓治療を考える会（東京）2022. 1. 17
60. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待と高血圧患者の医療連携～第76回練馬循環器セミナー（東京）2022. 1. 19
61. 原田和昌：高齢心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 福井循環器治療懇話会（東京）2022. 1. 20
62. 原田和昌：高齢者心不全治療の新たな選択肢～NO-sGC-cGMP経路の意義～. 神明台ハートセミナー（東京）2022. 1. 21
63. 原田和昌：心房細動と認知症. 高齢者トータルケアセミナー～心房細動と認知症について考える～（東京）2022. 1. 22
64. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. 板橋区医師会学術部学術講演会（東京）2022. 1. 28
65. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待. ～ARNI Symposium Niigata 高血圧治療を考える会（東京）2022. 2. 3
66. 原田和昌：心血管イベントと心不全を考慮した糖尿病治療. 第301回四日市循環器懇話会（東京）2022. 2. 9
67. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. 第2回循環器内科医が考える貧血治療（東京）2022. 2. 16
68. 原田和昌：高齢者心不全患者のフレイル対策と漢方薬. 神明台ハートセミナー（東京）2022. 2. 18
69. 原田和昌：フレイル対策と漢方. 第22回在宅漢方研究会（東京）2022. 2. 19
70. 原田和昌：高齢者心不全治療における漢方薬の役割. 板橋循環器漢方講演会（東京）2022. 2. 22
71. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. 貧血治療のアウトカムを考える会（東京）2022. 2. 24
72. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～佐倉市・四街道市循環器領域連携の会－他疾患からみる血圧コントロールの重要性－（東京）2022. 3. 2
73. 原田和昌：超高齢社会における循環器疾患のトータルマネジメント. 第17回松阪地区医師会臨床懇話会（東京）2022. 3. 3
74. 原田和昌：東京都CCUネットワークから得られた心不全治療に関する知見. 第4回CCU関連セミナー（東京）2022. 3. 5
75. 原田和昌：高齢者高血圧における夜間高血圧と神経体液性因子～エンレストへの期待～ARN 高血圧 Monthly WEB symposium（東京）2022. 3. 7
76. 原田和昌：高齢者心不全治療における漢方薬の役割と可能性. 循環器×漢方薬 web 講演会 in 香川（東京）2022. 3. 14
77. 原田和昌：高齢者心不全の併存症としての貧血治療. WEB セミナー～心不全と貧血を再考する～（東京）2022. 3. 24.
78. 原田和昌：Anticoagulant Therapy in the Elderly AF Patients: With Consideration of CKD, Adherence, and Frailty Clinical Challenges in NOAC Management for NVAf Patients（台湾）（東京）2022. 3. 29
79. 原田和昌：高齢心房細動患者における抗凝固マネジメントと併存疾患. 帯広循環器疾患セミナー（東京）2022. 3. 30
80. 原田和昌：高齢心房細動患者の治療と管理（監修・講演）医療関係者向け情報トーアエイヨー2021. 6. 1
81. 原田和昌：低血圧を考慮した慢性心不全患者の治療戦略（監修・講演）ベリキューボ NAVI バイエル撮影2021. 11. 2

<賞与>

1. 鳥羽梓弓、石川讓治、原田和昌 レム睡眠行動異常と 24 時間自由行動下血圧モニタリングにおける血圧変動性との関連 日本高血圧学会総会 2021 年 10 月 15 日～17 日、沖縄 Web 開催 （女性研究者奨励賞最優秀賞）
2. 宮脇正次、青山里恵、鳥羽梓弓、石川讓治、原田和昌 姿勢依存性の左室流出路狭窄が一過性意識消失に関わったと考えられたレビー小体型認知症の一例 第 73 回日本老年医学会関東甲信越地方会を 2021 年 11 月 13 日（土）東京医科大学病院（最優秀奨励賞受賞）
3. 藤井昭朗、宮脇正次、橘盛昭、石川讓治、宮本鋼、原田和昌 多発性骨髄腫・過粘稠度症候群により心不全をきたし、血漿交換・化学療法導入が心不全管理に有用であった一例 第 675 回日本内科学会関東地方会、2022 年 2 月 12 日（奨励賞、指導医奨励賞）

呼吸器内科

<雑誌論文>

1. Yamamoto H, Sazuka M, Ishibashi M, Nogimori C, Takada K, Hamaya H, Yamada H, Awata S. DASC-21: a novel geriatric assessment for discriminating best supportive care in older patients with inoperable advanced non-small cell lung cancer. Jpn J Clin Oncol. 51(11): 1628-1635, 2021.
2. 山本寛. 高齢者に対する適切ながん医療～高齢者総合機能評価の活用～. 日本口腔外科学会雑誌 67(4): 222-227, 2021.
3. 田村和夫, 唐澤久美子, 山本寛, 小川朝生, 渡邊清高, 桜井なおみ, 津端由佳里, 上田倫弘. 「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」総論・高齢者機能評価に関する提言 Part1. 日本大腸肛門病会誌 74(5): 269-275, 2021.
4. 田村和夫, 唐澤久美子, 山本寛, 小川朝生, 渡邊清高, 桜井なおみ, 津端由佳里, 上田倫弘. 「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」総論・高齢者機能評価に関する提言 Part2. 日本大腸肛門病会誌 74(5): 276-286, 2021.
5. 石橋昌幸, 佐塚まなみ, 野木森智江美, 山田浩和, 山本寛. EBUS-TBNAテープ固定法の検討. 呼吸臨床 5(10): e00138, 2021.

<総説>

1. 山本寛. 今日から役立つフレイルの知識とケアのポイント. 疾患とフレイル予防, ケア. COPD. WOC Nursing 9(7): 62-66, 2021.
2. 山本寛. 高齢肺がん患者に対する高齢者機能評価. 老年内科 4(6): 595-601, 2021.
3. 山本寛. 高齢者の脆弱性と多様性に着目した嚥下性肺疾患の診断と治療. 練馬区医師会だより645: 18-24, 2021.
4. 山本寛. 高齢者の脆弱性・多様性に配慮した肺炎診療のための多角的アプローチ. 板橋区医師会通報510: 66-72, 2022.

<単行書・報告書>

<学会・研究会発表>

1. 石橋昌幸, 佐塚まなみ, 野木森智江美, 高田和典, 山田浩和, 山本寛. 75歳以上の高齢肺癌患者に対するEGFRチロシンキナーゼ阻害剤の使用経験. 第61回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 4月23日-4月5日[オンデマンド], 2021.
2. 山本寛. 高齢がん患者の身体的・精神心理的・社会的脆弱性とその多様性に配慮した個別化医療の展開. 第6回日本がんサポーターブケア学会学術集会[Web開催], 5月30日, 2021.
3. 山本寛. 高齢がん患者の特性と老年病専門医の役割～身体的・精神心理的・社会的脆弱性とその多様性に配慮した個別化医療の展開～. 第63回日本老年医学会学術集会 シンポジウム3 高齢者のがん診療, 名古屋[ハイブリッド開催], 6月11日, 2021.
4. 石橋昌幸, 佐塚まなみ, 山田浩和, 山本寛. EBUS-TBNAテープ固定法の紹介. 第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, 6月24日-7月30日[オンデマンド], 2021.
5. 山本寛. コロナ禍における高齢者肺炎の診断と治療. 第70回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第68回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 イブニングセミナー2, 東京[ハイブリッド開催], 10月28日, 2021.
6. 村瀬開, 佐塚まなみ, 田村嘉章, 佐藤元彌, 永井博之, 野木森智江美, 石橋昌幸, 山田浩和, 山本寛. 原発性肺癌の両側副腎転移により原発性副腎不全を呈した1例. 第673回日本内科学会関東地方会, 東京[web開催], 11月14日, 2021.
7. 落合亮介, 林健太郎, 山本寛, 石田毅, 本田健, 清水哲男, 松谷哲行, 関順彦, 川村雅文, 植田幸嗣. ゲフィチニブの効果を治療前に予測する血漿中エクソソーム蛋白Immune-related molecule-Aの同定. 第62回日本肺癌学会学術集会, 横浜[ハイブリッド開催], 11月28日, 2021.
8. 山本寛. 日本式高齢者がん診療の萌芽/The dawn of Japanese-style cancer care for the elderly. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会 SIOG/JSMO合同シンポジウム 老年腫瘍学: 腫瘍学と老年医学のコラボレーション, 京都[ハイブリッド開催], 2月19日, 2022.

<講師など院外活動（講演・放送等）>

1. 山本寛：高齢者COPDのとらえ方～トリプルセラピーをいかすために～. 咳・痰・息切れを見直す会～フレイルとの関連をふまえて～. 東京[web配信], 4月5日, 2021.
2. 山本寛：[座長]Future Risk Seminar. 特別講演1. 東京[web配信], 4月8日, 2021.
3. 山本寛：当施設における高齢者NSCLCの治療実態. JJLC (Johoku-Josai Lung Cancer) Expert Meeting. 東京[web配信], 4月15日, 2021.
4. 山本寛：高齢者の喘息治療に新たな選択肢～お困りの咳・痰・息切れ症状を中心に～. GSK Asthma Seminar 『喘息の気道炎症/気道閉塞に対する新たな治療選択肢』. 東京[web配信], 4月16日, 2021.
5. 山本寛：「重症喘息患者への治療戦略」～好酸球正常化の意義を考える～. GSK Severe Asthma Seminar. 東京[web配信], 4月21日, 2021.
6. 山本寛：AMR対策を意識した高齢者肺炎の対処法. 北都留・都留医師会合同学術講演会. 都留[web配信], 5月14日, 2021.
7. 山本寛：高齢者喘息における効果的な吸入療法の提案. 城北エリア呼吸器連携フォーラム. 東京[web配信], 5月28日, 2021.
8. 山本寛：生活の場に即した医療提供 感染症対策・薬剤耐性菌等について. 2020年度老人保健施設管理医師総合診療研修会. 東京, 6月1日～8月31日[オンデマンド], 2021.
9. 山本寛：高齢者機能評価でプロファイル～肺癌化学療法のパレシジョン・メディシンに新たな座標軸を～. 大鵬肺がんの会. 東京[web配信], 6月14日, 2021.
10. 山本寛：高齢者嚥下性肺疾患～診断と治療の多様性～. 東京[web配信], 6月21日, 2021.
11. 山本寛：[座長]. Severe Asthma Biologics Meeting. 東京[web配信], 7月14日, 2021.
12. 山本寛：高齢者のがんの特徴～老年病専門医の視点から～. AMED津端班 AMED藤森班 老年腫瘍学セミナー. 東京[web配信], 7月17日, 2021.
13. 山本寛：高齢者機能評価の結果を参考に9LAレジメンを適用した一例. Hongo I-O Seminar. 東京[web配信], 7月19日, 2021.
14. 山本寛：高齢者のがん薬物療法ガイドラインセミナー 症例検討. 第1回一緒に学ぼう！日本臨床腫瘍学会関連ガイドライン. 東京[web配信], 9月23日, 2021.
15. 山本寛：高齢者のがん薬物療法ガイドラインセミナー 老年医学会からの提言. 第1回一緒に学ぼう！日本臨床腫瘍学会関連ガイドライン. 東京[web配信], 9月23日, 2021.
16. 山本寛：高齢者の脆弱性と多様性に着目した嚥下性肺疾患の診断と治療. 練馬区内科医会講演会[ハイブリッド]. 東京, 10月12日, 2021.
17. 山本寛：脆弱性に配慮した高齢者重症喘息の治療戦略～生活機能を維持するための処方箋～. 多摩重症喘息セミナー. 東京[web配信], 10月21日, 2021.
18. 山本寛：重症喘息治療のこれから～ヌーカラで広がる患者の選択肢～. GSK Severe Asthma Seminar. 東京[web配信], 10月27日, 2021.
19. 山本寛：高齢者肺炎 多様性に配慮した治療方針の提案. Kyorin Web サロン. 東京[web配信], 11月10日, 2021.
20. 山本寛：呼吸器臨床を変えた医療技術. 医工連携セミナー. 東京[web配信], 11月10日, 2021.
21. 山本寛：高齢者の喘息治療に新たな選択肢～お困りの咳・痰・息切れ症状を中心に～. GSK Asthma Seminar. 東京[web配信], 11月12日, 2021.
22. 山本寛：脆弱性と多様性に着目した高齢者肺炎の診断と治療. 鹿児島県内科医会講演会. 東京[web配信], 11月19日, 2021.
23. 山本寛：老年科医と高齢者からみたがん診療の新たな座標軸～日本老年医学会高齢者がん診療小委員会からの提案～. 高齢者のがんを考える会議5. 厚生労働省科学研究がん対策推進総合研究事業 高齢者がん診療ガイドライン策定とその普及のための研究. 東京[web配信], 11月27日, 2021.
24. 山本寛：高齢者の脆弱性・多様性に配慮したCOPDの処方箋. 健康寿命について考える～Respiratory Online Seminar～. 東京[web配信], 12月3日, 2021.
25. 山本寛：Frailtyに配慮した高齢者重症喘息の治療戦略～生活機能を維持するための処方箋～. Severe Asthma New-angle Symposium. 東京[web配信], 12月8日, 2021.
26. 山本寛：Frailtyに着目した高齢者がん治療適正化の試み～がん治療のprecision medicineに新たな座標軸を～. 非小細胞肺癌1次治療 オブジーボ・ヤーボイ併用療法 WEBライブセミナー. 東京[web配信], 12月10日, 2021.
27. 山本寛：高齢者の脆弱性・多様性に配慮した肺炎診療のための多角的介入. 桜衛生医療フォーラム 東京都隊友会衛生支部会. 東京[web配信], 12月15日, 2021.
28. 山本寛：呼吸器疾患の栄養管理. 第2回都立病院管理栄養士会学術講演会. 東京[web配信], 12月17日, 2021.

29. 山本寛: 高齢者の脆弱性・多様性に配慮した誤嚥性肺炎診療のための多角的介入. 上都賀市（北部医師団）学術講演会. 東京[web配信], 1月13日, 2022.
30. 山本寛: [症例提示]CBDCA+PTX+BEV+Atezoが有効と思われた、TTF-1陰性粘液産生性腺癌の症例 [話題]高齢者機能評価の有用性と高齢者がん診療の新たな座標軸. 中外製薬社内研修会. 東京[web配信], 1月19日, 2022.
31. 山本寛: 高齢者の脆弱性と多様性に配慮した肺炎診療のための多角的アプローチ. 板橋区医師会学術講演会 [ハイブリッド]. 東京, 1月21日, 2022.
32. 山本寛: 高齢者の脆弱性・多様性に配慮した誤嚥性肺炎診療のための多角的アプローチ. 誤嚥性肺炎診療セミナー. 東京[web配信], 1月27日, 2022.
33. 山本寛: 高齢者の日常生活を守るための処方箋～間質性肺疾患の場合～. ILD Web Academy Pharmacist. 東京[web配信], 1月28日, 2022.
34. 山本寛: 高齢者のがんの特徴～老年病専門医の視点から～. AMED津端班 AMED藤森班 老年腫瘍学セミナー. 東京[web配信], 2月25日, 2022.
35. 山本寛: Frailtyに配慮した高齢者重症喘息の治療戦略～生活機能を維持するための処方箋～. 呼吸器個別化治療セミナー2022. 東京[web配信], 2月7日, 2022.
36. 佐塚まなみ: [症例提示] 原発性肺癌の両側副腎転移により原発性副腎不全を呈した1例. 中外製薬社内研修会. 東京[web配信], 2月18日, 2022.
37. 山本寛: 高齢者肺炎の予防・診断・治療. 令和3年感染制御専門薬剤師講習会. 2月19日, 東京[web配信], 2022.
38. 山本寛: Frailtyに着目した肺癌治療－Nivo+Ipi+Chemoの使用経験－. 非小細胞肺癌1次治療オブジーボ・ヤーボイ併用療法Hybrid Web Live Seminar. 東京[web配信], 3月3日, 2022.
39. 山本寛: 脆弱性と多様性に着目した高齢者肺癌の治療－Nivo+Ipi+Chemoの使用経験－. 非小細胞肺癌1次治療オブジーボ・ヤーボイ併用療法WEBライブセミナー. 東京[web配信], 3月30日, 2022.

消化器・内視鏡内科

<学会・研究会発表>

1. 富野 琢朗, 松川 美保, 葦沢 龍人, 羽鳥 清華, 大隅 瞬, 白倉 英知, 正谷 一石. MDSに対する臍帯血移植後に腸管PTLDを発症した一例. 日本消化器病学会関東支部第367回例会, 東京, 2021. 12
2. 正谷 一石, 松川 美保, 葦沢 龍人, 羽鳥 清華, 大隅 瞬, 白倉 英知, 富野 琢朗, 新井 富生. Sister Mary Joseph結節を契機に発見された膵癌の一例. 日本消化器病学会関東支部第368例会, 東京, 2022. 2

<雑誌>

該当なし

脳神経内科・脳卒中科

<雑誌論文>

(原著)

1. Kurihara M, Sugiyama Y, Tanaka M, Sato K, Mitsutake A, Ishiura H, Kubota A, Sakuishi K, Hayashi T, Iwata A, Shimizu J, Murayama K, Tsuji S, Toda T: Diagnostic values of venous peak lactate, lactate-to-pyruvate ratio, and fold increase in lactate from baseline in aerobic exercise tests in patients with mitochondrial diseases. Internal Med: published online, 2022
2. Higashihara M, Ishibashi K, Tokumaru AM, Iwata A, Ishii K: ¹⁸F-THK5351 PET can identify core lesions in different amyotrophic lateral sclerosis phenotypes. Clin Nucl Med 46(12): e582-583, 2021
3. Higashihara M, Pavey N, van den Bos M, Menon P, Kiernan MC, Vucic S: Association of Cortical Hyperexcitability and Cognitive Impairment in Patients with Amyotrophic Lateral Sclerosis. Neurology 96: e2090-2097, 2021
4. Matsubara T, Saito Y, Kurashige T, Higashihara M, Hasegawa F, Ogasawara M, Iida A, Nishino I, Adachi T, Kubota A, Murayama S: Neuropathy/intranuclear inclusion bodies in oculopharyngodistal myopathy: A case report. Neurological Sci 24, 2021
5. Orimo K, Ogura M, Hatano K, Saito-Sato N, Nakayama H, Ishida T, Hashida H. Spinal Cord Infarction in a Patient with Immune thrombocytopenic Purpura. J Stroke Cerebrovasc Dis 30: 105637, 2021
6. Tachibana M, Kanemaru A, Hatano K, Murata T, Ishikawa J, Harada K. Hypoxemia found after hospitalization with right hemiplegia due to cerebral infarction: platypnea-orthodeoxia syndrome in the older people. J Cardiol Cases 25(2):72-75, 2021.
7. Hatano T, Kano O, Sengoku R, Yoritaka A, Suzuki K, Nishikawa N, Mukai Y, Nomura K, Yoshida N, Seki M, Matsukawa MK, Terashi H, Kimura K, Tashiro J, Hirano S, Murakami H, Joki H, Uchiyama T, Shimura H, Ogaki K, Fukae J, Tsuboi Y, Takahashi K, Yamamoto T, Yanagisawa N, Nagayama H: Evaluating the impact of adjunctive istradefylline on the cumulative dose of levodopa-containing medications in Parkinson's disease: study protocol for the ISTRA ADJUST PD randomized, controlled study. BMC Neurol 22(1): 71, 2022
8. Van den Bos MAJ, Higashihara M, Geevasinga N, Menon P, Kiernan MC, Vucic S: Pathophysiological associations of transcallosal dysfunction in ALS. Eur J Neurol 28: 1172-1180, 2021
9. Hannaford A, Higashihara M, Pavey N, van den Bos M, Geevasinga N, Vucic S, Menon P: Split-hand index: A diagnostic and prognostic marker in amyotrophic lateral sclerosis across varying regions of onset. Clin Neurophysiol 132: 2130-2135, 2021
10. Pavey N, Higashihara M, van den Bos MAJ, Menon P, Vucic S: The split-elbow index: A biomarker of the split elbow sign in ALS. Clin Neurophysiol Pract 7: 16-20, 2021
11. Senda M, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Matsuda H, Iwatsubo T, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikari Y, Niimi Y, Arai H, Tamaoka A, Arahata Y, Itoh Y, Tachibana H, Ichimiya Y, Washizuka S, Odawara T, Ishii K, Ono K, Yokota T, Nakanishi A, Matsubara E, Mori H, Shimada H. A Japanese Multicenter Study on PET and Other Biomarkers for Subjects with Potential Preclinical and Prodromal Alzheimer's Disease. J Prev Alzheimers Dis. 2021;8(4):495-502.
12. Tatsuo Mano, Kenichiro Sato, Takeshi Ikeuchi, Tatsushi Toda, Takeshi Iwatsubo, Atsushi Iwata,

- and Japanese Alzheimer' s Disease Neuroimaging Initiative: Peripheral blood BRCA1 methylation positively correlates with major Alzheimer' s disease risk factors. *J Prev Alzheimers* 8: 477-482, 2021
13. Hidenori Homma, Hikari Tanaka, Meihua Jin, Xiaocen Jin, Yong Huang, Yuki Yoshioka, Christian Bertens, Kohei Tsumaki, Kanoh Kondo, Hiroki Shiwaku, Kazuhiko Tagawa, Hiroyasu Akatsu, Naoki Atsuta, Masahisa Katsuno, Katsutoshi Furukawa, Aiko Ishiki, Masaaki Waragai, Gaku Ohtomo, Atsushi Iwata, Takanori Yokota, Haruhisa Inoue, Hiroyuki Arai, Gen Sobue, Masaki Sone, Kyota Fujita, and Hitoshi Okazawa: DNA damage in embryonic neural stem cell determines FTLDs' fate via early-stage neuronal necrosis. *Life Sci Alliance* 4: 1-23, 2021
 14. Kenichiro Sato, Tatsuo Mano, Atsushi Iwata, and Tatsushi Toda: Safety of memantine in combination with its potentially interactive drugs in the real world: a pharmacovigilance study using Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database. *J Alzheimers Dis* 82: 1333-1344, 2021
 15. Kenichiro Sato, Tatsuo Mano, Yoshiki Niimi, Atsushi Iwata, Tatsushi Toda, and Takeshi Iwatsubo: The impact of COVID-19 pandemic on the provision of ambulatory care for patients with chronic neurological diseases in Japan: evaluation of an administrative claims database. *Biosci Trends* 15: 219-230, 2021
 16. Kenichiro Sato, Tatsuo Mano, Atsushi Iwata, and Tatsushi Toda: Need of care in interpreting Google Trends-based COVID-19 infodemiological study results: potential risk of false-positivity. *BMC Med Res Methodol* 21: 147, 2021
 17. Naoki Watanabe, Masaki Nakano, Yachiyo Mitsuishi, Norikazu Hara, Tatsuo Mano, Atsushi Iwata, Shigeo Murayama, Toshiharu Suzuki, Takeshi Ikeuchi, and Masaki Nishimura: Transcriptional downregulation of FAM3C/ILEI in the Alzheimer' s brain. *Hum Mol Genet* 31: 122-132, 2021
 18. Kenichiro Sato, Tatsuo Mano, Yoshiki Niimi, Tatsushi Toda, Atsushi Iwata, and Takeshi Iwatsubo: Facial nerve palsy following the administration of mRNA COVID-19 vaccines. *Int J Infect Dis* 111: 310-312, 2021
 19. Kenichiro Sato, Atsushi Iwata, Masanori Kurihara, Tatsuo Mano, and Tatsushi Toda: Stress cardiomyopathy (takotsubo syndrome) in patients who received adrenergic agonist drugs: a pharmacovigilance study using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database. *J Cardiol* 79: 36-41, 2021
 20. Ryo Ohtomo, Keita Kinoshita, Hidehiro Ishikawa, Kelly K. Chung, Gen Hamanaka, Gaku Ohtomo, Hajime Takase, Christiane D. Wrann, Hiroshi Katsuki, Atsushi Iwata, Josephine Lok, Eng H. Lo, Ken Arai: Treadmill exercise during cerebral hypoperfusion has only limited effects on cognitive function in middle-aged subcortical ischemic vascular dementia mice. *Front Aging Neurosci* 13: 756537, 2021
 21. Takayuki Kondo, Norikazu Hara, Satoshi Koyama, Yuichiro Yada, Kayoko Tsukita, Ayako Nagahashi, Takeshi Ikeuchi, Kenji Ishii, Takashi Asada, Tetsuaki Arai, Ryo Yamada, Alzheimer' s Disease Neuroimaging Initiative (ADNI), Japanese Alzheimer' s Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI) & Haruhisa Inoue: Dissection of the polygenic architecture of neuronal A β production using a large sample of individual iPSC lines derived from Alzheimer' s disease patients. *Nat Aging* 2: 125-139, 2022
 22. Matsubara T, Kameyama M, Tanaka M, Orita M, Sengoku R, Furuta K, Iwata A, Arai T, Maruyama H, Saito Y, Murayama S: Autopsy validation of the diagnostic accuracy of 123I-meta-iodobenzyl-

guanidine myocardial scintigraphy for diagnosing Lewy body disease. Neurology Online ahead of print, 2022

23. Sato K, Niimi Y, Ihara R, Suzuki K, Toda T, Iwata A, Iwatsubo T. Efficacy and Cost-effectiveness of Promotion Methods to Recruit Participants to an Online Screening Registry for Alzheimer Disease Prevention Trials: Observational Study. J Med Internet Res. 2021 Jul 22;23(7):e26284.
24. Sato K, Ihara R, Suzuki K, Niimi Y, Toda T, Jimenez-Maggiora G, Langford O, Donohue MC, Raman R, Aisen PS, Sperling RA, Iwata A, Iwatsubo T. Predicting amyloid risk by machine learning algorithms based on the A4 screen data: Application to the Japanese Trial-Ready Cohort study. Alzheimers Dement (N Y). 2021 Mar 24;7(1):e12135.
25. Sato K, Mano T, Ihara R, Suzuki K, Niimi Y, Toda T, Iwatsubo T, Iwata A. Cohort-Specific Optimization of Models Predicting Preclinical Alzheimer's Disease, to Enhance Screening Performance in the Middle of Preclinical Alzheimer's Disease Clinical Studies. J Prev Alzheimers Dis. 2021;8(4):503-512.
26. Mar Guasp, Jon Landa, Eugenia Martinez-Hernandez, Lidia Sabater, Takahiro Iizuka, Mateus Simabukuro, Masataka Nakamura, Makoto Kinoshita, Masanori Kurihara, Kenichi Kaida, Jordi Bruna, Solange Kapetanovic, Pedro Sánchez, Raquel Ruiz-García, Laura Naranjo, Jesús Planagumà, Amaia Muñoz-Lopetegui, Luis Bataller, Albert Saiz, Josep Dalmau, Francesc Graus. Thymoma and autoimmune encephalitis: clinical manifestations and antibodies. Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm 2021;8:e1053.
27. 橋本征治, 田村嘉章, 小寺玲美, 舘鼻彩, 豊島弘一, 大庭和人, 豊島堅志, 仁科裕史, 千葉優子, 荒木厚: ウレアーゼ産生菌の尿路感染症に伴う高アンモニア血症によって意識障害をきたしたレビー小体型認知症 (DLB) の1例 日老医誌 2021 ; 58 : 297—302

<総説>

1. 栗原正典, 岩田淳. 若年性認知症の体液バイオマーカー研究. 医学のあゆみ 278(12): 1039-1043 2021年
2. 栗原正典, 岩田淳. Aβ抗体 ドナネマブ. Clinical Neuroscience 39(12): 1534-1537 2021年
3. 栗原正典. 重症筋無力症—加齢性・非器質的疾患と見誤るな. 総合診療 (Journal of Generalist Medicine) 32(1): 23-27 2022年
4. 栗原正典, 岩田淳. 進行期アルツハイマー病の神経症候. 老年精神医学雑誌 33(2): 182-186 2022年
5. 東原真奈. 【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】神経・筋 診断メモ Guillain-Barré症候群. 内科127: 867, 2021
6. 東原真奈. 【意外と知られていない!? 自家の常識・他科の非常識】手足のしびれでは脳の疾患ではなく絞扼性ニューロパチーをまずは考える. 内科128: 614-616, 2021
7. 井原涼子, 岩田淳, 岩坪威. 認知症に対する全国規模のレジストリ研究・多施設共同研究・調査Up to Date わが国におけるアルツハイマー病臨床研究の現状と今後. 老年精神医学雑誌 33(2) 2022年
8. 池内健, 春日健作, 新美芳樹, 井原涼子, 千田道雄, 石井賢二. 認知症に対する全国規模のレジストリ研究・多施設共同研究・調査Up to Date DIAN-Japan研究・観察研究と治療介入研究-. 老年精神医学雑誌 33(2) 2022年
9. 井原涼子, 岩田淳. 【認知症の疾患概念について考える;歴史的事項から将来まで】アルツハイマー病概念の成立と変遷. 老年精神医学雑誌 32(10) 1040-1045 2021年10月
10. 池内健, 井原涼子. 【疾患修飾薬開発の基盤構築:TRC(Trial-ready cohort)と国際連携】 DIAN Japan研究とゲノム医療. Dementia Japan 35(3) 408-417 2021年9月
11. 井原涼子. 2020年代の内科診療-26テーマの近未来予想 脳神経内科[変性疾患]aducanumabの登場により大きく変わる認知症診療. 内科 128(6) 2021年
12. 井原涼子. 【意外と知られていない!? 自科の常識・他科の非常識】(第8章)神経 抗認知症薬は必ずしも「記憶」を改善させない. 内科 128(3) 631-633 2021年9月
13. 井原涼子. 【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第7章)神経・筋 認知症. 内科 127(4) 818-820 2021年4月

14. 井原涼子. アルツハイマー病update 抗体医薬開発の現況. 医学と薬学 79(1) 2021年
15. 井原涼子. 脳神経内科疾患 日常診療で必ず出会う三大疾患の基本知識と最近の動向 アルツハイマー病-アルツハイマー病の最新情報-. Medical Practice 38(12) 2021年

<学会発表>

(海外)

1. Kurihara M, Mano T, Saito Y, Murayama S, Iwata A, Toda T: Tau-induced Aggregation of BRCA1 in Tauopathies. 2021 Asian Oceanian Congress of Neurology, 2021/4/1 online session
2. Higashihara M, Ishibashi K, Ihara R, Kato T, Nishina Y, Kanemaru K, Tokumaru AM, Ishii K, Iwata A: Clinical utility of ^{18}F THK-5351 PET to visualize distribution of astrogliosis in motor neuron disease. PACTALS 2021 meeting. 2021/9/17-18, online session
3. Maeda S, Takenouchi T, Nishimura N, Arai E, Morimoto S, Imaizumi K, Iwata A, Kanai Y, Kosaki K, Ikeuchi T, Okano H: Modeling of neurodegenerative diseases using directly converted neurons from urine-derived cells. ISSCR Tokyo, 2021/10/31
4. Sato K, NiimiY, Ihara R, Suzuki K, Iwata A and Iwatsubo T: Evaluation of efficacy and cost-effectiveness of promotions for recruiting online participants to Japanese Trial-Ready Cohort (J-TRC) study. 14th Clinical Trials On Alzheimer's Disease (CTAD), 2021/11/9
5. Abdelnour C, Agosta F, Fougère B, Iwata A, Nilforooshan R, Takada LT, Viñuela F, Bozzali M and Traber M: Patient stratification in Alzheimer's disease: Opportunities and challenges. ADPD 2022, 2022/3/15
6. Zetterberg H, Iwata A, Teunissen C: Biomarkers: The reality check. ADPD 2022, 2022/3/15
7. Yamashita K, Miura M, Watanabe S, Ishiki K, Arimatsu Y, Irino Y, Kubo T, Hagino K, Nagai K, Verbel D, Koyama A, Dhadda S, Niir H, Iwanaga S, Sato T, Yoshida T, Iwata A: Fully automated plasma β -amyloid immunoassays predict amyloid pathology defined by amyloid PET. ADPD 2022, 2022/3/17

(国内)

8. Hatano K, Orimo K, Ogura M, Okabe. S, Ishida T, Kubota A, Shimizu J, Hashida H. POEMS syndrome that presented with rapidly progressive neuropathy and showed early recovery. The 62nd Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology. May 19-22, 2021, Kyoto, Japan
9. 堀越裕介, 小松大樹, 東原真奈, 小松俊介, 井原涼子, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳: 非集積地発症の家族性アミロイドポリニューロパチーにパチシランナトリウムを導入した1例. 第671回日本内科学会関東地方会
10. 伊藤志帆, 小松大樹, 東原真奈, 十菱千尋, 種井良二, 新井富生, 原田和昌, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳: Covid-19 ワクチン接種後に多巣性の感覚障害で発症した神経サルコイドーシスの1例. 第675回日本内科学会関東地方会.
11. 東野将志, 井原涼子, 木村友彦, 宮脇正次, 小川雅史, 東原真奈, 仁科裕史, 岩田淳: Critical illness polyneuropathy との鑑別を要した, 心肺蘇生後発症の Guillain-Barré 症候群の一例. 第237回日本神経学会関東・甲信越地方会.online. 2021年6月5日
12. 小松大樹, 井原涼子, 石橋賢士, 栗原正典, 仁科裕史, 金丸和富, 石井賢二, 岩田淳: 人物の意味記憶障害を主症状とし, ^{18}F -THK5351PET が病変の描出に有用だった FTLT-TDP 疑いの71歳女性例. 第238回日本神経学会関東・甲信越地会.online. 2021年9月4日
13. 東野将志, 仁科裕史, 波多野敬子, 東原真奈, 石橋賢士, 石井賢二, 金丸和富, 岩田淳: 緩徐に進行する四肢痙性麻痺にて発症し, ^{18}F -THK5351PET より Globular Glial Tauopathy が疑われた85歳女性例. 第239回日本神経学会関東・甲信越地方会.online. 2021年12月4日
14. 後藤良司, 小森雄太, 栗原正典, 波多野敬子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳: 多系統萎縮症 (MSA-P) の経過中に下位運動ニューロン徴候が出現し, 急速な2型呼吸不全のため人工呼吸器装着に至った69歳女性例. 第240回日本神経学会関東・甲信越地方会.online. 2022年3月5日
15. 馬場智也, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 石橋賢士, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 岩田淳: 大脳皮

- 質基底核変性症の診断における ^{18}F -THK-5351 PET の有用性についての検討. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
16. 木村友彦, 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 東原真奈, 井原涼子, 波多野敬子, 松川美穂, 齊藤祐子, 岩田淳, 村山繁雄: アルツハイマー型認知症における ApoE と CSF バイオマーカーとの関連, 性差の検討. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
 17. 東野将志, 勝俣悠, 林卓矢, 木村友彦, 宮脇正次, 小川雅史, 東原真奈, 井原涼子, 岩田淳: 経皮的心肺補助装置離脱後に急性の弛緩性麻痺に気づかれた 75 歳女性例. 第 35 回日本神経救急学会学術集会. 東京. 2021 年 6 月 19 日
 18. 東野将志, 松原知康, 齋藤輔, 宮腰重三郎, 井原涼子, 東原真奈, 岩田淳, 新井富生, 村山繁雄, 齊藤祐子. 骨髄異形成症候群に対して臍帯血移植が行われ、1 ヶ月後より緩徐進行性の意識障害, 痙攣を認め, 辺縁系脳炎が疑われた 75 歳女性剖検例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会. 東京. 2021 年 5 月 27 日-29 日
 19. 小松 大樹, 伊藤 志帆, 栗原 正典, 佐藤 元彌, 橘 盛昭, 小金丸 博, 東原 真奈, 金丸 和富, 仁科 裕史, 岩田 淳, 許 俊鋭: COVID-19 感染後に動眼神経単独の麻痺を認めた中脳梗塞の 61 歳男性例. 第 25 回板橋区医師会医学会. 東京. 2022 年 2 月
 20. 小松大樹, 東原真奈, 荒川晶, 東野将志, 松原知康, 齊藤祐子, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄, 岩田淳: イマチニブによる加療中に発症し, 針筋電図でミオキミー放電を認めた封入体筋炎の 67 歳男性例. 第 103 回 Neuromuscular Conference. 東京. 2022 年 3 月
 21. 栗原 正典, 間野 達雄, 矢尾 育子, 佐藤 謙一郎, 瀬藤 光利, 岩田 淳, 戸田 達史: 神経核内封入体病脳において封入体を有する核のプロテオーム解析. 第 40 回日本認知症学会学術集会. 東京. 2021 年 11 月
 22. 波多野敬子, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳. 90 歳以上の急性期脳梗塞患者に対する静注血栓溶解 (rt-PA) 療法の治療成績. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2022. 3. 17-19.
 23. 東原真奈, 石橋賢士, 井原涼子, 加藤貴行, 仁科裕史, 金丸和富, 徳丸阿耶, 石井賢二, 岩田淳: ^{18}F -THK 5351 PET を用いた, 筋萎縮性側索硬化症における astrogliosis の検出. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
 24. 東原真奈: シンポジウム国際化-日本神経学会はどこを目指すのか? 神経学会の英語化と国際化についてオーストラリア留学の経験から. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
 25. 東原真奈: 運動ニューロン疾患の電気診断および電気生理マーカーの開発に関する研究. 第 51 回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台. 2021 年 12 月 16 日-18 日
 26. 金丸和富, 金丸晶子, 木村友彦, 仁科裕史, 岩田淳, 村山繁雄, 齊藤祐子: レビー小体型認知症における ApoE 表現型と CSF バイオマーカーとの関連, 性差の検討. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
 27. 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二: ^{11}C -PIB PET を実施した 22 剖検例における Centiloid と病理診断との対比. 第 40 回日本認知症学会学術集会. 東京. 2021 年 11 月 26 日-28 日
 28. 夏目采, 東原真奈, 堀越裕介, 小松大樹, 宮地洋輔, 桜山千恵子, 星野哲, 園生雅弘, 岩田淳: 家族性アミロイドポリニューロパチーの高齢孤発例における電気生理学的検討. 第 51 回日本臨床神経生理学会学術大会. 仙台. 2021 年 12 月 16 日-18 日
 29. 竹原史穂, 東原真奈, 加藤貴行, 伊藤真紀, 井原涼子, 木村友彦, 金丸和富, 仁科裕史, 奥村真木, 岩田淳: ALS クリニックにおける高齢 ALS 患者の特徴とソーシャルワーカーが果たす役割. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都. 2021 年 5 月 19 日-22 日
 30. 佐藤知佳, 金丸和富, 磯田幸子, 大坪雅子, 仁科裕史, 松川美穂, 東原真奈, 波多野敬子, 井原涼子, 岩田淳. 脳神経内科における医師事務作業補助者の役割. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都, 2021. 5. 19-22

<院外活動・講演>

1. 波多野敬子 進行期パーキンソン病におけるデバイス療法について. LCIG 療法の 3 症例. 第 2 回 Tokyo Advanced PD Conference. アッヴィ合同会社 田町本社 2021/8/20
2. 岩田 淳 高齢者の認知症・てんかんの診断&治療の基本 Neurology Total Management Web Seminar online 招待講演 2021/4/2
3. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 Alzheimer's Disease Eisai Web Seminar online 招待講演 2021/4/7
4. 岩田 淳 「非」アルツハイマー型認知症の臨床 Neurology Web Seminar online 招待講演 2021/4/9
5. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 山梨県 次世代の認知症診療を考える会 online 招待講演 2021/4/14
6. 岩田 淳 パーキンソン病をはじめとした脳神経内科疾患の病診連携 区西部連携の会 online 招待講演 2021/4/16
7. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 名古屋 認知症診療の近未来を考える会 online 招待講演 2021/5/14
8. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 Parkinson & Alzheimer's disease Web セミナー online 招待講演 2021/6/4
9. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 愛媛県 認知症診療の近未来を考える会 online 招待講演 2021/6/29
10. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 淡路医療圏 早期認知症を考える会 online 招待講演 2021/7/8
11. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 福井県 認知症診療の近未来を考える会 online 招待講演 2021/7/9
12. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 横浜認知症研究会 online 招待講演 2021/7/15
13. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 栃木県 認知症診療の近未来を考える会 online 招待講演 2021/8/19
14. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 鳥取県 認知症の近未来を考える会 online 招待講演 2021/8/20
15. 岩田 淳 認知症診療の最前線 明日から役立つ神経治療勉強会 in 池袋 online 招待講演 2021/9/3
16. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 京都内科神経懇話会 online 招待講演 2021/9/4
17. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 Chiba Dementia Conference online 招待講演 2021/9/16
18. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 山口県認知症研究会 online 招待講演 2021/9/30
19. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 認知症を考える神奈川の会 online 招待講演 2021/10/7
20. 岩田 淳 高齢者における認知症とてんかん UCB web セミナー online 招待講演 2021/10/8
21. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 認知症診療の近未来を考える会 多診療科合同開催富山県認知症診療交流会 online 招待講演 2021/10/13
22. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 岡山認知症研究会 online 招待講演 2021/10/15
23. 岩田 淳 アルツハイマー病のバイオマーカー診断の意義 m3web セミナー online 招待講演 2021/10/22

24. 岩田 淳 ブレインパフォーマンス セルフチェック 埼玉りそな銀行社員向け講演会 online 招待講演
2021/10/22
25. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 静岡県東部認知症
診療の近未来を考える会 online 招待講演 2021/10/27
26. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 名古屋掖済会病院
医療連携システムセミナーonline 招待講演 2021/10/28
27. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 東播臨海地区認知
症連絡会 online 招待講演 2021/10/30
28. 岩田 淳 神経疾患での便秘とその治療 城西北慢性便秘症セミナー2021 online 招待講演 2021/11/16
29. 岩田 淳 高齢者の認知症・てんかんの診断と治療 第一三共 online 招待講演 2021/12/10
30. 岩田 淳 アルツハイマー病のバイオマーカー診断の意義 第13回 Minato Memory Meeting online
2021 招待講演 2022/1/26
31. 岩田 淳 アルツハイマー病に対する初の病態修飾薬の承認 EP 総合研修会 online 招待講演 2022/1/27
32. 岩田 淳 アルツハイマー病の超早期診断時代を見据えたバイオマーカーの最新知見 認知症を語る会
online 招待講演 2022/1/29
33. 岩田 淳 高齢者の認知症・てんかんの診断&治療の基本 第3回栃木のてんかん診療を考える会 online
招待講演 2022/2/16
34. 岩田 淳 アルツハイマー病の診断、治療の最前線 ディレクトフォース研修会 online 招待講演 2022/3/4
35. 岩田 淳 AD Continuum・バイオマーカーパネルを用いた早期アルツハイマー病の診断 認知症治療の近未
来を考える会 in 北九州 online 招待講演 2022/3/25
36. 岩田 淳 アルツハイマー病の疾患修飾薬の現状 第24回北海道老年期認知症研究会 online 招待講演
2022/3/26

血液内科

<学会報告>

第 83 回日本血液学会学術総会 仙台 2021 年 9 月

- Influence of prior solid tumors in RI-CBT for patients over 65 years old with myeloid malignancy
○Mika Harada, Kazuto Ogura, Jyunko Akagawa, Tasuku Saito, Sumiko Kobayashi, Sigesaburo Miyakoshi
(Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, JAPAN)

第 43 回日本造血細胞療法学会 総会 東京 2021 年 3 月

- 当科における 65 歳以上骨髄系腫瘍患者に対する臍帯血移植症例の検討 Analysis of RI-CBT in patients aged over 65 years old with myeloid malignancy
○小倉 和外、原田 美香、赤川 順子、齋藤 輔、小林寿美子、宮腰重三郎
東京都健康長寿医療センター
- 臍帯血ミニ移植を受けた高齢患者の長期フォローアップにおける現状と課題 Problems in long-term follow up of elderly patients after CBT with reduced intensity conditioning
○赤川 順子、原田 美香、齋藤 輔、小倉 和外、小林寿美子、宮腰重三郎
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
- 同種造血幹細胞移植後再発に対する高齢患者臍帯血再移植症例の検討 Analysis of second CBT in over 60 years old patients with relapse after Allo-SCT
○原田 美香、小倉 和外、赤川 順子、齋藤 輔、小林寿美子、宮腰重三郎
東京都健康長寿医療センター
- 高齢者臍帯血移植における血清真菌マーカーの上昇が予後に与える影響についての検討
Study for the effect of elevated serum fungal markers after CBT on prognosis in the elderly patients
○齋藤 輔、原田 美香、赤川 順子、小倉 和外、小林寿美子、宮腰重三郎
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 血液内科
- 臍帯血移植後瘰癧発作を繰り返す剖検でアデノウイルスによる広範囲中枢神経感染症と診断された高齢者 MDS Adenovirus CNS infection at autopsy after CBT in an elderly patient with MDS
○南 研人、小林寿美子、齋藤 輔、小松明子、松原知康、小松大樹、原田美香、齋藤祐子、片野晴隆、小倉和外、宮腰重三郎
1) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 血液内科、病理学科
- 高齢者臍帯血移植における Mini Nutritional Assessment-Short Form(MNA-SF) による栄養評価
Nutritional evaluation by using MNA-SF in elderly patients with cord blood transplantation
○伊藤真紀、羽根田千恵、赤川順子、原田美香、齋藤 輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 栄養科、血液内科

63st ASH Annual Meeting and Exposition Atlanta, Georgia 2021 年 12 月

- Comparing Single Cord Blood Transplantation and Matched Related Donor Transplantation in Non-Remission Acute Myeloid Leukemia
○Yoshimitsu Shimomura, Tomotaka Sobue, Shigeki Hirabayashi, Tadakazu Kondo, Shohei Mizuno, MD, Junya Kanda, Takahiro Fujino, Keisuke Kataoka, Naoyuki Uchida, Tetsuya Eto, MD, Shigesaburo Miyakoshi, Masatsugu Tanaka, Toshiro Kawakita, Hisayuki Yokoyama, Noriko Doki, Kaito Harada, Atsushi Wake, Shuichi Ota, Satoru Takada, Satoshi Takahashi, Takafumi Kimura, Makoto Onizuka, Takahiro Fukuda, Yoshiko Atsuta, and Masamitsu Yanada

<論文>

- Single cord blood transplantation for acute myeloid leukemia patients aged 60 years or older: a retrospective study in Japan
Masamichi Isobe, Takaaki Konuma, Masayoshi Masuko, Naoyuki Uchida, Shigesaburo Miyakoshi, Yasuhiro Sugio, Shuro Yoshida, Masatsugu Tanaka, Yoshiko Matsuhashi, Norimichi Hattori, Makoto Onizuka, Nobuyuki Aotsuka, Yasushi Kouzai, Atsushi Wake, Takafumi Kimura, Tatsuo Ichinohe, Yoshiko Atsuta, Masamitsu Yanada, Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation
Annals of Hematology volume 100, pages 1849-1861 (2021)
- Deletion of Y chromosome before allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in male recipients with female donors

Masaharu Tamaki, Kazuaki Kameda, Shun-ichi Kimura, Naonori Harada, Naoyuki Uchida, Noriko Doki, Masatsugu Tanaka, Kazuhiro Ikegame, Masashi Sawa, Yuta Katayama, **Shigesaburo Miyakoshi**, Takahide Ara, Junya Kanda, Makoto Onizuka, Takahiro Fukuda, Yoshiko Atsuta, Yoshinobu Kanda, Kimikazu Yakushijin, and Hideki Nakasone
Blood Adv . 2022 Mar 22;6(6):1895–1903.

感染症内科

<総説>

1. 小金丸博. 高齢者の発熱診断と治療. Medical Practice, 第38巻, 1733-1736, 2021
2. 小金丸博. 高齢者新型コロナウイルス感染症の診断・治療・予防. Aging & Health, 2021
3. 小金丸博. 高齢者におけるCOVID-19ー診断と治療を含めてー. 老年医学, 第59巻, 1161-1165, 2021

<学会発表>

1. 浅見諒子, 野口穰, 古川友子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思, 山田浩和: 当センターにおける質量分析法導入後の非結核性抗酸菌の分離例の検討. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 1月, 2022.
2. 野口穰, 古川友子, 浅見諒子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思: 当センター救急外来患者におけるFilmArray RP2.1パネルの使用実績. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 1月, 2022.

精神科・もの忘れ外来

<学会・研究発表>

1. 大森佑貴, 今西彩, 神林崇 アリピプラゾールを睡眠医療に有効活用する 睡眠時間の延長を伴う特発性過眠症に対する低用量アリピプラゾールの効果, 日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集46回 108, 2021
2. 畠山啓 第36回日本老年精神医学会 シンポジウム「認知症ケアチーム活動の役割と課題」9月16日
3. 扇澤史子, 白取絹恵, 大森佑貴, 平野哲, 出崎奈美, 今村陽子, 岡本一枝, 畠山啓, 谷古宇美佳, 古田光 2021 認知症・せん妄のあるCOVID-19入院患者をケアする一般病棟と認知症ケアチームの協働——患者の行動制限最小化と医療者の負担軽減に寄与する体制の構築 認知症ケア学会誌 (第22回日本認知症ケア学会大会 プログラム・抄録集) 20(1)133 (オンライン開催) 2021年6月5日～9月5日
4. 扇澤史子, 古田光, 井藤佳恵, 今村陽子, 岡本一枝, 高岡陽子, 青島希, 白取絹恵, 畠山啓, 齋藤久美子, 大森佑貴, 松井 仁美, 栗田 主一 (2021) AD、DLB、VaDにおけるDASC-21の認知機能障害・生活機能障害の特徴 CDR0.5～2の重症度別の比較 老年精神医学雑誌32巻増刊I, 246. 2021年9月16日(木)～18日(土) 京都 オンライン参加.
5. 扇澤史子, 古田光, 井藤佳恵, 今村陽子, 岡本一枝, 高岡陽子, 青島希, 白取絹恵, 畠山啓, 齋藤久美子, 大森佑貴, 松井仁美, 栗田主一 (2021) 三大認知症の介護負担感に関連するBPSDの検討: J-ZBI_8, DBD13を用いた検討 日本認知症学会誌(第40回日本認知症学会学術集会プログラム・抄録集)35(4)133. 2021年11月25-28日

<雑誌論文>

1. 神林崇, 今西彩, 大森佑貴, 富永杜絵, 千葉滋, 吉沢和久, 入鹿山容子, 小野太輔, 筒井幸, 石戸秀明, 韓庫銀, 木村昌由美, 近藤英明 【日常精神医療で遭遇する対処困難な過眠の見立てと対応】中枢性と症候性過眠症 症候性ナルコレプシーと過眠症をきたす疾患について, 精神神経学雑誌 123巻7号 405-416, 2021
2. Aya Imanishi, Yuki Omori, Hideaki Ishido, Yohei Sagawa, GoEun Han, Kazuo Mishima, Takashi Kanbayashi, Hideaki Kondo Aripiprazole as a new treatment for the prolonged nocturnal sleep of patient with idiopathic hypersomnia, Psychiatry Clin Neurosci 75(10) 320-322, 2021
3. Masahiro Takeshima, Hiroyasu Ishikawa, Masaya Ogasawara, Munehiro Komatsu, Dai Fujiwara, Yu Itoh, Yuki Wada, Yuki Omori, Hidenobu Ohta, Kazuo Mishima The Usefulness of the Combination of D-Dimer and Soluble Fibrin Monomer Complex for Diagnosis of Venous Thromboembolism in Psychiatric Practice: A Prospective Study, Vasc Health Risk Manag 17 239-246, 2021
4. 今村陽子 (2021) 認知症高齢者を介護する家族への支援 介護者の主体性に注目して 精神医学 64 巻 4 号 399-406
5. Ito K, Ogisawa F, Furuta K, Awata S, Toba K. (2021) Development of a five-item short-form version of the Dementia Behavior Disturbance Scale. *Geriatr Gerontol Int.* 21(9):870-871. doi: 10.1111/ggi.14234. Epub 2021 Jul 14.
6. 黒川由紀子・東畑開人・扇澤史子 (2022) 老年期心理臨床の現場と課題——今、これから 老年臨床心理学雑誌, 3, 78-86.
7. 宮前史子, 扇澤史子, 今村陽子, 畠山啓, 齋藤久美子, 岡本一枝, 白取絹恵, 古田光, 栗田主一 2022 離島の独居認知症高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための支援とは 認知症支援関係者からみた地域生活継続の促進要因と阻害要因 日本認知症ケア学会誌 20(4)532-544.
8. 扇澤史子 (2021) 医療 属人的で断片的な情報をどうつなぐか? チーム医療における情報共有. 臨床心理学21(1), 37-43.
9. 扇澤史子 (2021) 新型コロナウイルス感染症流行下における認知症高齢者への支援と支援者支援. 老年精神医学雑誌32(9), pp. 924-930.
10. 扇澤史子 (2021) 変わりゆく本人の傍らで——高齢者・認知症 臨床心理学21 (6) 667-672.
11. 田所正典・扇澤史子 (2022) 心に寄り添う多様な高齢者臨床: シンポジウムを終えて 老年臨床心理学雑誌, 3, 73-76.

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 畠山啓：専門的知識獲得のための関係者向け研修DASC研修 3月11日
2. 畠山啓：墨田区DASC研修 3月18日
3. 齋藤久美子：豊島区DASC研修 6月25日
4. 齋藤久美子：日本臨床心理士会 第19回 高齢者支援研修会 認知症の初期から終末期まで変わりゆく心理アセスメントと支援のあり方について学ぶ 7月10日
5. 扇澤史子 2021 高齢者支援としての心理臨床の実践——第12講：生活の場から認知症をアセスメントする 川西智也，扇澤史子，桑田直弥，山下真理，小海宏之，若松直樹 2021 日本心理臨床学会第40回大会プログラム2021年9月3日-26日Web大会
6. 扇澤史子 2021年12月中公開 日本老年精神医学会 第7回心理士講習会 認知症とともに生きる人への心理臨床的支援：変わりゆく経過とともに オンデマンド配信
7. 今村陽子 2022年3月中公開 「認知症初期の人の家族に対する支援」 日本精神医学会 第8心理士講習会 オンデマンド配信
8. 古田光：認知症の人の理解と対応 令和3年度認知症介護実践者研修,オンライン
9. 古田光：コロナ禍での認知症診療 MSD研究会 6月8日 オンライン
10. 古田光 板橋区DASC研修 板橋区 3月18日 オンライン

<書籍>

1. 扇澤史子 (2022) 8支援の実際⑤：認知症高齢者 小林真理子 保険医療心理学特論：保険医療分野に関する理論と支援の展開 般財団法人放送大学教育振興会 126-142.
2. 扇澤史子 (2021) 高齢者②心理職の視点から (1. 高齢者領域で実践されている心理支援の内容と特徴、2. 高齢者支援領域における行政・司法との連携について、3. 高齢者支援領域において公認心理師に求められる役割) 公認心理師への関係行政論ガイド 下山晴彦，岡田裕子，和田仁孝編 pp. 112-116. 北大路書房.
3. 扇澤史子 (2021) 保険制度 ②心理職の視点から (1. 社会保障領域で実践されている心理支援の内容と特徴 2. 介護サービス利用における他の専門職との連携および制度の知識の活用について) 公認心理師への関係行政論ガイド 下山晴彦，岡田裕子，和田仁孝編 pp. 129-131. 北大路書房.

外科

研究活動は概ね低調な年度となってしまった。その中でも、若手医師による症例報告を行った。

<単行書・報告書>

1. 金澤 伸郎：高齢者の消化管穿孔による腹膜炎に対する手術と周術期の工夫. 実践！高齢者に対する消化器外科のminimal requirements, 株式会社メジカルビュー社, 東京, pp147-153, 2022.

<学会・研究会発表>

1. 大森春佑、中里徹矢、深沢智將、磯野優花、本多五奉、羽鳥清華、松川美保、三井秀雄、小松明子、井下尚子、新井富生、金澤伸郎. 十二指腸乳頭部 Mixed neuroendocrine non-endocrine neoplasm (MiNEN) の一切除例. 第862回外科集談会 12. 18. 2021
2. 深沢智將、中里徹矢、磯野優花、大森春佑、本多五奉、三井秀雄、金澤伸郎、小林寿美子、久保起与子、井下尚子. 後天性血友病Aを合併したS状結腸癌の1例. 第863回外科集談会 3. 12. 2022

血管外科

<学会・研究会発表>

1. Matsubara K, Fukuhara N, Hoshina K, Miyahara K, Suhara M, Taniguchi R, Matsukura M, Takayama T. Specific Features of Patients Under 40 Years Old With Small-to-Medium-Sized Arterial Deterioration. Front Surg. 24;9:808383. 2022
2. Hanada K, Hoshina K, Tsuyuki S, Miyahara K, Suhara M, Matsukura M, Isaji T, Takayama T. Ten-Hour Simulation Training Improved the Suturing Performance of Medical Students. Ann Vasc Surg. 5:S0890-5096(21)01054-2. 2022
3. Hanada K, Hoshina K, Suhara M, Taniguchi R, Matsukura M, Takayama T. Sac enlargement due to perigraft seroma and back-bleeding from the remnant wall 11 years after open surgical repair of an infected abdominal aortic aneurysm. Surg Cases Innov Tech. 8:8(2):136-139. 2022
4. 松倉 満
「Paclitaxel Controversy ～米国のエビデンスから～」
第49回日本血管外科学会総会 愛知 2021年5月19日
5. 松倉 満、高山利夫、須原正光、谷口良輔、保科克行
「Type III エンドリーク？ 画像に翻弄された一例」
第24回大動脈ステントグラフト研究会 奈良 2021年11月6日

心臓血管外科

<雑誌論文>

1. Sugie M, Harada H, Takahashi T, Nara M, Fujimoto H, Kyo S, Ito H : Peak oxygen uptake correlates with indices of sarcopenia, frailty, and cachexia in older Japanese outpatients. JCSM Rapid Communications (SCWD). Open Access First published: 24 June 2021
<<https://doi.org/10.1002/rco2.45>>
2. 千葉 由美, 山田 律子, 市村 久美子, 古田 愛子, 椎橋 依子, 中島 聖子, 戸原 玄, 山脇 正永, 石田 瞭, 唐帆 健浩, 植田 耕一郎, 平野 浩彦, 許 俊鋭 : 看護実践における「高齢者の胃ろう離脱のためのケアプロトコルの構成項目」の信頼性と妥当性の検証. 日摂食嚥下リハ会誌 2021;25:190-207
3. 牧田 茂(班長), 安 隆則(副班長), 班員31名、協力員36名、外部評価委員6名(許 俊鋭他5名): 2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関する ガイドライン. < https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Makita.pdf>
4. 小野稔(班長)、山口修(副班長), 班員11名、協力員22名、外部評価委員5名(許 俊鋭、他4名): 2021年改訂版 重症心不全に対する植込型補助人工心臓治療ガイドライン.< https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Ono_Yamaguchi.pdf>
5. Ono M, Yamaguchi O, Ohtani T, Kinugawa K, Saiki Y, Sawa Y, Shiose A, Tsutsui H, Fukushima N, Matsumiya G, Yanase M, Yamazaki K, Yamamoto K, Akiyama M, Imamura T, Iwasaki K, Endo M, Ohnishi Y, Okumura T, Kashiwa K, Kinoshita O, Kubota K, Seguchi O, Toda K, Nishioka H, Nishinaka T, Nishimura T, Hashimoto T, Hatano M, Higashi H, Higo T, Fujino T, Hori Y, Miyoshi T, Yamanaka M, Ohno T, Kimura T, Kyo S, Sakata Y, Nakatani T; JCS/JSCVS/JATS/JSVS Joint Working Group: JCS/JSCVS/JATS/JSVS 2021 Guideline on Implantable Left Ventricular Assist Device for Patients With Advanced Heart Failure. Circulation Journal. 2022;86:1024-1058
6. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許 俊鋭: 重点病院2施設で対応不可能であったA型急性大動脈解離, 心タンポナーデ, ショック状態に対して支援病院として救命できた1例. ICU とCCU 2021;45:S57-S60
7. Date K, Murata T, Mano A, Kawata M, Kyo S. Perforation of the right atrial appendage during implantation of a leadless pacemaker. J Arrhythm. Dec 29;38(1):163-165. 2021
8. Mano A, Nishimura T, Ishii M, Murata T, Kawata M, Kyo S. Usefulness of hybrid veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation for lung ischemia-reperfusion injury after biventricular assist device implantation. J Artif Organs. Jan 21.2022. doi:10.1007/s10047-022-01310
9. Yamasaki M, Yoshino H, Kuniyama T, Akutsu K, Shimokawa T, Ogino H, Kawata M, Takahashi T, Usui M, Watanabe K, Masuhara H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M. Risk analysis for early mortality in emergency acute type A aortic dissection surgery: experience of Tokyo Acute Aortic Super-network. Eur J Cardiothorac Surg. Oct 22;60(4):957-964. 2021.

<学会・研究会>

1. 許 俊鋭: 基調講演「医療と病院の安全を守るインフォームド・コンセント」. 日本医療安全学会学術総会抄録集 7回 Page108-109(2021.05)
2. 許 俊鋭, 鳥羽 研二, 安樂 真樹: 新型コロナウイルス感染流行の現況と高齢者が注意すべきこと. 老年学・老年医学公開講座 158回 Page3-19(2021.09)
3. 伊達 数馬, 村田 知洋, 眞野 暁子, 河田 光弘, 許 俊鋭: 日本発の人工臓器療法:Moving Forwardを目指した最新のエビデンスと将来展望 心大血管手術周術期における人工臓器使用の限界. 人工臓器(0300-0818)50巻2号 Page S-49(2021.10)
4. 伊達 数馬, 村田 知洋, 吉岡 孝房, 小金丸 博, 眞野 暁子, 小松 響子, 河田 光弘, 安樂 真樹, 許 俊鋭: ECMO治療を要する重症COVID-19肺炎に対して抗凝固療法はどう行うべきか. 日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)28巻 Suppl. 2 Page382(2021.09)
5. 伊達 数馬(東京都健康長寿医療センター 心臓血管外科), 村田 知洋, 眞野 暁子, 河田 光弘, 許 俊鋭: 弓部 debranch TEVARでのシャントチューブの使用経験. 日本血管外科学会雑誌(0918-6778)30巻 Suppl. Page 022-4(2021.)

6. 金丸 晶子, 加藤 貴行, 齊藤 陽子, 羽根田 千恵, 河田 光弘, 村田 哲平, 武田 和大, 原田 和昌, 許俊鋭: 大動脈弁疾患に対する侵襲的治療の入院期間を規定する要因. 日本老年医学会雑誌(0300-9173)58巻 Suppl. Page155(2021.05)
7. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許俊鋭. 心機能低下を合併した重症大動脈弁狭窄症に対して外科的大動脈弁置換術を施行した超高齢者の1例. 第25回日本心不全学会学術集会 2021年10月1日 Web開催
8. 伊達数馬, 村田知洋, 眞野暁子, 河田光弘, 許俊鋭. 心大血管手術の周術期に人工臓器を有効利用するための現状と課題. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会 2021年11月3日 現地開催+ライブ配信+オンデマンド配信 グランドプリンスホテル新高輪
9. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許俊鋭. 急性A型解離に対する上行大動脈置換術後、慢性期に全弓部置換術+オープンステントグラフト(OSG)術後、OSG遠位端に発生したSINEに対してTEVAR施行し段階的に偽腔退縮が得られた1例. 第24回大動脈ステントグラフト研究会 2021年11月6日 ハイブリッド形式 奈良春日野国際フォーラム 薨
10. 村田知洋, 眞野暁子, 乾明敏, 河田光弘, 許俊鋭. 植込み型左心補助人工心臓装着後、右心不全管理に難渋した症例. 第27回日本臨床補助人工心臓研究会学術集会 2021年11月25日 ヒルトン東京ベイ
11. 河田光弘, 磯野優花, 村田知洋, 眞野暁子, 乾明敏, 許俊鋭. 意識消失、右共同偏視、左片麻痺で脳卒中A対応にて搬送されたA型急性大動脈解離、severe AR、慢性B型解離に対して新型コロナ禍の救急対応を行い救命出来た1例. 第41回 東京CCU研究会 2021年12月4日 日本橋スタジオ901 Web開催
12. 山崎学, 吉野秀朗, 國原孝, 坪宏一, 下川智樹, 萩野均, 河田光弘, 高橋寿由樹, 薄井宙男, 渡辺和宏, 益原大志, 山本剛, 長尾健, 高山守正. 急性Stanford A型大動脈解離に対する術後早期死亡のリスク因子の解析: 東京スーパー大動脈ネットワーク 「Risk analysis for early mortality in emergency acute type A aortic dissection surgery: experience of Tokyo Acute Aortic Super-network」 European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 2021;60:957-964. 第41回 東京CCU研究会 2021年12月4日 日本橋スタジオ901 Web開催
13. 薄井宙男, 吉野秀朗, 坪宏一, 國原孝, 下川智樹, 萩野均, 高橋寿由樹, 渡辺和宏, 山崎学, 今水流智浩, 益原大志, 渡邊善則, 萩谷健一, 河田光弘, 山本剛, 長尾健, 高山守正. 偽腔開存型A型急性大動脈解離の予後に対する患者転送の影響. 第41回 東京CCU研究会 2021年12月4日 日本橋スタジオ901 Web開催
14. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 伊達数馬, 許俊鋭. 東京都健康長寿医療センターにおけるTAVIの現状 Current status of TAVI in Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology. 第52回日本心臓血管外科学会学術総会 2022年3月3日-5日 パシフィコ横浜
15. 眞野暁子, 村田哲平, 小松俊介, 村田知洋, 伊達数馬, 河田光弘, 石川譲治, 原田和昌, 許俊鋭. ECPellaからImpellaに移行し効率的に治療、救命し得た劇症型心筋炎の一例. 第49回日本集中治療医学会学術集会 2022年3月18日-20日 仙台国際センター 完全Web開催
16. 眞野暁子, 村田知洋, 伊達数馬, 河田光弘, 許俊鋭. 極めて急速な経過をたどった緑膿菌敗血症の一例. 第49回日本集中治療医学会学術集会 2022年3月18日-20日 仙台国際センター 完全Web開催
17. Mitsuhiro Kawata, Tomohiro Murata, Akiko Mano, Akitoshi Inui, Shunei Kyo. Successful ascending aorta replacement using intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for acute aortic dissection type A coexistent brain infarction. 30th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS2022), March 24-27, 2022 Nara, Japan.

<総説>

1. 許俊鋭: 心臓移植・人工心臓とともに歩んだ心臓外科医人生. 鉄門だより. 2021;794:2
2. 許俊鋭: 追悼高久文麿先生. 集中 2022;5(MAY):36
3. 許俊鋭: 北島先生を偲んで. コモンズ会誌(Commons Journal) 2021;1:4-5
4. 河田光弘. 第4章 循環器病学. 4 後天性心疾患. 分担執筆 臨床工学講座 臨床医学総論 第2版 第3刷 医歯薬出版株式会社 2022.1.10

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 許俊鋭: 重症心不全の心臓移植・補助人工心臓治療. AbioMed 社の歩み・Impella の日本導入の経緯. AbioMed Inc. 40周年記念講演会(2021,7,9, AbioMed Japan)
2. 許俊鋭: 医療事故予防のためのインフォームドコンセント. 医療安全認定臨床コミュニケーター陽性実習研修会(2021.8.19-20, ハイブリッド会議)

3. 許 俊鋭：病院管理者からみた院内医療安全活動の取り組み方の基本。 日本医療安全基礎講座 2021. 7. 7～9, インターネットライブ後援会)
4. 許 俊鋭：本邦における補助人工心臓治療-特に植込型 LVAD の実施施設・実施医基準について-。第 26 回東大・東京女子医大 VAD 研修コース(2021. 5. 30、東大+Web)
5. 許 俊鋭：重症心不全の外科治療:本邦における補助人工心臓 Destination Therapy と心臓移植。第 28 回山形周術期病態研究会特別講演(2021, 10. 2、山形国際ホテル)
6. 許 俊鋭：本邦における補助人工心臓治療-特に植込型 LVAD の実施施設・実施医基準について-。第 27 回東大・東京女子医大 VAD 研修コース(2021. 12. 18、東京女子医大+Web)
7. 許 俊鋭：重症心不全の外科治療：本邦における心臓移植・補助人工心臓治療の現状と将来展望。第 44 回東京電機大学 ME 公開講座(2021. 12. 7、WEB 開催)
8. 許 俊鋭：ヒューマンファクターズの視点からみた医療安全の推進方法 医療機器の安全性に関する問題点。医療安全教育セミナー(実践編)(2022. 2. 16～18, WEB 講演会)
9. 許 俊鋭 医療価値評価. 4(2)事例 2 (医療技術：埋込デバイス等)。医療価値評価の胎動プログラム 2021 年度(2022, 2, 18, 東大病院)
10. 許 俊鋭：重大院内医療事故調査のスマートな進め方はどうあるべきか-病院長の立場から-。医療事故調査教育セミナー2022 (オンライン講演、2022. 1. 20)
11. 河田光弘、村田哲平。「低侵襲治療 TAVI の実際」「TAVI 治療～最新のエビデンス～」。心臓弁膜症治療講演会～高齢者に対する TAVI の実際と治療ガイドライン～。東京都健康長寿医療センター エドワーズライフサイエンス(株)共催 Web 講演会。2022 年 3 月 29 日

<単行本・報告書>

<座長>

1. 河田光弘、茂木健司。オンデマンド口演 心臓 11 B 型解離。第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会 2021 年 10 月 31 日 オンデマンド配信 グランドプリンスホテル新高輪

<ディスカッサント>

1. 河田光弘、小宮山 伸之。座長：大門 雅夫、福 康志。一般口演 9 弁膜症 2。第 25 回日本心不全学会学術集会 2021 年 10 月 1 日 Web 開催

<その他>

2021 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）に『急性大動脈解離での肺酸素化障害抑制に向けた水素ガス吸入療法の検討』で 2021/4/1 時点で採択された。

院内の認定臨床研究審査委員会で承認を得た（整理番号 H20-03）『急性大動脈解離 Stanford B 型患者に起こる肺酸素化障害に対する水素ガス吸入の安全性試験』を開始した。

10 施設での治験『冠動脈バイパス手術（CABG）を施行する虚血性心疾患に伴う重症心不全患者に対するヒト（同種）iPS 細胞由来心筋球（HS-001）の第 I / II 相試験』を治験審査委員会で承認を得て（整理番号 T20-08）、適応患者さんを募集している。

脳神経外科

学会研究活動は、脳血管障害、脳腫瘍、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などに関するテーマについて、臨床的および基礎的な検討を行っている。脳神経外科学会総会・コンgres・地方会、日本脳神経血管内治療学会、老年脳神経外科学会、老年病学会、板橋区医師会、などで活動している。

2015年から参画していたNCDの脳神経外科手術全症例登録事業は、脳神経外科学会主導で発展的に拡張され、2018年1月1日からの、Japan Neurosurgical Database (JND) 研究事業に移行、センター脳神経外科で入院治療を行った全症例登録を行っている。

2019年1月からは、国立循環器病センターが事務局として運営している「日本脳卒中データバンク」事業に参画している。脳卒中入院の全症例登録を行なっている。事務局からは毎年、全国施設データと当センターデータとを比較した解析結果が提供されており、当センターの脳卒中診療の質を高めることに寄与している。

呼吸器外科

<雑誌論文>

1. 渡部 和玄, 吉岡 孝房, 安樂 真樹: 胸腔鏡下左肺上葉切除術後に多臓器血栓塞栓症をきたした 1 例. 日呼外会誌 (35)7:763-767, 2021.
2. Nobori Y, Sato M, Morota M, Shinohara Y, Yoshida D, Karasaki T, Kitano K, Nakajima J, Lung autotransplantation for bronchial necrosis after radiotherapy: a case report Surg Case Rep. 2021 Apr 1;7(1):79.
3. Nobori Y, Sato M, Hirata Y, Yamauchi H, Konoeda C, Kitano K, Nakajima J. Intrabronchial migration of hemostatic agent through a bronchial fistula after lung transplantation: a case report. Surg Case Rep. 2021 May 10;7(1):116.
4. Sun C, Anraku M, Kawahara T, Karasaki T, Kitano K, Nagayama K, Sato M, Nakajima J. Respiratory strength and pectoralis muscle mass as measures of sarcopenia: Relation to outcomes in resected non-small cell lung cancer. J Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Mar;163(3):779-787.e2.
5. Sun C, Anraku M, Kawahara T, Karasaki T, Konoeda C, Kitano K, Sato M, Nakajima J. Combination of Skeletal Muscle Mass and Density Predicts Postoperative Complications and Survival of Patients With Non-Small Cell Lung Cancer. Ann Surg Oncol. 2022 Mar;29(3):1816-1824.

<総説>

1. 登 祐哉, 安樂 真樹: 間質性肺疾患における肺移植の現状と今後の展望. BIO Clinica (36)11:1071-1075, 2021.
2. 登 祐哉, 安樂 真樹: 長期耐久型膜型人工肺の開発とその展望. 循環器内科(90)2:207-212, 2021.
3. 登 祐哉, 安樂 真樹: ECMO の進歩. 内科(129)3:459-463, 2022.

<学会活動・研究会発表・講師等院外活動>

1. 吉岡 孝房, 孫 長博, 中島 淳, 安樂 真樹. 高齢者肺癌術前 CT 画像における胸筋面積・CT 値と術後早期合併症の関連についての検討 第 38 回呼吸器外科学会 (オンライン, 長崎) 2021 年 5 月 20 日
2. 登 祐哉, 安樂 真樹, 原 伸太郎, 横井 涼, 小野 俊哉, 磯山 隆, 井下 尚子, 高井 まどか, 小野 稔, 中島 淳. 新規開発人工肺の耐久性と ECMO 装着形態の安全性の検討 第 57 回日本移植学会総会 (東京) 2021 年 9 月 20 日
3. 登 祐哉, 安樂 真樹, 周 雨奇, 肖 廷輝, 合田 圭介, 木下 修, 木村 光利, 小野 稔, 中島 淳. 左室補助人工心臓装着症例における循環微小血栓検出の有用性の検討 第 59 回日本人工臓器学会総会 2021 年 11 月 27 日 (東京)
4. 登 祐哉. 人工臓器使用患者における最適な抗血栓療法確立に向けた新規微小血栓検出方法の検討 東京大学臨床生命医工学連携研究機構寄付研究部門 次世代臨床医用計測技術研究ネットワーク拠点 第 2 回シンポジウム 2021 年 12 月 4 日 (オンライン, 東京)
5. Nobori Y, Anraku M, Hara S, Yokoi R, Ono T, Isoyama T, Takai M, Ono M, Nakajima J, Durability of a newly developed artificial lung tested in a setting of central ECMO. International Symposium - Right Heart Failure & Artificial Lung October 22nd 2021 (Online, Paris)
6. Nobori Y, Anraku M, Zhou Y, Zhang H, Xiao T, Goda K, Kinoshita O, Kimura M, Ono M, Nakajima J Detection of platelet-aggregates in patients with left ventricular assist device by an intelligent platelet aggregates classifier (iPAC): A pilot study. Serendipity Symposium 2021 co-located with Pacificchem December 21st 2021 (Online, Hawaii)

整形外科・脊椎外科

<雑誌論文>

1. Kensuke Yasue, Fumiaki Tokimura, Tsuyoshi Miyazaki. 18F-sodium fluoride positron emission tomography may help diagnose nondisplaced pre-prosthetic and pre-implant fracture *Clin Case Rep*. 2021 Sep; 9(9): e04846. Published online 2021 Sep 21. doi: 10.1002/ccr3.4846
PMCID: PMC8455965
2. Hikaru Sugimoto, Kensuke Yasue, Misako Hara, Shoichiro Takakuma, Wako Yumura, Tomio Arai, Kentaro Hayakawa, Fumiaki Tokimura, Tsuyoshi Miyazaki. Intraosseous epidermal cyst of the great toe that was difficult to distinguish from chronic osteomyelitis: A case report and literature review *Clin Case Rep*. 2021Apr; 9(4):1890-1895. DOI: 10.1002/ccr3.3814
3. Kaneko T, Horiuchi K, Chijimatsu R, Mori D, Nagata K, Omata Y, Yano F, Inui H, Moro T, Tanaka S, Saito T. Regulation of osteoarthritis development by ADAM17/Tace in articular cartilage. *J Bone Miner Metab*. 2022 Mar;40(2):196-207. doi: 10.1007/s00774-021-01278-3. Epub 2021 Nov 9. PMID: 34751824
4. Fumiko Saiki, Takeyuki Tanaka, Naohiro Tachibana, Hirofumi Oshima, Taizo Kaneko, Chiaki Horii, Hideki Nakamoto, So Kato, Toru Doi, Yoshitaka Matsubayashi, Yuki Taniguchi, Sakae Tanaka, Yasushi Oshima. Effect of Spinal Alignment Changes on Lower Back Pain in Patients Treated with Total Hip Arthroplasty for Hip Osteoarthritis *Medicina (Kaunas)*. 2021 Nov 9;57(11):1219. doi: 10.3390/medicina57111219.
5. Yutaka Kuroda, Takeyuki Tanaka, Takaki Miyagawa, Hidetoshi Hamada, Hiroyasu Abe, Toshiko Ito-Ihara, Ryuta Asada, Taizo Kaneko et al. Recombinant human FGF-2 for the treatment of early-stage osteonecrosis of the femoral head: TRION, a single-arm, multicenter, Phase II trial *Regen Med*. 2021 Jun;16(6):535-548. doi: 10.2217/rme-2021-0049. Epub 2021 Jun 2. PMID: 34075804
6. 長谷部 奨, 早川 謙太郎, 濱路 博, 時村 文秋, 宮崎 剛 「NaF PET で異常集積パターンを示した人工関節周囲感染の1例」 *関東整形災害外科学会雑誌*, 52(5), 221-226, 2021

<学会・研究会発表>

1. 永田 向生, 山田 浩司, 宮崎 剛, 時村 文秋, 田尻 康人, 佐藤 敏秀, 小山 卓摩, 山川 聖史, 松本 卓也, 岡 敬之, 田中 栄, 岡崎 裕司: 清潔整形外科手術における予防的抗菌薬投与期間について前向き比較試験(NOCOTA study)の最終報告: 日本整形外科学会雑誌(0021-5325)95 巻 2 号 Page S65
2. 山田 浩司, 岡崎 裕司, 田尻 康人, 時村 文秋, 山川 聖史, 松本 卓也, 荻田 達郎, 三上 容司, 金井 宏幸: 骨・関節感染症治療における話題(あるいはトピックス) 手術終了時正常体温($\geq 36^{\circ}\text{C}$)の重要性 術後 30 日以内死亡リスクとの関連 *関東整形災害外科学会雑誌(0389-7087)52 巻臨増号外 Page57*
3. 永田 向生, 山田 浩司, 山川 聖史, 穂積 高弘, 時村 文秋, 増田 和浩, 森田 友安, 平尾 雄二郎, 東川 晶郎: 清潔整形外科手術における予防的抗菌薬投与期間について前向き比較試験(NOCOTA study)のサブ解析・脊椎手術関連を中心に *Journal of Spine Research(1884-7137)12 巻 3 号 Page435*
4. 永田 向生, 山田 浩司, 宮崎 剛, 時村 文秋, 田尻 康人, 山川 聖史, 松本 卓也, 田中 栄, 岡崎 裕司: 整形外科の SSI 予防を再考する 予防的抗菌薬投与の最新知見 NOCOTA study から分かったこと *日本整形外科学会雑誌(0021-5325)95 巻 8 号 Page S1448*
5. 中山雄太, 岡本直樹, 田翔太, 岡崎廉太郎, 東成一: 術前診断が困難であった腰椎硬膜外背側脱出ヘルニアの1例 第28回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2021.9.3-4 京都国際会館
6. 中山雄太, 渡邊健一, 熊埜御堂雄大, 山口泰輝, 唐司寿一, 安部博昭, 東川晶郎: 胸椎化膿性脊椎炎に対する経椎弓根的ドレナージを併用した脊椎固定術の2例 第28回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2021.9.3-4 京都国際会館

<講師等院外活動(講演・放送・新聞等)>

特になし

皮膚科

<雑誌論文>

1. Tanei R, Hasegawa Y. Immunohistopathological Analysis of Immunoglobulin E-Positive Epidermal Dendritic Cells with House Dust Mite Antigens in Naturally Occurring Skin Lesions of Adult and Elderly Patients with Atopic Dermatitis. Dermatopathology 2021, 8, 426-441.
2. 種井良二. 高齢者の皮膚疾患-よくみる皮膚疾患を中心として-. 皮膚病診療 2021, 43: 976-995.

<単行書・報告書>

1. 種井良二: 皮膚掻痒症. 今日の治療指針 私はこう治療している 2022, 福井次矢、高木 真、小室一成 (編), 医学書院, 東京, pp1282-1283, 2022.

<学会・研究会発表>

1. 河邊 護、宮澤理恵子、種井良二: 後頭部に生じた Intravascular papillary endothelial hyperplasia の 1 例. 日本皮膚科学会第 897 回東京地方会. 東京, 7 月 17 日, 2021.
2. 種井良二: 病態からみた老人性紅皮症のサブタイプ. 第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 東京, 11 月 28 日, 2021.

眼科

沼賀は眼疾患及びその重症度とフレイルの関係。池上は糖尿病患者の網膜形態の変化について：OCT、OCTAを解析し、糖尿病病期と網膜脈絡膜厚、血管密度、無血管領域形態との関連を調べ、網膜症の病態を考察、糖尿病黄斑浮腫に対すレーザー網膜光凝固の効果の検討：治療の効果につき、OCT、OCTA、網膜感度計などにて解析、糖尿病黄斑浮腫における網膜感度と網膜形態の関係について、解析する。

網膜剥離の統計をとり、手術時期、裂孔形態位置、手術成績との関連を検索。寺田はATL発症高危険群の同定と発症予防法開発を目指す研究（JSPFAD）、南九州におけるぶどう膜炎の臨床統計、前房水Q値測定によるフックス虹彩異色性虹彩毛様体炎の診断。山本、福田、高尾は網膜硝子体疾患、ぶどう膜炎、加齢黄斑変性症の臨床研究。

<雑誌論文>

- Ikegami Y, Numaga J, Okano N, Fukuda S, Yamamoto H, Terada Y
Combined central retinal artery and vein occlusion shortly after mRNA-SARS-CoV-2 vaccination.
QJM. 2022 Jan 9;114(12):884-885. doi: 10.1093/qjmed/hcab287. PMID: 34791479
- Ikegami Y, Numaga J, Okano N, Fukuda S, Yamamoto H, Terada Y
Response to commentary by Au et al.
QJM. 2022 Jan 28;hcac012. doi: 10.1093/qjmed/hcac012. Online ahead of print. PMID: 35088865
- Wang Y, Toyama T, Hashimoto Y, Kawai H, Azuma K, Shiraya T, Kato S, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Numaga J, Obuchi S, Ueta T
ASSOCIATION OF PREDIABETES WITH RETINAL MICROVASCULATURE ON SWEPT-SOURCE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY ANGIOGRAPHY IN THE ELDERLY: OTASSHA Study.
Retina. 2022 Jun 1;42(6):1130-1136. doi: 10.1097/IAE.0000000000003416. PMID: 35067606
- Ikegami Y, Numaga J, Ue S, Sano T
Morphological alternation and influence of aqueous flare in idiopathic epiretinal membrane.
Int J Retina Vitreous. 2021 May 17;7(1):40. doi: 10.1186/s40942-021-00294-9. PMID: 34001276
- Ono T, Yukiko T, Mochizuki M, Miyata K, et al.
Long-term outcome in corneal endotheliitis with molecular detection of herpes simplex virus 1 and human herpes virus 6: a case report.
BMC Ophthalmology. 2022; 22(1): 48
- Ono T, Manabu Mochizuki, Japan VKH Disease Treatment Study Group.
Comparison of combination therapy of prednisolone and cyclosporine with corticosteroid pulse therapy in Vogt-Koyanagi-Harada disease.
Jpn J Ophthalmol. 2022;55(2):119-129. 原著（study group 名簿に Yukiko Terada 記載あり）
- 寺田裕紀子、沼賀二郎
特集／内科医が知っておくべき高齢者の感覚器障害「視覚障害と認知機能障害」
月刊「老年内科」2021: 4(2):180-183
- 三原現、山本裕樹、鷺尾紀章、井上賢治、天野史郎
アシナガバチによる角膜蜂刺症の1例
眼科 64 291-295 2022

<単行書・報告書>

- 寺田裕紀子
目の病気と治療ビジュアルBOOK 5章①サルコイドーシス、5章②フォークト・小柳・原田病、5章③ベーチェット病
眼科ケア 2021 年春季増刊 p126-147

2. 寺田裕紀子

患者さんのデータ&話から導け！点眼薬クイズ（第14回）ぶどう膜炎の点眼薬（解説）

眼科ケア. 2021; 23(12): 1165, 1242-1245

<学会・研究会発表>

1. 上田高志、王悠、外山琢、荒木章之、白矢智靖、加藤聡、沼賀二郎、河合恒、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一
高齢者における前糖尿病と網膜微細血管構造の変化：お達者健診コホート研究より
第75回日本臨床眼科学会（福岡）2021年10月28日
2. 松浦智之、中川美知子、宮澤理恵子、池上靖子、寺田裕紀子、山本裕樹、福田祥子、野田拓也、種井良二、沼賀二郎
難治性の上眼瞼腫脹に対して皮膚生検により肉芽腫性眼瞼炎と診断した1例
第75回日本臨床眼科学会（福岡）2021年10月28日
3. 池上靖子・白矢智靖・荒木章之・加藤聡
ナビゲーションレーザーシステムによる網膜毛細血管瘤凝固後の網膜感度を形態変化
第75回日本臨床眼科学会（福岡）2021年10月28日
4. 外山琢、王悠、白矢智靖、加藤聡、沼賀二郎、河合恒、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、原一成、憲経、大淵修一、上田高志
高齢者眼における糖尿病／前糖尿病による網膜内層の構造変化：お達者健診コホート研究より
第60回日本網膜硝子体学会（東京）2021年12月3日

<講師等院外活動（講演・放送等）>

1. 沼賀二郎：「第2回緑内障を考える会」（千寿製薬）
リモート開催 4月14日
2. 沼賀二郎：「レーザーフレアメーターを用いて、理想の周術期、抗炎症薬」
興和創薬（株）社内講演会 7月1日
3. 沼賀二郎：7回網膜疾患を考える会（参天製薬、バイル薬品）
リモート開催 9月15日
4. 沼賀二郎：症例に学ぶOCT研究会 Ver. AMD
リモート開催 11月17日
5. 沼賀二郎：眼科バイオシミラー硝子体注射液の使い分け（千寿製薬）
リモート開催 2月16日
6. 山本裕樹：ベオビュの処方経験 症例に学ぶOCT研究会 Ver. AMD
リモート開催 11月17日

耳鼻咽喉科

＜原著論文＞ なし

＜学会・研究会発表＞ なし

＜講演会＞ なし

＜研究助成金＞

1. 高橋正時：高齢期の聴覚障害が歩行機能と認知機能に及ぼす複合的影響の解明
文部科学省研究費補助金特定領域研究 分担研究者 研究課題/領域番号20H04115

歯科口腔外科

1 学会発表

(1) 海外

1. Ohara Y, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Eda Hiro A, Kawai H, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: the Otassha Study. European College of Gerodontology 2021. ベルン, 2021年4月9-10日, Online.
2. Motokawa K, Iwasaki M, Shirobe M, Hayakawa M, Eda Hiro A, Ohara Y, Inagaki H, Watanabe Y, Awata S, Shinkai S, Hirano H. Exploring the effects of oral frailty and malnutrition overlap on frailty in community-dwelling elderly: a 2-year longitudinal study. 2nd World Dysphagia Summit. Nagoya. 2021年8月20-22日.
3. Hirano H. The 3rd JSG-TAGD Summit of Gerodontology: International Dementia Symposium. Basics of Supporting the Oral Health of People with Dementia: Not a Reason to Refuse. Taipei, 2021年7月18日,
4. Hirano H. Symposium Oral Frailty: Trends in Oral Frailty and its Association with Healthy Longevity. The 7TH ASIAN CONFERENCE FOR FRAILTY AND SARCOPENIA, Soul, 2021年11月9-10日, Online.

(2) 国内

1. 小原由紀, 白部麻樹, 岩崎正則, 枝広あや子, 本川佳子, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦. 口腔乾燥感が身体的フレイルの発現に与える影響の検討—地域在住高齢者における5年間の縦断研究—. 第32回日本老年学会総会合同セッション. 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
2. 岩崎正則, 本川佳子, 渡邊裕, 白部麻樹, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 小原由紀, 平野浩彦, 新開省二, 栗田主一. 地域在住高齢者における居住状況と認知機能にみた栄養状態と体組成. 第63回日本老年医学会学術集会2021. 6. 11-27. ウェブ開催
3. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦, 上田貴之. 口腔機能低下症とサルコペニアの関連の検討: お達者健診研究. 第32回日本老年学会総会合同セッション. 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
4. 目黒郁美, 小原由紀, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 岩崎正則, 五十嵐憲太郎, 伊藤誠康, 渡邊裕, 河相安彦, 平野浩彦. 要介護高齢者における義歯不使用に関する因子の検討. 第32回日本老年歯科医学会 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
5. 高橋知佳, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 本橋佳子, 本川佳子, 渡邊裕, 平野浩彦. 地域在住高齢者における舌圧低下に関連する要因の検討: 2年間の縦断研究. 第32回日本老年歯科医学会 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
6. 松原ちあき, 白部麻樹, 古屋純一, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 小原由紀, 岩崎正則, 大淵修一, 平野浩彦, 水口俊介. 高齢者における唾液検査装置に関する調査—口腔内の検査項目と多項目唾液検査結果の比較—. 第32回日本老年歯科医学会2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
7. 平野浩彦 (座長)、シンポジウム 5: 認知症の人の口を支えるために、第32回日本老年歯科医学会 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
8. 平野浩彦 (座長)、シンポジウム 7: 地域歯科医療シンポジウム: 「COVID-19 で語ろう〜どう高齢者を支えるのか〜、第32回日本老年歯科医学会2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
9. 平野浩彦 (座長)、合同シンポジウム6 AI は超高齢社会を救うか、第32回日本老年学会、2021. 6. 11-12. ウェブ開催.
10. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 日本人高齢者における全身の骨格筋量、咬筋量、口腔機能、歯の状態の関連. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
11. 五十嵐憲太郎, 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊裕, 伊藤誠康, 河相安彦, 平野浩彦. 地域在住高齢者の口腔機能低下症の有病率と評価項目間の関連性の検討: お達者健診研究. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
12. 釘宮嘉浩, 五十嵐憲太郎, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 上田貴之, 平野浩彦. サルコペニアと関連する口腔機能低下症の下位症状の検討: お達者健診研究. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
13. 戸田花奈子, 小原由紀, 松原ちあき, 森下志穂, 品田佳世子, 平野浩彦. 居宅療養管理指導において歯科衛生士に求められる役割に関する質的検討. 日本歯科衛生学会第16回学術大会. 2021. 9. 18-30. ウェブ開催.
14. 宮島沙紀, 小原由紀, 戸田花奈子, 秋野憲一, 平野浩彦, 武井典子. 通いの場における都道府県歯科衛生士会の参画状況. 日本歯科衛生学会第16回学術大会. 2021. 9. 18-30. ウェブ開催.
15. 平野浩彦 (座長): スポンサーシンポジウム5 オーラルフレイルへの対応の視点—ポピュレーションアプローチから医療対応まで—、第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.

16. 小原由紀, 松原ちあき, 高橋知佳, 岩崎正則, 平野浩彦. 腸内細菌叢に関連する口腔機能関連指標の探索—20~40代を対象とした予備的検討—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
17. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 上田貴之, 平野浩彦. サルコペニアが口腔機能に与える影響の縦断的検討: お達者健診研究. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
18. 金憲経, 小島成実, 大須賀洋祐, 笹井浩行, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 平野浩彦. 地域在住高齢女性における尿失禁を伴う身体的フレイルの特徴—お達者健診研究—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
19. 上田由美子, 小島成実, 大須賀洋祐, 笹井浩行, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 平野浩彦, 金憲経. 地域在住高齢女性におけるフレイル・サルコペニア診断項目と認知機能低下との関連について—お達者健診研究—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
20. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 咬筋量は全身の骨格筋量および口腔機能と関連するか: 日本人地域在住高齢者を対象とした横断研究. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
21. 白部麻樹, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 枝広あや子, 渡邊裕, 井原一成, 金憲経, 大淵修一, 藤原佳典, 平野浩彦. 通いの場に参加している地域在住高齢者の口腔機能に関する検討. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
22. 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 小原由紀, 森下志穂, 本橋佳子, 岩崎正則, 渡邊裕, 平野浩彦. 認知症重症度に注目したアルツハイマー型認知症高齢者の口腔衛生管理の課題に関する検討. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
23. 小原由紀, 枝広あや子, 岩崎正則, 本川佳子, 稲垣宏樹, 横山友里, 栗田主一, 北村明彦, 新開省二, 平野浩彦. 地域在住高齢者における「かかりつけ歯科医」の有無とフレイルとの関連についての検討. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
24. 江尻愛美, 河合恒, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊裕, 平野浩彦, 金憲経, 大淵修一. 独居高齢者における社会的孤立の修正可能な関連要因の特徴—お達者健診研究—. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
25. 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金憲経, 大淵修一. 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
26. 大淵修一, 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 平野浩彦. バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係—お達者健診研究—. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
27. 平野浩彦, シンポジウム5 神奈川県におけるオーラルフレイル対策の取り組み: 開業歯科医師がどう取り組むか今さら聞けないオーラルフレイルのコンセプト, 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 23-25. ウェブ開催.
28. 平野浩彦, 講演8, 認知症の人の口を支える視点: ガイドラインからの提言, 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 23-25. ウェブ開催.
29. 平野浩彦, 高齢期の食を支える視点: オーラルフレイル第16回ファンクショナルフード学会研修会, 2021. 9. 4. ウェブ開催.
30. 河合 絢, 森美由紀, 清水 梓, 別府大嘉繁, 齊藤美香, 大鶴 洋, 織田真琴, 相田順子, 平野浩彦. 上顎歯肉の腫脹を契機に発見され、急速な致死性の転帰をたどったメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の一例. 第32回日本老年歯科学会 (6月11~13日, web開催)
31. 森美由紀, 齊藤美香, 清水 梓, 大鶴 洋, 平野浩彦. 抜歯後出血を契機に腹部大動脈瘤の増悪が発見された1例. 第66回日本口腔外科学会総会・学術大会 (11月12日~14日, ハイブリッド開催)
32. 齊藤美香, 五十嵐麻奈三, 赤川順子, 小倉和外, 織田真琴, 新井富生. 同種末梢血幹細胞移植後、頬粘膜に扁平苔癬様変化を生じた1例. 日本がん口腔支持療法学会第7回学術大会 (12月4~5日, web開催)
33. 赤川順子, 齊藤美香, 五十嵐麻奈三, 市川果歩, 久能美香, 齊藤 輔, 小倉和外, 小林寿美子, 宮腰重三郎. 高齢移植患者の長期フォローアップにおける口腔症状の推移. 日本がん口腔支持療法学会第7回学術大会 (12月4~5日, web開催)

2 誌上発表

(1) 原著

1. Meguro A, ★Ohara Y, Edahiro A, Shirobe M, Iwasaki M, Igarashi K, Motokawa K, Ito M, Watanabe Y, Kawai H, Hirano H. Factors associated with denture non-use in older adults requiring long-term care. Arch Gerontol Geriatr. 95, 2021, 104412. (査読あり) (IF:3.250)
2. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Hirano H. Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: Evidence from the Otassha study. Gerodontology. doi: 10.1111/ger.12580. (in press), (査読あり) (IF:2.980)

3. Meguro A, Ohara Y, Edahiro A, Shirobe M, Iwasaki M, Igarashi K, Motokawa K, Ito M, Watanabe Y, Kawai Y, Hirano H. Denture wearing is associated with nutritional status among older adults requiring long-term care: a cross-sectional study. *J Dent Sci.* (in press) (査読あり) (IF:2.08)
4. Iwasaki M, Hirano H, Motokawa M, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Murayama H, Fujiwara Y, Ihara K, Shinkai S, Kitamura A. Interrelationships among whole-body skeletal muscle mass, masseter muscle mass, oral function, and dentition status in older Japanese adults. *BMC Geriatrics.* 20;21(1):582., 2021 (査読あり) (IF: 3.921)
5. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Hayakawa M, Mikami Y, Shirobe M, Inagaki H, Edahiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Nutritional status and body composition in cognitively impaired older persons living alone: The Takashimadaira study. *PLoS One.* 2021 Nov 23;16(11):e0260412. (原著・査読あり) (IF: 3.240)
6. Ohara Y, Kawai H, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Edahiro A, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: The Otassha Study. *Gerodontology.* 2021 Nov 11. doi: 10.1111/ger.12605. (原著・査読あり) (IF: 2.980)
7. Kugimiya Y, Watanabe Y, Shirobe M, Motohashi Y, Motokawa K, Edahiro A, Ohara Y, Ryu M, Igarashi K, Hoshino D, Nakajima J, Ueda T, Taniguchi Y, Ogawa T, Maekawa K, Tamaki K, Kuboki T, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. A comparison of colorimetric and visual methods for the assessment of masticatory performance with color-changeable chewing gum in older persons. *J Dent Sci.* 2021 16:380-388. (査読あり) (IF:2.08)
8. Tanaka T, Hirano H, Ohara Y, Nishimoto M, Iijima K. Oral Frailty Index-8 in the risk assessment of new-onset oral frailty and functional disability among community-dwelling older adults. *Arch Gerontol Geriatr.* 94, May-June 2021, 104340 (査読あり) (IF:3.250)
9. Kugimiya Y, Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Edahiro A, Shirobe M, Watanabe Y, Obuchi S, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Ueda T, Hirano H. Relationship between Oral Hypofunction and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. *Int J Environ Res Public Health.* 2021; 18(12):6666. (査読あり) (IF: 3.390)
10. Shirobe M, Hidaka R, Hirano H, Ohara Y, Endo K, Watanabe Y, Hakuta C. The effectiveness of a desensitization technique for mitigating oral and facial tactile hypersensitivity in institutionalized older persons: A randomized controlled trial. *J Dent Sci.* 16;987-993. (査読あり) (IF:2.08)
11. Sunakawa S, Tsugayasu H, Watanabe Y, Matsushima T, Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Ito K, Nakajima J, Iwasa Y, Itoda M, Sasaki R, Nishi Y, Furuya J, Watanabe Y, Ishiguro Y, Hirano H, Sato Y, Yoshida M, Yamazaki Y. Relationship between weight loss and regular dental management of older adults residing in long-term care facilities: A one-year multicenter longitudinal study. *European Geriatric Medicine.* (in press) (査読あり) (IF: 1.710)
12. Endo A, Watanabe Y, Matsushima T, Okada K, Ohara Y, Iwasaki M, Ito K, Nakajima J, Iwasa Y, Itoda M, Sasaki R, Nishi Y, Furuya J, Watanabe Y, Umemoto G, Kishima M, Hirano H, Sato Y, Yoshida M, Yamazaki Y. Association between weight loss and food form in older individuals residing in long-term care facilities: 1-year multicenter longitudinal study. *Int J Environ Res Public Health.* (in press) (査読あり) (IF: 3.390)
13. Shirobe M, Watanabe Y, Tanaka T, Hirano H, Kikutani T, Nakajo K, Sato T, Furuya J, Minakuchi S, Iijima K. Effect of an Oral Frailty Measures Program on Community-Dwelling Elderly People: A Cluster-Randomized Controlled Trial. *Gerontology.* 2021 Jul 9:1-10. (査読あり) (IF: 5.140)
14. Kobayashi M, Ito M, Iwasa Y, Motohashi Y, Edahiro A, Shirobe M, Hirano H, Gineste Y, Honda M. The effect of multimodal comprehensive care methodology training on oral health care professionals' empathy for patients with dementia. *BMC Med Educ.* 2021 Jun 3;21(1):315. (査読あり) (IF: 2.463)
15. Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y. Gait and Age-Related Hearing Loss Interactions on Global Cognition and Falls. *Laryngoscope.* (in press) (査読あり) (IF: 3.325)
16. Kera T, Kawai H, Ejiri M, Takahashi J, Nishida K, Harai A, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatr Gerontol Int.* 2021 21(11):1053-1059. (査読あり) (IF: 2.730)
17. Nishihara K, Kawai H, Kera T, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Comparisons of muscle thicknesses, echo intensities, and motor functions between community-dwelling older Japanese adults with and without diabetes. *Arch Gerontol Geriatr.* 2021 Nov-Dec;97:104516. (査読あり) (IF: 3.250)
18. Ejiri M, Kawai H, Kera T, Ihara K, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Obuchi S. Exercise as a coping strategy and its impact on the psychological well-being of Japanese community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Psychol Sport Exerc.* 2021 Nov;57:102054. (査読あり) (IF: 4.785)

19. Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chaves PHM, Hashizume M, Obuchi S. Higher Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor Levels Are Associated With a Lower Risk of Cognitive Decline: A 2-Year Follow Up Study in Community-Dwelling Older Adults. *Front Behav Neurosci*. 2021 Jun 22;15:641608. (査読あり) (IF: 3.558)
20. Kawai H, Obuchi S, Hirayama R, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Kobayashi Y, Mochimaru M, Tsushima E, Nakamura K. Intra-day variation in daily outdoor walking speed among community-dwelling older adults. *BMC Geriatr*. 2021 Jul 8;21(1):417. (査読あり) (IF: 3.921)
21. Takahashi J, Kawai H, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Ihara K, Ejiri M, Ishii K, Oka K, Obuchi S. Association between activity diversity and frailty among community-dwelling older Japanese: A cross-sectional study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2021 Jul-Aug;95:104377. (査読あり) (IF: 3.250)
22. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 大淵修一, 河合恒, 解良武士, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 五十嵐憲太郎, 星野大地, 平野浩彦. 地域在住高齢者における口腔機能低下有訴者の口腔機能 後期高齢者の質問票を構成する口腔機能関連項目を用いた検討. 日本老年医学会雑誌. 2021. 58(2) 245-254. (査読あり) (IF:N/A)
23. 釘宮嘉浩, 本川佳子, 山本かおり, 早川美知, 三上友里江, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 渡邊裕, 大淵修一, 河合恒, 解良武士, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 平野浩彦. 地域在住高齢者における口腔機能低下の有訴者率と栄養素等摂取量の関連 後期高齢者の質問票を構成する口腔機能関連項目を用いた検討. 日本老年医学会雑誌. 2021. 58(1) 91-100. (査読あり) (IF:N/A)
24. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Inagaki H, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. A 2-year longitudinal study of association between oral frailty and deteriorating nutritional status among community-dwelling older adults. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 18(1), 213, 2020 (原著・査読あり) (IF:3.390)
25. Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Kawai H, Eda Hiro A, Motokawa K, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H. Xerostomia as a key predictor of physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: a five-year prospective cohort study from The Otassha Study. *Arch Gerontol Geriatr*. In press, 2021 (査読あり) (IF:3.250)
26. Mikami Y, Motokawa K, Shirobe M, Eda Hiro A, Ohara Y, Iwasaki M, Hayakawa M, Watanabe Y, Inagaki H, Kim HK, Shinkai S, Awata S, Hirano H. Relationship between Eating Alone and Poor Appetite Using the Simplified Nutritional Appetite Questionnaire, *Nutrients*, 14(2), 337; <https://doi.org/10.3390/nu14020337>, 202 (原著・査読あり) (IF: 5.717)
27. Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Hayakawa M, Shirobe M, Eda Hiro A, Watanabe Y, Awata S, Okamura T, Inagaki H, Sakuma N, Obuchi S, Kawai H, Ejiri M, Ito K, Fujiwara Y, Kitamura A, Nofuji Y, Abe T, Iijima K, Tanaka T, Son BK, Shinkai S, Hirano H. Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants. *J Prosthodont Res*. 2022 Jan 27. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272.
28. Iwasaki M, Maeda I, Kokubo Y, Tanaka Y, Ueno T, Takahashi W, Watanabe Y, Hirano H. Capacitive-Type Pressure-Mapping Sensor for Measuring Bite Force. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Jan 24;19(3):1273. doi: 10.3390/ijerph19031273.
29. Kera T, Kawai H, Takahashi J, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Development of a screening formula for sarcopenia using ground reaction force during sit-to-stand motion. *Gait Posture*. 2022 Mar;93:177-182. doi: 10.1016/j.gaitpost.2022.02.001.
30. 平野浩彦, 佐藤裕二, 飯島勝矢, 小玉剛, 古屋純一, 上田貴之, 恒石美登里, 渡邊裕, 岩崎正則, 小原由紀, 枝広あや子. フレイルおよび認知症と口腔健康の関係に焦点化した人生100年時代を見据えた歯科治療指針作成に関する研究. 日本歯科医学誌. 2022;14:27-31 (原著)
31. 平野浩彦, 糸田昌隆, 梅本丈二, 枝広あや子, 木村年秀, 佐々木健, 佐藤保, 高田靖, 高橋一也, 畠山桂郎, 森田薫, 森田一彦, 山崎裕, 小原由紀. 日本老年歯科医学会全国版支部長会報告 新型コロナウイルス感染拡大後の地域高齢者歯科保健について 第一報. 老年歯学 35(4):E98-101. 2021.
32. 齊藤美香, 平野浩彦, 相田順子; 上唇の腺房細胞癌を契機に、全身検索時に腭癌が判明した同時性重複癌患者の1例. 日本老年医学会雑誌vol58 No2, P290-296.
33. 森美由紀, 河合 絢, 清水 梓, 齊藤美香, 大鶴 洋, 平野浩彦; 歯性上顎洞炎を契機に感染性心内膜炎を発症した認知症高齢者の1例. 老年歯科医学 第36巻第3号, P249~255.

(2) 総説

1. Iwasaki M, Hirano H, Ohara Y, Motokawa K. The association of oral function with dietary intake and nutritional status among older adults: Latest evidence from epidemiological studies. *Jpn Dent Sci Rev*. 2021; 57:128-137. (IF:5.250) (査読あり)
2. 平野浩彦, 渡邊 裕, 高齢期の口腔機能低下へのアプローチ オーラルフレイルの視点から、日本歯科医師会雑誌(0047-1763)74巻1付録 Page33-36(2021.04)
3. 平野浩彦, 健康長寿を支える オーラルフレイルと栄養からの考察、食と医療17巻 Page056-063(2021.04)
4. 平野浩彦, フレイル/サルコペニアの予防指導 オーラルフレイルを診る視点 歯科医師・歯科衛生士からの提言、WOC Nursing9巻7号 Page43-47(2021.07)
5. 平野浩彦, 健康長寿の延伸と老年歯科医学 オーラルフレイルの視点から、Geriatric Medicine(0387-1088)59巻8号 Page745-750(2021.08)

6. 平野浩彦、認知症の人への口腔管理、Journal of Clinical Rehabilitation(0918-5259)30巻10号 Page1038-1043(2021. 09)
7. 平野浩彦、フレイル・サルコペニア 超高齢者社会の口の機能を支える視点 オーラルフレイル、医学のあゆみ(0039-2359)279巻5号 Page442-447(2021. 10)
8. 平野浩彦、口腔機能向上サービスの新たな視点 オーラルフレイル、総合リハビリテーション(0386-9822)49巻12号 Page1153-1162(2021. 12)
9. 平野浩彦、フレイルにおけるオーラルフレイルの位置付アンチ・エイジング医学(1880-1579)18巻1号 Page011-016(2022. 02)
10. 白部麻樹、平野浩彦、高齢者歯科に関する疑問[第2回] 電動歯ブラシを使う高齢者へのブラッシング指導について知りたいです、歯科衛生士(0911-9574)46巻2号 Page19(2022. 02)

3 著書等

<講師等院内活動>

1. 齊藤美香：高齢者の口腔疾患について（6月29日、クルズス）
五十嵐麻奈三、宮本敦子：口腔ケアの基本、経口摂取をしていない患者さんへ（8月、10西で講義）
2. 五十嵐麻奈三：口腔ケア学習会（11月、緩和ケア内科で講義）

<講師等院外活動>

（大学講義）

1. 平野浩彦、高齢期口腔機能。東京大学I0G大学院講義、東京、2021年6月8日、Online
2. 平野浩彦、高齢者歯科学、日本大学松戸歯学部、松戸市、2021年6月22日

（看護学校講義）

齊藤美香：高齢者の口腔疾患について（11月4日、板橋看護学校）

（国内）

1. 平野浩彦、口と認知機能の関係：オーラルフレイルの視点から、第1回メディアセミナー様々な「食」の観点から認知機能を考える～ with コロナ時代の認知症予防の課題とともに ～：食から認知機能について考える会、2021年5月7日、Online、
2. 平野浩彦、高齢期の食べる機能を支える視点：オーラルフレイル、三重県NST研究会、2021年5月23日、Online、
3. 平野浩彦、コロナ時代、健康管理の鍵は「オーラルフレイルの予防」、第26回口腔保健シンポジウム、東京、2021年7月4日
4. 平野浩彦、患者さんの「オーラルフレイルって何ですか？」に答えられますか？、メディア研修会、2021年8月29日、Online、
5. 平野浩彦、めざそう！健康長寿オーラルフレイル予防って何？、横浜市都築区市民公開講座、2021年9月4日、Online、
6. 平野浩彦、認知症の人を歯科としてどう支えるか、第21回協力病院との合同学術研修会、板橋区、2021年9月29日
7. 平野浩彦、高齢者の食を支える視点：オーラルフレイル、川崎市歯科医師会、川崎、2021年10月3日
8. 平野浩彦、健康長寿への第一歩：オーラルフレイルとは、板橋区市民公開講座、2021年10月、Online、
9. 平野浩彦、ずっと歯ッピー！健康長寿の秘訣 - オーラルフレイル予防 -、杉並区市民公開講座、杉並区、2021年10月8日
10. 平野浩彦、認知症の人の口を支えるための基礎知識、千葉県歯科医師会、2021年10月、Online、
11. 平野浩彦、健康寿命延伸のキーワード オーラルフレイルをご存じですか？、市川市歯科医師会、2021年10月、Online、
12. 平野浩彦、オーラルフレイル予防が健康長寿の鍵である、茂原市フレイル研修会、2021年10月30日、Online、
13. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点、神奈川県歯科医師会、横浜市、2021年11月14日
14. 平野浩彦、高齢期の口腔機能を考える - オーラルフレイルの視点から -、かかりつけ医向け地域リハビリテーション基礎研修、静岡県医師会、静岡市、2021年11月20日
15. 平野浩彦、高齢者の口腔機能の低下と栄養 - オーラルフレイルの視点から -、群馬県栄養士会2021年度生涯教育（実務研修）研修会、2021年11月27日、Online、
16. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点：ガイドラインからの提言、日本訪問歯科協会、2021年12月4日、Online、
17. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点、茨城県歯科医師認知症対応力向上研修、水戸市、2021年12月4日
18. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点、茨城県歯科医師認知症対応力向上研修、水戸市、2022年1月16日

19. 平野浩彦、患者さんの「オーラルフレイルって何ですか？」に答えられますか？、メディア研修会、2022年1月23日、Online.
20. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点、地域高齢者の食を支えるセミナー、ことなみミライ、2022年2月5日、Online.
21. 平野浩彦、認知症の人の口を支える視点、愛媛県歯科医師会認知症研修会、2022年2月13日、Online.
22. 平野浩彦、オーラルフレイル：平時から備える口づくりの視点、第9回認知症医療介護推進フォーラム、東京、2022年2月20日
23. 平野浩彦、知っておきたい認知症の人の口を支える視点、北海道委託事業 食・口腔機能改善専門職等養成研修会、2022年2月27日、Online
24. 平野浩彦、高齢者の口の機能を診る-オーラルフレイル・口腔機能低下症の概念の視点-、横浜市歯科医師会、2022年3月13日、Online
25. 平野浩彦、オーラルフレイルの概念とその評価：口腔機能低下症も含め、口腔検査学会Web研修会、2022年3月27日、Online

<資格取得>

森美由紀：日本老年歯科医学会専門医取得

麻酔科

<雑誌論文>

Song K, Cui Y, Liu L, Chen B, Hirose K, Shahiduzzaman M, Umezu S. Electro-spray deposited TiO₂ bilayer films and their recyclable photocatalytic self-cleaning strategy. *Scientific Reports*, 12: 1582, 2022

Huang F, Song K, Jiang Y, Hirose K, Umezu S. 3D-printed swab with cover for precision diagnosis. *Journal of Materials Science: Materials in Medicine*, 33: 8, 2022

<総説>

小松郷子：高齢者の周術期管理を考える-術後管理に繋がる術前評価を含めて- 麻酔 Vol. 70 2021, ppS69-S76

<学会・研究会発表>

廣瀬佳代、石川朝陽、梅津信二郎、内田寛治：心電図波形に対する新しいアトラクター解析と高精度診断. 日本麻酔科学会第 68 回学術集会 神戸、5 月、2021

小松郷子：高齢者の周術期管理を考える-術後管理に繋がる術前評価を含めて- 日本麻酔科学会第 68 回学術集会 神戸、5 月、2021

Yue Cui, Kewei Song, Kayo Hirose, Md Shahiduzzaman and Shinjiro Umezu : "Establishment of ABS Resin Electrospinning Method Utilizing Acetone as Solvents", The 11th International Conference on Flexible and Printed Electronics (ICFPE), Niigata, Japan, 9 月 30 日、2021.

Hiroshi Kobayashi, Hisashi Sugime, Suguru Noda, Kayo Hirose and Shinjiro Umezu: "Evaluation of Stretching Resistance of CNT-Based Flexible pH Sensor", The 11th International Conference on Flexible and Printed Electronics (ICFPE), Niigata, Japan, 9 月 30 日、2021.

富田大信、日笠 友起子、榎本 有希、川口 洋佑、松三 絢弥、佐藤 哲文：重度の右主気管支狭窄を伴う患者に予定外の分離肺換気を行った食道切除術の麻酔経験：関東甲信越・東京支部第 61 回合同学術集会 東京、10 月、2021

<講師等院外活動（講演・放送等）>

内田博：全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会主催 第 156 回臨床研修指導医講習会タスクフォース 令和 3 年 11 月 11 日～12 日

内田博：日本医師会主催 第 33 回日本医師会「指導医のための教育ワークショップ」タスクフォース 令和 3 年 11 月 27 日～28 日

内田博：全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会主催 第 160 回臨床研修指導医講習会タスクフォース 令和 4 年 2 月 5 日～6 日

リハビリテーション科

<雑誌論文>

1. Masatoshi Tachibana, Akiko Kanemaru, Keiko Hatano, Teppei Murata, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada: Hypoxemia found after hospitalization with right hemiplegia due to cerebral infarction: platypnea-orthodeoxia syndrome in the older people. Journal of Cardiology Cases 2021. ISSN 1878-5409, <https://doi.org/10.1016/j.jccase.2021.06.015>. (<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1878540921001171>)
2. Toshiyuki Horiuchi, Junichiro Adachi, Yoshihiro Sekiguchi, Akiko Kanemaru: Evaluation of the Association of CGM Metrics with Antihyperglycemic Drugs in Insulin-Treated Diabetics. Dubai Diabetes Endocrinol J 2021. doi: 10.1159/000519438

<総説>

1. 江渕貴裕：臨床実習サブノート 診療参加型臨床実習－「ただ見ているだけ」にならないように！・7 超高齢者. 理学療法ジャーナル55(10):1136-1140, 2021. DOI <https://doi.org/10.11477/mf.1551202466>

<学会・研究会発表>

1. 木村友彦, 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 東原真奈, 井原涼子, 波多野敬子, 松川美穂, 齊藤祐子, 岩田淳, 村山繁雄: アルツハイマー型認知症における ApoE と CSF バイオマーカーとの関連、性差の検討. 第 62 回日本神経学会学術大会 京都 5月19日, 2021.
2. 金丸和富, 金丸晶子, 木村友彦, 仁科裕史, 岩田淳, 村山繁雄, 齊藤祐子: レビー小体型認知症における ApoE 表現型と CSF バイオマーカーとの関連、性差の検討. 第 62 回日本神経学会学術大会 京都 5月20日, 2021.
3. 竹原史穂, 東原真奈, 加藤貴行, 伊藤真紀, 井原涼子, 木村友彦, 金丸和富, 仁科裕史, 奥村真木, 岩田淳: ALS クリニックにおける高齢 ALS 患者の特徴とソーシャルワーカーが果たす役割. 第 62 回日本神経学会学術大会 京都 5月22日, 2021.
4. 金丸晶子, 正田奈緒子, 齊藤陽子, 加藤貴行: 高齢者大動脈弁狭窄症手術症例の入院日数に影響する要因の検討: (経カテーテル vs. 外科的) (The contributing factors to extend the hospital stay after TAVI or SAVR in aortic stenosis patients). 第 58 回日本リハビリテーション医学会学術集会 京都 6月10日, 2021.
5. 加藤貴行, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 金丸晶子: 軽度認知障害(MCI)専門外来の初診患者の認知機能と診断に関する検討. 第 58 回日本リハビリテーション医学会学術集会 京都 6月10日, 2021.
6. 金丸晶子, 加藤貴行, 正田奈緒子, 齊藤陽子, 羽根田千恵, 河田光弘, 村田哲平, 武田和大, 原田和昌, 許俊鋭: 大動脈弁疾患に対する侵襲的治療の入院期間を規定する要因. 第 63 回日本老年医学会学術集会 名古屋 オンライン 6/11-7/4, 2021.
7. 引和佳子, 新名由利子, 西元博子, 金丸晶子: 「経口摂取開始のためのフローチャート」運用における啓蒙活動の内容および成果について (The operation of 'Starting Ingestion Flow-Chart' through our outreach activities and its outcome). 第 26・27 回合同学術大会日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (JSDR 2021)・第 2 回世界嚥下サミット (WDS 2021) 名古屋 8月21日, 2021.
8. 増田典子, 金丸晶子: 作業療法実施についてご家族にインタビューができた事例. 第 26 回日本緩和医療学会学術大会 横浜 6月18日, 2021.
9. 植村ほのか, 田中春奈, 加藤貴行: 様々な要因で非流暢な発話を呈した症例の呼称における音の誤りの分析. 第 22 回日本言語聴覚学会 愛知 (ハイブリッド) 6月19日, 2021.
10. 江渕貴裕, 河地由恵, 青山理恵, 寺澤泉, 金丸晶子: 呼吸ガス分析装置を用いて仕事動作の負荷量を評価し、動作指導を行った高度肥満拡張型心筋症例. 第 40 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 新潟 9月4日, 2021.
11. 舘智憲, 奥野由佳, 大村有希, 牧田彩加, 橘昌利, 江渕貴裕, 高山祐子, 寺澤泉, 金丸晶子: 脳梗塞発症後 Platypnea-Orthodeoxia Syndrome を呈し、理学療法により座位保持獲得を目指した症例. 第 40 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 新潟 9月4日, 2021. (スペシャルポスター賞)
12. 本田拓也, 谷村厚子: 高齢者を対象とした急性期作業療法に有用なアウトカム指標選択に至るまでの作業療法士の思考過程. 第 55 回日本作業療法学会 ライブ配信 9月10日, 2021.
13. 後藤貴浩, 植村ほのか, 山口真依, 高橋佳子, 加藤貴行, 金丸晶子: 左脳梁膨大後部病変による記憶障害の入力様式と記憶素材の特異性について. 第 45 回日本神経心理学会学術集会 オンライン 9月30日, 2021.
14. 山本小諸里, 田中春奈, 小西海香, 江口洋子, 斎藤文恵, 三村悠, 穴水幸子: 高齢者の社会的出来事記憶の想起-「遠隔記憶検査」最新版を用いて-. 第 45 回日本神経心理学会学術集会 オンライン 9月30日, 2021.
15. 後藤貴浩, 桑田真弥, 河地由恵, 牧田彩加, 卯埜静奈, 寺澤泉, 加藤貴行, 金丸晶子: 高次脳機能障害例の移乗困難に対する行動療法の改善効果のメタ分析. 第 47 回日本認知・行動療学会大会 オンライン 10月10日, 2021. (優秀研究報告賞)
16. 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 岩田淳, 村山繁雄: DLB における ApoE と CSF バイオマーカーとの関連、性差の検討. 第 40 回日本認知症学会学術集会 東京 ハイブリッド開催 11/26-28 & 12/8-22, 2021.
17. 河地由恵, 牧田彩加, 後藤貴浩, 卯埜静奈, 桑田真弥, 奥野由佳, 田中春奈, 篠山絵里奈, 斎藤陽子, 加藤貴行, 金丸晶子, 中島恵子: 破局反応を乗り越え就業を継続した、注意障害患者への認知リハビリテーション-体験を予測的気づきに繋げる. 第 45 回日本高次脳機能障害学会学術総会 福島 (ライブ配信) 12月9日, 2021.

18. 田中春奈, 加藤貴行, 吉野眞理子：原発性進行性失語における意味カテゴリー流暢性課題の特徴：SLTA「語の列挙」による検討. 第45回日本高次脳機能障害学会学術総会 福島（ライブ配信） 12月9日, 2021.
(優秀ポスター賞)
19. 山本小諸里, 田中春奈, 小西海香, 江口洋子, 葛西有代, 池上正斗, 佐竹祐人, 菊地尚久, 三村悠, 穴水幸子：2010年以降の本邦の社会的出来事に関する「遠隔記憶検査」更新版の作製. 第45回日本高次脳機能障害学会学術総会 福島（ライブ配信） 12月9日, 2021.
20. 小林寿美子, 加藤菜生, 赤川順子, 羽田千恵, 金丸晶子, 岩上香菜子, 斎藤輔, 小倉和外, 猪瀬景子, 宮腰重三郎：超高齢者時代における多職種が介入する同種造血幹細胞移植を考える. 第25回板橋区医師会医学会 ライブ配信 2月26日, 2022.

<講師等院外活動（講演・放送等）>

1. 金丸晶子：治療論Ⅱ リハビリテーション. 東京都立板橋看護専門学校 東京 4月16・23・26日, 2021
2. 樋口和奏：治療論Ⅱ 理学療法. 東京都立板橋看護専門学校 東京 4月19・23日, 2021
3. 田中春奈：治療論Ⅱ 言語聴覚療法. 東京都立板橋看護専門学校 東京 4月21日, 2021
4. 本田拓也：治療論Ⅱ 作業療法. 東京都立板橋看護専門学校 東京 4月28日, 2021
5. 金丸晶子：嚥下と栄養・病態 - 嚥下障害を診る時の注意点 - . 女子栄養大学（リモート） 埼玉 7月19日, 2021
6. 加藤貴行：臨床病態学各論Ⅲ（脳神経疾患）. 気仙沼市医師会附属高等看護学校 宮城 11月5・6日, 2021
7. 加藤貴行：東京2020パラリンピック陸上競技医務室選手用医療スタッフ 東京 8月28・30日, 9月1・2・5日, 2021

放射線診断科

<雑誌論文>

1. Matsubara T, **Kameyama M**, Tanaka N, Sengoku R, Orita M, Furuta K, Iwata A, Arai T, Maruyama H, Saito Y, Murayama S*. Autopsy Validation of the Diagnostic Accuracy of ^{123}I -Metaiodobenzylguanidine Myocardial Scintigraphy for Lewy Body Disease. *Neurology*. 2022;**98**(16):e1648-e1659. DOI:10.1212/WNL.0000000000200110.
2. Wagatsuma K*, Ishibashi K, **Kameyama M**, Sakata M, Miwa K, Kamitaka Y, Ishii K. Decreased imaging time of amyloid PET using [^{18}F]florbetapir can maintain quantitative accuracy. *Radiol Phys Technol*. 2022; . DOI:10.1007/s12194-022-00653-7.
3. **Kameyama M***, Momose T, Ishibashi K, Ishii K. A Novel Proposal for an Index for Regional Cerebral Perfusion Pressure – A Theoretical Approach Using Fluid Dynamics. *Front Neurol*. 2022;**12**:765463. DOI:10.3389/fneur.2021.765463.
4. Miyazaki* Y, **Kameyama M**, Nakamizo A, Noguchi T, Tabata N. Validity of the γ -Ray Evaluation with iodoamphetamine for Cerebral Blood Flow Assessment (REICA) method for quantification of cerebral blood flow including acetazolamide challenge test. *Ann Nucl Med*. 2022;**36**(3):279-284. DOI:10.1007/s12149-021-01700-w.
5. Ishibashi K*, Miura Y, Wagatsuma K, **Kameyama M**, Ishii K. Brain ^{11}C -ITMM PET to longitudinally assess type 1 metabotropic glutamate receptor availability in Alzheimer's disease. *J Neuroimaging*. 2021; **31**(5):864-868. DOI:10.1111/jon.12895.
6. Matsuda H*, Ito K, Ishii K, Shimosegawa E, Okazawa H, Mishina M, Mizumura S, Ishii K, Okita K, Shigemoto Y, Kato T, Takenaka A, Kaida H, Hanaoka K, Matsunaga K, Hatazawa J, Ikawa M, Tsujikawa T, Morooka M, Ishibashi K, **Kameyama M**, Yamao T, Miwa K, Ogawa M, Sato N. Quantitative evaluation of ^{18}F -flutemetamol PET in patients with cognitive impairment and suspected Alzheimer's disease: A multicenter study. *Front Neurol* 2021;**11**: 1761.
7. Umeda-Kameyama Y, **Kameyama M***, Tanaka T, Son BK, Kojima T, Fukasawa M, Iizuka T, Ogawa S, Iijima K, Akishita M. Screening of Alzheimer's disease by facial complexion using artificial intelligence. *Aging (Albany NY)* 2021;**13**: 1765-1772.
8. **Kameyama M***, Okumiya T, Tokuhiko S, Matsumura Y, Matsui H, Ono Y, Iwasaka T, Hiratani K, Koga M. Estimation of the hemoglobin glycation rate constant. *Sci Rep* 2021;**11**: 986.
9. Iwabuchi Y*, **Kameyama M**, Matsusaka Y, Narimatsu H, Hashimoto M, Seki M, Ito D, Tabuchi H, Yamada Y, Jinzaki M. A diagnostic strategy for Parkinsonian syndromes using quantitative indices of DAT SPECT and MIBG scintigraphy: an investigation using the classification and regression tree analysis. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 2021;; 1-9.
10. Tokumaru, A. M., Y. Saito, and S. Murayma. 2021. "Diffusion-Weighted Imaging is Key to Diagnosing Specific Diseases." *Magn Reson Imaging Clin N Am* no. 29 (2):163-183. doi: 10.1016/j.mric.2021.02.001.
11. Tamura, Y., K. Shimoji, J. Ishikawa, A. Tachibana, R. Kodera, K. Oba, K. Toyoshima, Y. Chiba, A. M. Tokumaru, and A. Araki. 2021. "Associations between sarcopenia and white matter alterations in older adults with diabetes mellitus: A diffusion tensor imaging study." *J Diabetes Investig* no. 12 (4):633-640. doi: 10.1111/jdi.13379.
12. Sakurai, R., Y. Kim, H. Inagaki, A. M. Tokumaru, K. Sakurai, K. Shimoji, A. Kitamura, Y. Watanabe, S. Shinkai, and S. Awata. 2021. "MMSE Cutoff Discriminates Hippocampal Atrophy: Neural Evidence for the Cutoff of 24 Points." *J Am Geriatr Soc* no. 69 (3):839-841. doi: 10.1111/jgs.17010.
13. Sakurai, R., H. Inagaki, A. M. Tokumaru, K. Sakurai, K. Shimoji, K. E. Kobayashi-Cuya, A. Kitamura, Y. Watanabe, S. Shinkai, and S. Awata. 2021. "Differences in the association between white matter hyperintensities and gait performance among older adults with and

without cognitive impairment.” *Geriatr Gerontol Int* no. 21 (3):313-320. doi: 10.1111/ggi.14132.

14. Higashihara, M., K. Ishibashi, A. M. Tokumaru, A. Iwata, and K. Ishii. 2021. “18F-THK5351 PET Can Identify Core Lesions in Different Amyotrophic Lateral Sclerosis Phenotypes.” *Clin Nucl Med* no. 46 (12):e582-e583. doi: 10.1097/rln.0000000000003755.
15. Tamura, Y., K. Shimoji, J. Ishikawa, A. Tachibana, R. Kodera, K. Oba, K. Toyoshima, Y. Chiba, A. M. Tokumaru, and A. Araki. 2020. “Associations between sarcopenia and white matter alterations in older adults with diabetes mellitus: A diffusion tensor imaging study.” *J Diabetes Investig*. doi: 10.1111/jdi.13379.

<総説>

1. 亀山征史, 岩渕雄. 【核医学画像解析法の新展開: テクスチャー解析、フラクタル解析、機械学習、深層学習】フラクタル解析による脳線条体 SPECT の診断 *Rad Fan* 2021 **19**(6):36-39
2. 亀山祐美, 亀山征史, 秋下雅弘. 【フレイル予防・対策: 基礎研究から臨床、そして地域へ】認知症における「見た目」研究 *Advances in Aging and Health Research* 2020 **2021**:275-279
3. 亀山征史. 【2030 年放射線科はこう変わる】2030 年放射線科はこう変わる!. *Rad Fan* 2021 **19**(2):54-56
4. 亀山征史, 亀山祐美, 飯塚友道. 【認知症のバイオマーカー】臨床に役立つ Q&A 3. AI を用いた認知症の早期診断について教えてください. *Geriatric Medicine* 2021;**59**(2):201-204
5. 平澤南波、高田晃一、山本麻子、特集 1 : 地力が伸ばせる 骨軟部画像診断 「股関節」臨床画像 38、170-183 : 2 2022
6. 徳丸阿耶 認知症診断における MRI による診断技術の進歩 *Medical Practice* 38:1211-1220m 2021
7. 徳丸阿耶 認知症の画像診断での decision tree と画像診断医のふるまい方 特集 撮った、読んだ、わかった! 認知症画像診断 画像診断 41 : 1458-1469, 2021

<単行本・報告書>

1. 徳丸阿耶 : 06 変性疾患・蓄積病, 頭部画像診断の勘どころ NEO, 田岡俊昭(編), pp282-324, 株式会社メジカルビュー社, 2021

<学会・研究会発表>

1. 徳丸阿耶、齊藤祐子、松原知康ら。脳出血の背景：画像と病理から脳出血をきたす背景疾患を考える 第 51 回日本神経放射線学会 2021 年 2 月 東京、教育賞受賞
2. 徳丸阿耶 : 認知症の画像診断、第 25 回日本認知症学会専門医セミナー 2021 年 4 月、オンライン講演
3. 徳丸阿耶 : 認知症の画像診断のトピックス : 画像病理連関を通して 第 29 回 21 世紀脳核医学カンファレンス 特別講演 2021 年オンライン
4. 徳丸阿耶 : 「認知症性変性疾患における Knack & Pitfall と新しい画像技術」第 62 回日本神経学会学術大会教育コース 2021 年 4 月 京都国際会議場
5. 徳丸阿耶 : 認知症をきたす新しい神経変性疾患—画像病理連関を通して— 第 41 回神経放射線ワークショップ プランションセミナー 2021 年 7 月 オンライン
6. 亀山祐美、亀山征史、秋下雅弘「シンポジウム高齢者診療の性差におけるニューノーマル」認知症の性差とニューノーマルな認知症診療第 15 回日本性差医学・医療学会 web 2022. 2. 20
7. 亀山征史. 【合同シンポジウムパラメトリックイメージング (Parametric Imaging) は面白い】形而下の脳核医学画像から意味のある値の抽出 - アイデアを求めて - 日本核医学会名古屋 2021/11/4-6 核医学技術 2022;**42**: 48-52 核医学技術 2021;**41**:357
8. Yumi Kameyama, Kameyama M, Masahiro Akishita “Symposium AI and Cognitive Disorders Screening of dementia by facial complexion using artificial intelligence.” Regional IPA/JPS Meeting and the 36th Annual Meeting of Japanese, 東京, 2021/9/16-18
9. 亀山祐美、亀山征史「シンポジウム AI による新しい脳機能・認知症診断」認知機能低下者の顔を見分けることができる AI の可能性 第 20 回日本抗加齢医学会学術集会 2021/6/25-27
10. 亀山祐美、亀山征史、秋下雅弘「合同シンポジウム AI は超高齢者社会を救うか」高齢者医療での AI の可能性. 第 32 回日本老年学会学術集会名古屋, 2021/6/11-7/4 日本老年医学会雑誌 2021;**58**(Suppl.):16
11. 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二. ^{11}C -PIB PET を実施した 22 剖検例における Centiloid と病理診断との対比日本認知症学会, 東京, 2021/11/26-28.

Dementia Japan 2021;**35**(4): 611

12. 亀山征史, 百瀬敏光. 脳還流圧の指標への新しい提案 - 流体力学からの理論的アプローチ第 61 回日本脳循環代謝学会, 岐阜, 2021/11/12-13 脳循環代謝 2021;**33**(1): 125.
13. 岩渕雄, 亀山征史, 松坂陽至, 成松英俊, 橋本正弘, 関守信, 伊東大介, 田渕肇, 山田祥岳, 陣崎雅弘. DAT SPECT と MIBG シンチグラフィの定量的指標の効果的な併用. 日本核医学会, 名古屋, 2021/11/4-6 核医学 2021;**58**(Suppl.):S230
14. 林卓矢, 今林悦子, 阿部光一郎, 田村嘉章, 井下尚子, 野中敬介, 高田晃一, 下地啓五, 亀山征史, 荒木厚, 徳丸阿耶. 術前に神経内分泌腫瘍 (NET) と鑑別困難であった paraganglioma の画像所見. 日本核医学会関東甲信越地方会, web, 2021/7/10 核医学 2021; **58**(1): 84
15. 古賀正史, 亀山征史, 奥宮敏可. HbA1c あるいは HbA1c/GA 比を用いた赤血球年齢の算出の試み. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, 金沢, 2021/5/20-22 糖尿病 2021;**64**(Suppl 1): II-1

<講師等院外活動(講演・放送等)>

1. 徳丸阿耶: 診断-脳神経(3)-神経変性疾患, 帝京大学医学部 3 年生放射線科学講義, 帝京大学, 11 月 17 日. 2021
2. 今林悦子: 認知症学会評議員, 核医学会評員, 放射線防護委員
3. 高田晃一: 診断-骨軟部、乳がん, 帝京大学医学部 3 年生放射線科学講義, 帝京大学, 10 月 21 日. 2020
4. 徳丸阿耶: 神経変性疾患の画像病理連関-東邦大放射線科大学院講義 東邦大学、12 月 3 日、2021

放射線治療科

<雑誌論文>

1. Mizumoto M, Fuji H, Miyachi M, Soejima T, Yamamoto T, Aibe N, Demizu Y, Iwata H, Hashimoto T, Motegi A, Kawamura A, Terashima K, Fukushima T, Nakao T, Takada A, Sumi M, Oshima J, Moriwaki K, Nozaki M, Ishida Y, Kosaka Y, Ae K, Hosono A, Harada H, Ogo E, Akimoto T, Saito T, Fukushima H, Suzuki R, Takahashi M, Matsuo T, Matsumura A, Masaki H, Hosoi H, Shigematsu N, Sakurai H. Proton beam therapy for children and adolescents and young adults (AYAs): JASTRO and JSPHO Guidelines. Cancer Treat Rev. 98:102209. doi: 10.1016/j.ctrv.2021.102209. 2021.
2. Inaba K, Tsuchida K, Kashiwara T, Umezawa R, Takahashi K, Okuma K, Murakami N, Ito Y, Igaki H, Sumi M, Nakayama Y, Shinoda Y, Hara T, Matsui Y, Komiyama M, Fujimoto H, Itami J. Treatment results of radiotherapy to both the prostate and metastatic sites in patients with bone metastatic prostate cancer. J Radiat Res. 62(3):511-516, 2021.
3. Umeda K, Miyamura T, Yamada K, Sano H, Hosono A, Sumi M, Okita H, Kumamoto T, Kawai A, Hirayama J, Jyoko R, Sawada A, Nakayama H, Hosoya Y, Maeda N, Yamamoto N, Imai C, Hasegawa D, Chin M, Ozaki T; Japan Ewing Sarcoma Study Group. Clinical outcome of patients with recurrent or refractory localized Ewing's sarcoma family of tumors: A retrospective report from the Japan Ewing Sarcoma Study Group. Cancer Rep (Hoboken) e1329 2021.
4. Umeda K, Miyamura T, Yamada K, Sano H, Hosono A, Sumi M, Okita H, Kamio T, Maeda N, Fujisaki H, Jyoko R, Watanabe A, Hosoya Y, Hasegawa D, Takenaka S, Nakagawa S, Chin M, Ozaki T; Japan Ewing Sarcoma Study Group. Prognostic and therapeutic factors influencing the clinical outcome of metastatic Ewing sarcoma family of tumors: A retrospective report from the Japan Ewing Sarcoma Study Group. Pediatr Blood Cancer. 68(3):e28844 2021.

<総説>

1. 角美奈子、齋藤アンネ優子、荒平聡子、飯野京子、関口建次、全田貞幹：日本がんサポーターブケア学会編 がん治療におけるアピアランスケアガイドライン 2021 年版 放射線療法 金原出版 88-115 2021
2. 角美奈子：日本臨床 増刊号 希少がん—がん診療の新たな課題—II. 希少がん疾患各論 その他 希少がんと放射線治療 日本臨床社 640-645 2021

<学会活動・研究会発表>

1. 角美奈子：特別シンポジウム アピアランスケア研究の現状と課題～アピアランスケアガイドライン 2021 最新版を作成して～SS-03 放射線治療分野のトピックス. 第 6 回日本サポーターブケア学会学術集会. オンライン開催. 5 月 30 日. 2021.
2. 角美奈子：消化器領域の放射線治療看護. 日本放射線腫瘍学会・日本がん看護学会共催 第 32 回がん放射線治療看護セミナー. オンライン開催. 3 月 20 日. 2021.
3. 角美奈子：骨盤領域の放射線治療看護. 日本放射線腫瘍学会・日本がん看護学会共催 第 33 回がん放射線治療看護セミナー. オンライン開催. 9 月 4 日. 2021.
4. 角美奈子：シンポジウム 2 放射線治療患者に対するアピアランスケア 放射線治療とアピアランスケア～アピアランスケアガイドライン 2021 を作成して～日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会. オンライン開催. 11 月 13 日. 2021.

5. 角美奈子：臓器別シンポジウム 16 後腹膜肉腫に対する集学的治療 後腹膜肉腫の放射線治療. 第 59 回日本癌治療学会学術大会. 横浜. 10 月 22 日. 2021.
6. 角美奈子（分担研究者）可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究」日本医療研究開発機構（AMED） 革新的がん医療実用化研究事業

化学療法科

<学会・研究会発表>

第 61 回日本リンパ網内系学会

1. EBV 陰性非鼻腔浸潤節外性 NK/T 細胞リンパ腫、鼻型 (ENKL) の一例, 南研人ら
2. CD5 陽性 DLBCL に対して DA-EPOCH-R/MTX 療法を施行し奏功を得た 5 症例, 上江田優美ら

日本内科学会第 676 回関東地方会

特徴的な細胞形態を示し、細胞表面形質の発現パターンから芽球型形質細胞様樹状細胞腫瘍(BPDCN)と診断した一例、河本千明ら

臨床検査科

<雑誌論文>

<総説>

<学会・研究会発表>

1. 夏目 采、東原 真奈、小松 大樹、宮地 洋輔、桜山 千恵子、星野 哲、園生 雅弘、岩田 淳
 [家族性アミロイドポリニューロパチーの高齢孤発例における電気生理学的検討] 第 50 回日本臨床神経生理学会総会・学術集会 Web 2021 年 12 月 16 日
2. 浅見諒子、野口 穰、古川 友子、小金丸 博、増田 義重、稲松 孝志、吉田 敦
 「当センターにおける質量分析導入後の非結核性抗酸菌の分離例の検討」第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 仙台 2022 年 1 月 29 日
3. 野口 穰、古川 友子、浅見 諒子、小金丸 博、吉田 敦、増田 義重、稲松 孝志「当センター救急外来における FilmArray RP2.1 パネルの使用実績」第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 仙台 2022 年 1 月 29 日
4. 野口 穰、東條 未希、松田 美弥子、古川 友子、浅見 諒子、與口 健太郎、増田 義重、小金丸 博、稲松 孝志 [当センターで経験した Lemierre 症候群の一例] 第 51 回日本嫌気性菌感染症学会 Web 2022 年 3 月 5 日
5. 野口 穰「全自動遺伝子解析装置 FilmArray がもたらす Antimicrobial Stewardship Team 活動の影響」感染症対策・未来創造ミーティング 2021 年 3 月 5 日
6. 金丸晶子、小金丸 博、増田義重、寺澤 泉、斎藤陽子、正田奈緒子、加藤貴行、吉岡孝房、許 俊鋭、鳥羽研二 [高齢者急性期医療における COVID-19 パンデミック時のリハビリテーションから読み解けること] 第 64 回日本老年医学総会・学術集会 大阪 2022 年 6 月 2 日

<講師等院外活動（講演・放送等）>

Webセミナー

1. 前田 哲平 「心臓手術後の心エコー～大動脈弁手術後評価～」
 超音波検査法フォーラム セミナー Web
 2022年 3 月20日
 小冊子投稿
2. 桜山 千恵子 フィリップス社 Voices of Customer 【心臓・血管編】
 「成人でのS9-2プローブ使用経験」

輸血・細胞療法科

<学会発表>

谷田部元野、小菅隆雄、土田紗貴、阿部真愛、斎藤 輔、小倉和外、小林寿美子. 時間外緊急輸血 イメージトレーニングの現状と課題. 第 69 回日本輸血・細胞治療学会学術総会 (2021. 6. 4-6. 6 東京新宿 誌上開催)

Sumiko Kobayashi. What are the risks and benefit of a transplant for elderly patients?. The 43nd Annual Meeting of the JSHCT JSHCT-KSBMT Joint Symposium. 2021. 3. 7 (Tokyo)

小林寿美子. 骨髄・末梢血幹細胞の採取と処理、ドナーの安全性と管理. (第 43 回日本造血細胞移植学会総会教育セミナー 2021. 3. 6 東京).

<論文>

小林寿美子. 二次性貧血. 今日の治療方針2021. 683-685. 2021

病理診断科

<雑誌論文>

1. Kagawa M, Kawakami S, Yamamoto A, Suzuki O, Eguchi H, Okazaki Y, Akagi K, Tamaru JI, Arai T, Yamaguchi T, Ishida H. Prevalence and clinicopathological/ molecular characteristics of mismatch repair protein-deficient tumours among surgically treated patients with prostate cancer in a Japanese hospital-based population. *Jpn J Clin Oncol* 51:639-645, 2021.
2. Fukunaga K, Imachi H, Sato S, Kobayashi T, Yoshioka Y, Saheki T, Ban N, Urushihara K, Lyu J, Dong T, Ishikawa R, Kadota K, Haba R, Inoshita N, Murao K. Successful therapy using pasireotide long-acting release for Cushing's disease merged with biochemical acromegaly. *Intern Med* 60:1047-1053, 2021.
3. Yuno A, Kenmotsu Y, Takahashi Y, Nomoto H, Kameda H, Cho KY, Nakamura A, Yamashita Y, Nakamura J, Nakakubo S, Kamada K, Suzuki M, Sugino H, Inoshita N, Konno S, Miyoshi H, Atsumi T, Sawamura Y, Shimatsu A. Successful management of a patient with active Cushing's disease complicated with coronavirus disease 2019 (COVID-19) pneumonia. *Endocr J* 68:477-484, 2021.
4. Honma N, Ogata H, Yamada A, Matsuda Y, Kontani K, Miyashita M, Arai T, Sasaki E, Shibuya K, Mikami T, Sawaki M. Clinicopathological characteristics and prognostic marker of triple-negative breast cancer in older woman. *Hum Pathol* 111:10-20, 2021.
5. Ito T, Suzuki O, Kamae N, Tamaru J, Arai T, Yamaguchi T, Akagi K, Eguchi H, Okazaki Y, Mochiki E, Ishida H. Comprehensive analysis of DNA mismatch repair-deficient gastric cancer in a Japanese hospital-based population. *Jpn J Clin Oncol* 51:886-894, 2021.
6. Fukuhara N, Iwata T, Inoshita N, Yoshimoto K, Kitagawa M, Fukuhara H, Tatsushima K, Yamaguchi-Okada M, Takeshita A, Ito J, Takeuchi Y, Yamada S, Nishioka H. Immunohistochemistry or molecular analysis: which method is better for subtyping craniopharyngioma? *Endocr Pathol* 32:262-268, 2021.
7. Miura Y, Anami T, Yatsuda J, Motoshima T, Oka S, Suyama K, Inoshita N, Kinowaki K, Urakami S, Kamba T, Komohara Y. HLA-DR and CD74 Expression and the immune microenvironment in renal cell carcinoma. *Anticancer Res* 41:2841-2848, 2021.
8. Arai T, Kuwano H, Miyazaki T, Sakai M, Sohda M, Nemoto T, Toh Y, Kakeji Y, Matsubara H, Doki Y. A nationwide survey on esophageal gastrointestinal stromal tumors at accredited institutions by the Japanese Esophageal Society. *Esophagus* 18: 451-460, 2021.
9. Sato M, Tsumoto H, Toba A, Soejima Y, Arai T, Harada K, Miura Y, Sawabe M. Proteome analysis demonstrates involvement of endoplasmic reticulum stress response in human myocardium with subclinical left ventricular diastolic dysfunction. *Geriatr Gerontol Int* 21:577-583, 2021.
10. Kagawa M, Kawakami S, Yamamoto A, Suzuki O, Kamae N, Eguchi H, Okazaki Y, Yamamoto G, Akagi K, Tamaru JI, Yamaguchi T, Arai T, Ishida H. Identification of Lynch syndrome-associated DNA mismatch repair-deficient bladder cancer in a Japanese hospital-based population. *Int J Clin Oncol* 26:1524-1532, 2021.
11. Suzuki Y, Inoshita N, Kikuchi D, Nomura K, Matsui A, Hoteya S. Clinicopathological features of Epstein-Barr virus-associated superficial early stage gastric cancer treated with endoscopic submucosal dissection. *Dig Liver Dis* 54:946-953, 2021.

12. Nakano-Tateno T, Satou M, Inoshita N, van Landeghem FKH, Easaw J, Mehta V, Tateno T, Chik CL. Effects of CAPTEM (Capecitabine and Temozolomide) on a corticotroph carcinoma and an aggressive corticotroph tumor. *Endocr Pathol* 32:418-426, 2021.
13. Ogasawara N, Kikuchi D, Inoshita N, Nakayama A, Kohno K, Ochiai Y, Hayasaka J, Suzuki Y, Dan N, Okamura T, Mitsunaga Y, Tanaka M, Nomura K, Odagiri H, Yamashita S, Matsui A, Hoteya S, Iizuka T. Metachronous carcinogenesis of superficial esophagus squamous cell carcinoma after endoscopic submucosal dissection: incidence and risk stratification during long-term observation. *Esophagus* 18:806-816, 2021.
14. Sakashita Y, Matsubara T, Takata T, Tanei ZI, Motoda A, Yamazaki M, Kawakami I, Sengoku R, Saito Y, Arai T, Yamada M, Murayama S : Lewy pathology of the submandibular gland in Lewy body disease: a report of autopsy cases. *Neuropathology* 41:476-483, 2021.
15. Honma N, Arai T, Matsuda Y, Fukunaga Y, Akishima-Fukasawa Y, Yamamoto Y, Kawachi H, Ishikawa Y, Takeuchi K, Mikami T. Estrogen concentration and estrogen receptor- β expression in postmenopausal colon cancer considering patient/tumor background. *J Cancer Res Clin Oncol* 148:1063-1071, 2022.
16. Shinji S, Shichi Y, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Yonaga K, Iwai T, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Ueda Y, Sasaki NO, Takahashi K, Ohashi R, Ishiwata T, Arai T, Hoshida H. Establishment and characterization of a novel anorectal melanoma cell line derived from primary human rectal tumor. *J Nippon Med Sch* 2022. Online ahead of print.
17. Uesugi N, Ajioka Y, Arai T, Tanaka Y, Sugai T. Clinicopathological and molecular analyses of hyperplastic lesions including microvesicular variant and goblet cell rich variant hyperplastic polyps and hyperplastic nodules—Hyperplastic nodule is an independent histological entity. *Pathol Int* 72:128-137, 2022.
18. Tong D, Tanaka M, Eguchi H, Okazaki Y, Muramatsu M, Arai T. COL17A1 germline variant p.Ser1029Ala and mucosal malignant melanoma: An autopsy study. *Mol Clin Oncol* 16:32, 2022.
19. Kiso Y, Matsuda Y, Esaka S, Nakajima Y, Shirahata H, Fujii Y, Matsukawa M, Kakizaki M, Ishizaki T, Arai T. Cytological scoring for pancreatic specimens obtained by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration. *Cytopathology*. 33:206-215, 2022.
20. Sasaki N, Shinji S, Shichi Y, Ishiwata T, Arai T, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Iwai T, Takeda K, Yonaga K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Yoshida H. TFG-b1 increases cellular invasion of colorectal neuroendocrine carcinoma cell line through partical epithelial-mesenchymal transition. *Biochem Biophys Rep* 30:101239, 2022.
21. Matsubara T, Kameyama M, Tanaka N, Sengoku R, Orita M, Furuta K, Iwata A, Arai T, Maruyama H, Saito Y, Murayama S : Autopsy validation of the diagnostic accuracy of ^{123}I -metaiodobenzyl-guanidine myocardial scintigraphy for Lewy body disease. *Neurology* 98:e1648-1659, 2022.
22. Hayakawa M, Matsubara T, Mochizuki Y, Takeuchi C, Minamitani M, Imai M, Kosaki K, Arai T, Murayama S : An autopsied case report of spastic paraplegia with thin corpus callosum carrying a novel mutation in the SPG11 gene: widespread degeneration with eosinophilic inclusions. *BMC Neurology* 22:2, 2022.

<総説>

1. 新井富生、松川美保、上垣佐登子、小宮山明、二村 聡、岩下明德、伴 慎一 : 食道の非腫瘍性ポリープ

の病理診断. 胃と腸 56:809-816, 2021.

2. 新井富生 : 内視鏡診療における病理検体の扱いと病理診断の解釈. Gastroenterol Endosc 63:1075-1086, 2021.
3. 新井富生 : 食道胃接合部領域の構造. Helicobacter Research 25:12-16, 2021.
4. 新井富生 : 印環細胞癌の組織分類における最新知見. 胃と腸 56:1356-1366, 2021.
5. 新井富生 : 消化管腫瘍性病変の病理診断における特殊染色の有用性. 消化器内科 3:98-105, 2021.
6. 井下尚子、有馬美和子、都宮美華、剛先有加、石川文隆、西村ゆう、神田浩明 : ここが知りたい、表在型 Barrett 食道腺癌 治療編 ここがポイント、ESD 標本の病理診断. 消化器内視鏡 33:1730-1735, 2021.
7. 新井富生 : 症例検討 食道上皮内腫瘍の診断と取り扱い. アンケートのまとめ. 胃と腸 57:289-309, 2022.
8. 小山恒男、新井富生、眞能正幸、八尾隆史、根本哲生、河内 洋、竹内 学、高橋亜紀子 : 食道上皮内腫瘍の診断と取り扱い. 座談会 食道上皮内腫瘍を問う—アンケート集計を踏まえて. 胃と腸 57:310-344, 2022.

<単行書・報告書>

1. 新井富生、鈴木興秀、石田秀行、田丸淳一 : 第2部組織型と診断の実際 II. 小腸(空腸・回腸)上皮性腫瘍 2. 腺癌, 腫瘍病理鑑別診断アトラス 十二指腸・小腸・虫垂腫瘍, 文光堂, 東京, pp 59-64, 2021.
2. 新井富生 : 第2部組織型と診断の実際 III. 虫垂上皮性腫瘍 2. 腺癌. 腫瘍病理鑑別診断アトラス 十二指腸・小腸・虫垂腫瘍, 文光堂, 東京, pp 82-88, 2021.
3. 新井富生 : 低分化腺癌. 腫瘍病理鑑別診断アトラス大腸癌 第2版, 文光堂, 東京, pp 60-65, 2021.
4. 新井富生 : 印環細胞癌. 腫瘍病理鑑別診断アトラス大腸癌第2版, 文光堂, 東京, pp 71-74, 2021.
5. 新井富生 : 髄様癌. 腫瘍病理鑑別診断アトラス大腸癌第2版, 文光堂, 東京, pp 75-82, 2021.
6. 新井富生 : 食道癌取り扱い規約とWHO分類. 大橋健一, 河内 洋編: 腫瘍病理鑑別診断アトラス食道癌 第2版, 文光堂, 東京, pp 2-7, 2021.
7. 新井富生 : 病理組織検査 令和3年度第40回東京都衛生検査所精度管理事業報告書, 東京都健康安全研究センター精度管理室編, 東京都福祉保健局医療政策部発行, 202-225, 2022.

<学会発表>

1. 新井富生 : ワークショップ10 病理解剖の現状と問題点. 剖検の減少が病理専門医制度や医療安全に及ぼす影響について. 第110回日本病理学会総会. 東京(web), 4月22日~24日, 2021.
2. 新井富生 : ワークショップ12 大腸腫瘍性病変の病理—最近の知見を含めて— 高齢者大腸癌の病理学的特徴—MSI-H大腸癌を中心に—. 第110回日本病理学会総会. 東京(web), 4月22日~24日, 2021.
3. 小松明子、野中敬介、佐久間隆貴、松原知康、齊藤祐子、村山繁雄、湯村和子、井下尚子、新井富生 : 超高齢者に発症した結節性多発動脈炎様血管炎の1剖検例. 第110回日本病理学会総会. 東京(web), 4月22日~24日, 2021.
4. 種井善一、齊藤祐子、伊藤慎治、松原知康、坂下泰浩、池村雅子、田中伸哉、仙谷鍊平、新井富生、村山繁雄 : 食道リン酸化 α シヌクレインの臨床病理学的解析. 第110回日本病理学会総会. 東京(web), 4月22日~24日, 2021.
5. 本間尚子、松田陽子、佐々木英一、深澤由里、金田幸枝、赤坂喜清、新井富生、澁谷和俊、三上哲夫 : 高齢者 triple-negative 乳癌の臨床病理学的特徴と予後予測因子. 第110回日本病理学会総会.

東京(web), 4月22日~24日, 2021.

6. 野中敬介、井下尚子、笹野公伸、新井富生 : シンポジウム 11 内分泌臓器とその疾患における細胞老化の意義. 副腎皮質における慢性ストレスと細胞老化の関連. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. 群馬(web), 4月22日~24日, 2021.
7. 井下尚子、小松明子、野中敬介、新井富生 : シンポジウム 11 内分泌臓器とその疾患における細胞老化の意義. 下垂体の老化 剖検例における検討. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. 群馬(web), 4月22日~24日, 2021.
8. 井下尚子、山田正三、西岡宏 : 視床下部下垂体疾患アップデート. 下垂体腫瘍 2017 年 WHO 分類とその Update. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. 群馬(web), 4月22日~24日, 2021.
9. 野中敬介、井下尚子、笹野公伸、新井富生 : 慢性ストレス下におけるヒト副腎網状層の細胞増加とテロメア長短縮. 第 94 回日本内分泌学会学術総会. 群馬(web), 4月22日~24日, 2021.
10. 松原知康、村山繁雄、織田麻琴、新井富生、齊藤祐子 : Spinal Cord Bank 10 年間の取り組み. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都, 5月19日~22日, 2021.
11. 東野将志、松原知康、齋藤 輔、宮腰重三郎、井原涼子、東原真奈、岩田 淳、新井富生、村山繁雄、齊藤祐子 : 骨髄異形成症候群に対して臍帯血移植が行われ、1 ヶ月後より緩徐進行性の意識障害、痙攣を認め、辺縁系脳炎が疑われた 75 歳女性剖検例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会. 東京(web), 5月27日~29日, 2021.
12. 織田麻琴、古田 光、松原知康、新井富生、村山繁雄、齊藤祐子 : アルツハイマー病と臨床的に診断され、病理学的検索によりその背景病理が嗜銀顆粒と TDP-43 タンパク蓄積症であった 1 例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会. 東京(web), 5月27日~29日, 2021.
13. 山本 剛、伊藤徹哉、鈴木興秀、構 奈央、角田美穂、新井富生、石田秀行、赤木 究 : 日本人の胃がんにおける MSI 検査と IHC 検査の比較検討. 第 27 回日本遺伝性腫瘍学会学術総会. 浦和(web), 6月18日~19日, 2021.
14. 林 卓也、今林悦子、阿部光一郎、田村嘉章、井下尚子、野中敬介、高田晃一、下地啓五、亀山征史、荒木 厚、徳丸阿耶 : 術前に神経内分泌腫瘍(NET)と鑑別困難であった paraganglioma の画像所見. 第 95 回日本核医学会関東甲信越地方会(web). 7月10日, 2021.
15. 新井富生、村松正明、三重野牧子 : 高齢者がんと遺伝子多型, 喫煙の関連 : 病理解剖例を用いた遺伝子多型解析—ADH1B 遺伝子多型 rs1229984 と発がんリスクとの関連— 喫煙科学研究財団 第 35 回令和 2 年度助成研究発表会(web). 9月2日, 2021.
16. 新井富生 : 特別企画 4. 臨床医から病理医への疑問・質問に答える Q1 : 扁平上皮の上皮内腫瘍/異形成と上皮内扁平上皮癌の病理診断についてわかりやすく教えてください. 第 75 回日本食道学会学術集会. 東京, 9月23日, 2021.
17. 山本剛、新井吉子、新井富生、石田秀行、赤木 究 : 日本人の胃がんにおける MSI 検査と IHC 検査の比較検討. 第 80 回日本癌学会学術総会. 横浜, 9月30日, 2021.
18. 藤谷啓雄、江口英孝、新井富生、村松正明、岡崎康司 : 膵臓癌および多発性原発癌患者における生殖細胞系列の希少バリエント. 第 80 回日本癌学会学術総会. 横浜, 9月30日, 2021.
19. Arai T. Classification of undifferentiated cancer; poorly cohesive, signet ring cell, and poorly differentiated adenocarcinoma: Japanese Pathologist's view. The 1st KGCA-JGCA Joint session: Korean International Gastric Cancer (KINGCA) week 2021. Seoul, Korea (web), Oct 1, 2021.
20. 木曾有里、小松明子、今泉雅之、江坂四季音、中島裕理、児島宏哉、白幡浩人、鈴木明美、野中敬介、井下尚子、新井富生 : 腎癌に対する化学・免疫療法後に心嚢液・胸水に肉腫様変化を示した成分を認めた一例. 第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会. 鳥取(web), 11月20日~21日, 2021.
21. 高橋寿枝、大庭和人、田村嘉章、松川美保、三井秀雄、今林悦子、阿部光一郎、館鼻 彩、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、井下尚子、荒木 厚 : 無症候性、生化学的所見陰性の後腹膜パラガングリオ-

マの一例. 第 31 回臨床内分泌代謝 Update. 大阪, 11 月 26 日~27 日, 2021.

22. 松原知康、齊藤祐子、村山繁雄、新井富生、井原涼子、東原真奈、仁科裕史、金丸和富、岩田 淳、亀山征史、今林悦子、徳丸阿耶、石橋賢士、豊原 潤、石井賢二：(学会奨励賞受賞) ^{11}C -PIB PET を実施した 22 剖検例における Centiloid と病理診断との対比. 第 40 回日本認知症学会学術集会. 東京, 11 月 26 日~28 日, 2021.
23. 新井富生：パネルディスカッション 6 MSI 型胃癌の全て—MSI 型胃癌における臨床的、病理学的意義 高齢者における MSI-H 胃癌の臨床病理学的特徴. 第 94 回日本胃癌学会総会. 横浜, 3 月 4 日, 2022.

<講師等院外活動>

1. 江坂四季音, 症例検討 症例 3 (脾臓), 第 57 回東京都細胞検査士会学術研修会, 2021.7.17-31, 東京 (Web)
2. 新井富生, 消化管癌の病理. 香川大学医学部 (Web). 2021.11.1.
3. 新井富生, 実習講義, 消化管. 香川大学医学部 (Web). 2021.11.1.
4. 新井富生, 老化の病理. 浜松医科大学. 2021.11.2.
5. 新井富生, 老化の病理. 富山大学医学部 (Web). 2021.11.10.

薬剤科

<雑誌投稿>

1. 島崎良知：臨床に役立つQ&A 服薬管理と服薬支援のポイントを教えてください。ポリファーマシー対策の取り組み. Geriatric Medicine. 第59巻（第9号）901～903. 2021年9月
2. Takigawa M：Utility of the Berlin Initiative Study-1 equation for the prediction of serum vancomycin concentration in elderly patients aged 75 years and older. Pharmazie. 2022 Feb 1;77(2):76-80.

<講演会等>

1. 宮本俊一：「臨床研究を実施するためのきまりと最新の動向」. 東京都病院薬剤師会. 第1回臨床研究専門薬剤師養成研究会. WEB開催. 2021年5月20日
2. 島崎良知：高齢者専門病院におけるポリファーマシー活動. 神奈川県病院薬剤師会令和3年度DI（Drug information）スキルアップ講座. WEB講演, 6月5日, 2021年
3. 島崎良知：当施設におけるポリファーマシーの取り組みと地域連携. 多摩ファーマシーセミナー. WEB講演, 7月1日, 2021年
4. 島崎良知：高齢者施設におけるポリファーマシー対策. 日本病院薬剤師会第1回高齢者薬物療法に従事する薬剤師のための研修会. AP浜松町（WEB講演）, 7月11日, 2021年
5. 島崎良知：エリアWEBセミナー. JR東京総合病院及び近隣医療機関（保険薬局含む）対象. WEB講演, 10月7日, 2021年
6. 宮本俊一：「生命・医学系指針を遵守して臨床研究をする薬剤師へ」. 東京都病院薬剤師会. 第10回臨床研究を実施・支援するための研修会. WEB開催. 2021年11月6日
7. 島崎良知：高齢者ポリファーマシー対策. バイエルメディカルニュース. TKPガーデンシティPREMIUM 神保町 WEB対談, 12月4日, 2021年
8. 宮本俊一：「臨床研究で薬剤師のレベルアップをしよう!」. 国立病院機構関信地区薬剤師会. 第5回臨床研究推進研修会. WEB開催. 2022年1月22日
9. 島崎良知：2021年ポリファーマシーの取り組みの通知に関して. 東京都病院薬剤師会会員実務研究会. WEB講演, 2月15日, 2022年

<学会発表>

1. 片原憂斗：高齢者専門病院におけるポリファーマシー対策の活動報告～ソウル大学病院との合同カンファレンスを通して～. 第5回日本老年薬学会学術大会. 都市センターホテル, 5月, 2021年
2. 片原憂斗：高齢者専門病院における減薬と再入院率の関連について. 第31回日本医療薬学会年会. WEB開催, 10月, 2021年
3. 前田陽平：病棟担当薬剤師による感染症治療介入の現状調査とポケット版ツールの有用性の検討. 第31回日本医療薬学会年会. WEB開催, 10月, 2021年
4. 宮本俊一：データウェアハウス (DWH) から抽出したスコアリング情報の利用. 第42回臨床薬理学会学術総会. 仙台国際センター, 12月, 2021年

栄養科

＜学会発表＞

1 引地和佳子：第26・27回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会「経口摂取開始のためのフローチャート」運用における啓蒙活動内容および成果について

＜単行書＞

1 見てできる 認知症ビジュアルガイド 株式会社学研プラス 羽根田千恵 執筆者の一員として参加

高齢者バイオリソースセンター

<原著論文>

1. ◎Matsubara T, ★Izumi Y, Oda M, Takahashi M, Maruyama H, Miyamoto R, Watanabe C, Tachiyama Y, Morino H, Kawakami H, Saito Y, Murayama S: An autopsy report of a familial amyotrophic lateral sclerosis case carrying VCP Arg487His mutation with a unique TDP-43 proteinopathy. *Neuropathology*. 2021 Apr;41(2):118-126. doi: 10.1111/neup.12710. Epub 2021 Jan 7. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
2. ◎★Sugiyama A, Yokota H, Misawa S, Mukai H, Sekiguchi Y, Koide K, Suichi T, Matsushima J, Kishimoto T, Tanei ZI, Saito Y, Ito S, Kuwabara S: Cerebral large artery stenosis and occlusion in POEMS syndrome. *BMC Neurol*. 2021 Jun 24;21(1):239. doi: 10.1186/s12883-021-02260-2. (査読あり) (IF: 2.36, 2021)
3. ◎Mitani TT, Beck G, Kido K, Yamashita R, Yonenobu Y, Ogawa T, Saeki C, Okuno T, Nagano S, Morii E, Hasegawa M, Saito Y, Murayama S, ★Mochizuki H: Amyotrophic lateral sclerosis with speech apraxia, predominant upper motor neuron signs, and prominent iron accumulation in the frontal operculum and precentral gyrus. *Neuropathology*. 2021 Aug; 41(4): 324-331. doi: 10.1111/neup.12763. Epub 2021 Jul 4. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
4. ◎★Sugiyama A, Takeda T, Koide M, Yokota H, Mukai H, Kitayama Y, Shibuya K, Araki N, Ishikawa A, Iose S, Ito K, Honda K, Yamanaka Y, Sano T, Saito Y, Arai K, Kuwabara S: Coexistence of neuronal intranuclear inclusion disease and amyotrophic lateral sclerosis: an autopsy case. *BMC Neurol*. 2021 Jul 9;21(1):273. doi: 10.1186/s12883-021-02306-5. (査読あり) (IF: 2.36, 2021)
5. ◎★Araki W, Kanemaru K, Hattori K, Tsukamoto T, Saito Y, Yoshida S, Takano H, Sakata M, Yokoi Y, Omachi Y, Nagaoka U, Nagao M, Komori T, Tachimori H, Murayama S, Mizusawa H: Soluble APP- α and APP- β in cerebrospinal fluid as potential biomarkers for differential diagnosis of mild cognitive impairment. *Aging Clin Exp Res*. 2022 Feb; 34(2): 341-347. doi: 10.1007/s40520-021-01935-7. Epub 2021 Jul 20. (査読あり) (IF: 3.64, 2021)
6. ◎Kudo M, Wupuer S, Fujiwara M, Saito Y, Kubota S, Inoue K, Takada M, ★Seki K: Specific gene expression in unmyelinated dorsal root ganglion neurons in nonhuman primates by intra-nerve injection of AAV 6 vector. *Mol Ther Methods Clin Dev*. 2021 Aug 8;23:11-22. doi: 10.1016/j.omtm.2021.07.009. eCollection 2021 Dec 10. (査読あり) (IF: 4.32, 2021)
7. ◎★Shinohara M, Hirokawa J, Shimodaira A, Tashiro Y, Suzuki K, Ghenni G, Fukumori A, Matsubara T, Morishima M, Saito Y, Murayama S, Sato N: ELISA evaluation of tau accumulation in the brains of patients with Alzheimer disease. *J Neuropathol Exp Neurol*. 2021 Aug 11; 80(7): 652-662. doi: 10.1093/jnen/nlab047. (査読あり) (IF: 3.69, 2021)
8. ◎Shi Y, Zhang W, Yang Y, Murzin AG, Falcon B, Kotecha A, Beers MV, Tarutani A, Kametani F, Garringer HJ, Vidal R, Hallinan GI, Lashley T, Saito Y, Murayama S, Yoshida M, Tanaka H, Kakita A, Ikeuchi T, Robinson AC, Mann DMA, Kovacs GG, Revesz T, Ghetti B, Hasegawa M, ★Goedert M, ★Scheres SHW: Structure-based classification of tauopathies. *Nature*. 2021 Oct;598(7880):359-363. doi: 10.1038/s41586-021-03911-7. Epub 2021 Sep 29. (査読あり) (IF: 49.96, 2021)
9. ◎Samimi N, Sharma G, Kimura T, Matsubara T, Huo A, Chiba K, Saito Y, Murayama S, Akatsu H, Hashizume Y, Hasegawa M, Farjam M, Shahpasand K, Ando K, ★Hisanaga SI: Distinct phosphorylation profiles of tau in brains of patients with different tauopathies. *Neurobiol Aging*. 2021 Dec; 108: 72-79. doi: 10.1016/j.neurobiolaging.2021.08.011. Epub 2021 Aug 21. (査読あり) (IF: 4.67, 2021)
10. ◎Matsubara T, Saito Y, Kurashige T, Higashihara M, Hasegawa F, Ogasawara M, Iida A, Nishino I, Adachi T, Kubota A, ★Murayama S: Neuropathy/intranuclear inclusion bodies in oculopharyngodistal myopathy: a case report. *eNeurologicalSci*. 2021 Jun 4; 24: 100348. doi: 10.1016/j.ensci.2021.100348. eCollection 2021 Sep. (査読あり) (IF: 1.7, 2021)
11. ◎Sakashita Y, Matsubara T, Takata T, Tanei ZI, Motoda A, Yamazaki M, Kawakami I, Sengoku R, Saito Y, Arai T, Yamada M, ★Murayama S: Lewy pathology of the submandibular gland in Lewy body disease: a report of autopsy cases. *Neuropathology*. 2021 Dec; 41(6): 476-483. doi: 10.1111/neup.12772. Epub 2021 Oct 21. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
12. ◎Sano T, Kawazoe T, Shioya A, Mori-Yoshimura M, Oya Y, Maruo K, Nishino I, Hoshino M, Murayama S, ★Saito Y: Unique Lewy pathology in myotonic dystrophy type 1. *Neuropathology*. 2022 Apr;42(2):104-116. doi: 10.1111/neup.12790. Epub 2022 Feb 23. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
13. ◎Nakano M, Mitsuishi Y, Liu L, Watanabe N, Hibino E, Hata S, Saito T, Saido TC, Murayama S, Kasuga K, Ikeuchi T, Suzuki T, ★Nishimura M: Extracellular release of ILE1/FAM3C and amyloid-beta is associated with the activation of distinct synapse subpopulations. *J Alzheimers Dis*. 2021;80(1):159-174. doi: 10.3233/JAD-201174. (査読あり) (IF: 4.47, 2021)
14. ◎Sobue A, ◎Komine O, ◎Hara Y, Endo F, Mizoguchi H, Watanabe S, Murayama S, Saito T, Saido TC, Sahara N,

- Higuchi M, Ogi T, ★Yamanaka K: Microglial gene signature reveals loss of homeostatic microglia associated with neurodegeneration of Alzheimer's disease. *Acta neuropathologica communications*. 2021, 9:1. (査読あり) (IF: 7.8, 2021)
15. ◎Lövestam S, Schweighauser M, Matsubara T, Murayama S, Tomita T, Ando T, Hasegawa K, Yoshida M, Tarutani A, Hasegawa M, ★Goedert M, ★Scheres SHW: Seeded assembly in vitro does not replicate the structures of α -synuclein filaments from multiple system atrophy. *FEBS Open Bio*. 2021 Apr;11(4):999-1013. doi: 10.1002/2211-5463.13110. Epub 2021 Feb 24. (査読あり) (IF: 2.69, 2021)
 16. ◎Umeda K, ◎★Kawakami I, Ikeda K, Tanei ZI, Matsubara T, Murayama S, Murahashi Y, Niizato K, Oshima K, Iritani S: Case report of anorexia nervosa showing periventricular gliosis at autopsy. *Neuropathology*. 2021 Apr;41(2):127-132. doi: 10.1111/neup.12711. Epub 2021 Jan 20. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
 17. ◎Beck G, Hirozawa D, Honma K, Baba K, Sumi H, Morii E, Murayama S, ★Mochizuki H: Adult-Onset biotinidase deficiency induces acutely progressing leukoencephalopathy. *Neurol Clin Pract*. 2021 Jun; 11: e383-e386. (査読あり) (IF:1.61, 2021)
 18. ◎★Fukumoto T, Sakashita Y, Katada F, Takeuchi R, Miyamoto R, Izumi Y, Sato S, Shibayama H, Takahashi K, Suzuki T, Nakamichi K, Murayama S, Fukutake T: "Burnt-out" progressive multifocal leukoencephalopathy in idiopathic CD4(+) lymphocytopenia. *Neuropathology*. 2021 Dec;41(6):484-488. doi: 10.1111/ neup.12773. Epub 2021 Sep 30. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
 19. ◎Jin M, Jin X, ★Homma H, Fujita K, Tanaka H, Murayama S, Akatsu H, Tagawa K, ★Okazawa H : Prediction and verification of the AD-FTLD common pathomechanism based on dynamic molecular network analysis. *Commun Biol*. 2021 Aug 12;4(1):961. doi: 10.1038/s42003-021-02475-6. (査読あり) (IF: 4.17, 2021)
 20. ◎★Sakaue S, ◎Kanai M, Tanigawa Y, Karjalainen J, Kurki M, Koshiha S, Narita A, Konuma T, Yamamoto K, Akiyama M, Ishigaki K, Suzuki A, Suzuki K, Obara W, Yamaji K, Takahashi K, Asai S, Takahashi Y, Suzuki T, Shinozaki N, Yamaguchi H, Minami S, Murayama S, Yoshimori K, Nagayama S, Obata D, Higashiyama M, Masumoto A, Koretsune Y, FinnGen Ito K, Terao C, Yamauchi T, Komuro I, Kadowaki T, Tamiya G, Yamamoto M, Nakamura Y, Kubo M, Murakami Y, Yamamoto K, Kamatani Y, Palotie A, Rivas MA, Daly MJ, ★Matsuda K, ★Okada Y : A cross-population atlas of genetic associations for 220 human phenotypes. *Nat Genet*. 2021 Oct, 53(10): 1415-1424. doi: 10.1038/s41588-021-00931-x. Epub 2021 Sep 30. (査読あり) (IF: 38.33, 2021)
 21. ◎Tanaka H, Kondo K, Fujita K, Homma H, Tagawa K, Jin X, Jin M, Yoshioka Y, Takayama S, Masuda H, Tokuyama R, Nakazaki Y, Saito T, Saido T, Murayama S, Ikura T, Ito N, Yamamori Y, Tomii K, Bianchi ME, ★Okazawa H : HMGB1 signaling phosphorylates Ku70 and impairs DNA damage repair in Alzheimer's disease pathology. *Commun Biol*. 2021 Oct 11;4(1):1175. doi: 10.1038/s42003-021-02671-4. (査読あり) (IF: 4.17, 2021)
 22. ◎Tanaka T, Fukuma K, Abe S, Matsubara S, Motoyama R, Mizobuchi M, Yoshimura H, Matsuki T, Manabe Y, Suzuki J, Ikeda S, Kamogawa N, Ishiyama H, Kobayashi K, Shimotake A, Nishimura K, Onozuka D, Koga M, Toyoda K, Murayama S, Matsumoto R, Takahashi R, Ikeda A, ★Ihara M, P S Investigators : Antiseizure medications for post-stroke epilepsy: a real-world prospective cohort study. *Brain Behav*. 2021 Sep; 11(9): e2330. doi: 10.1002/brb3.2330. Epub 2021 Aug 22. (査読あり) (IF: 2.71, 2021)
 23. ◎Watanabe N, Nakano M, Mitsuishi Y, Hara N, Mano T, Iwata A, Murayama S, Suzuki T, Ikeuchi T, ★Nishimura M : Transcriptional downregulation of FAM3C/ILEI in the Alzheimer's brain. *Hum Mol Genet*.2021 Dec 17;31(1):122-132. doi: 10.1093/hmg/ddab226. (査読あり) (IF: 6.15, 2021)
 24. ◎Watanabe R, ★Kawakami I, Ikeuchi T, Murayama S, Arai T, Akiyama H, Onaya M, Hasegawa M : An autopsied FTDP-17 case with MAPT IVS 10 + 14C > T mutation presenting with frontotemporal dementia. *eNeurologicalSci*. 2021 Jul 28; 24: 100363. doi: 10.1016/j.ensci.2021.100363. eCollection 2021 Sep. (査読あり) (IF: 1.61, 2021)
 25. ◎Tokumaru AM, Saito Y, ★Murayama S: Diffusion-weighted imaging is key to diagnosing specific diseases. *Magn Reson Imaging Clin N Am*. 2021 May; 29 (2), 163-183.doi: 10.1016/j.mric.2021.02.001 (招待、査読なし、2.26)
 26. ◎Yamadera M, ★Saito T, Shinohara M, Nishio H, Murayama S, Fujimura H : Spinal muscular atrophy type 2 patient who survived 61 years :an autopsy case report. *Neuropathology*. 2022 Apr;42(2):141-146. doi: 10.1111/neup.12784. Epub 2022 Feb 10. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
 27. ◎Kubo SI, Matsubara T, Taguchi T, Sengoku R, Takeuchi A, ★Saito Y : Parkinson' s disease with a typical clinical course of 17 years overlapped by Creutzfeldt-Jakob disease: an autopsy case report. *BMC Neurology*. 2021 Dec 10;21(1):480. doi: 10.1186/s12883-021-02504-1. (査読あり) (IF:2.293, 2021)
 28. ◎Hayakawa M, Matsubara T, Mochizuki Y, Takeuchi C, Minamitani M, Imai M, Kosaki K, Arai T, ★Murayama S : An autopsied case report of spastic paraplegia with thin corpus callosum carrying a novel mutation in the SPG11 gene: widespread degeneration with eosinophilic inclusions. *BMC Neurology*. 2022 Jan 3;22(1):2. doi: 10.1186/s12883-021-02514-z. (査読あり) (IF:2.293, 2021)
 29. ◎★Beck G, Shigenobu K, Ukon K, Yamashita R, Yonenobu Y, Morii E, Hasegawa M, Ikeda M, Murayama S, Mochizuki H: An autopsy case of Alzheimer' s disease with amygdala- predominant Lewy pathology presenting with frontotemporal dementia-like psychiatric symptoms. *Neuropathology*.2022 Apr;42(2):147-154. doi: 10.1111/neup.12786. Epub 2022 Feb 2. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)

30. ©Matsubara T, Kameyama M, Tanaka N, Sengoku R, Orita M, Furuta K, Iwata A, Arai T, Maruyama H, Saito Y, ★ Murayama S : Autopsy validation of the diagnostic accuracy of 123 I-metaiodobenzyl-guanidine myocardial scintigraphy for Lewy body disease. *Neurology*. 2022 Apr 19;98(16):e1648-e1659. doi: 10.1212/WNL.0000000000200110. Epub 2022 Mar 7. (査読あり) (IF:9.91, 2021)
31. ©Mizutani M, Sone D, Sano T, Kimura Y, Maikusa N, Shigemoto Y, Goto Y, Takao M, Iwasaki M, Matsuda H, Sato N, ★Saito Y: Histopathological validation and clinical correlates of hippocampal subfield volumetry based on T2-weighted MRI in temporal lobe epilepsy with hippocampal sclerosis. *Epilepsy Res*. 2021 Nov;177:106759. doi: 10.1016/j.epilepsyres.2021.106759. Epub 2021 Sep 9. (査読あり) (IF: 3.04, 2021)
32. ©Schweighauser M, Arseni D, Bacioglu M, Huang M, Lövestam S, Shi Y, Yang Y, Zhang W, Kotecha A, Garringer HJ, Vidal R, Hallinan GI, Newell KL, Tarutani A, Murayama S, Miyazaki M, Saito Y, Yoshida M, Hasegawa K, Lashley T, Revesz T, Kovacs GG, Swieten Jv, Takao M, Hasegawa M, Ghetti B, Spillantini MG, Ryskeldi-Falcon B, Murzin AG, ★Goedert M, ★Scheres SHW : Age-dependent formation of TMEM106B amyloid filaments in human brains. *Nature*. 2022 May;605(7909):310-314. doi: 10.1038/s41586-022-04650-z. Epub 2022 Mar 28. (査読あり) (IF: 49.96, 2021)

<総説>、<学会発表>は、研究所テーマ神経病理参照。

高齢者健康増進センター

<講演会> (演者：杉江正光)

1. 2021年6月28日「老若男女問わず学びたいフレイルのこと」(一社)日本健康寿命延伸協会(石巻市)笹川保健財団 地域啓発活動助成事業
2. 2021年7月15日「フレイルを深掘り～サルコペニア・カヘキシアも含めて考える～」大塚製薬工場(Web配信 全国)
3. 2021年8月31日『フレイルの概要 と その(非)薬物療法の可能性について』大塚製薬工場 (Web配信 社員向け)
4. 2021年9月16日「薬局だからこそできるフレイル対策」大塚製薬工場(Web配信 板橋区薬剤師会)
5. 2021年9月28日「病と老いを加速するフレイルを知ろう」(一社)日本健康寿命延伸協会主催(石巻市)笹川保健財団 地域啓発活動助成事業
6. 2021年10月21日「病と老いを加速するフレイルを知ろう」大塚製薬工場(Web配信 江戸川区薬剤師会)
7. 2021年11月16日『フレイルの概要 と その(非)薬物療法の可能性について』大塚製薬工場 (Web配信 川崎市多摩区薬剤師会)
8. 2021年12月6日「高齢者診療から見た心不全のはなし」大塚製薬工場 (Web配信 社員向け)
9. 2021年12月13日「知っているようで知らない 高血圧の話」東村山市(市役所内にて)
10. 2022年2月22日「高齢者に多い病態像」(一社)日本健康寿命延伸協会主催(仲町ふれあい館 板橋区)
11. 2022年3月8日「フレイル予防 オンラインセミナー」株式会社データホライゾン (Web配信 全国自治体向け)
12. 2022年3月24日「～フレイル・介護予防～鹿児島県の骨粗鬆症と転倒骨折を考える」株式会社データホライゾン (Web配信 鹿児島県内自治体向け)

<論文・雑誌>

1. Masamitsu Sugie et al. Peak oxygen uptake correlates with indices of sarcopenia, frailty, and cachexia in older Japanese outpatients. JCSM Rapid communication. Volume4, Issue2 July/December 2021 Pages 141-149
2. Masamitsu Sugie et al. Prevalence, overlap, and interrelationships of physical, cognitive, psychological, and social frailty among community-dwelling older people in Japan. Arch Gerontol Geriatr. May-Jun 2022;100:104659.

<単行本>

1. 専門家が教える超入門フレイル予防講座『健康寿命をかなえよう』監修 原田和昌 企画・編著 杉江正光 (発行) 一般社団法人 日本健康寿命延伸協会 (第2版)

<取材・その他>

1. 1st Healthy Aging Prize for Asian Innovation 国内優秀事例, 公益財団法人 日本国際交流センター主催
2. 杉江正光、奈良毬那、堀田晴美. NHK2021年10月31日 東洋医学ホントのチカラ 健康長寿SP～(2022年1月10日放送)
3. <プレスリリース 2022年3月11日>高齢化日本一の地域におけるフレイル調査から判明した負のフレイルスパイルの存在

4. 2022年3月29日 東京新聞（2022年6月15日掲載「高齢化日本一 群馬県南牧村」）
5. 研究監修 「設置式ナノミストバスによるフレイル対策効果の検証」トヨタ自動車株式会社、（一社）日本健康寿命延伸協会共同研究事業
6. 研究監修 「コロナ禍におけるオンライン体操教室によるフレイル（身体的、精神・心理的、社会的）予防効果の検証」太陽生命少子高齢社会研究所、（一社）日本健康寿命延伸協会共同研究事業、東村山市共同事業

■病院部門課題研究費で行われた研究

指定研究 重点医療(血管病、高齢者がん、認知症)に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
所属	氏名		
循環器内科	石川 譲治	鳥羽 梓弓・原田 和昌 田村 嘉章・荒木 厚 青山 里恵・宮脇 正次	フレイル患者の至適血圧レベルに関する研究
薬剤科/HAIC研究開発ユニット	宮本 俊一	上野 悟・吉岡 まみ	DWH (Date Ware House) より抽出されるテキストデータの加工方法の検討
薬剤科/HAIC研究開発ユニット	吉岡 まみ	宮本 俊一・金井 信雄 宮腰 重三郎・宮本 鋼	高齢者骨髄液における造血幹細胞の選択的増幅および機能解析
精神科	扇澤 史子	古田 光・岡本 一枝 今村 陽子・高岡 陽子 青島 希・白取 絹恵 畠山 啓・齋藤 久美子 大森 祐貴・松井 仁美 井藤 佳恵・栗田 圭一	代表的な変性性認知症における重症度別の行動・心理症状と介護負担の特徴：DBD13、J-ZBI_8、DASC-21を用いた検討
循環器内科	青山 里恵	亀山 征史・石川 譲治 原田 和昌・宮崎 剛	Clinical significance of the assessment of valvular calcification using ¹⁸ F-Sodium Fluoride positron emission tomography
リハビリテーション科	桑田 直弥	河地 由恵・牧田 彩加 後藤 貴浩・外埜 静奈 寺泉 泉・加藤 貴行 金丸 晶子	Web動画視聴を利用した認知リハビリテーション実施の試み
血液透析科	板橋 美津世	武井 卓	高齢維持透析患者のフレイル関連因子の探索
腎臓内科	武井 卓	板橋 美津世・山中 法子	高齢慢性腎臓病患者の透析導入時の認知症アセスメントの有用性

指定研究 安心かつ信頼できる質の高い医療に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
所属	氏名		
高齢診療科	岩切 理歌	大川 庭熙・片岡 愛 中山 智博・石川 譲 荒木 厚・島崎 良和 小原 朋也・片原 憂人 大堀 薫	ポリファーマシーの解消に向けて ～10剤以上内服している入院患者の内服の実態と対策
歯科口腔外科	森 美由紀	平野 浩彦	当院における抗凝固薬服用高齢患者の抜歯後出血に関する検討
消化器・内視鏡内科/医療サービス推進課	葦沢 龍人	細野 百合子・横山 晃一 新海 雅樹・辻川 あゆみ 相澤 健太郎・西城 大輔 清水 美圭・深澤 素子 本多 由美・後上 順子	保健診療からみた当院における診療の質に関する研究

萌芽的研究 独創的な発想に基づく挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

所属		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
糖尿病・代謝・内分泌内科	田村 嘉章	荒木 厚・千葉 優子 豊島 堅志・大庭 和人 小寺 玲美・館鼻 彩 全 秀剛・高橋 久枝 松尾 佳紀・勝俣 悠 佐藤 元彌・村尾 雄治 小林 文乃	高齢糖尿病患者においてフレイルおよび動脈硬化をもっともよく予測する胸腹部CTで計測可能な指標の検討

III 統計

外来診療の状況

1. 診療科別外来患者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

診療科 区分	高 齢 合 計	感 染 症 内 科	腎 臓 内 科	内 代 糖 分 尿 病	循 環 器 内 科	呼 吸 器 内 科	内 視 鏡 化 器 内 科	脳 卒 中 科	脳 神 経 内 科	血 液 内 科	化 学 療 法 科	緩 和 ケ ア 内 科	リ ウ マ チ 病 科	精 神 科	も の 忘 れ 外 来	外 科	血 管 外 科	心 臓 血 管 外 科	脳 神 経 外 科	呼 吸 器 外 科	整 形 ・ 脊 椎 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	麻 酔 科	歯 科 口 腔 外 科	シ リ ハ ビ リ テ ー リ	骨 粗 鬆 症 外 来	フ レ イ ル 外 来	放 射 線 診 療 科	救 急 科	合 計
	科・	科	科	科・	科	科	科・	科・	科	科	科	科	科・	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
外来患者数	3,503	880	8,274	16,846	28,327	9,625	12,543	12,651	3,986	2,441	744	6,957	6,295	2,232	9,247	1,479	2,579	3,193	1,221	13,737	7,497	13,143	16,300	5,682	655	12,042	2,215	2,672	610	2,631	6,819	217,026	
延診療日数	242	95	242	242	242	242	242	242	196	242	242	242	242	242	242	72	147	242	193	242	192	198	242	238	-	242	242	147	242	242	365	293	
1日平均数	14.5	9.3	34.2	69.6	117.1	39.8	51.8	52.3	20.3	10.1	3.1	28.7	26.0	9.2	38.2	20.5	17.5	13.2	6.3	56.8	39.0	66.4	67.4	23.9	-	49.8	9.2	18.2	2.5	10.9	18.7	740.7	

※「フレイル外来」としては平成27年10月より計上している。
※「婦人科」は平成26年4月より取り下げ
※麻酔科外来数は、術前診察(麻酔科IC)数をさす

2. 診療科・初診・再診別外来患者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

診療科 区分	高 齢 合 計	感 染 症 科	腎 臓 内 科	内 代 糖 分 尿 病	循 環 器 内 科	呼 吸 器 内 科	内 視 鏡 化 器 内 科	脳 卒 中 科	脳 神 経 内 科	血 液 内 科	化 学 療 法 科	緩 和 ケ ア 内 科	リ ウ マ チ 病 科	精 神 科	も の 忘 れ 外 来 科	外 科	血 管 外 科	心 臓 血 管 外 科	脳 神 経 外 科	呼 吸 器 外 科	整 形 ・ 脊 椎 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	麻 酔 科	歯 科 口 腔 外 科	シ リ ハ ビ リ テ ー リ	骨 粗 鬆 症 外 来	フ レ イ ル 外 来	放 射 線 診 療 科	救 急 科	合 計	比 率 （ ％ ）
外来患者数	初診	500	133	159	330	925	205	1,014	1,126	110	45	277	133	288	652	498	109	107	330	54	1,040	268	358	1,162	393	1	2,399	82	59	6	527	4,583	17,873	8.2
	再診	3,003	747	8,115	16,516	27,402	9,420	11,529	11,525	3,876	2,396	467	6,824	6,007	1,580	8,749	1,370	2,472	2,863	1,167	12,697	7,229	12,785	15,138	5,289	654	9,643	2,133	2,613	604	2,104	2,236	199,153	91.8
	合計	3,503	880	8,274	16,846	28,327	9,625	12,543	12,651	3,986	2,441	744	6,957	6,295	2,232	9,247	1,479	2,579	3,193	1,221	13,737	7,497	13,143	16,300	5,682	655	12,042	2,215	2,672	610	2,631	6,819	217,026	100.0

年度別外来患者数の推移

（単位：人）

年 度	合 計	初診再掲	1日当り
平成18年度	215,821	14,416	734
平成19年度	211,005	13,757	718
平成20年度	197,483	13,041	674
平成21年度	196,672	11,950	671
平成22年度	200,359	12,135	681
平成23年度	206,835	13,405	701
平成24年度	208,334	13,456	711
平成25年度	201,059	14,193	703
平成26年度	220,759	14,781	753
平成27年度	235,697	15,966	801
平成28年度	238,896	15,298	815
平成29年度	238,600	15,907	814
平成30年度	235,248	16,029	808
令和元年度	230,199	16,162	794
令和2年度	205,600	15,231	699
令和3年度	217,026	17,873	741

3. 外来初診予約時の状況

(1) 年齢別新規予約患者数

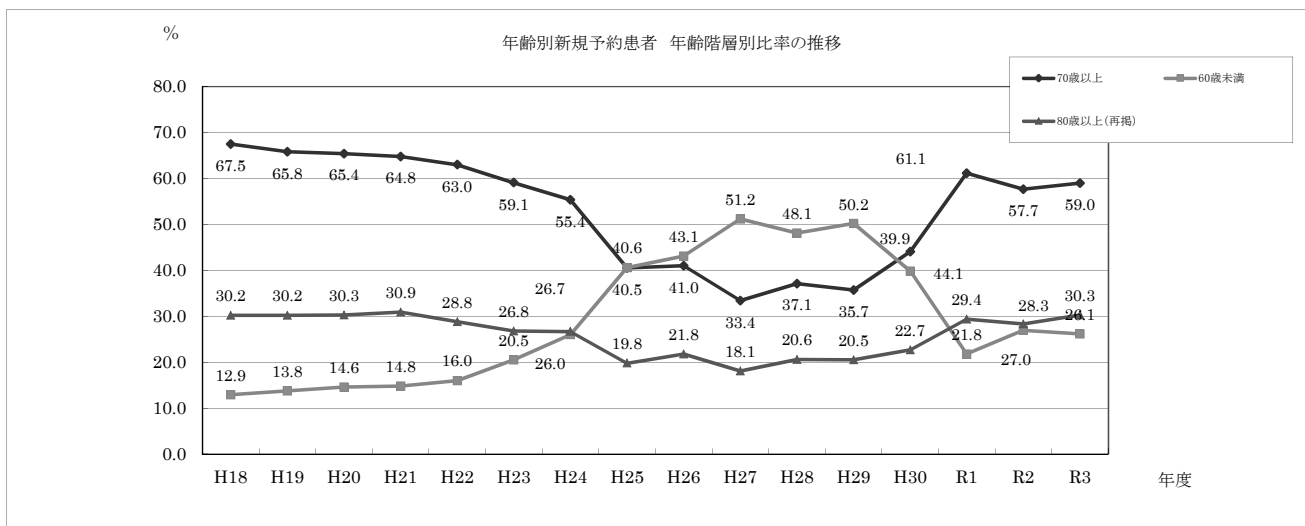
令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

区分 年齢階層	男	女	計
90歳以上	150	310	460
85～89歳	313	533	846
80～84歳	414	647	1,061
75～79歳	465	602	1,067
70～74歳	579	597	1,176
65～69歳	352	333	685
60～64歳	278	200	478
55～59歳	210	181	391
50～54歳	191	193	384
45～49歳	165	108	273
40～44歳	126	72	198
40歳未満	394	404	798
計	3,637	4,180	7,817

(2) 年齢別新規予約患者数の年度別推移

（上段：人、下段：比率％）

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
平成18年度	954 12.9%	1,455 19.6%	2,763 37.3%	2,238 30.2%	7,410 100.0%
平成19年度	978 13.8%	1,441 20.4%	2,512 35.6%	2,134 30.2%	7,065 100.0%
平成20年度	935 14.6%	1,281 20.0%	2,256 35.2%	1,943 30.3%	6,415 100.0%
平成21年度	894 14.8%	1,229 20.4%	2,045 33.9%	1,863 30.9%	6,031 100.0%
平成22年度	991 16.0%	1,299 21.0%	2,110 34.2%	1,776 28.8%	6,176 100.0%
平成23年度	1,552 20.5%	1,536 20.3%	2,443 32.3%	2,022 26.8%	7,553 100.0%
平成24年度	2,233 26.0%	1,590 18.5%	2,463 28.7%	2,294 26.7%	8,580 100.0%
平成25年度	2,147 40.6%	996 18.8%	1,096 20.7%	1,047 19.8%	5,286 100.0%
平成26年度	1,852 43.1%	683 15.9%	827 19.2%	937 21.8%	4,299 100.0%
平成27年度	2,498 51.2%	752 15.4%	746 15.3%	883 18.1%	4,879 100.0%
平成28年度	1,845 48.1%	568 14.8%	631 16.5%	790 20.6%	3,834 100.0%
平成29年度	2,082 50.2%	584 14.1%	628 15.2%	851 20.5%	4,145 100.0%
平成30年度	1,924 39.9%	774 16.0%	1,034 21.4%	1,095 22.7%	4,827 100.0%
令和元年度	1,697 21.8%	1,331 17.1%	2,478 31.8%	2,288 29.4%	7,794 100.0%
令和2年度	1,904 27.0%	1,085 15.4%	2,074 29.4%	2,000 28.3%	7,063 100.0%
令和3年度	2,044 26.1%	1,163 14.9%	2,243 28.7%	2,367 30.3%	7,817 100.0%



(3)新規予約患者の地域別患者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

(1) 区部

区	名	一般
千代田		3
中央		6
港		10
新宿		47
文京		61
台東		22
墨田		9
江東		16
品川		17
目黒		13
大田		21
世田谷		42
渋谷		21
中野		52
杉並		56
豊島		943
北		498
荒川		21
板橋		4,111
練馬		858
足立		77
葛飾		27
江戸川		15
区部計		6,946

(2) 市・郡・島しょ部

市	名	一般
八王子		9
立川		5
武蔵野		11
三鷹		7
青梅		1
府中		2
調布		11
町田		8
小金井		5
小平		6
日野		3
東村山		13
国分寺		3
国立		1
福生		2
狛江		4
東大和		4
清瀬		5
東久留米		13
武蔵村山		1
多摩		3
稲城		3
羽村		1
西東京		30
市部計		151
郡部		1
島しょ部		4
市・郡・島しょ部		156

(3) 他県

埼玉	488
神奈川	54
千葉	68
その他	105
他県計	715

総計(1)+(2)+(3)	7,817

新規予約患者の地域別患者数

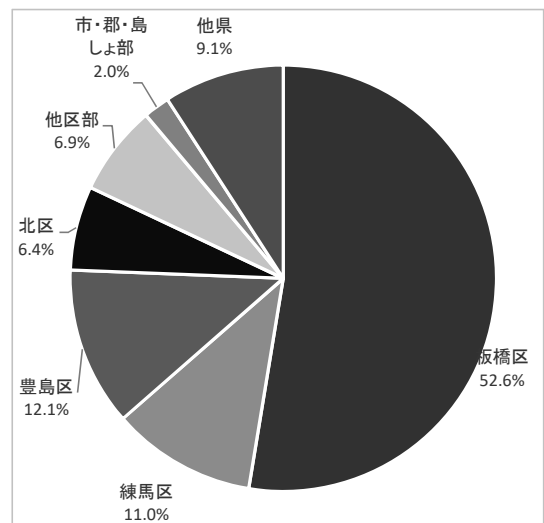
年4月1日～令和4年3月31日(単位 比率:% 人数:人)

地域	比率	人数
板橋区	52.6	4,111
練馬区	11.0	858
豊島区	12.1	943
北区	6.4	498
他区部	6.9	536
市・郡・島しょ部	2.0	156
他県	9.1	715
合計	100.0	7,817

(4)新規予約患者の平均年齢

令和3年4月1日～令和4年3月31日

男	女	全体
65.9	69.9	68.0



4. 救急患者取扱状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

			総 数	
			うち入院	
全 体	時 間 内	救 急 車	1,322	738
		そ の 他	2,981	1,179
		小 計	4,303	1,917
	時 間 外	救 急 車	3,011	1,638
		そ の 他	3,025	858
		小 計	6,036	2,496
計		10,339	4,413	
休 日（再 掲）	時 間 内	救 急 車	254	143
		そ の 他	501	91
		小 計	755	234
	時 間 外	救 急 車	459	215
		そ の 他	386	95
		小 計	845	310
計		1,600	544	

救急患者数の推移

（単位：人）

年 度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総 数		8,672	8,174	7,802	7,305	6,607	7,365	8,012	7,974	9,200	10,102	9,860	10,218	9,782	9,667	8,683	10,339
再 掲	入 院	4,373	4,031	3,872	3,444	3,105	3,587	3,799	3,507	4,293	4,709	4,492	4,697	4,558	4,338	3,689	4,413
		(50.4)	(49.3)	(49.6)	(47.1)	(47.0)	(48.7)	(47.4)	(44.0)	(46.7)	(46.6)	(45.6)	(46.0)	(46.6)	(44.9)	(42.5)	(42.7)
	救 急 車	3,534	3,357	3,258	2,906	2,618	2,971	3,447	3,434	3,986	4,371	4,399	4,497	4,247	4,143	3,575	4,333
		(40.8)	(41.1)	(41.8)	(39.8)	(39.6)	(40.3)	(43.0)	(43.1)	(43.3)	(43.3)	(44.6)	(44.0)	(43.4)	(42.9)	(41.2)	(41.9)
	時 間 外	4,473	4,388	4,203	3,754	3,388	3,657	4,333	4,521	5,560	5,990	5,744	6,021	5,193	5,549	4,690	6,036
		(51.6)	(53.7)	(53.9)	(51.4)	(51.3)	(49.7)	(54.1)	(56.7)	(60.4)	(59.3)	(58.3)	(58.9)	(53.1)	(57.4)	(54.0)	(58.4)
掲	休 日	時 間 内	878	858	733	616	595	647	786	833	924	915	902	971	934	940	755
		時 間 外	632	676	628	641	470	564	720	712	985	943	990	973	928	889	845
	計	1,510	1,534	1,361	1,257	1,065	1,211	1,506	1,545	1,909	1,858	1,892	1,944	1,862	1,829	1,381	1,600
		(17.4)	(18.8)	(17.4)	(17.2)	(16.1)	(16.4)	(18.8)	(19.4)	(20.8)	(18.4)	(19.2)	(19.0)	(19.0)	(18.9)	(15.9)	(15.5)

※（ ）は年度内の比率（％）である。

入院退院の状況

5. 病床利用状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

診療科	項目	実稼働 病床数	延利用数	病床利用率	入 院 者 数	退 院 者 数	死亡 (再掲)	診療科移動		(再掲) 緊急 入院
								転入	転出	
	床	人	%	人	人	人	人	人	人	人
総合内科・高齢診療科	18	6,510	95.9%	150	418	23	322	44	345	
感 染 症 内 科		0		0	0	0	0	0	0	
腎 臓 内 科	14	5,424	100.3%	130	276	14	162	16	189	
糖 尿 病 ・ 代 謝 ・ 内 分 泌 内 科	31	10,990	89.1%	211	649	22	503	58	515	
循 環 器 内 科	48	18,239	98.9%	938	1,217	60	339	61	791	
呼 吸 器 内 科	17	6,075	89.5%	229	376	29	173	14	226	
消化器・内視鏡内科	26	10,464	106.7%	1,136	1,509	40	435	37	549	
脳神経内科・脳卒中科	28	13,831	125.5%	650	903	30	316	60	546	
血 液 内 科	26	7,429	81.9%	258	315	32	65	6	101	
化 学 療 法 科	10	2,850	82.3%	87	121	9	39	5	54	
緩 和 ケ ア 内 科	20	5,272	75.3%	183	266	179	35	1	35	
在宅医療連携病床		48		3	4	0	0	0	0	
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 科	4	2,053	140.6%	101	106	1	14	4	24	
精 神 科	30	8,529	77.9%	201	237	0	28	3	17	
外 科 ・ 血 管 外 科	40	12,724	92.9%	1,058	1,175	22	182	63	296	
心 臓 血 管 外 科	9	3,153	130.2%	113	134	14	36	7	41	
呼 吸 器 外 科		1,124		57	59	2	15	17	14	
脳 神 経 外 科	12	4,679	129.5%	238	269	16	58	27	199	
整 形 ・ 脊 椎 外 科	40	13,511	95.0%	521	545	2	51	29	224	
皮 膚 外 科	5	1,525	83.6%	74	90	0	22	4	34	
泌 尿 器 科	8	2,634	90.2%	318	356	5	46	5	65	
眼 科	17	4,184	69.5%	2,081	2,092	0	14	1	26	
耳 鼻 咽 喉 科	2	370	50.7%	47	52	0	9	3	25	
歯 科 口 腔 外 科	2	206	28.2%	52	51	0	0	0	3	
リハビリテーション科	2	519	53.4%	18	37	1	21	2	23	
救 急 科	4	2,395		2,483	54	23	2	2,420	71	
放 射 線 診 療 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S C U	6	(再掲) 1,973	-	(再掲) 349	(再掲) 16	(再掲) 8	(再掲) 60	(再掲) 393	-	
I C U	6	(再掲) 1,899	-	(再掲) 272	(再掲) 38	(再掲) 32	(再掲) 452	(再掲) 687	-	
計	458	144,738	86.7%	11,337	11,311	524	2,887	2,887	4,413	

※科別病床利用率は年度内における病床数変更を勘案して計算している。

※実稼働病床数は令和4年3月31日時点の病床数を記載している。

6. 病床利用率

算定病床	実稼働病床	458
A 延病床数	(実稼働病床×365日)	166,878
B 延入院患者数		144,738
B/A 病床利用率		86.7%

〔病床回転率〕
$$\frac{365 \text{ 日}}{\text{平均在院日数}} = \frac{365}{11.8} = 30.9 \text{ 回}$$

〔病床利用率の推移〕

年度	延入院 患者数	病床利用率 %	
		予算定床	実稼働病床
平成18年度	207,477	88.0	85.9
平成19年度	211,153	89.3	87.2
平成20年度	198,613	86.4	85.0
平成21年度	184,179	-	88.7
平成22年度	182,937	-	88.2
平成23年度	178,414	-	85.7
平成24年度	175,572	-	84.5
平成25年度	160,888	-	79.7
平成26年度	162,276	-	80.8
平成27年度	173,510	-	86.2
平成28年度	175,503	-	87.4
平成29年度	172,483	-	85.9
平成30年度	175,011	-	87.2
令和元年度	167,020	-	83.0
令和2年度	141,327	-	78.5
令和3年度	144,738	-	86.7

7. 月別入退院状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日 (単位:人)

区分 月別	入院	退院			月末在籍 患者数	延入 院患者数
		一般		計		
		退院	死亡			
4月	928	905	43	948	344	11,886
5月	819	769	50	819	344	11,824
6月	894	888	26	914	324	11,141
7月	974	891	36	927	371	12,163
8月	974	919	47	966	379	12,964
9月	936	915	50	965	350	11,950
10月	968	954	34	988	330	11,343
11月	976	897	32	929	377	11,727
12月	968	989	57	1,046	299	12,191
1月	1,007	841	56	897	409	12,822
2月	899	852	47	899	409	11,925
3月	994	966	47	1,013	390	12,802
計	11,337	10,786	525	11,311	-	144,738
比率(%)	-	95.4	4.6	100.0	-	-

入退院患者数の年度別推移

(単位:人)

年度	入院	退院		
		生存退院	死亡	計
平成18年度	10,648	10,193	507	10,700
平成19年度	9,978	9,507	447	9,954
平成20年度	9,346	8,916	470	9,386
平成21年度	8,816	8,916	405	9,321
平成22年度	9,013	8,609	414	9,023
平成23年度	9,150	8,760	414	9,174
平成24年度	9,494	9,098	396	9,494
平成25年度	9,569	9,145	447	9,592
平成26年度	11,576	11,112	456	11,568
平成27年度	13,053	12,512	517	13,029
平成28年度	13,179	12,642	539	13,181
平成29年度	13,135	12,680	566	13,246
平成30年度	12,605	12,105	534	12,639
令和元年度	12,470	11,934	500	12,434
令和2年度	10,552	10,132	443	10,575
令和3年度	11,337	10,786	525	11,311

8. 平均在院日数

令和3年4月1日～令和4年3月31日

※平均在院日数＝24時在院患者延数/(新入院患者数+退院患者数)/2 (単位:日)

年 度	一般病棟	精神病棟	眼科(再掲)	リハビリ(再掲)	病院全体
平成18年度	17.9	36.6	3.2	44.9	18.4
平成19年度	19.5	48.0	3.3	45.6	20.2
平成20年度	19.7	43.5	2.8	49.2	20.2
平成21年度	19.2	51.7	2.1	46.8	19.9
平成22年度	18.7	41.6	2.0	51.1	19.3
平成23年度	17.9	38.6	1.8	42.5	18.5
平成24年度	17.0	36.5	1.8	48.0	17.5
平成25年度	15.1	32.7	1.7	48.4	15.8
平成26年度	12.3	31.6	0.9	37.5	13.0
平成27年度	11.7	30.6	0.9	29.8	12.3
平成28年度	11.4	32.0	1.0	24.9	12.3
平成29年度	10.9	34.5	1.0	17.8	12.1
平成30年度	11.7	32.3	1.0	26.7	12.9
令和元年度	11.2	29.9	1.1	26.8	12.4
令和2年度	11.1	34.1	1.0	21.2	12.4
令和3年度	10.7	38.5	1.0	17.5	11.8

※令和3年度の施設基準平均在院日数は**13.1日**である。(平成23年度より7対1の施設基準日数)

9. 入院患者の年齢別内訳

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

区分 年齢階層	男	女	計
90歳以上	394	835	1,229
85～89	706	1,191	1,897
80～84	1,030	1,265	2,295
75～79	991	914	1,905
70～74	876	725	1,601
65～69	445	330	775
60～64	338	161	499
55～59	212	107	319
50～54	184	110	294
50歳未満	353	170	523
計	5,529	5,808	11,337

入院患者の年齢別内訳年度別推移

（単位：上段・人、下段・％）

年 度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
平成24年度	305 3.2	1,145 12.1	3,178 33.5	4,860 51.2	9,488 100.0
平成25年度	356 3.7	1,177 12.3	3,326 34.8	4,693 49.1	9,552 100.0
平成26年度	501 4.3	1,308 11.3	4,117 35.6	5,650 48.8	11,576 100.0
平成27年度	669 5.1	1,538 11.8	4,428 33.9	6,418 49.2	13,053 100.0
平成28年度	723 5.5	1,755 13.3	4,163 31.6	6,538 49.6	13,179 100.0
平成29年度	767 5.8	1,621 12.3	4,297 32.7	6,450 49.1	13,135 100.0
平成30年度	716 5.7	1,494 11.9	4,062 32.2	6,333 50.2	12,605 100.0
令和元年度	823 6.6	1,218 9.8	4,229 33.9	6,200 49.7	12,470 100.0
令和2年度	779 7.4	1,087 10.3	3,496 33.1	5,190 49.2	10,552 100.0
令和3年度	1,136 10.0	1,274 11.2	3,506 30.9	5,421 47.8	11,337 100.0

10. 入院患者平均年齢(入院時)

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：歳）

男	女	計
73.8	78.9	76.4

11. 地域別入院患者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(1) 区部

(単位:人)		
区	名	一般
千代田		3
中央		13
港		14
新宿		54
文京		84
台東		24
墨田		7
江東		12
品川		10
目黒		10
大田		9
世田谷		47
渋谷		15
中野		52
杉並		61
豊島		1,277
北		671
荒川		29
板橋		6,705
練馬		1,186
足立		109
葛飾		27
江戸川		20
区部計		10,439

(2) 市・郡・島しょ部

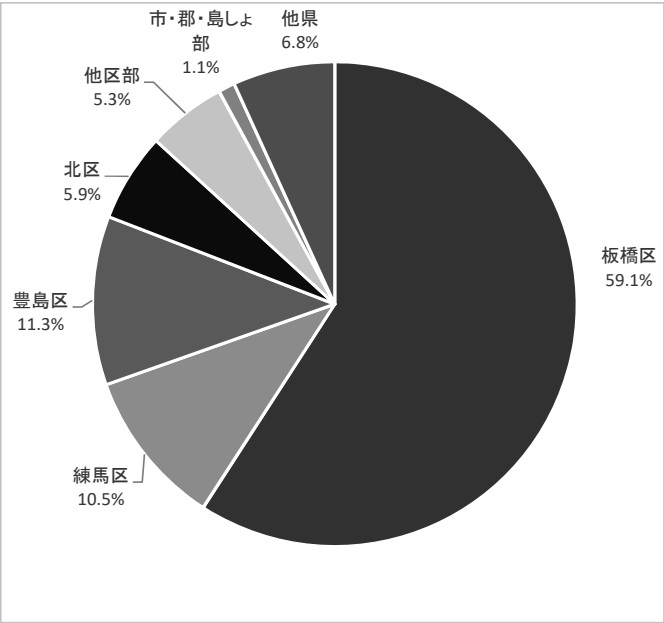
(単位:人)		
市	名	一般
八王子市		10
立川市		3
武蔵野市		8
三鷹市		8
府中市		2
調布市		3
町田市		5
小金井市		4
小平市		5
日野市		7
東村山市		15
国分寺市		2
国立市		1
福生市		1
狛江市		3
東大和市		3
清瀬市		4
東久留米市		8
武蔵村山市		1
多摩市		2
稲城市		3
西東京市		22
市部計		120
郡部		0
島しょ部		5
市・郡・島しょ部		125

(3) 他県

(単位:人)		
埼玉		616
神奈川		27
千葉		57
その他		73
他県計		773

総計(1)+(2)+(3)	11,337

(単位・比率:%、人数:人)		
地域	比率	人数
板橋区	59.1	6,705
練馬区	10.5	1,186
豊島区	11.3	1,277
北区	5.9	671
他区部	5.3	600
市・郡・島しょ部	1.1	125
他県	6.8	773
合計	100.0	11,337



12. 退院者の在院期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

	内科系	リハビリ	外 科 系			歯科口腔外科	救急科	計	比率 (%)
			一般外科	眼科	外科計				
30日以下	5,748	30	2,312	2,092	4,404	51	56	10,289	91.0%
31日以上～60日以下	532	6	303	0	303	0	0	841	7.4%
61日以上～90日以下	80	1	50	0	50	0	0	131	1.2%
91日以上～180日以下	35	0	13	0	13	0	0	48	0.4%
181日以上～365日以下	1	0	1	0	1	0	0	2	0.0%
366日以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合 計	6,396	37	2,679	2,092	4,771	51	56	11,311	100.0%
比 率 (%)	56.5%	0.3%	23.7%	18.5%	42.2%	0.5%	0.5%	100.0%	—

退院者の在院期間年度別推移

(上段:人・下段:割合)

年 度	30日以下	31～60日	61日以上	計
平成18年度	8,502	1,578	620	10,700
	79.5%	14.7%	5.8%	100.0%
平成19年度	7,641	1,670	643	9,954
	76.8%	16.8%	6.5%	100.0%
平成20年度	7,164	1,723	696	9,583
	74.8%	18.0%	7.3%	100.0%
平成21年度	6,732	1,442	581	8,755
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
平成22年度	7,035	1,361	566	8,962
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
平成23年度	7,271	1,373	530	9,174
	78.5%	15.2%	6.3%	100.0%
平成24年度	7,619	1,419	454	9,492
	80.3%	14.9%	4.8%	100.0%
平成25年度	7,931	1,242	414	9,587
	82.7%	13.0%	4.3%	100.0%
平成26年度	10,068	1,241	259	11,568
	87.0%	10.7%	2.2%	100.0%
平成27年度	11,439	1,336	254	13,029
	87.8%	10.3%	1.9%	100.0%
平成28年度	11,540	1,362	279	13,181
	87.6%	10.3%	2.1%	100.0%
平成29年度	11,569	1,362	259	13,190
	87.7%	10.3%	2.0%	100.0%
平成30年度	10,977	1,352	336	12,665
	86.7%	10.7%	2.7%	100.0%
令和元年度	11,447	796	191	12,434
	92.1%	6.4%	1.5%	100.0%
令和2年度	9,529	852	194	10,575
	90.1%	8.1%	1.8%	100.0%
令和3年度	10,289	841	181	11,311
	91.0%	7.4%	1.6%	100.0%

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

項目 月	一 般 患 者		救 急 外 来 患 者		計		他病院からの 受入件数
	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	剖検数
4 月	43	3	3	0	46	3	0
5 月	50	5	5	0	55	5	2
6 月	26	0	1	0	27	0	2
7 月	36	1	2	0	38	1	0
8 月	47	3	5	0	52	3	2
9 月	50	4	3	0	53	4	1
10 月	34	2	6	1	40	3	0
11 月	32	2	7	0	39	2	0
12 月	57	7	8	0	65	7	0
1 月	56	4	5	0	61	4	1
2 月	47	5	7	0	54	5	1
3 月	47	3	9	0	56	3	1
合計	525	39	61	1	586	40	10
剖検率	7.4%		1.6%		6.8%		

死亡者、死亡率の年度別推移

年 度	退院患者 数(人)	死亡退院 患者数(人)	合計	死亡率(%)
平成23年度	8,760	414	9,174	4.5%
平成24年度	9,098	396	9,494	4.2%
平成25年度	9,145	447	9,592	4.7%
平成26年度	11,112	456	11,568	3.9%
平成27年度	12,512	517	13,029	4.0%
平成28年度	12,642	539	13,181	4.1%
平成29年度	12,625	565	13,190	4.3%
平成30年度	12,105	534	12,639	4.2%
令和元年度	11,934	500	12,434	4.0%
令和2年度	10,132	443	10,575	4.2%
令和3年度	11,934	525	12,434	4.2%

死亡率＝
$$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者合計数(死亡退院も含む)}} \times 100$$

14. 年齢別死亡者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

区分 年齢階層	計	比率
60歳未満	27	5.1%
60～64	17	3.2%
65～69	30	5.7%
70～74	67	12.8%
75～79	69	13.1%
80～84	88	16.8%
85～89	104	19.8%
90歳以上	123	23.4%
計	525	100.0%
平均年齢	80.9	

死亡者の平均年齢の推移

（単位：歳）

年度	計
平成28年度	79.8
平成29年度	80.5
平成30年度	80.5
令和元年度	81.1
令和2年度	79.8
令和3年度	80.9

年齢別死亡者数の推移

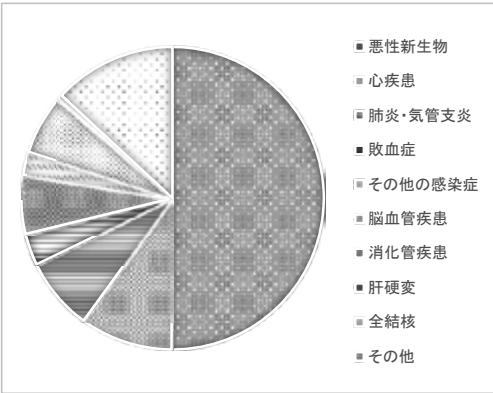
（単位：人）

年度	60歳未満		60～69歳		70～79歳		80歳以上		計	
平成28年度	30	5.6%	65	12.1%	110	20.4%	334	62.0%	539	100.0%
平成29年度	26	4.6%	51	9.0%	144	25.5%	344	60.9%	565	100.0%
平成30年度	15	2.8%	74	13.9%	135	25.3%	310	58.1%	534	100.0%
令和元年度	25	5.0%	43	8.6%	127	25.4%	305	61.0%	500	100.0%
令和2年度	26	5.9%	48	10.8%	114	25.7%	255	57.6%	443	100.0%
令和3年度	27	5.1%	47	9.0%	136	25.9%	315	60.0%	525	100.0%

15. 死亡原因別死者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

死因	死亡者数	比率(%)
悪性新生物	263	50.1
心疾患	52	9.9
肺炎・気管支炎	41	7.8
敗血症	18	3.4
その他の感染症	33	6.3
脳血管疾患	13	2.5
消化管疾患	33	6.3
肝硬変	1	0.2
全結核	2	0.4
その他	69	13.1
計	525	100.0



死亡原因比率の年度別推移

(単位:%)

年度 死亡原因	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
悪性新生物	39.2	38.4	37.6	30.4	39.4	27.1	30.8	44.3	44.9	50.7	54.7	57.3	57.1	51.6	56.2	50.1
肺炎・気管支炎	20.1	19.2	22.2	11.6	7.9	7.7	6.8	7.1	7.2	11.8	7.6	3.9	7.9	13.8	9.9	7.8
心疾患	8.9	9.9	9.7	10.9	10.3	10.1	12.4	8.2	9.1	9.7	6.5	7.1	8.1	8.8	11.3	9.9
脳血管疾患	10.4	9.6	5.7	8.8	7.0	7.2	7.3	4.7	4.8	1.9	4.1	4.6	2.6	5.0	2.3	2.5
計	78.6	77.1	75.2	61.7	64.6	52.1	57.3	64.3	66	74.1	72.9	72.9	75.7	79.2	79.7	70.3

16. 死亡者の入院期間

(単位:人)

期間	計	比率
1日	18	3.4%
2日～7日	128	24.4%
8日～30日	252	48.0%
～90日	118	22.5%
～180日	9	1.7%
～365日	0	0.0%
計	525	100.0%
平均在院期間	22.4	-

部署別業務状況

17.手術件数 令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術件数	外科	45	37	44	40	45	47	56	44	45	33	38	46	520
	血管外科	0	0	0	0	0	0	14	19	18	14	17	16	98
	脳神経外科	12	13	7	14	15	10	14	13	20	13	15	16	162
	整形外科	40	26	22	24	24	27	25	24	24	26	17	33	312
	脊椎外科	10	7	8	18	13	16	7	10	9	12	10	14	134
	泌尿器科	23	17	26	28	19	23	26	25	27	30	31	39	314
	呼吸器内科	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	6
	眼科	166	151	153	145	152	157	178	213	171	197	188	215	2086
	耳鼻咽喉科	1	5	2	2	5	1	2	4	4	2	3	1	32
	精神科	26	35	36	19	16	17	30	34	14	17	14	17	275
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器内科	8	13	9	9	15	10	11	8	9	6	7	8	113
	皮膚科	3	3	3	2	3	2	4	4	3	3	0	2	32
	心臓血管外科	16	18	14	15	20	16	8	7	9	10	5	8	146
	呼吸器外科	7	4	6	4	7	5	2	1	3	4	6	4	53
	歯科口腔外科	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	8
	消化器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脳神経内科	0	0	0	2	1	2	3	0	1	0	1	1	11
	血液内科	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	5
	腎臓内科	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3	1	1	8
	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		357	331	331	324	338	336	382	409	359	371	354	423	4315

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急手術件数	外科	5	6	3	6	6	4	10	9	5	3	4	4	65
	血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	脳神経外科	5	2	3	3	3	1	3	4	4	4	7	3	42
	整形外科	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	6
	脊椎外科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	泌尿器科	0	0	1	1	1	2	1	1	3	1	1	1	13
	呼吸器内科	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	5
	眼科	3	0	1	1	1	2	1	2	3	0	0	0	14
	耳鼻咽喉科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器内科	0	0	0	2	0	3	1	2	3	0	0	1	12
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	心臓血管外科	5	2	2	3	5	1	5	4	1	1	2	1	32
	呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脳神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		19	12	11	16	17	14	23	22	22	12	15	11	194

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:人)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔科関与・非関与別手術件数	外科	関与	39	32	31	34	34	35	47	34	29	26	33	34	408
		非関与	6	5	13	6	11	11	9	10	16	7	5	11	110
		合計	45	37	44	40	45	46	56	44	45	33	38	45	518
	脳神経外科	関与	4	7	3	6	4	5	5	6	9	6	5	6	66
		非関与	8	6	4	8	11	5	9	6	11	7	10	10	95
		合計	12	13	7	14	15	10	14	12	20	13	15	16	161
	整形外科	関与	35	24	19	21	17	23	20	23	21	22	14	28	267
		非関与	5	2	3	3	7	4	5	1	3	4	3	5	45
		合計	40	26	22	24	24	27	25	24	24	26	17	33	312
	泌尿器科	関与	15	13	17	19	11	14	19	17	22	24	22	28	221
		非関与	8	4	8	8	8	9	7	8	5	6	9	11	91
		合計	23	17	25	27	19	23	26	25	27	30	31	39	312
	眼科	関与	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3	6
		非関与	166	151	153	144	152	157	177	213	171	196	188	212	2080
		合計	166	151	153	145	152	157	178	213	171	197	188	215	2086
	耳鼻咽喉科	関与	1	2	2	2	3	1	2	4	4	2	3	1	27
		非関与	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
		合計	1	5	2	2	5	1	2	4	4	2	3	1	32
	麻酔科	関与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		非関与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器内科	関与	0	3	0	0	2	1	1	0	2	2	1	1	13
		非関与	8	10	9	9	12	9	10	8	7	4	6	7	99
		合計	8	13	9	9	14	10	11	8	9	6	7	8	112
	心臓血管外科	関与	9	12	4	8	7	5	7	5	8	10	5	7	87
		非関与	7	5	10	7	11	11	1	2	1	0	0	1	56
		合計	16	17	14	15	18	16	8	7	9	10	5	8	143
	呼吸器外科	関与	6	4	6	4	7	5	2	1	3	4	5	3	50
		非関与	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
		合計	7	4	6	4	7	5	2	1	3	4	6	4	53
	その他	関与	35	42	45	37	30	34	39	53	27	30	28	36	436
		非関与	4	5	3	6	6	7	21	18	20	20	16	18	144
		合計	39	47	48	43	36	41	60	71	47	50	44	54	580
	計	関与	144	139	127	132	115	123	143	143	125	127	116	147	1581
		非関与	213	191	203	191	220	213	239	266	234	244	238	276	2728
		合計	357	330	330	323	335	336	382	409	359	371	354	423	4309

18.疾病別手術件数

外科

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)							
部位		術式	件数	部位		術式	件数
乳腺	悪性	乳房切除	9	肝・胆・膵	悪性	肝切除術	7
食道	悪性	食道亜全摘術	0			膵体尾部切除術	0
胃・十二指腸	悪性	胃全摘術(残胃全摘含む)	9			膵頭十二指腸切除術	11
		胃切除術	12			拡大胆嚢摘出術	1
		腹腔鏡下胃切除術	2			バイパス	1
		腹腔鏡下胃部分切除術	0		良性	胆嚢摘出術(開腹)	12
	GIST	腹腔鏡下胃部分切除術	1			胆嚢摘出術(腹腔鏡)	41
小腸	小腸腫瘍	小腸部分切除術	3	ヘルニア		鼠径ヘルニア根治術(前方アプローチ)	80
虫垂	虫垂炎	虫垂切除術	6			大腿ヘルニア根治術(前方アプローチ)	5
		腹腔鏡下虫垂切除	12			腹壁瘻ヘルニア根治術	1
結腸・直腸	悪性	開腹結腸切除術	28			臍ヘルニア根治術	2
		腹腔鏡下切除術	34			食道裂孔ヘルニア	1
		(低位)前方切除術	13	イレウス		イレウス解除術	12
		腹腔鏡下前方切除術	13		絞扼	イレウス解除術(腸管切除含む)	5
		腹腔鏡下Mile's 手術	3	穿孔	上部		2
		人工肛門造設術	5		下部		12
	良性	結腸・直腸瘻	2	その他		脾臓摘出	1
		人工肛門造設術	11			CVポート挿入術	41
	S状結腸捻転	結腸切除術	1			内視鏡下胃瘻造設	44
肛門		直腸脱手術	6			その他(局麻手術など)	64
		内痔核	7			計	521
総手術件数 521件							
内緊急手術 54件							

脳神経外科(中央手術室、血管撮影室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)			
術式	件数	術式	件数
脳腫瘍・脊髄腫瘍	5	慢性硬膜下血腫	37
脳動脈瘤・脳動静脈奇形(開頭術)	0	外傷性疾患(血腫除去)	1
脳出血・脳梗塞(開頭術)	1	シャント・ドレナージ	16
頸動脈狭窄(頸動脈内膜剥離術)	0	脳血管バイパス術	0
脳動脈瘤・血管奇形等(血管内手術)	27	その他	5
頸動脈狭窄(血管内治療)	13	計	122
その他の血管内治療(急性期再開通)	17		

皮膚科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)			
術式	件数	術式	件数
皮膚良性腫瘍切除術	16	その他	7
皮膚悪性腫瘍切除術	9	計	32

皮膚悪性腫瘍切除術では基底細胞癌が最も多かった。

整形外科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)			
術式	件数	術式	件数
大腿骨頸部骨折		手外科手術	
骨接合術(CCHS)	2	手根管症候群	27
骨接合術(γ ネイル)	42	肘部管症候群	0
人工骨頭置換術	30	神経剥離・移植	1
小計	74	腫瘍切除	3
その他の骨折		デュブイトレン拘縮	1
その他の骨折	41	腱	3
(手外科関連20件再掲)	26	骨折	26
人工関節手術		胸郭出口症候群	0
人工膝関節	74	ばね指	5
人工膝関節(単顆型)	3	その他	6
人工股関節	65	小計	71
人工肩関節	0	デブリドマン	14
小計	142	その他	9
脊椎関連手術		合計448件	
(頸椎)	23		
(胸椎)	13		
(腰椎)	65		
(経皮的後弯矯正術)	19		
(椎体生検)	3		
小計	123		

泌尿器科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)			
術式		件数	件数
膀胱癌	67	前立腺生検	83
前立腺癌	6	間質性膀胱炎膀胱水圧拡張術	2
膀胱結石	7	尿管ステント交換	78
前立腺肥大	23	膀胱直腸瘻閉鎖	2
腎腫瘍	8	膀胱瘻増設	2
腎瘻増設術	1	その他	14
腎盂尿管腫瘍	3	計	314
尿管鏡	5		
尿管結石(TUL)	8		
尿道狭窄	4		
腎生検	1		

眼科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)	
術式	件数
白内障関連	1,438
硝子体関連	102
緑内障関連	75
外眼部関連	60
硝子体注射関連	375
計	2,075

眼科(中央手術室以外で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)	
術式	件数
マルチカラーレーザー	170
ヤグレーザー	94
計	264

耳鼻咽喉科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)			
術式		術式	件数
鼓室形成術	8	喉頭微細手術	5
顔面神経減圧術	1	甲状腺腫瘍摘出術(含む悪性)	3
内耳窓閉鎖術	1	唾液腺腫瘍摘出術	1
内視鏡下鼻内手術	18	その他	1
頸部リンパ節生検	3	計	47
気管切開術	6		

歯科口腔外科(中央手術室で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)	
術式	件数
顎骨腫瘍摘出術	3
歯根嚢胞摘出術	1
埋伏抜歯術(埋伏過剰歯含む)	13
歯根嚢胞摘出術および顕微鏡視下歯根端切除術	3
悪性腫瘍切除術	1
計	21

歯科口腔外科(中央手術室以外で行われた手術)

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)	
術式	件数
抜歯手術	741
難抜歯(智歯含む)	541
歯根嚢胞摘出手術(歯冠大)	29
腐骨除去手術(歯槽部)	21
顎関節脱臼非観血的整復術・歯	18
顎骨腫瘍摘出術(3cm未満)	10
顎炎等手術1/3顎未満	10
その他	69
計	1,439

19. リハビリテーション取扱実績

令和3年4月1日～令和4年3月31日

項 目			患者数(人)	1ヶ月平均
訓 練 内 訳	理学療法 (PT)	入院	27,647	2,304
		外来	104	9
		計	27,751	2,313
	作業療法 (OT)	入院	11,446	954
		外来	153	13
		計	11,599	967
	言語療法 (ST)	入院	7,224	602
		外来	101	8
		計	7,325	610
	心理療法	入院	6,967	581
		外来	266	22
		計	7,233	603
訓練計		入院	53,284	4,440
		外来	624	52
		計	53,908	4,492
補装具製作		製作	35	3
		修理	34	3
		計	69	6

20. 理学療法実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日				
		入院	外来	計
脳血管	人数	8,250	75	8,325
	単位	13,384	148	13,532
	加算	10,745	0	10,745
廃用	人数	4,861	0	4,861
	単位	7,934	0	7,934
	加算	5,198		5,198
運動器	人数	8,427	0	8,427
	単位	16,702	0	16,702
	加算	14,053		14,053
呼吸器	人数	2,404	0	2,404
	単位	3,885	0	3,885
	加算	3,067		3,067
心大血管	人数	3,336	0	3,336
	単位	5,980	0	5,980
	加算	4,846		4,846
がん患者	人数	186		186
	単位	296		296
緩和ケア	人数	164		164
	単位	261		261
患者数		27,628	75	27,703
単位数		48,442	148	48,590
早期加算件数		37,909		37,909

21. 作業療法実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日				
		入院	外来	計
脳血管	人数	7,241	49	7,290
	単位	11,800	92	11,892
	加算	9,625		9,625
廃用	人数	2,206	1	2,207
	単位	3,781	1	3,782
	加算	2,506		2,506
運動器	人数	1,182	60	1,242
	単位	2,287	132	2,419
	加算	1,768		1,768
呼吸器	人数	542	0	542
	単位	923	0	923
	加算	739		739
心大血管	人数	98	0	98
	単位	130	0	130
	加算	111		111
がん患者	人数	105		105
	単位	170		170
緩和ケア	人数	72		72
	単位	110		110
患者数		11,446	110	11,556
単位数		19,201	225	19,426
早期加算件数		14,749		14,749

22. 言語療法実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日				
		入院	外来	計
脳血管	人数	5,005	97	5,102
	単位	7,677	264	7,941
	加算	6,398		6,398
廃用	人数	1033	0	1033
	単位	1,442	0	1,442
	加算	883		883
呼吸器	人数	973	3	973
	単位	1,370	3	1,373
	加算	944		944
心大血管	人数			
	単位			
	加算			
がん患者	人数	11		11
	単位	22		22
	加算			
摂食機能療法	人数	65		65
	単位	65		65
緩和ケア	人数	12		12
	単位	16		16
患者数		7,099	100	7,196
単位数		10,592	267	10,859
早期加算件数		8,225		8,225

23. 心理検査等取扱件数

令和3年4月1日～令和4年3月31日			
項目	入院	外来	合計
知能検査(極複雑)	0	0	0
知能検査(複雑)	0	0	0
知能検査(容易)	541	24	565
人格検査(極複雑)	0	0	0
人格検査(複雑)	45	0	45
人格検査(容易)	8	1	9
その他の心理検査(極複雑)	0	0	0
その他の心理検査(複雑)	314	125	439
その他の心理検査(容易/その他)	892	47	939
その他の心理検査(容易/MMSE)	424	2	426
合計	2,224	199	2,423

24. 調剤実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 処方箋枚数	区 分	入院	外来	合計
	院内処方箋枚数	89,241	4,560	93,801
	院外処方箋枚数		115,594	115,594
	小計	89,241	120,154	209,395
	院外処方箋発行率		96.2%	
	注射処方箋枚数	89,937	17,068	107,005
	合計	179,178	137,222	316,400

2 調 剤 数	2-(1)処方調剤							
	区 分		入 院		外 来		合 計	
			件数	剤数	件数	剤数	件数	剤数
	内 用	散剤	14,618	85,927	387	3,692	15,005	89,619
		錠剤	189,900	1,267,121	6,231	82,873	196,131	1,349,994
		水剤	3,646	15,090	1,200	1,550	4,846	16,640
		頓服	7,404	52,946	1,286	9,588	8,690	62,534
		小 計	215,568	1,421,084	9,104	97,703	224,672	1,518,787
	外 用	湿布・含嗽・吸入・洗浄	7,384	28,368	239	1,839	7,623	30,207
		軟膏・散剤・坐剤	7,024	36,389	240	1,558	7,264	37,947
		点眼耳鼻剤	8,569	9,841	51	75	8,620	9,916
		小 計	22,977	74,598	530	3,472	23,507	78,070
	注射剤(在宅注射等)		3,324	3,722	10	10	3,334	3,732
計		241,869	1,499,404	9,644	101,185	251,513	1,600,589	
2-(2)注射処方せんによる調剤								
個人セット調剤		315,433	604,579	23,963	36,750	339,396	641,329	
調剤計		557,302	2,103,983	33,607	137,935	590,909	2,241,918	

25. 製剤実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:剤)

内 用	散 剤 500g	719	外 用	軟 膏 g	1,650
	水 剤 500ml	5		点眼・耳鼻 5mlまたは5g	169
	頓 剤 1回分	17,306		小 計	2,266
	小 計	18,030		滅菌外用剤 50ml	12,863
外 用	散 剤 500g	0	注 射 剤 50ml		107
	水 剤 500ml	447	合 計		12,970

26. 院外処方箋発行率

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
院外処方箋枚数	133,973	128,852	113,718	115,594
外来処方箋総枚数	137,961	132,700	117,149	120,154
院外処方箋発行率(%)	97.1%	97.1%	97.1%	96.2%

27. 薬品管理状況

(1) 採用薬品品目数

令和4年3月31日現在

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
注射薬	599	621	634	641
内用薬	735	739	755	764
外用薬	248	250	251	261
その他	0	0	0	0
計	1,582	1,610	1,640	1,666

※ 緊急購入薬品は含まない

※ 平成22年度より薬価未収載薬品も含め、保険薬事典に準じた区分とする。

(2) 薬品入出庫状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入庫件数	23,117	23,133	21,651	22,510
出庫件数	273,512	268,966	250,388	261,096

28. 薬効別薬品使用比率(薬価)

令和3年4月1日～令和4年3月31日

薬 効 名	金 額(薬価)	比 率 (%)
精神神経用剤	56,176.04	0.0%
循環器用剤	37,274,216.24	2.2%
呼吸器用剤	31,045,168.08	1.8%
消化器用剤	15,853,888.40	0.9%
外皮用剤	3,393,277.54	0.2%
ビタミン剤	2,806,983.61	0.2%
滋養強壮剤	15,637,938.30	0.9%
血液・体液用剤	110,483,053.17	6.4%
抗悪性腫瘍剤	709,287,497.90	41.2%
抗生物質・抗菌剤	228,065,203.40	13.3%
生物学的製剤	234,219,083.00	13.6%
その他	332,445,961.10	19.3%
合 計	1,720,568,446.78	100%

29.麻薬取扱状況

区分	品名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
注射薬	オピスタン注35mg	A	—	—	—	—
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	A	8	99	123	178
	塩酸モルヒネ注10mg	A	482	197	363	530
	塩酸モルヒネ注50mg	A	752	334	553	675
	塩酸モルヒネ注200mg	A	3,318	107	76	116
	フェンタニル注射液0.1mg「テルモ」	A	—	1,328	9,728	13,085
	レミフェンタニル 静注用20mg		—	893	1,013	1,001
	オキファスト注10mg	A	1,244	990	1,208	978
	オキファスト注50mg	A	1,106	805	741	607
	ナルペイン注20mg	A	2,161	1,976	1,406	1,530
	ケタラール静注用50mg	A	245	439	44	10
	ケタラール筋注用500mg	V	128	46	45	19
内用剤	アブストラル舌下錠100 μ g	T	552	154	251	512
	アブストラル舌下錠200 μ g	T	75	216	22	445
	アヘンチンキ	mL	—	—	212	131
	MSコンチン錠10mg	T	953	501	1,415	816
	MSコンチン錠30mg	T	107	158	486	976
	オキシコドン徐放錠5mg	T	6,534	11,316	8,041	—
	オキシコドン徐放錠5mgNX	T	—	—	4,318	8,529
	オキシコドン徐放錠20mg	T	28	1,182	1,809	—
	オキシコドン徐放錠20mgNX	T	—	—	340	1,353
	オキシコドン徐放錠40mg	T	326	799	906	258
	オキシコドン徐放錠40mgNX	T	—	—	—	794
	オキシコンチンTR錠5mg	T	—	—	—	22
	オブソ内服液 5mg	包	428	387	511	384
	オブソ内服液 10mg	包	770	75	329	657
	タペンタ錠 25mg	T	—	—	—	—
	タペンタ錠 100mg	T	—	—	—	—
	メサペイン錠 5mg	T	605	1,175	1,536	930
	メサペイン錠 10mg	T	2,130	1,774	2,304	1,928
	ナルサス錠 2mg	T	953	988	757	631
	ナルサス錠 12mg	T	56	0	23	0
	ナルサス錠 24mg	T	83	0	0	174
	ナルラピド錠 4mg	T	15	30	40	0
	オキノーム散 2.5mg	包	3,348	3,114	2,761	3,003
	オキノーム散 5mg	包	1,160	1,620	1,708	1,030
	オキノーム散 10mg	包	666	508	568	415
	オキノーム散 20mg	包	596	592	625	1,045
	モルベス細粒2% (10mg0.5g)	包	339	866	750	136
	モルベス細粒6% (10mg0.5g)	包	—	—	347	26
	コデインリン 酸塩散10%	g	204	263	60	338
	モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包10mg「フジモト」	包	—	—	—	54
	モルヒネ塩酸塩水和物	g	15	10	8	0
	モルヒネ塩酸塩水和物1%	g	—	485	480	12
外用剤	アンペック坐剤10mg	個	138	53	30	75
	デュロテップMTパッチ2.1mg	枚	26	4	14	18
	デュロテップMTパッチ4.2mg	枚	—	—	—	—
	フェントステープ0.5mg	枚	67	727	775	1,242
	フェントステープ1mg	枚	1,158	1,179	846	1,091
	フェントステープ2mg	枚	773	620	844	616
	フェントステープ4mg	枚	716	184	661	456

30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務

(単位: 件)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
向精神薬取扱件数	内用・外用	613	624	448	346
	注射	2,525	2,468	2,379	2,368
覚醒剤原料取扱件数	内用・外用	40	70	70	40

31. 外来服薬指導実施状況

(1) 月別患者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位: 人)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者数	158	210	188	222	289	230	176	174	226	324	305	386	2,888

(2) 項目別相談件数

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位: 件)

総合相談	薬の変更	薬効	用法	副作用	院外説明	その他	合計
0	0	1,263	2,245	222	0	875	4,605

32. 外来がん患者指導業務

(単位: 件)

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
指導件数	519	595	546	880
がん患者指導管理料3算定件数	123	152	161	282
連携充実加算算定件数	—	—	225	481
抗がん剤電話サポート件数	9	20	28	43

33.病棟業務実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
服薬指導回数	1,802	1,544	1,663	1,360	1,569	1,529	1,577	1,527	1,484	1,514	1,362	1,503	18,434
薬剤管理指導料													
325点算定件数	500	422	504	342	443	423	452	433	407	438	398	412	5,174
380点算定件数	618	546	558	491	565	526	495	530	551	571	509	590	6,550
麻薬加算件数	13	9	16	10	17	13	5	7	9	15	7	3	124
退院時薬剤情報管理 指導料算定件数	375	310	369	296	332	348	381	361	388	349	347	393	4,249

*薬剤管理指導実施病棟： ICU/CCU、SCU

5東(心臓外科、呼吸器外科、呼吸器内科、血管外科)

5西(循環器内科)

6東(整形外科、脊椎外科、眼科)

6西(総合内科、リハビリテーション科、歯科、糖尿病・代謝・内分泌内科、整形・脊椎外科)

7東(眼科、外科)

7西(外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、皮膚科、総合内科、高齢診療科)

8東(膠原病・リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、神経内科)

8西(消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科)

9東(コロナ対応病床)

9西(コロナ対応病棟)

10東 病棟閉鎖中

10西(脳神経内科、脳卒中科)

11東(精神科)

11西(血液内科、化学療法科)

12階(緩和ケア内科)

34.無菌製剤(抗がん剤・TPN・末梢点滴混注)処方箋取扱数

(単位:枚)

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
枚数	7,441	6,615	7,132	7,566

35.医薬品情報業務

(単位:枚)

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
情報収集件数	527	484	452	821
情報提供件数	662	548	498	586
情報誌発行件数	5	5	6	6
薬事委員会取扱件数	434	339	300	321

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

製 剤 名	取扱数(延べ)	取扱数(実数)	使用数	使用率(%)
赤血球濃厚液	7,499	6,717	6,635	98.8%
洗浄赤血球	4	4	4	100.0%
新鮮凍結血漿	2,408	2,004	1,960	97.8%
濃厚血小板	12,970	12,880	12,820	99.5%
HLA適合血小板	340	340	340	100.0%
自己血	260	288	244	84.7%
輸血用血液 合計	23,481	22,233	22,003	99.0
5%アルブミン (本)	957	983	897	91.3%
20%アルブミン (本)	1,209	1,267	1,184	93.4%
アルブミン製剤 合計	2,166	2,250	2,081	92.5

- ・輸血用血液は200mlを1単位として算出した。
- ・各製剤ごとの使用数の比較では、赤血球製剤は約5%増・血小板製剤は前年同等、新鮮凍結血漿と自己血は約7%減であった。
- ・アルブミン製剤は5%・20%共に約10%の増加であり、全アルブミン製剤の使用グラム数は23,052.5gであった。

37.病理学的業務実施状況

(1) 病理解剖

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	66	47	63	43	50
作製ブロック数(個)	7,339	6,114	7,208	4,349	4,770
ガラス標本数(枚)	21,662	16,876	20,136	14,003	15,082
肉眼・顕微鏡写真(枚)	5,406	4,258	5,715	8,004	5,415

平成28年度以前は神経病理分を含まない。

(2) 手術・生検組織学的検査

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	3,441	3,213	3,154	2,919	2,871
作製ブロック数(個)	8,261	7,619	8,701	7,662	8,326
ガラス標本数(枚)	26,366	24,995	28,605	25,037	21,603
肉眼・顕微鏡写真(枚)	5,312	4,688	5,413	9,159	7,366

(3) 細胞診

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	1,798	1,680	1,723	1,641	1,579
ガラス標本数(枚)	4,295	3,975	3,685	3,416	3,189
顕微鏡写真(枚)	2,086	1,894	1,775	1,413	1,465
術中迅速(件)				60	52

(4) 特殊検査

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
術中迅速	86	82	100	163	95
免疫染色	752	699	966	985	810
電子顕微鏡検査	41	15	139	246	40
検査中迅速(ROSE)	—	15	20	17	15

ROSE (Rapid on-site cytologic evaluation) は、平成30年度から導入

(5) 診療科別剖検率一覧 (暦年)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
循環器内科	10	/ 64 (15.6%)	5	/ 76 (6.6%)	11	/ 76 (14.5%)	4	/ 62 (6.5%)	6	/ 60 (10.0%)
脳神経内科	6	/ 25 (24.0%)	5	/ 20 (25.0%)	3	/ 15 (20.0%)	4	/ 21 (19.0%)	7	/ 31 (22.6%)
呼吸器内科	3	/ 22 (13.6%)	2	/ 32 (6.3%)	0	/ 32 (0.0%)	1	/ 26 (3.8%)	0	/ 29 (0.0%)
消化器内科	5	/ 62 (8.1%)	3	/ 54 (5.6%)	4	/ 45 (8.9%)	2	/ 26 (7.7%)	4	/ 40 (10.0%)
血液内科	4	/ 40 (10.0%)	3	/ 29 (10.3%)	4	/ 22 (18.2%)	2	/ 16 (12.5%)	3	/ 32 (9.4%)
総合診療科・ 感染症内科	3	/ 17 (17.6%)	1	/ 19 (5.3%)	0	/ 18 (0.0%)	1	/ 16 (6.3%)	1	/ 22 (4.5%)
糖尿病・代謝・ 内分泌内科	3	/ 14 (21.4%)	3	/ 15 (20.0%)	6	/ 19 (31.6%)	2	/ 13 (15.4%)	2	/ 22 (9.1%)
緩和ケア科	5	/ 217 (2.3%)	0	/ 202 (0.0%)	4	/ 172 (2.3%)	2	/ 179 (1.1%)	1	/ 180 (0.6%)
外科	0	/ 21 (0.0%)	2	/ 17 (11.8%)	4	/ 19 (21.1%)	3	/ 16 (18.8%)	5	/ 24 (20.8%)
心臓血管外科	4	/ 9 (44.4%)	5	/ 6 (83.3%)	5	/ 14 (35.7%)	4	/ 9 (44.4%)	5	/ 14 (35.7%)
脳血管外科	3	/ 17 (17.6%)	1	/ 14 (7.1%)	1	/ 16 (6.3%)	0	/ 11 (0.0%)	0	/ 16 (0.0%)
泌尿器科	0	/ 5 (0.0%)	2	/ 9 (22.2%)	1	/ 7 (14.3%)	3	/ 11 (27.3%)	1	/ 5 (20.0%)
その他	8	/ 52 (15.4%)	5	/ 41 (12.2%)	8	/ 45 (17.8%)	3	/ 37 (8.1%)	4	/ 50 (8.0%)
院内合計	54	/ 565 (9.6%)	37	/ 534 (6.9%)	51	/ 500 (10.2%)	31	/ 443 (7.0%)	39	/ 525 (7.4%)
総計※	66		47		60		43		50	

※総計には救急外来患者と外部医療機関からの委託解剖を含む。

38. 臨床検査実施状況

区分	検査名	総件数
一般	尿定性	33,992
	尿沈渣(鏡検)	22,184
	糞便検査	1,212
	穿刺液	480
	小計	57,868
血液	末梢血液一般	106,307
	血液像(鏡検)	28,590
	出血・凝固検査	33,438
	骨髓像検査	239
	細胞採取液(鏡検)	14
	穿刺液	34
	穿刺液(鏡検)	134
	その他(混和試験・凝集能等)	0
	小計	168,756
臨床化学		112,140
免疫血清		9,438
一般細菌	泌尿器系	2,615
	呼吸器系	2,864
	消化器系	754
	血液・骨髓血	6,737
	穿刺液	292
	その他の部位	673
	小計	15,883
迅速抗酸菌	尿中抗原	350
	インフルエンザ	188
	抗酸菌培養	966
	結核PCR	214
	MACPCR	230
	小計	15,883
新型コロナ	院内 (PCR＋抗原)	13,498
	院内 (研究所)	11,729
	院外 (外部委託)	150
	小計	25,377

令和3年4月1日～令和3年3月31日(単位:件)

区分	検査名	総件数
生理機能	心電図	20,937
	自律神経	887
	血圧脈波	2,020
	運動負荷	10
	肺機能	405
	SAS	130
	脳波	347
	筋・神経	582
	心エコー	7,615
	腹部エコー	2,969
	体表エコー	1,414
	頸動脈エコー	1,296
	血管エコー	2,231
	平衡機能	0
	耳鼻科	2,560
小計		43,403

輸血	ABO血液型	3,741
	交差(血液型)	3,221
	交差適合試験	3,917
	Coombs試験(直接)	144
	Coombs試験(間接)	102
	不規則抗体(血液型)	3,765
	不規則抗体(交差)	2,991
	小計	17,881

採血業務	(外来採血) 63,108
総件数	513,854

39.放射線部門取扱数

令和3年4月1日～令和4年3月31日

区 分			患 者 数						件 数						保険点数
						再掲						再掲			
			計	入院	外来	ポータブル	時間外	デジタル加算	計	入院	外来	ポータブル	時間外	デジタル加算	
単 純 特 殊	(1)単純一般	43,381	19,144	24,237	8,690	3,870	0	97,401	33,454	63,947	0	6,235	0	0	
	(2)断層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(3)MG法	157	0	156	0	0	0	578	0	572	0	0	0	0	
	(4)パントモ・セファロー	1,006	245	761	0	0	0	1,005	245	760	0	0	0	0	
	(5)骨塩定量	1,896	200	1,696	0	0	0	5,266	460	4,806	0	0	0	0	
	(6)その他	5,978	2,513	3,465	0	164	0	2	0	0	0	0	0	0	
	(7)歯科	1,761	351	1,410	0	0	0	2,051	417	1,634	0	0	0	0	
	(8) 小 計	54,179	22,454	31,725	8,690	4,071	0	106,303	34,582	71,721	0	6,272	0	0	
画 造 影	(9)上部消化管	160	138	0	0	0	0	1,968	1,763	0	0	0	0	0	
	(10)下部消化管	90	63	0	0	0	0	744	470	0	0	0	0	0	
	(11)消化管小計	250	201	49	0	32	0	2,712	2,233	479	0	312	0	0	
	(12)肝胆脾	224	215	0	0	0	0	1,012	975	0	0	0	0	0	
	(13)腎膀胱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(14)脊髓控	1	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	
	(15)子宮卵管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(16)神経根ブロック	59	0	55	0	0	0	74	0	68	0	0	0	0	
	(17)その他	170	159	0	0	15	0	574	561	0	0	0	0	0	
	(18)消化管以外小計	454	379	75	0	36	0	1,679	1,561	118	0	90	0	0	
像 血 管 造 影	(19) 小 計	704	580	124	0	68	0	4,391	3,794	597	0	402	0	0	
	(20)脳血管	97	97	0	0	34	0	106	106	0	0	34	0	0	
	(21)心臓血管	636	627	0	0	99	0	1,302	1,279	0	0	572	0	0	
	(22)胸腹血管	52	52	0	0	0	0	56	56	0	0	0	0	0	
	(23)四肢血管	60	60	0	0	0	0	62	62	0	0	0	0	0	
	(24) 小 計	845	836	9	0	150	0	1,526	1,503	23	0	626	0	0	
	診 C T	(25)頭頸部単純	6,362	1,884	4,478	0	1,695	0	258,210	72,075	186,135	0	70,955	0	0
		(26)頭頸部造影	82	0	0	0	0	0	10,610	0	0	0	0	0	0
(27)頭頸部小計		6,444	1,926	4,518	0	1,697	0	268,820	77,855	190,965	0	71,225	0	0	
(28)躯幹部単純		10,885	2,251	8,634	0	2,296	0	1,126,460	229,070	897,390	0	266,210	0	0	
(29)躯幹部造影		3,340	873	2,467	0	336	0	795,320	210,020	585,300	0	78,280	0	0	
(30)躯幹部小計		14,225	3,124	11,101	0	2,632	0	1,921,780	439,090	1,482,690	0	344,490	0	0	
(31)四肢単純		395	116	279	0	0	0	32,260	10,200	22,060	0	0	0	0	
(32)四肢造影		76	25	51	0	0	0	22,280	7,300	14,980	0	0	0	0	
断 M R I	(33)四肢小計	471	141	330	0	3	0	54,540	17,500	37,040	0	220	0	0	
	(34) 小 計	21,140	5,191	15,949	0	4,332	0	2,245,140	534,445	1,710,695	0	415,935	0	0	
	(35)頭部単純	5,301	925	4,376	0	495	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(36)頭部造影	270	107	163	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	
	(37)頭部小計	5,571	1,032	4,539	0	497	0	100	100	0	0	0	0	0	
	(38)躯幹部単純	2,244	425	1,819	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(39)躯幹部造影	130	56	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(40)躯幹部小計	2,374	481	1,893	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	
透 視	(41)四肢単純	95	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(42)四肢造影	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(43)四肢小計	105	26	79	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(44) 小 計	8,050	1,539	6,511	0	517	0	100	100	0	0	0	0	0	
	(45)単純透視	245	216	0	0	0	0	62	0	0	0	0	0	0	
	(46)造影透視	75	73	0	0	0	0	76	75	0	0	0	0	0	
	(47) 小 計	320	289	31	0	8	0	138	128	10	0	0	0	0	
	(48) 合 計	85,238	30,889	54,349	8,690	9,146	0	2,357,598	574,552	1,783,046	0	423,235	0	0	

区 分		患 者 数				件 数				保険点数
		計	入院	外来	時間外(再掲)	計	入院	外来	時間外(再掲)	
核医学	(49)試料測定invitro	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(50)体外測定(形態検査)	4,335	696	3,639	0	168,197	14,158	154,039	0	0
	(51)体外測定(機能検査)	4	0	0	0	13	0	0	0	0
	(52)RI治療	2	0	0	0	2	0	0	0	0
	(53)その他	267	0	245	0	13,710	0	12,909	0	0
	(54) 小 計	4,608	718	3,890	2	181,922	14,959	166,963	1	0
放射線治療	(55)高エネルギーX線	1,259	659	600	0	4,878	2,703	2,175	0	2,398,540
	(56)高エネルギー電子線	14	0	14	0	14	0	14	0	11,760
	(57)密封小線源	1,200	630	570	0	2,765	1,426	1,339	0	406,050
	(58)温熱療法	113	70	43	0	114	71	43	0	448,100
	(59)その他	109	71	38	0	109	71	38	0	118,800
	(60)放射線治療管理料	754	87	667	0	754	87	667	0	166,608
	(61) 小 計	3,449	1,517	1,932	0	8,634	4,358	4,276	0	3,549,858
(62) 総 合 計		93,295	33,124	60,171	9,148	2,548,154	593,869	1,954,285	423,236	3,549,858

血管造影IVR 再掲分		患 者 数			件 数		
		計	入院	外来	計	入院	外来
血管造影IVR	(63)脳血管	19	19	0	168	168	0
	(64)心臓血管	275	274	0	5,754	5,729	0
	(65)胸腹血管	31	31	0	211	211	0
	(66)四肢血管	22	19	0	180	127	0
	(67) 合 計	347	343	4	6,313	6,235	78

放射線治療業務 再掲分		患 者 数			件 数		
		計	入院	外来	計	入院	外来
放射線治療業務	(68)シミュレーター	41	5	36	149	5	144
	(69)計画用CT	184	147	37	15,553	12,114	3,439
	(70)リニアックグラフィー	159	128	31	225	182	43
	(71)線量分布計算	334	181	153	661	453	208
	(72)全身照射	89	55	34	101	67	34
	(73)定位放射線治療	35	27	8	102	76	26
	(74)固定器具加算	20	15	5	20	15	5
	(75)血液照射	44	20	24	44	20	24
	(76)その他	0	0	0	0	0	0
	(77) 合 計	906	578	328	16,855	12,932	3,923

区 分		入院		外来		合計		保険点数
		患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	
	(78)画像診断	30,889	574,552	54,349	1,783,046	85,238	2,357,598	0
	(79)核医学	718	14,959	3,890	166,963	4,608	181,922	0
	(80)放射線治療	1,517	4,358	1,932	4,276	3,449	8,634	3,549,858
	(81) 合 計	33,124	593,869	60,171	1,954,285	93,295	2,548,154	3,549,858

	患者数	件数	撮影料(点数換算)
乳がん検診 再掲分	1,424	3,805	44,631

40.給食実施状況

区分	食 種 名	令和3年度			令和2年度			
		食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	
一 般 食	常食	108,282	296.7	32.0	107,514	294.6	31.8	
	軟食	49,140	134.6	14.5	46,524	127.5	13.8	
	流動食	1,841	5.0	0.5	1,562	4.3	0.5	
	計	159,263	436.3	47.0	155,600	426.3	46.0	
特 別 食	加 算	塩分エネルギー調整食	63,644	174.4	18.8	65,120	178.4	19.3
		エネルギーたんぱく調整食	0	0.0	0.0	5,219	14.3	1.5
		たんぱく調整食	5,770	15.8	1.7	2,597	7.1	0.8
		肝臓食	2,146	5.9	0.6	2,514	6.9	0.7
		潰瘍食	757	2.1	0.2	948	2.6	0.3
		上部消化管術後食	784	2.1	0.2	941	2.6	0.3
		低繊維食	82	0.2	0.0	48	0.1	0.0
		透析食	6,237	17.1	1.8	8,072	22.1	2.4
		嚥下導入食	10,521	28.8	3.1	8,770	24.0	2.6
		その他	0	0.0	0	0	0.0	0
	小 計	89,941	246.4	26.5	94,229	258.2	27.9	
	非 加 算	塩分エネルギー調整食	3,442	9.4	1.0	6,651	18.2	2.0
		低繊維食	1,309	3.6	0.4	1,924	5.3	0.6
		濃厚流動食	19,515	53.5	5.8	15,197	41.6	4.5
		嚥下導入食	41,175	112.8	12.2	41,246	113.0	12.2
		その他	24,228	66.4	7.1	23,209	63.6	6.9
		小 計	89,669	245.7	26.5	88,227	241.7	26.1
	特別食計		179,610	492.1	53.0	182,456	499.9	54.0
合計		338,873	928.4	100.0	338,056	926.2	100.0	

41.再加工及び禁止・個別対応食の状況

区 分	令和3年度			令和2年度		
	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)
再加工食	91,326	250.2	26.9	98,723	270.5	29.2
禁止・個別対応食	114,920	314.8	33.9	128,027	350.8	37.9

42.個人栄養食事指導実施状況

(単位:件)

指導名		令和3年度			令和2年度		
		入 院	外 来	合 計	入 院	外 来	合 計
算 定	糖尿病	171	2,029	2,200	218	1,825	2,043
	腎臓病	77	382	459	79	353	432
	心臓・高血圧	203	455	658	211	412	623
	肝臓病	4	15	19	6	1	7
	胃腸病	17	70	87	13	77	90
	肥満	0	46	46	1	55	56
	脂質異常症	3	99	102	6	99	105
	がん	98	44	142	63	62	125
	摂食・嚥下	29	12	41	36	4	40
	低栄養	36	31	67	35	21	56
	その他	8	5	13	6	24	30
	小計	646	3,188	3,834	674	2,933	3,607
算定外		121	125	246	132	146	278
合計		767	3,313	4,080	806	3,079	3,885

43.集団栄養食事指導実施状況

	令和3年度			令和2年度		
	回 数	人 数		回 数	人 数	
		算 定	算定外		算 定	算定外
糖尿病(入院)	34	99	3	37	117	7
糖尿病(外来)	0	0	0	0	0	0
合 計	34	99	3	37	117	7
		102			124	

44. 在宅看護相談室の看護実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 相談内容と業務内容件数

項目		延件数
相談内容	病状相談	17,665
	介護相談	17,860
	介護用品	0
	地域サービス	18,472
	受診相談	2,965
	入院相談	1,190
	合計	168,017
業務内容	連絡調整	18,255
	退院調整	18,620
	情報収集	18,260
	病状確認	17,935
	カンファレンス	120
	その他	0
連携	院内職員との連携	17,470
	地域関係者との連携	19,205
合計		53,985
利用者	患者・家族	18,145
	院内職員	17,050
	地域関係者	18,790
合計		53,985
方法	電話	17,805
	面談	19,270
	その他	0
合計		37,075

2 調整内容別件数

自宅退院・在宅調整(入院・外来)	512
転院調整	18
介護相談	266
退院前合同カンファレンス	170
合計	966

3 退院支援計画書作成件数: 530

4 退院前合同カンファレンス件数

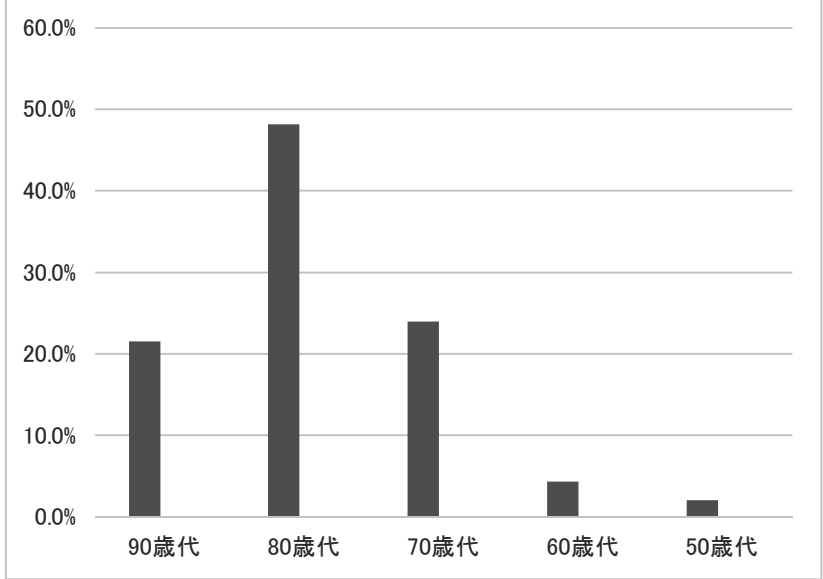
合同カンファレンス	158
共同指導料算定(再掲)	80
介護支援連携加算(再掲)	117

5 退院前後訪問件数

退院前	-
退院当日	61
退院後	-
外泊	-
合計	61

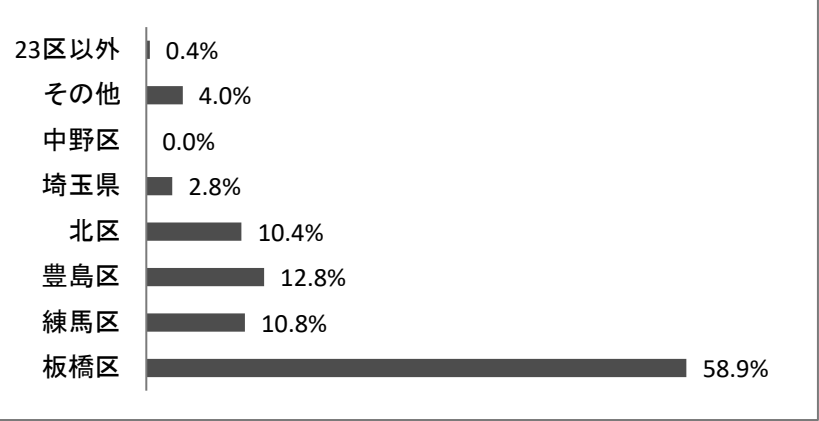
6 調整及び相談ケースの内訳

(1) 年齢別



年齢	人数	割合
90歳代	114	21.5%
80歳代	255	48.1%
70歳代	127	23.9%
60歳代	23	4.3%
50歳代	11	2.0%
合計	530	100.0%

(2) 居住地地域別



	件数	割合
板橋区	312	58.9%
練馬区	57	10.8%
豊島区	68	12.8%
北区	55	10.4%
埼玉県	15	2.8%
中野区	0	0.0%
その他	21	4.0%
23区以外	2	0.4%
合 計	530	100.0%

(3) 疾患別(重複あり)

疾患名	件数
ガン(ターミナル含む)	42
呼吸器(肺炎含む)	60
認知症	18
脳血管障害	50
糖尿病	136
循環器	96
神経難病	30
整形外科	3
その他(皮膚疾患・膠原病等)	9
合 計	444

(4) 退院後に必要な医療処置(重複あり)

処置	件数
吸引	60
在宅酸素	25
褥瘡等処置	30
疼痛管理(麻薬)	30
バルーン	20
胃ろう	15
気管切開	5
HPN(在宅IVH)	30
人工呼吸器(NIP・AC等)	15
インシュリン注射	80
ストマ	30
末梢点滴	20
その他(IOE・PTCD等ドレーン管理等)	15

45. 在宅酸素療法実績

新規導入者

月	3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	計
人数	3	3	2	2	0	1	2	4	2	4	4	4	31

46. 在宅人工呼吸療法実績

新規導入者

月	3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	計
人数	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4

47. 病歴取扱状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

項目 月別	取扱件数			貸出件数
	一般退院	死亡退院	計	死亡者カルテ
4月	905	43	948	4
5月	769	50	819	2
6月	888	26	914	42
7月	891	36	927	39
8月	919	47	966	89
9月	915	50	965	85
10月	954	34	988	2
11月	897	32	929	30
12月	989	57	1,046	2
1月	841	56	897	93
2月	852	47	899	4
3月	966	47	1,013	6
計	10,786	525	11,311	398

48.医療相談室相談件数

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(1) 診療科目別

診療科目		入 院			外 来		
		新 規	継 続	入院計	新 規	継 続	外来計
内 科 系	内科	101	1,786	1,887	8	20	28
	腎臓内科	122	1,259	1,381	12	29	41
	内分泌科	125	1,394	1,519	5	10	15
	循環器科	192	1,721	1,913	8	14	22
	呼吸器科	100	1,235	1,335	21	29	50
	消化器科	103	1,652	1,755	15	19	34
	神経内科	327	2,903	3,230	28	104	132
	血液科	20	281	301	6	28	34
	感染症科	0	0	0	0	0	0
	膠原病・リウマチ科	30	197	227	7	31	38
	緩和ケア病棟入院相談	0	4	4	12	172	184
	緩和ケア内科	21	473	494	2	17	19
	小 計	1,141	12,905	14,046	124	473	597
外 科 系	外科	63	1,233	1,296	19	55	74
	脳外科	121	1,005	1,126	2	11	13
	整形外科	170	2,414	2,584	6	11	17
	心臓血管外科	26	299	325	4	12	16
	皮膚科	14	130	144	1	6	7
	泌尿器科	21	288	309	8	10	18
	脊椎外科	48	597	645	3	4	7
	眼科	3	12	15	3	3	6
	耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0
	放射線科	0	0	0	1	1	2
	在宅医療連携病床	0	0	0	0	0	0
	歯科	1	0	1	0	1	1
	血管外科	4	35	39	0	1	1
	麻酔科	0	0	0	0	0	0
	小 計	471	6,013	6,484	47	115	162
リハビリテーション科		11	97	108	8	8	16
精神科		1	24	25	0	0	0
化学療法科		25	342	367	8	56	64
合 計		37	463	500	16	64	80
未受診・他					34	3	37
総 合 計		1,649	19,381	21,030	221	655	876

(2) 対象別

本人	2,923
家族	13,276
友人・知人	774
院内・事務職員	29,299
医療機関	20,910
区市役所・保健所	3,253
老人保健施設	980
老人ホーム等	1,332
ケアマネージャー	2,653
その他	938
計	76,338

(3) 方法別

面接	14,328
電話	57,815
文書	3,781
訪問	122
その他	1,980
計	78,026

(4) 対応別

情報提供・連絡	48,141
情報収集	16,897
観察・状況把握	6,073
方針協議	5,617
問題整理・心理援助	794
直接援助	504
計	78,026

(5) 主訴別

受診		2,147
入院		949
退院		10,796
転院		44,427
自宅		4,570
施設	長期	1,123
	短期・中期	2,340
	障害、他	244
療養上		3,357
家族		422
経済		2,451
日常生活		397
福祉制度一般		2,398
就労		9
心理的問題		886
その他		1,510
計		78,026

(7) その他業務

クライアント処遇会議		1,459
ボランティア調整		0
会議	院内	658
	院外	32
研修	院内	219
	院外	4
社会資源収集		68
実習生関連		0
見学者		0
他職オリエンテーション		2
講演・講義		0
調査・研究		0
業務統計		1,531
学会・研究会		0

(6) 新ケースの紹介経路

病 院 内	医師	1,477
	看護婦	212
	リハビリ	14
	事務	5
	インテーク	0
	その他	3
	小 計	1,711
病 院 外	本人	26
	家族	67
	友人・知人	1
	医療機関	36
	区市役所・保健所	6
	老人保健施設	0
	老人ホーム等	2
	ケアマネージャー	13
	都関係	1
	その他	7
	小 計	159
計		1,870

	入院	外来	未・他	計
新規	1,649	187	34	1,870
継続	19,381	652	3	20,036
計	21,030	839	37	21,906

診療費の収入状況

49. 診療実績

令和3年4月1日～令和4年3月31日(単位:点)

項 目		入院	外来	合計	比率(%)
基本料等	初 診 料	988,506	6,573,500	7,562,006	
	外 来 診 療 料	—	13,795,138	13,795,138	
	入 院 料 等	657,570,494	—	657,570,494	
	計	658,559,000	20,725,057	679,284,057	51.9%
投 薬 料		7,638,714	15,318,361	22,957,075	1.8%
注 射 料		24,212,618	86,092,774	110,305,391	8.4%
処 置 料		7,791,053	9,375,902	17,166,955	1.3%
手 術 料		204,707,045	8,017,335	212,724,380	16.2%
検 査 料		26,954,634	107,271,104	134,225,738	10.2%
画 像 診 断 料		5,436,617	54,076,679	59,513,296	4.5%
諸 収 入		32,722,995	40,910,638	73,633,633	5.6%
合 計		968,022,676	341,787,849	1,309,810,525	100.0%
(歯科口腔外科再掲)		1,034,393	7,013,038	8,047,431	—
延 べ 人 数		144,738	217,026	361,764	—
1 人 1 日 平 均 点 数		6,688.1	1,574.9	3,620.6	—
レ セ プ ト 枚 数		14,293	123,031	137,324	—

50. 診療実績：前年度比較

(単位:円)

区 分		入 院		
		令和2年度	令和3年度	増(△)減
診療実績(円)		8,740,270,817	9,680,226,763	939,955,946
年間延患者数(人)		141,327	144,738	3,411
稼動日数(日)		365	365	0
一日一人当収入(円)		61,844	66,881	5,037
収 入 内 訳	基本料	5,729,696,350	6,585,589,999	855,893,649
	投薬料	77,406,108	76,387,143	△ 1,018,965
	注射料	144,246,273	242,126,179	97,879,906
	処置料	84,513,164	77,910,533	△ 6,602,631
	手術料	2,167,271,892	2,047,070,451	△ 120,201,441
	検査料	187,277,232	269,546,340	82,269,108
	画像診断料	42,781,494	54,366,171	11,584,677
	諸収入	307,078,304	327,229,947	20,151,643

※ 室料差額は含まない。

(単位:円)

区 分		外 来		
		令和2年度	令和3年度	増(△)減
診療実績(円)		2,882,687,421	3,417,878,490	535,191,069
年間延患者数(人)		205,600	217,026	11,426
稼動日数(日)		294	293	△ 1
一日一人当収入(円)		14,021	15,749	1,728
収 入 内 訳	基本料	183,799,583	207,250,569	23,450,986
	投薬料	138,766,826	153,183,607	14,416,781
	注射料	598,676,637	860,927,735	262,251,098
	処置料	101,414,674	93,759,019	△ 7,655,655
	手術料	70,293,580	80,173,348	9,879,768
	検査料	939,872,596	1,072,711,042	132,838,446
	画像診断料	505,855,932	540,766,791	34,910,859
	諸収入	344,007,593	409,106,379	65,098,786
	院外処方(再掲)	75,097,923	76,083,855	985,932

※ 保険外は「諸入」に含めて計上している。

51. 診療実績(入院)

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：円、人、枚）												
	基本料		投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	計	延人数	レセプト数
	初診料 （再掲）											
4月	549,160	495,858,208	3,991,969	14,442,122	6,553,445	170,276,470	22,673,353	4,036,675	26,650,846	744,483,088	11,886	1,163
5月	598,500	486,628,538	6,406,710	16,034,750	6,359,500	192,841,220	22,521,050	3,275,360	24,724,964	758,792,092	11,824	1,089
6月	751,810	491,852,587	6,202,206	14,038,897	8,685,750	149,405,987	23,631,507	4,367,241	30,316,827	728,501,002	11,141	1,101
7月	1,173,280	581,316,034	5,544,614	17,226,080	6,385,120	161,188,640	23,946,320	4,752,310	25,317,782	825,676,900	12,163	1,122
8月	978,670	645,217,328	6,604,554	12,446,641	8,267,780	160,187,370	23,917,924	6,461,176	27,457,530	890,560,303	12,964	1,165
9月	901,190	578,118,746	6,780,362	13,627,100	8,681,380	166,526,950	21,697,770	5,166,660	28,257,929	828,856,897	11,950	1,226
10月	835,450	504,173,922	5,354,917	25,007,440	5,824,395	166,541,340	21,825,910	3,796,040	27,109,651	759,633,615	11,343	1,308
11月	588,397	495,115,586	6,331,946	21,653,864	6,085,494	155,968,794	21,215,281	2,922,584	28,083,570	737,377,119	11,727	1,204
12月	680,290	524,517,787	5,780,881	15,223,362	6,355,166	175,317,490	24,669,908	3,553,505	28,168,896	783,586,995	12,191	1,276
1月	1,004,380	586,737,001	6,908,674	24,881,673	4,875,783	185,974,640	20,644,617	5,002,230	26,064,686	861,089,304	12,822	1,216
2月	988,620	584,592,170	7,988,750	31,871,020	5,095,510	162,383,800	20,698,110	5,753,470	24,908,480	843,291,310	11,925	1,137
3月	835,310	611,462,092	8,491,560	35,673,230	4,741,210	200,457,750	22,104,590	5,278,920	30,168,786	918,378,138	12,802	1,286
合計	9,885,057	6,585,589,999	76,387,143	242,126,179	77,910,533	2,047,070,451	269,546,340	54,366,171	327,229,947	9,680,226,763	144,738	14,293
歯科再掲	0	7,355,271	12,710	21,600	51,030	2,626,900	241,770	0	34,650	10,343,931	206	54

※ 室料差額は含まない。

52. 診療実績(外来)

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位:円、人、枚）														
	基本料			投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	院外処方 (再掲)	延人数	レセプト 枚数
	初診料 (再掲)	外来診療料 (再掲)												
4月	5,290,874	12,403,959	17,868,173	13,429,248	55,138,716	8,288,754	7,144,280	98,277,447	47,222,988	33,174,905	280,544,511	6,562,839	18,893	10,396
5月	4,582,299	11,082,330	15,966,889	11,844,560	59,063,397	8,089,865	6,507,810	90,345,305	40,942,488	29,034,326	261,794,640	5,807,358	16,564	9,469
6月	5,128,489	12,719,055	17,905,324	14,293,310	73,472,624	8,006,723	5,704,650	102,941,311	49,808,167	33,379,500	305,511,609	6,748,570	19,163	10,687
7月	5,428,054	11,851,080	17,396,644	12,941,320	69,108,565	8,118,511	6,202,970	90,133,011	46,054,747	32,494,207	282,449,975	6,274,051	18,052	10,053
8月	6,085,900	11,383,948	17,768,548	13,240,575	71,797,836	7,335,618	7,488,030	83,849,167	44,588,666	33,936,115	280,004,555	6,191,108	17,570	9,922
9月	5,301,959	12,166,448	17,646,047	14,963,330	75,533,956	7,304,616	6,842,360	87,009,847	46,098,309	32,522,836	287,921,301	6,470,086	18,464	10,514
10月	5,410,050	11,292,442	17,056,372	10,385,790	71,923,766	7,475,460	6,479,800	89,445,566	46,200,233	34,638,633	283,605,620	6,336,228	18,315	10,410
11月	5,264,725	11,150,351	16,823,836	14,721,080	77,059,386	7,543,268	6,030,580	88,338,947	47,073,486	34,000,451	291,591,034	6,273,025	18,295	10,247
12月	5,309,005	11,571,445	17,325,990	13,059,440	78,243,977	8,408,703	6,243,550	87,259,560	43,868,297	35,760,075	290,169,592	6,803,853	18,677	10,683
1月	6,651,907	10,571,938	17,513,545	9,534,846	79,069,820	8,407,281	8,044,350	86,128,787	42,442,034	37,450,740	288,591,403	6,080,957	17,667	10,270
2月	5,658,170	9,832,252	15,898,382	12,133,915	71,744,786	6,664,250	6,772,978	77,722,636	38,730,338	33,394,910	263,062,195	5,732,222	16,221	9,495
3月	5,623,567	11,926,132	18,080,819	12,636,193	78,770,906	8,115,970	6,711,990	91,259,458	47,737,038	39,319,681	302,632,055	6,803,558	19,145	10,885
合計	65,734,999	137,951,380	207,250,569	153,183,607	860,927,735	93,759,019	80,173,348	1,072,711,042	540,766,791	409,106,379	3,417,878,490	76,083,855	217,026	123,031
歯科再掲	9,076,870	9,680,970	18,757,840	214,120	8,870	13,287,740	7,543,760	5,442,870	8,177,260	16,697,916	70,130,376	1,192,210	12,042	6,541

※ 保険外は「諸収入」に含めて計上している。

53. 入院患者(入院時)保険種別内訳

令和3年4月1日～令和4年3月31日 (単位:人)

	社会保険							国民健康保険							後期高齢者						退職者 保険				生保	中国	労災	自賠	1.2 類	自費	計	比 率 （ % ）	
	本 人	家 族	(再掲)公費負担					本 人	家 族	(再掲)公費負担						本 人	(再掲)公費負担					本 人	家 族	(再掲) 公費負		本 人	本 人	本 人	本 人	本 人			本 人
			特定疾患	難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	人工透析			難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	大気汚染	人工透析	難病（都疾病）		原爆（一般）	難病（国疾病）	心身障害者	大気汚染	人工透析			心身障害者	人工透析								
39歳以下	104	68		2	4	1		32	23	2	1															14		1	1	4	7	254	2.2
40～49	132	53		1		1	1	44	15		2			4												12				3	10	269	2.4
50～59	233	147		2	2	1	6	124	54	4	15	1	1	7	6											47				6	2	613	5.4
60～64	188	69	1	2			2	118	86	10	12			2	10											35		1			2	499	4.4
65～69	133	77		1	4		6	255	232	7	14			9	10						2	10				64		2				775	6.8
70～74	129	84		4			1	634	587	52	21			51	1	6					21	7	2	2	123		5		3	2	1,601	14.1	
75～79																1,785	3	57	40	1	28				115	3			2		1,905	16.8	
80歳以上																5,175	5	97	87	1	69				237	4			5		5,421	47.8	
計	919	498	1	12	10	3	16	1,207	997	75	65	1	1	73	27	6,966	8	154	127	2	97	23	17	2	2	647	7	9	1	23	23	11,337	100.0
比率(%)	8.1	4.4	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	10.6	8.8	0.7	0.6	0.0	0.0	0.6	0.2	61.4	0.1	1.4	1.1	0.0	0.9	0.2	0.1	0.0	0.0	5.7	0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	100.0	

54. 外来患者(新患)保険種別内訳

令和3年4月1日～令和4年3月31日 (単位:人)

	社会保険											国民健康保険								後期高齢者						退職者 保険		生保	中国	労災	自賠	1.2 類	自費	計	比率 （ % ）	
	本 人	家 族	(再掲)公費負担									本 人	家 族	(再掲)公費負担							本 人	(再掲)公費負担					本 人	家 族	本 人	本 人	本 人	本 人	本 人			本 人
			生保	精神 通院	特定 疾患	難病 （国 疾病）	心身 障害 者	ひとり 親	人工 透析	大気 汚染	乳 幼 児			精神 通院	心身 障害 者	ひとり 親	人工 透析	大気 汚染	新たな 難病	乳 幼 児		原 爆 （一 般）	難病 （国 疾病）	心身 障害 者	大気 汚染	人工 透析										
39歳以下	397	163	1	4			2	5			12	102	88	1	1	3			4								1	9		3	8	3	23	797	10.2	
40～49	276	50	1			1	3	2		1		53	45		3	5											20		2	3	2	20	471	6.0		
50～59	394	99	1			2	3	3				96	97	1	5	1		2								1	57		1	2	5	23	775	9.9		
60～64	223	49			1	1	1					88	69		1											4	32						11	476	6.1	
65～69	179	34				1	1		1			194	208		5										11	10	27		2	2		17	684	8.8		
70～74	117	54	1			1	1					410	476		17		2	1	2		3			1		11	3	72		3		1	29	1,179	15.1	
75～79																					983	2	4	9		1			61	1		3	2	17	1,067	13.7
80歳以上																					2,228	1	9	10	1	2			85	1			2	51	2,367	30.3
計	1,586	449	4	4	1	6	11	10	1	1	12	943	983	2	32	9	2	1	4	4	3,214	3	13	20	1	3	22	19	363	2	11	18	15	191	7,816	100.0
比率(%)	20.3	5.7	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	12.1	12.6	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	41.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.3	0.2	4.6	0.0	0.1	0.2	0.2	2.4	100.0	

疾病統計

55. 退院患者の疾患内訳（ICD10コードによる大分類）

令和3年4月1日～令和4年3月31日

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00－B99	88	105	193	271	249	520
新生物	C00－D48	1,424	967	2,391	962	790	1,752
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	D50－D89	30	48	78	258	288	546
内分泌,栄養及び代謝疾患	E00－E90	183	182	365	1,793	1,388	3,181
精神及び行動の障害	F00－F99	49	63	112	308	417	725
神経系の疾患	G00－G99	318	395	713	479	628	1,107
眼及び付属器の疾患	H00－H59	751	1,218	1,969	127	120	247
耳及び乳様突起の疾患	H60－H95	32	44	76	12	20	32
循環器系の疾患	I00－I99	834	784	1,618	2,431	2,135	4,566
呼吸器系の疾患	J00－J99	311	200	511	666	447	1,113
消化器系の疾患	K00－K93	598	713	1,311	980	1,025	2,005
皮膚及び皮下組織の疾患	L00－L99	42	59	101	125	126	251
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00－M99	131	287	418	312	656	968
腎尿路生殖器系の疾患	N00－N99	220	241	461	818	655	1,473
妊娠,分娩及び産じょく	O00－O99	0	0	0	0	0	0
先天性奇形,変形及び染色体異常	Q00－Q99	4	7	11	17	21	38
症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00－R99	0	0	0	491	504	995
損傷,中毒及びその他の外因の影響	S00－T98	144	250	394	210	274	484
原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類	U00－U49	348	228	576	67	50	117
傷病及び死亡の外因	V01－Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00－Z99	11	2	13	867	1,341	2,208
合 計		5,518	5,793	11,311	11,194	11,134	22,328

〔内訳〕（ICD10コード中分類）

令和3年4月1日～令和4年3月31日

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00－B99	88	105	193	271	249	520
腸管感染症		25	22	47	42	34	76
結核		4	6	10	16	19	35
主として性的伝播様式をとる感染症		2	0	2	6	3	9
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		9	10	19	16	12	28
ウイルス性肝炎		0	1	1	12	10	22
その他のウイルス疾患		2	3	5	17	13	30
真菌症		6	9	15	36	30	66
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		0	0	0	4	10	14
その他の感染症及び寄生虫症		40	54	94	122	118	240
新生物<腫瘍>	C00－D48	1,424	967	2,391	962	790	1,752
胃の悪性新生物<腫瘍>		106	65	171	63	61	124
結腸の悪性新生物<腫瘍>		148	140	288	192	232	424
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>		127	36	163	39	19	58
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>		25	13	38	17	6	23
気管,気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>		174	87	261	50	29	79
乳房の悪性新生物<腫瘍>		0	23	23	1	28	29
子宮の悪性新生物<腫瘍>		0	9	9	0	2	2
悪性リンパ腫		55	45	100	16	21	37
白血病		78	61	139	9	17	26
その他の悪性新生物<腫瘍>		419	217	636	427	180	607
良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>		292	271	563	148	195	343
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50－D89	30	48	78	258	288	546
貧血		18	35	53	191	242	433
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		12	13	25	67	46	113

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
内分泌,栄養及び代謝疾患		E00－E90	183	182	365	1,793	1,388	3,181
	甲状腺障害		4	4	8	71	106	177
	糖尿病		136	113	249	900	589	1,489
	脂質異常症		0	0	0	401	350	751
	その他の内分泌,栄養及び代謝障害		43	65	108	421	343	764
精神及び行動の障害		F00－F99	49	63	112	308	417	725
	血管性及び詳細不明の認知症		23	12	35	201	300	501
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害		12	5	17	29	4	33
	統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害		3	6	9	31	25	56
	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)		9	34	43	31	54	85
	神経症性障害,ストレス関連障害及び身体表現性障害		2	6	8	12	28	40
	知的障害<精神遅滞>		0	0	0	0	3	3
	その他の精神及び行動の障害		0	0	0	4	3	7
神経系の疾患		G00－G99	318	395	713	479	628	1,107
	パーキンソン病		54	76	130	65	69	134
	アルツハイマー病		38	55	93	122	239	361
	てんかん		25	24	49	42	43	85
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群		2	2	4	12	12	24
	自律神経系の障害		8	8	16	8	2	10
	その他の神経系の疾患		191	230	421	230	263	493
眼及び付属器の疾患		H00－H59	751	1,218	1,969	127	120	247
	結膜炎		0	0	0	2	1	3
	白内障		476	946	1,422	74	77	151
	屈折及び調節の障害		1	1	2	1	0	1
	その他の眼及び付属器の疾患		274	271	545	50	42	92
耳及び乳様突起の疾患		H60－H95	32	44	76	12	20	32
	外耳炎		2	0	2	0	0	0
	その他の外耳疾患		0	0	0	0	1	1

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
	中耳炎		1	1	2	3	2	5
	その他の中耳及び乳様突起の疾患		0	1	1	0	0	0
	メニエール病		1	4	5	0	2	2
	その他の内耳疾患		25	36	61	3	8	11
	その他の耳疾患		3	2	5	6	7	13
循環器系の疾患		I00－I99	834	784	1,618	2,431	2,135	4,566
	高血圧性疾患		4	12	16	758	653	1,411
	虚血性心疾患		246	110	356	278	156	434
	その他の心疾患		237	334	571	812	924	1,736
	くも膜下出血		2	8	10	1	1	2
	脳内出血		37	43	80	12	9	21
	脳梗塞		142	130	272	88	51	139
	脳動脈硬化(症)		18	4	22	64	31	95
	その他の脳血管疾患		9	22	31	6	22	28
	動脈硬化(症)		43	22	65	62	34	96
	低血圧(症)		6	4	10	27	25	52
	その他の循環器系の疾患		90	95	185	323	229	552
呼吸器系の疾患		J00－J99	311	200	511	666	447	1,113
	急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞		0	0	0	0	0	0
	急性咽頭炎及び急性扁桃炎		3	2	5	3	1	4
	その他の急性上気道感染症		3	0	3	0	1	1
	肺炎		118	70	188	84	68	152
	急性気管支炎及び急性細気管支炎		1	0	1	4	1	5
	アレルギー性鼻炎		0	0	0	9	3	12
	慢性副鼻腔炎		1	4	5	8	7	15

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
	急性又は慢性と明示されない気管支炎		0	0	0	2	1	3
	慢性閉塞性肺疾患		15	4	19	93	30	123
	喘息		4	7	11	52	80	132
	その他の呼吸器系の疾患		166	113	279	411	255	666
消化器系の疾患		K00－K93	598	713	1,311	980	1,025	2,005
	う蝕		4	0	4	5	5	10
	歯肉炎及び歯周疾患		3	1	4	10	9	19
	その他の歯及び歯の支持組織の障害		16	23	39	26	20	46
	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍		23	21	44	32	21	53
	胃炎及び十二指腸炎		31	78	109	121	163	284
	痔核		14	23	37	52	65	117
	アルコール性肝疾患		16	2	18	20	4	24
	慢性肝炎(アルコール性のものを除く)		3	8	11	17	12	29
	肝硬変(アルコール性のものを除く)		2	6	8	16	19	35
	その他の肝疾患		7	6	13	62	59	121
	胆石症及び胆のう炎		66	81	147	49	42	91
	膵疾患		13	12	25	18	23	41
	その他の消化器系の疾患		400	452	852	552	583	1,135
皮膚及び皮下組織の疾患		L00－L99	42	59	101	125	126	251
	皮膚及び皮下組織の感染症		21	29	50	16	19	35
	皮膚炎及び湿疹		3	6	9	33	36	69
	その他の皮膚及び皮下組織の疾患		18	24	42	76	71	147
筋骨格系及び結合組織の疾患		M00－M99	131	287	418	312	656	968
	炎症性多発性関節障害		26	55	81	63	113	176
	関節症		16	114	130	13	42	55
	脊椎障害(脊椎症を含む)		42	51	93	73	103	176
	椎間板障害		8	2	10	6	4	10

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
	頰腕症候群		0	0	0	0	1	1
	腰痛症及び坐骨神経痛		0	4	4	6	8	14
	その他の脊柱障害		0	0	0	1	6	7
	肩の傷害＜損傷＞		0	0	0	1	0	1
	骨の密度及び構造の障害		0	0	0	32	212	244
	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患		39	61	100	117	167	284
腎尿路生殖器系の疾患		N00-N99	220	241	461	818	655	1,473
	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患		49	79	128	48	57	105
	腎不全		78	54	132	415	319	734
	尿路結石症		10	16	26	8	27	35
	その他の腎尿路系の疾患		47	90	137	169	241	410
	前立腺肥大(症)		23	0	23	151	0	151
	その他の男性生殖器の疾患		7	0	7	26	0	26
	月経障害及び閉経周辺期障害		0	0	0	0	2	2
	乳房及びその他の女性生殖器の疾患		6	2	8	1	9	10
妊娠、分娩及び産じょく		O00-O99	0	0	0	0	0	0
	その他の妊娠、分娩及び産じょく		0	0	0	0	0	0
先天性奇形,変形及び染色体異常		Q00-Q99	4	7	11	17	21	38
	心臓の先天奇形		0	5	5	7	8	15
	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常		4	2	6	10	13	23
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		R00-R99	0	0	0	491	504	995
損傷、中毒及びその他の外因の影響		S00-T98	144	250	394	210	274	484
	骨折		61	168	229	61	122	183
	頭蓋内損傷及び内臓の損傷		28	21	49	13	9	22
	熱傷及び腐食		0	2	2	0	4	4
	中毒		2	2	4	1	0	1
	その他の損傷及びその他の外因の影響		53	57	110	135	139	274
原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類		U00-U49	348	228	576	67	50	117
	COVID-19	U071	348	228	576	64	49	113
	COVID-19の既往及び後遺症	U08-U09	0	0	0	3	1	4
傷病及び死亡の外因		V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用		Z00-Z99	11	2	13	867	1,341	2,208

56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳（ICD10コードによる中分類）

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	C00－C14	9	10	19	8	3	11
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	C15－C26	573	376	949	362	353	715
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	C30－C39	178	87	265	55	29	84
骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	C40－C41	0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	C43－C44	4	6	10	1	1	2
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	C45－C49	5	2	7	5	0	5
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	C50－C50	0	23	23	1	28	29
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C51－C58	0	18	18	0	7	7
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C60－C63	114	0	114	81	0	81
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	C64－C68	87	36	123	39	22	61
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C69－C72	1	2	3	0	0	0
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	C73－C75	2	4	6	2	1	3
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	C76－C80	23	22	45	231	112	343
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞、原発と記載された又は推定されたもの	C81－C96	133	106	239	25	38	63
独立した(原発性)多部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C97－C97	0	0	0	0	0	0
上皮内新生物＜腫瘍＞	D00－D09	3	4	7	4	1	5
合 計		1,132	696	1,828	814	595	1,409

〔内訳〕（ICD10コード中分類）

令和3年4月1日～令和4年3月31日（単位：人）

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	C00－C14	9	10	19	8	3	11
口唇の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
舌根〈基底〉部の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		4	2	6	0	0	0
歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞		2	0	2	3	2	5
口（腔）底の悪性新生物＜腫瘍＞		1	1	2	2	0	2
口蓋の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の口腔の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
耳下腺の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の大唾液腺の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
扁桃の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		0	7	7	2	0	2
鼻〈上〉咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
梨状陥凹〈洞〉の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		2	0	2	1	1	2
その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	C15－C26	573	376	949	362	353	715
食道の悪性新生物＜腫瘍＞		29	17	46	17	6	23
胃の悪性新生物＜腫瘍＞		106	65	171	63	61	124
小腸の悪性新生物＜腫瘍＞		20	0	20	0	1	1
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞		148	140	288	192	232	424
直腸S状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞		21	8	29	4	4	8
直腸の悪性新生物＜腫瘍＞		106	28	134	35	15	50
肛門及び肛門管の悪性新生物＜腫瘍＞		0	5	5	0	1	1
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞		25	13	38	17	6	23
胆のう〈囊〉の悪性新生物＜腫瘍＞		5	9	14	5	8	13
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞		22	14	36	8	2	10

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
	膵の悪性新生物＜腫瘍＞		91	77	168	20	17	37
	その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	1	0	1
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞		C30－C39	178	87	265	55	29	84
	鼻腔及び中耳の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	喉頭の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	3	0	3
	気管の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞		174	87	261	50	29	79
	胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞		2	0	2	0	0	0
	心臓、縦隔及び胸膜の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	2	0	2
	その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		C40－C41	0	0	0	0	0	0
	(四) 肢の骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞		C43－C44	4	6	10	1	1	2
	皮膚の悪性黒色腫		0	0	0	0	0	0
	皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞		4	6	10	1	1	2
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞		C45－C49	5	2	7	5	0	5
	中皮腫		4	0	4	5	0	5
	カポジ〈kaposi〉肉腫		0	0	0	0	0	0
	末梢神経及び自律神経系の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞		1	2	3	0	0	0
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞		C50	0	23	23	1	28	29
	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞		0	23	23	1	28	29

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C51－C58	0	18	18	0	7	7
外陰(部)の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
膣の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
子宮頸部の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
子宮体部の悪性新生物＜腫瘍＞		0	8	8	0	1	1
子宮の悪性新生物＜腫瘍＞、部位不明		0	1	1	0	1	1
卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞		0	9	9	0	5	5
その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
胎盤の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C60－C63	114	0	114	81	0	81
陰茎の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞		114	0	114	81	0	81
精巣(睾丸)の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	C64－C68	87	36	123	39	22	61
腎盂を除く腎の悪性新生物＜腫瘍＞		15	11	26	10	10	20
腎盂の悪性新生物＜腫瘍＞		2	2	4	0	1	1
尿管の悪性新生物＜腫瘍＞		3	6	9	6	2	8
膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞		67	17	84	23	9	32
その他及び部位不明の尿路の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C69－C72	1	2	3	0	0	0
眼及び付属器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
髄膜の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
脳の悪性新生物＜腫瘍＞		1	2	3	0	0	0
脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞		C73－C75	2	4	6	2	1	3
	甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞		2	4	6	2	1	3
	副腎の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	その他の内分泌腺及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		C76－C80	23	22	45	231	112	343
	その他及び部位不明確の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	4	0	4
	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞		12	8	20	162	89	251
	その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞		11	6	17	62	21	83
	悪性新生物＜腫瘍＞，部位が明示されていないもの		0	8	8	3	2	5
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞，原発と記載された又は推定されたもの		C81－C96	133	106	239	25	38	63
	ホジキン＜Hodgkin＞リンパ腫		5	1	6	0	0	0
	ろ（濾）胞性リンパ腫		2	14	16	0	0	0
	非ろ（濾）胞性リンパ腫		27	22	49	5	4	9
	成熟T/NK細胞リンパ腫		7	2	9	0	2	2
	非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫のその他及び詳細不明の型		7	2	9	8	12	20
	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型		4	0	4	0	0	0
	悪性免疫増殖性疾患		3	4	7	3	3	6
	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物＜腫瘍＞		21	26	47	6	5	11
	リンパ性白血病		7	10	17	1	3	4
	骨髄性白血病		45	24	69	1	9	10
	単球性白血病		4	0	4	1	0	1
	細胞型の明示されたその他の白血病		1	0	1	0	0	0
	細胞型不明の白血病		0	1	1	0	0	0
	リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞		C97	0	0	0	0	0	0

第三部 研究部門

(令和3年度 活動報告)

I チーム研究等

チーム研究

研究系	研究チーム名	研 究 テ ー マ	チ ー ム リーダー
自然科学系	老化機構	分子機構 プロテオーム システム加齢医学	井上聡
	老化制御	分子老化制御 生体調節機能	石神昭人
	老化脳神経科学	自律神経機能 記憶神経科学 老化神経生物学	遠藤昌吾
	老年病態	心血管老化再生医学 運動器医学	重本和宏
	老年病理学	高齢者がん 神経病理学	石渡俊行
	神経画像	PET薬剤科学 PET画像診断	石井賢二
社会科学系	社会参加と地域保健	社会参加・社会貢献 ヘルシーエイジングと地域保健 大都市高齢者基盤	藤原佳典
	自立促進と精神保健	フレイルと筋骨格系の健康 口腔保健と栄養 認知症と精神保健	金憲経
	福祉と生活ケア	介護予防 医療・介護システム 介護・エンドオブライフ	石崎達郎

老化機構研究チーム

チームリーダー：井上聡

研究チームの概要・目的

チームは、分子機構研究・プロテオーム研究・システム加齢医学研究の3テーマから構成される。分子機構研究は糖鎖、プロテオーム研究はタンパク質、システム加齢医学研究は性ホルモン作用および代謝経路に着目し、老化および老化関連疾患のメカニズムの解明および新たな診断・治療法の開発を目指している。これらの実現に向け、先進的な方法論、概念を取り入れた基礎・応用研究を進めるとともに、基盤技術を提供し、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与することを目的とする。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

分子機構

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
(1) 認知症における糖鎖機能の解明	アミロイド前駆体タンパク質 (APP) 代謝における糖鎖の役割を明らかにすることを目標とする。	糖鎖遺伝子のクローニングと、導入細胞の作製。APP代謝関連分子の糖鎖解析条件の検討。	糖鎖遺伝子の機能および遺伝子改変によるAPP代謝変化の解析。遺伝子改変細胞におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。	糖鎖遺伝子の機能および遺伝子改変によるAPP代謝変化の解析。モデルマウス脳検体を用いた糖鎖解析条件の検討。	糖鎖変化の解析とAPP代謝への影響の解析。モデルマウス脳検体におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。	糖鎖変化の解析とAPP代謝への影響の解析。ブレインバンク検体におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。
(2) 老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明	加齢や老化関連疾患における糖鎖変化を詳細に解析し、加齢に伴う機能低下や疾患の要因となる糖鎖変化を特定することを目標とする。	Klotho欠損による肺の糖鎖異常の解析。 O-マンノース型糖鎖合成酵素の機能解析。	加齢による糖鎖変化の解析と疾患に伴う糖鎖変化の比較解析。 O-マンノース型糖鎖分析法の開発。	加齢による糖鎖変化と疾患との関係の解析。 O-マンノース型糖鎖検出法の開発。	糖鎖変化によるタンパク質および細胞機能への影響の解析。 O-マンノース型糖鎖構修タンパク質の探索。	糖鎖変化と機能変化への影響の解析。 O-マンノース型糖鎖構発現制御と加齢の関係の解析。

プロテオーム

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索	糖尿病の合併症（糖尿病性腎症及び糖尿病性認知症）やフレイルについて、独自に開発した翻訳後修飾プロテオミクスや縦断プロテオミクスによる病態の解	糖尿病合併症のプロテオーム解析 ミトコンドリア機能制御因子の探索	糖尿病合併症のプロテオーム解析 ミトコンドリア機能制御因子の探索 細胞外小胞に着	①糖尿病合併症のプロテオーム解析 ②ミトコンドリア機能制御因子の探索 ③細胞外小胞に	①糖尿病合併症のプロテオーム解析 ②ミトコンドリア機能制御因子の探索 ③細胞外小胞に	病態メカニズムの解明 バイオマーカー候補の策定

	明とバイオマーカーの開発を目指す		目したバイオマーカー探索	着目したバイオマーカー探索 ④長期縦断コホートを用いたバイオマーカー探索	着目したバイオマーカー探索 ④長期縦断コホートを用いたバイオマーカー探索	
健康長寿と糖鎖に関する研究	糖ペプチドを対象としたSALSA法を開発すると共に、横断的・縦断的アプローチから健康長寿に特徴的な糖鎖・糖ペプチドを明らかにし、糖鎖を介した健康管理システムの開発を目指す	横断的アプローチによる糖鎖解析 SALSA-糖ペプチド法の開発	糖鎖リモデリングマウスの解析 SALSA-糖ペプチド法の開発	⑤SALSA-糖ペプチド法の開発	糖鎖リモデリングマウスの解析 SALSA-糖ペプチド法の応用	健康長寿糖鎖の生物学的意義の解明

システム加齢医学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
(1A) 性ホルモンのロコモティブ症候群における役割の解明	性ホルモン応答遺伝子および関連因子の骨・筋肉等における作用について臨床データを考慮しながら細胞・動物モデルを活用して解析する。	骨・筋肉細胞を用いて性ホルモン受容体の発現解析、受容体を高発現する株の樹立と解析を行う。	性ホルモンの標的遺伝子・関連因子を系統的に同定する。	性ホルモン関連因子の遺伝子改変細胞・動物の作成を行うとともに、機能解析を進める。	遺伝子改変動物の表現型を解析する。老化モデルマウスにおいて、標的遺伝子の機能を解析する。	ヒト臨床検体を用いた臨床応用について検討し、細胞・動物レベルでの結果と比較する。
(1B) ミトコンドリア呼吸鎖超複合体の健康長寿における役割の解明	エストロゲン応答遺伝子COX7RPがミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成促進因子であることを手掛かりとして、ミトコンドリア呼吸鎖超複合体とロコモティブ症候群、健康長寿との関連を解析する。	ミトコンドリア呼吸鎖超複合体構成蛋白の可視化を行う。	複合体構成蛋白同士の相互作用の可視化と空間定量化を行う。	超複合体形成促進因子の遺伝子改変細胞・動物の作成を行う。	複数の複合体形成促進因子の相互作用の解析を行う。	遺伝子改変動物の表現型および寿命を評価する。
(2) ホルモン依存性がんにおける性ホルモンシグナルと治療抵抗性メカニズムの解明	前立腺がん、乳がん等のホルモン依存性がんに対し、システム医学・生物学の手法を活用し、悪性化・治療抵抗性メカニズムを解明する。	ホルモン作用標的とホルモン療法耐性候補因子の同定を行う。	ホルモン作用とホルモン療法耐性の候補因子の機能解析を行う。	患者由来のがん細胞との比較解析を行う。	動物モデルを用いた治療効果の評価を行い、比較検討を行う。	ヒト臨床サンプルを用い、細胞・動物レベルとの比較検証を行う。

分子機構

構成メンバー

テーマリーダー： 萬谷博

研究員： 赤阪啓子、今江理恵子、星野駿介

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

概ね年度別計画の範囲内で順調に進捗している。

【その根拠】

① 認知症における糖鎖機能の解明

これまでに、O型糖鎖修飾酵素GALNTファミリーがアミロイド前駆体タンパク質（APP）のO型糖鎖修飾を介してアミロイド β （A β ）の産生に影響することを報告していることから、そのメカニズムを解明するため、GALNTとAPPの安定共発現細胞の作製を進めている。GALNT遺伝子の機能解析に加え、昨年度より、APPのO型糖鎖修飾部位の変異体を作製し、O型糖鎖修飾が部分的に修飾されない場合の影響についての解析を始めており、特定の部位のO型糖鎖修飾がA β 産生量に影響する傾向と細胞の種類による差異を見出した。マウス脳の糖鎖解析は②のマルチオミクスにおいて進めている。

② 老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明

- ・O-マンノース（O-Man）型糖鎖合成酵素の一つであるPOMGNT2（先天性筋ジストロフィー症原因遺伝子産物）の結晶構造を解明し、ラミニン結合型O-Man型糖鎖の修飾部位決定機構を明らかにした。（論文1、学会発表3, 5, 8, 9）。

- ・哺乳類にCDP-リビトール（CDP-Rbo）とCDP-グリセロール（CDP-Gro）が存在することを明らかにし、これらがO-マンノース型糖鎖合成の原料になることを報告してきた。本年度はヒトCDP-Gro合成酵素PCYT2の同定に成功した。（論文2、学会発表6, 11）。

- ・O-マンノース（O-Man）型糖鎖を利用した筋ジストロフィー症の治療薬開発に関して、1件の米国特許（TMG-042PCUS）を取得し、1件の特許（TMG-097JP）を出願した。

- ・マルチオミクスでは、宇宙マウス（JAXA）肺のプロテオミクスおよびグライコミクス解析を行った。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症における糖鎖機能の解明＞

【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）、老年病理学研究チーム（神経病理学）、ブレインバンク

【センター外】福島県立医科大学、東京都立大学

＜老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明＞

【センター内】老化機構研究チーム（システム加齢医学、プロテオーム）、老化制御研究チーム（分子老化制御）、老年病態研究チーム（運動器医学、心血管老化再生医学、筋老化再生医学）、老年病理学研究チーム（高齢者がん）

【センター外】神戸薬科大学、京都大学、精神神経センター、東京大学、神戸大学、奈良医科大学、岡山大学、中部大学、東京薬科大学、三重大学、北海道大学、帝京大学、名古屋大学、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、杏林大学、野口研究所、東海大学、鳥取大学、北京大学、Radboud 大学、Baylor大学

3 その他

（1）「ヒューマングライコームプロジェクト」が文部科学省の学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会において策定され、大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ2020（案）に掲載。

2022年度から共同利用・共同研究拠点（共共拠点）として認定され「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点」における「collaborative fellow (CF)」に就任。

（2）2018, 2019年度「きぼう」利用マウスサンプルシェアテーマ「マルチオミクスによる微小重力／老化関連因子の同定」, 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

（3）学会活動や招待講演などにより基礎研究の発展に貢献し、研究機関としての東京都健康長寿医療センターの知名度にも貢献している。日本糖質学会評議員（萬谷）・日本薬学会ファルマシアアドバイザー

ザー（萬谷）・日本基礎老化学会評議委員（萬谷）・第94回日本生化学会大会 シンポジウム「糖鎖多様性から老化を読み解く」オーガナイザー

- （4）連携大学院の教員を兼任し、外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成および研究テーマの推進力増加に努めている。（令和3年度：研究生3名）

・東京農工大学客員教授（萬谷）：今年度より連携大学院規約を改正し、正式な講座（健康長寿科学）として、学部生および大学院生が配属、明治薬科大学客員教授（萬谷）

プロテオーム

構成メンバー

テーマリーダー：三浦ゆり

研究員：津元裕樹、梅澤啓太郎、川上恭司郎

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

研究項目A. 老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索

①糖尿病性腎症の病態解明

独自に開発したタンパク質の糖鎖修飾解析法を用い、糖尿病性腎症の病因・病態を解明することを目的とする。本年度、糖尿病モデル動物の組織を新たに採取する準備を進めた。

②ミトコンドリア機能制御因子の探索

近年新たに発見された生体内超硫黄化合物（R-Sn-SH群）に着目し、これらの関与する様々なイベント、例えばミトコンドリア機能との関連を追究可能な分析手法を開発することを目的とする。本年度は、主としてミトコンドリアで産生される超硫黄分子により生じるタンパク質の超硫黄修飾という新現象に着目し、質量分析による超硫黄修飾タンパク質の解析を実施した。

③細胞外小胞に着目したバイオマーカー探索

細胞外小胞に含まれるタンパク質に着目し、バイオマーカー探索およびマーカー検出システムの構築・検証を行うことを目的とする。本年度は前立腺がん、腎がんのバイオマーカー探索、認知症及び認知機能低下のマーカー探索を進めた。

④長期縦断研究（SONIC）による糖尿病性認知症のバイオマーカー探索

SONIC縦断研究の検体を用いて新たなバイオマーカー探索法を確立し、その方法を用いて老年病態を早期に発見するためのバイオマーカーを策定することを目的とする。本年度は、昨年度までに確立した糖ペプチドバイオマーカー探索法を用いて、糖尿病性認知症の糖ペプチドバイオマーカーを明らかにした。

研究項目B. 健康長寿と糖鎖

①SALSA-糖ペプチド解析法の開発

シアル酸結合様式を識別する化学誘導体法（SALSA）を糖ペプチド解析に発展させ、シアル酸結合様式まで含めたグライコプロテオミクスを可能とする新規分析法の開発・応用を目的とする。本年度は、90および80歳群を追加し、4群（超百寿者、90、80、70歳群）の各20例を用いた血漿N型糖ペプチド解析を行い、超百寿者群に特徴的な糖鎖・タンパク質を探索した。

【その根拠】

研究項目A. 老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索

①糖尿病性腎症の病態解明

動物実験計画の承認を得て糖尿病モデルおよび対照ラットの購入・飼育を開始した。

②ミトコンドリア機能制御因子の探索

超硫黄修飾に選択的に標識可能なタグ分子の開発に成功し、タグ分子のビオチン誘導化も達成した。さらにビオチン誘導化タグ分子を用い、超硫黄タンパク質の選択的濃縮精製による解析プロトコルを構築し、生体試料を用いて測定を実施した。（**特許出願済、学会発表：4**）

③細胞外小胞に着目したバイオマーカー探索

細胞外小胞上のPSMA検出システムの**国際特許出願**を行い、それに関連した実験結果を学術誌に報告した（**誌上発表：1**）。がんのバイオマーカー探索においては、前立腺がんの薬剤耐性、進行性腎がんでのマーカー候補の報告をした（**誌上発表：4, 5**）。認知症のバイオマーカー探索においては市販血清を用いた解析を行い、候補タンパク質に対する検出系を構築し、他検体で測定したが有意差は得られなかった。

④長期縦断研究（SONIC）による糖尿病性認知症のバイオマーカー探索

糖尿病で認知機能が低下した群の認知機能低下前と低下後の血漿について、糖ペプチド解析を行った。
その結果、18種類のタンパク質由来の糖ペプチド（約500種類）のうち、多変量解析により約30種類の糖ペプチドをバイオマーカー候補として明らかにした（学会発表：2）。

研究項目B. 健康長寿と糖鎖

①SALSA-糖ペプチド解析法の開発

開発した分析手法がヒト血漿タンパク質のN型およびO型糖ペプチド解析に有用であることを報告した（学会発表：3）。コホート検体への応用では、超百寿者群と70歳群の比較解析から超百寿者群に特徴的なN型糖ペプチドを同定し、80と90歳群を加えた4群での解析においても有意に変化していることを明らかにした。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索＞

【センター内】福祉と生活ケア研究チーム（医療・介護システム）、自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健）、老化制御研究チーム（生体調節機能）、病理診断科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科

【センター外】杏林大学、東京大学大学院、岐阜大学大学院、朝日大学、帝京大学、大阪大学大学院

＜健康長寿と糖鎖に関する研究＞

【センター内】実験動物施設

【センター外】島津製作所、慶應義塾大学

＜糖供与体の分析法の開発＞

【センター内】老化機構研究チーム（分子機構）

＜プロテオーム解析による心筋老化機序の解明＞

【センター内】循環器内科、病理診断科

【センター外】東京医科歯科大学

＜細胞外小胞を用いた診断法開発＞

【センター外】岐阜大学大学院、富士フイルム和光純薬

＜前立腺がんの治療薬開発＞

【センター外】岐阜大学大学院

＜神経突起における酸化ストレス応答の解析＞

【センター外】芝浦工業大学大学院

＜唾液エクソソームのプロテオーム解析＞

【センター外】帝京平成大学大学院

＜スプライシング調節によるエネルギー代謝を介した寿命制御＞

【センター外】東京都立大学大学院

＜加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害の分子機序解析＞

【センター内】老化脳神経科学研究チーム（老化神経生物学）

＜抗がん剤による心毒性のバイオマーカー探索＞

【センター外】国立衛研

＜高齢者における血中GDF15濃度の臨床疫学的意義の解明と臨床領域への応用＞

【センター内】老化制御研究チーム（生体調節機能）

【センター外】女子栄養大

＜複製老化細胞のプロテオーム解析＞

【センター内】老化制御研究チーム（生体調節機能）

＜脂肪組織における新規肥満応答因子WWP1の機能解析＞

【センター外】東京理科大学

＜光遺伝学を用いたタンパク質の網羅的解析＞

【センター外】東京理科大学

＜ミトコンドリアタンパク質の網羅解析による組織・細胞内代謝変動の理解＞

【センター外】千葉大

＜超硫黄分子のライブイメージング＞

【センター外】九大院薬

＜ミトコンドリアタンパク質の分析＞

【センター外】九大院薬

＜小胞体のプロテオーム解析＞

【センター外】京都産業大

＜ヒト血清アルブミンの超硫黄分析＞

【センター外】徳島大学

<インスリンシグナル関連分子WDR6による病態制御機構の解明>

【センター外】早稲田大学大学院

<ミトコンドリアにおけるユビキチンシグナル応答>

【センター外】学習院大学大学院

<GalnTノックアウトマウスの血漿タンパク質解析>

【センター外】福島医大

<PA結合タンパク質の同定>

【センター外】千葉大

<トコトリエノールの抗肥満作用及び認知機能改善効果の解析>

【センター外】芝浦工業大学

<マウス脳における運動の影響のプロテオーム解析>

【センター外】順天堂大学

<骨由来幹細胞の細胞外小胞解析>

【センター外】横浜市立大学

<マウスT細胞のアシル化プロテオーム解析>

【センター外】慶応大学大学院

3 その他

- 「転移性去勢抵抗性前立腺がんの診断を補助する方法」に関し、富士フイルム和光純薬株式会社と共同で国際特許出願を行った（川上恭司郎：2020. 12. 22, PCT/JP2020/47963）。
- 「ポリスルフィド標識用アルキル化剤及びそれを用いたポリスルフィドの標識方法」に関し、特許出願を行った（梅澤啓太郎：2021. 4. 19, 特願2021-070477）
- 招待講演により研究テーマの普及に努めた。第94回日本生化学会大会のシンポジウムにおいて梅澤啓太郎研究員が「超硫黄生物学を支える化学プローブの開発」というタイトルで招待講演を行った。このシンポジウムは今年度採択された文科省学術変革領域(A)「新興硫黄生物学が拓く生命原理変革」の企画したキックオフ・シンポジウムであり、梅澤研究員は本学術変革領域の計画研究班に分担研究者として参画し、外部資金も獲得している。
- 本グループは、タンパク質の発現や翻訳後修飾の網羅的解析に関する分析装置および分析技術を有しており、研究所内外のグループに対し質量分析、プロテオーム解析、タンパク質同定などの技術支援を行っている。誌上発表、学会発表等、着実に実績に繋がっている（誌上発表：7件、学会発表：7件）。
- 学会活動に貢献した。日本基礎老化学会で庶務理事（事務局長）（三浦ゆり）、評議員（川上恭司郎）、日本電気泳動学会で評議員及び選挙管理委員長（三浦ゆり）、日本酸化ストレス学会関東支部会で幹事（三浦ゆり）を務め、基礎研究の発展に貢献するとともに、学会活動を通して法人の知名度向上に貢献した。
- 研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成と研究テーマの推進力増加に努めている。本年度は連携大学院生 1名（明治薬科大）を受け入れ、研究指導を行った（津元裕樹・三浦ゆり）。また昨年度の連携大学院生（東医歯大）は、今年度、論文発表（誌上発表：3）及び博士号を取得した（博士（保健学）；東医歯大 2021. 9. 16）。また、大学・大学院講義を通して、教育・研究活動の充実のために貢献した（明薬大大学院、帝京大・薬、都立大大学院、農工大大学院：三浦ゆり）。

システム加齢医学

構成メンバー

テーマリーダー：井上聡

研究員：高山賢一、竹岩俊彦、佐藤薫

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

- ・加齢性疾患と性ホルモンに関するプロジェクトに関しては、メカニズムの解明が進んでおり、順調に進行している。
- ・加齢性疾患とビタミンに関するプロジェクトは、ビタミンKの新たな作用メカニズムを示唆する研究結果を得るとともに、社会医学系との疫学研究に発展しており、学会発表も進み、原著論文の発表を進めた。

- ・ミトコンドリア呼吸鎖複合体の研究に関しては、確立した評価系を利用した化合物ライブラリーのハイスループットスクリーニングを行い、同定した化合物を用いた個体レベルでの研究が順調に進行し、既に特許を申請しており、これから論文を投稿する段階である。
- ・前立腺がんの研究に関しては、ホルモン療法および化学療法耐性にかかわる因子を同定、メカニズムの解明、特許出願を行っており、Nature Communications誌やCancer Research誌など論文・学会発表も順調に進行している。
- ・乳がん研究に関しては、新たな診断・治療の標的を同定するとともに、そのメカニズムの解析が進んでおり、PNAS誌など論文発表も順調に進行している。
- ・患者由来のがん細胞を用いた新しい実験系を確立し、がん病態のメカニズムの解明も進み順調に進行している。
- ・他部門との連携に関しては、当センターの臨床部門の山本寛呼吸器内科部長および社会医学系研究部門の金部長をはじめとして、センター内外・国内外の共同研究グループと共同して、ホルモン応答遺伝子とがん、およびロコモティブ症候群に関するプロジェクトを準備・推進しており、順調な進捗状況である。さらに、本年度から認知症未来社会創造センターとの共同研究が始まっている。

【その根拠】

- ・エストロゲン応答遺伝子EBAG9を欠損するマウスにおいて、骨量の減少とそれに伴う各種パラメータの変化に関する結果を得て、学会発表を行った。さらに、EBAG9は、糖鎖の構成に影響することが知られていることから、分子機構研究テーマと連携しつつ研究を進行している。
- ・アンドロゲンと老化に関して、骨組織および筋組織におけるアンドロゲンシグナルをChIPシーケンスの手法で解析することにより、老化に関連する組織特異的なアンドロゲンシグナルを同定する研究が進行している。
- ・筋老化再生医学および南東北病院との共同研究による、筋老化に関する臨床研究計画に基づき、サンプルを受け入れ初代培養筋芽細胞を樹立している。
- ・千葉大学および東京医科大学との共同研究により、ビタミンKの新規メカニズムを明らかにした。また、ビタミンKの局在解析も視野にプロテオーム研究テーマとの連携も行った。
- ・社会医学系との共同研究により、お達者健診で得られた血液サンプルを利用して、認知機能・フレイルとビタミンK充足度の関係を調べる疫学研究がすすみ、抗加齢医学会の発表では最優秀演題賞を受賞した。これまでの成果に関して論文発表を進めた。
- ・当研究室にて、FRETの原理を用いてミトコンドリア呼吸鎖超複合体の定量化をハイスループットで行う評価系を確立し、理化学研究所との共同研究により、化合物ライブラリーの中からミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成を促進する候補化合物を複数同定した。マウスに投与することにより運動耐用能の亢進が認められた化合物について国内特許を申請した。基礎老化学会の発表では、若手奨励賞を受賞し、現在論文投稿準備中である。
- ・前立腺がんに関しては、治療抵抗性克服が大きな課題であるが、転写因子OCT4が前立腺がんのタイプ別に異なる蛋白質複合体を形成して治療抵抗性にかかわるメカニズムを解明し、Nature Communications誌に論文発表を行った。慶應義塾大学ではこのメカニズムにより治療抵抗性前立腺がんの抗がん剤感受性を高める臨床試験も進行している。
- ・治療抵抗性の前立腺がんにかかわるRNA結合タンパク質PSFが、その標的と結合することを妨げる小分子のスクリーニングを理化学研究所との共同研究で行い、Cancer Research誌に論文発表を行った。また、動物での治療効果を示した化合物について国際特許を申請した。
- ・乳がんに関しては、TRIMファミリー蛋白質であるTRIM47が予後不良因子であることを示し、NF- κ Bシグナル経路を活性化してタモキシフェン耐性にかかわるというメカニズムを見出した。この成果に関して学会発表およびPNAS誌へ論文発表を行った。また、TRIM39が予後不良因子であり、複数の細胞周期関連遺伝子の発現を調節し、乳がん細胞の増殖にかかわることを明らかにして論文発表を行った。

- ・ 乳がんの新規予後不良因子として同定したOCT1がNCAPHの発現誘導を介して乳がん細胞の増殖と細胞周期を制御する事を明らかにし、論文発表を行った。
- ・ 患者由来のがん組織から複数のがん種において長期継代可能な三次元培養系を確立した。この系で、がん幹細胞様細胞の濃縮を達成し、その応用と新規メカニズムの解明から論文発表を行った。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<性ホルモンのロコモティブ症候群における役割の解明>

【センター内】 老化機構研究チーム（分子機構）、実験動物施設、老年病態研究チーム

【センター外】 東京大学医科学研究所、順天堂大学、埼玉医科大学、南東北病院外傷センター

<ビタミンの加齢性疾患における役割の解明>

【センター内】 老化機構研究チーム（プロテオーム）、自立促進と精神保健研究チーム

【センター外】 千葉大学、東京医科大学

<ミトコンドリア呼吸鎖超複合体の健康長寿における役割の解明>

【センター内】 実験動物施設、老化制御研究チーム（生体調節機能）、老年病理学研究チーム（高齢者がん）

【センター外】 埼玉医科大学、理化学研究所、千葉大学

<前立腺がんの新規治療法の探索>

【センター内】 実験動物施設

【センター外】 東京大学、日本大学、自治医科大学、東北大学、東京大学、国際医療福祉大学、千葉大学

<乳がんにおける新規治療法の探索>

【センター内】 実験動物施設

【センター外】 埼玉医科大学、虎ノ門病院、東北大学、埼玉医科大学、千葉大学、名古屋大学、ナミビア大学

<婦人科がんにおけるエストロゲンの作用の解明>

【センター内】 実験動物施設

【センター外】 埼玉医科大学、順天堂大学、埼玉医科大学、千葉大学

<呼吸器がんにおける性ホルモン応答遺伝子の作用の解明>

【センター内】 呼吸器内科

<老化と幹細胞研究>

【センター外】 昭和大学、長崎大学、埼玉医科大学

論文・学会発表

分子機構

1 学会発表

(1) 海外

なし

(2) 国内

1. 赤阪（萬谷）啓子、Pornparn Kongpracha、萬谷博、永森収志、遠藤玉夫：Altered expression of ppGalNAc-T7 associated with decreased lung function. 第44回日本基礎老化学会大会，愛知県大府市（あいち健康プラザ）（ハイブリッド開催），2020. 6. 11-13
2. 萬谷博、今江理恵子、桑原直之、田中智博、露口正人、水野真盛、加藤龍一、遠藤玉夫：構造解析に基づくO-マンノース型糖鎖の生合成機構. 第40回日本糖質学会年会、鹿児島県鹿児島市（かごしま県民交流センター），2021. 10. 27-29
3. 田村純一、田村敬裕、真鍋法義、大野詩歩、山口芳樹、萬谷博、遠藤玉夫：タンデムリビトールリン酸含有O-マンノシルグリカンの系統的合成とその糖鎖機能. 第40回日本糖質学会年会、鹿児島県鹿児島市（かごしま県民交流センター），2021. 10. 27-29
4. 萬谷博：間質-細胞相互作用を制御するO-マンノース型糖鎖の生合成機構. シンポジウム「糖鎖が制御する間質-細胞ネットワークと生体機能」第94回日本生化学会大会，オンライン開催，2021. 11. 3-5
5. 今江理恵子、萬谷博、津元裕樹、三浦ゆり、遠藤玉夫：CDP-エタノールアミン合成酵素PCYT2によるCDP-グリセロールの合成および α -ジストログリカンの制御. 第94回日本生化学会大会，オンライン開催，2021. 11. 3-5
6. 星野駿介、今江理恵子、萬谷博、遠藤玉夫：哺乳動物細胞におけるリビトールリン酸生合成経路の解析. 第94回日本生化学会大会，オンライン開催，2021. 11. 3-5
7. 露口正人、桑原直之、萬谷博、今江理恵子、田中智博、水野真盛、遠藤玉夫、加藤龍一：筋ジストロフィー症に関わる糖転移酵素POMGNT2の基質認識の分子機構. 第44回日本分子生物学会，神奈川県横浜市（パシフィコ横浜），2021. 12. 1-3
8. 萬谷博：構造・生化学から分かってきたO-マンノース型糖鎖の生合成機構. シンポジウム「セルバイオロジーと骨格筋」第7回日本筋学会学術集会，京都府京都市（京都大学），2021. 12. 11-12
9. 田村純一、田村敬裕、永瀬真央、真鍋法義、大野詩歩、星野駿介、山口芳樹、萬谷博、遠藤玉夫：RboP5-3GalNAcbの系統的合成と糖転移受容体機能. 日本農芸化学会2022大会，オンライン開催，2021. 3. 15-18
10. 今江理恵子、萬谷博、津元裕樹、三浦ゆり、遠藤玉夫：CDP-エタノールアミン合成酵素PCYT2によるCDP-グリセロール生合成機構の発見および α -ジストログリカンの機能制御. 日本薬学会第142年会，愛知県名古屋市（名古屋国際会議場），2022. 3. 25-28
11. 星野駿介、今江理恵子、萬谷博、遠藤玉夫：哺乳類におけるリビトールリン酸産生酵素の解析. 日本薬学会第142年会，愛知県名古屋市（名古屋国際会議場），2022. 3. 25-28

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Rieko Imae, Naoyuki Kuwabara, Hiroshi Many, Tomohiro Tanaka, Masato Tsuyuguchi, Mamoru Mizuno, Tamao Endo, Ryuichi Kato : The structure of POMGNT2 provides new insights into the mechanism to determine the functional O-mannosylation site on α -dystroglycan. Genes to Cells, 26, 485-494, 2021. 5.20 (原著, 査読あり) (IF: 1.891、2020-2021)
2. ©Rieko Imae, ★Hiroshi Many, Hiroki Tsumoto, Yuri Miura, Tamao Endo : PCYT2 synthesizes CDP-glycerol in mammals and reduced PCYT2 enhances the expression of functionally glycosylated α -dystroglycan. Journal of Biochemistry, 170, 183-194, 2021.10.11 (原著, 査読あり) (IF: 3.387、2020-2021)

(2) 総説

1. ©Rieko Imae, ★Hiroshi Many, Tamao Endo : Biosynthetic mechanisms and biological significance of glycerol phosphate-containing glycan in mammals. Molecules, 26, 6675, 2021.11.4 (総説, 査読あり) (IF: 4.411、2020)

3 著書等

1. 赤阪啓子、萬谷博：老化モデル動物、食品免疫学事典（日本食品免疫学会編，朝倉書店）2021.11.1（著書）
2. 萬谷博：日本学術振興会科学研究費 基盤研究（B）O-マンノース型糖鎖の構造多様性とその決定機構の解明。2020年度科学研究費助成事業実績報告書。2021.7.10（報告書）
3. 萬谷博：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 革新的先端研究開発支援事業 筋萎縮モデルにおける機械受容・応答の分子基盤 2020年度委託研究開発実績報告書 2021.5.10（報告書）
4. 萬谷博：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業 福山型筋ジストロフィーおよび類縁の糖鎖異常型筋ジストロフィーに対する糖鎖補充療法の開発 2020年度再委託研究開発実績報告書 2021.5.10（報告書）
5. 萬谷博：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業（ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発）令和2年度委託研究開発実績報告書 2021.5.10（報告書）
6. 萬谷博：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業（ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発）事後評価報告書 2021.5.17（報告書）
7. 萬谷博、赤阪啓子、永森收志、金川基：2018年度「きぼう」利用マウスサンプルシェアテーマ（マルチオミクスによる微小重力／老化関連因子の同定）最終報告書 2021.6.28（報告書）
8. 赤阪（萬谷）啓子：日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C）O型糖鎖修飾によるAPP代謝制御機構の解明。2020年度科学研究費助成事業実績報告書。2021.7.10（報告書）
9. 今江理恵子：日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C）グリセロールリン酸含有糖鎖の生物学的意義の解明。2020年度科学研究費助成事業実績報告書。2021.7.10（報告書）

プロテオーム

1 学会発表

(1) 海外

1. Umezawa, K., Tsumoto, H., Kawakami, K., Kamiya, M., Urano, Y., Endo, T., Miura, Y.: Development of a new chemical probe for specific detection of lysine-succinylated proteins, the Pacificchem 2021 Congress, Honolulu, 2021.12.16-21

(2) 国内

1. Fukui, K., Uenoyama, M., Wakuzawa, M., Yoshida, N., Kato, Y., Yoshida, N., Hara, T., Tsumoto, H., Miura, Y.: Elucidation of the mechanism of neurite degeneration-related proteins, 第44回日本基礎老化学会大会，あいち健康プラザ（愛知県知多郡），2021.6.11-13
2. 三浦ゆり，川上恭司郎，井出野佑太，増井幸恵，稲垣宏樹，津元裕樹，梅澤啓太郎，新井康通，池邊一典，石崎達郎，神出計，榎藤恭之，遠藤玉夫：縦断コホートをを用いた糖尿病性認知機能低下のグライコプロテオミクス，日本プロテオーム学会2021年会，WEB開催，2021.7.19-21
3. 津元裕樹，西風隆司，梅澤啓太郎，川上恭司郎，早川禎宏，三浦ゆり，遠藤玉夫：シアル酸結合様式特異的誘導体化法を用いたヒト血漿タンパク質の糖ペプチド解析，第40回日本糖質学会年会，鹿児島県民交流センター（鹿児島市），2021.10.27-29
4. 梅澤啓太郎：超硫黄生物学を支える化学プローブの開発、第94回日本生化学会大会、Web開催、2021.11.3-5。
5. 今江理恵子，萬谷博，津元裕樹，三浦ゆり，遠藤玉夫：CDP-エタノールアミン合成酵素PCYT2によるCDP-グリセロールの合成および α -ジストログリカンの制御，第94回日本生化学会大会，パシフィコ横浜ノース（横浜市），2021.11.3-5
6. 真野叶子，鈴木えみ子，三浦ゆり，飯島浩一，安藤香奈絵：神経細胞でのミトコンドリア局在異常は翻訳異常とタンパク質蓄積を引き起こす，第94回日本生化学会大会，パシフィコ横浜ノース（横浜市），2021.11.3-5
7. 真野叶子，鈴木えみ子，三浦ゆり，飯島浩一，安藤香奈絵：神経細胞内ミトコンドリア局在異常は分解機能低下によるタンパク質の蓄積を引き起こす，第40回日本認知症学会学術集会，東京国際フォーラム（東京），2021.11.26-28
8. 川上恭司郎，藤田泰朗，加藤卓，堀江憲吾，古家琢也，梅澤啓太郎，津元裕樹，三浦ゆり，片桐恭雄，宮崎龍彦，大澤郁朗，水谷晃輔，伊藤雅史：前立腺特異的膜抗原（PSMA）を発現する細胞外小胞の測定系構築と前立腺および腎がんの診断における臨床的有用性，第44回日本分子生物学会年会，パシフィコ横浜（横浜市），2021.12.1-3
9. 小川裕子，池本守，三浦ゆり，津元裕樹，遠藤玉夫，本車田悠希，堤周平，長島茉央，松岡千裕，原紅音，秋元義弘，川上速人，矢ノ下良平：ヒト唾液中にはアミノペプチダーゼで特徴づけられる2種類の細胞外小胞が存在する，日本薬学会第142年会，名古屋国際会議場（名古屋市），2022.3.25-28

10. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 三浦ゆり, 遠藤玉夫: CDP-エタノールアミン合成酵素 PCYT2 による CDP-グリセロール生合成機構の発見および α -ジストログリカンの機能制御, 日本薬学会第 142 年会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2022. 3. 25-28
11. 秋元義弘, 三浦ゆり, 宮東昭彦, Gerald W Hart, 遠藤玉夫: 核内で糖修飾 β -アクチンと相互作用するタンパク質の解析, 第 127 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪大学新箕面キャンパス・箕面市立文化芸能劇場 (大阪市), 2022. 3. 27-29

2 誌上发表

(1) 原著

1. © Kawakami, K., Fujita, Y., Kato, T., Horie, K., Koie, T., Umezawa, K., Tsumoto, H., Miura, Y., Katagiri, Y., Miyazaki, T., Ohsawa, I., Mizutani, K., Ito, M.: Diagnostic potential of serum extracellular vesicles expressing prostate-specific membrane antigen in urologic malignancies, *Scientific Reports*, **2021**, 11, 15000. (査読あり, IF2020: 4.379)
2. Imae, R., Many, H., Tsumoto, H., Miura, Y., Endo, T.: PCYT2 synthesizes CDP-glycerol in mammals and reduced PCYT2 enhances the expression of functionally glycosylated α -dystroglycan, *J. Biochem.* **2021**, 170, 183-194. (査読あり, IF2020: 3.387)
3. Sato, M., Tsumoto, H., Toba, A., Soejima, Y., Arai, T., Harada, K., Miura, Y., Sawabe, M.: Proteome analysis demonstrates involvement of endoplasmic reticulum stress response in human myocardium with subclinical left ventricular diastolic dysfunction, *Geriatr. Gerontol. Int.* **2021**, 21, 577-583. (査読あり, IF2020: 2.730)
4. Hishida, S., © Kawakami, K., Fujita, Y., Kato, T., Takai, M., Iinuma, K., Nakane, K., Tsuchiya, T., Koie, T., Miura, Y., Ito, M., Mizutani, K.: Proteomic analysis of extracellular vesicles identified PI3K pathway as a potential therapeutic target for cabazitaxel-resistant prostate cancer, *The Prostate*, **2021**, 81, 592-602. (査読あり, IF2020: 4.104)
5. Muramatsu-Maekawa, Y., © Kawakami, K., Fujita, Y., Takai, M., Kato, D., Nakane, K., Kato, T., Tsuchiya, T., Koie, T., Miura, Y., Ito, M., Mizutani, K.: Profiling of serum extracellular vesicles reveals *miRNA-4525* as a potential biomarker for advanced renal cell carcinoma, *Cancer Genomics & Proteomics*, **2021**, 18, 253-259. (査読あり, IF2020: 4.069)
6. Iinuma, K., Kawakami, K., Mizutani, K., Fujita, Y., Yamaguchi, T., Ito, M., Kumano, T., Matsuo, M., Nakano, M., Koie, T., Ito, M., Kato, T. miRNA-93 in Serum Extracellular Vesicles Before and After Low Dose Rate Prostate Brachytherapy, *Anticancer Res.*, **2021**, 41, 2411-2418. (査読あり, IF2020: 2.480)
7. Takai, M., Kawakami, K., Fujita, Y., Kato, T., Kato, D., Iinuma, K., Koie, T., Ito, M., Mizutani, K.: Karto-genin Inhibits Prostate Cancer Cell Growth Through Smad2 Activation and Decreases Androgen Receptor Nuclear Localization, *Anticancer Research*, **2021**, 41, 4753-4759. (査読あり, IF2020: 2.480)
8. Takahashi, H., Kamiya, M., Kawatani, M., Umezawa, K., Ukita, Y., Niwa, S., Oda, T., Urano, Y. Neural and behavioral control in *Caenorhabditis elegans* by a yellow-light-activatable caged compound, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, **2021**, 118, e2009634118. (査読あり, IF2020: 11.205)
9. Mizutani, K., Kawakami, K., Fujita, Y., Kato, T., Takai, M., Kato, D., Iinuma, K., Koie, T., Ito, M.: Gene therapy of prostate cancer using liposomes containing perforin expression vector driven by the promoter of prostate-specific antigen gene, *Scientific Reports*, **2022**, 12, 1442. (査読あり, IF2020: 4.379)

(2) 総説

1. Akimoto, Y., Miura, Y., Endo, T., Hart, G.W.: O-GlcNAcylation and Diabetes, *Comprehensive Glycoscience 2nd edition*, **2021**, 5, 133-148. (査読あり)

3 著書等

1. 三浦ゆり. 2020年度科研費成果報告書 基盤研究C「健康長寿の指標となる糖鎖構造とその生物学的意義の解明」(代表: 三浦ゆり)
2. 津元裕樹. 2020年度科研費成果報告書 基盤研究C「特異的誘導体化法を用いた新規シアリル化糖鎖・糖ペプチド解析法の開発と応用」(代表: 津元裕樹)
3. 梅澤啓太郎. 2020年度科研費成果報告書 基盤研究C「ケミカルツールを駆使したミトコンドリア機能制御因子の探索」(代表: 梅澤啓太郎)
4. 川上恭司郎. 2020年度科研費成果報告書 基盤研究C「認知機能低下の早期バイオマーカー探索: 長期縦断研究の検体を用いた細胞外小胞の解析」(代表: 川上恭司郎)

システム加齢医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Takeiwa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Inoue S: Identification of a tumor-promoting long intergenic noncoding RNA, OIN1, in ovarian cancer. (2021.5.11-14) Non-Coding RNAs: Biology and Applications, Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, virtual.
2. Horie-Inoue K, Ikeda K, Inoue S: Identification of therapeutic targets for testicular germ cell tumors based on transcriptomic analyses for patient-derived cancer spheroid cultures. (2021.5-19-21) Cancer Stem Cells: Advances in biology and Clinical Translation, Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, virtual.
3. Horie-Inoue K, Ikeda K, Inoue S: Potential drug repositioning of DPP4 inhibitor for advanced renal cell carcinoma resistant to vascular endothelial growth factor tyrosine kinase inhibitor. (2021.9.10-12) JCA-AACR precision cancer

medicine international conference, virtual.

(2) 国内

- 高松弘貴、田中準一、東浩太郎、堅田凌悟、石田尚子、行森茜、鯨岡聡子、安原理佳、井上聡、美島健二：マウス唾液腺老化における成体幹・前駆細胞の解析 (Analysis of stem and progenitor cells in aged mouse salivary gland) (2021.4.22-24) 第110回日本病理学会総会 京王プラザホテル (東京都新宿区)
- Kobayashi A, Azuma K, Ikeda K, Inoue S: 【若手奨励賞受賞、Most Impressive Presenter 賞受賞】 FRET-based high-throughput screen identifies a compound that promotes mitochondrial function by respiratory chain supercomplex assembly. (2021.6.11-13) 第44回日本基礎老化学会大会 あいち健康プラザ (愛知県知多郡) およびWEB開催
- 北山沙知、池田和博、川上理、堀江公仁子、井上聡：患者由来モデルを活用した精巣がんシスプラチン耐性メカニズムの探索と機能解析 (2021.6.12-13) 日本アンドロロジー学会第40回学術大会 阪医科大学看護学部本部北キャンパス講堂 (大阪府)
- 鎌田修平、北山沙知、池田和博、鈴木貴、市川智彦、矢野晶大、川上理、堀江公仁子、井上聡：患者由来腎がん三次元培養系に基づく難治腎がんの克服を目指した新規治療戦略の検討 (2021.6.25-27) 第21回日本抗加齢医学会総会 国立京都国際会館 (京都府京都市)
- 東浩太郎、大須賀洋祐、小島成実、笹井浩行、金憲経、井上聡：【最優秀演題賞受賞】都市部在住高齢者におけるビタミンK充足度と認知機能の関連：お達者研究 (2021.6.25-27) 第21回日本抗加齢医学会総会 国立京都国際会館 (京都府京都市)、
- 竹岩俊彦、池田和博、鈴木貴、堀江公仁子、井上聡：[ワークショップ] RNA結合蛋白質 PSF/PSPC1/NONO(DBHS)ファミリーの乳がん病態における役割 (2021.6.25-26) 第22回ホルモンと癌研究会 石川県立音楽堂 交流ホール (石川県金沢市)、
- 池田和博、堀江公仁子、井上聡：ホルモン感受性患者由来子宮内膜がん細胞の樹立に基づくエストロゲン応答遺伝子 Efp の機能解析 (2021.7.8-7.10) 第39回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー 鴨川グランドホテル (千葉県鴨川市)、
- 堀江公仁子、池田和博、井上聡：乳がんにおける増殖関連長鎖非コードRNAの機能解析と臨床応用 (2021.7.8-7.10) 第39回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー 鴨川グランドホテル (千葉県鴨川市)、
- 東浩太郎、池田和博、鈴木貴、堀江公仁子、井上聡：乳がんにおけるタモキシフェン耐性予測因子 TRIM47 の NF- κ B シグナル活性化 (2021.7.8-7.10) 第39回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー 鴨川グランドホテル (千葉県鴨川市)
- 井上聡：[シンポジウム] 我が国における健康と栄養をめぐる諸問題「ビタミンKの最近のトピックス」(2021.9.10) フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー生命を衛る衛生薬学の知 東邦大学習志野キャンパス (千葉県習志野市)
- 東浩太郎、池田和博、鈴木貴、堀江公仁子、井上聡：TRIM47 は PKC ϵ を安定化し乳がんのタモキシフェン耐性に関わる (TRIM47 contributes to tamoxifen resistance of breast cancer via stabilizing PKC ϵ .) (2021.9.30-10.2) 第80回日本癌学会学術総会 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)、
- 大日方大亮、高山賢一、船越大吾、Mitchell Lawrence、Renea Taylor、Shahneen Sandhu、Gail Risbridger、高橋悟、井上聡：去勢抵抗性AR陰性前立腺癌の進行に関わる OCT1 標的遺伝子の同定 (Identification of OCT1 target genes involved in progression of castration-resistant AR-null prostate cancer.) (2021.9.30-10.2) 第80回日本癌学会学術総会 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)、
- 堀江公仁子、北山沙知、池田和博、川上理、井上聡 [シンポジウム]：患者由来がん培養・移植系を活用した精巣がん分子病態の解析と新規治療標的の探索 (2021.9.30-10.2) 第80回日本癌学会学術総会 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)、
- 鎌田修平、池田和博、鈴木貴、佐藤航、北山沙知、川上理、市川智彦、堀江公仁子、井上聡：腎がん患者由来がん細胞により腫瘍促進・予後因子として Nuritin1 が見いだされた (Patient-derived renal cancer cell model reveals nuritin1 as a tumor promoting and prognostic factor.) (2021.9.30-10.2) 第80回日本癌学会学術総会 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- 井上聡：[シンポジウム：変形関節症と骨粗鬆症] 骨・軟骨・筋肉におけるエストロゲンの役割 (2021.10.8-10) 第23回日本骨粗鬆症学会 WEB開催
- 東浩太郎、柴祥子、池田和博、佐藤航、堀江公仁子、田中伸哉、井上聡：エストロゲン応答遺伝子 Ebag9 欠損マウスにおける骨形成低下とオートファジー制御 (2021.10.8-10) 第39回日本骨代謝学会学術集会 WEB開催
- 池田和博、堀江公仁子、井上聡：[シンポジウム] COX7RP ミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成因子を軸とした子宮体がんにおける代謝変容の解明 (Elucidation of metabolic alterations in endometrial cancer based on the axis of COX7RP mitochondrial respiratory supercomplex assembly factor.) (2021.11.3-5) 第94回日本生化学会大会 WEB開催
- 井上聡：[シンポジウム] ミトコンドリア呼吸鎖超複合体と筋肉、健康長寿 (2021.11.7-8) 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市)
- 井上聡：[シンポジウム] ビタミンKの最近の話題、脳機能との関連 (2021.11.20-21) 日本ビタミンK学会第73回大会 芝浦工業大学芝浦校舎 (東京都港区)
- 高山賢一、井上聡：[ワークショップ] 前立腺がんにおける病期特異的な遺伝子制御を支える相分離を介する転写複合体形成の促進機構 (Gene regulatory networks through sub-type specific transcription factor complex is sustained by enhanced phase separation in prostate cancer.) (2021.12.1-3) 第44回日本分子生物学会年会パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- 東浩太郎、竹岩俊彦、池田和博、井上聡：[ワークショップ] 呼吸鎖超複合体の可視・定量化に基づくミトコンドリア機能促進化合物の同定 (Identification of compounds that enhance mitochondrial function based on new method of visualization and quantification of respiratory chain supercomplex assembly.) (2021.12.1-3) 第44回日本分子生物学会年会パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- 池田和博、堀江公仁子、井上聡：[ワークショップ] ミトコンドリア呼吸鎖超複合体を介する代謝リモデリングとがん増殖 (Mitochondrial respiratory supercomplex assembly regulates metabolism and tumor growth.) (2021.12.1-3) 第44回日本分子生物学会年会パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

23. 井上聡：[シンポジウム] 精巣がん・腎がんの患者由来がん三次元培養・移植モデルと治療への応用（2021.12.15-17）患者由来がんモデル研究会 2021 WEB 開催

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Yang C, Ikeda K, Horie-Inoue K, Sato W, Hasegawa K, Takeda S, Itakura A, ★Inoue S: Transcriptomic analysis of hormone-sensitive patient-derived endometrial cancer spheroid culture defines Efp as a proliferation modulator. *Biochem Biophys Res Commun* 548:204-210, 2021, doi: 10.1016/j.bbrc.2021.02.066. (IF: 3.575、2020-2021) (査読あり)
2. ©Takayama K, Honma T, Suzuki T, Kondoh Y, Osada H, Suzuki Y, Yoshida M, ★Inoue S: Targeting epigenetic and post-transcriptional gene regulation by PSF impairs hormone therapy-refractory cancer growth. *Cancer Res* 81(13):3495-3508, 2021. doi: 10.1158/0008-5472.CAN-20-3819. (IF: 12.701、2020-2021) (査読あり)
3. ©Kamada S, Namekawa T, Ikeda K, Suzuki T, Kagawa M, Takeshita H, Yano A, Okamoto K, Ichikawa T, Horie-Inoue K, Kawakami S, ★Inoue S: Functional inhibition of cancer stemness-related protein DPP4 rescues tyrosine kinase inhibitor resistance in renal cell carcinoma. *Oncogene* 40(22):3899-3913, 2021, doi: 10.1038/s41388-021-01822-5. (IF: 9.867、2020-2021) (査読あり)
4. ©Takayama K, Kosaka T, Suzuki T, Hongo H, Oya M, Fujimura T, Suzuki Y, ★Inoue S: Subtype-specific collaborative transcription factor networks are promoted by OCT4 in the progression of prostate cancer. *Nat Commun* 12(1):3766, 2021, doi: 10.1038/s41467-021-23974-4. (IF: 14.919、2020-2021) (査読あり)
5. ©Azuma K, Ikeda K, Suzuki T, Aogi K, Horie-Inoue K, ★Inoue S: TRIM47 activates NF- κ B signaling via PKC ϵ /PKD3 stabilization and contributes to endocrine therapy resistance in breast cancer. *Proc Natl Acad Sci U S A* 118(35):e2100784118, 2021, doi: 10.1073/pnas.2100784118. (IF: 11.205、2020-2021) (査読あり)
6. ©Takeiwa T, Mitobe Y, Ikeda K, Hasegawa K, Horie K, ★Inoue S: Long Intergenic Noncoding RNA OIN1 Promotes Ovarian Cancer Growth by Modulating Apoptosis-Related Gene Expression. *Int J Mol Sci* 22(20):11242, 2021, doi: 10.3390/ijms222011242. (IF: 5.923、2020-2021) (査読あり)
7. ©Kamada S, Ikeda K, Suzuki T, Sato W, Kitayama S, Kawakami S, Ichikawa T, Horie K, ★Inoue S: Clinicopathological and preclinical patient-derived model studies define high expression of NRN1 as a diagnostic and therapeutic target for clear cell renal cell carcinoma. *Front Oncol* 11:758503, 2021, doi: 10.3389/fonc.2021.758503. (IF: 6.244、2020-2021) (査読あり)
8. ©Takamatsu K, Tanaka J, Katada R, Azuma K, Takakura I, Aota K, Kamatani T, Shiota T, Inoue S, ★Mishima K: Aging-associated stem/progenitor cell dysfunction in the salivary glands of mice. *Exp Cell Res* 112889, 2021, doi: 10.1016/j.yexcr.2021.112889. (IF: 3.383、2020-2021) (査読あり)
9. ©Ogura T, Azuma K, Sato J, Kinowaki K, Takayama K, Takeiwa T, Kawabata H, ★Inoue S: OCT1 Is a poor prognostic factor for breast cancer patients and promotes cell proliferation via inducing NCAH. *Int J Mol Sci* 22(21):11505, 2021, doi: 10.3390/ijms222111505. (IF: 5.923、2020-2021) (査読あり)
10. ©Ogura T, Azuma K, Takeiwa T, Sato J, Kinowaki K, Ikeda K, Kawabata H, ★Inoue S: TRIM39 is a poor prognostic factor for patients with estrogen receptor-positive breast cancer and promotes cell cycle progression. *Pathol Int* 2021;1-11, 2021, doi: 10.1111/pin.13190. (IF: 2.534、2020-2021) (査読あり)
11. Nagasawa S, Ikeda K, Shintani D, Yang C, Takeda S, Hasegawa K, Horie K, ★Inoue S: Identification of a novel oncogenic fusion gene SPON1-TRIM29 in clinical ovarian cancer that promotes cell and tumor growth and enhances chemoresistance in A2780 cells. *Int J Mol Sci* 23(2): 689, 2022, doi: 10.3390/ijms23020689. (IF: 5.923、2020-2021) (査読あり)
12. Azuma K, Osuka Y, Kojima N, Sasai H, Kim H, ★Inoue S: Association of vitamin K insufficiency with cognitive dysfunction in community-dwelling older adults. *Front Nutr* 8:811831, 2022, doi: 10.3389/fnut.2021.811831. (IF: 6.590、2020-2021) (査読あり)

(2) 総説

1. ©Takeiwa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, ★Inoue S: Mechanisms of Apoptosis-Related Long Non-coding RNAs in Ovarian Cancer. *Front Cell Dev Biol* 9:641963, 2021, doi: 10.3389/fcell.2021.641963. (IF: 6.684、2020-2021) (査読あり)
2. ©Hashimoto M, Ho G, Sugama S, Takenouchi T, Waragai M, Inoue S, ★Masliah E: Possible role of activin in the adiponectin paradox-induced progress of Alzheimer's disease. *J Alzheimers Dis* 81(2):451-458, 2021, doi: 10.3233/JAD-210206. (IF: 4.472、2020-2021) (査読あり)
3. ©Sato K, Takayama K, Hashimoto M, ★Inoue S: Transcriptional and post-transcriptional regulations of amyloid- β precursor protein, APP. *Frontiers in Aging* 2:721579, 2021, doi: 10.3389/fragi.2021.721579. (2020年創刊のためIF未定) (査読あり)
4. Kamada S, Takeiwa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, ★Inoue S: Emerging Roles of COX7RP and Mitochondrial Oxidative Phosphorylation in Breast Cancer. *Front Cell Dev Biol* 10:717881, 2022, doi: 10.3389/fcell.2022.717881. (IF: 6.684、2020-2021) (査読あり)

3 著書等

1. 戸田達史、井上聡、松本直通 監訳：ヒトの分子遺伝学第5版 (Human Molecular Genetics, 5th Edition) メディカル・サイエンス・インターナショナル社、ISBN978-4-8157-3032-1 2021年10月20日発売
2. 池田和博、井上聡：「ミトコンドリア呼吸と乳がん、子宮がん」、ミトコンドリアダイナミクス基礎研究から疾患、老化まで、第2編ミトコンドリアの臨床応用 第2章ミトコンドリアと疾病、株式会社エヌ・ティイー・エス、283-290, 2021年10月22日発売

受賞

システム加齢医学

1. 小林天美、東浩太郎、池田色、井上聡 若手奨励賞、Most Impressive Presentator 賞 FRET-based high-throughput screen identifies a compound that promotes mitochondrial function by respiratory chain supercomplex assembly. 2021.6.13
2. 東浩太郎、大須賀洋祐、小島成実、笹井浩行、金憲経、井上聡 最優秀演題賞 都市部在住高齢者におけるビタミンK充足度と認知機能の関連：お達者研究 2021.6.27
3. 鎌田修平、滑川剛史、池田和博、鈴木貴、香川誠、竹下英毅、矢野晶大、市川智彦、堀江公仁子、川上理、井上聡 第31回泌尿器科分子・細胞研究会 研究奨励賞受賞 2型糖尿病治療薬である DPP4 阻害薬は腎がんのチロシンキナーゼ阻害薬治療抵抗性を緩和する 2022.2.26

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老化制御研究チーム

チームリーダー：石神昭人

研究チームの概要・目的

老化制御研究チームでは、老化の機構を明らかにして日常生活に制限のない期間、すなわち健康寿命を延伸させるための方法論をエビデンスに裏打ちされた科学的根拠に基づいて開発することを目標とする。その目標を達成するために様々な生物種を研究対象として用い、そこから得られた研究成果を最終的にヒトへと外挿する。さらに、ヒトでの有用性を確認して健康寿命の延伸に貢献する。また、研究内容は、高齢者特有の疾患の発症を予防するための早期診断薬や発症後の有用な治療方法の開発にまで拡大し、高齢者の健康水準の更なる向上を図る。さらに、研究成果を迅速に学術論文として発信して世界の老化研究をリードする。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

分子老化制御

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
老化機構の解明	老化関連遺伝子の探索 老化細胞の同定とその除去法などの検討	分裂終了細胞での老化マーカー遺伝子の探索	組織幹細胞での老化マーカー遺伝子の探索	高齢動物の組織に存在する老化細胞の同定	老化細胞を積極的に除去する方法の検討	老化細胞を若い細胞に戻す方法の検討
老化制御の達成	栄養と老化 臨床検査試薬のヒト臨床試験 薬剤性腎障害発症機序の解明	栄養と老化①	アルツハイマー病臨床検査試薬のヒト臨床試験	栄養と老化②	薬剤性腎障害発症機序の解明	栄養と老化③

生体調節機能研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
(I) 水素分子の作用機序解明と臨床応用に 向けた研究	水素分子の標的となる特定分子の化学的修飾あるいはその分子構造変化を示し、その下流に存在するシグナル分子種とシグナル経路を明らかにすることで、作用メカニズムを明確にする。 動物を用いて、投与方法の違いにより水素分子が作用する臓器と細胞種、作用メカニズムが異なることを明確にし、的確な投与方法を導き出す。 動物実験と臨床研究から、水素分子によって効果的に予防・治療される疾患や老化現象を明確にし、水素分子の最適な投与方法を示す。特に水素分子による老化抑制効果の有無を検証する。	培養細胞において、水素分子の標的となる特定分子の存在を示す。 水素水を飲用させた薬物投与モデルで作用する細胞種と細胞内外の制御シグナルについて肝臓を中心に明らかにする。 老化モデル動物で血管における老化細胞の検出を通して、水素分子による老化抑制効果の有無を検証する。	培養細胞および動物組織において、水素分子の標的となる特定分子または特定構造変化を明らかにする。 疾患モデル動物で水素ガスの作用が脳機能保護作用であることを示す。 老化モデル動物で血管における老化細胞の検出を通して、水素分子による老化抑制効果の作用機序を検証する。	培養細胞において、水素分子の標的となる特定分子種または特定構造変化を同定して、ストレス抑制に関連する下流シグナルを示す。 モデル動物を用いて、水素水あるいは水素ガスによる抗炎症効果の効果的投与方法とメカニズムを解明する。 臨床で水素ガス吸引療法を開始するための準備を完了する。	動物モデルで、水素分子の標的となる特定分子種または特定構造変化を同定して、ストレス抑制に関連する下流シグナルを示す。 モデル動物の腸管免疫系に着目して、水素水あるいは水素ガスによる抗炎症効果の効果的投与方法とメカニズムを解明する。 臨床で水素ガス吸引療法（大動脈解離）を開始する。	脂質変動が細胞の機能変化を引き起こし、これがストレス抑制に関連する下流シグナルを制御することを示す。 モデル動物を用いて、免疫系の脳腸関連が水素分子の抗炎症メカニズムの一端であることを示す。 臨床で水素ガス吸引療法（大動脈解離）の安全性試験を完了する。

(II)ミトコン ドリア機能構 造相関と老化 の分子機構解 明及びその制 御研究	ミトコンドリア内膜クリ ステ構造のリモデリ ングを動的変化として 解析し、構造機能相関を 明らかにする。 加齢による脳神経細胞 機能の低下がミトコン ドリアの生理的变化 に依存することを、呼吸 鎖複合体の活性とその 構造的変化として示す。 ミトコンドリア電子 伝達系を制御する「水溶 化」CoQの抗老化作用機 構解明とヒトへの臨床 応用を目指す。	生細胞のクリス テを安定的に蛍 光ラベルし、ク リステのリモデ リングを超解像 G-STED顕微鏡で 経時的に捉え る。 マウス脳ミト コンドリアの加 齢変化に伴うタ ンパク質とその 相互作用の変化 を解析する。 上記の水溶化 CoQによる変化 を解析する。	エネルギー代謝 と細胞死を制御 することで生じ るクリステのリ モデリングを経 時的に捉える。 ミトコンドリア の加齢変化に伴 うタンパク質と その相互作用の 変化を水溶化 CoQを用いて解 析する。	ミトコンドリア 機能と細胞老化 との関連を示 す。 ミトコンドリア 病マーカーを老 化マーカーへ展 開する。	ミトコンドリア 機能変化が細胞 老化に及ぼす影 響を示す。 老化マーカー へと展開したミ トコンドリア病 マーカーの普及 に努める。	ミトコンドリア 機能と「複製終了 後」老化との関連 を示す。 老化マーカー へと展開したミ トコンドリア病 マーカーの普及 に努める。

分子老化制御

構成メンバー

テーマリーダー：石神昭人
研究員：佐藤綾美
非常勤研究員：滝野有花、野田恵

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

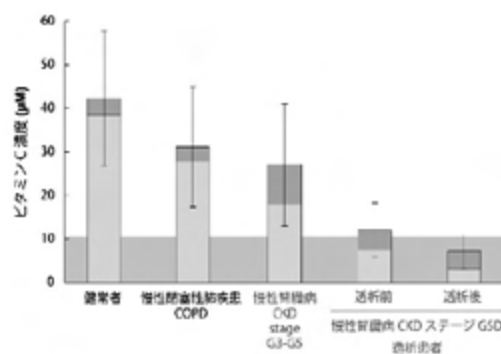
- **〔老化機構の解明〕** 1細胞遺伝子発現解析による老化関連遺伝子の探索，および老化細胞の同定は概ね順調に進行している。昨年度までに，老齢ラットの肝臓実質細胞で若齢ラットに比べて発現量が顕著に高く変動する3種類の老化関連遺伝子(AGs: Age-associated genes)を見出すことができた。遺伝子名は，まだ明らかにできないためAG1, AG2, AG3と表記する。本研究で私たちが定義する「老化関連遺伝子」とは，必ずしも老化を制御するなど，老化機構に直接関与する遺伝子を意味するのではなく，加齢による二次的，および三次的に変動する遺伝子もすべて含む総称である。今までに報告された論文より，AG1はアポトーシスの誘導，AG2は炎症の抑制，そしてAG3は細胞増殖の抑制に関与する可能性がある。しかし，AG1, AG2, AG3と老化との関連性を示す報告は未だない。
今年度，若齢から老齢まで様々な月齢(3, 6, 12, 24, 32-34月齢)のマウス肝臓(実質細胞と非実質細胞を含む)を用いてqPCRによる遺伝子発現の加齢変化を詳細に解析した。その結果，32-34月齢の高齢マウス肝臓での遺伝子発現は，3月齢の若齢マウスに比べてAG1では5.5倍，AG2では7.7倍，AG3では3.0倍も高発現していることがわかった。また，1細胞遺伝子発現の再解析により，とても興味深いことに老齢ラットの肝臓実質細胞では，これら3種類の遺伝子が同一の細胞で高発現している割合が高かった。一方，若齢ラットの肝臓実質細胞では，これら3種類の遺伝子を発現している同一の細胞は，ほとんど見られなかった。さらに，ウェスタン法によるAG1, AG2, AG3のタンパク質解析でも加齢に伴いタンパク量が顕著に増加した。これら3種類の遺伝子を高発現している細胞は，私たちが探している老齢動物に存在する老化細胞である可能性がある。
さらに今年度，これら老化関連遺伝子を高発現する老齢動物の肝臓に存在する老化細胞を可視化すべく，*in situ*ハイブリダイゼーション法による細胞染色を実施した。そして，*in situ*ハイブリダイゼーション法により，老齢動物の肝臓実質細胞において，AG1陽性細胞を確認できた。一方，若齢動物の肝臓実質細胞では，AG1陽性細胞は，ほとんど認められなかった。AG1陽性細胞は，目的とする老化細胞である可能性が高い。
なお，*in situ*ハイブリダイゼーション法による老化細胞の同定は老年病理学研究チーム高齢者ががん研究の石渡俊行研究部長との共同研究である。
- **〔老化制御の達成〕** 近年，胎生期から乳児期の栄養環境が，成人期の肥満や生活習慣病への罹患を規定するというDevelopmental Origins of Health and Disease(DOHaD)学説が提唱されている。その影響は，老化の速度，そして老齢期にまで及ぶことも懸念される。また，DOHaD学説の分子機構としてエピジェネティクスによる遺伝子発現調節が想定される。エピジェネティクスとは，「DNA塩基配列の変化を伴わずに細胞分裂後も継承される遺伝子発現あるいは細胞表現型の変化を研究する学問領域」と定義される。

恒久的な遺伝子変異とは異なり、エピジェネティクスは可塑性を示し、環境や生活習慣などの外的要因の影響を受けて変化する。代表的な機構としてDNAメチル化やヒストン修飾がよく知られる。

近年、興味深いことに、ビタミンC(L-アスコルビン酸)がDNA脱メチル化酵素(Tet, Ten-Eleven Translocation)の補因子として、エピジェネティクスを介した遺伝子発現制御に関与することが明らかになった。私たちは獨協医科大学埼玉医療センター(前:東京医科歯科大学)橋本貢士先生との共同研究により、乳児期の肝臓でのビタミンC不足が様々な遺伝子のDNA脱メチル化に及ぼす影響を調べた。すなわち、ビタミンCが不足したSMP30ノックアウトと野生型マウスの乳児期(生後16日)と成獣期(生後100日)において、肝臓における遺伝子のDNAメチル化状態をMIAMI法(Microarray-based Integrated Analysis of Methylation by Isoschizomers, マイクロアレイによるゲノムワイドなメチル化解析法)により網羅的に解析した。その結果、乳児期(生後16日)のビタミンC不足により、肝臓ではDNA高メチル化した遺伝子が顕著に多かった。そして、遺伝子のパスウェイ解析によりFGF21(Fibroblast Growth Factor 21)遺伝子を含む脂質代謝関連遺伝子が有意に抽出された。*Fgf21*遺伝子は、PPAR α 標的遺伝子であり、糖尿病の発達プログラミングに重要な役割を果たすepigenetic memory geneである。これらの結果は、乳児期のビタミンC摂取が、脂質代謝関連遺伝子の適正なDNA脱メチル化に必要であることを示している。同時に乳児期のビタミンC不足は、将来、脂質代謝異常を発症する可能性が示唆された。そして、その研究成果を英語論文として発表した(Ascorbic acid during the suckling period is required for proper DNA demethylation in the liver. *Sci Rep.* 2020 Dec 4;10(1):21228)。

【獨協医科大学埼玉医療センター(前:東京医科歯科大学) 橋本 貢士先生との共同研究】

【老化制御の達成】近年、世界中で高齢の透析患者が増加しており、社会問題になっている。日本では、2012年末時点で透析患者の65.5%が65歳以上の高齢者である。以前より透析患者は、低い血中ビタミンC濃度が報告されていた。しかし、日本の透析患者も血中ビタミンC濃度が低いのかは、よくわかっていなかった。そこで、私たちはセンター病院、腎臓内科の武井卓部長、板橋美津世専門部長、湯村和子医師と協力して、慢性腎臓病を患う日本の高齢透析患者の血中ビタミンC濃度は低いのか、また透析の前後で血中ビタミンC濃度は変動するのか、などを明らかにすべく、共同研究を実施した。同時に、血中の酸化型ビタミンC濃度の割合についても調べた。そして、高齢の透析患者(CKDステージG5D, 平均年齢79歳)は、透析を受けていない慢性腎臓病患者(CKDステージG3-G5, 平均年齢84歳)に比べて血中ビタミンC濃度が低いことがわかった(下図を参照)。また、血中ビタミンC濃度は、1回の透析により、およそ40%も減少した。さらに、透析により血中の酸化型ビタミンC濃度の割合も増加した。血中ビタミンC濃度が低い原因は、カリウム摂取量の厳格な制限により、新鮮な果物や野菜からビタミンCが摂取できていない可能性が考えられる。この研究成果は、高齢透析患者の栄養改善や治療に大きく貢献するものと期待される。そして、その研究成果を英語論文として発表した(Reduced Plasma Ascorbate and Increased Proportion of Dehydroascorbic Acid Levels in Patients Undergoing Hemodialysis. *Life (Basel).* 2021 Sep 28;11(10):1023)。



【センター病院腎臓内科 武井 卓部長、板橋 美津世専門部長、湯村 和子医師との共同研究】

- 【老化制御の達成】ビタミンCには、酸化したビタミンEを還元型に戻すビタミンEリサイクリング機構が、以前より *in vitro*(試験管内)試験により報告されている。しかし、意外にも生体内組織において、ビタミンCによるビタミンEリサイクリング機構は、未だ証明されていない。そのため、本研究では、ビタミンCを体内で合成できないSMP30ノックアウトマウスを用いて、ビタミンCとビタミンEをそれぞれ不足させた各組織のビタミンCとビタミンE濃度を測定し、その相互作用について詳細に比較、検討した。その結果、ビタミンCとビタミンE濃度の動態は組織毎に大きく異なり、特に肝臓ではビタミンCによるビタミンEリサイクリング機構が働いている可能性を明らかにした。そして、これら研究成果を英語論文として発表した(Determination of tissue-specific interaction between vitamin C and vitamin E in vivo using senescence marker protein-30 knockout mice as a vitamin C synthesis deficiency model. *Br J Nutr.* 2021 Nov 2;1-33)。

【芝浦工業大学 福井 浩二先生と東洋大学 矢野 友啓先生との共同研究】

【その根拠】

- センター病院，腎臓内科の武井卓部長，板橋美津世専門部長，湯村和子医師らとの共同研究により，高齢の慢性腎臓病患者は，血中ビタミンC濃度が低いこと，そして血液透析によりビタミンCが減少することを明らかにした．そして，英語論文での発表(Life (Base1). 2021 Sep 28;11(10):1023)と同時に研究所からもプレスリリース(「高齢の慢性腎臓病患者は血中ビタミンC濃度が低く，血液透析によりビタミンCが減少する」)を行った．
 さらに，連携大学院生(東京都立大学)の土志田裕太より，本研究成果を2021年6月に日本ビタミン学会第73回大会で発表した．そして，本研究成果は，「老化とビタミンC研究」に大きく貢献することが期待され，日本ビタミン学会より『学生優秀発表賞』を受賞した．

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ＜高齢者での薬剤性腎障害発症機序の解明，および腎障害を軽減できる方法論の探索＞
 【センター内】薬剤科、病理診断科、腎臓内科
 【センター外】東邦大学
- ＜慢性腎臓病や腎透析とビタミンCとの関連研究＞
 【センター内】腎臓内科
- ＜シトルリン化タンパク質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発＞
 【センター内】老化制御研究チーム（生体調節機能）、老年病理学研究チーム（神経病理学）
 【センター外】富士レビオ株式会社
- ＜高島平こころとからだの健康調査，認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業＞
 【センター内】社会科学系副所長
- ＜高齢者の血漿ビタミン及びカロテノイド濃度と筋力及び運動との関係＞
 【センター内】自立促進と介護予防研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム
 【センター外】淑徳大学、カゴメ研究開発本部
- ＜klothoマウスの腎臓、肺におけるシトルリン化タンパク質の動態解析＞
 【センター内】老化機構研究チーム
- ＜老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定＞
 【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん）
 【センター外】和歌山県立医科大学、東京都立大学、東京医科歯科大学
- ＜老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定＞
 【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん）
 【センター外】和歌山県立医科大学、東京都立大学、東京医科歯科大学
- ＜生体内でのビタミンCとビタミンEの相互作用に関する研究＞
 【センター外】東洋大学ライフイノベーション研究所、芝浦工業大学
- ＜筋肉におけるビタミンCの役割解明＞
 【センター外】順天堂大学大学院
- ＜敗血症に対するビタミンC療法の有効性＞
 【センター外】大分大学
- ＜シトルリン化タンパク質とプリオン病＞
 【センター外】Laboratory of Cellular Aging and Neurodegeneration, Ilsong Institute of Life Science, Hallym University
- ＜脳におけるSMP30の機能解明、加齢変化＞
 【センター外】Laboratory of Molecular Neurobiology, College of Pharmacy, Pusan National University
- ＜関節リウマチの早期診断と発症機構の解明＞
 【センター外】東京医科歯科大学、東京女子医科大学

生体調節機能

構成メンバー

テーマリーダー：大澤郁朗

研究員：藤田泰典、池谷真澄

非常勤研究員：伊藤雅史、濱 美里

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

＜水素分子による疾患制御＞

水素分子の作用機序解明と臨床応用に向けた研究は順調に進行している。

＜老化とミトコンドリアの研究＞

細胞老化のメカニズムに関する根源的研究で新たな発見があり、順調に進行している。

【その根拠】

＜水素分子による疾患制御＞

・分子レベルでの作用機序に関する研究では、水素分子に暴露された細胞は一過的なエネルギー代謝の抑制と酸化ストレスの増大が認められた。この時、脂質変動と細胞内輸送の遅延が認められたことから、水素分子の作用には脂質が関与している可能性を突き止めた。

・動物モデル研究では、水素分子により腸管免疫系の過剰な炎症反応が抑制されることを発見した。これにより水素水の多様な疾患抑制効果を説明できる可能性が拓けた。また、肺炎モデルで水素ガス吸入による抗炎症効果を示した。

・臨床研究では、水素ガスによる大動脈解離（Stanford B型）の予防的治療を開始した。

＜老化とミトコンドリアの研究＞

・細胞老化（分裂老化）開始前にはミトコンドリア異常が起こらないことを示唆する知見を得、従来の「老化のミトコンドリア仮説」では分裂老化を説明できないことを明らかにした。

・細胞老化の進行に伴いミトファジーが低下している知見を得た。これが、細胞老化後に徐々に異常ミトコンドリアが増加する要因と考えられる。

・ミトコンドリア病マーカーとして同定したGDF15は炎症マーカーでもあり、寿命マーカーとなりうるということが明らかとなってきた。また、サルコペニアの病態と有意に関連があった。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜水素分子の作用機序解明と臨床応用＞

【センター内】実験動物施設、老化脳神経科学研究チーム、心臓血管外科、ICU、病理診断科

【センター外】東洋大学、岡山大学、日本医科大学

＜ミトコンドリア機能構造相関と老化の分子機構及びその制御＞

【センター内】老化制御研究チーム（分子老化制御）、老化機構研究チーム、老年病態研究チーム

【センター外】東京農工大学、防衛医科大学、東京大学

＜その他：細胞輸送とオルガネラ制御＞

【センター外】東京農工大学

＜その他：老化マーカー、エクソソームなど＞

【センター内】老化機構研究チーム、社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献、ヘルシーエイジングと地域保健）、総合内科、循環器内科、病理診断科

【センター外】岐阜大学

論文・学会発表

分子老化制御

1 学会発表

(1) 海外

1. Sarah Ilona Palko, Nicholas Saba, Benjamin D. Nicholas, Yosuke Nagasaka, Jayakrishna Ambati, Bradley D. Gelfand, Akihito Ishigami, Paola Bargagna-Mohan, Royce Mohan : Genetic ablation of PAD4 in the Accelerated Mouse Model of AMD Results in Reduced Citrullinated Products. 2021 Annual Meeting the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), 2021. 5. 1-7

(2) 国内

1. 石神昭人, 篠原もえ子, 濱口毅, 山田正仁, 村松大輝 : ビタミンC等の測定とビタミンC欠損モデル動物の作製. AMED研究報告会(班会議), WEB開催, 2021. 6. 4
2. 篠原もえ子, 山田正仁, 石神昭人, 中村裕之 : 認知症地域コホートにおける分子疫学的研究 : 認知機能低下に関する「性」－「アポE」－「食品関連因子」との交互作用, ビタミンCの作用機序の検討. AMED研究報告会(班会議), WEB開催, 2021. 6. 4
3. 濱口毅, 村松大輝, 山田正仁, 石神昭人, 道川誠, 西道隆臣 : ApoE KI モデルマウスを用いたビタミンC 投与効果および作用機序の解析. AMED研究報告会(班会議), WEB開催, 2021. 6. 4

4. Yung-Li HUNG, Ayami SATO, Akihito ISHIGAMI, Shuichi MACHIDA : Effects of aging and sex on skeletal muscle mass and strength after resistance exercise training in F344 rats. 日本基礎老化学会第44回大会, あいち健康プラザ & WEB 同時配信, 愛知, 2021.6.11-13
5. 新村柚里香, 土志田裕太, 滝野有花, 佐藤綾美, 福井浩二, 石神昭人 : ビタミンC生合成系へのAkr1c6の関与. 日本ビタミン学会第73回大会, 芝浦工業大学, 東京, 2021.6.19-20
6. 松井美緒, 浦澤佳苗, 佐藤綾美, 滝野有花, 佐藤安訓, 斉藤紀克, 大澤肇, 相垣敏郎, 石神昭人 : ビタミン C による表皮角化細胞のエピジェネティクス変化. 日本ビタミン学会第73回大会, 芝浦工業大学, 東京, 2021.6.19-20
7. 土志田裕太, 板橋美津世, 武井卓, 滝野有花, 佐藤綾美, 湯村和子, 丸山直記, 石神昭人 : 血液透析は日本人透析患者の血漿アスコルビン酸濃度を低下させる. 日本ビタミン学会第73回大会, 芝浦工業大学, 東京, 2021.6.19-20
8. エンイチブン, 王梓, 吉井幸, 石神昭人, 千葉卓哉, 近藤嘉高 : The distinct tissue distribution of enzymes in pentose phosphate pathway of mouse. 第21回日本抗加齢医学会総会, 国立京都国際会館, 京都, 2021.6.25-27
9. 新村柚里香, 土志田裕太, 岩淵禎弘, 福井浩二, 滝野有花, 佐藤綾美, 相垣敏郎, 橋本真一, 石神昭人 : 加齢に伴うSMP30遺伝子発現と関連する関連遺伝子Akr1c6の同定と遺伝子欠損マウスを用いたAkr1c6の機能解析. 第94回日本生化学会大会, パシフィコ横浜 ノース, 横浜, 2021.11.3-5
10. 佐藤綾美 : がん研究におけるエピジェネティクスとビタミンE類縁体. 日本ビタミン学会第73回大会Part2, 芝浦工業大学, 東京, 2021.11.20-21
11. 荒川航太, 井上博文, 石神昭人, 佐藤綾美, 滝野有花, 田中未央里, 高橋信之, 上原万里子 : アスコルビン酸欠乏は抗老化タンパク質SMP30の血漿エクソソーム内分泌を増加させる. 第26回日本フードファクター学会 学術集会, オンライン開催, 2021.11.20-21
12. 石神昭人 : ビタミンCで健康長寿をかなえよう. フレトレ講座 日本健康寿命延伸協会, 東京, 2021.7.26
13. 石神昭人 : 皮膚でのビタミンCの働き. 日本ビタミン学会第73回大会 ランチョンセミナー, 芝浦工業大学, 東京, 2021.11.20
14. 石神昭人 : 皮膚でのビタミンCの働き. 2021年度日本ビタミン学会市民公開講座「私たちの健康・美容とビタミン」, シティホールプラザアオーレ長岡 市民交流ホールA, 新潟, 2021.12.4
15. 山口陽子, 皆田皓平, 末永雄介, 石神昭人, 小林芳郎, 永田喜三郎 : p53に制御されるマクロファージの食食機構は老化によって破綻する. 第44回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2021.12.1-3
16. エンイチブン, 吉井幸, 中川香里, 石神昭人, 千葉卓哉, 近藤嘉高 : ペントースリン酸経路におけるグルコン酸キナーゼの臓器分布に関する研究. 第44回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2021.12.1-3
17. Daichi Murata, Masashi Miyai, Toari Hirakawa, Hiroko Manabe, Katsuyuki Maeno, Akira Motoyama, Christopher T Knight, Akihito Ishigami, Chika Katagiri : Upregulation of the NMF producing enzyme PAD1 by low humidity and low temperature climate gives the skin adaptability to dry environments. 日本研究皮膚科学会 第46回年次学術大会・総会, WEB開催, 2021.12.3-5
18. 佐藤綾美, 矢野友啓, 福井浩二, 石神昭人 : 抗酸化ビタミン, CとEの不足が及ぼす生体への影響. 第34回日本酸化ストレス学会関東支部会, 神奈川歯科大学 Zoomウェビナー, 2021.12.18
19. Yung-Li HUNG, Ayami SATO, Yuka TAKINO, Akihito ISHIGAMI, Shuichi MACHIDA : Effects of estrogen on resistance training induced myosin heavy chain isoform shifts in female rat skeletal muscle. 第99回日本生理学会大会, 東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2022.3.16-18

2 誌上発表

(1) 原著

1. Hayashi K, Noguchi-Shinohara M, Sato T, Hosomichi K, Kannon T, Abe C, Domoto C, Yuki-Nozaki S, Mori A, Horimoto M, Yokogawa M, Sakai K, Iwasa K, Komai K, Ishimiya M, Nakamura H, Ishida N, Suga Y, Ishizaki J, Ishigami A, Tajima A, Yamada M. Effects of functional variants of vitamin C transporter genes on apolipoprotein E E4-associated risk of cognitive decline: The Nakajima study. PLoS One. 2021 Nov 15;16(11):e0259663. doi: 10.1371/journal.pone.0259663. eCollection 2021. PMID: 34780525 (査読あり) (IF 3.240, 2020)
2. ©Sato A, Takino Y, Yano T, Fukui K, ★Ishigami A. Determination of tissue-specific interaction between vitamin C and vitamin E in vivo using senescence marker protein-30 knockout mice as a vitamin C synthesis deficiency model. Br J Nutr. 2021 Nov 2;1-33. doi: 10.1017/S0007114521004384. Online ahead of print. PMID: 34725010 (査読あり) (IF 3.718, 2020)
3. ©Doshida Y, Itabashi M, Takei T, Takino Y, Sato A, Yumura W, Maruyama N, ★Ishigami A. Reduced Plasma Ascorbate and Increased Proportion of Dehydroascorbic Acid Levels in Patients Undergoing Hemodialysis. Life (Basel). 2021 Sep 28;11(10):1023. doi: 10.3390/life11101023. PMID: 34685394 (査読あり) (IF 3.817, 2020)
4. Ohya A, Osada A, Kawaguchi H, Kurata I, Nishiyama T, Iwai T, Ishigami A, Kondo Y, Tsuboi H, Sumida T, Matsumoto I. Specific Increase in Joint Neutrophil Extracellular Traps and Its Relation to Interleukin 6 in Autoimmune Arthritis. Int J Mol Sci. 2021 Jul 16;22(14):7633. doi: 10.3390/ijms22147633. PMID: 34299252 (査読あり) (IF 5.923, 2020)
5. ©Sato A, Fonseca IM, Nagamine MK, Toledo GF, Olivo R, Blazquez FJH, Yano T, Yeh ES, Dagli MLZ. Effects of Alpha-Connexin Carboxyl-Terminal Peptide and Bowman-Birk Protease Inhibitor on Canine Oral Mucosal Melanoma Cells. Front Vet Sci. 2021 Jun 10;8: 670451. doi: 10.3389/fvets.2021.670451. PMID: 34179163 (査読あり) (IF 3.412, 2020)
6. Osaka M, Deushi M, Aoyama J, Funakoshi T, Ishigami A, Yoshida M. High-Fat Diet Enhances Neutrophil Adhesion in LDLR-Null Mice Via Hypercitrullination of Histone H3. JACC Basic Transl Sci. 2021 May 19;6(6):507-523. doi: 10.1016/j.jacbs.2021.04.002. eCollection 2021 Jun. PMID: 34222722 (査読あり) (IF 8.648, 2020)
7. Aoyama J, Osaka M, Deushi M, Hosoya S, Ishigami A, Maehara T, Yoshida M. CXCL1-Triggered PAD4 Cytoplasmic Translocation Enhances Neutrophil Adhesion through Citrullination of PDIA1. J Atheroscler Thromb. 2021 Dec 8. doi: 10.5551/jat.63237. Online ahead of print. PMID: 34880166 (査読あり) (IF 4.928, 2020)

(2) 総説

1. ★©石神昭人 : 健康や美容のマストアイテムービタミンCー. ビタミン 95 532-534 (2021)

2. ◎新村柚里香, 福井浩二, ★石神昭人 : 華麗なる加齢の特徴: マウス生涯にわたる単一細胞トランスクリプトームアトラス. ビタミン 95 512-515 (2021)
3. ★◎石神昭人, 佐藤綾美 : ビタミンCと感染症. 日本食品安全協会誌 16 1-6 (2021)
4. ★◎石神昭人 : 超高齢社会におけるエイジングサイエンスの展望. 「超高齢社会を支える医学・医療の提案」医学のあゆみ 279 347-350 (2021)
5. ★◎石神昭人 : ビタミンC. 診断と治療 109 1057-1060 (2021) 2021. 8. 1
6. ◎土志田裕太, ★石神昭人 : α -ケトグルタル酸は加齢による骨粗鬆症を防ぐ. ビタミン 95 290-293 (2021)

3 著書等

1. ★◎石神昭人: 生理学(生理機能), 栄養学(欠乏症), トピックス(ビタミンCとエピジェネテックス)『ビタミン・バイオファクター総合事典』(日本ビタミン学会 編)朝倉書店 pp. 275-281, 286-288 (2021)
2. ★◎石神昭人 : 老化制御『老化メカニズムの徹底究明 分子からアンチエイジングまで』別冊「医学のあゆみ」医歯薬出版株式会社 pp. 107-112(2021)
3. ★◎石神昭人 : 「老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定とその除去による個体寿命延長効果」, 平成31年度文部科学省科学研究費基盤(B)報告書, 令和3年4月
4. ★◎石神昭人 : 「認知症における性差とそのメカニズム解明に関する研究」, 平成31年度AMED「認知症研究開発事業」報告書, 令和3年4月

生体調節機能

1 学会発表

(1) 海外

なし

(2) 国内

1. 池谷真澄, 坂根巖, 藤田泰典, 伊藤雅史, 大澤郁朗 Delayed endosomal transport with lipid compositional change in molecular hydrogen-treated neuroblastoma. 第44回日本基礎老化学会大会、愛知県知多郡東浦町（ハイブリッド開催）、2021. 6. 11-13.
2. 藤田泰典, 池谷真澄, 伊藤雅史, 大澤郁朗 Mitochondrial dysfunction is not a key initiator of replicative senescence. 第44回日本基礎老化学会大会、愛知県知多郡東浦町（ハイブリッド開催）、2021. 6. 11-13.
3. 重本和宏、福永大地、森秀一、大村卓也、野田義博、藤田泰典, 大澤郁朗 Muscle fiber type specific alterations of mitochondrial respiratory function and morphology. 第44回日本基礎老化学会大会、愛知県知多郡東浦町（ハイブリッド開催）、2021. 6. 11-13.
4. 大澤郁朗 Leading-Edge Talk (招待公演) 分子状水素の作用機序についての考察 第10回日本分子状水素医学生物学会年会、東京（ハイブリッド開催）、2021. 8. 26-27.
5. 池谷真澄, 坂根巖, 藤田泰典, 伊藤雅史, 大澤郁朗 分子状水素による一過的なリン脂質増加とエネルギー代謝抑制 第10回日本分子状水素医学生物学会年会、東京（ハイブリッド開催）、2021. 8. 26-27.
6. 丸山悦子、藤田泰典, 池谷真澄, 大澤郁朗 酸化ストレスによって得られる培養神経細胞の外液中heavy mitochondria画分の8-OHdG複合体の解析 量子生命科学会第3回大会、WEB開催、2021. 9. 16.
7. 重本和宏、福永大地、森秀一、大村卓也、野田義博、藤田泰典, 大澤郁朗 加齢マウスにおける筋線維タイプ別のミトコンドリア呼吸機能および形態の変化 第94回日本生化学大会、WEB開催、2021. 11. 3-5.
8. 大澤郁朗 スポンサーセミナー(招待公演) 分子状水素の作用メカニズムを考える 日本ビタミン学会第73回大会Part 2、東京（ハイブリッド開催）、2021. 11. 20-21.
9. 大村卓也、福永大地、森秀一、野田義博、大澤郁朗, 藤田泰典, 河野真子、重本和宏 骨格筋におけるミトコンドリアの加齢変化は筋線維タイプ単位に依存する 第44回日本分子生物学会年会（ハイブリッド開催）、横浜市、2021. 12. 1-3.
10. 川上恭司郎, 藤田泰典, 加藤卓, 堀江憲吾, 古家琢也, 梅澤啓太郎, 津元裕樹, 三浦ゆり, 片桐恭雄, 宮崎龍彦, 大澤郁朗, 水谷晃輔, 伊藤雅史 前立腺特異的膜抗原(PSMA)を発現する細胞外小胞の測定系構築と前立腺および腎がんの診断における臨床的有用性 第44回日本分子生物学会年会（ハイブリッド開催）、横浜市、2021. 12. 1-3.
11. 横山茜, 小松真希, 池谷真澄, 藤田泰典, 川口英夫, 大澤郁朗 水素水飲用はDSSによる小腸パイエル板制御性T細胞障害を抑制する 第44回日本分子生物学会年会（ハイブリッド開催）、横浜市、2021. 12. 1-3.
12. 池谷真澄, 坂根巖, 藤田泰典, 伊藤雅史, 大澤郁朗 分子状水素は一過的なリン脂質増加とエネルギー代謝抑制を誘導する 第44回日本分子生物学会年会（ハイブリッド開催）、横浜市、2021. 12. 1-3.
13. 藤田泰典, 池谷真澄, 伊藤雅史, 大澤郁朗 ミトコンドリア機能障害は複製老化初期プロセスの主要な因子ではない 第44回日本分子生物学会年会（ハイブリッド開催）、横浜市、2021. 12. 1-3.
14. 藤田泰典, 池谷真澄, 伊藤雅史, 大澤郁朗 複製老化の進行にミトコンドリア機能障害は関与しない 第20回日本ミトコンドリア学会年会（ハイブリッド開催）、東京、2021. 12. 9-10.
15. 大澤郁朗 ランチタイムセミナー (招待公演) 分子状水素による老化制御の可能性、福岡市、2022. 1. 8-9.
16. 横山茜, 川口英夫, 大澤郁朗 小腸パイエル板での水素水投与による卵白アルブミン取り込み抑制. 東洋大学・工業技術研究所 2021 年度研究発表会、川越（オンライン開催）、2022. 2. 24-25.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Fukunaga T, Mori S, Omura T, Noda Y, Fujita Y, Ohsawa I, Shigemoto K. Muscle fiber type specific alterations of mitochondrial respiratory function and morphology in aged female mice. Biochem Biophys Res Commun 540: 116-122, 2021. (原著、査読あり) (IF : 3.575、2020)
2. Muramatsu-Maekawa Y, Kawakami K, Fujita Y, Takai M, Kato D, Nakane K, Kato T, Tsuchiya T, Koie T, Miura Y, Ito M, Mizutani C. Profiling of Serum Extracellular Vesicles Reveals miRNA-4525 as a Potential Biomarker for Advanced Renal Cell Carcinoma. Cancer Genomics Proteomics 18: 253-259, 2021. (原著、査読あり) (IF : 4.069、2020)
3. Hishida S, Kawakami K, Fujita Y, Kato T, Takai M, Iinuma K, Nakane K, Tsuchiya T, Koie T, Miura Y, Ito M, Mizutani

- K. Proteomic analysis of extracellular vesicles identified PI3K pathway as a potential therapeutic target for cabazitaxel-resistant prostate cancer. *Prostate* 81: 592-602, 2021. (原著、査読あり) (IF : 4.104、2020)
4. Iinuma K, Kawakami K, Mizutani K, Fujita Y, Yamaguchi T, Ito M, Kumano T, Matsuo M, Nakano M, Koie T, Ito M, Kato T. miRNA-93 in Serum Extracellular Vesicles Before and After Low Dose Rate Prostate Brachytherapy. *Anticancer Res* 41: 2411-2418, 2021. (原著、査読あり) (IF : 2.480、2020)
 5. Kawakami K, Fujita Y, Kato T, Horie K, Koie T, Umezawa K, Tsumoto H, Miura Y, Katagiri Y, Miyazaki T, Ohsawa I, Mizutani K, ★Ito M. Diagnostic potential of serum extracellular vesicles expressing prostate-specific membrane antigen in urologic malignancies. *Sci Rep* 11: 15000, 2021. (原著、査読あり) (IF : 4.379、2020)
 6. Takai M, Kawakami K, Fujita Y, Kato T, Kato D, Iinuma K, Koie T, Ito M, Mizutani K. Kartogenin Inhibits Prostate Cancer Cell Growth Through Smad2 Activation and Decreases Androgen Receptor Nuclear Localization. *Anticancer Res* 41: 4753-4759, 2021. (原著、査読あり) (IF : 2.480、2020)
 7. Aokage T, Seya M, Hirayama T, Nojima T, Iketani M, Ishikawa M, Terasaki Y, Taniguchi A, Miyahara N, Nakao A, Ohsawa I, Naito H. The effects of inhaling hydrogen gas on macrophage polarization, fibrosis, and lung function in mice with bleomycin-induced lung injury. *BMC Pulm Med*. 21(1):339. 2021. (原著、査読あり) (IF : 3.317、2020)
 8. ◎Iketani M, Sakane I, Fujita Y, Ito M, ★Ohsawa I. H₂-induced transient upregulation of phospholipids with suppression of energy metabolism. *Med Gas Res*. 2022 in press. (原著、査読あり) (IF : 1.68、2021)
 9. Yoneda M, Aklima J, Ohsawa I, Ohta Y. Effects of proton pumping on the structural rigidity of cristae in mitochondria. *Arch Biochem Biophys*. 720:109172. 2022. (原著、査読あり) (IF : 4.01、2021)

3 著書等

1. ◎★藤田泰典 ミトコンドリア病診断マーカーGDF15の開発 ミトコンドリアダイナミクス～機能研究から疾患・老化まで～第2編、第1章、第6節、257-264ページ、2021年 (著書)
2. ◎★大澤郁朗、堀内かほる 超解像STED顕微鏡を用いたクリステのライブイメージング 「ミトコンドリアダイナミクス～機能研究から疾患・老化まで～」エヌ・ティー・エス、第1編、第6章、第2節、177-186ページ、2021年 (著書)
3. ◎★大澤郁朗、藤田泰典、池谷真澄 ミトコンドリアと水素の世界, センター公式チャンネル, 2021. 4. 12公開 (YouTube)
4. ◎★大澤郁朗 加齢脳とミトコンドリア異常、基礎講座: エイジング・サイエンスと脳⑤、老年精神医学雑誌 33(2):175-181、2022年 (著書)

受賞

分子老化制御

1. 土志田 裕太 日本ビタミン学会第 73 回大会 学生優秀発表賞「老化とビタミン C 研究に大きく貢献することが期待され、日本ビタミン学会第 73 回大会においてその発表内容が高く評価された 2021 年 8 月 13 日

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老化脳神経科学研究チーム

チームリーダー：遠藤昌吾

研究チームの概要・目的

脳神経系は、痛みや排泄のような基本的な機能に加え運動や記憶のような高次の機能をも支えている。それゆえ、加齢等による脳神経系の機能障害は、患者の日常生活に極めて重大な問題を引き起こす。様々な生理機能を支える脳神経系の役割は不明な点が多く残され、その役割の基礎的機構の解明は疾病の治療のために重要である。

基盤研究グループに属する本研究チームでは、「脳・神経系に生じる障害を克服して、超高齢化社会におけるサクセスフルエイジングを達成する」ことを目的として、老化研究や疾病研究の基盤となる研究、そして、その臨床応用を視野に入れた研究を行っている。

本年度は、**飯村**が**トリプル受賞**（理事長奨励、基礎老化学会若手奨励、自律神経学会学会賞）や、**渡辺**（基礎老化学会 Most Impressive Presenter）、**瀧川**（理事長表彰）などの受賞が相次ぎ、若手の努力と順調な成長が見られ、また、チームリーダーの指導が光った年だった。

自律神経機能

- I. **自律神経機能の老化とその制御の解析**—自律神経機能の解明を進めることで薬物に代替しうる又はより有効な非薬物療法を生み出すことを目指す。
- II. **認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御の解明**—認知機能に重要な大脳皮質や海馬、嗅球にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能の老化過程、およびコリン作動性神経系を賦活する臨床応用可能な手法の開発とそのメカニズムの解明を目指す。

記憶神経科学

- I. **認知機能の維持・改善に関する研究**—社会系コホート研究の成果を動物に置き換えた研究を行うためのモデル構築を行い、記憶機能の低下防止や回復に寄与する基礎研究を行う。老化あるいは疾病のモデル動物を用いて各種化合物による記憶の維持・改善の研究を行なう。
- II. **運動記憶の制御とリハビリテーションへの応用**—効率的なリハビリテーションを目指した基礎研究および運動記憶に関与する新しい分子機構の解明をおこなう。
- III. **認知症バイオマーカーとしての細胞外タウオリゴマーの研究**—アルツハイマー病におけるタウオリゴマーとNMDA受容体の研究、薬物候補、バイオマーカーの探索を行う。

老化神経生物学

- I. **老化、認知症、神経変性疾患におけるシナプス変性の分子メカニズムの研究**—シナプス蛋白質を超解像顕微鏡STEDを用いて解析し、抑制性シナプス機能を新開発イメージセンサーで計測し、神経機能低下を起こす変性メカニズム解明する。
- II. **老化や筋萎縮性側索硬化症(ALS)における神経筋接合部変性の分子メカニズム研究と間葉系幹細胞を用いた治療法の開発**—老化やALSでは、神経筋接合部の維持に必須なシナプス分化因子ラミニンβ2が減少し、脱神経が起こる。そこで、間葉系幹細胞を用いてラミニンβ2と神経機能を維持する方法を開発し、臨床応用を目指す。
- III. **加齢による大脳皮質運動野の神経活動変化と運動機能低下の研究**—加齢による運動機能低下に、脳のミトコンドリア機能と運動野の神経活動レベルの低下が関与する事を見出した。さらに、機能性食品コエンザイムQ投与で加齢マウスの運動機能と神経活動レベルを維持できる方法を発見した。その分子機構の解明を試み、臨床応用を目指す。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

自律神経機能

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度

(1) 自律神経機能の老化とその制御	物理療法の有効性の検証とメカニズムの解明という大きな目標を掲げ、自律神経機能の解明を進めることで薬物に代わる、又はより有効な、非薬物療法や生活環境の創生を目指す	甲状腺などからのホルモン分泌に及ぼす物理刺激の効果を調べる	甲状腺などからのホルモン分泌に及ぼす物理刺激の効果を神経機序を調べる	慢性筋痛モデル動物や老化モデル動物における効果を調べる	サルコペニア・フレイルと自律神経との関係を解析する	体力増進や慢性痛を緩和する方法の開発研究につなげる
(2) 脳内コリン作動系機能とその制御	認知機能に重要な大脳皮質や海馬、嗅球にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能の老化過程、およびコリン作動性神経系を賦活する臨床応用可能な手法の開発とそのメカニズムの解明を目指す	脳内コリン作動系の機能解析およびその賦活法としての体性刺激・咀嚼の有用性の解析	老化モデル動物を用いた脳血流・神経活動の解析	咀嚼運動時の脳内コリン作動系の賦活メカニズムの解析	老化モデル動物でのメカニズムの解析	安全・安価で効果的な認知症予防法の実現につなげる

記憶神経科学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
I. 認知・心理的フレイルに関する研究	1) 歩行と認知機能に関する研究—コホート研究から得られた歩行などと認知機能の関係を探り、社会での研究への還元を目指す 2) 希少糖Aによる認知機能改善とその解析 3) 薬物併用による認知機能改善—薬物併用による認知機能改善を見出し、臨床応用を目指す	1) マウスの歩行を解析するシステムの確立 2) 希少糖Aの投与方法、濃度及び標的分子に関する検討 3) アルツハイマー病モデルマウスの確立	1) マウスとヒトの歩行の比較行動学的研究 2) 希少糖Aの標的分子に関する検討（安全性検討） 3) 薬物単独投与の記憶への効果の研究	1) 歩行と高次脳機能の関係に関する研究 2) 希少糖A投与の記憶への効果・分子機構の研究 3) 薬物単独投与の効果の研究	1) 歩行と高次脳機能の関係に関する研究 2) 希少糖Aの作用機作解析、ヒトでの安全性検討 3) 薬物併用効果、記憶への研究	1) 歩行と高次脳機能の関係の細胞・分子機構の研究 3) 希少糖Aの作用機作解析 3) 薬物併用の細胞・分子機構の研究
II. 運動記憶の制御とリハビリテーション	1) 経頭蓋電気刺激による運動記憶改善—電気刺激の併用を用いた効果的なリハビリテーションを目指す。 2) 生理活性物質としての活性酸素種（ROS）と小脳依存性記憶—身体にとって毒物とされるROSの本来の生理機能を明らかにする。	1) マウス小脳電気刺激装置の開発 2) ROSと小脳神経可塑性の解析	1) マウス小脳電気刺激装置の開発 2) ROSと小脳神経可塑性の解析	1) 中止 2) 神経可塑性に伴うROSのイメージング解析	2) 視機能性眼球応答へのROS関連試薬の影響解析とROS下流分子の同定	2) 視機能性眼球応答へのROS関連試薬の影響解析とROS下流分子の同定

III. 認知症バイオマーカーとしての細胞外タウオリゴマーの研究				新規認知症バイオマーカー系の立ち上げ	超高感度エライザシステムへの移植	ヒト脳脊髄液および血液よりのオリゴマータウの検出と解析

老化神経生物学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和 2 年度)	2021 年度 (令和 3 年度)	2022 年度
加齢に伴う運動機能低下の解析	加齢に伴い減少するミトコンドリア補酵素の補充による運動機能改善の作用機序解明を試み、中高年への臨床応用を目指す			加齢動物の運動機能および大脳皮質運動野のシナプス伝達の変化に対する水溶性 CoQ10 投与の効果を解析する	加齢に伴う運動機能低下を指標化しやすい行動実験の探索を試みる。加齢動物に特徴的なシナプス伝達に対する水溶性 CoQ10 の作用機序を解析する	水溶性 CoQ10 投与により加齢に伴う運動機能低下が予防できるか検証する。CoQ 類似作用物質が運動機能とシナプス伝達に与える影響を解析する
加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害の分子機序解析	新規GABA蛍光プローブの開発によるシナプスの機能評価と、超解像顕微鏡STEDによるシナプス分子の微細構造解析を組み合わせ、加齢や精神・神経疾患に伴って脳内でシナプス機能障害が生じる分子機序の解明を目指す			GABA 結合蛋白質に蛍光色素を標識したハイブリッド型 GABA 蛍光プローブのプロトタイプを開発する。STED によるシナプス分子の微細構造解析を可能にするために、シナプス分子の蛍光免疫組織化学染色の最適化を行う	GABA 結合時により大きな蛍光強度変化を示す GABA 蛍光プローブに改良するために、GABA 結合蛋白質の変異体を数百種類作製し、蛍光色素の最適な標識部位をスクリーニングする。高齢マウスを対象に、STED によるシナプス分子の微細構造解析を行う	GABA 蛍光プローブによるシナプスの機能評価と、STED によるシナプス分子の微細構造解析を組み合わせ、加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害を引き起こす分子実体を探索する
加齢や神経変性疾患に伴うシナプス機能低下の解析	加齢や筋萎縮性側索硬化症(ALS)により変性・脱神経する神経筋接合部の病態機序を解析し、軽減方法を探索する			運動神経終末を超解像顕微鏡法で解析し、未知の基本構造を解明する	加齢やALSで変性した神経筋接合部を解析し、病態機序解明を試みる	加齢やALSのモデル動物に間葉系幹細胞治療や運動療法を試み、神経変性・脱神経の軽減方法を探索する

自律神経機能

構成メンバー

テーマリーダー：堀田晴美

専門副部長：内田さえ

研究員：渡辺信博、飯村佳織

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

我々は、①自律神経機能の老化とその制御と②脳内コリン作動系機能とその制御と、2つのテーマを柱に据えて研究を進めている。いずれの研究テーマについても概ね順調に進捗しており、興味深い新知見が得られた。論文発表に加えて普及・還元にも努めている。さらに新知見を基に新たな研究にも挑戦している。

【その根拠】

1. 骨格筋に分布する交感神経の活動は、筋収縮に伴う感覚情報により反射性に増加し、筋力を増強させる役割があることを明らかにし、論文発表した。骨格筋には筋収縮を司る運動神経や筋の情報を伝える感覚神経のほかに、交感神経が豊富に分布する。この交感神経が筋組織を栄養する血管を調節することはよく知られていたが、骨格筋自体の機能（筋力）への影響は良く分かっていなかった。我々は、麻酔下ラットの後肢を支配する運動神経を電気刺激して筋収縮を引き起こし、張力（筋力）を計測した。後肢に分布する交感神経の通り道（腰部交感神経幹）を切断すると、筋力が約10%低下することを見出した。加えて、後筋からの感覚情報を伝える下部腰髄後根や、中枢経路の脊髄を切断しても同様の筋力低下が生じた。腰部交感神経の活動を電気生理学的に記録しながら後肢筋の収縮を誘発すると、脊髄および上脊髄性の反射電位が記録された。これらの実験事実より、筋収縮に伴う感覚情報により高まった交感神経の活動が、筋力を増強させるとの知見を得ることができた。
2. 漢方薬・人参養栄湯は脳内コリン作動系を賦活化させることにより、脳血流に作用することを明らかにし、論文発表した。漢方薬・人参養栄湯は、認知機能に重要な脳内コリン作動性神経を活性化することが報告されている。同神経は脳血流調節に重要なしくみであるが、人参養栄湯が脳血流に作用するかどうかは不明であった。我々は、麻酔下マウスに人参養栄湯エキスを胃内投与し、安静時脳血流に対する作用を調べた。まず、コントロールとして溶媒（蒸留水）を胃内投与すると投与30分以降に大脳皮質全体で血流が低下した。一方、人参養栄湯エキスを胃内投与すると脳血流低下は生じなかった。つまり、人参養栄湯は薬液を胃内投与した後の脳血流低下を防ぐ作用があることが分かった。さらにこの人参養栄湯の作用は、アセチルコリン受容体遮断薬を投与すると減弱することを示した。また人参養栄湯を予め投与しておく、ブラシ刺激中の脳血流増加が増大することを見出した。したがって、人参養栄湯は脳内コリン作動性神経を活性化することにより、安静時の脳血流を維持し、必要な時に増加しやすいように作用することを意味する。
3. 認知症の最も早期に低下する嗅覚機能と脳内コリン作動性神経との関連を解明する基礎研究が進んだ。嗅覚一次中枢の嗅球には、認知・記憶を司る新皮質・海馬とともに脳内（前脳基底部）のコリン作動性神経が入力する。同コリン作動性神経は正常老化過程で軽度に変性し、認知症では顕著に脱落する。これまでに我々は成熟ラットを用いて、匂いを感じ取る嗅神経の電気刺激が嗅球の血流を増加させること、同血流反応はアセチルコリン受容体（ニコチン型の $\alpha 4 \beta 2$ サブタイプ）の刺激により増大することを報告した。今年度はこの反応の老化過程を調べ、老化ラットでは嗅神経刺激に対する嗅球血流応答は維持されるものの、アセチルコリン受容体刺激効果が減弱する結果を得た。この結果は嗅球において嗅覚感度を高めるセチルコリン受容体の働きが、正常老化過程で低下することを意味する。臨床研究では、嗅覚機能調査により認知機能低下の兆候を捉えることができるかを検討した。高齢者を対象とした調査において、嗅覚感度の低下と弁別機能の関連性の解析が進んだ。認知機能低下の評価に適した嗅覚刺激法の確立に向けて検証が進んでいる。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜慢性腰痛と自律神経＞

【センター外】Québec大学

<角膜の痛みと脳血流>

【センター外】東京慈恵会医科大学

<骨格筋支配の自律神経の役割>

【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学）

<水素水が脳梗塞に及ぼす作用>

【センター内】老化制御研究チーム（生体調節機能）

<人参養栄湯が脳血流調節機構に及ぼす作用>

【センター外】株式会社ツムラ

<皮膚熱刺激の膀胱への効果機序>

【センター外】東京有明医療大学

<嗅覚と認知機能>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健）

【センター外】佐久大学

記憶神経科学

構成メンバー

テーマリーダー：遠藤昌吾

研究副部長：木村哲也

研究員：柳井修一

技術員：新崎智子

非常勤研究員：中西和子、大塚智子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

今年度は、技術員・西廻に代り大塚智子が加わった。前年度までに獲得した科研費3件に加え。本年度は企業と科研費2件(代表1、分担1、遠藤)、認知症センター研究費、TR研究費(木村)を獲得し財政基盤は安定した。以下は各中期計画における研究目標の進捗状況である。

【令和3年度の進捗状況】

I. 認知・心理的フレイルに関する研究

コホート調査を基礎にした研究課題を社会科学系と共有して、記憶障害を含む認知機能の維持・改善に対して統合的・融合的なアプローチを目指した研究を行っている。加齢に伴い変化する表現型の詳細な解析に加え、加齢に伴い機能低下するシグナル伝達系、社会還元性の高い実用化・臨床応用を視野にいたした認知的フレイル対策をマウスモデルにおいて検討している。

- 1) 老化に関連する表現型の解析
- 2) 歩行(運動)・世代間交流・独居と認知機能(コホート研究のモデル化)
 - a) 認知機能と歩行(運動)の関係を解析するためのマウス実験系の構築と解析
 - b) 世代間交流や独居と認知機能の関連を解析するためのマウスモデルの構築
- 3) 希少糖Aによる記憶の改善効果及びその分子機構の解明
- 4) cAMP系薬物と認知機能およびその神経機構の解明
- 5) メスマウスの行動解析および記憶などの月齢依存的变化の解明

1)-5) いずれも順調に進んでいる。

II. 運動記憶の制御とリハビリテーションへの応用

小脳依存性記憶の分子・細胞機構解明は、長い道のりが必要な身体リハビリテーションなどの改善に資する。運動記憶形成の分子機構としてROSの生理機能解明は、ROS毒性物質物質からROS生理活性物質へとパラダイムシフトを迫る。

- 1) 活性酸素種(ROS)の運動記憶への関与とその分子ターゲットの解明
電気刺激によるNADPH oxidase依存性ROSが関与すること、運動記憶を形成するトレーニングによる、cGMP-dependent キナーゼのS-グアニル化を同定するなどの新知見も得られた。順調

に進み、論文執筆中である。

III. 認知症バイオマーカーとしての細胞外タウオリゴマーの研究

- 1) 血中リン酸化タウとタウオリゴマーの同時計測による MCI・AD 移行相の解析：
血中タウオリゴマーは MCI に伴い減少し、AD 発症とともに増加することから、血中タウオリゴマーと既存の MCI バイオマーカーとを組み合わせることで、MCI から AD 発症への移行を”見る”低侵襲性の血中バイオマーカー開発を行っている。
- 2) 細胞外タウオリゴマーによる細胞毒性誘導機構解明：
細胞外タウオリゴマーは、NMDA-R (NMDA 受容体) 活性化→細胞内へのカルシウム流入→シナプス消失の過程を経て、海馬の神経細胞死を引き起こす。タウオリゴマーの作用機作解明のために、NMDAR-タウオリゴマー解析システムを構築中である。
- 3) 細胞外タウオリゴマー毒性を中和する認知症薬剤開発：
NMDA-R 結合性タウオリゴマーの毒性を中和する抗体の開発とスクリーニングを開始した。臨床に用いる抗体医薬品ではモノクローナル抗体が必要であり、モノクローナル抗体をキシダ化学と共同開発している。

1)-3) いずれも順調に進んでいる。

【その根拠】

- I-1) 心身機能の老化速度は一樣ではなく、機能によって異なることを見いだした (Yanai & Endo, 2021, Frontiers in Aging Neuroscience)
- I-2) 認知機能と歩行 (運動) の関係を解析するための新規機器の特許を申請し、
2021 年 12 月 2 日に審査請求を行なった。
(TMG-059JP, 2019-000190, 出願日 2019 年 1 月 4 日, 小動物用運動測定装置)
- I-3) 希少糖 A が
 - ・ 高齢動物の記憶の改善・維持することを見出した。
 - ・ 効果を担う分子機構としてサーチュイン量の維持が考えられる。
 - ・ 記憶の維持効果について特許を出願した
(遠藤・柳井・飯田・新谷、特許出願中、特願 2020-089261)。
 - ・ 細菌の存在比率に影響を与えて菌腸内細菌叢を改善することを見出した。
 - ・ 骨密度を増加させることを明らかにした。
 - ・ 高濃度投与は、ヒトへ悪影響を及ぼさないことを確認した。
- I-3)
 - ・ cAMP 系強化薬シロスタゾールがアルツハイマー病モデルマウスの認知機能を改善した。(S. Yanai, et al. 日本心理学会第 85 回大会, 2021)
 - ・ 低容量のシロスタゾールとドネペジルの併用投与が老化マウスの認知機能を改善した。(S. Yanai, et al. (第 43 回日本基礎老化学会大会, 2021)
- I-4)
 - ・ 12 カ月齢までのメスマウスの記憶はオスと同等であることを見出した。
 - ・ 12 ヶ月齢以降のメスマウスの記憶を評価するため、老化マウス育成を開始した。
- II-1)
 - ・ 運動学習を形成するトレーニングにより ROS-8-nitro-cGMP 系の下流因子として cGMP-依存性キナーゼが S-グアニル化されることを明らかにした。
- III -1)
 - ・ 既存の MCI バイオマーカー群 (リン酸化タウ) 検出システムを確立した。
 - ・ 有効な抗体が存在しないリン酸化タウに対する抗体開発を行ない、pT181 および pT231 リン酸化タウ抗体の 1 次スクリーニングを終えた。
 - ・ タウオリゴマー検出に用いる市販タウオリゴマー抗体の性状を検討中。
- III-2)
 - ・ NanoDisk を利用してタウオリゴマーと NMDAR との結合を生理的条件下で計測する ELISA 開発を完了した。
 - ・ 1 分子カウンティング法による超低濃度タウオリゴマー (数 pg/ml) の計測に成功した。

- ・ NMDA-R と結合するタウの主成分が 3-4mer であると同定した。
- III-3)
- ・ 抗原ペプチドによる免疫が完了し抗体の 1 次スクリーニングを実施中。
 - ・ タウオリゴマー中和抗体の結合部位にリン酸化が含まれることからNMDA-R結合性タウオリゴマー検出で高い選択性が得られことを確認した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

< 認知・心理的フレイルに関する研究 >

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献）、老化制御研究チーム（分子老化制御）、神経画像研究チーム（PET薬剤科学）、循環器内科、高齢者健康増進センター

【センター外】順天堂大学、アデカ株式会社、松谷化学工業

< 運動記憶とリハビリテーション >

【センター内】老化制御研究チーム（分子老化制御）

【センター外】のぞみ病院、京都大学、東北大学

< 認知症バイオマーカーとしての細胞外タウオリゴマーの研究 >

【センター内】認知症未来社会創造センター

【センター外】株式会社モノクロナール抗体研究所、キシダ化学、日油

老化神経生物学

構成メンバー

テーマリーダー：西宗裕史

研究員：井上律子、瀧川健司

非常勤研究員：竹野光太郎

1 令和 3 年度の研究成果

【令和 3 年度の進捗状況】

（老化初期の運動機能をCoQ₁₀投与により改善する運動野神経活動の解析：井上）

学会発表および論文投稿準備、新規プロジェクトの準備など、おおむね順調に進んでいる。

（加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害の分子機序解析：瀧川）

解析に必要な基盤技術の開発に進展があり、おおむね順調に進んでいる。

（加齢や神経変性疾患に伴うシナプス機能低下の解析：西宗）

新たな共同研究契約、派遣技術員、特許を獲得し、おおむね順調に進んでいる。

【その根拠】

（老化初期の運動機能をCoQ₁₀投与により改善する運動野神経活動の解析：井上）

- ・ 以前から報告していた、CoQ₁₀飲水投与によって中年マウスのシナプス伝達が若年マウスと同レベルまで回復するメカニズムの基盤には、CoQ₁₀投与により誘導される加齢依存的な長期増強（LTP）が寄与している可能性を実証した。また老化初期の運動機能低下の改善をはかるためにはこの可塑性の制御が必要と考えられるため、構成要素を検討し、NMDA受容体依存性LTPであることを明らかにした。投稿準備中である。
- ・ ヒト老化初期の運動機能低下の予防・改善法の開発にこれまでの成果を役立てるため、転倒のリスクファクターである歩行機能の加齢変化に着目し、前臨床研究を計画した。中年動物の歩行機能解析を行い、CoQ₁₀をはじめとした脳ミトコンドリア機能の改善薬候補による歩行機能の改善を検討する計画である。研究計画を立案し、予備実験の準備を開始した。本プロジェクトの実施に先立ち、新たな科研費を申請した。

（加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害の分子機序解析：瀧川）

- ・ GABAに対する高い選択性と、最大で400%の蛍光強度の増大を示すプロトタイプのGABA蛍光プローブの開発に成功した。
- ・ GABA蛍光プローブを蛍光イメージングに応用する基盤技術を確立し、本成果を原著論文として学術

雑誌Bio-Protocolにて発表した。

- ・超解像STED顕微鏡を用いて、シナプス単位で抑制性と興奮性のシナプスを区別したアクティブゾーンタンパク質の定量解析を可能にした。
- ・科研費 若手研究、中谷医工計測技術振興財団 技術開発研究助成を獲得し、研究推進に必要な研究費を確保した。

(加齢や神経変性疾患に伴うシナプス機能低下の解析：西宗)

- ・科研費、国際共同研究加速基金 帰国発展研究（3年）の実験計画に従い研究を進めている。
- ・新たな共同研究契約を明治ホールディングス、糧食研究会と締結し、神経筋接合部の老化変性を抑制する素材の研究を3年計画で開始した。
- ・超解像STED顕微鏡を用いた画像取得条件の改善と安定化を顕微鏡環境チャンバーを特注作成する事で達成した。
- ・井上律子研究員の研究成果を報告する原著英語論文、瀧川健司研究員の研究内容を網羅する英語総説論文の執筆を指導し自立した研究員の育成を行っている。
- ・筋萎縮性側索硬化症ALS、オートファジーの英語原著論文を合計2本発表した。
- ・米国特許商標庁により米国特許が認められた（ヒト幹細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症ALSの新規治療方法。Application No. 16/647,345 Materials and methods for generating therapeutic mesenchymal stem cells）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<老化神経生物学/ 加齢に伴う運動機能低下の解析：井上>

【センター内】老化脳神経科学研究チーム（記憶神経科学）

【センター外】埼玉セントラル病院

<老化神経生物学/ 加齢や精神・神経疾患に伴うシナプス機能障害の分子機序解析：瀧川>

【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）

【センター外】東京大学大学院

<老化神経生物学/ 加齢や神経変性疾患に伴うシナプス機能低下の解析：西宗>

【センター外】カンザス大学

論文・学会発表

自律神経機能

1 学会発表

(1) 海外

なし

(2) 国内

1. 堀田晴美. 皮膚や筋からの情報で誘発される自律神経反射～高齢者医療への応用に向けて～. 北海道大学 遺伝子病制御研究所・大学院医学院 分子神経免疫学分野セミナー, 札幌, 2021. 5. 14.
2. 内田さえ. 鍼灸治療の自律神経を介した生体反応について. 特別講演, 第70回(公社)全日本鍼灸学会学術大会, 福岡+Web開催, 2021. 6. 4-6
3. Iimura K, Watanabe N, Milliken P, Sridhar A, Hotta H. Chronic electrical stimulation of the superior laryngeal nerve which is induced swallowing partially improves bone density reduction in osteoporosis rat. 第44回日本基礎老化学会大会, 2021. 6. 11-13. (若手奨励賞受賞)
4. Watanabe N, Noda Y, Nemoto T, Iimura K, Shimizu T, Hotta H. Influence of amyloid β deposition around the cerebral artery on cerebrovascular response during transient ischemia. 第44回日本基礎老化学会大会, 2021. 6. 11-13. (Most Impressive Presentator 賞受賞)
5. Uchida S, Shimada C, Sakuma N, Kagitani F, Kan A, Awata S. Studies on the relationship between olfaction and cognitive function 第44回日本基礎老化学会大会, 2021. 6. 11-13
6. 内田さえ. 認知症と嗅覚をつなぐ脳内コリン作動系－早期発見と予防に向けて. シンポジウム「老年医学研究成果の実装－健康長寿社会を目指して」, 第63回日本老年医学会学術集会, 名古屋+Web開催, 2021. 6. 11-13
7. 内田さえ. 前脳基底部コリン作動性ニューロンによる大脳血流調節, シンポジウム「神経－グリア－血管カップリングのマルチスケール・マルチモーダル研究」, 第44回日本神経科学大会, 神戸+Web開催, 2021. 7. 28-31
8. 内田さえ. 認知症と嗅覚をつなぐ脳内コリン作動系－脳血流調節に着目して－, 特別講演, 第16回小動物インビボイメージング研究, Web開催, 2021. 9. 11

9. 堀田晴美. 骨格筋の恒常性維持における自律神経の役割と老化. 基礎と臨床の対話 9. 老化と自律神経. 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24.
10. 飯村佳織, 渡辺信博, 堀田晴美. 麻酔下ラットにおける腰臀部皮膚への非侵害性の冷刺激は排尿効率を増加させる. 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24.
11. 渡辺信博, 飯村佳織, 堀田晴美. 漢方薬・人參養榮湯の脳血流調節機構に対する作用. 日本自律神経生理研究会共催シンポジウム. 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24.
12. 守屋正道, 渡辺信博, 堀田晴美. 高橋由香里, 加藤総夫. ラットの角膜の機械的侵害刺激に対する脳血流応答の時空間的特性. 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24.
13. Iimura K, Suzuki H, Hotta H. Thyroxin and calcitonin secretion into thyroid venous blood is regulated by pharyngeal mechanical stimulation in anesthetized rats. 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24. (自律神経学会学会賞受賞講演)
14. 内田さえ. 嗅覚と認知症をつなぐ脳内コリン作動系: 早期発見と予防を目指して, 自律神経レクチャーズ, 第 74 回日本自律神経学会総会, Web 開催, 2021. 10. 23-24
15. 堀田晴美. 自律神経系による骨と筋のホメオスタシス. シンポジウム: サルコペニア・ロコモ領域の基礎研究の進歩. 第 8 回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 大阪, 2021. 11. 6-7.
16. 飯村佳織, 渡辺信博, 堀田晴美. 尿道血流の交感神経性調節. 第 48 回自律神経生理研究会, 東京, 2021. 12. 5
17. 内田さえ, 鍵谷方子. 前脳基底部コリン作動系に関する基礎及び臨床研究. 第 48 回自律神経生理研究会, 東京, 2021. 12. 5
18. 内田さえ. 鍼の生理学的機序 一体性—自律神経反射の視点から. シンポジウム 痛みに対する鍼治療の効果とその作用機序, 第 43 回日本疼痛学会, Web 開催, 2021. 12. 10-11.
19. 皆川陽一, 宮崎彰吾, 脇英彰, 吉田成仁, 飯村佳織, 伊藤和憲. 高齢者慢性腰痛に対するトリガーポイント鍼治療と運動指導の試み: 予備的ランダム化比較試験. 第 43 回日本疼痛学会, Web 開催, 2021. 12. 10-11.
20. 内田さえ, 鍵谷方子. 嗅覚調節と認知機能, 第 10 回日本情動学会, 名古屋市立大学, 2021 年 12 月 11-12 日
21. Hotta H, Iimura K, Watanabe N, Suzuki H, Shigemoto K. Sympathetic regulation of skeletal muscle contractile force decreases with muscle atrophy in aged rats. 第 99 回日本生理学会大会, 仙台, 2022. 3. 16-18.
22. Watanabe N, Iimura K, Hotta H. Influence of cerebral cholinergic system modulation and amyloid β deposition on cerebrovascular response to transient brain ischemia. シンポジウム 脳機能・形態の加齢変化への統合的アプローチ: 発生・発達から老化まで. 第 99 回日本生理学会大会, 仙台, 2022. 3. 16-18.
23. Iimura K, Watanabe N, Hotta H. Effects of intermittent cold stimulation of the skin on voiding efficiency in anesthetized rats. 第 99 回日本生理学会大会, 仙台, 2022. 3. 16-18.
24. Uchida S, Kagitani F. Studies on the relationship between olfaction and cognitive function in the elderly. 第 99 回日本生理学会大会, 仙台, 2022. 3. 16-18.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Hotta H, Iimura K, Watanabe N, Shigemoto K. Maintenance of contractile force of the hind limb muscles by the somato-lumbar sympathetic reflexes. *J Physiol Sci*. 2021; **71**: 15. (査読有) IF: 2.781
2. ◎Watanabe N, Iimura K, ★Hotta H. Influence of intragastric administration of traditional Japanese medicine, ninjin' yoeito, on cerebral blood flow via muscarinic acetylcholine receptors. *Evid Based Complement Alternat Med*. 2021; **2021**: 9930023. (査読有) IF: 2.629
3. Tokunaga R, Takahashi Y, Touj S, Hotta H, Leblond H, Kato F, Piché M. Attenuation of widespread hypersensitivity to noxious mechanical stimuli by inhibition of GABAergic neurons of the right amygdala in a rat model of chronic back pain. *Eur J Pain*. 2022; **26**: 911-928. (査読有) IF: 3.934
4. Hasebe R, Murakami K, Harada M, Halaka N, Nakagawa H, Kawano F, Ohira Y, Kawamoto T, Yull F, Blackwell T, Kobayashi J, Iwanaga T, Watanabe M, Watanabe N, Hotta H, Yamashita T, Kamimura D, Tanaka Y, Murakami M. ATP spreads inflammation to other limbs through crosstalk between sensory neurons and interneurons. *J Exp Med*. 2022; **219**: e20212019. (査読有) IF: 14.307

(2) 総説

1. ★◎飯村佳織, 渡辺信博, 堀田晴美. 上喉頭神経に対するニューロモデュレーションが意識下ラットのカルシトニン分泌および骨粗鬆症モデルラットの骨密度へ及ぼす影響. 自律神経, 54(4): 305-309, 2021 (査読有)
2. ★◎飯村佳織, 渡辺信博, 堀田晴美. 上喉頭神経への慢性電気刺激は骨粗鬆症モデルラットの骨密度減少を部分的に抑制する. 基礎老化研究, 46(1): 33-36, 2022 (査読有)
3. ★◎渡辺信博, 飯村佳織, 堀田晴美. 脳血管周囲へのアミロイド β 蓄積が脳血管機能に及ぼす影響. 自律神経, 59(1): 151-156, 2022 (査読有)
4. ★◎堀田晴美, 鈴木はる江. 骨格筋の恒常性維持における自律神経の役割と老化. 自律神経, 印刷中 (査読有)

3 著書等

1. 堀田晴美, 粕谷豊. 会陰さすり. 過活動膀胱にマッサージがいいって本当? 夜間頻尿自宅ケア BOOK, p. 32-33, p. 88-89, 主婦と生活社, 2021 年 4 月 12 日発行
2. 堀田晴美. 科学研究費補助金 基盤研究 B 「嚥下にもなる自律神経の活性化が骨格筋におよぼす作用とサルコペニア予防への応用」実施状況報告書 (令和 2 年度) 2021. 5
3. 渡辺信博. 科学研究費補助金 一般研究 (C) 「疼痛性循環反応の可塑的变化に関する神経性機序の解明」研究実施状況報告書 (令和 2 年度) 2021. 5.
4. 飯村佳織. 科学研究費助成事業 若手研究「排尿の促進に効果的な皮膚刺激方法の確率; 低活動膀胱に有用なセルフケア開発に向けて」実績報告書 (令和 2 年度) 2021. 5
5. 内田さえ. 痛みの発生機序, 特集 痛みへのアプローチ, *Tehamo*, 1 巻, 2 号, 24-29, 2021.10.29
6. Watanabe N, Piché M. Editorial: Mechanisms and Effectiveness of Complementary and Alternative Medicine for Pain Management. *Front Pain Res (Lausanne)*. 2022 Feb 23; 3: 863751.
7. 内田さえ, 鍵谷方子, 原田晃, 原田彰宏. 解剖生理. 医歯薬出版. 2022. 3. 20
8. 飯村佳織. 喉の神経の活性化で健康長寿. 研究所 NEWS トピックス, 印刷中
9. 堀田晴美. 骨格筋の恒常性維持における自律神経の役割と老化. 特集: サルコペニア・フレイルの基礎研究の新展開, 日本サルコペニア・フレイル学会誌, メディカルレビュー社, 印刷中
10. 渡辺信博, 堀田晴美. 脳循環の調節機構. 自律神経~初めて学ぶ方のためのマニュアル~(榊原隆次, 内田さえ編), 中外医学社, 印刷中

記憶神経科学

1 学会発表

(1) 海外

1. S Yanai, T Arasaki & S Endo. Comparison of age-related multi-domain phenotype in human and mouse using comprehensive behavioral test battery. 第 44 回日本神経科学大会 / CJK 第 1 回国際会議, 兵庫 (現地/オンラインのハイブリッド開催), 2021.7.28-31
2. R Inoue, S Yanai & H Nishimune. Recovery of age-related decline of motor function and motor cortex activity by coenzyme Q10 supplementation. 第 44 回日本神経科学大会 / CJK 第 1 回国際会議, 兵庫 (現地/オンラインのハイブリッド開催), 2021.7.28-31

(2) 国内

1. S Kakizawa, T Arasaki, Y Satoh, S Endo. Involvement of 8-nito-cGMP - ERK signals in the induction of long-term depression in the mouse cerebellum. (第 95 回日本薬理学会年会、福岡, 2022 3.7-90.)

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©S Yanai & ★S Endo. (2021) Functional Aging in Male C57BL/6J Mice Across the Life-Span: A Systematic Behavioral Analysis of Motor, Emotional, and Memory Function to Define an Aging Phenotype. *Frontier Aging Neurosci* 13, 697621, 2021. (査読あり、IF 5.75、2021)
2. Y Kato, H Uchiumi, R Usami, H Takatsu, Y Aoki, S Yanai, S Endo, & K Fukui. Tocotrienols reach the brain and play roles in the attenuation of body weight gain and improvement of cognitive function in high-fat diet-treated mice. *J Clinical Biochem Nutr* 69, 256-264, 2021. (査読あり、IF 3.114、2021)
3. R Sakurai, H Kawai, S Yanai, H Suzuki, S Ogawa, H Hirano, K Ihara, M Takahashi, H Kim, S Obuchi, & Y Fujiwara. Gait and age-related hearing loss interactions on global cognition and falls. *Laryngoscope* 132, 857-863, 2022. (査読あり、IF 3.325、2021)
4. F Matsuura, Y Satoh, S Itakura, T Morohashi, M Kawaguchi, T Takahashi, K Iwanaga, H Terashima, Y Kobayashi, X Wang, T Ishizuka, S Endo, and T Ikeda. Extracellular signal-regulated kinases 2 (Erk2) and Erk5 in the central nervous system differentially contribute to central sensitization in male mice. *J Neurosci Res* 99, 1666-1688, 2021. (査読あり、IF 4.164、2021)
5. S Matsuo, T Hashimoto, F Matsuura, O Imamura, S Endo, Y Satoh, and T Satoh. Central, but not peripheral, nervous system ERK2 is essential for itch signals in murine allergic skin inflammation. *Allergy* 76, 3422-3432, 2021. (査読あり、IF 13.146、2021)
6. A Kimura, K Araki, Y Satoh, S Mogi, K Fujitani, T Kurioka, S Endo, A Shiotani, and T Yamashita. Inhibition of Extracellular signal-regulated kinase pathway suppresses tracheal stenosis in a novel mouse model. *PLOS ONE*, 16, e0256127, 2021. (査読あり、IF 2.740、2021)

3 著書等

1. 柳井修一、文部省科研費基盤 C、研究成果報告書、2021
2. 遠藤昌吾、文科省科研費基盤 B、実績報告書、2021

3. 遠藤昌吾、文科省科研費挑戦的研究(萌芽)、研究成果報告書、2021
4. 遠藤昌吾、文科省科研費挑戦的研究(萌芽)、実績報告書、2021
5. 遠藤昌吾、「暗記は、音読や書くのが効果的(効果的な暗記学習のコツ)」、保健総合大百科 2021、少年写真新聞社、245-246、2021
6. 遠藤昌吾、「記憶と海馬の役割」、心の健康ニュース、2022年2月号
7. 遠藤昌吾、「記憶に関わる海馬と暗記術(ポスター監修)」、少年写真新聞社、2022年2月

老化神経生物学

1 学会発表

(1) 海外

1. R Inoue, S Yanai & H Nishimune. Recovery of age-related decline of motor function and motor cortex activity by coenzyme Q10 supplementation. 第44回日本神経科学大会 / CJK 第1回国際会議、兵庫(現地/オンラインのハイブリッド開催)、2021.7.28-31

(2) 国内

1. 西宗裕史、神経筋接合部におけるラミニン $\beta 2$ 鎖の機能、第53回日本結合組織学会、WS2-1、順天堂大学、東京、2021年6月26日(招待公演 口頭発表)
2. 三浦正巳、井上律子「大脳基底核におけるコリン作動系の生理的機能」第99回日本生理学会大会東北大学川内北キャンパス(ハイブリッド形式) 2022年3月16-18日
3. 北島奈美、瀧川健司、関谷敬、浅沼大祐、坂本寛和、並木繁行、飯野正光、廣瀬謙造. 脳虚血における細胞外ATP動態の生体内蛍光イメージング. 演題番号3-Y-F3-4、第94回日本薬理学会年会、札幌、2021年3月8日から3月10

2 誌上発表

(1) 原著

1. Nami Kitajima, Kenji Takikawa, Hiroshi Sekiya, Daisuke Asanuma, Hirokazu Sakamoto, Shigeyuki Namiki, Masamitsu Iino, Kenzo Hirose.
In vivo Fluorescence Imaging of Extracellular ATP in the Mouse Cerebral Cortex with a Hybrid-type Optical Sensor. *Bio-Protocol*, 11, e4046, (2021) (査読あり, IFなし)
2. Tungtur, S.K., Wilkins, H.M., Rogers, R.S., Badawi, Y., Sage, J.M., Agbas, A., Jawdat, O., Barohn, R.J., Swerdlow, R.H. & ★Nishimune, H.
Oxaloacetate treatment preserves motor function in SOD1(G93A) mice and normalizes select neuroinflammation-related parameters in the spinal cord.
Scientific reports, 11, 11051, (2021) (査読あり, IF4.379)

(2) 総説

1. ◎Takikawa, K. & ★Nishimune, H. Similarity and Diversity of Presynaptic Molecules at Neuromuscular Junctions and Central Synapses. *Biomolecules*, 12, 179, (2022) (査読あり, IF4.879)

3 著書等

1. 井上律子(代表)、コエンザイムQ10投与による運動野の可塑性変化を介した高齢期の運動学習向上、令和2年度科研費実績報告書 基盤研究(C)
2. 瀧川健司(代表)、新規 GABA 蛍光プローブ開発による自閉症スペクトラム障害の病態メカニズム解析、令和2年度科研費実績報告書 研究活動スタート支援
3. 瀧川健司(代表)、認知症バイオマーカーの開発を指向したシナプスタンパク質の超解像イメージング、令和2年度研究奨励理事長賞報告書 理事長研究奨励費

受賞

自律神経機能

1. 飯村佳織 令和3年度理事長奨励賞 咽頭への刺激が糖代謝調節へ与える影響—口から食べる重要性に寄与する基礎的研究— 2021.5
2. 渡辺信博 日本基礎老化学会・Most Impressive Presentator賞「Influence of amyloid β deposition around the cerebral artery on cerebrovascular response during transient ischemia」2021.6
3. 飯村佳織 日本基礎老化学会・若手奨励賞「嚥下を誘発する上喉頭神経への慢性電気刺激は骨粗鬆症モデルラットの骨密度を部分的に抑制する」2021.6
4. 飯村佳織 日本自律神経学会・自律神経学会賞「Thyroxine and calcitonin secretion into thyroid venous blood is regulated by pharyngeal mechanical stimulation in anesthetized rats」2021.10

老化神経生物学

1. 井上律子 医療法人守生会、奨学寄附金 加齢に伴う脳機能低下の生理学的解析と改善 2021.3
2. 瀧川健司、西宗裕史 令和2年度職員表彰理事長賞 研究所PCR検査協力2021.3

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老年病態研究チーム

チームリーダー：重本和宏

研究チームの概要・目的

老年病研究チームは、第三期中期計画において中核的な研究課題として掲げているサルコペニア・フレイルの研究を多面的なアプローチで進めている。サルコペニア、心血管の老化は身体的フレイルおよび認知的フレイルと強い因果関係があることから、分子メカニズムの解明は重要な研究課題である。

老年病態研究チームは第二期中期計画から引き続き骨格筋・心血管の老化に焦点を定めて、サルコペニアとフレイルの病態メカニズム、早期診断、予防・治療法の研究を行う。心血管老化再生医学は高齢者の心不全とフレイルの因果関係を明らかにすべく心臓の老化機構と心血管ネットワークに着目して研究を進めている。また、細胞老化を誘導する膀胱癌治療のユニークな研究を実用化に向けて行う。運動器医学は疾患モデルとバイオマーカーを開発してサルコペニア・フレイルの研究を進めており、昨年度から運動器医学はAMED(LEAP)の創薬プロジェクトおよび歯周病菌の研究を開始したが、心血管老化再生医学の課題とも関連性があり協力して進める。なお、筋老化再生医学のテーマは、令和4年1月付で徳島大学へ異動したが、心血管老化再生医学と運動器医学がより一層連携を深め都民への還元を目指す。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

心血管老化再生医学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
心血管老化 再生医学研究	(1) 心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明	加齢にともなう心臓組織（マウス）の形態学的変化を明らかにする。	加齢による心臓組織（マウス）の形態学的変化に関与するタンパク質等分子の同定を行う。	心臓組織構成するヒト細胞を用いた、心臓老化関連タンパク質等の分子機序解明を進める。	心臓老化タンパク質等の機能をもとに、心血管病発症機序の解明を進める。	心疾患病態の重症化予防と心臓組織再生を誘導するための因子の探索を行い、その機序解明に取り組む。
	(2) フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明	心臓組織の恒常的機能を支える各種血管内皮細胞間のネットワークを制御する因子の探索を行う。	血管内皮細胞間およびその周囲細胞とのネットワーク制御の解明を進める。	血管内皮細胞と心臓組織間のネットワークを制御する因子の探索を進める。	血管内皮-心臓組織間ネットワーク制御因子の、心血管病の重症化、フレイル予防との関連性を明らかにする。	心血管病の重症化、フレイル予防に関与する血管内皮-心臓組織間ネットワーク制御因子の分子機序の解明を進める。
	(3) 再生医療の実用化にむけた基盤構築	再生医療製品による治療の実用化に必要な基盤整備を進める。	再生医療製品による治療導入にむけ、関連する臨床部門と連携した体制を整備する。	再生医療製品による治療にむけ、安全性を担保する施設運用の確認を行う。	再生医療製品による治療にむけた施設運用の安全性の最終確認を行う。	再生医療製品による治療にむけ、臨床部門と連携した実践的な運用の確認を行う。

運動器医学

研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
サルコペニア、神経筋難病（重症筋無力症、ALS）の動物モデルを使い、神経筋シナプスに着目した筋萎縮の発症メカニズム、新規バイオマーカーの開発と予防治療法の研究を行う	ヒト検体収集とバイオマーカーMuSKの測定と評価、新規血中バイオマーカーの探索、ヒト血中MuSK蛋白の同定、神経筋シナプスを標的とした筋萎縮マウスモデルの開発と解析	検体収集とバイオマーカーMuSKの測定・評価、新規血中バイオマーカーの探索、MuSK切断の機序の解明、神経筋シナプスを標的とした筋萎縮マウスモデルの開発とバイオマーカー評価系確立	検体収集とバイオマーカーMuSKの測定と解析評価、投稿論文の作成と投稿、神経筋シナプスを標的とする神経筋萎縮・創薬研究の開始（AMED、LEAPプロジェクト）。バイオマーカーの探索	バイオマーカー（自己抗原）血中MuSKの論文投稿。神経筋シナプス再生モデルによる創薬研究の開始（LEAPプロジェクト）。新規バイオマーカーの解析。サルコペニアに対する医薬の探索と評価	神経筋シナプス再生モデルと、バイオマーカーによる創薬研究（LEAPプロジェクト）。新規バイオマーカーの解析。サルコペニアに対する医薬の探索と評価
筋機能維持に必要な可逆性の代謝変換の機構、および筋萎縮に伴う不可逆的な代謝変換の分子機序の解明。MusColorマウスを使った分子機構の解明。ミトコンドリア形態と機能に着目したサルコペニアの分子機序解明	筋幹細胞分化に伴う代謝変換機構の解明。代謝変換誘導因子による筋維持・サルコペニア筋萎縮の機構解明。ミトコンドリア形態・機能・遺伝子発現の解析	代謝変換誘導因子による筋維持・サルコペニア筋萎縮の機構解明、ミトコンドリア形態・機能・遺伝子発現の解析、血管内皮細胞とサルコペニア・フレイルの解析	サルコペニアの遅筋ミトコンドリア分子病態の解明・論文投稿、形態・機能・遺伝子発現の解析、代謝変換誘導因子による筋萎縮の機構解明	MusColorマウスの老化モデルマウスを使った筋の質的变化と筋萎縮の因果関係の解明	MusColorマウスの老化モデルマウスを使った筋の質的变化と筋萎縮の因果関係の解明
歯周病菌(Porphyromonas gingivalis)による粥状動脈硬化および血管病変、虚血性心疾患、アルツハイマー型認知症の因果関係の解明		令和2年度開始予定の認知症未来創生プロジェクトとして歯周病菌研究に所要するリコンビナント抗原作成と精製を開始	Gingivalisのプロテアーゼに対するモノクローナル抗体とポリクローナル抗体の確立。	抗Gingipain抗体による病理解析。感染動物モデル作成の準備。	抗Gingipain抗体による病理解析。感染動物モデル作成と解析。

心血管老化再生医学

構成メンバー

テーマリーダー：豊田雅士

研究員：佐々木紀彦、板倉陽子、大瀬賢介

非常勤研究員：吉田敦

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

心血管老化再生医学研究テーマでは以下の3項目について研究を進めている。

- (1) 心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明
心臓組織で加齢に伴う顕著な形態的・機能的変化について新たな知見が得られるなど、着実に進展している。
- (2) フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明
老化・炎症に伴う血管機能の作用機序について *in vitro*（細胞実験）と *in vivo*（個体-マウス-実験）で研究を積み重ねており、順調に進んでいる。
- (3) 再生医療の実用化にむけた基盤構築
細胞・動物実験による基礎研究と1細胞解析データベースによるバイオインフォマティクス解析を融合させたことで、高齢期循環器疾患の発症要因につながる分子の探索やその機能的役割が明らかになる

りつつあり、着実に進んでいる。

【その根拠】

- (1) 心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明
 - ・ 心臓の老化プロセスでの組織変化の実態を「糖鎖」を指標として明らかにした。
 - ・ 「糖鎖」が反映する心臓組織内の加齢変化として、「線維化の亢進」、「心筋細胞膜の肥厚」、「血管網の走行性の乱れ」が確認された。
 - ・ 心臓を構成する細胞群（心筋、血管内皮、線維芽）では、各細胞群には特徴的な糖鎖構造が認められた。さらにこれまで調べた細胞種の中では、老化に伴う糖鎖変化は小さく、比較的安定であることが示された。
- (2) フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明
 - ・ 血管内皮細胞の老化で発現が上がり、細胞外に産生される糖鎖関連分泌因子1のマウス個体血中濃度を測定し、老齢マウスで発現上昇が認められた。
 - ・ 血管平滑筋細胞の（血管の恒常性維持やリモデリングに関与する）形質転換過程に、細胞膜上のガングリオンドが関わっていることを明らかにした。
- (3) 再生医療の実用化にむけた基盤構築

莫大なエネルギーを消費する心筋細胞は、不要になったミトコンドリアを分解する必要がある。このミトコンドリア分解制御に関わる遺伝子の発現について公的データベースを活用して解析し、加齢変化の一端が明らかになった。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜心臓・肺組織解析＞

【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学）、病理診断科、心臓血管外科、呼吸器外科、呼吸器内科

【センター外】明治大学

＜ヒト組織由来各種細胞の特性解析＞

【センター内】老年病態研究チーム（筋老化再生医学）、心臓血管外科、外科、病理診断科

【センター外】東京大学

＜膵がんの特性解析＞

【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん）、病理診断科

【センター外】日本獣医生命科学大学、東海大学、日本医科大学

＜消化器神経内分泌腫瘍の特性解析＞

【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん）

【センター外】日本医科大学、帝京大学

＜血管ネットワーク解析＞

【センター内】実験動物施設

【センター外】東京女子医大、東北大学

＜組織内糖鎖マッピング＞

【センター内】病理診断科

【センター外】産総研

＜細菌の薬剤耐性＞

【センター内】臨床検査科

＜COVID-19ワクチン接種後効果＞

【センター内】H A I C研究開発ユニット、臨床検査科他

＜血管炎症制御の分子機序＞

【センター外】国立成育医療研究センター

＜マウス糖鎖マッピングデータベースの構築＞

【センター外】産総研

<in vitro疾患モデルによる病態解明研究>

【センター外】国立成育医療研究センター

<多能性幹細胞による肝疾患治療に向けた研究>

【センター外】国立成育医療研究センター

<心臓疾患iPS細胞による機能解析>

【センター外】東京大学、東京女子医大、国立成育医療研究センター

<皮質骨由来細胞の特性解析>

【センター外】横浜市立大学

運動器医学

構成メンバー

テーマリーダー：重本和宏

研究員：大村卓也、川野克己（認知症未来創造センター）

非常勤研究員：岸田広美

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

1. 神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究

- ・ 血中MuSKの自己抗原・バイオマーカーの論文投稿を開始。
モデル動物を使った前臨床研究を開始
- ・ 疾患モデル動物の血中MuSKバイオマーカーを指標に薬物効果の評価解析を進める。
- ・ 新たな分子を標的とする薬物を探索した。

2. 骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明

- ・ MusColorマウスの老化筋を使い、サルコペニア筋の質的変化の解析を進める。

3. 身体的フレイルおよび認知的フレイルの共通原因の解明

- ・ 身体的・認知的フレイルの共通原因の一つとして歯周病菌の感染症に仮説を立て、診断法の開発を目指す研究を進めている。

【その根拠】

1. 神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究

① バイオマーカー研究から創薬研究への展開

- ・ 坐骨神経切断・挫滅マウス、重症筋無力症モデルマウス及び患者血中に、MuSKが筋から切断され血中に顕著に増加し、また神経シナプスの再生に伴い血中MuSKが低下する結果をまとめ論文投稿を開始した。
- ・ 2020年度から5年間の研究計画のAMED, 革新的先端研究開発事業インキュベーションタイプ(LEAP)の分担研究者(研究代表者: 東京大学理学部 菅裕明教授)として参加、神経筋難病とサルコペニアの治療を目的とした研究を進めている。

② 新たな分子標的に対する創薬研究への展開

- ・ 神経筋シナプスの膜タンパク標的とする創薬研究を行う。

2. 骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明

- ・ MusColorマウスの老化マウスを使い、特徴的な筋線維タイプ変化(骨格筋の質的変化)を発見した。

3. 身体的フレイルと認知的フレイル(認知症)の因果関係についての解明

- ・ 歯周病菌のポルフィロモナス・ジンジバリス(*Porphyromonas gingivalis*)のプロテアーゼ(Gingipain)に対する抗体を使い、ブレインバンクのアルツハイマー病脳組織の解析を開始。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<① 神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究>

【センター内】老化脳神経科学研究チーム（老化神経生物学）、老化機構研究チーム（プロテオーム）、自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康）、サルコペニア外来、糖尿病・代謝・内分泌内科、リハビリテーション科、神経内科

【センター外】千葉大学、長崎県川棚病院、神経内科千葉病院、慶応大学、東邦大学、東京大学、名古屋大学、大阪大学

<② 骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明>

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学、筋老化再生医学）、自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康）、老化制御研究チーム、サルコペニア外来、糖尿病・代謝・内分泌内科、心臓外科、血管外科

【センター外】横浜理研免疫研究所、大阪大学、名古屋大学

<③ 身体的フレイルと認知的因果関係についての解明骨の維持に関わる研究>

【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）、老年病理学研究チーム（神経病理学）、認知症未来社会創造センター、神経内科、ブレインバンク

論文・学会発表

心血管老化再生医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Sasaki N, Gomi F, Yoshimura H, Yamamoto M, Matsuda Y, Michishita M, Hatakeyama H, Kawano Y, Itakura Y, Toyoda M, Korc M, Ishiwata T, “FGFR4 inhibitor BLU9931 additively induces cellular senescence in pancreatic cancer cell for senolytic therapy”, The American Association for Cancer Research Annual Meeting 2021, Virtual meeting, 2021. 4. 10-15.

(2) 国内

1. 進士誠一, 山田岳史, 松田明久, 太田竜, 園田寛道, 高橋吾郎, 岩井拓磨, 武田幸樹, 上田康二, 栗山翔, 宮坂俊光, 佐々木紀彦, 石渡俊行, 吉田寛. “新規消化管神経内分泌腫瘍細胞株の性状解析”, 第121回日本外科学会定期学術集会, 千葉, 2021. 4. 8-10.
2. 五味不二也, 佐々木紀彦, 志智優樹, 南風花, 進士誠一, 豊田雅士, 石渡俊行. “Polyvinyl alcoholは膵癌細胞の遊走、浸潤、sphere形成能を増加させる”, 第111回日本病理学会総会, 東京, 2021. 4. 22-24.
3. 石渡俊行, 南風花, 佐々木紀彦, 志智優樹, 五味不二也, 道下正貴, 豊田雅士. “2次元培養と3次元培養による膵癌培養細胞株の形態・機能変化と薬剤感受性の検討”, 第111回日本病理学会総会, 東京, 2021. 4. 22-24.
4. 佐々木紀彦, 五味不二也, 吉村久志, 山本昌美, 松田陽子, 道下正貴, 畠山仁, 川野陽一, 板倉陽子, 豊田雅士, マレーコーク, 石渡俊行. “FGFR4シグナル抑制による膵癌の老化誘導と、老化細胞死誘導薬の有効性”, 第52回日本膵臓学会大会, 横浜, 2021. 9. 22-23.
5. Sasaki N, Gomi F, Yoshimura H, Yamamoto M, Matsuda Y, Michishita M, Hatakeyama H, Kawano Y, Itakura Y, Toyoda M, Korc M, Ishiwata T. “Cellular senescence is additively induced in pancreatic cancer cell by FGFR4 inhibitor BLU9931”, 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021. 9. 30-10. 2.
6. Gomi F, Sasaki N, Shichi Y, Shinji S, Hasegawa F, Takahashi K, Toyoda M, Ishiwata T. “Effects of polyvinyl alcohol on the pancreatic ductal adenocarcinoma cell lines in 2D and 3D cultures”, 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021. 9. 30-10. 2.
7. Shinji S, Sasaki N, Yamada T, Matsuda A, Ohta R, Sonoda H, Yonaga K, Takahashi G, Iwai T, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Gomi F, Ishiwata T, Yoshida H. “TGF- α induces epithelial-mesenchymal transition in the human colorectal neuroendocrine carcinoma cell line SS-2”, 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021. 9. 30-10. 2.
8. Shichi Y, Minami F, Sasaki N, Gomi F, Michishita M, Ohkusu-Tsukada K, Toyoda M, Takahashi K, Ishiwata T. “Morphofunctional features and drug sensitivities of pancreatic ductal adenocarcinoma cells in three-dimensional cultures”, 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021. 9. 30-10. 2.
9. 板倉陽子, 佐々木紀彦, 豊田雅士. “レクチンマイクロアレイ法を用いたマウス心臓の加齢に伴う糖鎖変化と局在に関する比較解析”, 第94回日本生化学会大会, オンライン開催, 2021. 11. 3-5.
10. 永田圭, 小杉真由子, 大谷舞衣, 池田優美, 吉川友里香, 板倉陽子, 豊田雅士, 関田洋一, 木村 透. “性染色体がコードするヒストン脱メチル化酵素KDM5CとKDM5Dのマウス胚発生における機能的差異と相同性”, 第44回日本分子生物学会年会, 横浜, 2021. 12. 1-3.
11. 佐々木紀彦, 平野和巳, 志智優樹, 板倉陽子, 石渡俊行, 豊田雅士. “ヒト血管平滑筋細胞の形質転換とガングリオシド”, CVMW2021 (第29回日本血管生物医学学会学術集会 (JVBMO)), オンライン開催, 2021. 12. 10-11.

12. **板倉陽子、佐々木紀彦、豊田雅士**. “心臓構成細胞における細胞老化と糖鎖特異性に関する基礎的解析”, CVMW2021 (第29回日本血管生物医学学会学術集会 (JVBMO)), オンライン開催, 2021. 12. 10-11.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Tsuneishi R, Saku N, Miyata S, Akiyama S, Javaregowda PK, Ite K, Takashima N, **Toyoda M**, Kimura T, Kuroda M, Nakazawa A, Kasahara M, Nonaka H, Kamiya A, Kiyono T, Yamauchi J, Umezawa A. Ammonia-based enrichment and long-term propagation of zone I hepatocyte-like cells. *Sci Rep* 11(1):11381, 2021. (査読あり, IF:4.379)
2. ◎**Itakura Y, Sasaki N, ★Toyoda M**. Glycan characteristics of human heart constituent cells maintaining organ function: relatively stable glycan profiles in cellular senescence. *Biogerontology*, 22(6):623-637, 2021. (査読あり, IF:4.277)
3. ◎**Sasaki N, Itakura Y**, Mohsin S, Ishigami T, Kubo H, Chiba Y. Cell Surface and Functional Features of Cortical Bone Stem Cells. *Int J Mol Sci* 22:11849, 2021. (査読あり, IF:5.923)
4. Shinji S, Shichi Y, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Yonaga K, Iwai T, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Ueda Y, **Sasaki N**, Takahashi K, Ohashi R, Ishiwata T, Arai T, Yoshida H. Establishment and characterization of a novel anorectal melanoma cell line derived from primary human rectal tumor. *J Nippon Med School*, in press, 2021. (査読あり, IF:0.920)
5. Miyata S, Saku N, Akiyama S, Javaregowda PK, Ite K, Takashima N, **Toyoda M**, Yura K, Kimura T, Nishina H, Nakazawa A, Kasahara M, Nonaka H, Kiyono T, Umezawa A. Puromycin-based purification of cells with high expression of the cytochrome P450 CYP3A4 gene from a patient with drug-induced liver injury (DILI). *Stem Cell Res Ther*, 13(1):6, 2022. (査読あり, IF:6.832)
6. Nagai-Okatani C, Zou X, Matsuda A, **Itakura Y, Toyoda M**, Zhang Y, Kuno A. Tissue glycome mapping: lectin microarray-based differential glycomic analysis of formalin-fixed paraffin-embedded tissue sections. *Methods Mol Biol*, 2460:161-180, 2022. (査読あり, IF:1.17)
7. ◎**Sasaki N**, Shinji S, Shichi Y, Ishiwata T, Arai T, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Iwai T, Takeda K, Yonaga K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Yoshida H. TGF- β 1 increases cellular invasion of colorectal neuroendocrine carcinoma cell line through partial epithelial-mesenchymal transition. *Biochem Biophys Res*. 30:101239, 2022. (査読あり, IF:2.613)
8. Ikemoto-Uezumi M, Zhou H, Kurosawa T, Yoshimoto Y, **Toyoda M**, Kanazawa N, Nakazawa T, Morita M, Tsuchida K, Uezumi A. Increased MFG-E8 at neuromuscular junctions is an exacerbating factor for sarcopenia-associated denervation. *Aging Cell*, 21(1):e13536, 2022.. (査読あり, IF:9.304)

(2) 総説

1. ◎**★Sasaki N, Toyoda M**, Ishiwata T. Gangliosides as Signaling Regulators in Cancer. *Int J Mol Sci* 22(10):5076, 2021. (査読あり, IF:5.923)
2. ◎**★佐々木紀彦**. “細胞老化と糖鎖”, *基礎老化研究誌*(日本基礎老化学会), 46(1):23-31, 2022.

3 著書等

1. ◎**★佐々木紀彦**. “(カラーグラビア)老化と糖鎖研究”, 別冊 *BIO Clinica* (北隆館), 10(2): 1-5, 2021.
2. ◎**★豊田雅士**. “血管の老化と慢性炎症”, 別冊 *BIO Clinica* (北隆館), 10(2): 25-30, 2021.
3. ◎**★佐々木紀彦**. “膵癌特異的ガングリオンドに対する光免疫療法の適用”, 大和証券ヘルス財団: 令和2年度 (第47回) 調査研究助成報告書.

運動器医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Araki A, **Omura T**, Tamura Y, Motokawa K, Ito H. Dietary management of older adults with diabetes focusing on prevention of frailty. The 3rd International Conference of SSCN, サウジ臨床栄養学会 2021年10月30日リヤド (web開催)

(2) 国内

1. **大村 卓也**, 田村 嘉章, 櫻井 孝, 梅垣 宏行, 井藤 英喜, 荒木 厚. 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討(J-EDIT研究); 一般演題「高齢者糖尿病」 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 2021年5月20日 web開催

2. 大村 卓也, 田村 嘉章, 豊島 堅志, 千葉 優子, 櫻井 孝, 梅垣 宏行, 井藤 英喜, 荒木 厚. 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標 カテゴリー分類法の提案と死亡リスクの検討(J-EDIT 研究). 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会;会長企画「臨床研究からみる糖尿病・糖尿病合併症のリスクとその管理〜本邦における最新の知見〜」web 開催 2021 年 5 月 22 日
3. 重本 和宏, 福永 大地, 森 秀一, 大村 卓也, 野田 義博, 藤田 泰典, 大澤 郁朗. Muscle fiber type specific alterations of mitochondrial respiratory function and morphology. 第 44 回日本基礎老化学会 口頭発表, 2021 年 6 月 12 日、(ハイブリッド開催)
4. 重本 和宏, 福永 大地, 森 秀一, 大村 卓也, 野田 義博, 藤田 泰典, 大澤 郁朗. 加齢マウスにおける筋線維タイプ別のミトコンドリア呼吸機能および形態の変化. 第 94 回日本生化学大会シンポジウム、2021 年 11 月 3 日、Web 開催
5. 大村 卓也, 福永 大地, 森 秀一, 河野 真子, 野田 義博, 藤田 泰典, 大澤 郁朗, 重本 和宏. 骨格筋におけるミトコンドリアの加齢変化は筋線維タイプ単位に依存する. 分子生物学会, 2021年12月1日 パシフィコ横浜(ハイブリッド開催)
6. 高橋寿枝, 大村卓也, 大庭和人, 舘鼻彩, 小寺玲美, 豊島堅志, 田村嘉章, 千葉優子, 中山智祥, 荒木厚. 難治性の低 K 血症をきたし Gitelman 症候群と診断された高齢女性の 1 例. 日本内科学会 第 674 回関東地方会, 2021 年 12 月 11 日、日本都市センター (ハイブリッド開催)

2 誌上発表

(1) 原著

1. Omura T, Ito H, Araki A. Which is a better predictor for adverse events in older adults with diabetes, frailty or higher level functional incapacity? **Geriatr Gerontol Int.** 2021;21:541-542. (査読あり, IF: 2.73)
2. Omura T, Tamura Y, Sakurai T, Umegaki H, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, Araki A; the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Functional category based on cognition and activities of daily living predicts all-cause mortality in older adults with diabetes mellitus: the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. **Geriatr Gerontol Int.** 2021; 21: 512-518. (査読あり, IF: 2.73)
3. Tamura Y, Shimoji K, Ishikawa J, Matsuo Y, Watanabe S, Takahashi H, Zen S, Tachibana A, Omura T, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Tokumaru AM, Araki A. Subclinical Atherosclerosis, Vascular Risk Factors, and White Matter Alterations in Diffusion Tensor Imaging Findings of Older Adults With Cardiometabolic Diseases. **Front Aging Neurosci.** 2021;13:712385. (査読あり, IF: 2.73)
4. Hotta H, Iimura K, Watanabe N and Shigemoto K. Maintenance of contractile force of the hind limb muscles by the somato-lumbar sympathetic reflexes. **J Physiol Sci.** 2021; 71(1) (IF:2.836)

(2) 総説

1. Omura T, Araki A. Skeletal muscle as a treatment target for older adults with diabetes mellitus: The importance of a multimodal intervention based on functional category. **Geriatr Gerontol Int.** 2022 Feb;22(2):110-120.

3 著書等

1. 重本 和宏. 科学研究費補助金 基盤研究 B; 研究代表者 「骨格筋の代謝の可塑性に基づくサルコペニアの病態解明と応用」実施状況報告書 (令和 2 年度) 2021. 5.
2. 大村 卓也. 若手研究; 研究代表者 「骨格筋の質に注目したサルコペニアの病態解明」実施状況報告書 (令和 2 年度) 2021. 5.
3. 重本 和宏: 「認知症における性差とそのメカニズム解明に関する研究」, 令和 2 年度 AMED 「革新的先端研究開発支援事業 インキュベータータイプ (LEAP)」 分担研究者、報告書 (非公開) 2021. 4.
4. 大村 卓也, 荒木 厚. Q&A (第 12 回) 高齢糖尿病患者への適切な食事指導について教えてください. **Calm** 8(2) 76-81 2021.
5. 重本 和宏, 福永 大地, 大村 卓也. 骨格筋の代謝からみた運動. **Geriatric Medicine**, Vol. 59, p963-966, 2021.
6. 重本 和宏, 福永 大地, 大村 卓也. サルコペニアにおけるミトコンドリアの役割. **医学の歩み**, Vol. 279; No. 5, p360-363, 2021.

受賞

運動器医学

1. 大村卓也 第 12 回 Geriatrics & Gerontology International 最優秀論文賞第 63 回日本老年医学会学術集会 2021 年 6 月 12 日

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線=常勤研究員、下線=非常勤職員、破線=研究生、連携大学院生等

老年病理学研究チーム

チームリーダー：石渡俊行

研究チームの概要・目的

本研究チームは老化に伴って発生、または増加する老年性疾患のうちで特に高齢者がんと認知症などの神経疾患について病理組織学的に病因を解明し、早期診断法と新規治療法の開発を行なうことを目的としている。本チームの特徴である解剖学、組織学、病理学の知識と経験、技術を生かし、臨床に還元できる医学的研究と、病理診断学的な研究を行なっている。

研究所の「神経病理」と「高齢者がん」そして病院の「病理診断科」の3者が密接に連絡し、それぞれの特徴を生かして協力しながら研究を進めている。さらに、これらの研究を深化、発展させるために、「高齢者ブレインバンク」、「高齢者バイオリソースセンター」、「電子顕微鏡室」と連携しており、本研究所における形態学、病理組織学的研究の中核となっている。

病院の病理診断（生検、手術、剖検診断）にも「神経病理」と「高齢者がん」が継続的に参画し、互いの高い専門性を生かして、センターの患者の診療レベルの向上に貢献している。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

高齢者がん

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
(1) 加齢と前がん状態におけるテロメア	加齢と前がん状態におけるテロメア短縮の機序解明	抗テロメラーゼ抗体の作成	抗テロメラーゼ抗体による正常組織の免疫染色	抗テロメラーゼ抗体によるがん組織の免疫染色	抗テロメラーゼ抗体のがん細胞の核内への導入	テロメラーゼの転写調節領域の解析
(2) 老化マーカー、前がん状態のマーカーとしてのテロメア	老化マーカー、前がん状態のマーカーとしてのテロメア長測定	血液検体でのテロメア長測定方法の確立	正常人血液でのテロメア長測定	がん患者血液でのテロメア長測定	バイオバンク検体でのテロメア長測定	高齢者健診でのテロメア長測定の準備
(3) 正常組織と非がん組織におけるテロメア	正常組織と非がん組織におけるテロメア長解析	正常組織でのテロメア長測定	正常組織でのテロメア長測定	スペクトル顕微鏡を用いた、正常組織でのテロメア長測定	認知症症例でのテロメア長測定	サルコペニアにおけるテロメア長測定
(4) 腫瘍幹細胞の性質の解明	腫瘍幹細胞の解析と特異的治療法の開発	がん幹細胞の形態解析	がん幹細胞の機能解析 (Nestin陽性細胞)	がん幹細胞の機能解析 (糖鎖解析)	がん幹細胞に有効な薬剤の探索	がん幹細胞に有効な薬剤の in vitro, in vivo の効果判定

神経病理学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
神経病理学	1. 高齢者ブレインバンク病理コアの役割を通じ、遺伝子発現研究にも使用可能な高品位リソースを蓄積し、全国の神経科学研究者と神経病理の立場から共同研究することで、老化に関わる運動・機能障害の、病因の解明に貢献する。 2. 高齢者ブレインバンクプロジェクトでの臨床診断基準の作成、治療の有効性の検討、病因の追求を行うことによる臨床への直接的還元において、神経病理コアの立場より貢献する	新規アストログリアマーカーペトリガンダの樹立への神経病理学的研究による高齢者医療への貢献	高齢者 TDP43 蛋白蓄積症の国際神経病理診断コンソーシアムの樹立と本邦診断基準の作成による本邦認知症診断への貢献	オールジャパン皮質基底核変性症神経病理診断基準の作成による本邦高齢者医療への貢献	前頭側頭型認知症・筋萎縮性側索硬化症オールジャパンコンソーシアムによる、本邦神経病理診断基準の作成による、本邦高齢者認知症医療への貢献	変性型多重蛋白蓄積症の高齢者コホートにおける神経病理研究による、高齢者フレイルの背景病理の解明

高齢者がん

構成メンバー

テーマリーダー：石渡俊行

研究員：五味不二也、野中敬介

非常勤研究員：相田順子、志智優樹、進士誠一、西村幸子、直井美穂

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

膵臓がんの老化誘導と多様性、糖鎖発現の研究を中心に行なってきた。テーマで開発した組織切片中の目的とする細胞のテロメア長測定技術を用いて、慢性ストレスによる副腎と脳のテロメア長測定の研究を進めている。現在、取り組んでいる主な研究の進捗状況は以下の通りである。

①ヒト膵臓がん細胞の老化誘導による新たな治療法（テーマ主体研究、国内特許出願済、PCT出願審査中）

増殖因子受容体のFGFR4の阻害により、膵臓がん細胞を老化誘導し、老化細胞死誘導薬によりがん細胞を除去できることを発見した。膵臓がんの約半数の症例にはFGFR4が発現しており、FGFR4を光免疫療法の標的として利用することも期待される。昨年度に論文が採択されプレス発表を行なった。その後、国内の特許出願を終え、PCT国際出願について所内の職務発明委員会で審査を受けている。企業との共同研究開発を目指し、産学連携の展示会で3日間のブース展示と30分間の口頭発表を行なった。

②3次元培養（立体培養）による、膵臓がん細胞株の機能形態的变化（テーマ主体研究、Scientific Reports誌採択済、Impact factor 4.379）

膵臓がん研究には、多くのヒト膵臓がん由来の細胞株を用いているが、これらの遺伝子変異、遺伝子発現や立体的な構造（3次元）の違いは明らかになっていない。8種類の膵臓がん培養細胞株を3次元培養することで、上皮様と間葉系の性質を持つ細胞に明瞭に分かれ、抗癌剤の有効性にも大きな相違があることを明らかにした。論文がScientific Reports誌に採択された。生体内で線維化を伴っている膵臓がんの性質をふまえ、現在、膵臓がん細胞とがん周囲の線維芽細胞（膵星細胞、CAF）との3次元共培養で検討を進めている。

③膵臓がんの光免疫療法の標的としての糖鎖の研究（テーマ主体研究、特許出願済、PCT国際出願済）

ガングリオシドはスフィンゴ糖脂質の一種で、細胞膜上の脂質ラフトに存在して細胞のシグナル伝達を

調節している。膵臓がんにおけるガングリオシドの発現を検討しGM2などが光免疫療法の標的となる可能性を明らかにした。2019年に論文発表とプレス発表、2020年に国内特許出願を行なったが、今年度はPCT国際出願を行なった。米国への特許出願について、所内の職務発明審査会での審査を受けた。

④ポリビニルアルコール (PVA, 糊の成分) の膵臓がんの癌幹細胞増殖効果研究 (テーマ主体、Heliyon誌採択済、Impact factor 1.857)

ヒトの造血幹細胞を、胎児ウシ血清などを除外してもポリビニルアルコール(PVA)という糊の主成分を用いると、人工的な物質のみで増やすことが可能であることが、近年、Nature誌に報告された。ヒト膵臓がんにおいても、均一な性質のがん幹細胞を多量に増やすことは、がん幹細胞の性質の解明や治療方法の研究に重要である。PVAはヒト膵臓がん細胞のスフェアを増大させ、その中に含まれるがん幹細胞も増加させることが明らかとなった。この内容はHeliyon誌に採択された。

⑤バレット食道におけるテロメア長の研究 (テーマ主体研究、Esophagus 誌採択、IF 4.23)

Barrett食道は食道腺癌の発生母地として知られ、欧米では腸型上皮が発生源であるとされてきた。テロメアは前癌状態で短縮が見られることから、腸型と噴門型上皮のテロメア長を検討した結果、Long Segment Barrett食道では噴門型上皮が優位に短縮していた。ドイツのバイロイト大学との共同研究で、論文がEsophagus誌に採択された。

⑥慢性ストレスによる副腎のテロメア長の変化：剖検症例を用いた研究 (テーマ主体研究、論文作成中)

急死症例と3週間以上の病悩期を経て亡くなった病理解剖例の副腎のテロメア長を比較した。副腎皮質の網状層のテロメア長のみが、慢性ストレス群で統計学的に有意に短縮していた。さらに慢性ストレス群では、副腎皮質に占める網状層の面積と細胞数が有意に増加していた。副腎皮質の網状層が慢性ストレス状態で重要な役割を果たしていることが示唆された。現在、実験を終え投稿に向けて論文作成中である。

⑦3次元培養を用いた、膵臓がんの癌幹細胞に有効な薬剤の探索 (テーマ主体、論文作成中)

スフェア形成法を用いて、自己複製能と多分化能を有するがん幹細胞に有効な薬剤のスクリーニングを行なっている。金沢大学がん進展制御研究所から供与を受けたFDA認証済みの既存薬剤で、がん幹細胞に有効な薬剤が発見されれば、従来から使用されている抗がん剤との併用により相乗的な治療効果が期待できる。金沢大学がん進展制御研究所腫瘍制御分野(源教授)とカリフォルニア大学アーバイン校(Korc教授)との共同研究で、現在、論文作成中である。

⑧膵臓がんの転移に寄与する、長鎖非コードRNA, H19の発現制御機構の解明 (テーマ主体、論文作成中)

H19の制御により、膵臓がんの転移を抑制できることを現在までに報告してきた (Lab Invest. 2018, Oncotarget 2018)。H19の上流で発現量を調節している機構を明らかにし、H19を制御するオプションを増やすことで、転移抑制治療へ繋げる。STAT3の活性化がH19の発現に関与していることを明らかにし、現在、論文作成中である。

⑨ヒト大腸由来の悪性黒色腫培養細胞(MELS)の樹立と形態機能解析 (日本医大外科との共同研究、JNMS誌採択済、Impact factor 0.92)

世界で初めて日本医大外科で樹立された大腸由来の悪性黒色腫培養細胞について、増殖能や浸潤能などの機能解析と電子顕微鏡的解析を行なった。予後の悪い大腸悪性黒色腫細胞の性質を明らかにすることで、新たな治療法の開発に繋がることが期待される。JNMS誌に論文が採択された。

⑩大腸神経内分泌癌細胞株、SS-2におけるEMTの役割の検討 (日本医大外科との共同研究、査読後修正中)

共同研究先の日本医大外科が樹立した世界で2つしかない希少な大腸神経内分泌細胞株を用い、大腸神経内分泌癌がなぜ転移をおこしやすいのかを研究してきた。TGF経路を介した、上皮間葉転換(EMT)が重要な役割を果たしていることが明らかになり、Biochemistry and Biophysics Reports誌(Impact factor 2.61)に投稿し、minor revisionとなり論文修正中である。

【その根拠】

主な研究プロジェクトについて研究の進捗段階を記載し、その根拠を明示した。膵臓がんの老化誘導による新規治療法の開発と、膵臓がんの糖鎖の光免疫療法への適用については、臨床応用を目指し、特許出

願を終えた。現在は、共同研究を進める企業の選択のために産学連携の展示会や講演会などで、研究内容の紹介を行なっている。老化やがんと密接に関連している慢性ストレスが副腎や脳に与える影響について、細胞種類ごとのテロメア長測定を行なって検討している。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜肝移植細胞の研究＞

【センター外】自治医科大学、日本医科大学

＜線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR-4) の抑制による膵癌治療の研究＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

【センター外】カリフォルニア大学

＜長鎖非コードRNAの制御による膵癌治療の基礎研究＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

【センター外】日本獣医生命科学大学

＜癌免疫療法に対する生体内癌動態可視化＞

【センター外】東京大学

＜消化管神経内分泌腫瘍の新規治療法の開発＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

【センター外】日本医科大学

＜膵癌の治療に有効なラットモノクロ抗体作製＞

【センター外】近畿大学

＜慢性ストレスと副腎のテロメア長の関連＞

【センター内】病理診断科

【センター外】東北大学

＜PCR法を用いた、テロメア長の測定＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

【センター外】日本獣医生命科学大学、日本医科大学

＜膵癌のスフェアに対する抗がん剤の効果＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

【センター外】カリフォルニア大学、金沢大学がん進展制御研究所

＜ネスチン陽性の膵癌の癌幹細胞に発現する糖鎖解析＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

＜膵癌に発現するガングリオシドの役割の研究＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）

＜膵癌におけるO-マンノース型糖鎖の役割＞

【センター内】老化機構研究チーム（分子機構）

＜イルカ精子の冷蔵輸送方法と生存精子の形態検索＞

【センター内】実験動物施設

【センター外】近畿大学

＜慢性ストレスが脳組織に及ぼす影響＞

【センター内】神経病理学、病理診断科

＜喫煙が脳組織に及ぼす影響＞

【センター内】神経病理学、病理診断科

＜大腸がん組織におけるNONOの役割＞

【センター内】病理診断科

＜閉塞性大腸がんのステント治療における免疫細胞の役割＞

【センター内】病理診断科

【センター外】日本医科大学

神経病理学

構成メンバー

テーマリーダー：齊藤祐子

研究員：村山繁雄、小幡真希、古賀裕、仁科春香

非常勤研究員：松原知康、荒川晶、塩谷彩子、内野彰子、森島 真帆、織田麻琴、原田三枝子、岡本京子、今井佐知子、板垣真奈美

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

新設した、脳神経内科、前頭側頭型認知症・筋萎縮性側索硬化症外来、責任者東原真奈脳神経内科医長と協力し、小幡真希バイオリソースセンターコーディネーターの協力を得て、ブレインバンク生前献脳事前同意登録を推進した。大阪では日本神経科学ブレインバンクネットワーク関西拠点発達障害・精神・神経疾患ブレインバンクと共同し、日本前頭側頭型認知症レジストリ（FTLD-J）と協力し推進した。THK5351によるグリオシス検出研究論文を、今年度1例の剖検を得ることで実証した。下位運動ニューロン病変の神経生理学的検索は東原先生、共同研究者徳島大学和泉先生と協力し、診断一致率100%を継続した。上位運動ニューロン病変検出のための、磁気二発刺激抑制欠如を臨床診断に応用の実証研究で、東大脳神経内科剖検例1例で実証成果を得た。FTLD-J登録例1例をアルツハイマー病と確定診断し、剖検の重要性を報告した。進捗は順調と判断される。

【その根拠】

生前献脳同意登録による前頭側頭型認知症・筋萎縮性側索硬化症の実証研究を推進し、ゴールドスタンダードである針筋電図を元に、磁気二発刺激抑制欠如を指標とする上位運動ニューロン徴候、THK5351 PETによる変性部位同定等、臨床病理と一体になった診断基準の作成に、一定の貢献を果たすことが出来た。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<THK5351PET実証研究>

【センター内】神経画像研究チーム、診断脳神経内科、放射線診断科

<針筋電図実証研究>

【センター内】脳神経内科

【センター外】徳島大学

<上位運動ニューロン障害研究>

【センター内】脳神経内科

【センター外】東京大学

<PIB画像・病理連関>

【センター内】脳神経内科、精神科

<MIBG心筋シンチグラフィ実証研究>

【センター内】放射線科

論文・学会発表

高齢者がん

1 学会発表

(1) 海外

1. Sasaki N, Gomi F, Yoshimura H, Yamamoto M, Matsuda Y, Michishita M, Hatakeyama H, Kawano Y, Itakura Y, Toyoda M, Korc M, Ishiwata T. FGFR4 inhibitor BLU9931 induces cellular senescence in pancreatic ductal adenocarcinoma cell lines promoting sensitivity to senolytic therapy. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2021, Web, USA, 2021.4.9-4.14

(2) 国内

1. 進士 誠一, 山田 岳史, 松田 明久, 太田 竜, 園田 寛道, 高橋 吾郎, 岩井 拓磨, 武田 幸樹, 上田 康二, 栗山 翔, 宮坂 俊光, 佐々木 紀彦, 石渡 俊行, 吉田 寛. 新規消化管神経内分泌腫瘍細胞株の性状解析. 第121回日本外科学会定期学術集会. 千葉. 2021.4.8-10
2. 石渡俊行, 南風花, 佐々木紀彦, 志智優樹, 五味不二也, 道下正貴, 豊田雅士. 2次元培養と3次元培養による膵癌培養細胞株の形態・機能変化と薬剤感受性の検討. 第110回 日本病理学会総会. 東京. 2021.4.22-24
3. 五味不二也, 佐々木紀彦, 志智優樹, 南風花, 進士誠一, 豊田雅士, 石渡俊行. Polyvinyl alcohol は膵癌細胞の遊走、浸潤、sphere形成能を増加させる. 第110回 日本病理学会総会. 東京. 2021.4.22-24
4. 小松 明子, 野中 敬介, 佐久間 隆貴, 松原 知康, 齊藤 祐子, 村山 繁雄, 湯村 和子, 井下 尚子, 新井 富生. 超高齢者に発症した結節性多発動脈炎様血管炎の1剖検例. 第110回日本病理学会総会(Web). 2021.4.22-24.
5. 野中敬介, 井下尚子, 相田順子, 田久保海誉, 渡井順子, 五味不二也, 長谷川康子, 小松明子, 山崎有人, 石渡俊行, 笹野公伸, 新井富生. 長期重症患者にみられる副腎網状層の細胞増加とテロメア長短縮. 第94回日本内分泌学会学術総会. 2021.4.22-24.
6. 野中 敬介, 井下 尚子, 笹野 公伸, 新井 富生. 内分泌臓器とその疾患における細胞老化
7. の意義副腎皮質における慢性ストレスと細胞老化の関連. 第94回日本内分泌学会学術総会(Web). 2021.4.22-24.
8. 野中 敬介, 井下 尚子, 笹野 公伸, 新井 富生. 慢性ストレス下におけるヒト副腎網状層の細胞増加とテロメア長短縮. 第

- 94回日本内分泌学会学術総会(Web). 2021. 4. 22-24.
9. 井下 尚子, 小松 明子, 野中 敬介, 新井 富生. 内分泌臓器とその疾患における細胞老化の意義 下垂体の老化 解剖例における検討. 第94回日本内分泌学会学術総会(Web). 2021. 4. 22-24.
 10. 佐々木紀彦, 五味不二也, 吉村久志, 山本昌美, 松田陽子, 道下正貴, 畠山仁, 川野陽一, 豊田雅士, コークマレー, 石渡俊行. FGFR4シグナル抑制による膵癌の老化誘導と、老化細胞死誘導薬の有効性. 第52回日本膵臓学会大会、東京(Web). 2021. 9. 22-23.
 11. 相田順子, 田久保海蓉, 石渡俊行, 井下尚子, 新井富生. 前癌病変としてのバレット食道のテロメア長短縮と染色体不安定性について. 第75回日本食道学会学術集会、東京. 2021. 9. 23-24.
 12. 進士誠一, 佐々木紀彦, 山田岳史, 松田明久, 太田竜, 園田寛道, 代永和秀, 高橋吾郎, 岩井拓磨, 武田幸樹, 上田康二, 栗山翔, 宮坂俊光, 五味不二也, 石渡俊行, 吉田寛. ヒト結腸直腸由来神経内分泌癌株SS-2のTGF- β 1誘導性上皮間葉転換の可能性. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021. 9. 30-10. 2.
 13. 志智優樹, 南風花, 佐々木紀彦, 五味不二也, 道下正貴, 塚田晃三, 豊田雅士, 高橋公正, 石渡俊行. 3次元培養による膵癌培養細胞株の形態および機能的特徴と薬剤感受性の検討. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021. 9. 30-10. 2.
 14. 佐々木紀彦, 五味不二也, 吉村久志, 山本昌美, 松田陽子, 道下正貴, 畠山仁, 川野陽一, 板倉陽子, 豊田雅士, コークマレー, 石渡俊行. FGFR4阻害剤のBLU9931により、膵癌細胞で細胞老化が誘導される. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021. 9. 30-10. 2.
 15. 五味不二也, 佐々木紀彦, 志智優樹, 進士誠一, 長谷川文雄, 高橋公正, 豊田雅士, 石渡俊行. 2D及び3D培養下におけるPolyvinyl alcoholの膵癌細胞への効果. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021. 9. 30-10. 2.
 16. 山崎晶貴, 西田健人, 沖田鋼季, 石渡俊行, 遠藤 雄一, 富岡佳久, 益子高. 標的分子の分解を誘導するモノクローナル抗体の評価: 抗がん二重特異性抗体の開発に向けて. 第80回日本癌学会学術総会. 横浜. 2021. 9. 30-10. 2.
 17. 木曾有里, 小松明子, 今泉雅之, 江坂四季音, 中島裕理, 児島宏哉, 白幡浩人, 鈴木明美, 野中敬介, 井下尚子, 新井富生. 化学・免疫療法後に肉腫様変化を示した成分が心臓液・胸水に出現した腎癌の1例. 第60回日本臨床細胞学会秋季大会(米子市). 2021. 11. 20-21.
 18. 石渡俊行. 膵臓癌の多様性と老化誘導療法の研究. 第3回ファーマラボEXPO, アカデミックフォーラム. 2012. 12. 8-10.
 19. 石渡俊行. 培養細胞株からみた膵癌の多様性と可変性. 患者由来がんモデル研究会2021. 東京. 2021. 12. 15-17.
 20. 石渡俊行. 3次元培養による膵癌細胞株の多様性の研究. 第4回ラベルフリーイメージング評価解析Webセミナー. 東京. 2022. 1. 25.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Yoshimura H, Moriya M, Yoshida A, Yamamoto M, Machida Y, Ochiai K, Michishita M, Nakagawa T, Matsuda Y, Takahashi K, Kamiya S, Ishiwata T. Involvement of Nestin in the Progression of Canine Mammary Carcinoma. Vet Pathol. 2021 May 31; 3009858211018656. (査読有) (IF: **2.221**, 2020)
2. ©★Aida J, Takubo K, Vieth M, Neuhaus H, Fujiwara M, Arai T, Ishiwata T. Telomere lengths in Barrett's esophagus as a precancerous lesion. Esophagus. 2021 Sep 24. (査読有) (IF: **4.23**, 2020)
3. Shinji S, Shichi Y, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Yonaga K, Iwai T, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Ueda Y, Sasaki N, Takahashi K, Ohashi R, Ishiwata T, Arai T, Yoshida H. Establishment and characterization of a novel anorectal melanoma cell line derived from primary human rectal tumor. J Nippon Med School. 2022 Jan 25. (査読有) (IF: **0.920**, 2020)
4. 帯刀 健太, 小林 寿美子, 野中 敬介, 北郷 萌, 西村 優基, 齋藤 輔, 小倉 和外, 宮腰 重三郎. 二次性骨髄線維症に対するruxolitinib投与中に発症した致死的原発性インフルエンザ肺炎. 臨床血液, 2022年63巻2号 p. 108-110. (査読有) (IF: 無)
5. Sasaki N, Shinji S, Shichi Y, Ishiwata T, Arai T, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, Matsuda A, Iwai T, Takeda K, Yonaga K, Ueda K, Kuriyama S, Miyasaka T, Yoshida H. TGF- β 1 increases cellular invasion of colorectal neuroendocrine carcinoma cell line through partial epithelial-mesenchymal transition. Biochem Biophys Rep. 2022 Mar 1;30:101239. (査読有) (IF: **2.613**, 2022)
6. Ueda Y, Abe M, Ishiwata T, Ozawa T. Sphingomyelin localization in the intestinal crypt surface. Biochem Biophys Res Commun. (査読有) (IF: **3.575**, 2020)

(2) 総説

1. Sasaki N, Toyoda M, ★Ishiwata T. Gangliosides as Signaling Regulators in Cancer. (総説、査読有) (IF: **5.923**, 2020)

神経病理学

1 学会発表

(1) 海外

1. Murayama S, Saito Y: 2021 annual report of Brain Bank for Aging Research. 2021 AANP Annual Meeting, June 2021, on line.
2. Murayama S, Saito Y, Takao M, Kaneda D: Annual Report of Japanese Brain Bank Network for Neuroscience Research. 2021 AAIC, July 2021, on line

3. Matsubara T, Izumi Y, Komori T, Ito H, Funai A, Hayashi K, Inoue K, Toyooka K, Kaido M, Fujimura H, Haraguchi T, Yokota O, Terada S, Adachi Y, Maruyama H, Atsuta N, Sobue G, Aoki M, Saito Y, Murayama S: Natural history of amyotrophic lateral sclerosis with a Leu126Ser mutation in the SOD1 gene. PACTALS 2021 NAGOYA, Sep17-18 2021, on line

(2) 国内

1. 齊藤祐子: 生前ドナー登録システムに基づくブレインバンクの運営. 第110回日本病理学会総会, 東京, 2021.4.22-24
2. 小松明子, 野中敬介, 佐久間隆貴, 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 湯村和子, 井下尚子, 新井富生: 超高齢者に発症した結節性多発動脈炎様血管炎の1剖検例. 第110回日本病理学会総会, 東京, 2021.4.22-24
3. 種井善一, 齊藤祐子, 伊藤慎治, 松原知康, 坂下泰浩, 池村雅子, 田中伸哉, 仙石鍊平, 新井富生, 村山繁雄: 食道リン酸化 α シヌクレインの臨床病理学的解析. 第110回日本病理学会総会, 東京, 2021.4.22-24
4. 松原知康, 和泉唯信, 齊藤祐子, 村山繁雄: 神経病理からみた筋萎縮性側索硬化症における多系統変性. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
5. 齊藤祐子, 日本ブレインバンクネットメンバー: パーキンソン病. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
6. 饗場郁子, 林 祐一, 下畑享良, 吉田眞理, 若林孝一, 小森隆司, 齊藤祐子, 池内 健, 長谷川成人, 中島健二, J-VAC 研究グループ: わが国における大脳皮質基底核症候群の臨床と病理. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
7. 松原知康, 村山繁雄, 織田麻琴, 新井富生, 齊藤祐子: Spinal Cord Bank 10年間の取り組み. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
8. 金丸和富, 金丸晶子, 木村友彦, 仁科裕史, 岩田 淳, 村山繁雄, 齊藤祐子: レビー小体型認知症におけるApoE表現型とCSFバイオマーカーとの関連、性差の検討. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
9. 木村友彦, 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 東原真奈, 井原涼子, 波多野敬子, 松川美穂, 齊藤祐子, 岩田 淳, 村山繁雄: アルツハイマー型認知症におけるApoEとCSFバイオマーカーとの関連、性差の検討. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
10. 村山繁雄, 齊藤祐子, 別宮豪一, 望月秀樹, 谷池雅子: 日本ブレインバンクネットワーク大阪拠点の構築. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
11. 齊藤祐子, 柿田明美, 吉田眞理, 村山繁雄, 矢部博興, 國井泰人, 寺田整司, 横田 修, 入谷修二, 大島健二, 田中紀子, 井上悠輔: 日本ブレインバンクネットの運営—5年間の節目を迎えて—. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
12. 林 祐一, 下畑享良, 吉田眞理, 齊藤祐子, 小森隆司, 内原俊記, 林健太郎, 佐野輝典, 齋藤由扶子, 池内 健, 饗場郁子, J-VAC-study group: 本邦におけるCBD mimicsの臨床的特徴(J-VAC-study). 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
13. 前川裕貴, 前田明子, 横山敬士, 角元利行, 作石かおり, 石浦浩之, 齊藤祐子, 清水 潤, 沖山奈緒子, 久保田 暁, 戸田達史: 高度嚥下障害、四肢近位筋力低下、皮疹を認めた78歳女性例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
14. 東野将志, 松原知康, 齋藤 輔, 宮腰重三郎, 井原涼子, 東原真奈, 岩田 淳, 新井富生, 村山繁雄, 齊藤祐子: 骨髄異形成症候群に対して帯血移植が行われ、1ヵ月後より緩徐進行性の意識障害、痙攣を認め、辺縁系脳炎が疑われた75歳女性剖検例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
15. Kubo S, Taguchi T, Matsubara T, Sengoku R, Saito Y: An autopsy case with Parkinson disease with a clinical course of 16 years accompanied with Creutzfeldt-Jakob disease. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
16. Togashi N, Matsubara T, Miyagi Y, Tokuda S, Miyashita M, Kawanami A, Arai T, Murayama S, Hasegawa K, Saito Y: The present case exhibited destructive changes in the MO known to be less affected than the spinal cord and optic nerve. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
17. 松原知康, 和泉唯信, 土師正太郎, 山崎博輝, 大崎裕亮, 宮本亮介, 藤田浩司, 齊藤祐子, 村山繁雄: Lewy 小体型認知症と筋萎縮性側索硬化症を合併した1例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
18. 織田麻琴, 古田 光, 松原知康, 新井富生, 村山繁雄, 齊藤祐子: アルツハイマー病と臨床的に診断され、病理学的検索によりその背景病理が嗜銀顆粒とTDP-43タンパク蓄積症であった1例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
19. 別宮豪一, 繁信和恵, 右近 琴, 米延友希, 山下里佳, 池田 学, 森井英一, 村山繁雄, 望月秀樹: 行動型前頭側頭型認知症様症状を呈した辺縁系優位レビー病理を伴うアルツハイマー病の一剖検例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
20. 豊岡圭子, 山下里佳, 須藤素弘, 森 千晃, 山寺みさき, 井上貴美子, 村山繁雄, 藤村晴敏: 視床下部に特徴的なTDP-43蓄積を認めた筋萎縮性側索硬化症の一例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
21. 竹内亮子, 松原知康, 大川 薫, 藤島正雄, 片多史明, 佐藤 進, 柴山秀博, 齊藤祐子, 村山繁雄, 福武敏夫: 全経過31年の筋萎縮性側索硬化症の79歳男性剖検例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
22. 村山繁雄, 松原知康, 織田麻琴, 齊藤祐子: 高齢者ブレインバンク 年次レポート. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
23. 村山繁雄, 齊藤祐子, 森島真帆, 高尾昌樹, 金田大太, 美原 盤: 日本神経科学ブレインバンクネットワーク年次報告. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
24. 齊藤祐子, 柿田明美, 吉田眞理, 横田 修, 大島健一, 入谷修司, 國井泰人, 井上悠輔, 村山繁雄: 日本ブレインバンクネット(JBBN)神経病理学会 年次報告. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web開催, 2021.5.27-29
25. 田野光敏, 井上拓也, 渋沢直子, 布施 葵, 佐藤菜津美, 諏訪部 桂, 高橋陽子, 赤津裕康, 村山繁雄, 美原 盤, 美原恵里,

- 美原 樹, 高尾昌樹: 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告 (2020 年度). 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
26. 宮崎将行, 種井善一, 向井洋平, 佐藤和貴郎, 横山和明, 水谷真志, 佐野輝典, 松原知康, 大田泰徳, 井元清哉, 東條有伸, 高尾昌樹, 高橋祐二, 齊藤祐子: 亜急性に進行する小脳性運動失調を呈した Erdheim-Chester 病の死亡時 54 歳男性の 1 例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
27. 友田陽子, 織田麻琴, 竹内亮子, 田畑里佳子, 成田健太郎, 佐藤 進, 柴山秀博, 齊藤祐子, 村山繁雄, 福武敏夫: 生前に中枢神経系原発悪性リンパ腫との鑑別が困難であった膠芽腫の一部検例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
28. 荒川 晶, 加藤弘規, 入江 学, 中澤聡子, 齊藤祐子, 岸田由紀子, 小野正恵: MEK1 遺伝子変異を有する cardio-facio-cutaneous 症候群の 1 剖検例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
29. 米延友希, 山下里佳, 別宮豪一, 村山繁雄: 脊髄小脳失調症 8 型 (SCA8) に進行性核上性麻痺 (PSP) 様非定型 4R-tauopathy を合併した一例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
30. 山上 圭, 松原知康, 竹内亮子, 柴山秀博, 三井 純, 辻 省次, 齊藤祐子, 村山繁雄, 福武敏夫: 呼吸不全で死亡したシャルルヴォア・サグネ型症性失調症 (ARSACS) の 71 歳男性例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 2021. 5. 27-29
31. 齊藤祐子, 村山繁雄: 全身疾患としてのレビー小体病. 第 15 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 仙台, 2021. 7. 1-3
32. 餐場郁子, 下畑享良, 吉田眞理, 池内 健, 長谷川成人, 齊藤祐子, 小森隆司, 若林孝一, 長谷川一子, 中島健二: 大脳皮質基底核変性症剖検例における自然史および生命予後へ多施設共同研究へ. 第 15 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 仙台, 2021. 7. 1-3
33. 大塚十里, 濱田 雅, 代田悠一郎, 原 愛徒, 池村雅子, 村山繁雄, 戸田達史: Lewy 小体病理と PSP 病理を合併した死亡時 79 歳の女性剖検例 第 15 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 仙台, 2021. 7. 1-3
34. 村山繁雄: 自立機能と神経病理. 第 74 回日本自律神経学会総会. 2021. 10. 23-24
35. 学会奨励賞受賞
松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田 淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原 潤, 石井賢二: ^{11}C -PIB PET を実施した 22 剖検例における Centiloid と病理診断との対比. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
36. 村山繁雄, 齊藤祐子, 石井賢二: 認知機能の長期経過を, 臨床と画像で長期観察し得た, 高齢者一剖検例. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
37. 齊藤祐子: 嗜銀顆粒性認知症の臨床病理-TDP-43 病理例との鑑別や合併を含めて-. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
38. 村山繁雄, 東 靖人, 齊藤祐子: ARIA の解明に向けて-神経病理の立場から-. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
39. 荒川 晶, 松原知康, 織田麻琴, 村山繁雄, 齊藤祐子: 認知症を呈し TDP-43 蛋白蓄積症と嗜銀顆粒性疾患を主徴とした 2 症例の病理分布の検討. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
40. 別宮豪一, 村山繁雄, 繁信和恵, 右近 琴, 山下里佳, 米延友希, 森井英一, 池田 学, 望月秀樹: 生前診断が行動型前頭側頭型認知症で, 病理学的にアルツハイマー病と診断した一例. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
41. 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 岩田 淳, 村山繁雄: DLB における ApoE と CSF バイオマーカーとの関連, 性差の検討. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
42. Yusran Ady Fitrah, Hara N, Miyashita A, Shimizu H, Zhu Bin, Liu Lixin, Tsukie T, Hasegawa M, Kasuga K, Akatsu H, Kaneda D, Yoshida M, Aiba I, Saito Y, Murayama S, Kakita A, JALPAC, JVAC, Ikeuchi T: Analysis of intermediate repeat sizes in C9orf72 as a risk for tauopathies. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
43. 富田 聡, 井上貴美子, 山下里佳, 大江田知子, 山本兼司, 高坂雅之, 朴 貴瑛, 野元翔平, 石原稔也, 藤村晴俊, 村山繁雄, 澤田秀幸: 進行性認知症と Parkinsonism を呈し, 黒質変性を認めた TDP-43 proteinopathy の 1 剖検例. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
44. 渡邊直希, 村山繁雄, 西村正樹: A β 産生抑制分子 ILEI/FAM3C の発現制御機構. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
45. 外山友美子, 徳平壮一郎, 朴 洪宣, 菰澤 崇, 角田伸人, 宮坂知宏, 村山繁雄, 齊藤祐子, 内藤康秀, 貫名信行, 池川雅哉: イメージング質量分析法を用いたアルツハイマー病脳の組織マルチオミクス解析. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
46. 亀谷富由樹, 吉田眞理, 松原知康, 村山繁雄, 齊藤祐子, 河上 緒, 女屋光基, 田中英智, 柿田明美, 長谷川成人: 各種タウオパチーにおける線維形成タウの翻訳後修飾の解析. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
47. 山口智久, 濱野忠則, 定 清直, 白藤法道, 榎本崇一, 浅野 礼, 佐々木宏二, 北崎佑樹, 井川正道, 山村 修, 村山繁雄, 中本安成: Syk がタウ蛋白リン酸化, 重合に及ぼす影響の検討. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
48. 笹栗弘貴, 藤岡 亮, 関口みさき, 三平尚美, 永田健一, 村山繁雄, 西道隆臣: アルツハイマー病におけるタウ病理のシード解明に向けて. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
49. 祖父江顕, 小峯 起, 原 雄一郎, 遠藤史人, 溝口博之, 渡邊征爾, 村山繁雄, 齊藤貴志, 西道隆臣, 佐原成彦, 樋口真人, 荻 朋男, 山中宏二: アルツハイマー病の病態進行に伴いミクログリアの生理機能が低下する. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
50. 齊藤祐子, 村山繁雄: 全身疾患としてのレビー小体病. 第 95 回日本薬理学会年会, 福岡, 2022. 3. 7-9

51. 小松大樹, 東原真奈, 荒川 晶, 東野将志, 松原知康, 齊藤祐子, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄, 岩田 淳: イマニチブによる加療中に発症し、針筋電図でミオキミー放電を認めた封入体筋炎の 67 歳男性例. 第 103 回 Neuro Muscular Conference, Web 開催, 2022. 3. 26

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎★Sugiyama A, Yokota H, Misawa S, Mukai H, Sekiguchi Y, Koide K, Suichi T, Matsushima J, Kishimoto T, Tanei ZI, Saito Y, Ito S, Kuwabara S: Cerebral large artery stenosis and occlusion in POEMS syndrome. BMC Neurol. 2021 Jun 24;21(1):239. doi: 10.1186/s12883-021-02260-2. (査読あり) (IF: 2.36, 2021)
2. ◎Mitani TT, Beck G, Kido K, Yamashita R, Yonenobu Y, Ogawa T, Saeki C, Okuno T, Nagano S, Morii E, Hasegawa M, Saito Y, Murayama S, ★Mochizuki H: Amyotrophic lateral sclerosis with speech apraxia, predominant upper motor neuron signs, and prominent iron accumulation in the frontal operculum and precentral gyrus. Neuropathology. 2021 Aug; 41(4): 324-331. doi: 10.1111/neup.12763. Epub 2021 Jul 4. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
3. ◎★Sugiyama A, Takeda T, Koide M, Yokota H, Mukai H, Kitayama Y, Shibuya K, Araki N, Ishikawa A, Iose S, Ito K, Honda K, Yamanaka Y, Sano T, Saito Y, Arai K, Kuwabara S: Coexistence of neuronal intranuclear inclusion disease and amyotrophic lateral sclerosis: an autopsy case. BMC Neurol. 2021 Jul 9;21(1):273. doi: 10.1186/s12883-021-02306-5. (査読あり) (IF: 2.36, 2021)
4. ◎★Araki W, Kanemaru K, Hattori K, Tsukamoto T, Saito Y, Yoshida S, Takano H, Sakata M, Yokoi Y, Omachi Y, Nagaoka U, Nagao M, Komori T, Tachimori H, Murayama S, Mizusawa H: Soluble APP- α and APP- β in cerebrospinal fluid as potential biomarkers for differential diagnosis of mild cognitive impairment. Aging Clin Exp Res. 2022 Feb; 34(2): 341-347. doi: 10.1007/s40520-021-01935-7. Epub 2021 Jul 20. (査読あり) (IF: 3.64, 2021)
5. ◎Kudo M, Wupuer S, Fujiwara M, Saito Y, Kubota S, Inoue K, Takada M, ★Seki K: Specific gene expression in unmyelinated dorsal root ganglion neurons in nonhuman primates by intra-nerve injection of AAV 6 vector. Mol Ther Methods Clin Dev. 2021 Aug 8;23:11-22. doi: 10.1016/j.omtm.2021.07.009. eCollection 2021 Dec 10. (査読あり) (IF: 4.32, 2021)
6. ◎★Shinohara M, Hirokawa J, Shimodaira A, Tashiro Y, Suzuki K, Ghenni G, Fukumori A, Matsubara T, Morishima M, Saito Y, Murayama S, Sato N: ELISA evaluation of tau accumulation in the brains of patients with Alzheimer disease. J Neuropathol Exp Neurol. 2021 Aug 11; 80(7): 652-662. doi: 10.1093/jnen/nlab047. (査読あり) (IF: 3.69, 2021)
7. ◎Shi Y, Zhang W, Yang Y, Murzin AG, Falcon B, Kotecha A, Beers MV, Tarutani A, Kametani F, Garringer HJ, Vidal R, Hallinan GI, Lashley T, Saito Y, Murayama S, Yoshida M, Tanaka H, Kakita A, Ikeuchi T, Robinson AC, Mann DMA, Kovacs GG, Revesz T, Ghetti B, Hasegawa M, ★Goedert M, ★Scheres SHW: Structure-based classification of tauopathies. Nature. 2021 Oct;598(7880):359-363. doi: 10.1038/s41586-021-03911-7. Epub 2021 Sep 29. (査読あり) (IF: 49.96, 2021)
8. ◎Samimi N, Sharma G, Kimura T, Matsubara T, Huo A, Chiba K, Saito Y, Murayama S, Akatsu H, Hashizume Y, Hasegawa M, Farjam M, Shahpasand K, Ando K, ★Hisanaga SI: Distinct phosphorylation profiles of tau in brains of patients with different tauopathies. Neurobiol Aging. 2021 Dec; 108: 72-79. doi: 10.1016/j.neurobiolaging.2021.08.011. Epub 2021 Aug 21. (査読あり) (IF: 4.67, 2021)
9. ◎Matsubara T, Saito Y, Kurashige T, Higashihara M, Hasegawa F, Ogasawara M, Iida A, Nishino I, Adachi T, Kubota A, ★Murayama S: Neuropathy/intranuclear inclusion bodies in oculopharyngodistal myopathy: a case report. eNeurologicalSci. 2021 Jun 4; 24: 100348. doi: 10.1016/j.ensci.2021.100348. eCollection 2021 Sep. (査読あり) (IF: 1.7, 2021)
10. ◎Sakashita Y, Matsubara T, Takata T, Tanei ZI, Motoda A, Yamazaki M, Kawakami I, Sengoku R, Saito Y, Arai T, Yamada M, ★Murayama S: Lewy pathology of the submandibular gland in Lewy body disease: a report of autopsy cases. Neuropathology. 2021 Dec; 41(6): 476-483. doi: 10.1111/neup.12772. Epub 2021 Oct 21. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
11. ◎Sano T, Kawazoe T, Shioya A, Mori-Yoshimura M, Oya Y, Maruo K, Nishino I, Hoshino M, Murayama S, ★Saito Y: Unique Lewy pathology in myotonic dystrophy type 1. Neuropathology. 2022 Apr;42(2):104-116. doi: 10.1111/neup.12790. Epub 2022 Feb 23. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
12. ◎Nakano M, Mitsuishi Y, Liu L, Watanabe N, Hibino E, Hata S, Saito T, Saido TC, Murayama S, Kasuga K, Ikeuchi T, Suzuki T, ★Nishimura M: Extracellular release of ILEI/FAM3C and amyloid-beta is associated with the activation of distinct synapse subpopulations. J Alzheimers Dis. 2021;80(1):159-174. doi: 10.3233/JAD-201174. (査読あり) (IF: 4.47, 2021)
13. ◎Lövestam S, Schweighauser M, Matsubara T, Murayama S, Tomita T, Ando T, Hasegawa K, Yoshida M, Tarutani A, Hasegawa M, ★Goedert M, ★Scheres SHW: Seeded assembly in vitro does not replicate the structures of α -synuclein filaments from multiple system atrophy. FEBS Open Bio. 2021 Apr;11(4):999-1013. doi: 10.1002/2211-5463.13110. Epub 2021 Feb 24. (査読あり) (IF: 2.69, 2021)
14. ◎Umeda K, ◎★Kawakami I, Ikeda K, Tanei ZI, Matsubara T, Murayama S, Murahashi Y, Niizato K, Oshima K, Iritani S: Case report of anorexia nervosa showing periventricular gliosis at autopsy. Neuropathology. 2021 Apr;41(2):127-132. doi: 10.1111/neup.12711. Epub 2021 Jan 20. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
15. ◎★Fukumoto T, Sakashita Y, Katada F, Takeuchi R, Miyamoto R, Izumi Y, Sato S, Shibayama H, Takahashi K, Suzuki T, Nakamichi K, Murayama S, Fukutake T: "Burnt-out" progressive multifocal leukoencephalopathy in idiopathic CD4(+) lymphocytopenia. Neuropathology. 2021 Dec;41(6):484-488. doi: 10.1111/neup.12773. Epub 2021 Sep 30. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)

- 1.91, 2021)
16. ©Jin M, Jin X, ★Homma H, Fujita K, Tanaka H, Murayama S, Akatsu H, Tagawa K, ★Okazawa H : Prediction and verification of the AD-FTLD common pathomechanism based on dynamic molecular network analysis. *Commun Biol*. 2021 Aug 12;4(1):961. doi: 10.1038/s42003-021-02475-6. (査読あり) (IF: 4.17, 2021)
 17. ©★Sakaue S, ©Kanai M, Tanigawa Y, Karjalainen J, Kurki M, Koshiba S, Narita A, Konuma T, Yamamoto K, Akiyama M, Ishigaki K, Suzuki A, Suzuki K, Obara W, Yamaji K, Takahashi K, Asai S, Takahashi Y, Suzuki T, Shinozaki N, Yamaguchi H, Minami S, Murayama S, Yoshimori K, Nagayama S, Obata D, Higashiyama M, Masumoto A, Koretsune Y, FinnGen Ito K, Terao C, Yamauchi T, Komuro I, Kadowaki T, Tamiya G, Yamamoto M, Nakamura Y, Kubo M, Murakami Y, Yamamoto K, Kamatani Y, Palotie A, Rivas MA, Daly MJ, ★Matsuda K, ★Okada Y : A cross-population atlas of genetic associations for 220 human phenotypes. *Nat Genet*. 2021 Oct, 53(10): 1415-1424. doi: 10.1038/s41588-021-00931-x. Epub 2021 Sep 30. (査読あり) (IF: 38.33, 2021)
 18. ©Tanaka H, Kondo K, Fujita K, Homma H, Tagawa K, Jin X, Jin M, Yoshioka Y, Takayama S, Masuda H, Tokuyama R, Nakazaki Y, Saito T, Saido T, Murayama S, Ikura T, Ito N, Yamamori Y, Tomii K, Bianchi ME, ★Okazawa H : HMGB1 signaling phosphorylates Ku70 and impairs DNA damage repair in Alzheimer's disease pathology. *Commun Biol*. 2021 Oct 11;4(1):1175. doi: 10.1038/s42003-021-02671-4. (査読あり) (IF: 4.17, 2021)
 19. ©Tanaka T, Fukuma K, Abe S, Matsubara S, Motoyama R, Mizobuchi M, Yoshimura H, Matsuki T, Manabe Y, Suzuki J, Ikeda S, Kamogawa N, Ishiyama H, Kobayashi K, Shimotake A, Nishimura K, Onozuka D, Koga M, Toyoda K, Murayama S, Matsumoto R, Takahashi R, Ikeda A, ★Ihara M, P S Investigators : Antiseizure medications for post-stroke epilepsy: a real-world prospective cohort study. *Brain Behav*. 2021 Sep; 11(9): e2330. doi: 10.1002/brb3.2330. Epub 2021 Aug 22. (査読あり) (IF: 2.71, 2021)
 20. ©Watanabe N, Nakano M, Mitsuishi Y, Hara N, Mano T, Iwata A, Murayama S, Suzuki T, Ikeuchi T, ★Nishimura M : Transcriptional downregulation of FAM3C/ILEI in the Alzheimer's brain. *Hum Mol Genet*. 2021 Dec 17;31(1):122-132. doi: 10.1093/hmg/ddab226. (査読あり) (IF: 6.15, 2021)
 21. ©Watanabe R, ★Kawakami I, Ikeuchi T, Murayama S, Arai T, Akiyama H, Onaya M, Hasegawa M : An autopsied FTDP-17 case with MAPT IVS 10 + 14C > T mutation presenting with frontotemporal dementia. *eNeurologicalSci*. 2021 Jul 28; 24: 100363. doi: 10.1016/j.ensci.2021.100363. eCollection 2021 Sep. (査読あり) (IF: 1.61, 2021)
 22. ©Tokumaru AM, Saito Y, ★Murayama S: Diffusion-weighted imaging is key to diagnosing specific diseases. *Magn Reson Imaging Clin N Am*. 2021 May; 29 (2), 163-183. doi: 10.1016/j.mric.2021.02.001 (招待、査読なし、2.26)
 23. ©Yamadera M, ★Saito T, Shinohara M, Nishio H, Murayama S, Fujimura H : Spinal muscular atrophy type 2 patient who survived 61 years :an autopsy case report. *Neuropathology*. 2022 Apr;42(2):141-146. doi: 10.1111/neup.12784. Epub 2022 Feb 10. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
 24. ©Kubo SI, Matsubara T, Taguchi T, Sengoku R, Takeuchi A, ★Saito Y : Parkinson's disease with a typical clinical course of 17 years overlapped by Creutzfeldt-Jakob disease: an autopsy case report. *BMC Neurology*. 2021 Dec 10;21(1):480. doi: 10.1186/s12883-021-02504-1. (査読あり) (IF:2.293, 2021)
 25. ©Hayakawa M, Matsubara T, Mochizuki Y, Takeuchi C, Minamitani M, Imai M, Kosaki K, Arai T, ★Murayama S : An autopsied case report of spastic paraplegia with thin corpus callosum carrying a novel mutation in the SPG11 gene: widespread degeneration with eosinophilic inclusions. *BMC Neurology*. 2022 Jan 3;22(1):2. doi: 10.1186/s12883-021-02514-z. (査読あり) (IF:2.293, 2021)
 26. ©★Beck G, Shigenobu K, Ukon K, Yamashita R, Yonenobu Y, Morii E, Hasegawa M, Ikeda M, Murayama S, Mochizuki H: An autopsy case of Alzheimer's disease with amygdala- predominant Lewy pathology presenting with frontotemporal dementia-like psychiatric symptoms. *Neuropathology*. 2022 Apr;42(2):147-154. doi: 10.1111/neup.12786. Epub 2022 Feb 2. (査読あり) (IF: 1.91, 2021)
 27. ©Matsubara T, Kameyama M, Tanaka N, Sengoku R, Orita M, Furuta K, Iwata A, Arai T, Maruyama H, Saito Y, ★Murayama S : Autopsy validation of the diagnostic accuracy of ¹²³I-metaiodobenzyl-guanidine myocardial scintigraphy for Lewy body disease. *Neurology*. 2022 Apr 19;98(16):e1648-e1659. doi: 10.1212/WNL.0000000000200110. Epub 2022 Mar 7. (査読あり) (IF:9.91, 2021)
 28. ©Mizutani M, Sone D, Sano T, Kimura Y, Maikusa N, Shigemoto Y, Goto Y, Takao M, Iwasaki M, Matsuda H, Sato N, ★Saito Y: Histopathological validation and clinical correlates of hippocampal subfield volumetry based on T2-weighted MRI in temporal lobe epilepsy with hippocampal sclerosis. *Epilepsy Res*. 2021 Nov;177:106759. doi: 10.1016/j.eplepsyres.2021.106759. Epub 2021 Sep 9. (査読あり) (IF: 3.04, 2021)
 29. ©Schweighauser M, Arseni D, Bacioglu M, Huang M, Lövestam S, Shi Y, Yang Y, Zhang W, Kotecha A, Garringer HJ, Vidal R, Hallinan GI, Newell KL, Tarutani A, Murayama S, Miyazaki M, Saito Y, Yoshida M, Hasegawa K, Lashley T, Revesz T, Kovacs GG, Swieten Jv, Takao M, Hasegawa M, Ghetti B, Spillantini MG, Ryskeldi-Falcon B, Murzin AG, ★Goedert M, ★Scheres SHW : Age-dependent formation of TMEM106B amyloid filaments in human brains. *Nature*. 2022 May;605(7909):310-314. doi: 10.1038/s41586-022-04650-z. Epub 2022 Mar 28. (査読あり) (IF: 49.96, 2021)

(2) 総説

1. 齊藤祐子, 村山繁雄: (特集 I 進行性失語) 緩徐進行性失語—関連疾患の当施設経験例の神経病理. *脳神経内科* 2021 ; 94(6) : 768-774

2. 村山繁雄, 松原知康, 齊藤祐子: タウオパチーの病態と臨床 タウオパチーと Parkinson 症候群 タウの異常構造の違いによる病態の違い. 脳神経内科 2021; 95: 442-447
3. 村山繁雄, 齊藤祐子: Basic Neuroscience 神経病理 CGG リピート病 (CGG Repeat Disorders). Annual Review 神経 2021 Page14-20
4. 村山繁雄, 齊藤祐子: Parkinson 病における非運動症候の病態と治療. 神経内科 2022; 96 (2): 153-162
5. 村山繁雄, 齊藤祐子: (特集 中枢性自律神経障害 update) 純粋自律神経不全症の病理. BRAIN and NERVE 74 (3): 231-240, 2022. 3

3 著書等

1. 村山繁雄, 齊藤祐子: 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭 (編集). I. Basic Neuroscience 2. 神経病理. CGG リピード病 (CGG Repeat Disorders). Annual Review 神経 2021. P14-20, 中外医学社, 2021. 6. 1
2. Aya Midori Tokumaru, Yuko Saito, Shigeo Murayama: Diffusion-Weighted Imaging is Key to Diagnosing Specific Diseases. Magnetic Resonance Imaging Clinics. ADVANCES IN DIFFUSION-WEIGHTED IMAGING. ELSEVIER, 2021. May; 29 (2): 163-183

受賞

高齢者がん

1. 南風花, 佐々木紀彦他7名 Top 100 downloaded cancer papers for Scientific Reports in 2021、原著論文2が2021年に Scientific Reports誌に掲載された1440本のがんの論文の中で、ダウンロード数が100位以内に入った (3,133回/年のダウンロード) 2022. 3. 22

神経病理学

1. 松原知康 学会奨励賞 (臨床研究部門) 第40回日本認知症学会学術集会 2021. 11. 27
2. 内野彰子 2021年度最優秀論文賞 (臨床部門) 第62回日本神経病理学会 2021. 5. 28

★コレスポンディングオーサー (責任著者)、◎ファーストオーサー (第一著者)

二重下線 = 常勤研究員、下線 = 非常勤職員、破線 = 研究生、連携大学院生等

神経画像研究チーム

チームリーダー：石井賢二

研究チームの概要・目的

ポジトロン断層法（PET）を用いて加齢及び高齢者特有の疾患、特に認知症の脳の病態生理を明らかにすること、がんの病態を適切に診断することを中心に、これまで開発してきたPET診断法をベースにして新しい診断法を開発することを目的とする。これらの研究を通して認知症の早期診断・病態診断やフレイルの発症機序解明、高齢者ががんの病態診断、また様々な介入や治療の効果判定に科学的根拠を与えるなど、センターの重点医療に貢献する。

PET薬剤科学研究テーマでは、主に新規PET薬剤の開発と初期臨床試験と応用、有用な薬剤の導入とそれらの新しい臨床課題への応用、PETデータ解析法の開発等を行なう。本中期計画では、PETを用いた認知症に関する新たな画像解析手法と放射性薬剤の開発に取り組み、1つ以上の有用な新規放射性薬剤の臨床使用（first-in-human）に到達するほか、放射性薬剤の画像解析法に関する研究を行う。更に、PET薬剤科学研究や診療・治験などを支える基盤研究についても充実させる。

一方、PET画像診断テーマでは、臨床的に有用性が確立されたPET診断法を、センター病院や外部の医療研究機関等と連携し、一般診療への橋渡しになり、かつ直接的に成果が社会に還元されるような研究を担う。本中期計画では、認知症の超早期診断および発症リスク評価を可能とする画像バイオマーカーを確立する研究を更に進展させる。特にアミロイドイメージングとタウイメージングの実用化研究を継続すると共に、グリアイメージングによる病態評価に取り組む。また、前臨床期での発症予測法を開発するために、健常者の追跡及びバイオリソース蓄積を行う。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

PET薬剤科学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
放射性薬剤の開発に関する研究	P-gp イメージング剤の開発	MC225前臨床試験	MC225初期臨床試験	MC225再現性	MC225加齢変化	MC225疾患応用
	PET脳血流診断剤の開発	MMP有効性評価	MMPサル試験	MMP前臨床試験	MMP初期臨床試験	MMP定量解析
	HDAC6リガンドの開発	HDAC6リガンド創薬	HDAC6リガンド創薬	HDAC6リガンド有効性	HDAC6リガンド前臨床試験	HDAC6リガンド初期臨床試験
	その他新規放射性薬剤の開発	ターゲット探索	ターゲット評価	リード化合物	創薬研究	候補化合物同定
画像解析法に関する研究	A2AR イメージング剤のバリデーション	PLN再現性試験	PLN薬物負荷試験	PLN加齢変化	PLN加齢変化	PLN解析法確立
	機械学習による診断支援システムの開発	機械学習開発	機械学習開発	機械学習検証	機械学習検証	機械学習応用
基盤技術の開発に関する研究	JST委託開発	合成装置試験	合成装置試験			
	治験薬製造	FMM製造	FMM製造	FMM製造	FMM製造	FMM製造
	Tauイメージング	研究用MK-6240製	研究用MK-6240製	治験薬MK-6240製	治験薬MK-6240製	治験薬MK-6240製

	剤の導入	造立ち上げ	造立ち上げ	造	造	造
	小動物イメージング	ADモデルマウス導入	画像解析法の開発	画像解析法の開発	画像解析法の開発	画像解析法の開発

PET画像診断

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和 2 年度)	2021 年度 (令和 3 年度)	2022 年度
(1) 脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究	①画像バイオマーカーの開発	・アミロイドPETの診療有用性検証 ・MK6240 タウ PET 診断導入 ・THK5351 グリア機能診断	・アミロイドPETの診療有用性検証 ・MK6240 タウ PET 診断症蓄積 ・THK5351 グリア機能診断	・アミロイドPET 定量解析意義の検証 ・MK6240 タウ PET 診断蓄積 ・新規グリア機能評価法開発	・アミロイドPET 定量解析意義の検証 ・MK6240 タウ PET 診断解析 ・新規グリア機能評価法開発	・アミロイドPET 定量解析応用 ・MK6240 タウ PET 診断実施 ・グリア機能診断実用化
(1) 脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究	② 健常老年者 100 名の画像追跡	・健常老年者画像追跡 ・縦断的加齢変化の解析	・健常老年者画像追跡 ・縦断的加齢変化の解析	・健常老年者画像追跡 ・認知症予測因子検討	・健常老年者画像追跡 ・認知症予測因子検討	・健常老年者画像追跡 ・認知症予測法の提案
(2) PET 診断技術の開発と臨床研究への応用	PET 診断技術の開発と臨床研究への応用	・PET 撮像解析技術開発 ・糖代謝と認知機能の関係研究 ・脳神経領域臨床研究への応用				
(3) 大規模臨床研究と治験	認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し	・認知症多施設共同研究、国際治験への参画 ・アミロイドイメージング適性使用ガイドライン随時改訂				

PET薬剤科学

構成メンバー

テーマリーダー：豊原潤
研究員：坂田宗之、多胡哲郎
非常勤研究員：日浦幹夫、田中浩士、森田光洋、山本由美、木村裕一

1 令和 3 年度の研究成果

【令和 3 年度の進捗状況】

- 放射性薬剤の開発に関する研究（おおむね順調に進展している）
 1. P-gpイメージング剤の開発（おおむね順調に進展している）
 2. PET脳血流診断剤の開発（おおむね順調に進展している）
 3. HDAC6リガンドの開発（順調に進展している）
 4. その他新規放射性薬剤の開発（おおむね順調に進展している）
- 画像解析法の開発に関する研究（遅れている）
 1. A_{2A}Rイメージング剤のバリデーション（遅れている）
 2. 機械学習による診断支援システムの開発（やや遅れている）
- 基盤技術の開発に関する研究（おおむね順調に進展している）
 1. JST委託開発（令和元年度にて終了）
 2. 治験薬製造（順調に進展している）
 3. Tauイメージング剤の導入（順調に進展している）
 4. 小動物イメージング（遅れている）

【その根拠】

- 放射性薬剤の開発に関する研究
 1. 初期臨床試験（特定臨床研究）は予定の検査を全て終了し、原著論文を公表した（原著論文：9）。非臨床試験（有効性）および薬物負荷試験に関する論文を公表した（原著論文：7, 8）
 2. 汎用性の高い¹⁸F標識化合物を得る目的で、F体およびCF₃体の標準品合成と標識前駆体合成を行った。
 3. HDAC6選択的阻害剤であるSW-100のフッ素化体（TT170）について、原著論文を公表した（原著論文：2）。TT170より脳クリアランスの優れる薬剤を目指して、TT205をデザインし、標識合成と評価を行った。
 4. 血液脳関門の水チャンネル（AQP4）を標的としたPET薬剤の開発を開始した（2021年度基盤研究C採択課題：C21K07663）。脳内炎症に関連したCOX-2イメージング剤として検討したnimesulide誘導体の原著論文を公表した（原著論文：11）。
- 画像解析法の開発に関する研究
 1. 再現性試験に関する原著論文を公表した（原著論文：10）。薬物負荷試験に関する特定臨床研究の申請書を作成中。
 2. 機械学習による診断支援システムの精度向上のために学習データの増強や特徴量抽出の工夫、複数機種のパETスキャナで計測されたデータの統合利用について検討中。
- 基盤技術の開発に関する研究
 1. 終了したJST委託研究の内容について、一部原著論文を公表した（原著論文：4）。
 2. BAN2401試験に対応した治験薬FMMの製造を継続中。治験薬MK6240ならびにNAV4694の立ち上げを行い、製造と出荷を開始した。
 3. MK6240ならびにNAV4694の合成用カセットの資材一部変更について、バリデーション試験を受託事業（住友重機械工業）として実施した。
 4. AMED事業のためのMAO-Bイメージング剤（[¹⁸F]SMBT1）を東北大学より導入するため、MTAを締結した。
 5. 小動物イメージングにおける脳画像統計解析についてGroningen大学から技術導入（短期国外研究員招致）する予定であったが、コロナの影響で延期となっている。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<P-gpイメージング剤の開発>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、放射線診断科

【センター外】フローニンゲン大学

<HDAC6リガンドの開発>

【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）、神経画像研究チーム（PET画像診断）

<新規放射性薬剤の開発（COX-2）>

【センター外】東北医科薬科大学

<新規放射性薬剤の開発（AQP4）>

【センター外】神戸大学

<A2ARイメージング剤のバリデーション研究>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）

【センター外】福島県立医大、フローニンゲン大学

<機械学習による診断支援システム>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）

<画像再構成に関する研究JST委託開発>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）

【センター外】GEヘルスケア

<基盤研究：¹⁸F標識合成>

【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）

【センター外】東京工業大学

<治験薬FMM製造>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、臨床試験管理センター、放射線診断科

【センター外】GEHC

<治験薬MK6240製造>

【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、臨床試験管理センター、放射線診断科

【センター外】Cerveau Technologies、住友重機
 <治験薬NAV4694製造>
 【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、臨床試験管理センター、放射線診断科
 【センター外】Meilleu Technologies、住友重機
 <Tauイメージング剤（SMB T1）導入>
 【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）
 【センター外】東北大学
 <小動物イメージング>
 【センター内】脳神経科学研究チーム（記憶神経科学）
 【センター外】理化学研究所、神戸大学、フローニンゲン大学

PET画像診断

構成メンバー

テーマリーダー：石井賢二

研究員：石橋賢士、上高祐人、大西愛鈴

非常勤研究員：織田圭一、我妻慧、今林悦子、鈴木幸久、稲次基希、宮田真里、池之内穰、横山きみ子、高木和子、嘉藤達樹、甘楽楓、佐藤弘子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

課題1：脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究

- ① 画像バイオマーカーの開発
 - ・アミロイドPET定量解析意義の検討（順調に進展）
 - ・MK6240タウPET診断蓄積（やや遅れている）
 - ・新規グリア機能評価法開発（順調に進展）
- ② 健常老年者100名の画像追跡
 - ・追跡データの蓄積（おおむね順調に進展）
 - ・認知症予測因子検討（おおむね順調に進展）

課題2：PET診断技術の開発と臨床研究への応用

- ・PET撮像技術開発（おおむね順調に進展）
- ・糖代謝と認知症の関係研究（順調に進展し終了）
- ・脳神経領域臨床研究への応用（順調に進展）

課題3：認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し

- ・多施設共同研究・国際治験参画（順調に進展）
- ・アミロイドイメージングガイドライン改訂（次年度保険収載前提に作業中）

【その根拠】

課題1：脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究

- ① 画像バイオマーカーの開発
 - ・アミロイドPET定量解析意義の検討（順調に進展）
 [F-18]Flutemetamolのデータを集積し、定量解析法を検討した（国内学会42、原著論文4）。企業2社との共同研究でアミロイドPET読影支援・定量解析ソフトの開発を進めており、それぞれ今年度中に薬事承認取得を見込んでいる。また、当センターで[C-11]PiB-PETを実施し、その後剖検病理診断が得られた症例22例について、アミロイドPET定量計測値（センチロイド）と病理診断の対比を行い、発表した（国内学会40）。この発表は認知症学会奨励賞を受賞。論文作成中。
 - ・MK6240タウPET診断蓄積（やや遅れている）
 [F-18]MK6240を評価項目に用いた家族性ADを対象とする医師主導型治験（REBRAnD）を実施し終了した（海外学会2、国内学会8、原著論文10）。この中で[F-18]MK6240の定性及び定量評価法を開発した。[F-18]MK6240を用いたAD関連の独自臨床研究と多施設臨床研究はCOVID-19の影響もあり進展がやや遅れているが、今後症例の蓄積を加速する。
 - ・新規グリア機能評価法開発（順調に進展）
 [F-18]THK5351の各種脳病態（AD、CBD、ALS、FTLD、GGT）における集積意義について検討し発表

した（国内学会9、10、12、17、41、44、原著論文7、9、13）。また、東北大学で開発され、グリアマーカーとしてより選択性の高い[F-18]SMBT-1を用いたproof of concept studyを今年度AMEDに提案し採択された（東北大学、国立長寿医療研究センターと共同）。今年度中に製造技術移転を行い、来年度からの臨床研究開始を目指す。研究計画の倫理審査中。

② 健常老年者100名の画像追跡

- ・追跡データの蓄積（おおむね順調に進展）

COVID-19の影響で一次検査を中断したが、289名をエントリー、延べ1732件の画像（3DMRI、FDG-PET）検査を縦断的に実施し蓄積。最長15回フォローし、10回以上のフォロー者は98名、MMSE/HDS-R/MoCA-J/採血/ApoEデータ付きという例のないデータベースを構築中。

- ・認知症予測因子検討（おおむね順調に進展）

健常老年者の縦断的FDG-PET検査を後方視的に検討し、アルツハイマー病（AD）による軽度認知障害の発症がAD特異領域の糖代謝指標により2-4年前に予測できることがわかり論文発表した（BMC Med Imaging. 2020 ; 20:81）。今後縦断データに基づきアミロイド定量指標を加えた予測法を検討する。

課題2：PET診断技術の開発と臨床研究への応用

- ・PET撮像技術開発（おおむね順調に進展）

今後タウPET評価法確立が必須となることを見据え、撮像法の標準化を目指した多施設研究を開始（国内学会22）、微小・低コントラスト病変の撮像条件最適化について検討した（海外学会5、国内学会3、20）。

- ・糖代謝と認知症の関係研究（順調に進展し終了）

軽度血糖値上昇でアルツハイマー病様の脳代謝分布変化が生じることを発見し、これまで6編のオリジナル英文原著論文にまとめて発表した。糖尿病性認知症に関する研究（共同研究）は3編の英語原著論文にまとめて発表した。ひとまず終結。

- ・脳神経領域臨床研究への応用（順調に進展）

センター内外との共同研究を行い、多数の学会発表、論文発表を行った（業績欄参照）。我々のグループでfirst-in-human studyを行った脳アデノシンA_{2A}受容体リガンド[C-11]Preradenantを用いて、パーキンソン病治療薬istradefyllineによる受容体占拠率の評価、コーヒーに含有されるカフェインによる受容体占拠率を評価し、学会ならびに英文原著論文として発表した（国内学会11、35、原著論文1、15）

課題3：認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し

- ・多施設共同研究・国際治験参画（順調に進展）

AMED関連認知症多施設研究5課題（DIAN-Japan研究、層別化バイオマーカー研究（BATON）、AMEDプレクリニカル期AD追跡研究（PAD-TRACK）、AMED認知症評価標準化研究、AMED新規バイオマーカー開発研究）に参画。疾患修飾薬国際共同治験7試験と国内医師主導型治験1試験に参画しアミロイドPET検査を実施している。

- ・アミロイドイメージングガイドライン改訂

3学会合同のワーキンググループ（石井が座長を務める）で、疾患修飾薬上市に対応した改定作業を進めている。また、AMED研究課題（石井が代表）として、認知症の発症を予測するバイオマーカー結果を開示する際の倫理・法律・社会的課題を整理し適切な手順や教育プログラムを提案する研究を進めている。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

< 認知症画像バイオマーカー研究 >

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）、老年病理学研究チーム（神経病理学）、ブレインバンク、薬剤科、脳卒中科、脳神経内科、放射線診断科

【センター外】東北大学、東北医薬大学

< 新規アミロイド・タウイメージング剤導入 >

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）

【センター外】Cerveau Technologies、住友重機械工業

< 認知症臨床画像病理連携 >

【センター内】神経科学研究チーム（PET薬剤科学）、老年病理学研究チーム（神経病理学）、ブレインバンク、脳神経内科、脳卒中科、精神科、放射線診断科

< [¹⁸F]NaFの整形外科領域への応用（TR課題） >

【センター内】神経科学研究チーム（PET薬剤科学）、整形外科、放射線診断科

< PETの脳神経外科領域への応用 >

- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】東京医歯大学
- <PETの神経内科領域への応用>
- 【センター内】神経科学研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】日本医科大学、慈恵医科大学
- <PETの神経眼科領域への応用>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】東京医科歯科大学
- <PETの脳生理学への応用>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】青森大学
- <認知症におけるオレキシン作動系の研究>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】東京医科大学
- <NAT (脳波3次元パワー解析) による認知症診断>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】脳機能研究所
- <AMEDレジストリー研究>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)、自立促進と精神保健研究チーム、社会参加と地域保健研究チーム、鳥羽理事長、荒木副院長
- 【センター外】国立長寿医療研究センター
- <AMED DIAN-J研究>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)
- 【センター外】新潟大学、神戸市立医療センター
- <AMEDバイオマーカー開示研究>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)、脳神経内科
- 【センター外】東京大学、大阪大学、国立長寿医療研究センター、新潟大学
- <AMED血液バイオマーカー研究>
- 【センター内】神経画像研究チーム (PET薬剤科学)、老年病理学研究チーム (神経病理学)、ブレインバンク、脳神経内科、脳卒中科、放射線診断科
- 【センター外】国立長寿医療研究センター

論文・学会発表

PET薬剤科学

1 学会発表

(1) 海外

1. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Radiosynthesis and preliminary evaluation of a novel ^{18}F -labeled probe for PET imaging of HDAC6 in the brain. The 11th China-Japan-Korea Symposium on Radiopharmaceutical Sciences. Seoul (virtual). 2021. 11. 11-12
2. Hiura M, Nariai T, Sakata M, Toyohara J, Ishibashi K, Wagatsuma K, Ishii K, Katayama Y. Characteristics of cerebral blood flow elicited by exercise intervention for patients with hypertension and ischemic cerebrovascular diseases. Sports, Medicine and Health Summit 2021. Hamburg (virtual). 2021. 4. 20-24.

(2) 国内

1. 豊原潤. 放射性薬剤の製造と品質管理. 第 21 回日本核医学会春季大会放射性医薬品エキスパートセミナー, Web 開催, 2021. 5. 7-31
2. Ishibashi K, Miura Y, Tago T, Wagatsuma K, Sakata M, Toyohara J, Ishii K. Occupancy of adenosine A_{2A} receptors after longterm use of istradefylline in Parkinson's disease. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都, 2021. 5. 19-22
3. 劉紫昀, ソウエイソウ, 多胡哲郎, 西岡成汰, 熊添基文, 岩井久美子, 平野圭市, 立花宏文, 豊原潤, 田中浩士. ネオペンチル標識基を利用するラジオセラノスティクス薬剤の合成研究. 日本ケミカルバイオロジー学会第 15 回年会, Web 開催, 2021. 6. 21-23
4. 坂田宗之. 脳 PET を用いた認知症画像診断における Machine Learning の利用. 第 36 回日本老年精神医学会, 京都 (Virtual), 2021. 9. 16
5. 多胡哲郎, 豊原潤, ソウエイソウ, 田中浩士. ^{18}F -標識ネオペンチル側鎖を有する化合物の固相抽出精製法による標識合成. 第 4 回日本核医学会分科会放射性医薬品科学研究会, Web 開催, 2021. 9. 25
6. 豊原潤, 坂田宗之, 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 今林悦子, Nicola Colabufo, Gert Luurtsema, 石井賢二. 新規 P-糖タンパク質イメージング剤 [^{18}F]MC225 の初期臨床評価. 第 61 回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
7. 豊原潤, 坂田宗之, 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 今井昌康, Nicola Colabufo, Gert Luurtsema, 石井賢二. 新規 P-糖タン

- パク質イメージング剤^[18F]MC225の全身PET計測による被ばく線量評価. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
8. 今林悦子, 石井賢二, 豊原潤, 坂田宗之, 我妻慧, 石橋賢士, 多胡哲郎, 徳丸阿弥, 小島成美, 金憲経. プレクリニカル期アルツハイマー病における側頭葉内側部の容積について. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
 9. 坂田宗之, 我妻慧, 織田圭一, 今林悦子, 上高祐人, 石橋賢士, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二. SPMを用いた脳FDG画像の統計比較における新旧機種間の機種間差補正の検討. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
 10. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Development of a PET probe for histone deacetylase 6 in the brain. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
 11. 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 坂田宗之, 豊原潤, 石井賢二. Istradefylline 長期内服によるアデノシン A_{2A} 受容体占拠率. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2021. 11. 4-6
 12. 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二. 11C-PiB PET を実施した22割検例におけるCentiloidと病理診断との対比. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
 13. 今林悦子, 石井賢二, 豊原潤, 坂田宗之, 我妻慧, 石橋賢士, 多胡哲郎, 徳丸阿耶, 小島成美, 小林洋大, 甲田哲之, 金憲経. 高齢者地域コホートにおける脳内アミロイド蓄積と局所脳容積について. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
 14. 多胡哲郎. ^[18F]Fの活性化法. PET化学ワークショップ2022, オンライン, 2022. 2. 11

2 誌上発表

(1) 原著

1. 我妻慧, 三輪健太, 坂田宗之, 石橋賢士, 石井賢二. ¹⁸F-florbetapir アミロイドPETイメージングの定量解析ソフトウェアの交差検証. 日放技学誌. 2021;77(1):32-40, (原著・査読あり)
2. ©Tago T, ★Toyohara J, Ishii K. Preclinical Evaluation of an 18F-Labeled SW-100 Derivative for PET Imaging of Histone Deacetylase 6 in the Brain. ACS Chem Neurosci. 2021 Feb 17;12(4):746-755, (原著・査読あり) (IF: 4.418, 2020)
3. Mitamura K, Norikane T, Yamamoto Y, Fujimoto K, Takami Y, Hoshikawa H, Toyohara J, Nishiyama Y. Interim 4' - [methyl-¹¹C]-thiothymidine PET for predicting the chemoradiotherapeutic response in head and neck squamous cell carcinoma: comparison with [18F]FDG PEY. EJNMMI Res 2021 Feb 10;11(1):13, (原著・査読あり) (IF: 3.138, 2020)
4. Song R, Tago T, Tatsuta M, Shiraishi N, Iwai K, Hirano K, Toyohara J, Tanaka H. N-Alkyl 3-aminobut-2-enenitrile as a Non-radioactive Side Product in Nucleophilic ¹⁸F-Fluorination. ChemistrySelect. 2021;6(12):2826-2831, (原著・査読あり) (IF: 2.109, 2020)
5. Aime S, Al-Qahtani M, Behe M, Bormans G, Carlucci G, DaSilva JN, Decristoforo C, Duatti A, Elsinga PH, Kopka K, Li XG, Liu Z, Mach RH, Middel O, Passchier J, Patt M, Penueles I, Rey A, Scott PJH, Todde S, Toyohara J, Vugts D, Yang Z. Highlight selection of radiochemistry and radiopharmacy developments by editorial board. EJNMMI Radiopharm Chem 2021 Mar 18;6(1):13, doi: 10.1186/s41181-021-00128-x, (原著・査読あり)
6. Norikane T, Mitamura K, Yamamoto Y, Hatakeyama T, Miyake K, Toyohara J, Nishiyama Y. Correlation of 4' -[methyl-¹¹C]-thiothymidine PET and Ki-67 immunohistochemistry separately in patients with newly diagnosed and recurrent glioma. Nucl Med Commun 2021 Jul 19, doi: 10.1097/MNM. 0000000000001463. Online ahead of print, (原著・査読あり) (IF: 1.690, 2020)
7. Mossel P, García-Varela L, Arif WM, van der Weijden CWJ, Boersma HH, Willemsen ATM, Boellaard R, Elsinga PH, Borra RJH, Colabufo NA, Toyohara J, de Deyn PP, Dierckx RAJO, Lammertsma AA, Bartels AL, Luurtsema G. Evaluation of P-glycoprotein function at the blood-brain barrier using [¹⁸F]MC225-PET. Eur J Nucl Med Mol Imaging 2021 Nov;48(12):4105-4106, doi: 10.1007/s00259-021-05419-8, (原著・査読あり) (IF: 9.239, 2020)
8. García-Varela L, Vázquez García D, Aguiar P, Kakiuchi T, Ohba H, Harada N, Nishiyama S, Tago T, Elsinga PH, Tsukada H, Colabufo NA, Dierckx RAJO, van Waarde A, Toyohara J, Boellaard R, Luurtsema G. Head-to-head comparison of (R)-[¹¹C]verapamil and [¹⁸F]MC225 in non-human primates, tracers for measuring P-glycoprotein function. Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2021 Jun 11. doi: 10.1007/s00259-021-05411-2. Online ahead of print, (原著・査読あり) (IF: 9.236, 2020)
9. ©★Toyohara J, Sakata M, Ishibashi K, Mossel P, Imai M, Wagatsuma K, Tago T, Imabayashi E, Colabufo NA, Luurtsema G, Ishii K. First clinical assessment of [¹⁸F]MC225, a novel fluorine-18 labelled PET tracer for measuring functional P-glycoprotein at the blood-brain barrier. Ann Nucl Med 2021 Nov;35(11):1240-1252, doi: 10.1007/s12149-021-01666-9, (原著・査読あり) (IF: 2.668, 2020)
10. ©★Toyohara J, Sakata M, Wagatsuma K, Tago T, Ishibashi K, Ishii K, Elsinga P, Ishiwata K. Test-retest reproducibility of cerebral adenosine A_{2A} receptor quantification using [¹¹C]prelabeled. Ann Nucl Med 2022 Jan; 36(1):15-23, doi: 10.1007/s12149-021-01678-5. Online ahead of print, (原著・査読あり) (IF: 2.668, 2020)
11. Yamamoto Y, Tago T, Toyohara J, Saito Y, Yamamoto F. Radiosynthesis and in vivo and ex vivo evaluation of isomeric [¹¹C]methoxy analogs of nimesulide as brain cyclooxygenase-2-targeting imaging agents. Biol Pharm Bull 2022; 45(1):94-103, doi: 10.1007/sbpb.b21-00608. (原著・査読有り) (IF: 2.233, 2020)
12. Ishibashi K, Miura Y, Wagatsuma K, Toyohara J, Ishiwata K, Ishii K. Adenosine A_{2A} receptor occupancy by caffeine after coffee intake in Parkinson's disease. Movement Disorders 2022 Apr;37(4):853-857. doi: 10.1002/mds.28897. (原著・査読有り) (IF: 10.338, 2020).

PET画像診断

1 学会発表

(1) 海外

1. Ishii K. The role of neuroimaging biomarkers in disease-modifying therapy of Alzheimer's disease. Regional Meeting of International Psychiatric Association 2021, Symposium 7, Disease-modifying drugs and treatment for Alzheimer's disease. Kyoto (virtual). 2021.9.17
2. Banno H, Kondo T, Okunomiya T, Amino Y, Nakakura A, Uozumi R, Tada H, Shindo A, Maki T, Ikeda M, Izumi Y, Kanemaru K, Ishii K. Shigenobu K, Sunada Y, Watanabe T, Uchikawa O, Takahashi R, Tomimoto H, Inoue H. 14th Annual Meeting of Clinical Trial Protocol of Bromocriptine in Alzheimer's Disease with Presenilin 1 (PSEN1) Mutations. Clinical Trials on Alzheimer's Disease 2021. Boston (virtual). 2021.11.9-2021.11.12.
3. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Radiosynthesis and preliminary evaluation of a novel ^{18}F -labeled probe for PET imaging of HDAC6 in the brain. The 11th China-Japan-Korea Symposium on Radiopharmaceutical Sciences. Seoul (virtual). 2021.11.11-12
4. Hiura M, Nariyai T, Sakata M, Toyohara J, Ishibashi K. Wagatsuma K, Ishii K. Katayama Y. Characteristics of cerebral blood flow elicited by exercise intervention for patients with hypertension and ischemic cerebrovascular diseases. Sports, Medicine and Health Summit 2021. Hamburg (virtual). 2021.4.20-24.
5. Tsuzura K. Wagatsuma K. Yokotsuka N, Miwa K, Kamitaka Y. Tanimoto K, Nishii R, Ishii K. Investigation of Optimal Reconstruction Conditions Using the Bayesian Penalized-Likelihood Algorithm in [^{18}F]fuciclovine PET Imaging for Brain Tumors. 34th Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine. Virtual, 2021.10.20-23

(2) 国内

1. 石井賢二. アミロイドイメージング適正使用ガイドライン：今後の方向性. アルツハイマー病研究会画像サブコミッティ, 東京, 2021.2.13.
2. 我妻慧. ファントムの作成方法について. 日本放射線技術学会 第134回東京支部セミナー, 東京, 2021.3.13.
3. 甘楽楓. 我妻慧. 横塚記代, 三輪建太, 上高祐人. 谷本克之, 石井賢二. ^{11}C -メチオニン脳PETにおけるBayesian penalized likelihood法を用いた微小および低コントラスト病変への最適化, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2021.4.15-18
4. 石井賢二. アミロイドPETの原理・ガイドライン. 第21回日本核医学会春季大会アミロイドPET読影講習会, Web開催, 2021.5.7-31
5. 石井賢二. アミロイドPETを認知症診療にどう活かすか? 第21回日本核医学会春季大会共催セミナー, Web開催, 2021.5.7-31
6. 石井賢二. 認知症画像バイオマーカー診断の展望. 第62回日本神経学会学術大会共催セミナー, 京都, 2021.5.19-22
7. 石井賢二. アルツハイマー病神経画像診断の最前線. 第62回日本神経学会学術大会シンポジウム41, 認知症の診断とバイオマーカーの最前線, 京都, 2021.5.19-22
8. 坂野治彦, 近藤孝之, 奥宮太郎, 網野祥子, 魚住龍史, 森田智視, 新堂晃太, 眞木崇州, 池田学, 和泉唯信, 金丸和富, 石井賢二. 釜江和恵, 砂田芳秀, 川勝忍, 渡邊敏文, 内川治, 高橋良輔, 富本秀和, 井上治久. プレセニリン1変異アルツハイマー病に対するプロモクリプチンの臨床試験プロトコル, 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
9. 馬場智也, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 石橋賢士. 石井賢二. 徳丸阿耶, 金丸和富, 岩田淳. 大脳皮質基底核変性症の診断における ^{18}F -THK-5351 PETの有用性についての検討, 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
10. 東原真奈, 石橋賢士. 井原涼子, 加藤貴行, 仁科裕史, 金丸和富, 徳丸阿耶, 石井賢二. 岩田淳. ^{18}F -THK 5351 PETを用いた筋萎縮性側索硬化症におけるastroglialosisの検出. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
11. Ishibashi K. Miura Y, Tago T, Wagatsuma K, Sakata M, Toyohara J, Ishii K. Occupancy of adenosine $\text{A}_{2\text{A}}$ receptors after longterm use of istradefylline in Parkinson's disease. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
12. Ikeda M, Okamoto K, Suzuki K, Takai E, Kasahara H, Furuta N, Furuta M, Shimizu C, Sakai Y, Amari M, Takatama M, Higuchi T, Tsushima Y, Yokoo H, Ishibashi S, Kurebayashi M, Ishii K. Ikeda Y. Lobar Hemorrhages and Cortical Superficial Siderosis in AD with $\text{APOE } \epsilon 2/\epsilon 2$ and THK5351 PET findings. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021.5.19-22
13. 石井賢二. 認知症診療におけるアミロイドPETの意義と展望. 認知症診療の近未来を考える会 in 沖縄. 沖縄(Web), 2021.6.7
14. 石井賢二. 核医学診断の進歩. シンポジウム21 認知症診療と脳画像診断の進歩. 第60回日本老年医学会学術集会, 名古屋(Web), 2021.6.13
15. 石井賢二. アミロイドイメージングによる認知症診療. 認知症講演会 in 多摩. 東京(Web配信) 2021.7.21
16. 石井賢二. アミロイドイメージングを用いた認知症診療と研究の展望 -適正使用ガイドラインと最近の話題-. 認知症診療の近未来を考える会 in 大分, 大分(Web), 2021.6.7
17. 小松大樹 井原涼子 石橋賢士. 東原真奈 仁科裕史 金丸和富 石井賢二. 岩田淳. 相貌失認を主症状とし、 ^{18}F -THK5351 PETが病変の描出に有用だったFTLD-TDP疑いの71歳女性例. 日本神経学会関東地方会、東京、2021.9.4
18. 石井賢二. アルツハイマー病疾患修飾薬治療に向けた画像バイオマーカーの展望、第36回日本老年精神医学会、京都(Virtual)、2021.9.16
19. 石井賢二. アルツハイマー病診断の画像・体液バイオマーカー最前線、Regional IPA/JPS Meeting・第36回日本老年精神医学会、京都(Virtual), 2021.9.17
20. 甘楽楓. 我妻慧. 横塚記代, 上高祐人. 三輪建太, 谷本克之, 西井龍一, 石井賢二. SiPM-PET/CT装置の体軸方向視野による ^{11}C -メチオニン脳PET画像の低コントラストおよび微小病変への影響, 日本放射線技術学会東京支部第75回東京支部学術大会, 東京, 2021.9.25
21. 石井賢二. 認知症診療におけるアミロイドPETの意義と実際, 認知症診療の近未来を考える会 in 広島. 広島(Web), 2021.6.7

22. 我妻慧, 三輪建太, 赤松剛, 山尾天翔, 上高祐人, 藤田尚利, 櫻井実, 花岡宏平. 研究班報告: タウPETイメージングの標準的撮像法の確立を目的とした多施設共同研究, 第49回日本放射線技術学会秋季学術大会, 熊本, 2021. 10. 15-17
23. 石井賢二. 認知症核医学診断とバイオマーカー研究の最前線, 第29回北海道脳PET・SPECT研究会, 札幌, 2021. 10. 23
24. 石井賢二. アミロイドPETの最新情報, 第39回日本神経治療学会学術集会, シンポジウム17 神経変性疾患の画像診断トピックス, 津, 2021. 10. 30
25. 石井賢二. 認知症早期診断における画像バイオマーカーの最新知見, 第39回日本神経治療学会学術集会, モーニングセミナー, 津, 2021. 10. 30
26. 豊原潤, 坂田宗之, 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 今林悦子, Nicola Colabufo, Gert Luurtsema, 石井賢二. 新規P-糖タンパク質イメージング剤 [¹⁸F]MC225の初期臨床評価. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
27. 豊原潤, 坂田宗之, 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 今井昌康, Nicola Colabufo, Gert Luurtsema, 石井賢二. 新規P-糖タンパク質イメージング剤 [¹⁸F]MC225の全身PET計測による被ばく線量評価. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
28. 今林悦子, 石井賢二, 豊原潤, 坂田宗之, 我妻慧, 石橋賢士, 多胡哲郎, 徳丸阿弥, 小島成美, 金憲経. プレクリニカル期アルツハイマー病における側頭葉内側部の容積について. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
29. 坂田宗之, 我妻慧, 織田圭一, 今林悦子, 上高祐人, 石橋賢士, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二. SPMを用いた脳FDG画像の統計比較における新旧機種間の機種間差補正の検討. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
30. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Development of a PET probe for histone deacetylase 6 in the brain. 第61回日本核医学会学術総会. 名古屋, 2021. 11. 4-6
31. 上高祐人, 甘楽楓, 我妻慧, 三輪建太, 谷本克之, 西井龍一, 石井賢二. ¹¹C-methionine PETにおける4-ringと5-ringのPET/CT装置の物理評価の比較, 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2021. 11. 4-6
32. 山尾天翔, 三輪建太, 重本蓉子, 我妻慧, 上高祐人, 伊藤浩, 松田博史. アミロイドPETに対する領域分割Centiloid scaleの評価, 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2021. 11. 4-6
33. 三輪建太, 吉井斗輝也, 根津翔吾, 我妻慧, 山尾天翔, 上高祐人. 高空間分解能PETのためのBPL法の罰則関数内 γ factorの検討, 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2021. 11. 4-6
34. 鈴木幸久, 清澤源弘, 石井賢二. Visual snow患者の島皮質及び舌状回における脳灰白質密度低下. 第59回日本神経眼科学会総会, 東京, 2021. 12. 17-2021. 12. 18
35. 石橋賢士, 我妻慧, 多胡哲郎, 坂田宗之, 豊原潤, 石井賢二. Istradefylline長期内服によるアデノシンA2A受容体占拠率. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, 名古屋, 2021. 11. 4-6
36. 石井賢二. アミロイド&タウPETが日常診療にもたらしたもの. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会, シンポジウム4, 神経病理イメージングの今昔・未来, 名古屋, 2021. 11. 4-6
37. 石井賢二. 疾患修飾薬治療に向けたバイオマーカー診断の課題. ディベートセッション1, 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
38. 石井賢二. [¹⁸F]NAV4694アミロイドプローブとAHEAD A3-45 study. 第40回日本認知症学会学術集会, シンポジウム1, 認知症神経病理イメージングのフロンティア, 東京, 2021. 11. 26-28
39. 石井賢二. 老年者タウオパチーが疑われた症例の神経画像所見. 第40回日本認知症学会学術集会, シンポジウム7, 認知症CPC, 東京, 2021. 11. 26-28
40. 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二. ¹¹C-PiB PETを実施した22剖検例におけるCentiloidと病理診断との対比. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
41. 池田将樹, 岡本幸市, 鈴木慶二, 高井恵理子, 笹原浩生, 古田夏海, 古田みのり, 清水千聖, 酒井保治郎, 甘利雅邦, 高玉真光, 樋口徹也, 対馬義人, 横尾英明, 倉林正彦, 石橋俊, 石井賢二, 池田佳生. APOE ϵ 2/ ϵ 2, 低脂血症, 脳葉出血, THK5351 PETにて特異所見を認めたアルツハイマー病. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
42. 今林悦子, 石井賢二, 豊原潤, 坂田宗之, 我妻慧, 石橋賢士, 多胡哲郎, 徳丸阿耶, 小島成美, 小林洋大, 甲田哲之, 金憲経. 高齢者地域コホートにおける脳内アミロイド蓄積と局所脳容積について. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
43. 岩田香織, 加藤隆司, 鈴木啓介, 辻本昌史, 二橋尚志, 櫻井圭太, 木村泰之, 西尾正美, 小島明洋, 中村昭範, 井狩彌彦, 新美芳樹, 石井賢二, 千田道雄, 伊藤健吾, 岩坪威, J-TRC Study Group. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京, 2021. 11. 26-28
44. 東野将志, 仁科裕史, 波多野敬子, 東原真奈, 石橋賢士, 石井賢二, 金丸和富, 岩田淳. 緩徐に進行する四肢痙性対麻痺にて発症し, [¹⁸F]THK-5351 PETよりGlobular Glial Tauopathyが疑われた85歳女性例. 第239回日本神経学会関東・甲信越地方, 東京, 2021. 12. 4
45. Tamura K, Inaji M, Kobayashi D, Hara S, Karakama J, Tanaka Y, Nariyai T, Ishii K, Maehara T. Reclassification of diffuse gliomas based on molecular diagnosis -evaluation of methionine uptake and treatment outcome- The 39th Annual Meeting of the Japan Society for Neuro-Oncology, Kobe, 2021. 12. 5-7
46. Ebiko Y, Tamura K, Hara S, Inaji M, Tanaka Y, Nariyai T, Ishii K, Maehara T. Molecular diagnostic prediction combining T2-FLAIR mismatch sign, calcification, and methionine PET in grade II and III gliomas. The 39th Annual Meeting of the Japan Society for Neuro-Oncology, Kobe, 2021. 12. 5-7
47. 石井賢二. 認知症診療における画像診断フロー将来展望. 熊本能機能画像研究会. 熊本市 (Web), 2022. 1. 27

48. 石井賢二. ATNバイオマーカーによるアルツハイマー病早期診断の現状と展望. 名古屋分子標的イメージングセミナー, 名古屋市 (Web), 2022. 2. 3
49. 石井賢二. アミロイドPETの最新情報 -定量法とその意義を中心に- 第51回日本神経放射線学会共催セミナー. 東京, 2022. 2. 19
50. 石井賢二. 早期アルツハイマー型認知症の画像診断-近未来を見据えた診断環境の在り方を踏まえて-, 認知症診療の新時代を考える会in鹿児島, 鹿児島 (Online), 2022. 3. 9
51. 石井賢二. 認知症診療におけるバイオマーカーの展望-アミロイドPETの役割を中心に-. 第14回関東核医学研究会. 東京 (Online), 2022. 3. 12

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Wagatsuma K, Toyohara J, Ishiwata K, Ishii K. Adenosine A_{2A} receptor occupancy by long-term istradefylline administration in Parkinson's disease. *Movement Disorders*. 2021 Jan;36(1):268-269. (査読あり) (IF = 10.338)
2. 我妻慧, 三輪建太, 坂田宗之, 石橋賢士, 石井賢二. 18F-florbetapirアミロイドPETイメージングの定量解析ソフトウェアの交差検証. *日放技学誌*. 2021;77(1)32-40. (査読あり) (IF未算出)
3. Yamao T, Miwa K, Wagatsuma K, Shigemoto Y, Sato, N, Akamatsu G, Ito H, Matsuda H. Centiloid scale analysis for 18F-THK5351 PET imaging in Alzheimer's disease. *Phys Med*. 2021;82:249-54. (査読あり) (IF = 2.485, 2020)
4. Matsuda H, Ito K, Ishii K, Shimosegawa E, Okazawa H, Mishina M, Mizumura S, Ishii K, Okita K, Shigemoto Y, Kato T, Takenaka A, Kaida H, Hanaoka K, Matsunaga K, Hatazawa J, Ikawa M, Tsujikawa T, Morooka M, Ishibashi K, Kameyama M, Yamao T, Miwa K, Ogawa M, Sato N. Quantitative Evaluation of 18F-Flutemetamol PET in Patients With Cognitive Impairment and Suspected Alzheimer's Disease: A Multicenter Study. *Front Neurol*. 2021 Jan 13;11:578753. (査読あり) (IF = 4.003)
5. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Preclinical Evaluation of an 18F-Labeled SW-100 Derivative for PET Imaging of Histone Deacetylase 6 in the Brain. *ACS Chem Neurosci*. 2021 Feb 17;12(4):746-755. (査読あり) (IF: 4.418, 2020)
6. 光畑みずほ, 若倉雅登, 岩佐真弓, 山上明子, 井上賢治, 鈴木幸久, 石井賢二. Visual snow syndromeの日本人21人の検討. *日本眼科学会雑誌* 2021; 125(4):438-445. (査読あり) (IF なし)
7. Ikeda M, Kodaira S, Kasahara H, Takai E, Nagashima K, Fujita Y, Makioka K, Hirayanagi K, Furuta N, Fruta M, Sanada E, Kobayashi A, Harigaya Y, Nagamine S, Hattori N, Tashiro Y, Ishi K, Shimada H, Suto T, Tanaka H, Sakai Y, Yamazaki T, Tanaka Y, Aihara Y, Amari M, Yamaguchi H, Okamoto K, Takatama M, Ishii K, Higuchi T, Tsushima Y, Ikeda Y. Cerebral microbleeds, cerebrospinal fluid, and neuroimaging markers in clinical subtypes of Alzheimer's disease. *Frontiers in Neurology* 2021 April;12:Article543866, (査読あり、IF = 4.003)
8. Senda M, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Matsuda H, Iwatsubo T, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikari Y, Niimi Y, Arai H, Tamaoka A, Arahata Y, Itoh Y, Tachibana H, Ichimiya Y, Washizuka S, Odawara T, Ishii K, Ono K, Yokota T, Nakanishi A, Matsubara E, Mori H, Shimada H. A Japanese multicenter study on PET and other biomarkers for subjects with potential preclinical and prodromal Alzheimer's disease. *J Prev Alz Dis* 2021;4(8):495-502, doi: 10.14283/jpad.2021.37. (査読あり、IF = 4.671)
9. Ikeda M, Okamoto K, Suzuki K, Takai E, Kasahara H, Furuta N, Furuta M, Tashiro Y, Shimizu C, Takatama S, Naito I, Sato M, Sakai Y, Takahashi M, Amari M, Takatama M, Higuchi T, Tsushima Y, Yokoo H, Kurabayashi M, Ishibashi S, Ishii K, Ikeda Y. Siderosis in a patient of Alzheimer's disease with homozygous APOE ε2 allele presenting hypobetalipoproteinemia and pathological findings of ¹⁸F-THK5351 positron emission tomography: A case report. *Front Neurol* 2021 July 07;12:Article 645625, (査読あり、IF = 4.003)
10. Kondo T, Bannno H, Okunomiya T, Amino Y, Endo K, Nakakura A, Uozumi R, Kinoshita A, Tada H, Morita S, Ishikawa H, Shindo A, Yasuda K, Taruno Y, Maki T, Suehiro T, Mori K, Ikeda M, Fjita K, Izumi Y, Kanemaru K, Ishii K, Shigenobu K, Kutoku Y, Sunada Y, Kawakatsu S, Shiota S, Watanabe T, Uchikawa O, Takahashi R, Tomimoto H, Inoue H. Repurposing bromocriptine for Aβ metabolism in Alzheimer's disease (REBRAND) study: randomised placebo-controlled double-blind comparative trial and open-label extension trial to investigate the safety and efficacy of bromocriptine in Alzheimer's disease with presenilin 1 (PSEN1) mutations. *BMJ Open* 2021 Jun 30;11(6):e051343. (査読あり、IF = 2.692)
11. Toyohara J, Sakata M, Ishibashi K, Møssel P, Imai M, Wagatsuma K, Tago T, Imabayashi E, Colabufio NA, Luurtsema G, Ishii K. First clinical assessment of [¹⁸F]MC225, a novel fluorine-18 labelled PET tracer for measuring functional P-glycoprotein at the blood-brain barrier. *Ann Nucl Med* 2021 Nov;35(11):1240-1252, (査読あり、IF = 2.668)
12. Hara S, Tanaka Y, Inaji M, Hayashi S, Ishii K, Nariai T, Maehara T. Spatial coefficient of variation of arterial spin labeling MRI for detecting hemodynamic disturbances measured with 150-gas PET in patients with moyamoya disease. *Neuroradiology* 2021 Sep 09; (査読あり、IF = 2.804)
13. ◎Higashihara M, ★◎ Ishibashi K, Tokumaru AM, Iwata A, Ishii K. ¹⁸F-THK5351 PET Can Identify Core Lesions in Different Amyotrophic Lateral Sclerosis Phenotypes. *Clin Nucl Med*. 2021 Dec 1;46(12):3582-e583. (査読あり) (IF =

7.794)

14. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Wagatsuma K, Kameyama M, Ishii K. Brain ^{11}C -ITMM PET to longitudinally assess type 1 metabotropic glutamate receptor availability in Alzheimer's disease. J Neuroimaging. 2021 Sep;31(5):864-868. (査読あり)(IF = 2.486)
15. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Wagatsuma K, Toyohara J, Ishiwata K, Ishii K. Adenosine $\text{A}_{2\text{A}}$ receptor occupancy by caffeine after coffee intake in Parkinson's disease. Movement Disorders 2022 Apr;37(4):853-857. doi: 10.1002/mds.28897. (原著・査読有り)(IF: 10.338, 2020).

3 著書等

1. ★◎石井賢二. なぜタウPETイメージングが囑望されるのか? 臨床放射線2021;66(4):309-315 (査読なし)(IFなし)
2. ★◎石井賢二. 認知症診断における核医学検査の進歩. Current Therapy 2021;39(7):640-645 (査読なし)(IFなし)
3. ★◎石井賢二. 認知症とイメージング. 医学のあゆみ 2021;279(5):396-401 (査読なし)(IFなし)
4. 金瑛仙, 工藤琢巳, 田村都, 壽美田一貴, 小林大輔, 田中洋次, 稲次基希, 成相直, 石井賢二, 前原健寿. Diffuse midline glioma, H3K27M mutantを含む視床部脳幹部神経膠腫の検討. 脳神経外科 2021;49(4):901-908. PMID: 34376622 (査読なし)(IFなし), DOI: 10.11477/mf.1436204469
5. ★◎石井賢二. 画像から見たSNAP(suspected non-Alzheimer's disease pathophysiology)の背景疾患. Dementia Japan 2022;36:67-75 (査読なし)(IFなし)
6. 三輪建太, 山尾天翔, 上高祐人. 核医学用ファントムの概要. 日本放射線技術学会雑誌. 2022;78(2):207-212 (査読なし)(IFなし)
7. 池内健, 春日健作, 新美芳樹, 井原涼子, 千田道雄, 石井賢二. DIAN-Japan研究 -観察研究と治療介入研究-. 老年精神医学雑誌2022;33(2):150-155 (査読なし)(IFなし)

受賞

PET薬剤科学・PET画像診断

1. 松原知康, 齊藤祐子, 村山繁雄, 新井富生, 井原涼子, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 岩田淳, 亀山征史, 今林悦子, 徳丸阿耶, 石橋賢士, 豊原潤, 石井賢二. 第40回日本認知症学会奨励賞 ^{11}C -PiB PETを実施した22剖検例におけるCentiloidと病理診断との対比. 2021. 11. 28

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

社会参加と地域保健研究チーム

チームリーダー：藤原佳典

研究チームの概要・目的

当研究チームは、第三期中期計画において、第二期中期計画から継続する二つのテーマ研究（TR）：社会参加と社会貢献TR（旧社会参加・社会貢献の促進TR）（以降、社会貢献TR）とヘルシーエイジングと地域保健TR（旧老化・虚弱の一次予防と地域保健TR）（以降、地域保健TR）に加えて社会貢献TRから、大都市高齢者基盤研究TR（以降、大都市基盤TR）が独立し、三つのTRの体制でスタートした。北村リーダーの退職により、今年度より、藤原が地域保健TR、村山が社会貢献TRのチームリーダーに着任した。

三つのTRは相互に協働・補完しながら、高齢者人口の約8割を占める、生活機能の自立した高齢者を主な対象とし、ICFモデルに示された「参加」「活動」の増進に向けたポピュレーションアプローチの疫学研究および地域でアクションリサーチを行い、健康日本21（第二次）で掲げられている「健康寿命（余命）の延伸」と「健康格差の縮小」に寄与することを目的としている。研究成果は、フィールド自治体をはじめ、東京都や国の施策づくりに還元する。更には、2030年に向けて国連が掲げる持続可能な開発目標SDG's(Sustainable Development Goals)の17項目のうち9項目の達成に寄与できるものとする。

第三期中期計画においては、大都市基盤TRが把握・推測した社会参加・社会関係に関する知見を社会参加TRや地域保健TRが介入プログラムやアクションリサーチにより実証および実装する連携体制をとっている。これにより、これまで行政施策（例えば、大田区モデル事業における介護予防・日常生活支援総合事業）におけるSPDCAサイクル[調査（Survey）→計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→見直し（Act）]を支援してきた。

更に、2020年度から上記、SPDCAサイクルを他自治体に展開している。チームリーダーがセンター長を兼務する都委託の東京都介護予防フレイル予防推進支援センター事業において、小林、村山チームリーダーと3テーマの研究員が内部委員として連携し、「通いの場」の概念整理、地区診断指標の開発、事業評価手法の提示に従事している。加えて、外部資金も獲得し、厚労科研「PDCAサイクルに沿った介護予防の取組推進のための通いの場等の効果検証と評価の枠組み構築に関する研究」においては3テーマ一丸となり、外部有識者を交え、SPDCAサイクルの枠組みと評価指標の標準化と妥当性を検証している。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

社会参加と社会貢献研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度 (令和4年度)
プロダクティブエイジングの促進に資する開発研究	(a) 高齢者と社会にとって望ましい働き方の解明とその支援策の提示を行う (b) 生涯学習型プログラムの開発と実装、活動の継続および波及効果を検証する。 (c) 多世代交流と互助の仕組みを開発する。	(a) 高齢者・雇用者調査により実態と課題を把握 (b) 生涯学習であるが副次的に介護予防・健康維持増進が期待できる好事例の探索 (c) 国内外の優良事例への郵送調査	(a) アンケート調査実施、好事例を探索 (b) 好事例に基づく介入プログラムの開発および効果検証（属性・健康度・社会参加） (c) 優良事例の代表者と自治体担当職員への聞き取り調査	(a) データ解析・論文執筆 (b) 各介入プログラムの自主活動の関与者および受け手への影響に関する検討 (c) 郵送・聞き取り調査と各プログラム運営マニュアル開発	(a) データ解析・論文執筆 (b) 各プログラムの地域実装に向けた普及・展開に資する研究 (c) 各プログラム運営マニュアルの試行と効果評価	(a) 一般企業・福祉事業所向け就労支援マニュアルの作成 (b) 多様な社会参加の機会の増加に向けた各種プログラムテキストの作成 (c) 各運営プログラム改良と自治体への普及

社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法に関する研究	(a)社会的フレイルの概念整理と定義を行う。(b)評価尺度の開発(MoCA-J 応用、ICT利用等)を行う。	・社会参加実験・調査のモデルの確立 ・MoCA-Jの平行版開発、長期追跡	・ソーシャルフレイルの定義の確立および検証 ・新規認知機能検査試作	・認知機能が低下した状態であっても社会参加が行える決定要因解明 ・左記試作継続	世代間交流および他者交流が与える認知・神経学的影響の解明 ・本検査解析	・各実験・調査による社会参加活動の心身社会的機序を総括し公表 ・本検査公表

ヘルシーエイジングと地域保健研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
機能的能力、内能力的能力の加齢変化と関連要因の解明 【基礎的研究】	フレイルの予防・改善のための地域課題と予防戦術の明確化(郵送調査等による地域診断)	・大田区での調査、研究の実施 ・データ分析、成果公表	・大田区、養父市での調査データ分析、成果公表 ・気仙沼市での調査 ・横浜市栄区での調査	・大田区、養父市、気仙沼市での調査データ分析、成果公表	・大田区、養父市での追跡調査 ・データ分析、成果公表	・大田区での追跡調査、データ分析 ・成果公表、社会還元
ヘルシー・エイジングを推進する社会システムの開発と実装化 【応用研究】	地域づくりを主軸としたフレイル予防・改善のための社会システムの開発と実装化	・大都市モデルのプロトタイプ評価 ・中山間地域モデルの評価と他地域への普及 ・全国自治体向けのツール開発	・大都市モデルの全区への拡大 ・中山間地域モデルの評価と他地域への普及 ・全国向けツールの公表	・大都市モデル、中山間地域モデルの実装化継続 ・被災地モデルの実装化開始 ・東京都の他地域への実装化	・大都市モデル、中山間地域モデルの東京都の他地域への実装化 ・被災地モデルの評価	・大都市モデル、中山間地域モデル、被災地モデルの完成(ガイドブック等作成) ・東京都での実装化、応用

大都市高齢者基盤研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
高齢期のワーク・ライフ・バランス推進のための課題の明確化	①就労参加の地域活動への影響と両立のための方策 ②就労、地域・家庭内活動のバランスと健康・ウェルビーイング(WB)との関係	①②JAHEAD第8回の解析・公表と第9回までの解析 ①都内中高年者調査★	JAHEAD 解析・公表 解析	解析・公表 ①量的調査: 自主グループ活動調査☆/住民調査(2区市)☆	①② JAHEAD第10回★ 解析 住民調査(前年度と別自治体)☆	解析・公表 ①②総合報告書の作成 解析・公表

世代間支援の実態と効果の解明	①【親族内関係】子どもとの支援の授受と同居の関連要因 ②【親族外関係】世代間交流・支援の促進要因と効果	①JAHEAD解析と論文執筆 ②既存の都市部住民データ解析・公表 ②北区・川崎市多摩区住民調査★（社会貢献T共同）	②住民調査データの解析・公表	解析・公表	世代間支援に関するシンポジウムの実施	
単身者と社会的孤立に関する基礎的研究	①単身者の地域ネットワーク構築に関する課題 ②援助要請の促進・阻害要因 ③独居・孤立の健康・WBへの効果	①質的調査：Web調査★グループインタビュー★（単身・同居群） ③JAHEAD等既存データの分析	②質的調査：養護老人ホーム入所者/あんしん電話利用者インタビュー★ ①②質的調査の解析・公表 Web予備調査★解析・公表	②質的調査：生活困窮者自立支援相談員等インタビュー/自由記述型アンケート☆ ①②地域単身中高年者調査（郵送）★	解析・公表	単身中高年男性を対象とした孤立予防プログラムの提案

注）JAHEAD=全国高齢者パネル調査 ★調査の実施（新規データ収集） ☆調査の実施（新規データ収集：今年度計画に追加）

社会参加と社会貢献研究

構成メンバー

テーマリーダー：村山洋史

研究員：鈴木宏幸、野中久美子、桜井良太、高橋知也、小川将

非常勤研究員：飯塚あい、斎藤みほ、杉浦圭子、高瀬麻以、長大介、中本五鈴、服部真治、藤平杏子、松永博子、六藤陽子、村山幸子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

(A) プロダクティブエイジングの促進に資する開発研究

(a) 高齢者と社会にとって望ましい働き方の解明とその支援策の提示

「高齢者ならではの働き方の提示」では、前年度から取り組んでいる総死亡、認知機能低下/認知症発症、主観的健康感に加え、抑うつと社会的孤立・孤独感をアウトカムとした高齢期就労効果に関するシステマティックレビューを継続している。高齢期の就労は、種々の健康アウトカムの維持増進に有効である点を明らかにした（スライド2）。また、就労理由と社会的孤立の関係を東京都大田区のコホートデータから分析し、就労理由によって2.5年後の孤立のリスクが異なることを明らかにした（スライド2）。

「福祉就労への推奨策の検討」では、介護の周辺業務支援を一部担う高年齢介護助手の雇用効果を検討するために、2020年に実施した全国の約3,600の老人保健施設全数を対象にした郵送調査のデータ解析を行い、高年齢介護助手を雇用するメリットが明らかにした（スライド3）。社会実装化を見越し、有識者・事業者・行政関係者による研究会（通称：ESSENCE研究会）を継続し、福祉領域（特に介護分野）における高齢者就労の動向・あり方について、今年度は計5回議論した。

(b) 生涯学習型プログラムの開発と実装、活動の継続と波及効果に関する研究

これまでに開発した絵本の読み聞かせ方法の習得を題材として、生涯学習型プログラム（以下、絵本プログラム）を自治体受託事業として展開している。今年度はコロナ禍でも更に拡大した。生涯学習活動の継続・波及効果研究として、革新的自殺研究推進プログラムの委託を受け、府中市と協働して読み聞かせボランティアを活用した乳幼児親子向けの絵本読み聞かせプログラムの検証に着手した。また、認知機

能低下抑制介入研究として、AMED-JMINT研究（国立長寿・荒井班）の東京フィールドを担当し、100名規模、18か月の多因子介入を継続している。

研究成果としては、中年世代においても言語機能の介入効果を実証できた（スライド4）。多様なニーズに対応する生涯学習型プログラムの開発として、ものづくりによる介入プログラムの開発し、健常高齢者および軽度認知症者を対象に検証を行った（スライド4、5）。

（c）多世代交流と互助の仕組みづくりに関する研究

互助を促す場としてのサロンや通いの場（以下、サロン）、住民自主グループ活動の効果に着目している。今年度は、縦断データを用いてサロン活動休止・継続に影響する要因を明らかにした（スライド6）。また、コロナ禍に収集したデータを用い、コロナ禍での住民自主グループの活動再開に影響する要因を明らかにした（スライド6）。さらに、互助活動の慢性的な担い手不足の解消に向け、若中年層の地域活動参加を促す研究に取り組んだ。首都圏の若中年住民への調査データを解析し、生活支援提供活動への行動意図が高い層の特性を分析した（スライド7）。

これらの結果に基づき、（公財）さわやか福祉財団からの受託により、現役勤労者が職業上のスキルや専門性を活かして社会貢献を行う「プロボノ」活動に着目した社会実装研究を開始した（スライド7）。全国でプロボノを促進するNPO法人サービスグラントおよび八王子市と協働し、地域の活動団体と現役勤労者をマッチングするシステムの実装化に取り組んでいる。また、全国のプロボノワーカー約3,200名を対象としたインターネット調査を実施している。

（B）社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法に関する研究

①全国の15～79歳までを対象としてインターネット調査の結果から、新型コロナウイルス感染症流行前（コロナ前；2020年1月）と流行中（コロナ禍；2020年8月）における社会的孤立の状況を検証し、男性であるほど、高齢であるほどコロナ禍で社会的孤立が増加したことを明らかにした（スライド8）。②社会的要因の神経学的メカニズムを解明するため、社会的孤立と趣味活動の多様性を取り上げ、それらと脳MRIで測定した脳容量との関連を検証した。社会的孤立であるほど、総灰白質、前頭前野容量の小ささと関連すること、趣味活動が多様であるほど、総灰白質、海馬容量の小ささと関連することを明らかにした（スライド9）。③社会的フレイルの概念整理は、村山、藤原（ヘルシーエイジングと地域保健）が主導し、老年社会科学会誌上にてステートメントを発表し、2021年6月の日本老年学会（名古屋）にてシンポジウムを開催した（スライド9）。

【その根拠】

（A）（a）「高齢者ならではの働き方の提示」については、学会発表2件、シンポジウム1件、和文誌の採択が1件（日本公衆衛生雑誌）、審査中の英文論文が1件、投稿準備段階にあたる英語論文が3件である。「福祉就労への推奨策の検討」は、5件の学会発表、1件のシンポジウムを行った。現在解析を終え、投稿論文の準備をしている段階である。

（A）（b）コロナ禍においても絵本プログラムの委託事業は、9市区で継続し、1区（目黒区）で導入された。本プログラムにおける研究成果は第一回アジア健康長寿イノベーションアワードを受賞した。中年世代を対象とした言語機能への介入効果については英文誌に採択された。ものづくりによる介入プログラムは健常高齢者を対象としたRCTにおいて実行機能に介入効果がみられた（オールアバウト社共同研究、日本公衆衛生学会発表）。軽度認知症を対象とした介入研究では、パイロット研究ではあるものの、実行機能において介入効果がみられ、心理面においても一般セルフエフィカシー尺度における失敗不安因子において改善の効果がみられた（経産省補助事業、日本応用老年学会発表）。

（A）（c）板橋区社会福祉協議会に登録したサロン123ヶ所のデータを用いたサロン活動休止・継続に影響する要因に関する研究は日本公衆衛生雑誌に投稿中である。大田区におけるコロナ禍の住民自主グループの活動再開に関する研究は、日本公衆衛生学会誌に投稿間近である。同様に、生活支援提供活動への行動意図が高い若中年層の特性に関する研究も今年度内の投稿に向けて準備中である。プロボノ活動の社会実

装研究は、NPO法人サービスグラントおよび八王子市と協働して進めている。社会実装の内容は、今年度内に商業誌に活動報告として投稿を予定している。

(B) ①国際誌 (Int J Environ Res Public Health) に掲載された。また、この結果は各種メディアに広く取り上げられた (例: テレビ朝日報道ステーション、日本経済新聞、読売新聞)。②社会的孤立と脳容量の関連は、第10回日本認知症予防学会にて浦上賞を受賞し、現在論文執筆中である。趣味活動の多様性と脳容量の関連については、国際誌 (Front Aging Neurosci) に掲載された。③ステートメントは、日本老年社会科学に掲載されており、学会のホームページでも閲覧可能になっている。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜プロダクティブエイジングの促進＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム (ヘルシーエイジングと地域保健、大都市基盤)、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、神経画像研究チーム、HAIC、IRIDE、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、耳鼻咽喉科、内分泌内科、フレイル外来

【センター外】国立長寿医療研究センター、東京大学、桜美林大学、さわやか福祉財団、JSCP、ダイヤ財団、多数自治体

＜社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム (ヘルシーエイジングと地域保健、大都市基盤)

自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化脳神経科学研究チーム (記憶神経科学)、フレイル外来、もの忘れ外来、耳鼻咽喉科

【センター外】東京大学、新潟大学、東京医科歯科大学、東京医科大学、大阪国際がんセンター、国立長寿医療研究センター、ミシガン大学、フロリダ国際大学、多数自治体

ヘルシーエイジングと地域保健研究

構成メンバー

テーマリーダー: 藤原佳典

専門副部長: 青柳幸利

研究員: 清野諭、野藤悠、西真理子、横山友里、天野秀紀、山下真里、阿部巧、菅原康宏

非常勤研究員: 成田美紀、遠峰結衣、秦俊貴、森裕樹、相良友哉、藤田幸司、藤田かな、朴晟鎭、趙善英、児玉優紀

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

本研究は、大田区、養父市、気仙沼市におけるアクションリサーチにより、自治体特性に応じたフレイル予防モデル (大都市モデル、中山間モデル、被災地 (遠隔地) モデル) の構築を目標とし、各モデルの普及を通じて東京都におけるエイジング・イン・プレイス社会の推進に貢献する。

第三期中期計画の4年目にあたる今年度は、各フィールド研究の介護保険情報・死亡転出情報を収集し、フレイルの予防戦術を中心としたデータ解析・論文化を進めた (基礎的研究)。大田区・養父市での追跡調査は令和3度ではなく令和4年度に実施することとなったが、SPDCA (Survey・Plan・Do・Check・Action) サイクルによるフレイル予防の政策モデルを構築し、新たな研究フィールド (豊島区・八王子市) での実装を開始した (応用研究)。その他、長期化するCOVID-19による影響分析とその対策に関する研究や、フレイル高齢者の社会参加を継続支援するための研究にも着手し、学会発表、論文化に一定の成果を挙げた。

【その根拠】

基礎的研究として、大田区コホートのデータから簡便な質問によるフレイルの発症予測モデルを開発した。また、社会活動のタイプによって得られる健康効果が異なることや、身体活動・多様な食品摂取・社会交流を組み合わせ実践することが、介護予防効果を高めることを報告した。これらは、運動、栄養、社会交流の三要素の活動を複合的に実践することの有用性を示すものである。

これらの知見や養父市研究の成果と経験知を応用し、通いの場・自主グループの担い手を対象として、通いの場の活動に、フレイル予防の不足する活動要素 (筋力運動、多様な食品摂取、口腔ケア) を付加 (“ちょい足し”) するための教材・研修プログラムを開発した。本プログラムを東京都介護予防・フレイル

予防推進支援センターと共同で都内7自治体（渋谷区、練馬区、町田市、国分寺市、府中市、葛飾区、大田区）に展開した。今後、本プログラムの効果検証（クラスター比較試験）と拡大検証（普及と実装研究）を実施する予定である。

大田区でのフレイル予防の地域介入研究をSPDCAサイクルによるモデルとしてまとめ、これを通いの場の効果評価に応用した。具体的には、豊島区と八王子市を新たな研究フィールドとして、ベースライン調査（豊島区：65歳以上の15,000名、八王子市：75歳以上の51,176名を対象）を実施した。

気仙沼市では、通いの場の縮小・立ち上げ延期に対処するため、オンラインによる自治体職員や協議体へのサポート、フレイル予防人材養成講座を行った。

長期化するCOVID-19の影響とその対策を検討するため、COVID-19が新規要介護申請に及ぼす影響を大田区データを用いて検討した。また、ICT利用が苦手な高齢者でも実践可能な郵送型の健康支援プログラムを構築し、その効果検証をおこなった。

その他、令和2年度老人保健等健康増進事業で開発した「PDCAサイクルに沿った通いの場の取り組みを評価する枠組み」を自治体向けに公開し、通いの場の効果検証に活用可能なソフトウェアの開発にも着手した。

また、昨年度にチームのホームページ上に開設した「フレイル予防応援コンテンツ」には、今年度も計31団体（24自治体、7団体）から利用申請があり、多くの反響があった。

本テーマ研究に関連した外部研究費として、厚生労働科学研究（長寿科学政策研究・認知症政策研究）

「PDCAサイクルに沿った介護予防の取組推進のための通いの場等の効果検証と評価の枠組み構築に関する研究」（代表）、基盤B「大都市在住高齢者のフレイル予防のための地域介入研究：5年間の有効性評価」（代表）、基盤B「シルバー人材センター会員に着目した高年齢就業者の安全・健康管理に向けた要因の解明」（代表）、若手研究「シルバー人材センターを基軸としたフレイル予防の介護認定・給付費抑制効果と波及効果」（代表）、若手研究「フレイル高齢者の健康行動：環境要因の影響と予後への影響」（代表）等を獲得した。今年度の外部資金獲得額はテーマ全体で計79,645千円であった。また、本テーマ研究を中心に、令和3年1月以降（前年度末報告分）、学会発表119報（海外12、国内107）、原著論文52編（英文39編、IF計149.411）、著書等52編が公表または採択され、国内受賞は7件であった。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<ヘルシー・エイジングと地域保健>

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献）、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、IRIDE

【センター外】大田区、養父市、埼玉県シルバー人材センター、気仙沼市、豊島区、北区、板橋区、八王子市、府中市、国立長寿研、日本医科大学、女子栄養大学、東京農業大学、慶応大学、京都橘大学、医療経済研究機構、ダイヤ高齢社会研究財団、

大都市高齢者基盤

構成メンバー

テーマリーダー：小林江里香

研究員：村山陽、岡本翔平（日本学術振興会特別研究員）

非常勤研究員：山口淳、長谷部雅美

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

当テーマの3つの課題のうち、「単身者と社会的孤立に関する基礎的研究」に重点的に取り組み、この課題については新たな外部研究費も得て追加の調査も実施するなど、大きく進展した。残り2課題についても、予定していた調査の実施やデータ解析・論文化を実施できた。昨年度に比べて、学会発表数、論文数とも大幅に増加しており、研究成果の公表も順調に進んでいる。

【その根拠】

1) 高齢期のワーク・ライフ・バランス

全国高齢者調査（JAHEAD）を分析し、高齢になるほど退職後の地域活動（ボランティア、趣味・学習）

参加の増加確率が減少することを明らかにした(Kobayashi E et al., Research on Aging, 44(2), 2022)。また、都内3区市(墨田区、世田谷区、多摩市)に居住する中高年就労者(55～84歳)の分析により、仕事特性と地域活動参加との関係、地域活動と主観的well-being(WB)との関係を明らかにした(小林他, 老年社会科学, 43(1), 2021)。日本家計パネル調査の中高年者データに基づき、退職と健康・WBとの関係をアメリカ老年学会で報告した。

東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターの「通いの場」に関する評価・効果分析事業に社会参加チームの他テーマとともに参加する中で、当テーマでは通いの場の運営・支援を行う担い手に着目した研究を進めている。昨年度、町田市と渋谷区の55～84歳の住民を対象に実施した郵送調査に続き、今年度は国分寺市と墨田区において同様の調査を実施した。さらに、昨年度実施した自主グループ調査の分析に基づき、通いの場の類型別に見た参加者の多様性と住民の主体性についての論文を和文誌に投稿した。

2) 世代間支援の実態と解明

高齢者ボランティアとの交流を行う世代間交流プログラムへの参加が小学生の共感性や高校生の自己効力感に及ぼす効果に関する論文を公表した(村山陽他, 日本世代間交流学会誌, 11(1), 2021; Murayama Y et al., Journal of Intergenerational Relationships, online first, 2021)。また、日本世代間交流学会大会のシンポジウムや、日本世代会交流協会(NPO法人)が一般の方を対象に開催したセミナー(「地域共生社会の仕組みと仕掛け」)においてこれまでの研究成果を報告した。

JAHEADデータを用いて、子ども・孫への経済的・非経済的支援の提供が高齢者のWBとポジティブに関連する・しない場合について、支援量、互惠性、他の社会活動とのコンフリクトの観点から検討した結果をアメリカ老年学会のシンポジウムで報告した。

3) 単身者と社会的孤立に関する基礎的研究

養護老人ホームの男性入居者の半構造化面接についてTrajectory Equifinality Model (TEM)による質的分析を行い、生活困窮を経験した男性高齢者のライフコースのパターンを明らかにした(Murayama Y et al., Japanese Psychological Research, 63(3), 2021)。苦境に直面しても将来について考えていなかった点は生活困窮経験者に共通しており、この「将来展望を抑制する意識」を測定するための尺度を開発した(村山陽他, 老年社会科学, 43(1), 2021)。また、既存データ(和光市調査)の分析により、単身世帯の高齢者における親族・近隣等との互助関係と精神的健康との関係性が経済状態により異なることを明らかにした(Murayama Y et al., Geriatrics & Gerontology International, 21(7), 2021)。

練馬区の単身中高年者を対象に昨年度実施した郵送調査のデータ(50～70代の独居者約1500人)の分析を進め、援助要請を抑制する要因、単身者の類型や地域活動ニーズを中心に分析・報告した(日本心理学会、日本公衆衛生学会、日本社会関係学会)。また、公的支援を提供する側の課題や取り組みの現状を把握するため、昨年度は都内の生活困窮者自立支援制度の相談窓口(社会福祉協議会、NPO、役所等)の相談員へのヒアリングを実施したが、今年度は相談員への質問紙調査とインタビュー調査を行い、対象となる事業所も都内から周辺県(千葉、埼玉、神奈川)に拡大した(計202事業所)。

さらに、第80回日本公衆衛生学会総会において、「貧困や社会的孤立状態にある単身中高年男性への支援を考えるI」と題する自由集会を開催し(企画者:村山陽)、当テーマ研究員や福祉の現場で支援業務に携わる生活相談員、施設職員からの報告を元に議論を深めた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<高齢期のワーク・ライフ・バランス>

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム(社会参加と社会貢献、ヘルシーエイジングと地域保健)、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、HAIC研究ユニット

【センター外】ミシガン大学、西武文理大学、実践女子大学、国立長寿医療研究センター

<世代間支援の実態と効果>

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム(社会参加と社会貢献、ヘルシーエイジングと地域保健)、福祉と生活ケア研究チーム

【センター外】文京学院大学、聖学院大学、ミシガン大学、西武文理大学

<単身者と社会的孤立>

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム(社会参加と社会貢献、ヘルシーエイジングと地域保健)

【センター外】文京学院大学、聖学院大学

論文・学会発表

社会参加と社会貢献研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Montero-Odasso M, Pieruccini-Faria F, Haddad H, Sakurai R, All ONDRI investigators, Bartha R: Vascular Burden Impact Across Neurodegenerative Diseases. American Geriatrics Society 2021 Virtual Annual Scientific Meeting, 2021 (online). 5. 12-15, 2021
2. Amagasa S, Inoue S, Murayama H, Fujiwara T, Kikuchi H, Fukushima N, Machida M, Chastin S, Owen N, Shobugawa Y. Ophthalmic disease and older adults' sedentary and physically-active behaviors: Findings from the NEIGE study. World Congress of Epidemiology 2020, Melbourne, Australia, 2021. 9.13-16.
3. Sugiyama M, Murayama H, Inagaki H, Okamura T, Miyamae F, Eda Hiro A, Ura C, Awata S. Subjective cognitive decline was related to anxiety about becoming dementia in future: A cross-sectional study in Japan. Regional IPA/JPS Meeting, Kyoto, 2021.9.16-18.
4. Murayama H, Okubo R, Tabuchi T. Prevalence of social isolation before and during the COVID-19 pandemic: A nationwide web-based survey in Japan. The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Phoenix, AZ, USA, 2021.11.10-13.
5. Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chaves PM, Hashizume M, Obuchi S: Higher Serum BDNF Levels are Associated with Lower Risk of Cognitive Decline: A 2-year Follow Up Study in Community-Dwelling Older Adults, GSA 2021 Annual Scientific Meeting, Phoenix, USA, 2021.11.10-14.
6. Takase M, Takahashi K, Ogino R, Tanaka T, Goto J, Iijima K: Older adults with low friend network at baseline resulted in low level of functional capacity 2-years later. GSA 2021 Annual Scientific Meeting, Phoenix, USA, 2021.11.10-14 (Online).
7. Takase M, Ogino R, Nitani N, Goto J: Development of online child support activities by older adults: an action research during the COVID-19 pandemic. GSA 2021 Annual Scientific Meeting, Phoenix, USA, 2021.11.10-14 (Online).

(2) 国内

1. 村山洋史, 井上茂, 藤原武男, 菖蒲川由郷. 世間体意識は認知機能低下に関連するか?: NEIGE Study. 日本認知症ケア学会第22回大会. オンライン, 2021. 6. 5-9. 5.
2. 村山洋史, 菅原育子. 中高年者が持つSNS上でのつながりと社会的ネットワーク、社会的サポートとの関連. 日本老年社会科学第63回大会, オンライン. 2021. 6. 12-27.
3. 菅原育子, 村山洋史. 中高年者におけるSNSをととしたソーシャルサポートの受領期待とその関連要因. 日本老年社会科学第63回大会, オンライン. 2021. 6. 12-27.
4. 野中久美子, 村山洋史. 都市部の住民主体の生活支援活動の実態: 組織種別、活動範囲、支援内容による類型化. 日本老年社会科学第63回大会, オンライン. 2021. 6. 12-27.
5. 相良友哉, 高橋知也, 松永博子, 村山洋史, 藤原佳典. 都内NP0団体のスタッフにおける高齢者就労支援のモチベーション: SCATを用いた定性的検討. 日本老年社会科学第63回大会, オンライン. 2021. 6. 12-27.
6. 村山洋史, 飯塚あい, 町田征己, 天笠志保, 井上茂, 藤原武男, 菖蒲川由郷. 高齢期の社会的孤立と脳容積の関連: NEIGE Study. 第10回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2021. 6. 24-26.
7. 杉山美香, 稲垣宏樹, 村山洋史, 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 栗田主一. 認知症予防のための行動とその関連要因: 大規模調査から効果的な認知症予防事業を考える. 第10回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2021. 6. 24-26.
8. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 日本人高齢者における全身の骨格筋量、咬筋量、口腔機能、歯の状態の関連. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会, 広島, 2021. 8. 21-22.
9. 佐藤桃香, 田口敦子, 村山洋史. 地域在住高齢者の被援助志向性への関連要因の検討. 第24回日本地域看護学会学術集会, オンライン, 2021. 9. 11-12.
10. 阿部巧, 北村明彦, 清野諭, 野藤悠, 横山友里, 天野秀紀, 西真理子, 成田美紀, 村山洋史, 谷口優, 新開省二, 藤原佳典. サルコペニアの評価要素と認知症発症との関連性. 第76回日本体力医学会大会, オンライン, 2021. 9. 17-19.
11. 相良友哉, 高橋知也, 村山洋史, 鈴木宏幸, 藤原佳典. 高齢者ボランティアの次世代貢献意識と活動継続意向の関連: りぷりとコホートをを用いた横断研究. 日本世代間交流学会第12回全国大会, オンライン, 2021. 10. 2.
12. 相良友哉, 高橋知也, 村山洋史, 藤原佳典. 高齢者ボランティアにおける保育・介護分野の補助業務への従事意向に関する検討: REPRINTS研究より. 第16回日本応用老年学会大会, オンライン, 2021. 11. 6-7.
13. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 咬筋量は全身の骨格筋量および口腔機能と関連するか: 日本人地域在住高齢者を対象とした横断研究. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 大阪, 2021. 11. 6-7.
14. 美崎定也, 村山洋史, 稲垣宏樹, 杉山美香, 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 本川佳子, 栗田主一. 地域在住高齢者における身体・精神機能, 口腔機能および併存疾患と転倒経験の関連: クラスタ分析. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, オンライン, 2021. 11. 13.

15. 武田（山中）晶子，徳重あつ子，岩崎幸恵，杉浦圭子，山本久代，小柴隆史：高齢維持血液透析患者に関わる看護師の倫理的問題と対処の実態，第24回日本腎不全看護学術集会，福岡市（ハイブリット），2021.11.13.
16. 横島啓子，杉浦圭子，徳重あつ子，久山かおる，後藤雪絵，鷹嘴亜里，山下巖：介護付き有料老人ホーム入居中の認知症高齢者に対するコミュニケーションロボット活用の効果，第52回日本看護学会学術集会，オンライン，2021.11.26-12.26.
17. 飯塚あい，鈴木宏幸，小川将，長大介，高橋知也，小林桃子，山城大地，佐藤研一郎，李岩，金辺有里，藤原佳典：自治体事業として実施した絵本読み聞かせによる認知機能低下抑制プログラムの無作為化比較試験②-中高年者を対象とした解析-，第10回日本認知症予防学会学術集会，横浜，2021.6.24-26.
18. 佐藤研一郎，小川将，長大介，山城大地，高橋佳史，鈴木宏幸：高齢者のもの忘れ不安と精神的健康の関連，日本心理学会第86回大会，オンライン，2021.9.8-11.
19. 桜井良太，児玉謙太郎，小澤悠：高齢者は気づく事ができない軽微な環境変化に適応できるか？—障害物跨ぎ越しに着目した検討—，第76回日本体力医学会大会，オンライン，2021.9.17-19.
20. 鎌倉圭吾，桜井良太，根本裕太，柴田愛，藤原佳典：テレビ視聴時間と健康指標の関連は社会的孤立の有無によって異なる：若年、中年、高齢者を対象とした検討，第16回日本応用老年学会大会，オンライン，2021.11.6-7.
21. 伏見宗士，藤平杏子，高瀬秀人，宮下政司：日本人高齢者における身体活動・機能に関わる食品・栄養素の検討～都市部在住高齢者における横断研究～，第23回日本運動疫学学会学術総会大会，オンライン，2021.6.27.
22. 鈴木宏幸，飯塚あい，小川将，長大介，高橋知也，小林桃子，山城大地，佐藤研一郎，李岩，金辺有里，藤原佳典：自治体事業として実施した絵本読み聞かせによる認知機能低下抑制プログラムの無作為化比較試験—健常高齢者を対象とした解析—，第10回日本認知症予防学会学術集会，2021.6.24-26.
23. 鈴木宏幸，山城大地，小川将，長大介，佐藤研一郎，高橋佳史：COVID-19の流行に伴う非活動的生活はより高年齢の高齢者に認知機能低下をもたらす—約6ヶ月間の短期縦断追跡による検討—，日本心理学会 第85回大会 2021.9.1-8.
24. 鈴木宏幸，藤平杏子，三林ゆい，大辻みずき，佐藤研一郎，村山洋史，小川敬之，藤原佳典：認知機能低下者を対象としたものづくり講座開発の試み：心理・認知への介入効果，第16回日本応用老年学会大会，2021.11.6-7.
25. 鈴木宏幸：社会参加・社会貢献型健康増進プログラムの効果と意義，第26回静岡健康・長寿学術フォーラム学術セッションⅠ シニアの社会参加の意義と社会実装，2021.11.26-27.
26. 鈴木宏幸：読み聞かせで、シニアも子どもも、元気に優しく育っています。女子栄養大学重点課題シンポジウム「高齢者理解で深まる、社会の幸せ」，2021.11.15.
27. 阿部巧，北村明彦，山下真里，稲垣宏樹，大須賀洋祐，河合恒，鈴木宏幸，大淵修一，金憲経，平野浩彦，藤原佳典，栗田主一，鳥羽研二：認知機能低下者のスクリーニングモデルの開発：IRIDE Cohort Study，第10回日本認知症予防学会学術集会，2021.6.24-26.
28. 藤原佳典，鈴木宏幸，河合 恒，小川将，桜井良太，金 憲経，渡邊 裕，平野浩彦，井原一成，大淵修一：社会参加は認知機能のいかなるドメインの低下を抑制するか？：社会活動のタイプに着目した検討，第10回日本認知症予防学会学術集会，横浜，2021.6.24-26.
29. 佐久間尚子，鈴木宏幸，稲垣宏樹，小川将，枝広あや子，杉山美香，宮前史子，宇良千秋，岡村毅，栗田主一：大都市に暮らす高齢者の Trail Making Test の成績（その3）：TMT-B 完遂者のエラー1回は健常範囲か？，第36回日本老年精神医学会，2021.9.16-18.
30. 山城大地，鈴木宏幸，小川将，長大介，佐藤研一郎，高橋佳史：COVID-19の流行に伴う非活動的生活はより高年齢の高齢者に認知機能低下をもたらす—記憶課題の性質に着目した検討—，日本心理学会 第85回大会 2021.9.1-8.
31. 小川将，長大介，小林桃子，山城大地，李岩，古谷友希，佐藤研一郎，飯塚あい，藤平杏子，高橋佳史，記内杏奈，高橋知也，鈴木宏幸：高齢者の自己隠蔽傾向と反すう傾向の関連，日本心理学会 第85回大会 2021.9.1-8.
32. 長大介，小川将，小林桃子，飯塚あい，佐藤研一郎，山城大地，李岩，古谷友希，藤平杏子，記内杏奈，高橋知也，鈴木宏幸：高齢者を対象とした絵本読み聞かせ方法の習得による認知機能低下抑制プログラムの社会的認知における介入効果，日本心理学会 第85回大会 2021.9.1-8.
33. 蓼沼豊，鈴木宏幸，栢森藍佳，加藤美和子，古典奈保子，岩中伸幸，千代和弘，中村健太郎，藤原佳典，徳淵慎一郎，富田泰輔：運動プログラムの定期的実施による認知機能改善効果と睡眠パラメータに関する観察研究，第40回日本認知症学会学術集会，2021.11.26-28.
34. 古谷友希，田村 由馬，田宮 創，寺島 雅人，鶴見 知己，高橋 もも，中谷 祐己，北濱 眞司，元山 猛，安 隆則：2型糖尿病患者における動脈硬化と下肢周囲径との関連性，第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，オンライン，2021.6.19
35. 古谷友希，田村由馬，田宮創，寺島雅人，鶴見知己，高橋もも，小川将，中谷祐己，北濱眞司，元山猛，安隆則：2型糖尿病患者における動脈硬化の重症度別影響因子の検討，第6回日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部地方会，オンライン，2021.10.25
36. 高瀬麻以，ホネインカリム，阿部浩子，工藤正美，河原崎崇雄，小山内豪，上坂英二，石塚佳久，中村岳雪，丸山道生：BCAA配合飲料が運動機能リハビリテーションの效果に及ぼす影響の検討，第36回日本臨床栄養学会学術集会，オンライン 2021.7.21.
37. 松永博子，高橋知也，相良友哉，藤田幸司，藤原佳典 都内A施設における高齢者活用へのプロセスの解明—複線径路・等至性モデルを用いて—，第63回日本老年社会学会大会，オンライン，2021.6.12-13
38. 村山陽，山崎幸子，長谷部雅美，高橋知也，山口淳，小林江里香 単身中高年者の経済的困難な状況における援助要請を抑制する要因の検討—性差と主観的経済状態に着目して— 第63回日本老年社会学会大会，オンライン，2021.6.12-13

39. 山崎幸子、村山陽、長谷部雅美、高橋知也、山口淳、小林江里香 単身中高年者の孤立感に対する対処法の構成要素 ―自由記述による質的検討― 第 63 回日本老年社会学会大会、オンライン、2021. 6. 12-13
40. 長谷部雅美、村山陽、山崎幸子、高橋知也、小林江里香 単身中高年者における介護サービスの認知度 ―日常生活での困り事を相談する相手の有無とその関係による比較―、第 63 回日本老年社会学会大会、オンライン、2021. 6. 12-13
41. 村山陽、長谷部雅美、高橋知也、小林江里香 中高年層ユーザーにおける電子メールや SNS を介した友人関係ネットワークに関する研究 ―性別と年代別の検討―、第 63 回日本老年社会学会大会、オンライン、2021. 6. 12-13
42. 高橋知也、野中久美子、倉岡正高、村山幸子、根本裕太、松永博子、村山陽、小林江里香、藤原佳典 地域在住の若・中年および高齢者の持つ被援助志向性の様態と関連要因 第 63 回日本老年社会学会大会、オンライン、2021. 6. 12-13
43. 野中久美子、村山洋史、都市部の住民主体の生活支援活動の実態：組織種別、活動範囲、支援内容による類型化 日本老年社会科学第 63 回大会、オンライン、2021 6. 12-27
44. 高橋知也、村山陽、山崎幸子、長谷部雅美、山口淳、小林江里香 周囲からの孤立を感じやすい中高齢者の特徴 第 85 回日本心理学会大会、オンライン、2021. 9. 1-8
45. 村山陽、山崎幸子、長谷部雅美、高橋知也、山口淳、小林江里香 経済的困難を抱える単身中高年男性の援助要請はどのように抑制されるのか ―将来展望意識に着目して―第 85 回日本心理学会大会、オンライン、2021. 9. 1-8
46. 山田由理子、藤原佳典、高橋知也、渡邊晴子、田島信元 新型コロナウイルス感染症の流行が高齢者の世代間交流型ボランティア活動に及ぼす影響 ―高齢者による絵本読み聞かせボランティア“REPRINTS”の調査・実践から― 第 13 回日本子育て学会大会、オンライン（シンポジウム）、2020. 11. 21
47. 松永博子、藤田幸司、佐々木久長、本橋豊 地域高齢者の被援助志向性と心のストレス、自己効力感との関連 第 16 回日本応用老年学会大会、オンライン、2020. 11. 6-7
48. 村山幸子 高齢期における「孫育て」経験の意味づけ 世代性の物語的側面に着目して、日本老年社会学会第 63 回大会、オンライン、2021. 6. 12-27
49. 山口淳、村山陽、長谷部雅美、高橋知也、小林江里香：中高年層ユーザーが電子メールや SNS を介した友人関係に期待することと性別・年代別・世帯類型別の検討。日本老年社会学会第 63 回大会、オンライン、2021. 6. 12-13. (Web 配信 6. 12-7. 31)
50. 藤原佳典、長谷部雅美、根本裕太、村山陽、西真理子、成田美紀、箕浦明、松永博子、深谷太郎、小林江里香：首都圏郊外における近所の子どものとの交流の状況と関連要因―世代別にみた検討。日本老年社会学会第 63 回大会、オンライン、2021. 6. 12-13. (Web 配信 6. 12-7. 31)
51. 岩崎正則、平野浩彦、本川佳子、白部麻樹、枝広あや子、小原由紀、河合恒、小島基永、大淵修一、村山洋史、藤原佳典、井原一成、新開省二、北村明彦。日本人高齢者における全身の骨格筋量、咬筋量、口腔機能、歯の状態の関連。第 14 回日本口腔検査学会総会・学術大会（Web 開催）。2021. 8. 21-22.
52. 山下真里、北村明彦、阿部巧、稲垣宏樹、河合恒、鈴木宏幸、増井幸恵、金憲経、石崎達郎、大淵修一、栗田主一、鳥羽研二。認知症リスクチャート開発のためのコホートデータ統合研究：IRIDE Cohort Study。第 10 回日本認知症予防学会学術集会（パシフィコ横浜、ハイブリッド開催：神奈川）。口演。2021. 6. 24-26.
53. 松永博子、高橋知也、相良友哉、藤田幸司、藤原佳典。高齢労働者採用及び離職へのプロセス―都内介護施設におけるケーススタディー。日本老年社会学会第 63 回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）。口演。2021. 6. 11-7. 4.
54. 藤田幸司、松永博子、佐々木久長。地域高齢者の生活満足感と希死念慮との関連。第 16 回日本応用老年学会大会（Web 開催）。口演。2021. 11. 6-7.
55. 松永博子、藤田幸司、藤原佳典。大都市において路上生活を続ける高齢者への新たな取組について。第 16 回日本応用老年学会大会（Web 開催）。示説。2021. 11. 6-7.
56. 村山洋史、佐々木周作、高橋勇太、高瀬麻以、田口敦子。ナッジ・メッセージは高齢期の社会参加活動を促進するか？第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
57. 六藤陽子、村山洋史、相良友哉、杉浦圭子、高瀬麻以、中本五鈴、東憲太郎、藤原佳典。高年齢介護助手の全国での導入実態：介護老人保健施設の全国調査（第 1 報）。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
58. 相良友哉、村山洋史、杉浦圭子、高瀬麻以、中本五鈴、六藤陽子、東憲太郎、藤原佳典。高年齢介護助手導入への施設の態度や考え方：介護老人保健施設の全国調査（第 2 報）。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
59. 高瀬麻以、村山洋史、相良友哉、杉浦圭子、中本五鈴、六藤陽子、東憲太郎、藤原佳典。高年齢介護助手の雇用と介護職員の情緒的消耗：介護老人保健施設の全国調査（第 3 報）。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
60. 杉浦圭子、村山洋史、相良友哉、六藤陽子、高瀬麻以、中本五鈴、東憲太郎、藤原佳典。高年齢介護助手の業務内容とメリットとの関連：介護老人保健施設の全国調査（第 4 報）。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
61. 中本五鈴、村山洋史、相良友哉、杉浦圭子、六藤陽子、高瀬麻以、東憲太郎、藤原佳典。高年齢介護助手の情緒的消耗感の関連要因：介護老人保健施設の全国調査（第 5 報）。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
62. 横山友里、野藤悠、清野諭、村山洋史、阿部巧、成田美紀、吉田由佳、新開省二、北村明彦、藤原佳典。地域高齢者における食品摂取の多様性と要介護認知症発症との関連：養父コホート研究。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
63. 高橋知也、相良友哉、小川将、飯塚あい、鈴木宏幸、村山洋史、藤原佳典。新型コロナウイルスへの恐怖心が高齢者ボランティアの活動継続意志にもたらす影響。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
64. 野中久美子、村山洋史、村山幸子、杉浦圭子、高瀬麻以、渡邊彩、斎藤みほ。「プロボノ」を入りに若中年世代を地域活動へ誘導する可能性の検討。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.
65. 嶋田誠太郎、高橋勇太、村山洋史。特定健診受診率は勧奨方法の違いに影響されるのか？横浜市国民健康保険での検証。第 80 回日本公衆衛生学会大会、東京、2021. 12. 21-23.

66. 桑原恵介, 黒田藍, 村山洋史, 福田吉治. 東京郊外の大規模住宅団地住民における居住形態と孤食との断面的関連: 2021 年 3 月調査結果. 第 80 回日本公衆衛生学会大会, 東京, 2021. 12. 21-23.
67. 飯塚あい, 鈴木宏幸, 小川将, 高橋知也. ものづくりを題材とした健康増進プログラムの無作為化比較試験: 精神面への介入効果. 第 80 回日本公衆衛生学会大会, 東京, 2021. 12. 21-23.
68. 鈴木宏幸, 飯塚あい, 小川将, 高橋知也. ものづくりを題材とした健康増進プログラムの無作為化比較試験: 認知機能への介入効果. 第 80 回日本公衆衛生学会大会, 東京, 2021. 12. 21-23.
69. 桜井良太, 桜井政成, 根本裕太, 松永博子, 高橋知也, 藤原佳典: 社会経済的要因と被援助志向性の関連における社会的孤立の媒介. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
70. 西中川まき, 桜井良太, 根本裕太, 松永博子, 藤原佳典: 朝食摂取状況別にみた野菜摂取量 350g/日以上との関連要因 ―世代別の検討―. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
71. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 稲垣宏樹, 小川将, 枝広あや子, 杉山美香, 宮前史子, 宇良千秋, 渡邊裕, 新開省二, 岡村毅, 栗田主一: 大都市在住高齢者の Trail Making Test の成績: TMT-B 完遂者と未完遂者の比較. 第 77 回公衆衛生学会総会, 2021. 12. 21-23.
72. 渡邊彩, 村山洋史, 高瀬麻以, 杉浦圭子, 藤原佳典: 高齢期における就労と主観的健康感の縦断的関連: システマティックレビュー. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
73. 山崎幸子, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における馴染みの場の分類と関連要因 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
74. 長谷部雅美, 村山陽, 山崎幸子, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における生活支援サービス利用への抵抗感に関する検討 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
75. 小川将, 鈴木宏幸, 飯塚あい, 高橋知也, 藤原佳典: 自治体共催の社会参加事業を通じた絵本読み聞かせ講座の認知機能への介入効果 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
76. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身男性中高年者における経済的状況と思考抑制傾向が精神的健康に及ぼす影響 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
77. 松永博子, 藤田幸司, 佐々木久長, 金子善博, 本橋豊: 地域住民における相談窓口等の認知状況と心理的苦痛との関連 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
78. 村山幸子, 野中久美子, 杉浦圭子, 村山洋史: 新型コロナウイルス感染拡大下における住民主体のグループ活動の実態とその関連要因 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23
79. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身男性中高年者における経済状況と思考抑制傾向が精神的健康に及ぼす影響. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
80. 藤田幸司, 松永博子, 桜井良太, 根本裕太, 藤原佳典. 大都市高齢者の居場所と外出頻度との関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
81. 村山洋史. 高齢期の福祉就労がもたらす効果: 介護老人保健施設全国調査の結果から. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
82. 村山洋史. フレイル予防における社会参加の重要性. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
83. 村山洋史, 中本五鈴, 田淵貴大. ソーシャルキャピタルと新型コロナウイルス感染症による死亡の関連: 都道府県レベルの地域相関研究. 第 32 回日本疫学会学術総会, 千葉, 2022. 1. 26-28.
84. 中本五鈴, 村山洋史, 六藤陽子, 田淵貴大. 新型コロナウイルス感染症流行下における家族介護者の介護負担増加と精神的健康との関連: JACSIS 2020 study. 第 32 回日本疫学会学術総会, 千葉, 2022. 1. 26-28.
85. 六藤陽子, 村山洋史, 高瀬麻以, 中本五鈴, 野中久美子, 桜井良太, 藤原佳典. 高齢期の就労およびその理由と社会的孤立の関連. 第 32 回日本疫学会学術総会, 千葉, 2022. 1. 26-28.
86. 藤原佳典, 藤田幸司, 松永博子, 根本裕太, 桜井良太. 首都圏住宅地における地域住民の「居場所」と心身の健康との関連. 第 32 回日本疫学会学術総会 (東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催: 千葉). 示説. R4. 1. 26-28.
87. 藤田幸司, 藤原佳典, 松永博子, 根本裕太, 桜井良太. 都市居住者の世代別にみた居場所の状況と居場所のない人の社会的特徴. 第 32 回日本疫学会学術総会 (東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催: 千葉). 示説. R4. 1. 26-28.
88. 相良友哉, 村山洋史, 藤原佳典. 高齢者が社会参加する方法としての「就労的活動」に関する事例検討: ESSENCE プロジェクトより. 日本社会関係学会第 2 回研究大会, オンライン, 2022. 3. 19-20.
89. 小林江里香, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 山崎幸子: 単身中高年者における心身の健康・社会関係・経済状態による類型化と類型別特徴. 日本社会関係学会第 2 回研究大会, オンライン, 2022. 3. 19-3. 20.
90. 中本五鈴, 吉野喬之, 根来宏光, 初治沙矢香, 松山洗斗, 大澤まどか, 笹井佐和子, 堀田佐知子, 瀬藤和也, 田原康玄, 陳和夫, 若村智子: 高齢者における朝の光曝露量と初回睡眠継続時間との関連: ながはまコホート. 第 82 回日本生理人類学会大会, オンライン, 2021. 10. 30-31.
91. 桜井良太, 西中川まき, 鎌倉圭吾, 鈴木幸宏, 高橋正時: 補聴器装着が高齢者に及ぼす影響: 歩行に着目した検討. 第 18 回姿勢と歩行研究会, 東京, 2022. 3. 12.
92. 古谷友希, 田村由馬, 田宮創, 鶴見知己, 高橋もも, 小川将, 中谷祐己, 元山猛, 北濱真司, 安隆則: 2 型糖尿病患者における下肢周囲径値と重症動脈硬化との関係. 第 30 回埼玉県理学療法学会, 埼玉, 2022, 01, 23
93. 松永博子, 藤田幸司, 佐々木久長, 金子善博, 本橋豊. 地域住民における相談窓口等の認知状況と心理的苦痛の高い傾向との関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Murayama H, Liang J, Shaw BA, Botosaneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Short-, medium-, and long-term weight changes and all-cause mortality in old age: Findings from the National Survey of the Japanese Elderly. *Journal of Gerontology: Biological Sciences & Medical Sciences* 2021; 76(11): 2039-2046. (IF:6.053), (査読あり)
2. ★◎Murayama H, Okubo R, Tabuchi T. Increase in social isolation during the COVID-19 pandemic and its association with mental health: Findings from the JACSIS 2020 study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021; 18(16): 8238. (IF:3.390), (査読あり)
3. ★◎Murayama H, Nakamoto I, Tabuchi T. Social capital and COVID-19 deaths: An ecological analysis in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021; 18(20): 10982. (IF:3.390), (査読あり)
4. Kikuchi H, Inoue S, Amagasa S, Fukushima N, Machida M, Murayama H, Fujiwara T, Chastin S, Owen N, Shobugawa Y. Associations of older adults' physical activity and bout-specific sedentary time with frailty status: compositional analyses from the NEIGE study. *Experimental Gerontology* 2021; 143: 111149. (IF:4.032), (査読あり)
5. Okamoto S, Kobayashi E, Murayama H, Liang J, Fukaya T, Shinkai S. Decomposition of gender differences in cognitive functioning: National Survey of the Japanese Elderly. *BMC Geriatrics* 2021; 21(1): 38. (IF:3.921), (査読あり)
6. Chiu CJ, Chen YA, Kobayashi E, Murayama H, Okamoto S, Liang J, Jou YH, Chang CM. Age trajectories of disability development after 65: A comparison between Japan and Taiwan. *Archives of Gerontology & Geriatrics* 2021; 96: 104449. (IF:3.250), (査読あり)
7. Komazawa Y, ★Murayama H, Harata N, Takami K, Parady GT. Role of social support in the relationship between financial strain and frequency of exercise among older Japanese: A 19-year longitudinal study. *Journal of Epidemiology* 2021; 31(4): 265-271. (IF:3.211), (査読あり)
8. Okubo R, Yoshioka T, Nakaya T, Hanibuchi T, Okano H, Ikezawa S, Tsuno K, Murayama H, Tabuchi T. Urbanization level and neighborhood deprivation, not COVID-19 case numbers by residence area, are associated with severe psychological distress and new-onset suicidal ideation during the COVID-19 pandemic. *Journal of Affective Disorders* 2021; 15(287): 89-95. (IF:4.839), (査読あり)
9. Yamada K, Wakaizumi K, Kubota Y, Murayama H, Tabuchi T. Loneliness, social isolation, and pain following the COVID-19 outbreak: Data from a nationwide internet survey in Japan. *Scientific Reports* 2021; 11(1): 18643. (IF:4.379), (査読あり)
10. Kuwahara K, Kuroda A, Murayama H, Fukuda Y. High prevalence of eating alone among community-dwelling adults living alone: A cross-sectional study in Japan. *Geriatrics & Gerontology International* 2021; 21(11): 1060-1062. (IF:2.730), (査読あり)
11. Taguchi A, Murayama H, Ono K. Association between Japanese community health workers' willingness to continue service and two categories of motives: altruistic and self-oriented. *PLoS ONE* 2021; 16(10): e0220277. (IF:3.240), (査読あり)
12. Iwasaki M, Hirano H, Motokawa K, Shirobe M, Eda Hiro A, Ohara Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Murayama H, Fujiwara Y, Ihara K, Shinkai S, Kitamura A. Interrelationships among whole-body skeletal muscle mass, masseter muscle mass, oral function, and dentition status in older Japanese adults. *BMC Geriatrics* 2021; 21(1): 582. (IF:3.921), (査読あり)
13. Doi S, Koyama Y, Tani Y, Murayama H, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Do social ties moderate the association between childhood maltreatment and gratitude in older adults? Results from the NEIGE study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021; 18(21): 11082. (IF:3.390), (査読あり)
14. 天笠志保, 井上茂, 村山洋史, 藤原武男, 菊池幸幸, 福島教照, 町田征己, 菖蒲川由郷. 加速度計で調査した農村部在住高齢者の身体活動: NEIGE study. *運動疫学研究*, 2021; 23(2): 200-201. (査読あり)
15. ★◎Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y: Gait and age-related hearing loss interactions on global cognition and falls. *Laryngoscope*. (in press) (IF:3.325), (査読あり)
16. ★◎Sakurai R, Kodama K, Ozawa Y, Pieruccini-Faria F, Kobayashi-Cuya KE, Ogawa S: Association of age-related cognitive and obstacle avoidance performances. *Scientific Reports*. 2021.11(1):12552. (IF:4.379), (査読あり)
17. Nemoto Y, Sakurai R, Ogawa S, Maruo K, Fujiwara Y: Effects of an unsupervised Nordic walking intervention on cognitive and physical function among older women engaging in volunteer activity. *Journal of Exercise Science & Fitness*. 2021. 19(4), 209-215. (IF:3.103), (査読あり)
18. ★◎Sakurai R, Montero-Odasso M, Suzuki H, Ogawa S, Fujiwara Y: Motor Imagery Deficits in High-Functioning Older Adults and its Impact on Fear of Falling and Falls. *Journal of Gerontology. Series A: Biological Sciences and Medical Sciences*. 2021. 76(9), e228-e234. (IF:6.053), (査読あり)
19. ★◎Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Takahashi M, Fujiwara Y: Hearing loss and increased gait variability among older adults. *Gait & Posture*. 2021. 87:54-58. (IF:2.840), (査読あり)
20. Nemoto Y, Sakurai R, Matsunaga H, Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Narita M, Fujiwara Y: Social Contact with Family and Non-Family Members Differentially Affects Physical Activity: A Parallel Latent Growth Curve Modeling Approach. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2021. 18(5):2313. (IF:3.390), (査読あり)

21. Iwasaki M, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Mikami Y, Taniguchi Y, Osuka Y, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S: Oral frailty and gait performance in community-dwelling older adults: findings from the Takashimadaira study. *Journal of Prosthodontic Research*. 2021, 65(4): 467-473. (IF=4.642), (査読あり)
22. ★◎Sakurai R, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kobayashi-Cuya KE, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, Shuichi A: Differences in the association between white matter hyperintensities and gait performance among older adults with and without cognitive impairment. *Geriatrics & Gerontology International*. 2021, 21(3):313-320. (IF:2.730), (査読あり)
23. Sugimoto T, Sakurai T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsuo K, Michikawa M, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Umegaki H, Wakayama S, Arai H. The Japan-Multimodal Intervention Trial for Prevention of Dementia (J-MINT): The Study Protocol for an 18-Month, Multicenter, Randomized, Controlled Trial. *The Journal of Prevention of Alzheimer's Disease*. 8:465-476, 2021. (IF=4.671), (査読あり).
24. ★◎Iizuka A, Suzuki H, Ogawa S, Takahashi T, Cho D, Yamashiro D, Sato K, Li Y, Kanabe Y, Kobayashi M, Fujiwara Y. Randomized Controlled Trial of the Picture Book Reading Program on Cognitive Function in Middle-Aged People. *Front Psychiatry*. 2021; 19:12:624487. (IF=4.157), (査読あり)
25. ◎Fujiwara K, Hamada Y, Haramura M, Suzuki K, Miyashita M. The effects of different temperatures of post-exercise protein-containing drink on gastric motility and energy intake in healthy young men. *British Journal of Nutrition*. 2021; 1-9. (IF=3.718), (査読あり)
26. ◎Iizuka A, ★Murayama H, Machida M, Amagasa S, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Leisure activity variety and brain volume among community-dwelling older adults: Analysis of the Neuron to Environmental Impact across Generations Study Data. *Front. Aging Neurosci*. 2021; 13: 758562. (IF=5.75) (査読あり)
27. Hamada Y, Nagayama C, Fujiwara K, Tataka Y, Hiratsu A, Kamemoto K, Shimo K, Kanno S, Osawa K, Miyashita M. Gum chewing while walking increases walking distance and energy expenditure: A randomized, single-blind, controlled, cross-over study. *Journal of Exercise Science & Fitness*. 2021; 19: 189-194. (IF:3.103), (査読あり)
28. Tamura M, Hattori S, Tsuji T, Kondo K, Hanazato M, Tsuno K, Sakamaki H. Community-Level Participation in Volunteer Groups and Individual Depressive Symptoms in Japanese Older People: A Three-Year Longitudinal Multilevel Analysis Using JAGES Data, Int. J. Environ. Res. Public Health. 18(14), 7502, 2021. (IF=3.390) , (査読あり).
29. ★◎高瀬麻以、ホネインカリム、阿部浩子、工藤正美、小山内豪、石塚佳久、丸山道生: 分岐鎖アミノ酸 (branched chain amino acid: BCAA) 配合飲料を飲用した回復期リハビリテーション病棟入院患者の身体項目の変化. *JSPEN*. 3(5), 297-301, 2021. (査読あり).
30. 藤田幸司, 松永博子. 性的マイノリティ高齢者の課題と自殺対策. 老年精神医学雑誌 32:530-537, 2021. (査読なし)
31. 藤田幸司, 松永博子, Yong Roseline, 佐々木久長. 多世代参加コミュニティ・エンパワメントの実践とその効果の検証一地域づくり型自殺予防対策への取り組みー. 日本世代間交流学会誌 11-1:23-30, 2021(査読あり)
32. 田村元樹, 服部真治, 辻大士, 近藤克則, 花里真道, 坂巻弘之. 高齢者のボランティアグループ参加と個人のうつ傾向との関連: 傾向スコアマッチング法を用いた3年間のJAGES縦断研究. 日本公衆衛生雑誌. 1-15, 2021. (査読あり).
33. Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chavesf P.H.M, Hashizume M, Obuchi S. Higher serum BDNF levels are associated with lower risk of cognitive decline: A 2-year follow up study in community-dwelling older adults. *Front Behav Neurosci*, 2021;15:641608. (IF: 3.558) (査読あり)
34. ★◎Sakurai R, Watanabe S, Mori H, Sagara T, Murayama H, Watanabe S, Higashi K, Fujiwara Y. Older assistant workers in intermediate care facilities and their influence on the physical and mental burden of elderly care staff. *BMC Health Service Research*, 2021; 21(1): 1285. (IF=2.655) , (査読あり)
35. ★◎Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y: Gait and age-related hearing loss interactions on global cognition and falls. *Laryngoscope*. 2022 Apr;132(4):857-863. (IF:3.325), (査読あり)
36. Taniguchi Y, Miyawaki A, Tsugawa Y, Murayama H, Tamiya N, Tabuchi T. Family Caregiving and Changes in Mental Health Status in Japan During the COVID-19 Pandemic. *Archives of Gerontology & Geriatrics*, 2022; 98: 104531. (IF:3.250), (査読あり)
37. Tani Y, Koyama Y, Doi S, Sugihara G, Machida M, Amagasa S, Murayama H, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Association between gratitude, the brain and cognitive function in older adults: results from the NEIGE study. *Archives of Gerontology & Geriatrics* 2022; 100: 104645. (IF:3.250), (査読あり)
38. Sakuma N, Inagaki H, Ogawa M, Eda Hiro A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Suzuki H, Watanabe Y, Shinkai S, Okamura T, Awata S. Cognitive function, daily function and physical and mental health in older adults: A comparison of venue and home-visit community surveys in Metropolitan Tokyo. *Archives of Gerontology & Geriatrics*. (in press) (IF:3.250), (査読あり)
39. Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Murayama Y, Murayama S, Nemoto Y, Tanaka M, Matsunaga H, Fujita K, Murayama H, Kobayashi E. Influence of “face-to-face contact” and “non-face-to-face contact” on the subsequent decline in self-rated health and mental health status of young, middle-aged, and older Japanese adults: A two-year prospective study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022; 19(4): 2218. (IF:3.390), (査読あり)

り)

40. ◎渡邊彩, ★村山洋史, 高瀬麻以, 杉浦圭子, 藤原佳典. 高齢期における就労と主観的健康感の縦断的関連: システマティックレビュー. 日本公衆衛生雑誌, 2022; 69(3): 215-224. (査読あり)
41. ◎杉浦圭子, ★村山洋史, 野中久美子, 長谷部雅美, 藤原佳典. 地域在住高齢者の最長職と現在の就労状況と就労理由の関連に関する研究. 日本公衆衛生雑誌, 2022; 69(1): 37-47. (査読あり)
42. 野藤悠, 阿部巧, 清野諭, 横山友里, 天野秀紀, 村山洋史, 吉田由佳, 新開省二, 藤原佳典, 北村明彦. 高齢者の機能的健康度の評価に基づく要介護発生リスク予測モデルおよびリスクチャート(試作版)の開発. 日本公衆衛生雑誌, 2022; 69(1): 26-36. (査読あり)
43. ★◎村山幸子, 小林江里香, 倉岡正高, 野中久美子, 安永正史, 田中元基, 根本裕太, 松永博子, 村山陽, 村山洋史, 藤原佳典. 改訂版世代継承性尺度(JGS-R)の作成と信頼性・妥当性の検討. パーソナリティ研究, 2022; 30(3): 151-160. (査読あり)
44. 森裕樹, 野中久美子, 村山幸子, 倉岡正高, 安永正史, 村山洋史, 藤原佳典. 学校と地域の連携によるあいさつ運動の取組効果と展望. 日本世代間交流学会誌, 2022; 11(2): 3-10.
45. 山本直美, 登喜和江, 杉浦圭子, 日坂ゆかり, 山居輝美, 岩佐美香. 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師実践活動評価尺度(Certified Nurse in Stroke rehabilitation nursing assessment scale: CN-SNAS)の開発—信頼性・妥当性の検証—. 佛教大学保健医療技術学部論文集, 2022; 16: 3-14. (査読あり)
46. 登喜和江, 山本直美, 岩佐美香, 山居輝美, 日坂ゆかり, 杉浦圭子, 山添幸. 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の研修受講におけるキャリア形成の様相. 千里金蘭大学紀要, 2022; 18: 35-44. (査読あり)
47. 古谷友希, 田由馬, 田宮創, 小川将, 北濱真司, 元山猛, 中谷祐己, 安隆則. 2型糖尿病患者における脈波伝播速度に影響する因子の検討. 日本糖尿病理学療法学雑誌, 2022; 1: 89-102. (査読あり)

(2) 総説

1. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. なぜ、今ナッジなのか? 保健師ジャーナル, 2021; 77(1): 60-65.
2. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 人の意思決定の癖(バイアス): 前編. 保健師ジャーナル, 2021; 77(2): 146-151.
3. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 人の意思決定の癖(バイアス): 後編. 保健師ジャーナル, 2021; 77(3): 232-237.
4. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. ナッジの実践の枠組み、EAST. 保健師ジャーナル, 2021; 77(4): 318-323.
5. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 「Easy(簡単に)」活用のためのポイント. 保健師ジャーナル, 2021; 77(5): 426-431.
6. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 「Attractive(印象的に)」活用のためのポイント. 保健師ジャーナル, 2021; 77(6): 516-521.
7. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 「Social(社会的に)」活用のためのポイント. 保健師ジャーナル, 2021; 77(7): 598-603.
8. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 「Timely(タイムリーに)」活用のためのポイント. 保健師ジャーナル, 2021; 77(8): 682-688.
9. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. ナッジを実際に使ってみる. 保健師ジャーナル, 2021; 77(9): 760-766.
10. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. ナッジの効果検証. 保健師ジャーナル, 2021; 77(10): 836-842.
11. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹. 限界を知った上でナッジを使う. 保健師ジャーナル, 2021; 77(11): 912-917.
12. 高橋勇太, 村山洋史, 竹林正樹, 赤塚永貴. 保健活動におけるナッジの未来. 保健師ジャーナル, 2021; 77(12): 1012-1018.
13. 村山洋史. ナッジを活用した生涯を通じた健康づくり体制確立の可能性. 公衆衛生, 2021; 85(12): 808-813.
14. 飯塚あい, 鈴木宏幸, 藤原佳典. 囲碁による認知機能の低下抑制. 老年科, 2022, 5(1): 59-65.

3 著書等

1. 鈴木宏幸. 軽度認知障害(MCI)について知ろう!. あいらいふ別冊退院ハンドブック, 2021: 10:4-9
2. 村山洋史. 整理した問題点を基に地域資源を「棚卸し」する: 地域のソーシャル・キャピタルの把握(pp. 122-128). 保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門: 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法(藤原佳典, 監修. 倉岡正高, 石川貴美子, 編). 京都, ミネルヴァ書房, 2021.
3. 村山幸子. 収集した情報を統合し問題点を整理する: 地域アセスメント(pp. 92-106). 保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門: 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法(藤原佳典, 監修. 倉岡正高, 石川貴美子, 編). 京都, ミネルヴァ書房, 2021.
4. 服部真治. 介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業の創設とねらい, 令和2年度自治体と民間企業の協働による都市部における地域づくりの展開に向けた調査研究報告書, 国際長寿センター. 15-27, 2021.
5. 服部真治. 地域で取り組む 高齢者のフレイル予防: 監修. 辻哲夫, 飯島勝矢, 服部真治(監修), 中央法規出版, 2021.
6. 野中久美子. 第4章4説 地域の様々な施設等と協働する(pp. 174-182). 保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門: 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法(藤原佳典, 監修. 倉岡正高, 石川貴美子, 編). 京都, ミネルヴァ書房, 2021.
7. 野中久美子. 第7章 事業・活動を維持し停滞を克服する(pp. 221-235). 保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門: 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法(藤原佳典, 監修. 倉岡正高, 石川貴美子, 編). 京都, ミネルヴァ書房, 2021.
8. 鈴木宏幸. 人と社会とつながりを持つことの重要性. ようこそ, 2021; 4: 10

9. 鈴木宏幸：学習・記憶の心理学『子どもを支援する教育の心理学』山崎浩一，村上香奈（編），ミネルヴァ書房，2021.6
10. 鈴木宏幸：知能の心理学『子どもを支援する教育の心理学』山崎浩一，村上香奈（編），ミネルヴァ書房，2021.6
11. 村山洋史．予防の概念と健康に影響する社会的要因（第4章，pp. 67-95）．公衆衛生看護学概論（村嶋幸代，岸恵美子，編）．東京，メヂカルフレンド社，2022.
12. 村山洋史．ナッジ（第2章，pp. 72-76）．公衆衛生看護支援技術（岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代，編）．東京，メヂカルフレンド社，2022.
13. 疫学／保健統計（尾島俊之，村山洋史，編）．東京，メヂカルフレンド社，2022.
14. 村山洋史．事業の評価（第12章，pp. 149-167）．疫学／保健統計（尾島俊之，村山洋史，編）．東京，メヂカルフレンド社，2022.
15. 村山洋史．人とのつながりと健康について考えてみよう（保健編第1章特設，pp. 18-19）．新高等保健体育．東京，大修館書店，2022.
16. 村山洋史．加齢と健康（保健編第3章6節，pp. 94-95）．新高等保健体育．東京，大修館書店，2022.
17. 村山洋史．高齢社会に対応した取り組み（保健編第3章7節，pp. 96-97）．新高等保健体育．東京，大修館書店，2022.
18. 村山洋史．人とのつながりと健康について考えてみよう（保健編第1章特設，pp. 44-50）．新高等保健体育指導ノート．東京，大修館書店，2022.
19. 村山洋史．加齢と健康（保健編第3章6節，pp. 100-119）．新高等保健体育．東京，大修館書店，2022.
20. 村山洋史．高齢社会に対応した取り組み（保健編第3章7節，pp. 120-139）．新高等保健体育．東京，大修館書店，2022.

ヘルシーエイジングと地域保健研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Ohara Y, Shirobe Y, Iwasaki M, Motokawa K, Eda Hiro A, Kawai H, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: the Otassha Study. ECG Annual Conference 2021, Switzerland. E-Poster, 2021.4.9-10.
2. Takimoto H, Okada E, Takebayashi J, Tada Y, Yoshizaki T, Yokoyama Y, Ishimi Y. Nutrient Profiles of Dishes Eaten by High Salt Consumers and Adequate Salt Consumers in the 2013-2018 National Health and Nutrition Survey, Japan. The American Society for Nutrition, NUTRITION 2021, ONLINE, USA. Poster. 2021.6.7-10.
3. Abe T, Owen N, Kubota A, Chandrabose M, Ohmori H, Oka K, Sugiyama T. Prevalence and geographic variations of physically active and sedentary travel of working-age adults: evidence from the greater Tokyo metropolitan area. International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity (ISBPA) XChange 2021, Online, Live Q&A (oral). 2021.6.8-10.
4. Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Nishi M, Nofuji Y, Yokoyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Predictors of incident frailty among older Japanese adults: a 2-year longitudinal study. World Congress of Epidemiology, ONLINE, Australia. Poster. 2021.9.3-6.
5. Yokoyama Y, Kitamura A, Nofuji Y, Seino S, Amano H, Nishi M, Taniguchi Y, Abe T, Narita M, Shinkai S. Dietary Variety and Incident Disabling Dementia in Elderly Japanese Adults. The World Congress of Epidemiology 2021, ONLINE, Australia, Poster. 2021.9.3-6.
6. Abe T, Carver A, Sugiyama T. Neighbourhood built and social environmental attributes associated with frailty among mid-to-older aged Australian adults. World Congress of Epidemiology 2020, ONLINE, Australia. Poster. 2021.9.3-6.
7. Hata T, Kitamura A, Seino S, Tomine Y, Nishi M, Abe T, Yokoyama Y, Narita M, Shinkai S. Combined association of living alone and dietary variety with mental health in older Japanese adults. World Congress of Epidemiology, ONLINE, Australia, Oral. 2021.9.3-6.
8. Yamashita M, Seino S, Nofuji Y, Sugawara Y, Fujita K, Kitamura A, Shinkai S, Fujiwara Y. Examining apathy prevalence and associated factors among older adults after Great East Japan Earthquake: A mixed-methods study. Regional IPA/JPS Meeting, ONLINE, Kyoto. Poster. 2021.9.16-18.
9. Yokoyama Y. Dietary variety and Sarcopenia in older adults. 3rd International Conference of Saudi Society for Clinical Nutrition, ONLINE, Saudi Arabia. Symposium. 2021.10.29-31.
10. Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chaves P.H.M, Hashizume M, Obuchi S. Higher Serum BDNF Levels are Associated with Lower Risk of Cognitive Decline: A 2-year Follow Up Study in Community-Dwelling Older Adults. The Gerontological Society of America's 2021 Annual Scientific Meeting, ONLINE, USA. Poster. 2021.11.10-13.
11. Chen T, Chen S, Honda T, Kishimoto H, Nofuji Y, Kumagai S, Narazaki K. Dose-response associations between accelerometer measured physical activity and sedentary time and all-cause mortality in community-dwelling older Japanese adults: A 9-year prospective study. The 3rd international Academic Forum on Sports Medicine and Health, ONLINE, China. Oral. 2021.11.11-12.
12. Sugiyama T, Chandrabose M, Abe T, Kubota A, Hadgraft N, Owen N. Prevalence of physically active and sedentary travel of working-age adults in Australian and Japanese Cities. State of Australasian Cities Conference 2021, Online, Australia. Oral. 2021.12.1-3.

(2) 国内

1. 枝広あや子、岡村毅、本橋佳子、高橋知佳、宇良千秋、宮前史子、杉山美香、多賀努、中山莉子、山下真里、栗田主一．訪問口腔調査で明らかになった都市部在住高齢者の口腔機能低下．第22回日本認知症ケア学会大会（Web開催）．口演．R3.6.5-9.5.
2. 中山莉子、多賀努、岡村毅、杉山美香、宇良千秋、山下真里、宮前史子、枝広あや子、栗田主一．地域拠点において認知症とともに生きる独居高齢者の安心感を醸成するには？．日本認知症ケア学会第22回大会（Web開催）．示説．R3.6.5-9.5.
3. 藤原佳典、長谷部雅美、根本裕太、村山陽、西真理子、成田美紀、箕浦明、松永博子、深谷太郎、小林江理香．首都圏郊外における近所の子どもの交流の状況と関連要因：世代別にみた検討．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
4. 藤原佳典．日本における高齢者コホート研究の成果：東京都健康長寿医療センターのコホート研究の軌跡と展望．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．シンポジウム．R3.6.11-7.4.
5. 藤原佳典．2040年に向けた高齢者就業の現状と課題：2040年の社会-高齢者の立ち位置と役割．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．シンポジウム．R3.6.11-7.4.
6. 藤原佳典．ソーシャル・キャピタルと高齢者のwell-being（幸福・健康）：多世代共生社会に向けた高齢者とソーシャル・キャピタル．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．シンポジウム．R3.6.11-7.4.
7. 藤原佳典．フレイルの社会的側面：その概念および研究と社会実装．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．シンポジウム．R3.6.11-7.4.
8. 清野諭、新開省二、阿部巧、谷口優、野藤悠、天野秀紀、西真理子、横山友里、成田美紀、北村明彦．高齢者の身体組成・身体機能と要介護・総死亡率との量・反応関係．第63回日本老年医学会学術集会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
9. 清野諭、野藤悠、横山友里、遠峰結衣、秦俊貴、西真理子、新開省二、藤原佳典、北村明彦．COVID-19第1波が大都市在住高齢者の新規要介護申請に及ぼした影響．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
10. 清野諭、野藤悠、横山友里、遠峰結衣、秦俊貴、西真理子、新開省二、藤原佳典、北村明彦．COVID-19第1波が大都市在住高齢者の新規要介護申請に及ぼした影響．第32回日本老年学会総会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
11. 西真理子、北村明彦、清野諭、遠峰結衣、秦俊貴、新開省二．大都市在住高齢者の主観的な「幸福感」と「生活満足度」に関する横断的研究．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
12. 阿部巧、清野諭、野藤悠、遠峰結衣、西真理子、秦俊貴、新開省二、北村明彦．フレイルの新規発症予測モデルの開発．第63回日本老年医学会学術集会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
13. 山下真里、清野諭、野藤悠、菅原康宏、阿部巧、西真理子、秦俊貴、新開省二、藤原佳典、北村明彦．地域在住高齢者における性格特性とフレイルの関連．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
14. 成田美紀、北村明彦、清野諭、遠峰結衣、秦俊貴、西真理子、横山友里、藤原佳典、新開省二．大都市在住高齢者の共食形態とうつ傾向との横断的関連．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
15. 藤田幸司、山崎幸子、蘭牟田洋美．閉じこもり発生の予測因子としてのネガティブ・ライフイベントおよび抑うつ傾向．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
16. 相良友哉、高橋知也、松永博子、村山洋史、藤原佳典．都内NPO団体のスタッフにおける高齢者就労支援のモチベーションSCATを用いた定性的研究．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
17. 江尻愛美、河合恒、解良武士、井原一成、藤原佳典、渡邊裕、平野浩彦、金憲経、大淵修一．新型コロナウイルス感染拡大による行動制限前後の精神的健康にウォーキングが及ぼす影響．第63回日本老年医学会学術集会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
18. 江尻愛美、河合恒、解良武士、井原一成、藤原佳典、渡邊裕、平野浩彦、金憲経、大淵修一．外出自粛要請下に心身の健康を保つためにウォーキングを行った高齢者の特徴．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
19. 松永博子、高橋知也、相良友哉、藤田幸司、藤原佳典．高齢労働者採用及び離職へのプロセス-都内介護施設におけるケーススタディ．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
20. 松永博子、高橋知也、相良友哉、藤田幸司、藤原佳典．都内A施設における高齢者活用へのプロセスの解明-複線経路・等至性モデルを用いて．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．示説．R3.6.11-7.4.
21. 高橋知也、野中久美子、倉岡正高、村山幸子、根本裕太、松永博子、村山陽、小林江理香、藤原佳典．地域在住の若・中年および高齢者の持つ被援助志向性の様態と関連要因．日本老年社会学会第63回大会（名古屋国際会議場、ハイブリット開催：愛知）．口演．R3.6.11-7.4.
22. 藤原佳典、鈴木宏幸、河合恒、小川将、桜井良太、金憲経、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大淵修一．社会参加は認知機能のいかなるドメインの低下を抑制するか？：社会活動のタイプに着目した検討．第10回日本認知症予防学会学術集会（パシフィコ横浜、ハイブリット開催：神奈川）．口演．R3.6.24-26.
23. 阿部巧、北村明彦、山下真里、稲垣宏樹、大須賀洋祐、河合恒、鈴木宏幸、大淵修一、金憲経、平野浩彦、藤原佳典、栗田主一、鳥羽研二．認知機能低下者のスクリーニングモデルの開発：IRIDE Cohort Study．第10回日本認知症予防学会学術集会

- (パシフィコ横浜、ハイブリッド開催：神奈川)．口演．R3.6.24-26.
24. 山下真里、北村明彦、阿部巧、稲垣宏樹、河合恒、鈴木宏幸、増井幸恵、金憲経、石崎達郎、大淵修一、栗田主一、鳥羽研二．認知症リスクチャート開発のためのコホートデータ統合研究：IRIDE Cohort Study．第10回日本認知症予防学会学術集会（パシフィコ横浜、ハイブリッド開催：神奈川）．口演．R3.6.24-26.
 25. 飯塚あい、鈴木宏幸、小川将、長大介、高橋知也、小林桃子、山城大地、佐藤研一郎、李岩、金辺有里、藤原佳典．自治体事業として実施した絵本読み聞かせによる認知機能低下抑制プログラムの無作為化比較試験②—中年者を対象とした解析—．第10回日本認知症予防学会学術集会（パシフィコ横浜、ハイブリッド開催：神奈川）．口演．R3.6.24-26.
 26. 鈴木宏幸、飯塚あい、小川将、長大介、高橋知也、小林桃子、山城大地、佐藤研一郎、李岩、金辺有里、藤原佳典．自治体事業として実施した絵本読み聞かせによる認知機能低下抑制プログラムの無作為化比較試験—健常高齢者を対象とした解析—．第10回日本認知症予防学会学術集会（パシフィコ横浜、ハイブリッド開催：神奈川）．口演．R3.6.24-26.
 27. 清野諭、阿部巧、野藤悠、秦俊貴、新開省二、北村明彦、藤原佳典．大都市在住高齢者におけるIPAQ-shortで評価した総中高強度身体活動量・座位時間と総死亡リスクとの量・反応関係：4年間の縦断研究．第23回日本運動疫学会学術総会（武庫川女子大学、ハイブリッド開催：兵庫）．口演．R3.6.26-27.
 28. 解良武士、江尻愛美、河合恒、藤原佳典、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、金憲経、大淵修一．新型コロナウイルスの感染拡大下での地域高齢者の不安と、感染に関する理解・情報・行動との関係について．日本予防理学療法学会第6回サテライト集会（Web開催）．示説．R3.7.3-4.
 29. 五十嵐憲太郎、釘宮嘉浩、岩崎正則、小原由紀、白部麻樹、枝広あや子、本川佳子、河合恒、大淵修一、藤原佳典、井原一成、渡邊裕、伊藤誠康、河相安彦、平野浩彦．地域在住高齢者の口腔機能低下症の有病率と評価項目間の関連性の検討：お達者健診研究．第14回日本口腔検査学会総会・学術大会（Web開催）．R3.8.21-22.
 30. 釘宮嘉浩、五十嵐憲太郎、岩崎正則、小原由紀、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、渡邊裕、河合恒、大淵修一、藤原佳典、井原一成、上田貴之、平野浩彦．サルコペニアと関連する口腔機能低下症の下位症状の検討：お達者健診研究．第14回日本口腔検査学会総会・学術大会（Web開催）．R3.8.21-22.
 31. 岩崎正則、平野浩彦、本川佳子、白部麻樹、枝広あや子、小原由紀、河合恒、小島基永、大淵修一、村山洋史、藤原佳典、井原一成、新開省二、北村明彦．日本人高齢者における全身の骨格筋量、咬筋量、口腔機能、歯の状態の関連．第14回日本口腔検査学会総会・学術大会（Web開催）．R3.8.21-22.
 32. 山下真里．高齢者支援としての心理臨床の実践：第12講生活の場から認知症をアセスメントする（医療デイケアでの実践）．日本心理臨床学会第40回大会（Web開催）．シンポジウム．R3.9.3-5.
 33. 藤原佳典．世代を紡ぐ、地域をつなぐ、循環する共生社会の創成．日本地域看護学会第24回学術集会（Web開催）．口演．R3.9.11-12.
 34. 多賀努、井藤佳恵、宇良千秋、枝広あや子、岡村毅、岡村睦子、釘宮由紀子、杉山美香、津田修治、中山莉子、宮前史子、山下真里、栗田主一．心身の機能低下した高齢者の「尊厳」観に関する実証的な研究：認知機能の低下した高齢者の尊厳観に立った支援の予備的な調査．第36回日本老年精神医学会．（国立京都国際会館、ハイブリッド開催：京都）．口演．R3.9.16-18.
 35. 阿部巧、北村明彦、清野諭、野藤悠、横山友里、天野秀紀、西真理子、成田美紀、村山洋史、谷口優、新開省二、藤原佳典．サルコペニアの評価要素と認知症発症との関連性．第76回日本体力医学会大会（Web開催）．口演．R3.9.17-19.
 36. 阿部巧．パーソントリップ調査の概要とその有益性．第76回日本体力医学会大会（Web開催）．シンポジウム．R3.9.17-19.
 37. 横山友里、吉崎貴大、多田由紀、竹林純、岡田恵美子、瀧本秀美、石見佳子．調理済み食品に関する日本版栄養プロフィール試案の作成に関する研究．第68回日本栄養改善学会学術総会（Web開催）．誌上．R3.10.1-2.
 38. 瀧本秀美、岡田恵美子、竹林純、吉崎貴大、横山友里、多田由紀、石見佳子．日本人の食生活を考慮した減塩のための料理プロフィールに関する研究．第68回日本栄養改善学会学術総会（Web開催）．誌上．R3.10.1-2.
 39. 石見佳子、竹林純、吉崎貴大、横山友里、多田由紀、岡田恵美子、瀧本秀美．加工食品に関する日本版栄養プロフィール試案の作成に関する研究．第68回日本栄養改善学会学術総会（Web開催）．誌上．R3.10.1-2.
 40. 多田由紀、吉崎貴大、横山友里、竹林純、岡田恵美子、瀧本秀美、石見佳子．健康的な食行動に寄与するための日本版栄養プロフィール試案に関する質的研究．第68回日本栄養改善学会学術総会（Web開催）．誌上．R3.10.1-2.
 41. 相良友哉、高橋知也、村山洋史、鈴木宏幸、藤原佳典．高齢者ボランティアの次世代貢献意識と活動継続意向の関連：りぷりとコホートをを用いた横断研究．日本世代間交流学会第12回全国大会（Web開催）．示説．R3.10.2.
 42. 藤原佳典．“REPRINTS”プロジェクトの概要と世代間交流がもたらすエビデンス．日本子育て学会第13回大会（Web開催）．シンポジウム．R3.10.24.
 43. 上田高志、王悠、外山琢、荒本章之、白矢智靖、加藤聡、沼賀二郎、河合恒、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一．高齢者における前糖尿病と網膜微細血管構造の変化．第75回日本臨床眼科学会（福岡国際会議場、他、ハイブリッド開催：福岡）．口演．R3.10.28-31.
 44. 藤原佳典、清野諭、野藤悠、横山友里、阿部巧、西真理子、山下真里、成田美紀、秦俊貴、新開省二、北村明彦．再考：独居は新規要介護認定のリスク要因か？—性・フレイル有無別の検討—．第16回日本応用老年学会大会（Web開催）．示説．R3.11.6-7.
 45. 横山友里、清野諭、野藤悠、阿部巧、西真理子、山下真里、成田美紀、秦俊貴、新開省二、北村明彦、藤原佳典．ボランティア活動の参加者における、ボランティア以外の社会活動の参加パターンおよびその後の参加状況との関連．第16回日本応用老年学会大会（Web開催）．示説．R3.11.6-7.
 46. 阿部巧、清野諭、遠峰結衣、西真理子、秦俊貴、新開省二、藤原佳典、北村明彦．多様な社会活動への参加と健康行動との関連性：2年間の縦断研究．第16回日本応用老年学会大会（Web開催）．口演．R3.11.6-7.
 47. 成田美紀、新開省二、横山友里、清野諭、山下真里、菅原康宏、秦俊貴、北村明彦、藤原佳典．地域在住高齢者における早期

- 低栄養リスクの関連要因の検討。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。口演。R3.11.6-7.
48. 藤田幸司、松永博子、佐々木久長。地域高齢者の生活満足感と希死念慮との関連。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。口演。R3.11.6-7.
 49. 相良友哉、高橋知也、村山洋史、藤原佳典。高齢者ボランティアにおける保育・介護分野の補助業務への従事意向に関する検討—REPRINTS研究より—。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。示説。R3.11.6-7.
 50. 河合恒、江尻愛美、伊藤久美子、藤原佳典、井原一成、平野浩彦、金憲経、大淵修一。地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンと総死亡との関連。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。口演。R3.11.6-7.
 51. 植田拓也、根本裕太、高橋淳太、白部麻樹、倉岡正高、吉田智子、三木明子、田中元基、本川晃市、藤原佳典。コロナ禍における通いの場の開催状況の経時的変化—東京都内区市町村に対する調査の報告—。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。口演。R3.11.6-7.
 52. 鈴木宏幸、藤平杏子、三林ゆい、大辻みずき、佐藤研一郎、村山洋史、小川敬之、藤原佳典。認知機能低下者を対象としたものづくり講座開発の試み：心理・認知への介入効果。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。口演。R3.11.6-7.
 53. 松永博子、藤田幸司、藤原佳典。大都市において路上生活を続ける高齢者への新たな取組について。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。示説。R3.11.6-7.
 54. 鎌倉圭吾、桜井良太、根本裕太、柴田愛、藤原佳典。テレビ視聴時間と健康指標の関連は社会的孤立の有無によって異なる：若年、中年、高齢者を対象とした検討。第16回日本応用老年学会大会（Web開催）。示説。R3.11.6-7.
 55. 藤原佳典。社会的フレイルの捉え方と今後のあり方。第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会（千里ライフサイエンスセンター、ハイブリッド開催：大阪）。シンポジウム。R3.11.6-7.
 56. 岩崎正則、平野浩彦、本川佳子、白部麻樹、枝広あや子、小原由紀、河合恒、小島基永、大淵修一、村山洋史、藤原佳典、井原一成、新開省二、北村明彦。咬筋量は全身の骨格筋量および口腔機能と関連するか：日本人地域在住高齢者を対象とした横断研究。第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会（千里ライフサイエンスセンター、ハイブリッド開催：大阪）。示説。R3.11.6-7.
 57. 釘宮嘉浩、岩崎正則、小原由紀、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、渡邊裕、河合恒、大淵修一、藤原佳典、井原一成、上田貴之、平野浩彦。サルコペニアが口腔機能に与える影響の縦断的検討：お達者健診研究。第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会（千里ライフサイエンスセンター、ハイブリッド開催：大阪）。示説。R3.11.6-7.
 58. 白部麻樹、本川佳子、小原由紀、岩崎正則、枝広あや子、渡邊裕、井原一成、金憲経、大淵修一、藤原佳典、平野浩彦。通いの場に参加している地域在住高齢者の口腔機能に関する検討。第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会（千里ライフサイエンスセンター、ハイブリッド開催：大阪）。示説。R3.11.6-7.
 59. 本川佳子、奈良一寛、小林知未、飯坂真司、岩崎正則、早川美知、三上友里江、渡邊裕、大淵修一、栗田主一、平野浩彦。フレイル予防を目的とした中食の栄養成分表示活用に関する検討。第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会（千里ライフサイエンスセンター、ハイブリッド開催：大阪）。示説。R3.11.6-7.
 60. 解良武士、河合恒、本川佳子、江尻愛美、平野裕彦、渡邊裕、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一。呼吸筋サルコペニアと栄養指標との関係～お達者健診研究～。第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会（サンポートホール高松、他、ハイブリッド開催：香川）。口演。R3.11.12-13.
 61. 解良武士、河合恒、江尻愛美、平野裕彦、渡邊裕、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一。呼吸筋サルコペニア定義に関する検討～日本リハビリテーション栄養学会の定義との比較～。第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会（サンポートホール高松、他、ハイブリッド開催：香川）。口演。R3.11.12-13.
 62. 解良武士、河合恒、江尻愛美、平野裕彦、渡邊裕、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一。糖尿病をもつ地域高齢者の身体機能の低下：縦断的研究による結果。第8回日本予防理学療法学会学術大会（Web開催）。口演。R3.11.13.
 63. 河合恒、大淵修一、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経。日常生活歩行における歩行比とフレイルとの関係。第8回日本予防理学療法学会学術大会（Web開催）。口演。R3.11.13.
 64. 青柳幸利。高齢者の健康と身体活動・食生活：中之条研究。第17回日本食品免疫学会学術大会（Web開催）。シンポジウム。R3.11.17.
 65. 蓼沼豊、鈴木宏幸、栢森藍佳、加藤美和子、古奥奈保子、岩中伸幸、千代和弘、中村健太郎、藤原佳典、徳淵慎一郎、富田泰輔。運動プログラムの定期的実施による認知機能改善効果と睡眠パラメータに関する観察研究。第40回日本認知症学会学術集会（東京国際フォーラム、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.11.26-28.
 66. 外山琢、王悠、白矢智靖、加藤聡、沼賀二郎、河合恒、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、大淵修一、上田高志。高齢者における糖尿病／前糖尿病による網膜内層の構造変化：お達者健診コホート研究より。第60回日本網膜硝子体学会総会（東京国際フォーラム、ハイブリッド開催：東京）。口演。R3.12.3-5.
 67. 藤原佳典、清野諭、野藤悠、横山友里、阿部巧、西真理子、山下真里、成田美紀、秦俊貴、新開省二、北村明彦。就業は、フレイル高齢者の介護予防に有効か？—性・フレイル有無別の検討。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。R3.12.21-23.
 68. 藤原佳典。保健福祉セクターによる高齢者就労支援の多面的意義と課題。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。シンポジウム。R3.12.21-23.
 69. 藤原佳典。住民主体の多様な通いの場・居場所の展開：その概念整理とPDCAサイクルに沿った評価。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。シンポジウム。R3.12.21-23.
 70. 清野諭、野藤悠、横山友里、阿部巧、西真理子、山下真里、成田美紀、秦俊貴、新開省二、北村明彦、藤原佳典。高齢者の身体活動、多様な食品摂取、社会交流の累積が介護予防に及ぼす影響。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。口演。R3.12.21-23.

71. 清野諭. 多様な通いの場における PDCA サイクルに沿った評価の視点. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). シンポジウム. R3. 12. 21-23.
72. 清野諭. 地域における介護予防・フレイル予防に関する疫学研究とその実践的応用. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 奨励賞受賞講演. R3. 12. 21-23.
73. 横山友里, 野藤悠, 清野諭, 村山洋史, 阿部巧, 成田美紀, 吉田由佳, 新開省二, 北村明彦, 藤原佳典. 地域高齢者における食品摂取の多様性と要介護認知症発症との関連: 養父コホート研究. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
74. 山下真里, 清野諭, 秦俊貴, 阿部巧, 北村明彦, 藤原佳典. 地域在住中高年者の孤独・孤立の実態と精神的健康との関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
75. 成田美紀, 清野諭, 新開省二, 阿部巧, 横山友里, 西真理子, 野藤悠, 山下真里, 秦俊貴, 北村明彦, 藤原佳典. 運動習慣、食品摂取状況、孤立状況及びその変化と二年後のフレイル改善との関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 口演. R3. 12. 21-23.
76. 藤田幸司, 松永博子, 桜井良太, 根本裕太, 藤原佳典. 大都市高齢者の居場所と外出頻度との関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
77. 森裕樹, 藤原佳典. 住民主体の通いの場で見られる対人不法の特徴. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
78. 相良友哉, 村山洋史, 杉浦圭子, 高瀬麻以, 中本五鈴, 六藤陽子, 東憲太郎, 藤原佳典. 高齢介護助手導入への施設の態度や考え方: 介護老人保健施設の全国調査 (第 2 報). 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
79. 秦俊貴, 清野諭, 遠峰結衣, 北村明彦, 藤原佳典. 郵送による通信型の健康支援プログラムが高齢者の精神的健康と社会的サポートに与える影響: 非ランダム化クロスオーバーデザインによる検討. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
80. 松崎英章, 岸本裕歩, 辻大士, 野藤悠, 檜崎兼司. 基本チェックリストを用いた要介護認定リスクスコアの開発と検証: 8 年間の前向き研究. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 口演. R3. 12. 21-23.
81. 本橋佳子, 枝広あや子, 岡村毅, 高橋知佳, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 山下真里, 栗田主一. 地域に暮らす認知症機能低下高齢者への訪問調査 1: 感染症流行下の口腔状態. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
82. 枝広あや子, 岡村毅, 本橋佳子, 高橋知佳, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 多賀努, 中山莉子, 山下真里, 栗田主一. 地域で自宅で暮らす認知症高齢者の栄養状態低下の要因: 都市部における自宅訪問調査. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
83. 小原由紀, 枝広あや子, 岩崎正則, 本川佳子, 稲垣宏樹, 横山友里, 栗田主一, 北村明彦, 新開省二, 平野浩彦. 地域在住高齢者における「かかりつけ歯科医」の有無とフレイルとの関連についての検討. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
84. 六藤陽子, 村山洋史, 相良友哉, 杉浦圭子, 高瀬麻以, 中本五鈴, 東憲太郎, 藤原佳典. 高齢介護助手の全国導入実態: 介護老人保健施設の全国調査 (第 1 報). 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
85. 高瀬麻以, 村山洋史, 相良友哉, 杉浦圭子, 中本五鈴, 六藤陽子, 東憲太郎, 藤原佳典. 高齢介護助手の雇用と介護職員の情緒的消耗: 介護老人保健施設の全国調査 (第 3 報). 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
86. 杉浦圭子, 村山洋史, 相良友哉, 中本五鈴, 高瀬麻以, 六藤陽子, 東憲太郎, 藤原佳典. 高齢介護助手の業務内容とメリットとの関連: 介護老人保健施設の全国調査 (第 4 報). 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
87. 中本五鈴, 村山洋史, 相良友哉, 杉浦圭子, 六藤陽子, 高瀬麻以, 東憲太郎, 藤原佳典. 高齢介護助手の情緒的消耗感の関連要因: 介護老人保健施設の全国調査 (第 5 報). 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
88. 大淵修一, 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 平野浩彦. バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係: お達者健診研究. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 口演. R3. 12. 21-23.
89. 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金憲経, 大淵修一. 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
90. 江尻愛美, 河合恒, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊裕, 平野裕彦, 金憲経, 大淵修一. 独居高齢者における社会的孤立の修正可能な関連要因の特徴: お達者健診研究. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 示説. R3. 12. 21-23.
91. 桜井良太, 桜井政成, 根本裕太, 松永博子, 高橋知也, 藤原佳典. 社会経済的要因と被援助志向性の関連における社会的孤立の媒介. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 口演. R3. 12. 21-23.
92. 高橋知也, 相良友哉, 小川将, 飯塚あい, 鈴木宏幸, 村山洋史, 藤原佳典. 新型コロナウイルスへの恐怖心が高齢者ボランティアの活動継続意志にもたらす影響. 第 80 回日本公衆衛生学会総会 (京王プラザホテル, 他、ハイブリッド開催: 東京). 口演. R3. 12. 21-23.

93. 渡邊彩、村山洋史、高瀬麻以、杉浦圭子、藤原佳典。高齢期における就労と主観的健康感の縦断的関連：システマティックレビュー。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.12.21-23.
94. 松永博子、藤田幸司、佐々木久長、金子善博、本橋豊。地域住民における相談窓口等の認知状況と心理的苦痛の高い傾向との関連。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.12.21-23.
95. 佐々木久長、松永博子、藤田幸司、金子善博、本橋豊。地域住民に対する自殺対策事業の啓発・周知活動と効果。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.12.21-23.
96. 小川将、鈴木宏幸、飯塚あい、高橋知也、藤原佳典。自治体共催の社会参加事業を通じた絵本読み聞かせ講座の認知機能への介入効果。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.12.21-23.
97. 西中川まき、桜井良太、根本裕太、松永博子、藤原佳典。朝食摂取状況別にみた野菜摂取量350g/日以上に関連要因―世代別の検討―。第80回日本公衆衛生学会総会（京王プラザホテル、他、ハイブリッド開催：東京）。示説。R3.12.21-23.
98. 藤原佳典、藤田幸司、松永博子、根本裕太、桜井良太。首都圏住宅地における地域住民の「居場所」と心身の健康との関連。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。示説。R4.1.26-28.
99. 清野諭、阿部巧、野藤悠、秦俊貴、新開省二、北村明彦、藤原佳典。IPAQ-shortで評価した高齢者の身体活動量・座位時間と新規要介護認定リスクとの量・反応関係。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。口演。R4.1.26-28.
100. 山下真里、清野諭、野藤悠、成田美紀、秦俊貴、菅原康宏、北村明彦、新開省二、藤原佳典。東日本大震災から8年後の被災地におけるアパシーの実態とフレイルとの関連。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。示説。R4.1.26-28.
101. 藤田幸司、藤原佳典、松永博子、根本裕太、桜井良太。都市居住者の世代別にみた居場所の状況と居場所のない人の社会的特徴。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。示説。R4.1.26-28.
102. 秦俊貴、清野諭、遠峰結衣、西真理子、横山友里、成田美紀、北村明彦、新開省二、藤原佳典。多様な食品摂取を促す標語を認知することの背景因子の違い：買い物先と地域活動での認知による検討。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。示説。R4.1.26-28.
103. 六藤陽子、村山洋史、高瀬麻以、中本五鈴、野中久美子、桜井良太、藤原佳典。高齢期の就労およびその理由と社会的孤立の関連。第32回日本疫学会学術総会（東京ベイ舞浜ホテル、ハイブリッド開催：千葉）。示説。R4.1.26-28.
104. 阿部巧、秦俊貴、相良友哉、藤田幸司、野藤悠、北村明彦、藤原佳典。高齢者を対象としたコロナ禍での運動頻度の把握。日本体育測定評価学会第21回大会（Web開催：新潟）。口演。R4.3.5.
105. 森裕樹、清野諭、山下真里、横山友里、小林江里香、服部真治、藤原佳典。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により社会活動への参加を中断した高齢者の特徴。日本環境心理学会第15回大会（Web開催：東京）。口演。R4.3.12.
106. 相良友哉、村山洋史、藤原佳典。高齢者が社会参加する方法としての「就労的活動」に関する事例検討：ESSENCEプロジェクトより。日本社会関係学会第2回研究大会（Web開催）。示説。R4.3.19-20.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Yamashita M, Seino S, Nofuji Y, Sugawara Y, Osuka Y, Kitamura A, Shinkai S. The Kesennuma Study in Miyagi, Japan: Study Design and Baseline Profiles of Participants. J Epidemiol, 2021 Apr 10. doi: 10.2188/jea.JE20200599. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 3.211、2020/2021)
2. 釘宮嘉浩、岩崎正則、小原由紀、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、渡邊裕、大淵修一、河合恒、解良武士、藤原佳典、井原一成、金憲経、五十嵐憲太郎、星野大地、平野浩彦。地域在住高齢者における口腔機能低下有訴者の口腔機能―後期高齢者の質問票を構成する口腔機能関連項目を用いた検討―。日本老年医学会雑誌, 2021;58:245-254. (査読あり)
3. Mitsutake S, Ishizaki T, Yokoyama Y, Nishi M, Koohsari MJ, Oka K, Yano S, Abe T, Kitamura A. Do Walking-Friendly Built Environments Influence Frailty and Long-Term Care Insurance Service Needs?. Sustainability, 2021;13(10):5632. doi: 10.3390/su13105632. (査読あり) (IF: 3.251、2020)
4. ©横山友里、吉崎貴大、多田由紀、岡田恵美子、竹林純、瀧本秀美、石見佳子。日本版栄養プロファイルモデル作成に向けた諸外国モデルの特性に関する基礎的研究。栄養学雑誌, 2021;79(3):162-173. (査読あり)
5. Sugimoto T, Sakurai T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsuo K, Michikawa M, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Umegaki H, Wakayama S, Arai H, & J-MINT investigators. The Japan-Multimodal Intervention Trial for Prevention of Dementia (J-MINT): The Study Protocol for an 18-Month, Multicenter, Randomized, Controlled Trial. J Prev Alzheimers Dis, 2021;8(4):465-476. (査読あり) (IF: 4.671、2020)
6. Iizuka A, Suzuki H, Ogawa S, Takahashi T, Cho D, Yamashiro D, Sato K, Li Y, Kanabe Y, Kobayashi M, Fujiwara Y. Randomized Controlled Trial of the Picture Book Reading Program on Cognitive Function in Middle-Aged People. Front Psychiatry. 2021 May 19;12:624487. doi: 10.3389/fpsy.2021.624487. (査読あり) (IF: 4.157、2021)
7. Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Takahashi M, ★Fujiwara Y. Hearing loss and increased gait variability among older adults. Gait Posture, 2021 Jun;87:54-58. doi: 10.1016/j.gaitpost.2021.04.007. (査読あり) (IF: 2.84、2021)
8. Amamoto R, Shimamoto K, Park S, Matsumoto H, Shimizu K, Tsuji H, Matsubara S, Shephard R.J, ★Aoyagi Y. Yearly changes in the composition of gut microbiota in the elderly, and the effect of lactobacilli intake on these changes. Sci Rep, 2021 Jun 17;11(1):12765. doi: 10.1038/s41598-021-91917-6. (査読あり) (IF: 4.379、2020/2021)
9. Kugimiya Y, Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Edahiro A, Shirobe M, Watanabe Y, Obuchi S, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara

- K, Kim H, Ueda T, Hirano H. Relationship Between Oral Hypofunction and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. *Int J Environ Res Public Health*, 2021 Jun 21;18(12):6666. doi: 10.3390/ijerph18126666. (査読あり) (IF: 3.390、2020)
10. ★◎Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chaves P.H.M, Hashizume M, Obuchi S. Higher serum BDNF levels are associated with lower risk of cognitive decline: A 2-year follow up study in community-dwelling older adults. *Front Behav Neurosci*, 2021 Jun 22;15:641608. doi: 10.3389/fnbeh.2021.641608. eCollection 2021. (査読あり) (IF: 3.558、2020)
 11. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Hirano H. Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: evidence from the Otassha Study. *Gerodontology*, 2021 Jul 1. doi: 10.1111/ger.12580. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 2.980、2020)
 12. Kawai H, Obuchi S, Hirayama R, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Kobayashi Y, Mochimaru M, Tsushima E, Nakamura K. Intra-day variation in daily outdoor walking speed among community-dwelling older adults. *BMC Geriatr*, 2021 Jul 8;21(1):417. doi: 10.1186/s12877-021-02349-w. (査読あり) (IF: 3.921、2020)
 13. ◎秦俊貴、清野諭、遠峰結衣、横山友里、西真理子、成田美紀、日田安寿美、新開省二、北村明彦. 食品摂取の多様性向上を目的とした10食品群の摂取チェック表『食べボチチェック表』の効果に関する検討. *日本公衆衛生雑誌*, 2021;68(7):477-492. (査読あり)
 14. Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Fujiwara Y. The impact of mutual aid on mental health and perceived isolation among the single elderly: An examination of economic status. *Geriatr Gerontol Int*, 2021 Jul;21(7):555-560. doi: 10.1111/ggi.14181. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
 15. Murayama Y, Yamaguchi J, Yasunaga M, Kuraoka M, ★Fujiwara Y. Effects of Participating in Intergenerational Programs on the Development of High School Students' Self-Efficacy. *Journal of Intergenerational Relationships*, 2021 (online first: 22 Jul 2021) (査読あり) (IF: 0.850、2020)
 16. Takimoto H, Okada E, Takebayashi J, Tada Y, Yoshizaki T, Yokoyama Y, Ishimi Y. Nutrient profiles of dishes consumed by the adequate and high salt groups in the 2014-2018 National Health and Nutrition Survey, Japan. *Nutrients*, 2021 Jul 28;13(8):2591. doi: 10.3390/nu13082591. (査読あり) (IF: 5.717、2020)
 17. Takahashi J, Kawai H, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Ihara K, Ejiri M, Ishii K, Oka K, Obuchi S. Association between activity diversity and frailty among community-dwelling older Japanese: A cross-sectional study. *Arch Gerontol Geriatr*, Jul-Aug 2021;95:104377. doi: 10.1016/j.archger.2021.104377. (査読あり) (IF: 3.250、2020)
 18. Sakurai R, Montero-Odasso M, Suzuki H, Ogawa S, ★Fujiwara Y. Motor Imagery Deficits in High-Functioning Older Adults and its Impact on Fear of Falling and Falls. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*, 2021 Aug 13;76(9):e228-e234. doi: 10.1093/gerona/glab073. (査読あり) (IF: 6.053、2020/2021)
 19. ★◎Seino S, Tomine Y, Nishi M, Hata T, Fujiwara Y, Shinkai S, Kitamura A. Effectiveness of a community-wide intervention for population-level frailty and functional health in older adults: a 2-year cluster nonrandomized controlled trial. *Prev Med*, 2021 Aug;149:106620. doi: 10.1016/j.ypmed.2021.106620. (査読あり) (IF: 4.018、2020/2021)
 20. Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K. The relationship between blood pressure and cognitive function. *Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev*, 2021;10:200104. doi: 10.1016/j.ijcrp.2021.200104. (査読あり) (IF: 4.164、2020/2021)
 21. 村山陽、竹内瑠美、安永正史、山口淳、藤原佳典. 小学校における高齢者の読み聞かせボランティア活動が児童の共感的関心の向上に及ぼす影響: 親密な関係性の構築に着目して. *日本世代間交流学会誌*, 2021;11(1):13-22. (査読あり)
 22. Ueda A, Shinkai S, Shiroma H, Taniguchi Y, Tsuchida S, Kariya T, Kawahara T, Kobayashi Y, Kohda N, Ushida K, Kitamura A, Yamada T. Identification of *Faecalibacterium prausnitzii* strains for gut microbiome-based intervention in Alzheimer's-type dementia. *Cell Rep Med*. 2021 Sep 14;2(9):100398. doi: 10.1016/j.xcrm.2021.100398. (査読あり) (IF: 9.423、2020/2021)
 23. Ozawa T, Yamashita M, Seino S, Kamiya K, Kagiya N, Konishi M, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Momomura S, Hamazaki N, Nozaki K, Kim HK, Obuchi S, Kawai H, Kitamura A, Shinkai S, Matsue Y. Standardized gait speed ratio in elderly patients with heart failure. *ESC Heart Failure*, 2021 Oct;8(5):3557-3565. doi: 10.1002/ehf2.13392. (査読あり) (IF: 4.411、2020/2021)
 24. Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, ★Fujiwara Y. Gait and age-related hearing loss interactions on global cognition and falls. *Laryngoscope*. 2021 Oct 12. doi: 10.1002/lary.29898. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 3.325、2020)
 25. Iwasaki M, Hirano H, Motokawa K, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Murayama H, Fujiwara Y, Ihara K, Shinkai S, ★Kitamura A. Interrelationship among whole-body skeletal muscle mass, masseter muscle mass, oral function, and dentition status in older Japanese adults. *BMC Geriatr*, 2021 Oct 20;21(1):582. doi: 10.1186/s12877-021-02552-9. (査読あり) (IF: 3.921、2020)
 26. ★◎Abe T, Carver A, Sugiyama T. Associations of neighborhood built and social environments with frailty among mid-to-older aged Australian adults. *Geriatr. Gerontol. Int*, 2021 Oct;21(10):893-899. doi: 10.1111/ggi.14253. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)

27. Nemoto Y, Sakurai R, Ogawa S, Maruo K, ★Fujiwara Y. Effects of an unsupervised Nordic walking intervention on cognitive and physical function among older women engaging in volunteer activity. *J Exerc Sci Fit*, 2021 Oct;19(4):209-215. doi: 10.1016/j.jesf.2021.06.002. (査読あり) (IF: 3.1、2020/2021)
28. Ohara Y, Kawai H, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Eda Hiro A, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: The Otassha Study. *Gerodontology*. 2021 Nov 11. doi: 10.1111/ger.12605. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 2.98、2020-2021)
29. Ejiri M, Kawai H, Kera T, Ihara K, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Obuchi S. Exercise as a coping strategy and its impact on the psychological well-being of Japanese community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Psychol Sport Exerc*, 2021 Nov;57:102054. doi: 10.1016/j.psychsport.2021.102054. (査読あり) (IF: 4.785、2020)
30. Kera T, Kawai H, Ejiri M, Takahashi J, Nishida K, Harai A, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S. Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatr Gerontol Int*. 2021 Nov;21(11):1053-1059. doi: 10.1111/ggi.14276. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
31. Yamazaki S, Imuta H, Fujita K. Prevalence of and factors related to homebound and semi-homebound older adults in a rural area in Japan. *Geriatr Gerontol Int*, 2021 Nov;21(11):1033-1039. doi: 10.1111/ggi.14288. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
32. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Hayakawa M, Mikami Y, Shirobe M, Inagaki H, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Nutritional status and body composition in cognitively impaired older persons living alone: The Takashimadaira study. *PLoS One*, 2021 Nov 23;16(11):e0260412. doi: 10.1371/journal.pone.0260412. eCollection 2021. (査読あり) (IF: 3.240、2020)
33. Sakurai R, Watanabe S, Mori H, Sagara T, Murayama H, Watanabe S, Higashi K, ★Fujiwara Y. Older Assistant Workers in Intermediate Care Facilities, and Their Influence on the Physical and Mental Burden of Elderly Care Staff. *BMC Health Serv Res*, 2021 Nov 30;21(1):1285. doi: 10.1186/s12913-021-07302-6. (査読あり) (IF: 2.512、2020/2021)
34. Nishihara K, Kawai H, Kera T, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Comparisons of muscle thicknesses, echo intensities, and motor functions between community-dwelling older Japanese adults with and without diabetes. *Arch Gerontol Geriatr*, Nov-Dec 2021;97:104516. doi: 10.1016/j.archger.2021.104516. (査読あり) (IF: 3.250、2020)
35. ★◎Abe T, Seino S, Nofuji Y, Tomine Y, Nishi M, Hata T, Shinkai S, Kitamura A. Development of risk prediction models for incident frailty and their performance evaluation. *Prev Med*, 2021 Dec;153:106768. doi: 10.1016/j.ypmed.2021.106768. (査読あり) (IF: 4.018、2020/2021)
36. ★◎Abe T, Seino S, Tomine Y, Nishi M, Hata T, Shinkai S, Fujiwara Y, Kitamura A. Identifying the specific associations between participation in social activities and healthy lifestyle behaviours in older adults. *Maturitas*, 2022 Jan;155:24-31. doi: 10.1016/j.maturitas.2021.10.003. (査読あり) (IF: 4.342、2020/2021)
37. ★◎Abe T, Kitamura A, Yamashita M, Kim Hunkyung, Obuchi, Shuichi, Ishizaki Tatsuro, Fujiwara Y, Awata Shuichi, Toba Kenji. Simple screening models for cognitive impairment in community settings: The IRIDE Cohort Study. *Geriatr Gerontol Int*. (in press) 2022 Feb 20. doi: 10.1111/ggi.14360. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
38. ★◎Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Abe T, Nishi M, Yamashita M, Narita M, Hata T, Shinkai S, Kitamura A, Fujiwara Y. Combined impacts of physical activity, dietary variety, and social interaction on incident functional disability in older Japanese adults. *J Epidemiol*, in press. (査読あり) (IF: 3.211、2020/2021)
39. ★◎野藤悠, 阿部巧, 清野諭, 横山友里, 天野秀紀, 村山洋史, 吉田由佳, 新開省二, 藤原佳典, 北村明彦. 高齢者の機能的健康度の評価に基づく要介護発生リスク予測モデルおよびリスクチャート（試作版）の開発. *日本公衆衛生雑誌*, 2021;69(1):26-36. (査読あり)
40. Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Matsunaga H, Narita M, Nemoto Y, Fujiwara Y. The effects of reciprocal support on mental health among intergenerational non-relatives: A comparison by age group. *Arch Gerontol Geriatr*, in press. (査読あり) (IF: 3.250、2020)
41. 根本裕太、桜井良太、松永博子、★藤原佳典. 情報通信技術機器利用者における自然災害時に想定される情報収集手段の特徴. *日本公衆衛生雑誌*, 2021;68(12):888-898. (査読あり)
42. 杉浦圭子、村山洋史、野中久美子、長谷部雅美、藤原佳典. 地域在住高齢者の最長職と現在の就労状況と就労理由の関連に関する研究. *日本公衆衛生雑誌*, 2021;69(1):37-47. (査読あり)
43. 渡邊彩、村山洋史、高瀬麻以、杉浦圭子、藤原佳典. 高齢期における就労と主観的健康感の縦断的関連：システムティックレビュー. *日本公衆衛生雑誌*, 印刷中 (査読あり)
44. 村山幸子、小林江里香、倉岡正高、野中久美子、安永正史、田中元基、根本裕太、松永博子、村山陽、村山洋史、★藤原佳典. 改訂版世代継承性尺度 (JGS-R) の作成と信頼性・妥当性の検討. パーソナリティ研究, 印刷中 (査読あり)
45. ◎山下真里, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 多賀努, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一. 認知機能低下を抱えた地域在住高齢者のインフォーマル・サポートと精神的健康に関する質的研究. *日本認知症ケア学会誌*, 2022;20(4):560-571. (査読あり)

46. 解良武士、河合恒、江尻愛美、平野浩彦、渡邊裕、藤原佳典、金憲経、井原一成、大瀨 修. 地域在住高齢者における非糖尿病、前糖尿病及び糖尿病と転倒との関係と身体機能の変化について. 日本予防理学療法学会雑誌, 印刷中(査読あり)
47. 小林江里香、植田拓也、高橋淳太、清野諭、野藤悠、根本裕太、倉岡正高、藤原佳典. 「通いの場」の類別にみた参加者の多様性と住民の主体性: 高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から. 日本公衆衛生雑誌, 印刷中(査読あり)
48. ◎森裕樹、野中久美子、村山幸子、倉岡正高、安永正史、村山洋史、★藤原佳典. 学校と地域の連携によるあいさつ運動の取組効果と展望. 世代間交流学会誌, 2022;11(2):3-10. (査読あり)
49. Taniguchi Y, Seino S, Headey B, Hata T, Ikeuchi T, Abe T, Shinkai S, Kitamura A. Evidence that dog ownership protects against the onset of disability in an older community-dwelling Japanese population. PLoS One, 2022 Feb 23;17(2):e0263791. doi: 10.1371/journal.pone.0263791. eCollection 2022. (査読あり) (IF: 3.240、2020)
50. ★◎Seino S, Kitamura A, Abe T, Taniguchi Y, Murayama H, Amano H, Nishi M, Nofuji Y, Yokoyama Y, Narita M, Shinkai S, Fujiwara Y. Dose-response relationships of sarcopenia parameters with incident disability and mortality in older Japanese adults. J Cachexia Sarcopenia Muscle, (in press). 2022 Feb 25. doi: 10.1002/jcsm.12958. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 12.910、2020)
51. Kera T, Kawai H, Takahashi J, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Development of a screening formula for sarcopenia using ground reaction force during sit-to-stand motion. Gait & Posture, in press. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
52. Chen S, Chen T, Honda T, Nofuji Y, Kishimoto H, Narazaki K. Associations of objectively-measured sedentary time and patterns with cognitive function in non-demented Japanese older adults: a cross-sectional study. Int J Environ Res Public Health, 2022 Feb 11;19(4):1999. doi: 10.3390/ijerph19041999. (査読あり) (IF: 3.390、2021/2022)
53. ◎相良友哉、村山洋史、高橋知也、西中川まき、★藤原佳典. 介護補助・保育補助人材として就労意向を持つ高齢者の特性. 日本公衆衛生雑誌. 印刷中(査読あり)
54. Osuka Y, Okubo Y, Nofuji Y, Sasai H, Seino S, Maruo K, Fujiwara Y, Oka H, Shinkai S, Lord SR, Kim H. Modifiable intrinsic factors related to occupational falls in older workers. Geriatr Gerontol Int (in press). 2022 Mar 9. doi: 10.1111/ggi.14370. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 2.730、2020/2021)
55. Toyoshima K, ◎Seino S, Tamura Y, Ishikawa J, Chiba Y, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Araki A. Difference between “physical fitness age” based on physical function and chronological age is associated with obesity, hyperglycemia, depressive symptoms, and low serum albumin. J Nutr Health Aging (in press) (Toyoshima K and Seino S contributed equally to this work). (査読あり) (IF: 4.075、2021/2022)
56. ★◎横山友里、吉崎貴大、小手森綾香、野藤悠、清野諭、西真理子、天野秀紀、成田美紀、阿部巧、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 地域在住高齢者における改訂版食品摂取の多様性得点の試作と評価. 日本公衆衛生雑誌, 印刷中(査読あり)
57. Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Hayakawa M, Shirobe M, Eda Hiro A, Watanabe Y, Awata S, Okamura T, Inagaki H, Sakuma N, Obuchi S, Kawai H, Ejiri M, Ito K, Fujiwara Y, Kitamura A, Nofuji Y, Abe T, Iijima K, Tanaka T, Son BK, Shinkai S, Hirano H. Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants. J Prosthodont Res (in press), 2022 Jan 27. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 4.642、2020/2021)
58. Ikeuchi T, Yano Y, Sato W, Morikawa F, Toru S, Nishimura C, Miyazawa N, Kuroha Y, Koike R, Tanaka S, Utsumi K, Kasuga K, Tokutake T, Ono K, Yano S, Naruse S, Yajima R, Hamano T, Yokoyama Y, Kitamura A, Kaneko E, Yamakado M, Nagao K. Development of a Novel Nutrition-Related Multivariate Biomarker for Mild Cognitive Impairment Based on the Plasma Free Amino Acid Profile. Nutrients. 2022 Feb 1;14(3):637. doi: 10.3390/nul4030637. (査読あり) (IF: 5.719、2020)
59. ★◎Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Murayama Y, Murayama S, Nemoto Y, Tanaka M, Matsunaga H, Fujita K, Murayama H, Kobayashi E. Influence of “Face-to-Face Contact” and “Non-Face-to-Face Contact” on the Subsequent Decline in Self-Rated Health and Mental Health Status of Young, Middle-Aged, and Older Japanese Adults: A Two-Year Prospective Study. Int J Environ Res Public Health. 2022 Feb 16;19(4):2218. doi: 10.3390/ijerph19042218. (査読あり) (IF: 3.390、2021/2022)
60. Masugi Y, Kawai H, Ejiri M, Hirano H, Fujiwara Y, Tanaka T, Iijima K, Inomata T, Obuchi S. Early strong predictors of decline in instrumental activities of daily living in community-dwelling older Japanese people. PLoS One (in press), (査読あり) (IF: 3.240、2020)

(2) 総説

- 1 藤田幸司、松永博子. 性的マイノリティ高齢者の課題と自殺対策. 老年精神医学雑誌, 2021;32(5):530-537. (査読あり)
- 2 ★◎藤原佳典. 地域共生社会に向けた重層的支援体制整備事業と多世代アプローチ～保健・福祉分野の連携の視点から. 世代間交流学会誌, 印刷中(査読あり)
- 3 植田拓也、倉岡正高、清野諭、小林江里香、服部真治、澤岡詩野、野藤悠、本川佳子、野中久美子、村山洋史、藤原佳典. 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. 日本公衆衛生雑誌, 印刷中(査読あり)

3 著書等

1. 青柳幸利. 戦経インタビュー 健康維持に役立つ『非密』のウォーキング法. 戦略経営者 2021年4月号 p.46-49、TKCグループ. 2021.4.1.

2. 青柳幸利.『1日8,000歩/中強度の活動20分』が健康長寿の鍵. 多摩らいふ倶楽部会報誌「たまら・び 悠」2021 春号 No.8」 p.12-15、株式会社けやき出版. 2021.4.1.
3. 藤原佳典. 地域共生社会に向けた重層的支援体制整備事業と多世代アプローチ. 保健師ジャーナル, 2021;77(4):276-282.
4. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第8回「魚肉ソーセージ」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 5 月号. 2021.4.23.
5. 成田美紀. ④食でサポートロコモ予防 篇 (動画).「コロナに勝つ!ロコモに勝つ!いとうまい子と学ぶロコモ教室」. ロコモ チャレンジ!推進協議会 (東京). 2021 年 4 月
6. 新開省二、成田美紀. PART2 高齢期における肉類摂取はフレイルを予防するかー地域高齢者を対象とした大規模疫学研究ー. pp.42-59. 公益財団法人 伊藤記念財団 大型研究プロジェクト事業「食肉の健康寿命及びその関連要因に与える影響」平成 30 年度～令和 2 年度 (2018 年度～2020 年度) 研究成果報告書最終報告書. 2021.5 月
7. 山下真里. 自宅にいなが健康づくり「本日の 8 ミッション」. みんなのスポーツ. 473:20-21, 2021.5 月
8. 藤原佳典. 長年取り組む世代間交流プログラムで「三方良し」の効果が判明. D to D、総合メディカル. 2021;45:14-17.
9. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 9 回「ひじきの煮物」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 6 月号. 2021.5.25.
10. Seino S, Nofuji Y, Yokoyama Y, Tomine Y, Nishi M, Hata T, Shinkai S, Fujiwara Y, Kitamura A. Impact of the first wave of the COVID-19 pandemic on new applications for long-term care insurance in a metropolitan area of Japan. J Epidemiol (Letter to the editor), 2021 Jun 5;31(6):401-402. doi: 10.2188/jea.JE20210047. (査読あり) (IF: 3.211, 2020/2021)
11. 青柳幸利. コロナ禍で急増中!若いあなたも『フレイル予備群』かも?. TJK スタイル No.336 2021 Summer p.8-11、東京都情報サービス産業健康保険組合. 2021.6 月
12. 山下真里、樫村正美、加藤真衣、山崎明子. 地域における認知症介護家族の相談ニーズと心理的支援. 認知症ケア事例ジャーナル. 2021;14(1):59-65.
13. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 10 回「さば缶 (水煮)」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 7 月号. 2021.6.23.
14. 清野諭. 加齢による筋力の変化と低下予防のための運動法. 特集:100 年動ける体を目指す運動法. 情報誌 ALPS、地域社会ライフプラン協会. 2021.7 月
15. 藤田幸司、藤原佳典. コロナ禍における地域高齢者の自殺対策について. 公衆衛生情報 51(4):6-7, 2021.7 月
16. 青柳幸利. もっと脳トレ効果を上げる『ウォーキング』のコツ. 大きな字の脳が活性化する 100 日間パズル プラス② 巻頭とじこみ付録、株式会社学研プラス. 2021.7.22.
17. 青柳幸利. 季節の健康 TOPICS「2 ヶ月続けると、長寿遺伝子のスイッチが入る」. アイムファイン 夏 2021 summer、株式会社法研.
18. 青柳幸利. 健康寿命を延ばす、ウォーキングの新常識. 婦人画報 9 月号 No.1418 p.164-165、株式会社ハースト婦人画報社. 2021.7.30.
19. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 11 回「冷凍うどん」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 8 月号. 2021.7.27.
20. 藤原佳典. 「三方良し」の地域参加で、シニアの健康寿命を延ばす. 人生 100 年時代を楽しむ生き方. 「月刊シルバー人材センター」編集室編、p.162-169, 労務行政. 2021 年 8 月
21. 清野諭. 毎日を明るく楽しく元氣よく!～長期化するコロナ禍でのフレイル対策・健康づくりのポイント～. 大田シニア連だより 70(8):6-7, 2021.8 月
22. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 12 回「トマトジュース」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 9 月号. 2021.8.24.
23. 藤原佳典 (監修)・倉岡正高・石川貴美子 (編). 保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門:地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法, ミネルヴァ書房, 2021.8.30.
24. 本橋豊、金子善博、藤田幸司.「地域における自殺対策活動」. 藤原佳典 (監)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり』(単行本). ミネルヴァ書房 (京都), 2021.8.30.
25. 横山友里. 6.3 地域集団の特性別プログラムの展開. 新公衆栄養学 (吉田勉監修、栗原伸公・大瀬良知子編著). 学文社 (東京), 2021.9.1.
26. Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Edahiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, Awata S. The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition. Psychogeriatrics (Letter to the editor), 2021 Sep;21(5):841-843. doi: 10.1111/psyg.12742. (査読あり) (IF: 1.75, 2019/2020)
27. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 13 回「さきいか」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 10 月号. 2021.9.24.
28. 青柳幸利. 季節の健康 TOPICS「活動しやすいときに、歩数を伸ばしておこう」. アイムファイン 秋 2021 autumn p.4、株式会社法研.
29. 青柳幸利. 1 日 8000 歩のうち速歩きを 20 分含める 歩いて健康長寿を延伸. 月刊ことぶき 2021.10 p.52-55、寿出版株式会社. 2021.10.1.
30. 横山友里. 食品摂取の多様性とサルコペニア. 栄養士会雑誌. 2021;64(10):22-25.
31. 藤原佳典. 社会的側面からみたフレイル. 医学のあゆみ. 2021;279(5):436-441.
32. 成田美紀. 長寿を支える「食」と「健康」. いきいきライフさん. 2021 年秋・冬号:2-3, 2021.10 月
33. 植田拓也、藤原佳典. フレイル予防のための社会資源の活用 (通いの場など). WOC Nursing, 2021;9(7):91-95.
34. 成田美紀. コンビニ活用ごはん第 14 回「冷凍ピラフ」. p.17. NHK きょうの健康テキスト. 2021 年 11 月号. 2021.10.25.
35. 新開省二、成田美紀.「食生活と疾病の年次変化」. pp.8-9. 日本食品免疫学学会 (編).『食品免疫学事典』. 朝倉書店, 2021.11.1.
36. 青柳幸利. 晩秋からの健康対策!ウォーキングで体調改善. 月刊ことぶき 2021.11 p.49-52、寿出版株式会社. 2021.11.1.

37. 青柳幸利.『一日八〇〇〇歩、速歩き 20 分』こそ 健康長寿への近道.. 潮 November, 2021 p.102-107、株式会社潮出版社. 2021.11.1.
38. 横山友里、藤原佳典、北村明彦、新開省二. 草津町縦断研究および鳩山コホート研究. 老年内科. 2021;4(4):357-362.
39. 山下真里、清野諭、野藤悠、菅原康宏、成田美紀、横山友里、西真理子、秦俊貴、北村明彦、新開省二、藤原佳典. 東日本大震災被災地における高齢住民の孤独感の実態とその関連要因. 厚生指標, 2021;68(13):13-20.
40. 山下真里、新開省二、清野諭、野藤悠、菅原康宏、藤原佳典. 気仙沼スタディ. 老年内科, 4(4):377-380, 2021.
41. 青柳幸利. 季節の健康 TOPICS「歩けば歩くほど健康になる、この考え方は捨てましょう」. アイムファイン 冬 2022 winter p.4、株式会社法研.
42. 清野諭、阿部巧、野藤悠、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 質問紙で調査した高齢者の身体活動: 大田区元気シニア・プロジェクト. 運動疫学研究. (印刷中) (査読あり)
43. 清野諭、秦俊貴、阿部巧、野藤悠、北村明彦、藤原佳典. 質問紙で調査した高齢者の身体活動: 健康長寿実態調査. 運動疫学研究. (印刷中) (査読あり)
44. 野藤悠、清野諭、阿部巧、新開省二、北村明彦、藤原佳典. 質問紙で調査した高齢者の身体活動: 養父コホート研究. 運動疫学研究. (印刷中) (査読あり)
45. 清野諭. 加齢による全身持久力の変化と低下予防のための運動法. 特集: 100 年動ける体を目指す運動法. 情報誌 ALPS、地域社会ライフプラン協会. (印刷中)
46. 清野諭. 第 1 回 健康寿命を延ばす要因は? 連載 健康長寿: “ちょい足し” のススメ. 情報誌「のうねん」. (印刷中)
47. 藤原佳典. 第 9 章 人工知能はどのように保健医療福祉活動を変えるか. AI はどのように社会を変えるか ソーシャル・キャピタルの格差の視点から (佐藤嘉倫、稲葉陽二、藤原佳典). 2022. 3.
48. 清野諭. 「フレイル」を知って健康寿命の延長をめざそう! 健康日本. (印刷中)

大都市高齢者基盤研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Okamoto S: Pause, pivot and proceed! Undertaking Study and Research in Times of Uncertainty. International Association of Gerontology and Geriatrics 2021 World Pre-Congress E-Conference (symposium), online, 2021.6.23.
2. Okamoto S, Tanaka T: Increase in suicide following an initial decline during the COVID-19 pandemic in Japan. The 2021 World Congress on Health Economics (Award presentation), online, 2021.7.12-15
3. Okamoto S, Shimpei K, Okamura T: Disease burden and universal health coverage monitoring. World Congress of Epidemiology 2021, Online, 2021.9.3-6.
4. Okamoto S: COVID-19 vaccine hesitancy in Japan - Determinants, reasons, and a potential solution, TCJS Early-Career Scholar Forum: The University of Tokyo Center for Contemporary Japanese Studies, online, 2021.9.17.
5. Kamimura K, Okamoto S, Shiraishi K, Sumita K, Komamura K, Tsukao A, Kuno S: A Cost-effectiveness Analysis of Incentivised Exercise Program: The 20th International Conference of the Japan Economic Policy Association, online, 2021.11.6-7.
6. Kobayashi E: When does support to adult children negatively affect the subjective well-being of older Japanese? (Symposium: Shifting Issues of Support Exchange Under 20-Year Implementation of Japanese Long-Term Care Insurance Program). The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Online, 2021.11.10-14.
7. Okamoto S, Kobayashi E: Retirement, happiness, and health in Japan. The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Online, 2021.11.10-14.
8. Iida M, Okamoto S, Sugawara I, Kobayashi E: Transition to widowhood: Trajectories of depressive symptomatology among Japanese older adults. The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Online, 2021.11.10-14.
9. Sugawara I, Kobayashi E: Neighborhood relationship matters for whom?: Interaction with family structure and functional conditions (Symposium: Shifting Issues of Support Exchange Under 20-Year Implementation of Japanese Long-Term Care Insurance Program). The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Online, 2021.11.10-14.
10. Sugisawa H, Sugihara Y, Kobayashi E, Fukaya T, Liang J: Trends in informal and formal long-term care use among older adults with disabilities in Japan. (Symposium: Shifting Issues of Support Exchange Under 20-Year Implementation of Japanese Long-Term Care Insurance Program). The 2021 Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Online, 2021.11.10-14.

(2) 国内

1. 小林江里香、岡本翔平、菅原育子、深谷太郎: 子どもへの経済的・非経済的支援と趣味・学習活動とのコンフリクト・well-beingとの関連による検討. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021.6.12-13. (Web配信6.12-7.31)

2. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者の経済的困難な状況における援助要請を抑制する要因の検討: 性差と主観的経済状態に着目して. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
3. 長谷部雅美, 村山陽, 山崎幸子, 高橋知也, 小林江里香: 単身中高年者における介護サービスの認知度: 日常生活での困り事を相談する相手の有無とその関係による比較検討. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
4. 山口淳, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 小林江里香: 中高年層ユーザーが電子メールやSNSを介した友人関係に期待すること性別・年代別・世帯類型別の検討. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
5. 深谷太郎, 岡本翔平, 菅原育子, 小林江里香: 友人関係の満足度に電子メール利用が与える影響—全国調査データを用いて. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
6. 藤原佳典, 長谷部雅美, 根本裕太, 村山陽, 西真理子, 成田美紀, 箕浦明, 松永博子, 深谷太郎, 小林江里香: 首都圏郊外における近所の子どもの交流の状況と関連要因—世代別にみた検討. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
7. 高橋知也, 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 根本裕太, 松永博子, 村山陽, 小林江里香, 藤原佳典: 地域在住の若・中年および高齢者の持つ被援助志向性の様態と関連要因. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
8. 山崎幸子, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者の孤立感に対する対処法の構成要素: 自由記述による質的検討. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン, 2021. 6. 12-13. (Web配信 6. 12-7. 31)
9. 村山陽: 高齢期の慢性疾患に伴うストレス対処過程の検討: 急性症状の発症からその予後に着目して. 日本応用心理学会第87回大会, オンライン, 2021. 8. 28-8. 29.
10. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 経済的困難を抱える単身中高年男性の援助要請はどのように抑制されるのか: 将来展望意識に着目して. 日本心理学会第85回大会, オンライン, 2021. 9. 1-9. 8.
11. 高橋知也, 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 山口淳, 小林江里香: 周囲からの孤立を感じやすい中高齢者の特徴. 日本心理学会第85回大会, オンライン, 2021. 9. 1-9. 8.
12. 村山陽: 地域共生社会に向けた世代間交流の互惠的効果: 社会心理学の視点から. 日本世代間交流学会 第12回全国大会 セミナー「地域共生社会に向けた世代間交流の互惠的効果」, オンライン, 2021. 10. 2.
13. 原口晋一, 村山陽: 養護老人ホームにおける入所者のライフコースと職員に対する思いの理解に基づく研修会の取り組み: 研究機関との連携の試み, 第16回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'21」, Web配信, 2021. 10. 29-11. 26.
14. 村山陽, 長谷部雅美, 山崎幸子, 山口淳, 小林江里香: コロナ禍における生活困窮者自立支援事業の相談員の職務ストレスの実態とその関連要因. 日本健康心理学会第34回大会, オンライン, 2021. 11. 15-11. 21.
15. 村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身男性中高年者における経済状況と思考抑制傾向が精神的健康に及ぼす影響. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-12. 23.
16. 長谷部雅美, 村山陽, 山崎幸子, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における生活支援サービス利用への抵抗感に関する検討. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-12. 23.
17. Okamoto S: Human Mobility during the State of Emergency in Japan. 第80回 日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
18. 山崎幸子, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 小林江里香: 単身中高年者における馴染みの場の分類と関連要因. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京 2021. 12. 21-12. 23.
19. 小林江里香: 単身中高年者の類型化と類型別にみた地域活動ニーズの分析. 第80回日本公衆衛生学会総会 自由集会「貧困や社会的孤立状態にある単身中高年男性への支援を考えるⅠ」, 東京, 2021. 12. 21-12. 23.
20. 村山陽: 単身中高年男性が生活困窮に陥るプロセスと援助要請との関連 第80回日本公衆衛生学会総会 自由集会「貧困や社会的孤立状態にある単身中高年男性への支援を考えるⅠ」, 東京, 2021. 12. 21-12. 23.
21. 原口晋一, 長谷部雅美: 生きなおす場としての養護老人ホーム. 第80回日本公衆衛生学会総会 自由集会「貧困や社会的孤立状態にある単身中高年男性への支援を考えるⅠ」, 東京, 2021. 12. 21-12. 23.
22. 岡本翔平, 上村一樹, 駒村康平: ワクチン・パスポートによる行動規制緩和とワクチン接種意向—コンジョイント実験の結果から. 第32回日本疫学会学術総会, 千葉, 2022. 1. 26-28.
23. 小林江里香, 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 山口淳, 山崎幸子: 単身中高年者における心身の健康・社会関係・経済状態による類型化と類型別特徴. 日本社会関係学会第2回研究大会, オンライン, 2022. 3. 19-3. 20.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Fujiwara Y: The impact of mutual aid on mental health and perceived isolation among the single elderly: An examination of economic status. *Geriatrics & Gerontology International*, 2021, 21(7), 555-560. (査読あり) [IF 2020: 2.730]
2. ★◎Murayama Y, Yamazaki S, Hasebe M, Takahashi T, Kobayashi E: How single older men reach poverty and its relationship with help-seeking preferences. *Japanese Psychological Research*, 63(3), 406-420, 2021. (Early view: 19 March 2021) <https://doi.org/10.1111/jpr.12329> (査読あり) [IF 2020: 1.444]

3. ★◎Okamoto S, Kobayashi E: Social isolation and cognitive functioning: A quasi-experimental approach. *The Journals of Gerontology: Series B: Psychological Sciences and Social Sciences*, 76 (7): 1441-51, 2021. (first published online: 26 December, 2020) <https://doi.org/10.1093/geronb/gbaa226>. (査読あり) [IF 2020: 4.077]
4. ★◎Okamoto S: Parental socioeconomic status and adolescent health in Japan. *Scientific Reports*, 11, 12089, 2021. (Published online: 8 June 2021) (査読あり) [IF 2020: 4.379]
5. ★◎Okamoto S, Kamimura K, Shiraishi K, Sumita K, Komamura K, Tsukao A, Chijiki S, Kuno S: Daily steps and healthcare costs in Japanese communities. *Scientific Reports*, 11(15095), 2021. (Published online: 23 July 2021) (査読あり) [IF 2020: 4.379]
6. ★◎Okamoto S, Komamura K: Age, gender, and financial literacy in Japan. *PLOS ONE*. 16(11): e0259393, 2021. (Published online: 17 November 2021) (査読あり) [IF 2020: 3.240]
7. Chiu C-J, Chen Y-A, Kobayashi E, Murayama H, Okamoto S, Liang J, Jou Y-H, Chang C-M: Age trajectories of disability development after 65: A comparison between Japan and Taiwan. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 96, 10449, 2021. (査読あり) [IF 2020: 3.250]
8. Murayama H, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S: Short-, medium-, and long-term weight changes and all-cause mortality in old age: Findings from the National Survey of the Japanese Elderly. *The Journals of Gerontology, Series A: Biological Sciences and Medical Sciences*, 76(11), 2039-2046, 2021. (Online first: 24 February 2021) DOI: 10.1093/gerona/glab052 (査読あり) [IF 2020: 6.053]
9. ★◎小林江里香, 原田謙, 斎藤民: 都市部の中老年就労者における地域活動への参加—仕事特性および主観的ウェルビーイングとの関連. *老年社会科学*, 43(1), 36-48, 2021 (査読あり)
10. ★◎村山陽, 山崎幸子, 長谷部雅美, 高橋知也, 小林江里香: 単身男性中高年者における将来展望を抑制する意識の検討. *老年社会科学*, 43(1), 26-35, 2021 (査読あり)
11. ★◎村山陽, 竹内瑠美, 安永正史, 山口淳, 藤原佳典: 小学校における高齢者の読み聞かせボランティア活動が児童の共感的関心の向上に及ぼす影響: 親密な関係性の構築に着目して, *日本世代間交流学会誌*, 11(1), 13-22, 2021. (査読あり)
12. ★◎Kobayashi E, Sugawara I, Fukaya T, Okamoto S, Liang J: Retirement and social activities in Japan: Does age moderate the association? *Research on Aging*, 44(2), 144-155, 2022 <https://doi.org/10.1177/01640275211005185> (online first: April 13, 2021) (査読あり) [IF 2020: 2.585]
13. ★◎Murayama Y, Yamaguchi I, Yasunaga M, Kuraoka M, Fujiwara Y: Effects of Participating in Intergenerational Programs on the Development of High School Students' Self-Efficacy. *Journal of Intergenerational Relationships*, 2021 (online first: 22 July 2021) (査読あり) [IF 2020: 0.850]
14. ★◎Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Matsunaga H, Narita M, Nemoto Y, Fujiwara Y: The effects of reciprocal support on mental health among intergenerational non-relatives: A comparison by age group. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 99(104601), 2022. (査読あり) [IF 2020: 3.250]
15. Tanaka T, ★Okamoto S, Canning D: National health spending, healthcare resources, service utilization, and health outcomes. *American Journal of Epidemiology*, 191(3), 386-396, 2022 (online first: 15 June 2021) (査読あり) [IF 2020: 4.897]
16. 村山幸子, 小林江里香, 倉岡正高, 野中久美子, 安永正史, 田中元基, 根本裕太, 松永博子, 村山陽, 村山洋史, 藤原佳典: 改訂版世代継承性尺度 (JGS-R) の作成と信頼性・妥当性の検討. *パーソナリティ研究*, 30(3), 151-160, 2022 (査読あり)
17. Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Murayama Y, Murayama S, Nemoto Y, Tanaka M, Matsunaga H, Fujita K, Murayama H, Kobayashi E: Influence of “face-to-face contact” and “non-face-to-face contact” on the subsequent decline in self-rated health and mental health status of young, middle-aged, and older Japanese adults: A two-year prospective study. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19(4), 2022. <https://doi.org/10.3390/ijerph19042218> (査読あり) [IF 2020: 3.390]
18. ★◎小林江里香: 高齢者の主観的ウェルビーイングにおける非親族ネットワークの重要性—年齢差の検討. *生きがい研究*, 28, 16-31, 2022. (査読なし)

3 著書等

1. 小林江里香: 全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究 (JAHEAD) . *老年内科*, 4(4), 351-356, 2021. (査読なし)
2. 村山陽: 第 6 章 1. 事業・活動の課題に気づく, 2. 事業・活動の効果・現状・状態を確認する①, 『地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法』倉岡正高, 石川貴美子(編著), pp.197-206, ミネルヴァ書房, 2021.8.
3. 岡本翔平: 健康のためにはまず環境づくりから. 「元気! ながさきの会」第84号. 2021.5.
4. 岡本翔平, 田中孝直: 新型コロナウイルス感染症拡大下における自殺者数の推移. *精神科治療学*, 36(8), 869-874, 2021
5. 岡本翔平: 新型コロナウイルス感染症拡大のもう一つの脅威—感染症対策による非感染性疾患リスクへの影響. *生活経済政策*, No.294, 20-27, 2021
6. Okamoto S, Kamimura K, Komamura K: COVID-19 vaccine hesitancy and vaccine passports: Vaccination or restriction? medRxiv: <https://doi.org/10.1101/2021.09.15.21263559>, 2021
7. Okamoto S: State of emergency and human mobility during the COVID-19 pandemic. medRxiv: <https://doi.org/10.1101/2021.06.16.21259061>, 2021
8. Okamoto S, Sata M, Nakagoshi N, Kamimura K: Box 5. Catastrophic health spending and unmet need among households with older persons in Japan. In: World Health Organization and World Bank. Global monitoring report on financial

protection in health 2021. (External contributors helping provide evidence on foregone care and its drivers) 2021年12月

9. 岡本翔平：「愛媛県 委託事業 県内市町国保間における医療費格差の可視化業務」に関する報告書（事業主：株式会社データホライゾン・株式会社NTTデータ経営研究所に対するアドバイザーとして参与）2022年3月
10. 岡本翔平：「山梨県 委託事業 医療費適正化推進調査」に関する報告書（事業主：株式会社データホライゾン・株式会社NTTデータ経営研究所に対するアドバイザーとして参与）2022年3月
11. 岡本翔平：「厚生労働省 保険局国民健康保険課 委託事業 データヘルス計画に基づく保健事業の実態調査等事業一式」に関する報告書（事業主：株式会社NTTデータ経営研究所に対するアドバイザーとして参与）2022年3月
12. 岡本翔平：「厚生労働省 保険局 医療介護連携政策課 医療費適正化対策推進室 委託事業 特定健診・保健指導の効果的な実施方法に関する調査研究一式」に関する報告書（事業主：株式会社つくばウェルネスリサーチからの委託を受け、研究デザインの策定・NDB分析・報告書執筆を担当）2022年3月
13. Okamoto S, Kobayashi E: The retirement-health puzzle: Breathe a sigh of relief at retirement? medRxiv: <https://doi.org/10.1101/2022.03.13.22271992>, 2022
14. 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム：日常生活における支え合いに関する調査報告書. 2022年3月（執筆者：村山陽，山崎幸子，長谷部雅美，高橋知也，小林江里香）

受賞

社会参加と社会貢献研究

1. 村山洋史，飯塚あい，町田征己，天笠志保，井上茂，藤原武男，菖蒲川由郷 第10回（2021年）日本認知症予防学会学術集会 浦上賞 高齢期の社会的孤立と脳容積の関連：NEIGE Study 2021. 6
2. 村山洋史，井上茂，藤原武男，菖蒲川由郷 日本認知症ケア学会第22回（2021年）大会石崎賞世間体意識は認知機能低下に関連するか？：NEIGE Study 2021. 6
3. 根本裕太，桜井良太，松永博子，長谷部雅美，藤原佳典 日本老年社会学会第63回大会優秀演題賞 首都圏郊外に居住する就業者における雇用形態と健康行動の関連の検討2021. 6
4. 根本裕太，桜井良太，松永博子，長谷部雅美，藤原佳典 第32回日本老年学会合同セッション優秀賞 首都圏郊外に居住する就業者における雇用形態と健康行動の関連の検討 2021. 6
5. ◎相良友哉，高橋知也，西中川まき，村山洋史，藤原佳典 奨励賞首都圏高齢者のボランティア活動頻度と心身・社会的状況との関連—世代間交流型ボランティアを行う高齢者を対象として— 日本世代間交流学会誌，2021，10(1/2):25-32. 2021. 10
6. 嶋田誠太郎，高橋勇太，村山洋史 第80回日本公衆衛生学会大会最優秀演題賞 特定健診受診率は勧奨方法の違いに影響されるのか？横浜市国民健康保険での検証 2021. 12
7. 村山洋史2021年度東京都健康長寿医療センター職員表彰 日本人高齢者全体のフレイル割合は8.7% 2022. 3

ヘルシーエイジングと地域保健研究

1. 清野諭，野藤悠，横山友里，遠峰結衣，秦俊貴，西真理子，新開省二，藤原佳典，北村明彦日本老年社会学会第63回大会優秀演題賞COVID-19第1波が大都市在住高齢者の新規要介護申請に及ぼした影響：分割時系列分析による検討2021. 6
2. 清野諭，野藤悠，横山友里，遠峰結衣，秦俊貴，西真理子，新開省二，藤原佳典，北村明彦第32回日本老年学会合同セッション優秀賞COVID-19第1波が大都市在住高齢者の新規要介護申請に及ぼした影響：分割時系列分析による検討2021. 6
3. 清野諭，阿部巧，野藤悠，秦俊貴，新開省二，北村明彦，藤原佳典第23回日本運動疫学会学術総会最優秀演題賞大都市在住高齢者におけるIPAQ-shortで評価した総中高強度身体活動量・座位時間と総死亡リスクとの量・反応関係：4年間の縦断研究2021. 6
4. 根本裕太，桜井良太，松永博子，長谷部雅美，藤原佳典日本老年社会学会第63回大会優秀演題賞首都圏郊外に居住する就業者における雇用形態と健康行動の関連の検討2021. 6
5. 根本裕太，桜井良太，松永博子，長谷部雅美，藤原佳典第32回日本老年学会合同セッション優秀賞首都圏郊外に居住する就業者における雇用形態と健康行動の関連の検討2021. 6
6. ◎相良友哉，高橋知也，西中川まき，村山洋史，★藤原佳典 奨励賞首都圏高齢者のボランティア活動頻度と心身・社会的状況との関連—世代間交流型ボランティアを行う高齢者を対象として— 日本世代間交流学会誌，2021，10(1/2):25-32. 2021. 10
7. 清野諭日本公衆衛生学会奨励賞地域における介護予防・フレイル予防に関する疫学研究とその実践的応用2021. 12
8. 山下真里，清野諭，野藤悠，菅原康宏，藤田かんな，北村明彦，新開省二，藤原佳典 Regional IPA/JPS Meeting Presentation Award Examining apathy prevalence and associated factors among older adults after Great East Japan Earthquake: A mixed-methods study2021. 9

大都市高齢者基盤研究

1. 村山陽，山崎 幸子，長谷部 雅美，高橋知也，山口淳，小林江里香日本心理学会第85回大会「学術大会特別優秀発表賞」経済的困難を抱える単身中高年男性の援助要請はどのように抑制されるのか：将来展望意識に着目して2021. 12

2. Shohei Okamoto (with Takanao Tanaka) iHEA Annual Student Paper Prize (2nd) International Health Economics Association 優秀論文賞 : Suicide increase after initial decline amid the COVID-19 pandemic in Japan 2021.4

★ コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

自立促進と精神保健研究チーム

チームリーダー：金憲経

研究チームの概要・目的

多くの高齢者が希望と尊厳をもって地域で生きることができる社会を創出するには、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進とともに、たとえ疾病に罹患しても、障害をもって、本人が主体として自分自身の人生を選択し、必要な社会支援にアクセスすることができ、可能な限り自立した生活を継続することを可能にする社会環境が求められる。そのような意味で、我々の研究チームは、「高齢者の自立促進」を共通の目標に掲げて、老年病や老年症候群の予防プログラムの開発とともに、認知症や障害があっても、希望と尊厳をもって暮らせる社会-Dementia Friendly Communities (DFCs)の創出をめざした研究を遂行することとした。

研究チームは、「フレイルと筋骨格系の健康」、「口腔保健と栄養」、「認知症と精神保健」という3つの研究テーマで構成されている。各テーマの研究課題は以下の通りである。

【テーマ1：フレイルと筋骨格系の健康】

目標：フレイル・サルコペニア・認知機能低下・筋骨格系の障害の要因解明と予防策の提案

- 1) 会場型のRCT 介入研究
- 2) 家庭中心のRCT 介入研究
- 3) 身体・精神機能低下と関連する要因の解明
- 4) 身体活動・座位行動に関する共同研究
- 5) 就業安全指標開発とその有効性に関する研究

【テーマ2：口腔保健と栄養】

目標：高齢者の生活機能障害、栄養・口腔機能低下の実態把握と包括的支援プログラムの開発

- 1) 高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究
- 2) 認知症の人の口と栄養の支援に関する研究
- 3) 口腔と栄養関連施策に関する検討

【テーマ3：認知症と精神保健】

目標：認知症とともに希望と尊厳をもって暮らせる社会の創出

- 1) 大都市におけるDFCsの創出に向けた総合的研究
- 2) 認知機能障害や精神障害を持つ高齢者にも適用可能な包括的QOL指標の開発
- 3) 認知機能評価尺度の標準化
- 4) 重層的生活課題を持つ人々に対する居住支援・生活支援システムの開発
- 5) 認知症や精神障害とともに生きる高齢者に対する農業ケアプログラム開発
- 6) 認知症・フレイルに関する共同研究

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

フレイルと筋骨格系の健康研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
会場型RCT介入研究	介入プログラムの開発と効果検証	○サルコペニアに対するRCT ○骨格筋量減少者に対するRCT	重複フレイルに対するRCT	MCIに対するRCT	認知的フレイルに対するRCT	○腰痛・膝痛に対するRCT ○プログラムの普及活動
在宅型介入研究	家庭用の介入プログラム		介入プログラム	身体的フレイル	身体的フレイル	プログラムの普

究	開発と効果検証		の開発	に対する介入	に対する介入	及活動
身体・精神機能低下と関連する要因の解明	縦断分析によるADL低下あるいは認知機能低下と関連する要因の解明	運動習慣とADLやIADL低下との関連性	MCIと関連する要因の解析	運動と認知機能低下、バイオマーカーの探索	腸内微生物叢と認知機能、バイオマーカー探索	成果普及活動
フレイルと関連する要因の解明	○フレイルと尿失禁との関連性の解明 ○認知的フレイル発症と関連する要因の解明	○食習慣や運動習慣とフレイルとの関連性 ○認知的フレイルと関連する要因（横断分析）	重複フレイルと関連する要因の解析	フレイルと認知機能低下との関連性	睡眠・うつ・BMI 腸内微生物叢とフレイル・サルコペニアとの関連性	成果普及活動
筋骨格系の障害と関連する要因の解明	痛み・複数回転倒・骨折と関連する要因の解明	腰痛と関連する要因の解明	ADL障害発生と関連する要因の解明	体力と尿失禁、食習慣と運動機能	怪我転倒と関連する要因、乳製品関連研究	成果普及活動

口腔保健と栄養研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
(1) 高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究	①オーラルフレイル予防プログラムの開発検証・啓発	・神奈川県における介入（第二期から継続） ・複数地域におけるオーラルフレイル実態調査	・複数地域における介入研究 ・介入効果の検証（神奈川県1年後）	・複数地域における介入研究 ・介入効果の検証（神奈川県2年後、複数地域1年後）	・複数地域における介入研究 ・プログラム、関連資料の作成（神奈川県3年後、複数地域2年後）	・複数地域における介入研究 ・関連資料完成（神奈川県4年後、複数地域3年後）
	②口腔機能および栄養評価の確立	・要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査（第二期から継続）	・要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 ・各指標妥当性の検証	・調査および令和3年度介護報酬改定へのエビデンス提供	・要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 ・口腔・栄養改善プログラム、関連資料の作成	・要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 ・口腔機能、栄養評価の確立
	③要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン作成（第二期作成）	・CQの再検討、調整、調査 ・普及、評価、啓発	・CQの再検討、調整、調査 ・普及、評価、啓発	・普及、評価、啓発 および令和3年度介護報酬改定へのエビデンス提供	・CQの再検討、調整、調査 ・普及、評価、啓発	・CQの再検討、調整、調査 ・普及、評価、啓発
	④地域在住高齢者の食環境整備	地域在住高齢者の食環境実態予備調査	地域在住高齢者の食環境実態調査（市販弁当・通いの場など）	実態調査に基づく課題・対応方策の検討	実態調査に基づく課題・対応方策マニュアル作成	実態調査に基づく課題・対応方策マニュアル効果検証およびブラッシュアップ
(2) 認知症の口と栄養の支援に関する研究	① 基盤データの収集および解析	・施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査（第二期か	・施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査	・調査及び令和3年度介護報酬改定へのエビデンス提供	・施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査	・施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査

		ら継続)	・モデル施設の リクルート		・モデル事例の 検討	・トレーニング プログラム、教 材、関連資料の 作成
	②認知症患者の歯科的対 応および歯科治療に関す るガイドライン作成・啓 発	・CQの再検討、 調整、調査 ・普及、評価、啓 発	・CQの再検討、 調整、調査 ・普及、評価、啓 発	・CQの再検討、 調整、調査およ び令和3年度介 護報酬改定への エビデンス提供	・CQの再検討、 調整、調査 ・普及、評価、啓 発	・CQの再検討、 調整、調査 ・普及、評価、啓 発
(3) 口腔と栄 養関連施策に 関する検討	①平成30年度介護報酬改 定の効果検証（口腔、栄 養）	・入所施設のデ ータ収集➤横断 データの解析	・入所施設のデ ータ収集、介護・ 死亡データの収 集➤縦断データ の解析（1年後）	・入所施設のデ ータ収集、介護・ 死亡データの収 集➤縦断データ の解析（2年後） ・令和3年度介 護報酬改定への エビデンス提供	・入所施設のデ ータ収集、介護・ 死亡データの収 集➤縦断データ の解析（3年後） ・令和3年度介 護報酬の効果検 証	・入所施設のデ ータ収集、介護・ 死亡データの収 集➤縦断データ の解析（4年後）
	②令和3年改定に向けた 通所サービスにおける口 腔栄養の実態、評価	・通所施設のコ ホート構築 ・通所施設のデ ータ収集➤横断 データの解析	・通所施設（通 いの場合含む）の データ収集、介 護・死亡データ の収集➤縦断デ ータの解析（1年 後）	・通所施設（通 いの場合含む）の データ収集、介 護・死亡データ の収集➤縦断デ ータの解析（2年 後） ・令和3年度介 護報酬改定への エビデンス提供	・通所施設（通 いの場合含む）の データ収集、介 護・死亡データ の収集➤縦断デ ータの解析（3年 後） ・令和3年度介 護報酬の効果検 証	・通所施設（通 いの場合含む）の データ収集、介 護・死亡データ の収集➤縦断デ ータの解析（4年 後）

認知症と精神保健

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
①DFCsの創出 に向けた総合 的研究	大都市において、認知症 である本人及び多様なス テークホルダーと協働し て、DFCs創出モデルを開 発する。	RBAに依拠する DFCsモデル開発 に向けたアクシ ョン・リサーチ	包括的指標を用 いたDFCsモデル の多面的評価 (ベースライン 調査)	DFCsモデルの多 面的効果評価 (アウトカム評 価)	多様な地域への DFCsモデルの普 及	大都市における DFCs創出に向け た政策提言
	重層的生活課題をもつ 人々に対する居住支援・ 生活支援システムのモデ ルを可視化させ、その効 果を縦断的に評価する。	居住支援・生活 支援システムの モデル化／シス テムの効果に関 するパイロット 研究	包括的指標を用 いた居住支援・ 生活支援モデル の多面的評価	居住支援・生活 支援モデルの多 面的効果評価 (アウトカム評 価)	多様な地域への 居住支援・生活 支援モデルの般 化	重層的生活課題 をもつ人々に対 する居住支援・ 生活支援システ ムに関する政策 提言

	離島の認知症初期集中支援推進事業のチーム員会議を、WEB会議システムを導入して継続的に支援し、その有用性を評価する。	WEB会議システムを用いた認知症支援システム実現可能性に関するパイロット研究	システムの効果を縦断的に評価するためのベースライン評価	システムの効果の縦断的評価		
	認知症高齢者等を対象とする農業ケアの効果を縦断的に評価する。	農業ケアの実現可能性に関するパイロット研究	包括的指標を用いた多面的効果評価	多地域共同研究の実施	多地域における農業ケアの多面的効果評価	農業ケアの般化に向けた研究
② 若年性認知症の有病率・生活実態調査と社会支援システムの開発	東京都および全国の協力研究機関・自治体と連携して、若年性認知症の有病率と生活実態を把握し、社会支援の確保に向けた政策提言を行う。	東京都および全国の若年性認知症の有病率調査	東京都および全国の若年性認知症の生活実態調査／若年性認知症支援の先進事例集の作成	若年性認知症のための社会支援システムに関する政策提言		
③ 認知症施策の評価に関する研究	認知症疾患医療センターの質を確保するための具体策を考案して政策提言を行うとともに、機能評価指標を用いて事業の質をモニタリングする。	質を評価するための検討委員会の設置／事業の質の向上に向けた具体策の検討	事業の質向上に向けた取り組みの実践／機能評価モニタリング	機能評価データの分析/PDCAサイクル稼働/政策提言		
④ 認知症・フレイルに関する共同研究	研究所内の他のテーマおよび病院部門と連携して、「認知症の複雑化」「フレイルの重複化・重症化」の要因を明らかにするとともに、予防プログラムを開発する。	認知症・フレイルの複雑化・重複化に関する観察研究／ツール開発／画像疫学的分析	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化を予防する統合的な介入モデルの考案	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化を予防する統合的介入モデルの評価	統合的介入モデルの長期的効果評価	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化予防に関する政策提言

フレイルと筋骨格系の健康

構成メンバー

テーマリーダー：金憲経

研究員：笹井浩行、大須賀洋祐、小島成実

非常勤研究員：田中茂徳、島田裕之、丸尾和司

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

①RCT介入研究

- a. プレフレイル・フレイル高齢者58名を対象に、ラジオ体操を活用した在宅型運動プログラムの実行可能性・安全性・有効性を予備的ランダム化比較試験により検証した。
- b. 筋量が減少した高齢女性156名を対象に、筋力トレーニングとHMBの筋質に対する相乗・相加効果を二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験の二次解析により検証した。

- c. 3剤以上服薬する高齢女性73名を対象に、スマートウォッチを活用した服薬管理の有用性をランダム化比較試験により探索的に検証した。

②フレイル・筋骨格系障害・認知機能低下と関連する要因の解明

- a. 身体機能と尿失禁との関連性を縦断解析し、その結果を学術誌に公表した。
- b. コロナ禍における居住環境と身体活動や活動範囲との関連性を縦断データより解明し、その結果を学術誌に投稿し、現在査読中である。
- c. シルバー人材センターの会員を対象に転倒事故に関連する要因を特定し、その結果を学術誌に投稿し、査読中である。
- d. 膝関節症高齢者の座位行動の関連要因を特定し、学術誌に投稿し、査読中である。
- e. 10種類の食品摂取頻度が日常生活動作への影響を解析し、投稿・査読中である。
- f. 膝伸展筋力とうつ状態に関する横断分析をおこない、その結果を国際学会で報告した。
- g. 身体的フレイルとうつ発症の縦断分析をおこない、その結果を学会で報告した。
- h. フレイルを伴う尿失禁者の特性を横断分析し、その結果を学会で報告した。
- i. MCI高齢者と正常高齢者間の腸内細菌叢・血中composite marker・PET検査によるアミロイドβ陽性率の差を解明するための共同研究が進行中である。
- j. チーズ摂取とBDNFや認知機能との関連性の縦断検討の受託研究が進行中である。
- k. 大豆食品の摂取状況と運動・認知機能の横断分析結果を学会で発表予定である。

【その根拠】

① RCT介入研究

- a. ラジオ体操を活用した在宅型運動プログラムがプレフレイル・フレイル高齢者の体力やQoLへ及ぼす効果について、データ解析が終了し、投稿準備中である。
- b. 筋量減少高齢女性156名を対象とした運動実践とHMB摂取による介入が筋質に及ぼす結果を**Med Sci Sports Exerc**誌に投稿し、アクセプトされた。
- c. 多剤服用者を対象にスマートウォッチによる服薬管理の有効性に関する介入データの解析が終了し、現在投稿準備中である。

②フレイル・筋骨格系障害・認知機能低下と関連する要因の解明

- a. 2008年ベースライン調査参加者の4年後データ（890名）を解析し、221名の新規発生した尿失禁関連要因を**Geriatr Gerontol Int**誌(21: 178-184, 2021)に掲載した。
- b. 2020年お達者健診のサブグループ193名を対象にコロナ禍における居住環境と身体活動や外出範囲に関するデータを解析し、その結果を**IJERPH**誌に投稿、現在査読中である。
- c. 埼玉県シルバー人材センターの会員1164名を対象に、転倒事故に関連する修正可能な個人要因を特定し、**Geriatr Gerontol Int**誌に投稿、現在査読中である。
- d. 2017～2018年健診参加者1,365名中、2019年追跡者757名の変形性膝関節症者に特異的な座位行動の関連要因を特定し、**J Geriatr Phys Ther**誌に投稿し、現在査読中である。
- e. 2008年と2012年の健診参加者1,111名の10種類の食品群の摂取頻度が女性高齢者の日常生活動作に及ぼす影響を縦断解析し、**Nutrients**誌に投稿して査読中である。
- f. 2017～2018年ベースライン健診参加女性1258名を対象に、膝伸展筋力とうつ状態の関連を横断的に明らかにし、アメリカスポーツ医学会(Washington DC, 2021.6.1-5)で報告した。
- g. 2017年ベースライン調査参加者1,035名の2年後である2019年追跡調査参加者477名のデータを縦断的に明らかにし、その結果を国際疫学会(Online, 2021.9.3-6)で報告した。
- h. お達者健診2017・2018年参加者1,365名を対象に身体的フレイルと尿失禁との関連性を解明し、第8回日本サルコペニアフレイル学会大会(2021.11.6-7、大阪)で報告した。
- i. 正常者44名(CDR=0)、MCI44名(CDR $\geq$ 0.5)を対象にMRI検査、採便(腸内細菌叢分析)、採血(composite marker分析)、PET(A β)検査を終了し、現在報告書作成中である。
- j. 2017年健診参加者1,035名と2019年追跡調査参加者575名の保存血液を分析し、チーズ摂取状況とBDNF量・認知機能の変化との関連性の縦断データ解析が進行中である。
- k. 2017・18年健診参加者1,365名の大豆食品の摂取状況と運動・認知機能の横断的関連を解析し、第80回日本公衆衛生学会総会(2021.12.21-23、東京)にて発表予定である。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<就業安全指標>

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（ヘルシーエイジングと地域保健）

- 【センター外】 東京大学
- ＜居住環境と身体活動＞
- 【センター外】 産総研、九州大学
- ＜食習慣と認知機能＞
- 【センター外】 不二たん白質研究振興財団
- ＜ラジオ体操＞
- 【センター内】 自立促進と精神保健研究チーム（口腔保健と栄養）、循環器内科
- 【センター内】 かんぽ生命、東京医科大学
- ＜認知機能＞
- 【センター内】 神経画像研究チーム、放射線診断科
- 【センター外】 大塚栄養研究所
- ＜BDNF＞
- 【センター外】 明治株式会社
- ＜ビタミンK＞
- 【センター内】 老化機構研究チーム
- 【センター外】 東京大学

口腔保健と栄養研究

構成メンバー

テーマリーダー：平野浩彦

研究員：岩崎正則、小原由紀、本川佳子

非常勤研究員：鈴木隆雄、那須郁夫、渡邊裕、中島純子、高城大輔、五十嵐憲太郎、釘宮嘉浩、星野大地、村田早苗、森下志穂、松原ちあき、青柳三千代、倉迫小奈津、三上友里江、佐々木直子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

①高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究

オーラルフレイル予防プログラムの開発検証については無作為化比較対照試験を実施し、さらに複数地域での地域介入も行い、地域への波及効果や導入プロセスの課題などを収集し知見をまとめた。フレイル予防を基軸とした地域在住高齢者の食環境整備においては、地域在住高齢者における市販弁当等を活用した食環境整備の課題解決への取り組みに関し、市販弁当等の公定法による食品成分分析と栄養表示との比較検討を厚労科研（本川班長）にて実施した。これまでの知見を踏まえ、通いの場、通所系サービスへの栄養専門職の効率的な関与を推進するための連携モデル、運営マニュアル作成に関する知見整理を厚労科研（本川班長）を通じ実施している。

②認知症の人の口と栄養の支援に関する研究

秋田、東京、神奈川、山梨、愛知の介護保険施設、特定施設、グループホーム利用者を対象とした調査で収集した、横断および縦断データを整理しデータベース作成を実施した。昨年度、日本医療研究開発機構（AMED）の事業にて作成した「認知症の人の歯科治療ガイドライン」のMinds診療ガイドラインデータベース登録を終了し、英文化を終了した。また、全国で実施される歯科医師の認知症対応力向上研修の講師としてガイドラインも含めた知見の周知を引き続き行った。要介護高齢者義歯作成可否の判断基準の検討を行い認知機能、リンスング可否などが予測妥当性を持つ項目として確認され、知見をまとめた。さらに、認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理等に関する調査研究事業、特に認知症疾患医療センターと病院歯科などのインフラを基盤とした実態調査事業を厚労省老健事業にて実施している。

③口腔と栄養関連施策に関する検討

令和2年度厚労省老健事業（小原・岩崎）にて、利用者の口腔機能低下を早期に確認し、適切な管理等を行うことにより口腔機能低下の重症化等の防止に繋げる観点から、介護職員等による口腔スクリーニングの実施を新たに評価するとし、栄養スクリーニング加算と一体的に取り組む形で「口腔・栄養スクリーニング加算」が新設された。さらに、令和3年度老健事業（小原）にて当該加算の効果検証、令和3年厚労科研（2年）（本川）にて効果的な実施に向けた取り組みの検討が実施されている。

【その根拠】

① 高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究

オーラルフレイル予防プログラムの開発検証については、無作為化比較対照試験により得られた知見を国際学術誌を通じて公表した (Shirobe M, et al. Effect of an Oral Frailty Measures Program on Community-Dwelling Elderly People: A Cluster-Randomized Controlled Trial. Gerontology. 9:1-10. (Epub ahead of print)). フレイル予防を基軸とした地域在住高齢者の食環境整備の知見を、厚労科研 (本川班長) 「地域高齢者の市販弁当等の購買状況を踏まえた適切な食事の普及啓発のための研究」報告書としてまとめた。

② 認知症の人の口と栄養の支援に関する研究

「認知症の人の歯科治療ガイドライン」のMinds診療ガイドラインデータベース登録を終了した (<https://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0398/G0001138>)。

全国で実施される歯科医師の認知症対応力向上研修の講師として知見の周知。(一部 <https://www.tokyo-da.org/archives/30596>)

要介護高齢者義歯作成可否の判断基準の検討を行い論文作成雑誌掲載 (Meguro A, Ohara Y, et al. Denture wearing is associated with nutritional status among older adults requiring long-term care: a cross-sectional study. J Dent Sci. (in press)).

さらに、認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理等に関する調査研究事業を厚労省老健事業にて実施 (令和3年度 事業責任者: 平野浩彦 認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理に関する調査研究事業)。

③ 口腔と栄養関連施策に関する検討

令和3年度介護報酬改定にて「口腔・栄養スクリーニング加算」が新設された

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000765915.pdf>)。

上記当該加算の効果検証実施 (令和3年度厚労省老健事業 事業責任者: 小原由紀 居宅系サービス利用者等の口腔の健康状態の維持向上等に関する調査研究事業)。

通いの場、通所サービスへの栄養専門職の効率的な関与を推進するための検討の実施 (厚労科研 研究代表: 本川佳子 高齢者の自立支援・重度化防止を効果的に進めるための栄養専門職と介護職等による栄養食生活支援体制の効果検証)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム (フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科、フレイル外来

【センター外】東京大学高齢社会総合研究機構、東京医科歯科大学、昭和大学歯学部、日本歯科大学、神奈川県庁、神奈川県歯科医師会、日本栄養士会

<認知症の口と栄養の支援に関する研究>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム (フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科、高齢診療科

【センター外】日本老年歯科医学会、日本歯科衛生士会、新潟大学大学院医歯学総合研究科、日本歯科医師会、日本歯科総合研究機構、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、九州大学大学院歯学研究院、国立長寿医療研究センター、東京歯科大学

<口腔と栄養関連の施策に関する研究>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム (フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、歯科口腔外科

【センター外】日本老年歯科医学会、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、鳥取県歯科医師会、日本歯科衛生士会、新潟大学大学院医歯学総合研究科、高知学園短期大学、日本歯科医師会、日本歯科大学、日本歯科総合研究機構、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、岩手県歯科医師会、山梨県歯科医師会、鶴見大学歯学部、東北福祉大学、国立長寿医療研究センター

認知症と精神保健

構成メンバー

テーマリーダー：岡村毅

研究員：稲垣宏樹、宇良千秋、枝広あや子、杉山美香、佐久間尚子、宮前史子

非常勤研究員：岡村睦子、釘宮由紀子、多賀努、中山莉子、山村正子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

1 大都市におけるDFCsの創出に向けた総合的研究

主要な疫学フィールドの状況

A) 高島平フィールド

板橋区高島平において、2016年より地域在住高齢者を対象とする疫学調査を実施している。並行して2017年より同地域においてDFCs創出に向けた総合的研究をスタートさせた。具体的には、研究フィールド内に地域の拠点「高島平ココからステーション」を設置し、地域の多様なステイクホルダー（地域包括支援センター、医師会、在宅医、訪問看護ステーション、町内会、民生委員、住宅供給会社、地域生活支援を提供している多様な活動団体）と連携して、Community-Based Participatory Researchを展開している。集いの場のみならず、囲碁教室や認知症をもつ人の「本人ミーティング」を展開している。

B) 千代田フィールド

2010年より千代田区で要介護未認定高齢者（約10,000人）を対象とする郵送調査（隔年で5,000人ずつ/悉皆）を実施している。また区の事業（訪問調査、訪問看護ステーション研究）を積極的に支援し、10年以上にわたる協力関係を維持している。

1.1 大都市在住の高齢者の認知機能評価やQOL評価に関する研究

大規模疫学調査で見出された認知機能低下をもつ住民のうち、自宅の訪問調査に応じた約200名の人と継続的に連絡を取っている。3年後に再訪問し、自宅で認知機能、QOLに関する調査と、インデプスインタビュー（録音）を行った。

1.2 認知機能低下とともに地域生活を続けることができる要因に関する研究

上記の200名とは、3年後以降も連絡を取り合っている。5年後の実態を明らかにし、その関連要因を調べた。

1.3 研究者が臨床家としての側面も持ちながらコミュニティに参加して行う研究

高島平の地域拠点でのアクションリサーチにおいて、保健師、歯科医、心理士、精神科医が地域にいて、通常は医療に繋がらないアンメットニーズをあぶり出すことができた。例えば、妄想があるにもかかわらず絶対に病院には行かず、また自傷他害などはないために強制的な受診にもつながらない人の実態である。さらに「認知症の本人ミーティング」や「共生囲碁教室」を運営し、質的に解析した。

1.4 COVID-19流行下で高齢者の健康に関する研究

高島平では、支援対象者にきめ細かく電話等でアウトリーチした。千代田では、2020年にも例年4月に行ってきた調査を行い、初回の緊急事態下の貴重なデータが得られた。行政の関心が高く、その後2020年末、2021年4月にも調査を行った。

1.5 地域包括ケアシステムにおける寺院等の信仰に基づく組織の役割に関する研究

地域包括ケアシステムにおいて、寺院や僧侶を重要な社会資源として捉えなおす共同研究を進めている。寺院での介護者カフェを展開している。「月参り」の全国調査を行った。実存的不安を調査票に含めた調査を小田原、上越の特養12か所で行った。コロナ禍における寺院の活動実態ウェブ調査を3回行った（回答数約500）。なお特定の宗派や宗教の利益にならないように慎重な配慮をしている。

2 重層的生活課題を持つ人々に対する居住支援・生活支援システムの開発

10年以上協力関係にあるNPO法人ふるさととの会においてもコロナ感染者が数人見られたので、法人の保健師と対処したが、幸い直接的な死者やクラスターはなかった。家を失ったが、介護施設に入所できない高齢者の事実上の住まいとなっている「無料定額宿泊所」（法内と法外の境界に位置する）は制度化され「日常生活支援居住施設」という新たな法内制度となった。今後はこの制度について研究、支援、提言していく予定である。

3 認知症や精神障害とともに生きる高齢者に対する農業ケアプログラム開発

3.1 都市部

板橋区で板橋社協、板橋総合ボランティアセンター、NPO法人、地域包括2か所、区の高齢支援課と協働して研究会を組織し、小学校の跡地に農園を作った。30人程度の高齢者が定期的に参加しており、事前事後の調査も行った。さらにボランティアセンターの紹介で「8050」の方に数名インタビューした。

3.2 非都市部

2016年から継続している新潟県上越市のフィールドで、農福連携を用いたケアと近所の通常のデイサービスの比較研究をした。

4 認知症・フレイルに関する共同研究

他のチームと連携して進めている高島平スタディのデータを主に用いて、他のチームの研究員がフレイル等をテーマに解析し、論文化した。

【その根拠】

1 大都市におけるDFCsの創出に向けた総合的研究

1.1 認知症ケア学会誌、Psychogeriatricsに論文が掲載；1.2 BMC Geriatrics, Int J Geriatric Psychiatryに論文が掲載、Psychogeriatricsにて論文が査読中；1.3 認知症ケア学会誌、Int J Environmental Research & Public Healthに論文が掲載。BMC geriatricsにて2つ、老年精神医学雑誌にて論文が査読中；1.4 Psychogeriatricsに2つ、Int J Geriatr Psychiatryに1つ論文が掲載。認知症ケア学会誌にて査読中；1.5 Psychogeriatricsに2つ、Int J Geriatr Psychiatryに2つ論文が掲載された。さらにJournal of Death and DyingとDementiaに論文が査読中である。

2 重層的生活課題を持つ人々に対する居住支援・生活支援システムの開発

J Social Distress & Homelessnessに論文が掲載され、老年医学雑誌に論文を投稿中。

3 認知症や精神障害とともに生きる高齢者に対する農業ケアプログラム開発

3.1 Psychogeriatricsと Int J Geriatr Psychiatryに論文が掲載された；3.2 BMC Geriatricsに論文が掲載された。

4 認知症・フレイルに関する共同研究

GGI (2つ), Int J Cardiology Cardiovascular Risk, Arch Gerontol Geriatr, J Am Geriatr Soc, Alzheimers Dement, Int J Geriatr Psychiatryに掲載。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<大都市におけるDFCsの創出に向けた総合的研究>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、口腔保健と栄養）、地域保健と社会参加研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター、精神科、放射線診断科

【センター外】東京都、板橋区、板橋区医師会、慶応義塾大学、神奈川大学、大正大学、NPO法人ふるさととの会、暮らしの保健室、UR都市機構、マンション管理業組合など

<認知症や精神障害とともに生きる高齢者に対する農業ケアプログラム開発>

【センター外】農水省、農林水産政策研究所、兵庫県立大学、板橋社協、板橋区高齢福祉課

<認知症・フレイルに関する共同研究>

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、口腔保健と栄養）、地域保健と社会参加研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター、精神科、放射線診断科

論文・学会発表

フレイルと筋骨格系の健康

1 学会発表

(1) 海外

1. Ohta T, Sasai H, Kojima N, Osuka Y, Kim H. Knee extensor muscle strength and the depressive status among older Japanese women: A cross-sectional study. ACSM 2021 Annual Meeting, Washington DC, 2021.6.1-5.

2. Kim H, Sasai H. Recent trends and prospects in nutritional supplementation in community-dwelling older Japanese adults with sarcopenia and frailty. 2021 KFN International Symposium and Annual Meeting Tailored to Fit: Food & Nutrition in New Era, Korea・online, 2021.10.27-29.
3. Kim H, Sasai H. Effectiveness of non-pharmacological interventions on the management of sarcopenia in community-dwelling older adults. The 7th Asian Conference Frailty and Sarcopenia, Korea/online, 2021.11.5-6.
4. Sasai H. A newly-establishing community-based geriatric cohort targeting frailty, sarcopenia, and mild cognitive impairment: The Otassha Next Study. The 7th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Korea・online, 2021.11.5-6.
5. Sasai H, Kojima N, Osuka Y, Kim H. Physical frailty and the onset of depressive symptoms in older Japanese women. World Congress of Epidemiology 2020, Australia・online, 2021.9.3-6.
6. Shimada H. Symposium3 “Cohort Studies for Frailty and Sarcopenia” Impact of Physical, Cognitive, Psychological and Social Frailty on Disability Incidence in the Older Adults: From NCGG-SGS as a Japanese National Cohort Study. The 7th Asian Conference For Frailty And Sarcopenia(ACFS 2021), Suwon, Korea(Hybrid Conference), Nov 5, 2021.
7. Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Shinkai Y, Shimada H. Life satisfaction is associated with the relationship between mild cognitive impairment and the incidence of disability. Alzheimer’s Association International Conference, Denver, the United States of America (Virtual conference), July 26~30, 2021.
8. Sasai H, Ando T, Kishimoto H, Kojima N, Osuka Y, Kim H. Housing type and active and sedentary behaviors in older adults during the COVID-19 pandemic in Tokyo: J-SLAC Study. The 32nd Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association. JAPAN・online, 2022.1.26-28.

(2) 国内

1. 小島成実. 高齢者における各種大豆製品の摂取状況が2年後の運動機能と認知機能に与える影響の探索的研究. 不二たん白質研究振興財団第24回研究報告会, online開催, 2021.5.24.
2. 金憲経. フレイル・サルコペニアに対する運動・栄養介入の additive effects について. 第63回日本老年医学会学術集会, ジョイントシンポジウム1, 名古屋・online開催, 2021.6.11-13.
3. 金憲経. 健康寿命延伸に向けたフレイル・サルコペニア対策-研究成果から政策へメッセージ-. 第32回日本老年学会総会, 合同シンポジウム8, 名古屋・online開催, 2021.6.11-13.
4. 小島成実, 大須賀洋祐, 笹井浩行, 金憲経. 高齢者における Body Mass Index と各フレイル基準項目の該当割合との関連. 第63回日本老年学会総会, 名古屋・online開催, 2021.6.11-13.
5. 笹井浩行, 小島成実, 大須賀洋祐, 金憲経. 都市在住高齢女性における睡眠と2年後のうつ症状発生の関連: お達者研究. 第32回日本老年学会総会, 名古屋・online開催, 2021.6.11-13.
6. 金憲経. 乳・乳製品摂取の視点からみた認知症予防-チーズ摂取と認知機能との関連性に着目して. 第10回日本認知症予防学会, ランチョンセミナー, 横浜・online開催, 2021.6.24-26.
7. 笹井浩行, 小島成実, 大須賀洋祐, 金憲経. 生活行動の24時間計測と機械学習を用いた老年症候群の新たな判定法の開発. 令和3年度理事長研究奨励賞授賞式及び研究成果発表会, 東京都健康長寿医療センター研究所, 2021.6.25.
8. 笹井浩行. 身体活動量を臨床で計測するための基礎知識と最近の動向(シンポジウム1: 身体活動を臨床で計測するために～理論と実践～). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
9. 井上茂, 笹井浩行, 清原康介, 福島教照, 菊池宏幸, 町田征己, 天笠志保. 高齢者のための身体活動基準(シンポジウム4: 健康づくりのための身体活動基準2013の改定に向けた現状のエビデンスと改定の方角). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
10. 中田由夫, 甲斐裕子, 松尾知明, 笹井浩行. 働く人のための身体活動基準および身体活動・運動習慣獲得のために必要な介入方法(シンポジウム4: 健康づくりのための身体活動基準2013の改定に向けた現状のエビデンスと改定の方角). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
11. 笹井浩行, 中田由夫, 北島義典, 種田行男. 運動疫学セミナーの評価に関する調査研究(プロジェクト研究報告). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
12. 松下宗洋, 井上茂, 小熊祐子, 鎌田真光, 笹井浩行, 中田由夫, 原田和弘, 門間陽樹. 身体活動・運動疫学研究における重要文献(第2版)の作成(プロジェクト研究報告). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
13. 井上茂, 天笠志保, 石井香織, 岡浩一郎, 小熊祐子, 甲斐裕子, 岸本裕歩, 笹井浩行, 田中茂穂, 中田由夫. 標準化された方法によって評価した日本人の身体活動・座位行動の実態(プロジェクト研究報告). 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
14. 野口宣人, 高橋はるな, 笹井浩行, 脇文子, 北野誠人, 長峯正典. 自衛官の海外派遣前から派遣中の身体活動量の変化と帰国後のメンタルヘルスの関連～派遣海賊対処行動支援隊を対象とした追跡研究～. 第23回日本運動疫学会学術総会, 武庫川女子大学・online開催, 2021.6.26-27.
15. 笹井浩行. Editor’s view (1) 運動疫学研究. 日本運動疫学会 2021年度オンラインセミナー『査読にまつわるエトセトラ』, online開催, 2021.8.21.
16. 笹井浩行. 指定発言(新しいWHO身体活動・座位活動ガイドラインを紹介!ーあなたはどうか考える?ー). 第6回運動と健

- 康：分野横断型勉強会，online，2021.9.16.
17. 井上茂，福島教照，菊池宏幸，天笠志保，町田征己，笹井浩行，清原康介．高齢者の身体活動量の基準に関するレビュー（シンポジウム2：身体活動ガイドライン改定の方針と内容）．第76回日本体力医学会大会，online開催，2021.9.17-19.
 18. 中田由夫，松尾知明，笹井浩行，甲斐裕子．働く人のための身体活動基準および身体活動・運動習慣獲得のために必要な介入方法レビュー班の取り組み（シンポジウム2：身体活動ガイドライン改定の方針と内容）．第76回日本体力医学会大会，online開催，2021.9.17-19.
 19. 大田崇央，小川まどか，笹井浩行，菊池直樹，岡本孝信．コロナ禍における身体活動，座位行動と抑うつ傾向の割合の横断的関連：世田谷-青葉研究．第76回日本体力医学会大会，online開催，2021.9.17-19.
 20. 江尻愛美，河合恒，解良武士，井原一成，藤原佳典，渡邊裕，平野浩彦，金憲経，大淵修一．新型コロナウイルス感染拡大による行動制限前後の精神的健康にウォーキングが及ぼす影響．第32回日本老年学会総会，名古屋・online開催，2021.6.11-13.
 21. 山下真里，北村明彦，阿部巧，稲垣宏樹，大須賀洋祐，河合恒，増井幸恵，金憲経，石崎達郎，大淵修一，平野浩彦，鈴木宏幸，権藤恭之，池邊一典，神出計，新井康通，藤原佳典，栗田主一，鳥羽研二．認知症リスクチャート開発のためのコホートデータ統合研究（第一報）：IRIDE Cohort Study．第10回日本認知症予防学会学術集会，横浜・online開催，2021.6.24-26.
 22. 阿部巧，北村明彦，山下真里，稲垣宏樹，大須賀洋祐，河合恒，鈴木宏幸，大淵修一，金憲経，平野浩彦，藤原佳典，栗田主一，鳥羽研二．認知機能低下者のスクリーニングモデルの開発：IRIDE Cohort Study．第10回日本認知症予防学会学術集会，横浜・online開催，2021.6.24-26.
 23. 東浩太郎，大須賀洋祐，小島成実，笹井浩行，金憲経，井上聡．都市部在住高齢者におけるビタミンK充足度と認知機能の関連：お達者研究．第21回抗加齢医学会，京都，2021.6.25-27.
 24. 安藤貴史，岸本裕歩，笹井浩行，矢次春風，小島成実，大須賀洋祐，金憲経，長谷川国大，小西直喜，木村元洋，佐藤稔久，武田裕司，木原健．コロナ禍における高齢者のライフスペースとQoLの縦断調査～プロトコル報告～．第23回日本運動疫学会学術総会，武庫川女子大学・online開催，2021.6.26-27.
 25. 今林悦子，石井賢二，豊原潤，坂田宗之，我妻慧，石橋賢士，多胡哲郎，徳丸阿耶，小島成実，小林洋大，金憲経．プレクリニカル期アルツハイマー病における側頭葉内側部の容積について．第41回日本核医学技術学会総会学術大会，online開催，2021.11.4-6.
 26. 金憲経，小島成実，大須賀洋祐，笹井浩行，本川佳子，小原由紀，岩崎正則，平野浩彦．地域在住高齢女性における身体的フレイルを伴う尿失禁の特徴-お達者健診研究．第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会．大阪・online開催，2021.11.6-7.
 27. 金憲経．ランチョンセミナー1．第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会，大阪，2021.11.6．座長．
 28. 白部麻樹，本川佳子，小原由紀，岩崎正則，枝広あや子，渡邊裕，井原一成，金憲経，大淵修一，藤原佳典，平野浩彦．通いの場に参加している地域在住高齢者の口腔機能に関する検討．第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会，大阪・online開催，2021.11.6-7.
 29. 青木登紀子，小島成実，大須賀洋祐，笹井浩行，本川佳子，小原由紀，岩崎正則，平野浩彦，金憲経．地域在住高齢女性における心理的フレイルの特徴-お達者健診研究．第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会，大阪・online開催，2021.11.6-7.
 30. 上田由美子，小島成実，大須賀洋祐，笹井浩行，本川佳子，小原由紀，岩崎正則，平野浩彦，金憲経．地域在住高齢女性におけるフレイル・サルコペニア診断項目と認知機能低下との関連について-お達者健診研究．第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会，大阪・online開催，2021.11.6-7.
 31. 大須賀洋祐，野藤悠，笹井浩行，清野諭，丸尾和司，藤原佳典，新開省二，金憲経．高齢就労者の就業中の転倒に関連する修正可能な個人要因：埼玉県シルバー人材センター安全就業コホート．第16回日本応用老年学会大会，online開催，2021.11.6-7.
 32. 河合恒，大淵修一，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，金憲経．日常生活歩行における歩行比とフレイルとの関係．第8回日本予防理学療法学会学術大会．online開催，2021.11.13.
 33. 今林悦子，石井賢二，豊原潤，坂田宗之，我妻慧，石橋賢士，多胡哲郎，徳丸阿耶，小島成実，小林洋大，甲田哲之，金憲経．高齢者地域コホートにおける脳内アミロイド蓄積と局所脳容積について．第40回日本認知症学会学術集会，東京，2021.11.26-28.
 34. 外山琢，王悠，白矢智靖，加藤聡，沼賀二郎，河合恒，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，金憲経，大淵修一，上田高志．高齢者における糖尿病／前糖尿病による網膜内層の構造変化：お達者健診コホート研究より．第60回日本網膜硝子体学会総会，東京，2021.12.3-5.
 35. 河合恒，江尻愛美，伊藤久美子，藤原佳典，井原一成，平野浩彦，金憲経，大淵修一．地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連．第80回日本公衆衛生学会総会，東京・online開催，2021.12.21-23.
 36. 大淵修一，河合恒，江尻愛美，伊藤久美子，藤原佳典，井原一成，金憲経，平野浩彦．バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係 お達者健診研究．第80回日本公衆衛生学会総会，東京・online開催，2021.12.21-23.
 37. 島田裕之．認知症予防運動指導者の養成研修として、認知症における社会背景やコロナ禍における影響などの最新知見、コグニサイズの基礎的な内容．令和3年度認知症予防運動指導者養成事業，online開催，2021.11.5.

38. 牧野圭太郎, 李相侖, 裴成琬, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 富田浩輝, 森川将徳, 島田裕之. 地域高齢者の転倒予測モデルの構築: 決定木分析を用いた検討. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, online 開催, 2021.11.13.
39. 片山脩, 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 千葉一平, 原田健次, 新海陽平, 森川将徳, 富田浩輝, 島田裕之. 社会活動が少ない高齢者でもウォーキング習慣により要介護発生リスクは抑えられる. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, online 開催, 2021.11.13.
40. 中窪翔, 土井剛彦, 堤本広大, 栗田智史, 木内悠人, 西本和平, 島田裕之. 高齢期における睡眠と身体活動低下の新規要介護発生との関連性. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, online 開催, 2021.11.13.
41. 堤本広大, 土井剛彦, 中窪翔, 栗田智史, 木内悠人, 西本和平, 島田裕之. MCI 高齢者の体重減少と食欲低下との関連性. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, online 開催, 2021.11.13.
42. 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 栗田智史, 木内悠人, 西本和平, 島田裕之. Active Mobility Index による予測妥当性の検討: 5年間の前向き調査. 第8回日本予防理学療法学会学術大会, online 開催, 2021.11.13.
43. 島田裕之. 教育講演 地域における ICT デバイスの活用と介護予防. 第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 名古屋市 (ハイブリッド開催), 2021.11.12.
44. 島田裕之. 教育講演 Meet the Expert3 転倒とフレイル、サルコペニア、ロコモ: 転倒の危険因子と予防のエビデンス. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会, ハイブリッド開催, 2021.11.6-7.
45. 島田裕之. 特別講演 1 老年学領域における療法士への期待. 日本老年療法学会 設立記念シンポジウム, online 開催, 2021.9.18. 座長.
46. 島田裕之. 大会長講演 日本老年療法学会の設立趣旨と今後の目標. 日本老年療法学会 設立記念シンポジウム, online 開催, 2021.9.18.
47. 島田裕之. 共催セミナー1 高齢者医療における多職種連携の重要性. 日本老年療法学会 設立記念シンポジウム, online 開催, 2021.9.18. 座長.
48. 島田裕之. 特別講演 地域をつなぐ、世代をつなぐ、健康づくり～認知症・フレイル予防のためのエビデンスと実際～. 第15回信州公衆衛生学会総会, online 開催, 2021.8.28.
49. 島田裕之. ナイトセミナー Stay at home は予防理学療法に何を問いかけたか 1. 健康長寿社会の構築のために. 日本予防理学療法学会 第6回サテライト集会, online 開催, 2021.7.3.
50. 島田裕之. シンポジウム デジタル予防介入と D&I 科学: 4 介護予防を目的としたスマートフォンの活用. D&I 科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第6回学術集会, online 開催, 2021.7.3.
51. 島田裕之, 裴成琬, 原田健次, 李相侖, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 石井秀明, 堤本広大, 中窪翔, 栗田智史, 土井剛彦. 高齢者の自動車運転と脳容量との関係. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.25.
52. 島田裕之. 教育講演 1 認知症予防のためのポピュレーションアプローチ. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.25.
53. 栗田智史, 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 石井秀明, 木内悠人, 島田裕之. 高齢者における知的活動を考慮した座位行動質問票の開発と妥当性の検討. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.25.
54. 裴成琬, 李相侖, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 新海陽平, 原田健次, 島田裕之. フレイル及び主観的認知機能低下の変化の軌跡とその関連要因の検討—オレンジレジストリ研究から—. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
55. 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 原田健次, 千葉一平, 片山脩, 新海陽平, 島田裕之. 独居高齢者の健康状態とフレイルとの関連: 大規模地域コホートをを用いた検討. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
56. 牧野圭太郎, 李相侖, 裴成琬, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 認知症リスク予測を目的とした電話インタビュースケール開発と機械学習を用いた予測精度の検証. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
57. 片山脩, 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 千葉一平, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 認知機能低下と要介護発生との関連の強さは生活満足度により異なる—地域在住高齢者による縦断的検討—. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
58. 島田裕之. ランチョンセミナー 4 運動と脳の健康: 認知症予防最前線. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
59. 堤本広大, 土井剛彦, 中窪翔, 栗田智史, 石井秀明, 木内悠人, 島田裕之. コグニティブフレイルと新規要介護認定との関連—24 か月追跡調査結果—. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
60. 千葉一平, 李相侖, 裴成琬, 原田健次, 牧野圭太郎, 新海陽平, 片山脩, 島田裕之. 地域在住高齢者における認知的フレイルと低栄養との関連. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
61. 原田健次, 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 新海陽平, 島田裕之. 認知機能評価ツール (NCGG-FAT) の成績に関連する脳部位の同定. 第10回日本認知症予防学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.24.
62. 島田裕之. 合同シンポジウム 15 高齢者と運動—ハンドルの重みと自立のはざま— 3. 高齢者の運動技能におけるトレーナービリティ: メタ解析からの考察. 第63回日本老年医学会学術集会/ 第32回日本老年学会総会, online, 2021.6.13.
63. 島田裕之. シンポジウム 19 セラピストの老年医学への参画 4. 老年学・老年医学領域におけるセラピストの役割分担. 第63回日本老年医学会学術集会, online 開催, 2021.6.13.
64. 島田裕之. シンポジウム 19 セラピストの老年医学への参画 第63回日本老年医学会学術集会, online 開催, 2021.6.13. 座長.

65. 島田裕之. シンポジウム9 老年医学的アプローチによる認知症予防 4. CGAに基づく認知症発症リスクの把握と削減. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.12.
66. 宮野伊知郎, 裴成琬, 李相侖, 島田裕之, 北岡裕章. 手指の巧緻動作と認知機能との関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
67. 栗田智史, 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 石井秀明, 島田裕之. 地域在住高齢者における質問票で評価した身体活動と新規要介護発生の関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
68. 原田健次, 裴成琬, 李相侖, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 新海陽平, 島田裕之. 手指の両側性協調運動制御に関わる神経基盤の加齢変化. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
69. 石井秀明, 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 栗田智史, 島田裕之. 運転の中止と社会的フレイルへの移行との関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
70. 千葉一平, 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 原田健次, 片山脩, 新海陽平, 島田裕之. 地域在住高齢者における Geriatric Nutritional Risk Indexにより評価した低栄養リスクと要介護発生との関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
71. 中窪翔, 土井剛彦, 堤本広大, 栗田智史, 石井秀明, 島田裕之. 地域高齢者における睡眠時間とサルコペニアの関連性における縦断的検討. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
72. 堤本広大, 土井剛彦, 中窪翔, 栗田智史, 石井秀明, 島田裕之. 高齢期における独居および孤食と栄養状態との関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
73. 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 栗田智史, 石井秀明, 島田裕之. Active Mobility Indexの妥当性検討. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
74. 島田裕之, 堤本広大, 土井剛彦, 李相侖, 裴成琬, 中窪翔, 牧野圭太郎, 荒井秀典. EWGSOP2基準におけるサルコペニアと新規要介護認定発生との関連. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
75. 片山脩, 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 千葉一平, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 身体的フレイルに関連する社会活動レベルの検証. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
76. 牧野圭太郎, 李相侖, 裴成琬, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 心血管リスクレベルと認知機能低下の関連: 認知ドメイン別の検討. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
77. 李相侖, 裴成琬, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 大規模地域コホートをを用いた一人暮らしとフレイル: 健康状態と外出による検討. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
78. 裴成琬, 李相侖, 牧野圭太郎, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之. 対面・非対面の社会的ネットワークの新しいスケールは高齢者の抑うつ傾向を予測しうるか. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11-13.
79. 島田裕之. シンポジウム2 日本における高齢者コホート研究の成果 6. 国立長寿医療研究センターにおける高齢者コホート: NCGG-SGS. 第63回日本老年医学会学術集会, online開催, 2021.6.11.
80. 島田裕之. 専門職教育講演 認知症リスクの低い地域づくり. 第58回日本リハビリテーション医学会学術集会, ハイブリッド開催, 2021.6.10.
81. 佐藤秀彰, 西田優紀, 白畑亨, 佐々木敏, 與儀実大, 山田陽介, 中江悟司, 田中茂穂, 永田真, 仲村秀俊, 勝川史憲, COPD患者のエネルギー摂取量の推定における簡易型自記式食事歴法質問票(BDQ)の妥当性. 第61回日本呼吸器学会学術講演会, 2021.4.24.
82. 白畑亨, 佐藤秀彰, 與儀実大, 赤上巴, 相馬真智香, 永田真, 西田優紀, 田中茂穂, 勝川史憲, 仲村秀俊: COPD患者における身体活動量を規定する因子とその評価法に関する研究. 第94回閉塞性肺疾患研究会, 2021.7.30.
83. 畠中真奈, 畑本陽一, 田尻絵里, 松本直幸, 田中茂穂, 吉村英一. 食事摂取のタイミングと減量効果の関係. 第76回日本体力医学会大会, 2021.9.18.
84. 田中茂穂. シンポジウム1 エネルギー代謝の多様性と適応能 エネルギー代謝の総論 日本生理人類学会第82回大会, 2021.10.30.
85. 島田裕之. 活動促進による認知症予防. 第48回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会 特別講演, 2022.2.27.
86. 田中茂穂. 発育発達研究におけるエビデンス. 日本発育発達学会第20回大会 大会長講演, 2022.3.20.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Yokoyama Y, Kitamura A, Seino S, Kim H, Obuchi S, Kawai H, Hirano H, Watanabe Y, Motokawa K, Narita M, Shinkai S. Association of nutrient-derived dietary patterns with sarcopenia and its components in community-dwelling older Japanese: a cross-sectional study. *Nutr J*. 2021 Jan 18; 20(1):7. doi: 10.1186/s12937-021-00665-w. (査読有) (IF: 3.271)
2. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Ohara Y, Eda Hiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Hirano H. Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: Evidence from the Otassha study. *Gerodontology*. 2021 Jul 1. doi: 10.1111/ger.12580. Online ahead of print. (査読有) (IF: 2.98)

3. Kugimiya Y, Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Eda Hiro A, Shirobe M, Watanabe Y, Obuchi S, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Ueda T, Hirano H. Relationship between Oral Hypofunction and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. *Int J Environ Res Public Health*. 2021 Jun 21; 18(12): 6666. doi: 10.3390/ijerph18126666. (査読有) (IF : 3.390)
4. ©Osuka Y, Kojima N, Sasai H, Wakaba K, Miyauchi D, Tanaka K, Kim H. Effects of exercise and/or β -hydroxy- β -methylbutyrate supplementation on muscle mass, muscle strength, and physical performance in older women with low muscle mass: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *Am J Clin Nutr*. 2021 Jun 3; nqab176. doi: 10.1093/ajcn/nqab176. Online ahead of print. (査読有) (IF : 7.045)
5. Ozawa T, Yamashita M, Seino S, Kamiya K, Kagiya N, Konishi M, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Momomura SI, Hamazaki N, Nozaki K, Kim H, Obuchi S, Kawai H, Kitamura A, Shinkai S, Matsue Y. Standardized gait speed ratio in elderly patients with heart failure. *ESC Heart Fail*. 2021 Jul 10. doi: 10.1002/ehf2.13392. Online ahead of print. (査読有) (IF : 4.411)
6. Kawai H, Obuchi S, Hirayama R, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Kobayashi Y, Mochimaru M, Tsushima E, Nakamura K. Intra-day variation in daily outdoor walking speed among community-dwelling older adults. *BMC Geriatr*. 2021 Jul 8; 21(1): 417. doi: 10.1186/s12877-021-02349-w. (査読有) (IF : 3.737)
7. Kume Y, Bae S, Lee S, Makizako H, Matsuzaki-Kihara Y, Miyano I, Kim H, Shimada H, Ota H. Association between Kihon check list score and geriatric depression among older adults from ORANGE registry. *PLoS One*. 2021 Jun 4; 16(6): e0252723. doi: 10.1371/journal.pone.0252723. eCollection 2021. (査読有) (IF : 3.240)
8. Ejiri M, Kawai H, Kera T, Ihara K, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Obuchi S. Exercise as a coping strategy and its impact on the psychological well-being of Japanese community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Psychol Sport Exerc*. 2021 Nov; 57: 102054. doi: 10.1016/j.psychsport.2021.102054. Epub 2021 Sep 4. (査読有) (IF : 4.785)
9. Nishihara K, Kawai H, Kera T, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Comparisons of muscle thicknesses, echo intensities, and motor functions between community-dwelling older Japanese adults with and without diabetes. *Arch Gerontol Geriatr*. Nov-Dec 2021; 97: 104516. doi: 10.1016/j.archger.2021. Epub 2021 Sep 6. (査読有) (IF : 3.25)
10. Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y. Gait and Age-Related Hearing Loss Interactions on Global Cognition and Falls. *Laryngoscope*. 2021 Oct 12. doi: 10.1002/lary.29898. Online ahead of print. (査読有) (IF : 3.325)
11. Kera T, Kawai H, Ejiri M, Takahashi J, Nishida K, Harai A, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatr Gerontol Int*. 2021 Sep 27. doi: 10.1111/ggi.14276. Online ahead of print. (査読有) (IF : 2.73)
12. Makizako H, Nishita Y, Jeong S, Otsuka R, Shimada H, Iijima K, Obuchi S, Kim H, Kitamura A, Ohara Y, Awata S, Yoshimura N, Yamada M, Toba K, Suzuki T. Trends in the Prevalence of Frailty in Japan: A Meta-Analysis from the ILSA-J. *J Frailty Aging*, 10(3): 211-218, 2021. (査読有) (IF : 2.74)
13. Okubo Y, Schoene D, Caetano MJ, Pliner EM, Osuka Y, Toson B, Lord SR. Stepping impairment and falls in older adults: A systematic review and meta-analysis of volitional and reactive step tests. *Ageing Res Rev*, 66: 101238. 2021. (査読有) (IF = 10.895)
14. Shigematsu R, Kato S, Suzuki K, Nakata Y, Sasai H. Sports specialization and sports-related injuries in Japanese school-aged children and adolescents: a retrospective descriptive study. *Int J Environ Res Public Health* 18: 7369, 2021. (査読有) (IF = 3.390)
15. Mizushima R, Nakata Y, Sasai H, Zuo X, Maeda S, Tanaka K. Comparison between volunteer- and expert-led versions of a community-based weight-loss intervention. *Prev Med Rep* 22: 101370, 2021. (査読有) (IF = NA)
16. Ishii H, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kurita S, Shimada H. Driving cessation and physical frailty in community-dwelling older adults: A longitudinal study. *Geriatr Gerontol Int*, 21(11): 1047-1052, 2021. (査読有) (IF : 2.730)
17. Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Shimada H. Development and validation of new screening tool for predicting dementia risk in community-dwelling older Japanese adults. *J Transl Med*, 19(1): 448, 2021. (査読有) (IF : 5.531)
18. Kurita S, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Ishii H, Shimada H. Computer use and cognitive decline among Japanese older adults: A prospective cohort study. *Arch Gerontol Geriatr*, 97: 104488, 2021. (査読有) (IF : 3.250)
19. Sugimoto T, Sakurai T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsuo K, Michikawa M, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Umegaki H, Wakayama S, Arai H. The Japan-Multimodal Intervention Trial for Prevention of Dementia (J-MINT): The Study Protocol for an 18-Month, Multicenter, Randomized, Controlled Trial. *J Prev Alzheimers Dis*, 8(4): 465-476, 2021. (査読有) (IF : 4.671)

20. Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Makizako H, Shimada H. Diabetes and Prediabetes Inhibit Reversion from Mild Cognitive Impairment to Normal Cognition. *J Am Med Dir Assoc*, 22(9): 1912-1918. e2, 2021. (査読有) (IF: 4.367)
21. Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Makizako H, Shimada H. Prospective Associations of Physical Frailty With Future Falls and Fear of Falling: A 48-Month Cohort Study. *Phys Ther*, 101(6): pzab059, 2021. (査読有) (IF: 3.140)
22. Doi T, Nakakubo S, Tsutsumimoto K, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Spatiotemporal gait characteristics and risk of mortality in community-dwelling older adults. *Maturitas*, 151: 31-35, 2021. (査読有) (IF: 4.342)
23. Nakakubo S, Doi T, Tsutsumimoto K, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Sleep duration and progression to sarcopenia in Japanese community-dwelling older adults: a 4 year longitudinal study. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*, 12(4): 1034-1041, 2021. (査読有) (IF: 12.910)
24. Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T. The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan: Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial. *Front Aging Neurosci*, 13: 680341, 2021. (査読有) (IF: 5.750)
25. Makino T, Umegaki H, Ando M, Cheng XW, Ishida K, Akima H, Oshida Y, Yoshida Y, Uemura K, Shimada H, Kuzuya M. Effects of Aerobic, Resistance, or Combined Exercise Training Among Older Adults with Subjective Memory Complaints: A Randomized Controlled Trial. *J Alzheimers Dis*, 82(2): 701-717, 2021. (査読有) (IF: 4.472)
26. Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Shinkai Y, Shimada H. Life Satisfaction and the Relationship between Mild Cognitive Impairment and Disability Incidence: An Observational Prospective Cohort Study. *Int J Environ Res Public Health*, 18(12): 6595, 2021. (査読有) (IF: 3.390)
27. Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Shimada H. Absolute Cardiovascular Disease Risk Is Associated With the Incidence of Non-amnesic Cognitive Impairment in Japanese Older Adults. *Front Aging Neurosci*, 13: 685683, 2021. (査読有) (IF: 4.362)
28. Blumen HM, Schwartz E, Allali G, Beauchet O, Callisaya M, Doi T, Shimada H, Srikanth V, Verghese J. Cortical Thickness, Volume, and Surface Area in the Motoric Cognitive Risk Syndrome. *J Alzheimers Dis*, 81(2): 651-665, 2021. (査読有) (IF: 3.909)
29. Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Shinkai Y, Shimada H. Participation in Social Activities and Relationship between Walking Habits and Disability Incidence. *J Clin Med*, 10(9): 1895, 2021. (査読有) (IF: 3.303)
30. Kurita S, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Ishii H, Shimada H. Development of a Questionnaire to Evaluate Older Adults' Total Sedentary Time and Sedentary Time With Cognitive Activity. *J Geriatr Psychiatry Neurol*: 8919887211006468, 2021. (査読有) (IF: 2.215)
31. Doi T, Tsutsumimoto K, Ishii H, Nakakubo S, Kurita S, Shimada H. Frailty and driving status associated with disability: a 24-month follow-up longitudinal study. *BMJ Open*, 11(4): e042468, 2021. (査読有) (IF: 2.496)
32. Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Shinkai Y, Chiba I, Harada K, Shimada H. Lifestyle changes and outcomes of older adults with mild cognitive impairment: A 4-year longitudinal study. *Arch Gerontol Geriatr*, 94: 104376, 2021. (査読有) (IF: 2.128)
33. Kume Y, Takahashi T, Itakura Y, Lee S, Makizako H, Ono T, Shimada H, Ota H. Polypharmacy and Lack of Joy Are Related to Physical Frailty among Northern Japanese Community-Dwellers from the ORANGE Cohort Study. *Gerontology*, 67(2): 184-193, 2021. (査読有) (IF: 3.540)
34. Kondo R, Miyano I, Lee S, Shimada H, Kitaoka H. Association between self-reported night sleep duration and cognitive function among older adults with intact global cognition. *Int J Geriatr Psychiatry*, 36(5): 766-774, 2021. (査読有) (IF: 2.675)
35. Huang CH, Umegaki H, Makino T, Uemura K, Hayashi T, Kitada T, Inoue A, Shimada H, Kuzuya M. Effect of Various Exercises on Intrinsic Capacity in Older Adults With Subjective Cognitive Concerns. *J Am Med Dir Assoc*, 22(4): 780-786. e2, 2021. (査読有) (IF: 4.367)
36. Doi T, Tsutsumimoto K, Ishii H, Nakakubo S, Kurita S, Shimada H. Association between Sarcopenia, Its Defining Indices, and Driving Cessation in Older Adults. *J Nutr Health Aging*, 25(4): 462-466, 2021. (査読有) (IF: 2.791)
37. ©Shimada H, Tsutsumimoto K, Doi T, Lee S, Bae S, Nakakubo S, Makino K, Arai H. Effect of Sarcopenia Status on Disability Incidence Among Japanese Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*, 22(4): 846-852, 2021. (査読有) (IF: 4.669)
38. Sato H, Nishida Y, Nakamura H, Shirahata T, Yogi S, Akagami T, Soma M, Inoue K, Niitsu M, Soma M, Mio T, Miyashita T, Nagata M, Nakae S, Yamada Y, Tanaka S, Katsukawa F. Energy expenditure and physical activity in COPD by doubly labelled water method and an accelerometer. *ERJ Open Res* 7: 00407-2020. 2021 Jun. (査読有)
39. Nishida Y, ★Tanaka S, Hatamoto Y, Hatanaka M, Ishikawa-Takata K, Abe T, Higaki Y, Katsukawa F. Impact of

- walking aids on estimating physical activity using a tri-axial accelerometer in frail older adults. *BMJ Open Sport Exerc Med* 7:e001014. 2021 Jun. (査読有)(IF: 0.913)
40. Bouchi R, Izumi K, Ohtsu H, Miyo K, Tanaka S, et al. Prevention of Worsening Diabetes through Behavioral Changes by an IoT-based Self-Monitoring System in Japan (PRISM-J): Study design and rationale for a multicenter, open-label, randomized parallel-group trial. *GHM Open*. 2021; 1(1):3-11. 2021 Jun. (査読有)
 41. Nishida Y, Nakamura H, Sasaki S, Shirahata T, Sato H, Yogi S, Yamada Y, Nakae S, Tanaka S, Katsukawa. Evaluation of energy intake by brief-type self-administered diet history questionnaire among male patients with stable/at risk for chronic obstructive pulmonary disease. *BMJ Open Respir Res* 8:e000807. 2021 Aug. (査読有)(IF: 1.581)
 42. Ishikawa-Takata K, Nakae S, Sasaki S, Katsukawa F, Tanaka S. Age-Related Decline in Physical Activity Level in the Healthy Older Japanese Population. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo)* 67(5):330-338, 2021. (査読有)(IF: 2.000)
 43. Ohwada H, Nakayama T, Ishikawa-Takata K, Iwasaki N, Kanaya Y, Tanaka S. Total energy expenditure among children with motor, intellectual, visual, and hearing disabilities: a doubly labeled water method. *Eur J Clin Nutr* 75(11):1607-1617. 2021 Nov. (査読有)(IF: 3.291)
 44. Oishi K, Aoki T, Harada T, Tanaka C, Tanaka S, et al: Association of Neighborhood Food Environment and Physical Activity. *Environment With Obesity: A Large-Scale Cross-Sectional Study of Fifth- to Ninth-Grade Children in Japan*. *INQUIRY: The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing*. 58: 1-9, 2021. (査読有)
 45. Aoyama T, Hikiyama Y, Watanabe M, Wakabayashi H, Hanawa S, Omi N, Takimoto H, Tanaka S. Association Between Age of Achieving Gross Motor Development Milestones During Infancy and Body Fat Percentage at 6 to 7 Years of Age. *Matern Child Health J* 2021 Oct Online ahead of print. (査読有)(IF: 1.788)
 46. Tanaka C, Abe T, Takenaga R, Suzuki T, Noi S, Tanaka S, Miyachi M, Inoue S, Hatamoto Y, Reilly JJ: Compliance with a physical activity guideline among junior high school students. *Pediatr Int*. Online ahead of print. 2021 Nov. (査読有)(IF: 1.524)
 47. 道脇涼太, 田尻絵里, 畑本陽一, 松本直幸, 田中茂穂, 吉村英一. 減量支援時の歩数アプリの利用は減量および身体活動量に影響するか. *肥満研究* 27(2) 1-9, 2021 Aug (査読有)
 48. ◎田中茂穂, 田中千晶: 大学生の日常生活における歩数と移動様態との関連. *女子栄養大学栄養科学研究所年報* 26: 51-55, 2021 (査読有)
 49. Nemoto Y et al. (Maruo K: 4th author). Effects of an unsupervised Nordic walking intervention on cognitive and physical function among older women engaging in volunteer activity. *Journal of Exercise Science and Fitness*, 19(4), 209-215, 2021, (査読有)(IF: 3.103)
 50. Okano E et al. (Maruo K: 11th author). Novel method for selecting slices of the same cross-sectional view from digital tomosynthesis for monitoring posterior spinal instrumentation. *Journal of Clinical Neuroscience*, 92, 183-188, 2021, (査読有)(IF: 1.961)
 51. Goshio M et al (Maruo K: 5th author). Bias in odds ratios from logistic regression methods with sparse data sets. *Journal of Epidemiology*, online first, doi: 10.2188/jea.JE20210089, 2021, (査読有)(IF: 3.211)
 52. Yoneyama F et al. (Maruo K: 8th author). Conduction disorders after perimembranous ventricular septal defect closure: continuous versus interrupted suturing techniques. *European Journal of Cardio-Thoracic Surgery*, ezab407, 2021, (査読有)(IF: 4.191)
 53. Nemoto Y et al. (Maruo K: 6th author). Bidirectional relationship between insomnia and frailty in older adults: A 2-year longitudinal study. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 97, 104519-104519, 2021, (査読有)(IF: 3.25)
 54. ★◎Maruo K et al (1st author). bcmixed: A Package for Median Inference on Longitudinal Data with the Box-Cox Transformation. *The R Journal*, online first, <https://journal.r-project.org/archive/2021/RJ-2021-083/index.html>, 2021, (査読有)(IF: 3.984)
 55. Oka T et al. (Maruo K: 4th author). Changes in self-efficacy in Japanese school-age children with and without high autistic traits after the Universal Unified Prevention Program: a single-group pilot study. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*, 15(1), 42, 2021, (査読有)(IF: 2.722)
 56. Hoshino Y et al. (Maruo K: 4th author). Gravity-induced loss of aeration and atelectasis development in the preterm lung: a serial sonographic assessment. *Journal of Perinatology: official journal of the California Perinatal Association*, doi: 10.1038/s41372-021-01189-1, 2021, (査読有)(IF: 2.521)
 57. Ishii R et al. (Maruo K: 2nd author). Effect of covariate omission in randomised controlled trials: a review and simulation study. *International Statistical Review*, online first, doi: 10.1111/insr.12468, 2021, (査読有)(IF: 2.217)
 58. Marushima A et al. (Maruo K: 12th author). Levetiracetam versus fosphenytoin as a second-line treatment after diazepam for status epilepticus: study protocol for a multicenter non-inferiority designed randomized control trial. *Trials*, 22(1), 317-317, 2021, (査読有)(IF: 2.279)
 59. Goshio M et al. (Maruo K: 3rd author). Practical review and comparison of modified covariance estimators for linear mixed models in small-sample longitudinal studies with missing data. *International Statistical Review*, 89(3), 550-572, 2021, (査読有)(IF: 2.217)

60. Murata Y et al. (Maruo K: 5th author). Patient-controlled epidural analgesia, patient-controlled intravenous analgesia, and conventional intravenous opioids for gynecologic interstitial brachytherapy: A single-center retrospective study. *Brachytherapy*, 20(4):765-770, 2021, (査読有) (IF: 2.362)
61. Watanabe H et al. (Maruo K: 11th author). Efficacy and safety study of wearable cyborg HAL (Hybrid Assistive Limb) in hemiplegic patients with acute stroke (EARLY GAIT Study): protocols for a randomized controlled trial. *Frontiers in Neuroscience*, 15, 666562, 2021, (査読有) (IF: 4.677)
62. Funaba M et al. (Maruo K: 6th author). Hybrid cognitive behavioral therapy with interoceptive exposure for irritable bowel syndrome: a feasibility study. *Frontiers in Psychiatry*, 12, 673939, 2021, (査読有) (IF: 4.157)
63. ★©Osuka Y, Kojima N, Nishihara K, Sasai H, Wakaba K, Tanaka K, Kim H: β -hydroxy- β -methylbutyrate supplementation may not enhance additional effects of exercise on muscle quality in older women. *Med Sci Sports Exerc*, 2022 Apr 1; 54(4):543-550. doi: 10.1249/MSS.0000000000002836. (査読有) (IF = 5.411)
64. Kosaki K, Tarumi T, Sugawara J, Tanahashi K, Kumagai H, Matsui M, Sugaya T, Osuka Y, Tanaka K, Kuro-O M, Saito C, Yamagata K, Maeda S. Renal hemodynamics across the adult lifespan: Relevance of flow pulsatility to chronic kidney disease. *Exp Gerontol*, in press. (査読有) (IF = 4.032)
65. Yamashita M, Seino S, Nofuji Y, Sugawara Y, Osuka Y, Kitamura A, Shinkai S. The Kesennuma Study in Miyagi, Japan: Study Design and Baseline Profiles of Participants. *J Epidemiol*, 2021 Apr 10. doi: 10.2188/jea.JE20200599. Online ahead of print. (査読有) (IF = 3.211)
66. Iwasaki M, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Mikami Y, Taniguchi Y, Osuka Y, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Edahiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Oral frailty and gait performance in community-dwelling older adults: findings from the Takashimadaira study. *J Prosthodont Res*, in press. (査読有) (IF = 4.642)
67. Ohta T, Nagashima J, Fukuda W, Sasai H, Ishii N. Association of knee extensor muscle strength and cardiorespiratory fitness with bone stiffness in Japanese adults: A cross-sectional study. *J Epidemiol* 2021 Apr 10. doi: 10.2188/jea.JE20200581. Online ahead of print. (査読有) (IF = 3.211)
68. Nakagawa H, Sasai H. Nursing student practicums during the COVID-19 crisis and the effect on infection-prevention behavior in students: a mixed-method approach. *Medicina (Kaunas)*. 2021 Dec 12; 57(12):1354. doi: 10.3390/medicina57121354. (査読有) (IF = 2.430)
69. Chung CP, Lee WJ, Peng LN, Shimada H, Tsai TF, Lin CP, Arai H, Chen LK. Physio-Cognitive Decline Syndrome as the Phenotype and Treatment Target of Unhealthy Aging. *J Nutr Health Aging*. 2021.25(10):1179-1189. doi: 10.1007/s12603-021-1693-4. [Epub ahead of print], (査読有) (IF: 4.075)
70. Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Shimada H. Are non-face-to-face interactions an effective strategy for maintaining mental and physical health? *Arch Gerontol Geriatr*, 98: 104560, 2021. Jan-Feb 2022; 98:104560. doi: 10.1016/j.archger.2021.104560. Epub 2021 Oct 16. (査読有) (IF: 3.25)
71. Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Associations Between Active Mobility Index and Disability. *J Am Med Dir Assoc*, 2021. Sep 21; S1525-8610(21)00777-5. doi: 10.1016/j.jamda.2021.08.036. Online ahead of print. (査読有) (IF: 4.669)
72. Kurita S, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Ishii H, Kiuchi Y, Shimada H. Predictivity of International Physical Activity Questionnaire Short Form for 5-Year Incident Disability Among Japanese Older Adults. *J Phys Act Health*, 2021. Aug 25; 18(10):1231-1235. doi: 10.1123/jpah.2021-0247. [Epub ahead of print], (査読有) (IF: 2.592)
73. Nakakubo S, Doi T, Tsutsumimoto K, Kurita S, Ishii H, Suzuki T, Shimada H. The Association of Sleep Habits and Advancing Age in Japanese Older Adults: Results from the National Center for Geriatrics and Gerontology Study of Geriatric Syndromes. *Gerontology*, 2021. 2022; 68(2):209-213. doi: 10.1159/000516387. Epub 2021 Jul 28. (査読有) (IF: 2.98)
74. Makizako H, Shimada H, Tsutsumimoto K, Makino K, Nakakubo S, Ishii H, Doi T. Physical Frailty and Future Costs of Long-Term Care in Older Adults: Results from the NCGG-SGS. *Gerontology*, 2021; 67(6):695-704. doi: 10.1159/000514679. Epub 2021 Mar 29. (査読有) (IF: 2.98)
75. Osuka Y, Okubo Y, Nofuji Y, Sasai H, Seino S, Maruo K, Fujiwara T, Oka H, Shinkai S, Lord SR, Kim H: Modifiable intrinsic factors related to occupational falls in older workers. *Geriatr Gerontol Int*, 2022 Mar 9. doi: 10.1111/ggi.14370. Online ahead of print.
76. Azuma K, Osuka Y, Kojima N, Sasai H, Kim H, Inoue S: Association of Vitamin K Insufficiency With Cognitive Dysfunction in Community-Dwelling Older Adults. *Front Nutr*, 2022 Jan 31; 8:811831. doi: 10.3389/fnut.2021.811831. eCollection 2021.
77. Kinoshita K, Ozato N, Yamaguchi T, Sudo M, Yamashiro Y, Mori K, Ishida M, Katsuragi Y, Sasai H, Yasukawa T, Murashita K, Nakaji S, Ihara K: Association of sedentary behaviour and physical activity with cardiometabolic health in Japanese adults. *Sci Rep*. 2022 Feb 10; 12(1):2262. doi: 10.1038/s41598-022-05302-y. PMID: 35145141
78. Sugie M, Harada K, Nara M, Kugimiya Y, Takahashi T, Kitagou M, Kim H, Kyo S, Ito H. Prevalence, overlap, and

- interrelationships of physical, cognitive, psychological, and social frailty among community-dwelling older people in Japan. Arch Gerontol Geriatr. 2022 May-Jun; 100:104659. doi: 10.1016/j.archger.2022.104659. Epub 2022 Feb 12.
79. Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Kawai H, Edahiro A, Motokawa K, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H. Xerostomia as a key predictor of physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: a five-year prospective cohort study from The Otassha Study. Arch Gerontol Geriatr. 2022 Mar-Apr; 99:104608. doi: 10.1016/j.archger.2021.104608. Epub 2021 Dec 9. PMID: 34922245
 80. Kera T, Kawai H, Takahashi J, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Development of a screening formula for sarcopenia using ground reaction force during sit-to-stand motion. Gait Posture. 2022 Mar; 93:177-182. doi: 10.1016/j.gaitpost.2022.02.001. Epub 2022 Feb 3. PMID: 35180686
 81. Mikami Y, Motokawa K, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Iwasaki M, Hayakawa M, Watanabe Y, Inagaki H, Kim H, Shinkai S, Awata S, Hirano H. Relationship between Eating Alone and Poor Appetite Using the Simplified Nutritional Appetite Questionnaire. Nutrients. 2022 Jan 14; 14(2):337. doi: 10.3390/nut14020337. PMID: 35057518
 82. Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Hirano H. Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: Evidence from the Otassha study. Gerodontology. 2022 Mar; 39(1):17-25. doi: 10.1111/ger.12580. Epub 2021 Jul 1. PMID: 34212426
 83. Ohara Y, Kawai H, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Edahiro A, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: The Otassha Study. Gerodontology. 2022 Mar; 39(1):41-48. doi: 10.1111/ger.12605. Epub 2021 Nov 11. PMID: 34762315
 84. Wang Y, Toyama T, Hashimoto Y, Kawai H, Azuma K, Shiraya T, Kato S, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Numaga J, Obuchi S, Ueta T. Association of prediabetes with retinal microvasculature on swept-source optical coherence tomography angiography in the elderly: OTASSHA study. Retina. 2022 Jan 20. doi: 10.1097/IAE.0000000000003416. Online ahead of print. PMID: 35067606
 85. Abe T, Kitamura A, Yamashita M, Kim H, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K. IRIDE Cohort Study investigators: Simple screening models for cognitive impairment in community settings: The IRIDE Cohort Study. Geriatr Gerontol Int. 2022 Feb 20. doi: 10.1111/ggi.14360. Online ahead of print. PMID: 35187789

(2) 総説

1. 金憲経, 大須賀洋祐, 小島成実, 笹井浩行. 骨粗鬆症とサルコペニアの異同：予防の観点から. 日本サルコペニア・フレイル学会誌 5 (1), 26-33, 2021. 6. 株式会社メディカルレビュー社
2. 松下宗洋, 鎌田真光, 笹井浩行, 原田和弘, 門間陽樹, 井上茂, 中田由夫, 小熊祐子. 身体活動・運動疫学研究における重要論文 20 本 (2009~2018). 運動疫学研究 (in press). 資料/査読有 (IF = NA)

3 著書等

1. 金憲経. 女性のサルコペニアを考える 筋量・筋力アップのための運動と栄養の効果と課題. White, 8(1), 25-32, 2021
2. 金憲経. 高齢者の運動を考える. 金憲経(編). Geriatric Medicine 59 (10):943-944, 2021
3. 金憲経. トピックス サルコペニアとフレイル. 今日の整形外科治療指針 第8版, 医学書院, 東京, 297, 2021
4. 金憲経. 日本における高齢者コホート研究の成果と現状 板橋お達者健診. 老年内科 4 (4) :363-368, 2021
5. 笹井浩行. 早期の有酸素性運動が脳震盪を起こした中高生アスリートの競技復帰を早める (運動・身体活動のエビデンス 171). 月刊健康づくり 44(9):19, 2021
6. 笹井浩行. ウェアラブルデバイスを用いた在宅運動指導は末梢動脈疾患患者の歩行能力を必ずしも改善しない (運動・身体活動のエビデンス 165). 月刊健康づくり 44(3):19, 2021
7. 笹井浩行, 小島成実, 大須賀洋祐, 金憲経. 生活行動の24時間計測と機械学習を用いた老年症候群の新たな判定法の開発. 令和3年度理事長研究奨励賞報告書.
8. 島田裕之. 日本における高齢者コホート研究の成果と現状 NCGG-SGS. 老年内科 4(4): 321-326, 2021
9. 島田裕之. コロナ禍におけるフレイル・認知症予防-「オンライン通いの場アプリ」開発の経緯と効果検証-. 月刊地域医学 35(8): 41-45, 2021
10. 島田裕之. 認知症に対する運動療法の効果. Medical Practice 38(8): 1255-1258, 2021
11. 島田裕之. 生命予後・機能予後 (フレイル/サルコペニアは機能予後の体温計). WOC Nursing 9(7): 29-23, 2021
12. 島田裕之. Part5 認知症をもつ人と一緒に楽しめることと予防について「運動」. 鈴木みずえ(監). 認知症の介護・看護に役立つハンドセラピー, 池田書店, 東京, 117-121, 2021
13. 島田裕之. Column 認知症と運動: コグニサイズ. 鳥羽研二(監). 櫻井孝, 服部英幸, 武田章敬, 佐治直樹(編), 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療ハンドブック. 南江堂, 東京, 106-107, 2021
14. 西田優紀, 田中茂穂. 特集 高齢者の低栄養予防・フレイル予防「高齢者におけるエネルギー必要量の考え方と課題」. 公衆衛生 85(8), 2-7, 2021

15. 田中茂徳. 特集 糖尿病診療における運動・身体活動 「運動・身体活動と糖尿病」. 月刊糖尿病 #137, 13(9), 6-13, 2021
16. 大田崇央, 小川まどか, 菊池直樹, 笹井浩行, 岡本孝信. 質問紙で調査した若年成人および中高齢者の身体活動: 世田谷ー青葉研究. 運動疫学研究 (in press).
17. 笹井浩行, 安藤貴史, 岸本裕歩, 小島成実, 大須賀洋祐, 金憲経. 加速度計で調査した都内在住高齢者の身体活動: With/post コロナ時代における高齢者の移動範囲・活動量研究. 運動疫学研究 (in press).
18. 渡邊哲司・田中茂徳. 特集: 言葉と体育・スポーツ・身体運動 「言葉と体育・スポーツ・身体運動とのつながり」. 体育の科学 72(1), 2022
19. 宮地元彦・田中茂徳ほか. 身体活動量やエネルギー消費量の評価と活用、健康運動指導士・健康運動実践指導者必携ハンドブック令和3年度版, 健康・体力づくり事業財団, 2022
20. 高田和子・田中茂徳. エネルギー摂取、人間の許容限界事典, 朝倉書店, 東京, 2022

口腔保健と栄養研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Ohara Y, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Edahiro A, Kawai H, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: the Otassha Study. European College of Gerodontology 2021. ベルン, 2021年4月9-10日, Online.
2. Iwasaki M. Oral hypofunction and malnutrition. Findings from an epidemiological study of community-dwelling older adults. 3rd International Gerodontology Symposium Bern, WEB, 2021年4月9-10日
3. Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K, Borgnakke WS, Taylor GW, Nishihara T. Validation of Self-reported Measures of Periodontitis in a Japanese Population. 2021 IADR/PER General Session & Exhibition, WEB, 2021年7月21-24日
4. Nishihara T, Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K. Validation of the Trypsin-like Peptidase Activity Assay for Periodontitis Detection. 2021 IADR/PER General Session & Exhibition, WEB, 2021年7月21-24日
5. Suwama K, Yoshihara A, Kaneko N, Hoshino T, Minagawa K, Iwasaki M, Ito Y, Tanaka J, Narita I. Relationship between alcohol consumption and number of present teeth in community-dwelling Japanese. 2021 IADR/PER General Session & Exhibition, WEB, 2021年7月21-24日
6. Kakuta S, Park J, Hamasaki T, Iwasaki M, Ansai T. Dietary diversity and sarcopenia in Japanese elderly people. 2021 IADR/PER General Session & Exhibition, WEB, 2021年7月21-24日
7. Motokawa K, Iwasaki M, Shirobe M, Hayakawa M, Edahiro A, Ohara Y, Inagaki H, Watanabe Y, Awata S, Shinkai S, Hirano H. Exploring the effects of oral frailty and malnutrition overlap on frailty in community-dwelling elderly: a 2-year longitudinal study. 2nd World Dysphagia Summit. Nagoya. 2021年8月20-22日.

(2) 国内

1. 小原由紀, 白部麻樹, 岩崎正則, 枝広あや子, 本川佳子, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦. 口腔乾燥感が身体的フレイルの発現に与える影響の検討—地域在住高齢者における5年間の縦断研究—. 第32回日本老年学会総会合同セッション. 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
2. 岩崎正則, 本川佳子, 渡邊裕, 白部麻樹, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 小原由紀, 平野浩彦, 新開省二, 栗田主一. 地域在住高齢者における居住状況と認知機能にみた栄養状態と体組成. 第63回日本老年医学会学術集会2021. 6. 11-27. ウェブ開催
3. 木村友美, 岩崎正則, 坂本龍太, 和田泰三, 藤澤道子, 石本恭子, 加藤恵美子, 竜野真維, 笠原順子, 松林公蔵. 地域在住高齢者の4年後の認知機能低下と栄養・口腔機能との関連. 第63回日本老年医学会学術集会2021. 6. 11-27. ウェブ開催
4. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦, 上田貴之. 口腔機能低下症とサルコペニアの関連の検討: お達者健診研究. 第32回日本老年学会総会合同セッション. 2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
5. 目黒郁美, 小原由紀, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 岩崎正則, 五十嵐憲太郎, 伊藤誠康, 渡邊裕, 河相安彦, 平野浩彦. 要介護高齢者における義歯不使用に関する因子の検討. 第32回日本老年歯科医学会2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
6. 高橋知佳, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 本橋佳子, 本川佳子, 渡邊裕, 平野浩彦. 地域在住高齢者における舌圧低下に関連する要因の検討: 2年間の縦断研究. 第32回日本老年歯科医学会2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
7. 松原あさき, 白部麻樹, 古屋純一, 渡邊裕, 本川佳子, 枝広あや子, 小原由紀, 岩崎正則, 大淵修一, 平野浩彦, 水口俊介. 高齢者における唾液検査装置に関する調査—口腔内の検査項目と多項目唾液検査結果の比較—. 第32回日本老年歯科医学会2021. 6. 11-13. ウェブ開催.
8. 本橋佳子, 枝広あや子, 高橋知佳, 目黒郁美, 高城大輔, 紙本千晶, 深澤佳世, 木元あすか, 星野大地, 宇良千秋: 都市部在住認知症高齢者に対する訪問口腔調査2〜COVID-19流行下での実態〜. 日本老年歯科医学会第32回学術大会. 2021年6月 (WEB).
9. 枝広あや子, 本橋佳子, 宇良千秋, 高橋知佳, 目黒郁美, 高城大輔, 紙本千晶, 深澤佳世, 木元あすか, 星野大地: 都市部在住認知症高齢者に対する訪問口腔調査1〜社会的孤立状態の人へのアプローチ〜. 日本老年歯科医学会第32回学術大会. 2021年6月 (WEB).

10. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 日本人高齢者における全身の骨格筋量、咬筋量、口腔機能、歯の状態の関連. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
11. 五十嵐憲太郎, 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊裕, 伊藤誠康, 河相安彦, 平野浩彦. 地域在住高齢者の口腔機能低下症の有病率と評価項目間の関連性の検討: お達者健診研究. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
12. 釘宮嘉浩, 五十嵐憲太郎, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一, 上田貴之, 平野浩彦. サルコペニアと関連する口腔機能低下症の下位症状の検討: お達者健診研究. 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会. 2021. 8. 21-22. ウェブ開催.
13. 小原由紀, 中久木康一, 太田秀人, 平岡啓太. 新型コロナウイルス感染症が歯科衛生士業務にもたらした影響に関する検討. 日本歯科衛生学会第16回学術大会. 2021. 9. 18-30. ウェブ開催.
14. 戸田花奈子, 小原由紀, 松原ちあき, 森下志穂, 品田佳世子, 平野浩彦. 居宅療養管理指導において歯科衛生士に求められる役割に関する質的検討. 日本歯科衛生学会第16回学術大会. 2021. 9. 18-30. ウェブ開催.
15. 宮島沙紀, 小原由紀, 戸田花奈子, 秋野憲一, 平野浩彦, 武井典子. 通いの場における都道府県歯科衛生士会の参画状況. 日本歯科衛生学会第16回学術大会. 2021. 9. 18-30. ウェブ開催.
16. 岩崎正則, 渡邊裕, 小原由紀, 白部麻樹. 地域在住高齢者におけるオーラルフレイルと栄養状態の関連: 2年間の縦断研究. 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 23-25. ウェブ開催.
17. 佐藤美寿々, 岩崎正則, 皆川久美子, 宮本茜, 葭原明弘. 地域在住高齢者における歯の喪失と遊離糖類摂取量の関連. 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 23-25. ウェブ開催.
18. 中久木康一, 太田秀人, 平岡啓太, 小原由紀. 新型コロナウイルス感染症の歯科医療への影響—継続サーベイランスから得られた課題—. 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 23-25. ウェブ開催.
19. 小原由紀. 口腔機能低下症に対する歯科衛生士の関わり. 第24回日本歯科医学会学術大会. 2021. 9. 24. ウェブ開催.
20. 岩崎正則. シンポジウム8「口腔機能と血管病」. 第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 京都市, 2021年10月23-24日.
21. 小原由紀, 松原ちあき, 高橋知佳, 岩崎正則, 平野浩彦. 腸内細菌叢に関連する口腔機能関連指標の探索—20~40代を対象とした予備的検討—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
22. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 河合恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 上田貴之, 平野浩彦. サルコペニアが口腔機能に与える影響の縦断的検討: お達者健診研究. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
23. 金憲経, 小島成実, 大須賀洋祐, 笹井浩行, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 平野浩彦. 地域在住高齢女性における尿失禁を伴う身体的フレイルの特徴—お達者健診研究—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
24. 上田由美子, 小島成実, 大須賀洋祐, 笹井浩行, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 平野浩彦, 金憲経. 地域在住高齢女性におけるフレイル・サルコペニア診断項目と認知機能低下との関連について—お達者健診研究—. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
25. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦. 咬筋量は全身の骨格筋量および口腔機能と関連するか: 日本人地域在住高齢者を対象とした横断研究. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
26. 白部麻樹, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 枝広あや子, 渡邊裕, 井原一成, 金憲経, 大淵修一, 藤原佳典, 平野浩彦. 通いの場に参加している地域在住高齢者の口腔機能に関する検討. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会. 2021. 11. 6-7. ウェブ開催.
27. 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 小原由紀, 森下志穂, 本橋佳子, 岩崎正則, 渡邊裕, 平野浩彦. 認知症重症度に注目したアルツハイマー型認知症高齢者の口腔衛生管理の課題に関する検討. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
28. 小原由紀, 枝広あや子, 岩崎正則, 本川佳子, 稲垣宏樹, 横山友里, 栗田主一, 北村明彦, 新開省二, 平野浩彦. 地域在住高齢者における「かかりつけ歯科医」の有無とフレイルとの関連についての検討. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
29. 江尻愛美, 河合恒, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊裕, 平野浩彦, 金憲経, 大淵修一. 独居高齢者における社会的孤立の修正可能な関連要因の特徴. お達者健診研究. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
30. 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金憲経, 大淵修一. 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
31. 大淵修一, 河合恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 平野浩彦. バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係. お達者健診研究. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021. 12-21-23. 東京.
32. 岩崎正則, 角田聡子, 安細敏弘. COVID-19 流行下の定期的歯科受診の中断が高校生の口腔の健康に与える影響. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京都, 2021年12月21-23日.
33. 岩崎正則, 臼井通彦, 有吉渉, 中島啓介, 吉岡香絵, 井上真紀, 小林薫, 西原達次. 日本人中年期男女における睡眠時間と歯周病の関連. 第32回日本疫学会学術総会, 東京都, 2022年1月26-28日.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎Meguro A, ★Ohara Y, Edahiro A, Shirobe M, Iwasaki M, Igarashi K, Motokawa K, Ito M, Watanabe Y, Kawai H, Hirano H. Factors associated with denture non-use in older adults requiring long-term care. Arch Gerontol Geriatr. 95, 2021, 104412. (査読あり) (IF:3.250)
2. ★◎Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Kawai H, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Hirano H. Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: Evidence from the Otassha study. Gerodontology. doi: 10.1111/ger.12580. (in press), (査読あり) (IF:2.980)
3. ◎Meguro A, ★Ohara Y, Edahiro A, Shirobe M, Iwasaki M, Igarashi K, Motokawa K, Ito M, Watanabe Y, Kawai Y, Hirano H. Denture wearing is associated with nutritional status among older adults requiring long-term care: a cross-sectional study. J Dent Sci. (in press) (査読あり) (IF:2.08)
4. ★◎Iwasaki M, Hirano H, Motokawa M, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Murayama H, Fujiwara Y, Ihara K, Shinkai S, Kitamura A. Interrelationships among whole-body skeletal muscle mass, masseter muscle mass, oral function, and dentition status in older Japanese adults. BMC Geriatrics. 20:21(1):582., 2021 (査読あり) (IF: 3.921)
5. ★◎Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Hayakawa M, Mikami Y, Shirobe M, Inagaki H, Edahiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Nutritional status and body composition in cognitively impaired older persons living alone: The Takashimadaira study. PLoS One. 2021 Nov 23;16(11):e0260412. (原著・査読あり) (IF: 3.240)
6. ★◎Ohara Y, Kawai H, Shirobe M, Iwasaki M, Motokawa K, Edahiro A, Kim H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Obuchi S, Hirano H. Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: The Otassha Study. Gerodontology. 2021 Nov 11. doi: 10.1111/ger.12605. (原著・査読あり) (IF: 2.980)
7. Nomura Y, Ohara Y, Yamamoto Y, Okada A, Hosoya N, Hanada N, Takei N. Improvements of job environment and daily work-related tasks of dental hygienist working at private dental office. Dent. J. 2021, 9(2), 22; <https://doi.org/10.3390/dj9020022> (査読あり) (IF: N/A)
8. Okada A, Ohara Y, Nomura Y, Yamamoto Y, Hosoya N, Hanada N, Takei N. Impact of working environment on job satisfaction: findings from a survey of Japanese dental hygienists. Int J Environ Res Public Health. 2021; 18(6), 3200. (査読あり) (IF: 3.390)
9. Okada A, Nomura Y, Ohara Y, Yamamoto Y, Hosoya N, Hanada N, Takei N. Factors Affecting the Reinstatement of the Japanese Dental Hygienist: A Japanese Dental Hygienist Survey Conducted in 2019. Int J Environ Res Public Health. 2021, 18(4), 2049; <https://doi.org/10.3390/ijerph18042049> (査読あり) (IF: 3.390)
10. ◎Kugimiya Y, Watanabe Y, Shirobe M, Motohashi Y, Motokawa K, Edahiro A, Ohara Y, Ryu M, Igarashi K, Hoshino D, Nakajima J, Ueda T, Taniguchi Y, Ogawa T, Maekawa K, Tamaki K, Kuboki T, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. A comparison of colorimetric and visual methods for the assessment of masticatory performance with color-changeable chewing gum in older persons. J Dent Sci. 2021 16:380-388. (査読あり) (IF:2.08)
11. Tanaka T, Hirano H, Ohara Y, Nishimoto M, Iijima K. Oral Frailty Index-8 in the risk assessment of new-onset oral frailty and functional disability among community-dwelling older adults. Arch Gerontol Geriatr. 94, May-June 2021, 104340 (査読あり) (IF:3.250)
12. ◎Kugimiya Y, Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Edahiro A, Shirobe M, Watanabe Y, Obuchi S, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Ueda T, Hirano H. Relationship between Oral Hypofunction and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. Int J Environ Res Public Health. 2021; 18(12):6666. (査読あり) (IF: 3.390)
13. Shirobe M, Hidaka R, Hirano H, Ohara Y, Endo K, Watanabe Y, Hakuta C. The effectiveness of a desensitization technique for mitigating oral and facial tactile hypersensitivity in institutionalized older persons: A randomized controlled trial. J Dent Sci. 16:987-993. (査読あり) (IF:2.08)
14. Hama K, Iwasa Y, Ohara Y, Iwasaki M, Ito K, Nakajima J, Abe T, Tohara T, Sakamoto M, Itoda M, Inohara K, Ozaki Y, Sasaki R, Nishi, Yasuhiro Y, Tsuneishi M, Furuya J, Watanabe Y, Watanabe Y, Sato Y, Yoshida M. Pneumonia incidence and oral health management by dental hygienists in long-term care facilities: A 1-year prospective multicenter cohort study, Gerodontology (in press) (査読あり) (IF:2.980)
15. Sunakawa S, Tsugayasu H, Watanabe Y, Matsushima T, Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Ito K, Nakajima J, Iwasa Y, Itoda M, Sasaki R, Nishi Y, Furuya J, Watanabe Y, Ishiguro Y, Hirano H, Sato Y, Yoshida M, Yamazaki Y. Relationship between weight loss and regular dental management of older adults residing in long-term care facilities: A one-year multicenter longitudinal study. European Geriatric Medicine. (in press) (査読あり) (IF: 1.710)
16. Endo A, Watanabe Y, Matsushima T, Okada K, Ohara Y, Iwasaki M, Ito K, Nakajima J, Iwasa Y, Itoda M, Sasaki R, Nishi Y, Furuya J, Watanabe Y, Umemoto G, Kishima M, Hirano H, Sato Y, Yoshida M, Yamazaki Y. Association between weight loss and food form in older individuals residing in long-term care facilities: 1-year multicenter longitudinal study. Int J Environ Res Public Health. (in press) (査読あり) (IF: 3.390)
17. Shirobe M, Watanabe Y, Tanaka T, Hirano H, Kikutani T, Nakajo K, Sato T, Furuya J, Minakuchi S, Iijima K. Effect of an Oral Frailty Measures Program on Community-Dwelling Elderly People: A Cluster-Randomized Controlled Trial. Gerontology. 2021 Jul 9:1-10. (査読あり) (IF: 5.140)

18. Kobayashi M, Ito M, Iwasa Y, Motohashi Y, Eda Hiro A, Shirobe M, Hirano H, Gineste Y, Honda M. The effect of multimodal comprehensive care methodology training on oral health care professionals' empathy for patients with dementia. *BMC Med Educ*. 2021 Jun 3;21(1):315. (査読あり) (IF: 2.463)
19. Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa S, Hirano H, Ihara K, Takahashi M, Kim H, Obuchi S, Fujiwara Y. Gait and Age-Related Hearing Loss Interactions on Global Cognition and Falls. *Laryngoscope*. (in press) (査読あり) (IF: 3.325)
20. Kera T, Kawai H, Ejiri M, Takahashi J, Nishida K, Harai A, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatr Gerontol Int*. 2021 21(11):1053-1059. (査読あり) (IF: 2.730)
21. Nishihara K, Kawai H, Kera T, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Comparisons of muscle thicknesses, echo intensities, and motor functions between community-dwelling older Japanese adults with and without diabetes. *Arch Gerontol Geriatr*. 2021 Nov-Dec;97:104516. (査読あり) (IF: 3.250)
22. Ejiri M, Kawai H, Kera T, Ihara K, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Obuchi S. Exercise as a coping strategy and its impact on the psychological well-being of Japanese community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Psychol Sport Exerc*. 2021 Nov;57:102054. (査読あり) (IF: 4.785)
23. Fujiwara Y, Ihara K, Hachisu M, Suzuki H, Kawai H, Sakurai R, Hirano H, Chaves PHM, Hashizume M, Obuchi S. Higher Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor Levels Are Associated With a Lower Risk of Cognitive Decline: A 2-Year Follow Up Study in Community-Dwelling Older Adults. *Front Behav Neurosci*. 2021 Jun 22;15:641608. (査読あり) (IF: 3.558)
24. Kawai H, Obuchi S, Hirayama R, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Kobayashi Y, Mochimaru M, Tsushima E, Nakamura K. Intra-day variation in daily outdoor walking speed among community-dwelling older adults. *BMC Geriatr*. 2021 Jul 8;21(1):417. (査読あり) (IF: 3.921)
25. Takahashi J, Kawai H, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Ihara K, Ejiri M, Ishii K, Oka K, Obuchi S. Association between activity diversity and frailty among community-dwelling older Japanese: A cross-sectional study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2021 Jul-Aug;95:104377. (査読あり) (IF: 3.250)
26. Nakakubo S, Doi T, Tsutsumimoto K, Kurita S, Ishii H, Suzuki T, Shimada H. The Association of Sleep Habits and Advancing Age in Japanese Older Adults: Results from the National Center for Geriatrics and Gerontology Study of Geriatric Syndromes. *Gerontology*. 2021 Jul 28:1-5. doi: 10.1159/000516387. Epub ahead of print. PMID: 34320492. (査読あり) (IF: 5.140)
27. Maki Y, Ohashi W, Hattori H, Suzuki T. Discrepancies in persons with dementia, family members, and physician perspectives of dementia treatment: a descriptive study. *Psychogeriatrics*. 2021 Jul;21(4):596-604. (査読あり) (IF: 2.440)
28. Takao M, Maki Y, Suzuki T. Effect of financial incentives for participation in dementia prevention and support activities: results of a web survey with persons aged 60 and older. *Psychogeriatrics*. 2021 May;21(3):387-395. (査読あり) (IF: 2.440)
29. Makizako H, Shimada H, Tsutsumimoto K, Makino K, Nakakubo S, Ishii H, Suzuki T, Doi T. Physical Frailty and Future Costs of Long-Term Care in Older Adults: Results from the NCGG-SGS. *Gerontology*. 2021;67(6):695-704. (査読あり) (IF: 5.140)
30. ◎釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 大淵修一, 河合恒, 解良武士, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 五十嵐憲太郎, 星野大地, 平野浩彦. 地域在住高齢者における口腔機能低下有訴者の口腔機能 後期高齢者の質問票を構成する口腔機能関連項目を用いた検討. 日本老年医学会雑誌. 2021. 58(2) 245-254. (査読あり) (IF:N/A)
31. ◎釘宮嘉浩, 本川佳子, 山本かおり, 早川美知, 三上友里江, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 渡邊裕, 大淵修一, 河合恒, 解良武士, 藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 平野浩彦. 地域在住高齢者における口腔機能低下の有訴者率と栄養素等摂取量の関連 後期高齢者の質問票を構成する口腔機能関連項目を用いた検討. 日本老年医学会雑誌. 2021. 58(1) 91-100. (査読あり) (IF:N/A)
32. ★◎Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Inagaki H, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. A 2-year longitudinal study of association between oral frailty and deteriorating nutritional status among community-dwelling older adults. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 18(1), 213, 2020 (原著・査読あり) (IF:3.390)
33. ★◎Iwasaki M, Ennibi OK, Bouziane A, Erraji S, Lakhdar L, Rhissassi M, Ansai T, Yoshida A, Miyazaki H. Association between Periodontitis and the Mediterranean diet in young Moroccan individuals. *Journal of Periodontal Research*. 56(2), 408-414, 2021 (原著・査読あり) (IF: 4.419)
34. ★◎Iwasaki M, Kimura Y, Yamaga T, Yamamoto N, Ishikawa M, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fujisawa M, Okumiya K, Otsuka K, Matsubayashi K, Ogawa H. A population-based cross-sectional study of the association between periodontitis and arterial stiffness among the older Japanese population. *Journal of Periodontal Research*. 56(2), 423-431, 2021 (原著・査読あり) (IF: 4.419)

35. ★◎Iwasaki M, Sato M, Yoshihara A, Saito T, Kitamura K, Ansai T, Nakamura K. A 5-year longitudinal association between dietary fermented soybean (natto) intake and tooth loss through bone mineral density in postmenopausal women: the Yokogoshi cohort study. *Gerodontology*. In press, 2021 (原著・査読あり) (IF: 2.980)
36. ★◎Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K, Borgnakke WS, Taylor GW, Nishihara T. Validation of a Self-report Questionnaire for Periodontitis in a Japanese Population. *Scientific reports*. In press, 2021 (原著・査読あり) (IF: 4.379)
37. ★◎岩崎正則, 角田聡子, 安細敏弘. 高校生における新型コロナウイルス感染症流行下の定期的歯科受診の状況と口腔の状態の変化: 学校健康診断データを用いた検討. *日本公衆衛生雑誌*. In press, 2021 (原著・査読あり) (IF:N/A)
38. ★◎Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K, Nishihara T. Interruption of regular dental visits during the COVID-19 pandemic due to concerns regarding dental visits was associated with periodontitis in Japanese office workers. *Journal of Periodontal Research*. In press, 2021 (原著・査読あり) (IF: 4.419)
39. ★◎Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K, Nishihara T. Evaluation of the ability of the trypsin-like peptidase activity assay to detect severe periodontitis. *PLOS ONE*, In press, 2021 (原著・査読あり) (IF:3.240)
40. ★◎Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W, Nakashima K, Nagai-Yoshioka Y, Inoue M, Kobayashi K, Nishihara T. Sleep duration and severe periodontitis in middle-aged Japanese workers. *Journal of Clinical Periodontology*. In press, 2021 (原著・査読あり) (IF: 8.728)
41. ★◎Ohara Y, Iwasaki M, Shirobe M, Kawai H, Edahiro A, Motokawa K, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H. Xerostomia as a key predictor of physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: a five-year prospective cohort study from The Otassha Study. *Arch Gerontol Geriatr*. In press, 2021 (査読あり) (IF:3.250)
42. ◎Mikami Y, ★Motokawa K, Shirobe M, Edahiro A, Ohara Y, Iwasaki M, Hayakawa M, Watanabe Y, Inagaki H, Kim HK, Shinkai S, Awata S, Hirano H. Relationship between Eating Alone and Poor Appetite Using the Simplified Nutritional Appetite Questionnaire, *Nutrients*, 14(2), 337; <https://doi.org/10.3390/nu14020337>, 202 (原著・査読あり) (IF: 5.717)
43. ★◎Iwasaki M, Ohara Y, Motokawa K, Hayakawa M, Shirobe M, Edahiro A, Watanabe Y, Awata S, Okamura T, Inagaki H, Sakuma N, Obuchi S, Kawai H, Ejiri M, Ito K, Fujiwara Y, Kitamura A, Nofuji Y, Abe T, Iijima K, Tanaka T, Son BK, Shinkai S, Hirano H. Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants. *J Prosthodont Res*. 2022 Jan 27. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272.
44. ★◎Iwasaki M, Maeda I, Kokubo Y, Tanaka Y, Ueno T, Takahashi W, Watanabe Y, Hirano H. Capacitive-Type Pressure-Mapping Sensor for Measuring Bite Force. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Jan 24;19(3):1273. doi: 10.3390/ijerph19031273.
45. Kera T, Kawai H, Takahashi J, Hirano H, Watanabe Y, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S. Development of a screening formula for sarcopenia using ground reaction force during sit-to-stand motion. *Gait Posture*. 2022 Mar;93:177-182. doi: 10.1016/j.gaitpost.2022.02.001.
46. ★◎平野浩彦, 佐藤裕二, 飯島勝矢, 小玉剛, 古屋純一, 上田貴之, 恒石美登里, 渡邊裕, 岩崎正則, 小原由紀, 枝広あや子. フレイルおよび認知症と口腔健康の関係に焦点化した人生100年時代を見据えた歯科治療指針作成に関する研究. *日本歯科医学誌*. 2022;14:27-31 (原著)
47. 秋山理加, 濱崎朋子, 岩崎正則, 角田聡子, 片岡正太, 茂山博代, 濃野要, 葭原明弘, 小川祐司, 安細敏弘, 宮崎秀夫. 地域在宅超高齢者の食事パターンと栄養素摂取量、栄養状態および嚥下状態との関連. *口腔衛生学雑誌*. 2021;71(3):136-146. (原著・査読あり)

(2) 総説

1. ★◎Iwasaki M, Hirano H, Ohara Y, Motokawa K. The association of oral function with dietary intake and nutritional status among older adults: Latest evidence from epidemiological studies. *Jpn Dent Sci Rev*. 2021; 57:128-137. (IF:5.250) (査読あり)

3 著書等

1. 小原由紀. 高齢者のオーラルフレイル対応, 臨床老年看護, 28(1):37-42, 2021.
2. 小原由紀. ウィズコロナ時代におけるオーラルフレイル予防, 老年内科, 3(1):37-43, 2021.
3. 平野浩彦, 糸田昌隆, 梅本丈二, 枝広あや子, 木村年秀, 佐々木健, 佐藤保, 高田靖, 高橋一也, 畠山桂郎, 森田薫, 森田一彦, 山崎裕, 小原由紀. 日本老年歯科医学会全国版支部長会報告 新型コロナウイルス感染拡大後の地域高齢者歯科保健について 第一報. 老年歯学 35(4):E98-101. 2021.
4. 小原由紀. 認知症の人に対する口腔衛生管理. 老年歯学. 36(1):25-27. 2021.
5. 小原由紀. 高齢期におけるオーラルヘルスリテラシーとフレイル. 食と医療, 講談社. 18:12-17, 2021.
6. 小原由紀. 臨床に役立つQ&A 口腔乾燥への対応をおしえてください. *Geriatric Medicine (老年医学)* 8月号, 59(8):805-808, 2021.
7. 岩崎正則 (著分担) : 高齢者の摂食嚥下機能とフレイル予防. 公衆衛生, 医学書院, 東京, 85, 8, 2021.

8. 本川佳子：日常臨床と栄養疫学研究—管理栄養士・栄養士に求められること。臨床栄養，医歯薬出版，東京，139，2，2021.
9. 本川佳子：フレイル・サルコペニアを予防する高齢者の食と栄養。日本老年医学会雑誌，58，4，2021.
10. 本川佳子：栄養によるフレイル予防：高齢者の食生活と最新のサポート戦略。カレントセラピー，ライフメディコム，東京，40，5，2022.
11. 本川佳子：2021年度政策事業「全国病院栄養部門実態調査」について。臨床栄養，医歯薬出版，東京，140，3，2021.
12. 本川佳子：【高齢者の健康と栄養】高齢者の栄養ケア フレイルを中心とした食品摂取多様性を保つことの重要性。食と医療，講談社，18，2021.
13. 本川佳子：業務改善・業務の質向上につなげるための研究とそのポイントについて。日本栄養士会雑誌，65，2022.

認知症と精神保健

1 学会発表

(1) 海外

1. Edahiro A, Shirobe M, Hirano H, Iwasaki M, Motokawa K, Ohara Y, Oohori Y, Ito K, Okamura T, Shuichi Awata. A qualitative analysis of difficulties experienced by people living with dementia and their families while visiting the dentist. Regional IPA/JPS Meeting 2021, 16-18 Sept, Kyoto
2. Ito K, Okamura T, Tsuda S. Factors associated with mortality in older adults with complex mental health and social care needs. Regional IPA/JPS Meeting 2021, 16-18 Sept, Kyoto
3. Sugiyama M, Murayama H, Inagaki H, Okamura T, Miyamae F, Edahiro A, Ura C, Awata S. Subjective cognitive decline was related to anxiety about becoming dementia in future: A cross-sectional study in Japan. IPA, 2021年9月16日～18日
4. Okamura T, Ura C, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Sugiyama M, Taga T, Edahiro A, Awata S. What happens to people living in the Tokyo metropolitan area with cognitive impairment in 5 years? Regional IPA/JPS Meeting 2021, 16-18 Sept, Kyoto
5. Ura C, Okamura T, Takase A, Shimmei M, Ogawa Y. Factors associated with positive attitude toward end-of-life care among staff at long-term care facilities. Regional IPA/JPS Meeting 2021, 16-18 Sept, Kyoto
6. Ura C, Okamura T, Inagaki H, Ogawa M, Niikawa H, Edahiro A, Sugiyama M, Miyamae F, Sakuma N, Furuta K, Hatakeyama A, Ogisawa F, Konno M, Suzuki T, Awata S: Characteristics of detected and undetected dementia among community-dwelling older people in Metropolitan Tokyo. The 25rd Nordic Congress of Gerontology, Reykjavik, Iceland, 2021. 6. 2-4

(2) 国内

1. 井藤佳恵, 岡村毅, 津田修治：本邦におけるディオゲネス症候群—いわゆる「ごみ屋敷症候群」—の臨床的特徴と長期予後第22回日本認知症ケア学会，2021年2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
2. 宇良千秋, 岡村毅, 高瀬顕功, 新名正弥, 中川真知子, 小川有閑：特養職員の看取り介護への経験・態度と精神的健康の関連（1）：宗教者が施設ケアに関わる可能性について。第22回日本認知症ケア学会，2021年2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
3. 岡村毅, 宇良千秋, 高瀬顕功, 新名正弥, 中川真知子, 小川有閑：特養職員の看取り介護への経験・態度と精神的健康の関連（2）施設ケアラーの考える理想の死に関する予備的分析。第22回認知症ケア学会，2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
4. 杉山美香, 岡村毅, 枝広あや子, 宮前史子, 中山莉子, 宇良千秋, 小川まどか, 多賀努, 井藤佳恵, 栗田主一：コロナ禍の認知症支援拠点の役割とその実践～第2回目の緊急事態宣言下での地域拠点の取り組み～第22回認知症ケア学会，2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
5. 中山莉子, 多賀努, 岡村毅, 杉山美香, 宇良千秋, 山下真里, 宮前史子, 枝広あや子, 栗田主一：地域拠点において認知症とともに生きる独居高齢者の安心感を醸成するには？第22回日本認知症ケア学会，2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
6. 宮前史子, 多賀努, 森倉三男, 岩田裕之, 見城澄子, 杉山美香：地域住民が集まる本人ミーティングでは何が語られているのか？：DFCs実現のための基礎的研究。第22回日本認知症ケア学会，2021年2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
7. 枝広あや子, 岡村毅, 本橋佳子, 高橋知佳, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 多賀努, 中山莉子, 山下真里, 栗田主一：訪問口腔調査で明らかになった都市部在住認知症高齢者の口腔機能低下。第22回日本認知症ケア学会，2021年6月5日～10月5日（オンラインによる誌上発表）。
8. 宇良千秋：日本認知症ケア学会第22回大会特別企画「次世代の実践者・研究者が考える認知症ケアの未来：演題：本人もケアラーも機嫌よく自分らしく生きられる社会を次世代へ—農園と寺院の可能性を探る—」オンライン配信：2021年6月5日～10月5日（招聘）
9. 宇良千秋：日本認知症ケア学会第77回教育講演「感染症流行下に地域で暮らす認知症高齢者・家族の社会的孤立をどう防ぐか—with コロナ時代の「つながり」のカタチ—」オンライン配信期間：2021年4月1日（木）～2021年4月23日（金）（招聘）

10. 森倉三男, 井藤佳恵, 宇良千秋, 岡村毅, 見城澄子, 釘宮由紀子, 杉山美香, 多賀努, 永瀬雅子, 中山莉子, 宮前史子, 栗田主一:「地域の居場所」の利用によるフォーマルサービスの利用支援. 第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
11. 多賀努, 井藤佳恵, 宇良千秋, 枝広あや子, 岡村毅, 岡村睦子, 釘宮由紀子, 見城澄子, 杉山美香, 津田修司, 中山莉子, 宮前史子, 山下真理, 栗田主一: 心身の機能の低下した高齢者の「尊厳」観に関する実証的な研究: 認知機能の低下した高齢者の尊厳観に立った支援の予備的な調査. 第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
12. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 稲垣宏樹, 小川将, 枝広あや子, 杉山美香, 宮前史子, 宇良千秋, 岡村毅, 栗田主一: 大都市に暮らす高齢者のTrail Making Testの成績 (その3): TMT-B完遂者のエラー1回は健常範囲か? 第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
13. 稲垣宏樹, 栗田主一, 宇良千秋, 枝広あや子, 岡村毅, 杉山美香, 宮前史子, 多賀努, 平野浩彦, 本川佳子, 小原由紀, 横山友里: 大都市に一人で暮らす認知機能低下高齢者の対人・社会関係に関する報告～高島平2019コホートにおける大規模郵送調査の結果から. 第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
14. 佐久間尚子, 稲垣宏樹, 小川まどか, 枝広あや子, 杉山美香, 宮前史子, 宇良千秋, 岡村毅, 栗田主一: 大都市に暮らす認知機能低下高齢者の健康度の測定: 会場調査と訪問調査の比較から第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
15. 岡村毅, 宇良千秋, 多賀努, 柳澤知恵子, 山崎幸子, 新名正弥, 栗田主一: 都市部で農福連携を開始するための予備研究. 第36回日本老年精神医学会, 京都 (WEB), 2021年9月16日～18日
16. 宮前史子, 杉山美香, 森倉三男: 地域在住の認知症の本人と高齢者と協働して行う勉強会「認知症ゼミナール」の実践. 第80回日本公衆衛生学会 (東京+WEB開催) 2021年12月21日～23日.
17. 佐久間尚子, 鈴木宏幸, 稲垣宏樹, 小川将, 枝広あや子, 杉山美香, 宮前史子, 宇良千秋, 渡邊裕, 新開省二, 岡村毅, 栗田主一: 大都市在住高齢者のTrail Making Testの成績: TMT-B完遂者と未完遂者の比較. 第80回日本公衆衛生学会 (東京+WEB開催) 2021年12月21日～23日.
18. 枝広あや子, 岡村毅, 本橋佳子, 高橋知佳, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 多賀努, 中山莉子, 山下真里, 栗田主一: 地域で自宅で暮らす認知症高齢者の栄養状態低下の要因: 都市部における自宅訪問調査. 第80回日本公衆衛生学会 (東京+WEB開催) 2021年12月21日～23日.
19. 本橋佳子, 枝広あや子, 岡村毅, 高橋知佳, 宇良千秋, 宮前史子, 杉山美香, 山下真里, 栗田主一: 地域に暮らす認知症機能低下高齢者への訪問調査1: 感染症流行下の口腔状態. 第80回日本公衆衛生学会 (東京+WEB開催) 2021年12月21日～23日.
20. 枝広あや子, 本橋佳子, 宇良千秋, 高橋知佳, 目黒郁美, 高城大輔, 紙本千晶, 深澤佳世, 木元あすか, 星野大地: 都市部に在住認知症高齢者に対する訪問口腔調査1～社会的孤立状態の人へのアプローチ～. 日本老年歯科医学会第32回学術大会. 2021年6月 (WEB).
21. 本橋佳子, 枝広あや子, 高橋知佳, 目黒郁美, 高城大輔, 紙本千晶, 深澤佳世, 木元あすか, 星野大地, 宇良千秋: 都市部に在住認知症高齢者に対する訪問口腔調査2～COVID-19流行下での実態～. 日本老年歯科医学会第32回学術大会. 2021年6月 (WEB).
22. 杉山美香, 稲垣宏樹, 村山洋史, 岡村毅, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 栗田主一. 認知症予防のための行動とその関連要因―大規模調査から効果的な認知症予防事業を考える―. 日本認知症予防学会第10回学術大会. 2021年6月24日～26日. パシフィコ横浜 ノース
23. 多賀努, 島田千穂, 木田正吾, 松家まゆみ: ケアマネジメント行動の型に関する定量的な分析. 第26回日本在宅ケア学会動画配信 (広島+WEB配信), 2021年8月25-31日
24. 中山莉子: 認知症とともに生きる高齢者のコミュニケーション体験 ―認知症をもつ本人の安心感はいかに形成されるのか?―. 第三回日本老年臨床心理学会, 2021. 3. 20-3. 21, 東京 (ポスター, WEB開催)
25. Uchida S, Shimada C, Sakuma N, Kagitani F, Kan A, Awata S. Studies on the relationship between olfaction and cognitive function. 第44回日本基礎老化学会大会, 名古屋(Web), 2021年6月11-13日

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎★Okamura T, Shimada C, Ito M, Ito K. Analysis of challenges faced by care managers in providing end-of-life care for older people with terminally ill cancer and dementia. Psychogeriatrics. 2021;21(5):854-855. doi:10.1111/psyg.12745 (査読あり) (IF:2.440)
2. ◎★Okamura T, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Ura C, Sakuma N, Edahiro A, Taga T, Tsuda S, Awata S. Depressed mood and frailty among older people in Tokyo during the COVID-19 pandemic. Psychogeriatrics 2021;21(6):892-901 (査読あり) (IF:2.440)
3. ◎★Okamura T, Ura C, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Edahiro A, Taga T, Ito K, Awata S. After 5 years, half of people with cognitive impairment were no longer living in the community: A community observational survey. Int J Geriatr Psychiatry. 2021;36(12):1970-1971. doi:10.1002/gps.5608 (査読あり) (IF:3.485)
4. ◎★Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Kugimiya Y, Okamura M, Awata S. Everyday lives of community-dwelling older people with dementia during the COVID-19 pandemic in Japan. Int J Geriatr Psychiatry. 2021;36(9):1465-1467. doi:10.1002/gps.5553 (査読あり) (IF:3.485)

5. ◎★Okamura T, Ura C, Taga T, Yanagisawa C, Yamazaki S, Shimmei M. Green care farms in urban settings as a new paradigm for dementia care. *Psychogeriatrics*. 2021;21(5):852-853. doi:10.1111/psyg.12748 (査読あり) (IF:2.440)
6. Shoji R, Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Ura C, ★Okamura T. There is a place in the Sun: Buddhist temples as places for people with dementia and their carers. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2021;36(9):1462-1463. doi:10.1002/gps.5529 (査読あり) (IF:3.485)
7. ◎★Ura C, Okamura T, Takase A, Shimmei M, Ogawa Y. Mental well-being of staff in long-term care facilities at risk. *Geriatr Gerontol Int*. 2021;21(10):966-967. doi:10.1111/ggi.14260 (査読あり) (IF:2.730)
8. ◎★Ura C, Okamura T, Yamazaki S, Shimmei M, Torishima K, Eboshida A, Kawamuro Y. Rice farming care as a novel method of green care farm in East Asian context: an implementation research. *BMC Geriatr*. 2021;21(1):237. Published 2021 Apr 9. doi:10.1186/s12877-021-02181-2 (査読あり) (IF:3.921)
9. Yamazaki S, Ura C, Shimmei M, Okamura T. In search of lost time: Long-term prognosis of hikikomori called 8050 crisis. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2021;36(10):1590-1591. doi:10.1002/gps.5585 (原著, 査読あり) (IF:3.485, 2020) (査読あり) (IF:3.485)
10. Mitsutake S, Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, Awata S, Toba K, Ito H. Agreement on dementia severity levels between the 8-item and 21-item Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System. *Geriatr Gerontol Int*. 2021;21(8):748-749. doi: 10.1111/ggi.14205. Epub 2021 Jun 9. PMID: 34109720. (査読あり) (IF:2.730)
11. Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K : The relationship between blood pressure and cognitive function. *International Journal of Cardiology Cardiovascular Risk and Prevention* 2021;10, doi: 10.1016/j.ijcrp.2021.200104 (査読あり) (IF:4.164)
12. Klinpudtan N, Kabayama M, Godai K, Gondo Y, Masui Y, Akagi Y, Srithumsuk W, Kiyoshige E, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Yasumoto S, Ogawa M, Inagaki H, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H, Kamide K. Association between physical function and onset of coronary heart disease in a cohort of community-dwelling older populations: The SONIC study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2021 Jul-Aug;95:104386. doi: 10.1016/j.archger.2021.104386. Epub 2021 Mar 4. PMID: 33714872. (査読あり) (IF:3.250)
13. Sakurai R, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kobayashi-Cuya KE, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S, Takashimadaira Study Group : Differences in the association between white matter hyperintensities and gait performance among older adults with and without cognitive impairment. *Geriatr Gerontol Int* 2021;21(3): 313-320, 2021. doi: 10.1111/ggi.14132. (査読あり) (IF:2.730)
14. Sakurai R, Kim Y, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S : MMSE Cutoff Discriminates Hippocampal Atrophy: Neural Evidence for the Cutoff of 24 Points. *J Am Geriatr Soc* 2021;69(3): 839-841,. doi: 10.1111/jgs.17010. (査読あり) (IF:5.562)
15. Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Ura C, Nakagawa M, ★Okamura T. Geography over doctrine? Factors affecting the role of Buddhist priests in a community-based integrated care system. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. (in press) (査読あり) (IF:3.485)
16. ◎★Edahiro A, Okamura T, Motohashi Y, Takahashi C, Meguro A, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R, Yamashita M, Awata S. Severity of Dementia Is Associated with Increased Periodontal Inflamed Surface Area: Home Visit Survey of People with Cognitive Decline Living in the Community. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2021; 18(22):11961. https://doi.org/10.3390/ijerph182211961 (査読あり) (IF:3.390)
17. ◎★Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Edahiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, Awata S. The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition. *Psychogeriatrics*. 2021;21(5):841-843. doi:10.1111/psyg.12742 (査読あり) (IF:2.440)
18. ◎★枝広あや子, 岡村毅, 杉山美香, 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 中山莉子, 多賀努, 山下真里, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一: 認知症などの困難を抱えた高齢者に対する地域における歯科口腔保健相談の意義と方法論: 権利ベースのアプローチという観点から. *日本認知症ケア学会誌* 2021;20(3):435-445, (査読あり) (IF:ND)
19. Ito K, Okamura T, Tsuda S, Awata S. Diogenes syndrome in a 10-year retrospective observational study: An elderly case series in Tokyo [published online ahead of print, 2021 Oct 2]. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2021;10.1002/gps.5635. doi:10.1002/gps.5635 (査読あり) (IF:3.485)
20. ◎★Ura C, Okamura T, Takase A, Shimmei M, Ogawa Y. We have fear of death in common: factors associated with positive attitudes toward end-of-life care among care staff in long-term care facilities. *Geriatrics & Gerontology International* (査読あり) (IF:2.730)
21. ◎★Okamura T, Matoba Y, Sato M, Mizuta M, Awata S. Characteristics of older people who experience homelessness for the first time in later life in Tokyo, Japan: A descriptive study. *J Social Distress & Homelessness* (査読あり) (IF:0.931)

22. Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Ura C, Nakagawa M, ★Okamura T. Geography over doctrine? Factors affecting the role of Buddhist priests in a community-based integrated care system. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2021 Nov 23. doi: 10.1002/gps.5652. Epub ahead of print. PMID: 34813133. (査読あり) (IF:3.485)
23. ◎★宮前史子, 扇澤史子, 今村陽子, 畠山啓, 齋藤久美子, 岡本一枝, 白取絹恵, 古田光, 栗田主一. 離島の独居認知症高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための支援とは—認知症支援関係者から見た地域生活継続の促進要因と阻害要因— 認知症ケア学会誌 (査読あり) (IF:ND)
24. 山下真理, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 多賀努, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一. 認知機能低下を抱えた地域在住高齢者のインフォーマル, サポートと精神的健康に関する質的研究. 認知症ケア学会誌 (査読あり) (IF:ND)
25. Masanori Iwasaki1*, Yuki Ohara1, Keiko Motokawa1, Misato Hayakawa1, Maki Shirobe2, Ayako Eda1, Yutaka Watanabe1,3, Shuichi Awata1, Tsuyoshi Okamura1, Hiroki Inagaki1, Naoko Sakuma1, Shuichi Obuchi4, Hisashi Kawai4, Manami Ejiri4, Kumiko Ito5, Yoshinori Fujiwara6, Akihiko Kitamura6, Yu Nofuji6, Takumi Abe6, Katsuya Iijima7,8, Tomoki Tanaka7, Bo-Kyung Son7,8,9, Shoji Shinkai1,10, Hirohiko Hirano1 Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: a pooled analysis of over 5,000 participants. *Prosthodontic Research* in press (査読あり IF1.681)
26. ★◎Okamura T, Ogawa Y, Takase A, Shimmei M, Ura C. Good death from the perspective of geriatric nursing homes' staff members [published online ahead of print, 2022 Jan 8]. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2022;37(2):10.1002/gps.5681. doi:10.1002/gps.5681 (査読あり) (IF:3.485)
27. ★◎Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Eda1 A, Taga T, Tsuda S, Nakayama R, Ito K, Awata S. Factors associated with inability to attend a follow-up assessment, mortality, and institutionalization among community-dwelling older people with cognitive impairment during a 5-year period: evidence from community-based participatory research [published online ahead of print, 2022 Feb 23]. *Psychogeriatrics*. 2022;10.1111/psyg.12816. doi:10.1111/psyg.12816 (査読あり) (IF:2.440)
28. ★◎Sakuma N, Inagaki H, Ogawa M, Eda1 A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Suzuki H, Watanabe Y, Shinkai S, Okamura T, Awata S. Cognitive function, daily function and physical and mental health in older adults: A comparison of venue and home-visit community surveys in Metropolitan Tokyo. *Arch Gerontol Geriatr*. 2022;100:104617. doi:10.1016/j.archger.2021.104617 (査読あり) (IF:3.250)
29. Ito K, Okamura T, Awata S, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Kamide K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T. Factors associated with psychological well-being among nonagenarians: Well-being in the era of 100 years of life [published online ahead of print, 2022 Feb 16]. *Geriatr Gerontol Int*. 2022;10.1111/ggi.14359. doi:10.1111/ggi.1435 (査読あり) (IF:2.730)
30. ★◎稲垣宏樹, 杉山美香, 井藤佳恵, 佐久間尚子, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 栗田主一. 郵送法による地域在住高齢者の包括的な健康評価と将来的な要介護・認知症状態への移行との関連. 公衆衛生学雑誌 (査読あり) (IF:ND)
31. ★◎Okamura T, Ura C, Shimmei M, Takase A, Shoji R, Ogawa Y. Reflections of Buddhist priests who started a dementia carers' café in Japan. *Dementia* in press (査読あり) (IF:3.501)
32. Iwasa H, Inagaki H, Masui Y, Gondo Y. : Relationship between Personality and Mortality among Japanese Older Adults: A 14-Year Longitudinal Study.. *Int J Environ Res Public Health*, 19(4): , 2022 (査読あり) (IF:3.390)
33. Akagi Y, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Yasumoto S, Klinpuatan N, Srithumsuk W, Godai K, Ikebe K, Akasaka H, Yokoyama S, Nozato Y, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Arai Y, Inagaki H, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. : Alcohol drinking patterns have a positive association with cognitive function among older people: a cross-sectional study.. *BMC Geriatr*, 22(1): , 2022 (査読あり) (IF:3.921)
34. Uchida S, Shimada C, Sakuma N, Kagitani F, Kan A, Awata S. Olfactory function and discrimination ability in the elderly: a pilot study. *The Journal of Physiological Sciences*. in press (査読あり) (IF:2.781)
35. ◎Tsuda S, Inagaki H, Okamura T, Sugiyama M, Ogawa M, Miyamae F, Eda1 A, Ura C, Sakuma N, Awata S. Promoting Cultural Change Towards Dementia Friendly Communities: A Multi-level Intervention in Japan. *BMC geriatrics* in press (査読あり) (IF:3.921)

3 著書等

1. 岡村毅, 杉山美香: 新型コロナウイルス感染症下における大都市の大規模集合住宅に住む高齢者の支援. 老年精神医学雑誌 32(4): 460-467, 2021. (依頼総説)
2. 岡村毅: 高齢者にやさしい街づくりの研究—Community-Based Participatory Research— 心と社会2021年; 181: 78-81 (依頼総説)
3. 杉山美香: 新型コロナ流行下において認知症支援のための地域拠点が行った困難事例への支援. 老年精神医学雑誌32(9);953-959(2021) (依頼総説)
4. 杉山美香: 認知症支援のために地域の居場所ができること—COVID-19影響下の高島平ココからステーションの取り組み—. 認知症ケア事例ジャーナル第13巻第3号. 220-230 (2020)
5. 宮前史子: 地域に暮らす認知症の人と高齢者のピアサポート. 精神科 39(4): 499-506, 2021. (依頼総説)

6. 中山莉子, 加藤明日香, 和智遥香, 野村佳申, 隅田玲, 高橋美保 (2021). コロナ (COVID-19) 禍による大学講義のオンライン化にともない, 学生間の雑談様式はどのように変化したか——講義前後のやりとりに着目して—— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 44 65-73.
7. 中山莉子, 佐藤浩 (2021). 高齢者の社会参加を促すサークル活動の映像分析—習字サークルにおける「会話に入りにくい参加者」に着目して—, ライフレジリエンス学, 第一巻, pp1-9.
8. 宇良千秋: 第8章 認知症の予防. 荒木信夫, 丸木雄一 (編) 「認知症ビジュアルガイド」学研メディカル秀潤社, pp. 267-272, 2021年3月発行.
9. 宇良千秋: 認知症と共によりよく生きる: 認知症ケアの社会資源としての農園の可能性. 農林水産政策研究所レビューNo. 104. <https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/index.html> (依頼総説)
10. 宇良千秋: 認知症の人への農作業の効果の定量的分析. 農林水産省農林水産政策科学研究所 令和2年度 連携研究スキームによる研究 (委託研究課題) 研究成果等概要報告書. 2021年3月. (報告書)
11. 宇良千秋. 高島平ココからステーションでの取り組み②コロナ禍の電話アウトリーチでわかったこと—認知機能障害をもつ高齢者への影響について—. 東京都認知症地域支援推進事業 認知症とともに暮らせる社会に向けて地域づくりの手引き 2020年度改定版. P63-65, 東京都健康長寿医療センター, 2021
12. 稲垣宏樹, 杉山美香, 栗田主一: 令和2年度千代田区介護予防把握事業「こころとからだのすこやかチェック」報告書. 千代田区, 東京都健康長寿医療センター研究所, (2021) 査読なし報告書
13. 杉山美香, 稲垣宏樹, 栗田主一: 令和2年度千代田区訪問調査報告書. 千代田区, 東京都健康長寿医療センター研究所, (2021) 査読なし報告書
14. 杉山美香, 稲垣宏樹, 栗田主一: 令和2年度千代田区訪問調査報告書. 千代田区, 東京都健康長寿医療センター研究所, (2021) 査読なし報告書
15. 稲垣宏樹, 杉山美香, 栗田主一: 令和2年度千代田区介護予防把握事業「こころとからだのすこやかチェック」COVID-19追加調査事業報告書. 千代田区, 東京都健康長寿医療センター研究所, (2021) 査読なし報告書
16. 栗田主一, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 枝広あや子, 小川まどか, 岡村毅, 佐久間尚子, 杉山美香, 宮前史子: 令和2年度認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業. 業報告書, 東京都, 東京都健康長寿医療センター, (2021) 査読無し, 報告書
17. 栗田主一, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 枝広あや子, 小川まどか, 岡村毅, 佐久間尚子, 杉山美香, 宮前史子: 認知症とともに暮らせる社会に向けて地域づくりの手引き 2020年度改訂版. 東京都, 東京都健康長寿医療センター, (2021) 査読なし報告書
18. 杉山美香, 岡村毅, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 栗田主一: 新型コロナウイルス感染症流行下における認知症支援のための地域拠点の取り組み (分担). 令和2年度総括研究報告書独居認知症高齢者等が安全, 安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究, 厚生労働科学研究費補助金認知症施策研究事業 (2021.5) 査読無し, 報告書
19. 杉山美香: 認知症支援のための居場所づくりの取組事例～高島平ココからステーション～. 東京都高齢者保健福祉計画, 第2部第7章 (p370～371) 2021.3
20. 杉山美香, 稲垣宏樹: これからの健康習慣～感染症流行期以降の健康維持と生活の工夫～パンフレット. 千代田区保健福祉部在宅支援課介護予防係 (2021)
21. 岡村毅, 宇良千秋, 栗田主一: 新型コロナウイルス感染症の流行下における独居認知症高齢者等の生活. 厚生労働科学研究費補助金 (認知症政策研究事業) 分担研究報告書 (2021.5) 査読無し, 報告書
22. 宇良千秋: 耕してFarm: 農園で育む人とのキズナ. 第159回老年学, 老年医学公開講座講演集. 東京都健康長寿医療センター, pp. 35-44, 2021年10月発行
23. 岡村毅: 祈ってPray: 寺院が担う共生のカタチ. 第159回老年学, 老年医学公開講座講演集. 東京都健康長寿医療センター, pp. 21-34, 2021年10月発行
24. 枝広あや子: 食べてEat: 食べて育む生きるチカラ. 第159回老年学, 老年医学公開講座講演集. 東京都健康長寿医療センター, pp. 1-20, 2021年10月発行
25. 杉山美香: 認知症支援のための居場所づくりの取組事例～高島平ココからステーション～. 東京都高齢者保健福祉計画, 第2部第7章 (p370～371) 2021.3
26. 杉山美香, 稲垣宏樹: これからの健康習慣～感染症流行期以降の健康維持と生活の工夫～. 千代田区保健福祉部在宅支援課介護予防係 (2021)
27. 岡村毅: 都市化, 高齢化, 個人化が進む時代の農福連携のさらなる展開. 農林水産政策研究所レビューNo. 105 (依頼総説)
28. 岡村毅: 認知症と共に一人で暮らす高齢者の生活を支える地域拠点. 老年精神医学雑誌 (依頼総説)
29. 枝広あや子. 特集 若年性認知症とともに生きる人の支援を考える 若年性認知症の疫学調査からみえてきたこと それぞれの生活のなかで. 認知症ケア事例ジャーナル, 14 (4) :338-345, 2022
30. 稲垣宏樹: 百歳長寿者は他的高齢者と何が違うのか?—百寿者の認知機能. 心理老年学と臨床死生学—心理学の視点から考える老いと死, (佐藤眞一編著), 146-160, ミネルヴァ書房, 京都, 2022

受賞

フレイルと筋骨格系の健康

1. 21.3.6-7 大須賀洋祐, 小島成実, 笹井浩行, 金憲経 第22回日本健康支援学会年次学術大会・第8回日本介護予防・健康づくり学会大会, 大会優秀賞 体力テストは軽度認知障害の早期診断指標となり得るか: お達者研究 2021.3.6-7

2. 東浩太郎, 大須賀洋祐, 小島成実, 笹井浩行, 金憲経, 井上聡 第21回日本抗加齢医学会総会, 最優秀演題賞 都市部在住高齢者におけるビタミンK充足度と認知機能の関連: お達者研究 2021. 6. 25-27
3. 千葉一平, 李相侖, 裴成琉, 原田健次, 牧野圭太郎, 新海陽平, 片山脩, 島田裕之 第10回日本認知症予防学会学術集会, 浦上賞 地域在住高齢者における認知的フレイルと低栄養との関連 2021. 6. 24
4. 牧野圭太郎, 李相侖, 裴成琉, 千葉一平, 片山脩, 原田健次, 新海陽平, 島田裕之 第10回日本認知症予防学会学術集会, 浦上賞 認知症リスク予測を目的とした電話インタビュースケール開発と機械学習を用いた予測精度の検 2021. 6. 24
5. 栗田智史, 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔, 石井秀明, 木内悠人, 島田裕之 第10回日本認知症予防学会学術集会, 浦上賞 高齢者における知的活動を考慮した座位行動質問票の開発と妥当性の検 2021. 6. 25
6. 中窪翔, 土井剛彦, 堤本広大, 栗田智史, 木内悠人, 西本和平, 島田裕之 第8回日本予防理学療法学会学術大会, 優秀賞 高齢期における睡眠と身体活動低下の新規要介護発生との関連 2021. 11. 13

口腔保健と栄養研究

1. 小原由紀, 白部麻樹, 岩崎正則, 枝広あや子, 本川佳子, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦 第32回日本老年学会総会合同セッション優秀賞 口腔乾燥感が身体的フレイルの発現に与える影響の検討—地域在住高齢者における5年間の縦断研究— 2021. 6
2. 目黒郁美, 小原由紀, 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 岩崎正則, 五十嵐憲太郎, 伊藤誠康, 渡邊裕, 河相安彦, 平野浩彦 第32回日本老年歯科医学会優秀ポスター賞(一般部門) 要介護高齢者における義歯不使用に関する因子の検討 2021. 6

認知症と精神保健

1. 枝広あや子 日本認知症ケア学会石崎賞 訪問口腔調査で明らかになった都市部在住認知症高齢者の口腔機能低下 2021. 9. 27
2. 杉山美香 日本認知症ケア学会石崎賞 コロナ禍の認知症支援拠点の役割とその実 2021. 9. 27
3. 枝広あや子 優秀論文賞 Incidence and distribution of subtypes of early-onset dementia in Japan: A nationwide analysis based on annual performance reports of the Medical Centers for Dementia 2021. 7. 29

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線=常勤研究員、下線=非常勤職員、破線=研究生、連携大学院生等

福祉と生活ケア研究チーム

チームリーダー：石崎達郎

研究チームの概要・目的

本研究チームは、介護予防から医療・介護、エンドオブライフまで、高齢者ケアに関わるすべての人々や組織を対象に、居宅・施設・地域における高齢者支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進している。チーム研究のミッションは、要支援・要介護状態にある高齢者や後期・超高齢期高齢者における生活機能、精神的健康状態、生活の質、そして生活環境向上に資する研究の実践と社会への成果還元で、Aging in Place実現に向けた研究実践を目指している。

3つの研究テーマ、「介護予防研究」、「医療・介護システム研究」、そして「介護・エンドオブライフ研究」において研究活動を行っている。

「介護予防研究」では、介護予防の基盤開発、共助の互助化を目的とする介護予防プログラムの社会実装を、「医療・介護システム研究」では、高齢者・介護者を支える医療・介護システムの実現を目指す中で、地域単位で医療・介護システムを分析し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策の提言を目的としている。「介護・エンドオブライフ研究」は今年4月にチームリーダーが交代し、老いを自覚しつつある自立高齢者のwell-beingに関わる研究、自立が困難になりつつある高齢者の実態把握と権利擁護に関わる研究を推進している。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

介護予防研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
日常歩行速度 測定の確立	介護予防評価として日常生活歩行速度を確立する。	信頼性の検証	実験室歩行速度との一致度検討	季節変動の検討	性・年代別基準値の検討	縦断研究への応用
簡易生活機能 評価の開発	介護予防スクリーニングの新たな機器を開発する。	簡易運動機能測定の信頼性検証	簡易運動機能測定の基準値検討	簡易認知機能測定の信頼性検証	簡易認知機能測定の基準値検討	社会実装の可能性の検討
時系列データ による介護予防 評価の開発	歩行時の時系列データから認知機能低下を予測する機器を開発する。	データセット作成、特徴点抽出	認知機能低下への横断分析	認知機能低下への縦断分析	予測モデル作成	予測システム化
住民主体介護 予防のアクション リサーチ	住民主体の介護予防効果をアクションリサーチから明らかにする。	CAPモデルに基づく介入方法の検討	介入の実施	住民主体の介護予防支援技術の知識構造化	他モデルとの比較	マニュアル作成
サブスタッフ プログラムの 確立	デイサービスで住民が要支援者へサービス提供するプログラムを確立する。	デイサービスでの人材育成	利用者への影響評価	サブスタッフへの影響評価	事業所への影響評価	プログラム普及
専門職を支援 するロボット の開発	地域づくりによる介護予防での専門職支援を支援するチャットボットを開発する。	地域づくりによる介護予防での専門職支援記録の解析	地域づくりによる介護予防での専門職支援記録の解析	専門職支援の知識発現(AI)による知識化	AI予測と実際の一致度の検討	チャットボットへの実装
東京都介護 予防推進セン ターへの支援	地域づくりによる介護予防へ研究知見を提供し研究の普及啓発を行う。	地域づくりによる介護予防推進支援	地域づくりによる介護予防推進支援	地域づくりによる介護予防展開支援	介護予防ケアマネジメントモデルの提案	介護予防ケアマネジメントモデルの普及

介護予防運動指導員事業の支援	介護予防運動指導員へ研究知見を提供し研究の普及啓発を行う。	地域づくりによる介護予防の情報提供	地域づくりによる介護予防の情報提供	介護予防・日常生活支援総合事業の情報提供	介護予防・日常生活支援総合事業の情報提供	新しい介護予防ケアマネジメントモデルの提案

医療・介護システム研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
多病に対応可能な保健・医療システムの構築	高齢者における多剤処方の心身機能への影響	薬剤データ・分析用データの抽出、多剤処方の身体機能への影響分析	新規データ追加収集、多剤処方の精神的健康への影響分析、学会報告、論文執筆	新規データ追加収集、多剤処方の高次生活機能への影響分析、学会報告、論文執筆	新規データ追加収集、多剤処方の高次生活機能への影響分析、学会報告、論文執筆	学会報告、論文執筆、研究成果のまとめ
	生活機能・認知機能が医療のプロセス・アウトカムに及ぼす影響の検討	センター内関係部署調整、倫理審査、データ匿名化システム開発・データベース開発	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医薬品使用頻度の比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換
多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築	多様な介護の実態を把握し、その実態に応じた支援の提供、および持続可能な介護システムを検討する	日本の家族介護の多様性の現状と既存の介護者支援の実態を把握するとともに、私的介護支援に資する個別研究を実施	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究を実施。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究の実施と支援の提案。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究、支援の提案、その評価研究を実施。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	多様な介護の実態に応じた、公的介護保険と私的介護のバランスを検討し、持続的な介護システムの提言
切れ目のないアクセスを保証する医療・介護システムの構築	退院時・入院時等の移行期における医療介護の連携やケア調整を促進し、有害事象を予防する手立てを検討する	調査データとレセプトデータの統合データベースの開発	移行期ケアプログラムのニーズが高い集団の特性の解明、移行期におけるケアの継続性に関する実態把握	移行期ケアプログラムのニーズが高い集団の特性の解明、移行期におけるケアの継続性に関する実態把握	移行期に関わる医療・介護サービスの効果に関する研究	移行期ケアのあり方に対する提言

介護・エンドオブライフ研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度 (令和2年度)	2021 年度 (令和3年度)	2022 年度
エンドオブライフケアに関する意思表明支援の要件の明確化	専門職による認知症等高齢者の意思決定支援のための教育プログラムの開発	ACPの段階別のアプローチ方法を検討し、試行する	ACPの段階別のアプローチ方法の影響分析、病院及び地域における実践事例の収集	ACPの実践の場及びアプローチ方法の再検討、病院及び地域における実践事例の収集	専門職による認知症等高齢者の意思決定支援の課題の明確化	専門職による認知症等高齢者の意思決定支援のための教育プログラムの開発

認知症高齢者と介護する家族の負担軽減の方法論の提案	地域包括支援システムのなかの多職種連携教育プログラムの開発	方法論を試行し、介護への影響を探索的に明らかにする	認知症高齢者や介護者の状況を考慮した方法論の精査と効率的な実施方法の検討	認知症高齢者の介護負担軽減の方法論の試行的導入と検討	地域包括ケアシステムのなかの多職種連携の課題の抽出①他職種に求める役割の抽出	地域包括ケアシステムのなかの多職種連携の課題の抽出②自認する役割の抽出
エンドオブライフの状態変化の把握	エンドオブライフの支援ニーズが複雑困難化する高齢者の実態把握と、課題解決につながる方策の提示	データ収集方法の検討、ケアマネジャーとの研究ネットワーク構築を行う	介護サービスの利用者に関する経時的データ収集	介護サービスの利用者に関する経時的データ分析	認知症等高齢者のエンドオブライフの支援ニーズが複雑化する過程の分析	複雑な支援ニーズをもつ認知症等高齢者の権利擁護に関わる課題の明確化
ケア実践者・市民への研究成果の普及・還元	衰えつつ生きることの意味を市民ベースで考える素材を提供する	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る

介護予防

構成メンバー

テーマリーダー：大淵修一
研究員：河合恒、江尻愛美
非常勤研究員：解良武士

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

本テーマでは、従来の介護予防に応じない無関心期、関心期にある対象者の行動変容をいかに起こすのかを課題とし、a)日常生活や身近な場所において生活機能を評価し、介護予防行動を起こすための社会基盤を作るための基礎研究、b)地域の役割モデルによる住民主体の介護予防の推進や、住民がサービスの担い手として活動するための具体的なプログラムの提案と実施による応用研究、c)東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、介護予防（主任）運動指導員養成事業への支援を通じた、研究成果の区市町村や専門職への実装による普及啓発の3領域に分けて研究を進めている。

令和3年度は以下の研究を行い、当初の計画をやや上回る形で進行している。

1) 日常歩行速度測定の確立

歩行速度は要介護リスクを予測する重要な指標であるが、歩行路の設置、技師の配置などが臨床的な普及を阻害していた。我々は歩行速度計測にスマートフォン内蔵のGPSを利用し歩行速度を計測することに取り組んでいる。今年度は日内変動、季節変動を検討し、外気温に影響を受け変動するが、その大きさは95%最小可変変化量の範囲内であることが確認された。これらの一連の研究によって基盤研究を完了した。日常生活歩行速度の変動がプレフレイルや高血圧症と関連すること、歩行速度の変動は外気温と密接に関係し、自律神経活動を反映する可能性を示す結果も得られている。これらを踏まえて、AIによる自動解析を目標に教師付きデータで長時間・長期間の計測ができるように複数の民間企業の協力を得て、スクリーニング・介入・評価をクラウドベースで完結するシステムを作成している。

2) フレイルによるフレイルのためのフレイル予防活動プログラムのアクションリサーチ

介護予防無関心者は、心身機能の低下に先駆けて社会から離脱することの特徴とすることから、社会の役割期待を示す新しい介護予防プログラムを開発した。地域のフレイルの状況についてのワークショップを繰り返すことにより、地域からの役割期待が感じられるようになり、フレイル者がフレイルであることを認識することなく、フレイル改善活動が励起される知見を得た。6ヶ月後にはほぼ毎日1回以上の介護予防に資する活動が観察された。令和3年度は、地域在住高齢者コホートから傾向スコア法でマッチさせた対照群と比較し、有意な交互作用が観察され、プログラムが1年後のフレイルを抑制させる効果があることを発表した。

3) サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立

前述のように介護予防無関心層へのアプローチは役割期待を示すことが有効であり、また今後、想定される要支援者などを含む活動を行う場合には、地域の実情を理解するワークショップや要支援者の持てる力の理解が必要である。そこで一般介護予防事業を活用しデイサービスに教育機能を付与し、学習を行うサブスタッフ制度をいくつかの自治体と協働で試みている。サブスタッフ制度に関わった利用者、事業者、サブスタッフの3者ともに良い効果が有ることが明らかとなった。さらにサブスタッフ制度を知らないデイサービスにニーズ調査を行い報告した。この成果はマニュアル化し普及を図った。

4) 新型コロナウイルスによる行動制限中に見られたコーピング

昨年度の研究で新型コロナウイルスによる行動制限は精神的健康に影響が大きいことを報告した。今年度はこのストレスに対するコーピング行動の発現について調査した。筋トレ・体操に比較してウォーキングなど屋外での活動を伴う運動に緩衝効果が高いことがわかった。この報告は、日本健康支援学会で大会優秀賞を受賞した。介護予防研究テーマではこのストレスへのコーピングの高さが日本人の健康の基盤にあるのではないかと仮説しており、国際研究に発展させたいと考えている。

5) 地域高齢者における社会交流の加齢変化パターン

長期縦断研究をもとに混合軌跡モデリングで社会交流パターンを類型化し、総死亡との関係をCox比例ハザードモデルで分析した。その結果、社会的交流は高頻度群と低頻度群の2群に大別されることがわかった。疾患、居住状況などを調整した総死亡への調整ハザード比は低頻度群で1.49と影響が大きいことがわかった。この報告は日本応用老年学会で優秀発表賞を受賞した。

6) タブレット型コンピュータを利用した認知機能検査の開発

認知機能検査は認知症発症のスクリーニングを目的としたものが多く、介入効果の判断には使いにくいものが多かった。そこで我々は、タブレット型コンピュータとノイズキャンセリングヘッドフォンを併用して、様々な場面に認知機能の検査ができるシステムを開発した。15分程度で検査が完了できることを目標に、実行機能系の認知検査を中心に構成した。昨年度は横断データによる操作的MCIの検出力を検討したが、今年度は縦断データによる2年間の操作的MCIの検出力を検討した。感度0.72、特異度0.80、AUC0.79とこのシステムは良好な予測能がある事がわかった。特許出願を終え民間企業のサービスとして社会実装された。

【その根拠】

1) 日常歩行速度測定の確立

コホート研究で収集した地域在住高齢者92名のデータから、日常生活歩行速度の日内変動を分析し、歩行速度は主にケーデンスの変動によって変動し、歩行速度の日内変動が小さい群ではプレフレイルや高血圧症が多いことをBMC Geriatricsに発表した。また、日常生活歩行速度の季節変動はケーデンスの変動が原因であり、ケーデンスは気温の影響を受けることをScientific Reportsに発表した。

旭化成ホームズ株式会社との共同研究によって、日常生活歩行速度測定に加え、基本チェックリストなどの評価や介入プログラムを追加したアプリを開発し、これを使ってフレイルと日常生活歩行速度との関係に関するデータを約200名から収集した。

2) フレイルによるフレイルのためのフレイル予防活動プログラムのアクションリサーチ

フレイル者によるフレイル予防活動支援プログラム参加者に対して、参加後のフレイル関連活動への参加回数、1年後の心身機能測定を行った。介入後のフレイル予防活動量は有意に向上し、コホート研究の対象者から傾向スコアマッチングにより抽出した対照群と比較して、介入群では介入1年後のJ-CHS版フレイルインデックスに有意な改善を認めた。この結果は日本老年医学会雑誌に発表した。

3) サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立

前年度の厚生労働省老人保健健康増進等事業において実施した、東京都内の全通所介護事業所を対象としたサブスタッフ制度に関するニーズ調査の結果をもとに、事業所におけるサブスタッフの活用ニーズやサブスタッフに任せたいと考える業務内容を明らかにした。この内容は、日本応用老年学会にて発表した。また、前年度に作成したマニュアルは1都3県を中心に配布した。

4) 新型コロナウイルスによる行動制限中に見られたコーピング

板橋お達者健診2019年調査受診者に対して、2020年6-7月に郵送調査を行い、コロナ禍の外出自粛要請の際に、体や心の健康を保つために心がけて実施した「コーピングとしての運動」を調査した。618名が分析

対象となり、コーピングの有無による、2019年-2020年の精神的健康の変化を検討した。その結果、外出自粛期間中にコーピングとしてウォーキング・散歩を行った者では、行わなかった者に比べて精神的健康の悪化が抑制されていたことが明らかとなった。

5) 地域高齢者における社会交流の加齢変化パターン

板橋お達者健診2011コホート郵送調査9年間の縦断データ（4,065名、17,150観測データ）を分析し、社会的交流の加齢変化パターンには、65歳時からほぼ毎日他者と交流があり、80歳を超えても活発な交流を維持している高頻度群と、65歳時にすでに週2～3回と交流が少なく、80歳以降になると週1回未満の交流となり孤立に至る低頻度群があることを明らかにした。

6) タブレット型コンピュータを利用した認知機能検査の開発

板橋お達者健診においてタブレット型コンピュータによる認知検査を行い、2年間のフォローアップ調査に参加した455名に対して、MMSE27点未満をMCIと定義した結果、32名に新規MCIが確認され、これらに対してROC分析を行った。この結果を踏まえて、中電技術コンサルタント株式会社との共同研究によって認知機能検査アプリに実装し、民間企業による健診サービス「お達者健診PLUS」にて活用した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜日常生活歩行速度測定の確立＞

【センター内】高齢者健康増進事業支援室

【センター外】太陽生命保険（株）、産業技術総合研究所、弘前大学、旭化成ホームズ株式会社、株式会社InfoDeliver

＜簡易生活機能評価の開発＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、高齢者健康増進事業支援室、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、眼科

【センター外】株式会社トブコン、中電技術コンサルタント株式会社、旭化成ホームズ株式会社、株式会社InfoDeliver

＜時系列データの活用による介護予防評価の開発＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、高齢者健康増進事業支援室

【センター外】北里大学、ローム株式会社

＜フレイルによるフレイルのためのフレイル予防活動プログラムのアクションリサーチ＞

【センター内】高齢者健康増進事業支援室、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、高齢者健康増進センター

【センター外】昭和大学、高崎健康福祉大学、NPO法人コミュニティランドスケープ、産業技術総合研究所

＜サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立＞

【センター内】高齢者健康増進事業支援室、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター

【センター外】小金井市、千葉県浦安市

医療・介護システム

構成メンバー

テマリーダー：石崎達郎

研究員：増井幸恵、涌井智子、吉田祐子、光武誠吾

非常勤研究員：大野昂紀、堀紀子、菅亜希子

1 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

1) 医療システムに関する研究

①レセプトデータを用いたelectronic Frailty Indexの開発

今年度から、地域住民の多病に注目した健康課題指標「electronic Frailty Index (eFI)」の開発に取り組んでいる。北海道の75歳以上のレセプトデータ（80万人分）を使用し、進捗状況は予定通りである。

②多病・多剤処方フレイル・生活機能自立度への影響

長期縦断研究SONIC研究に参加した地域在住高齢者を対象に、追跡データを使って多病・多剤処方の客観的身体能力低下やフレイル発生、健康度自己評価への影響を分析している。科研費（挑戦的萌芽・基盤B）を獲得して、研究を推進している。進捗状況は、当初の予定通りである。

③歯科受診による急性期全身疾患発生の予防効果

北海道の75歳以上のレセプトデータ（約80万人分）を使って、歯科医療機関の受診（歯科受診）が全身疾患（肺炎、尿路感染症、急性冠症候群、脳卒中発作）の発症を予防するかどうか、傾向スコアマッチングを用いて検討した。現在、英文論文3編を執筆中であり、進捗状況は予定通りである。

2) 介護システムに関する研究：多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築

①在宅介護のデイリーデータ（daily data）取得による家族介護支援方策の検討

在宅で高齢者の介護を担う家族介護者を対象に、認知症による問題行動や在宅介護提供状況、介護負担感や睡眠障害の実態を毎日把握し、介護者の負担感や睡眠が、介護提供の生活においてどのように変動するか、またこれらの個人内変動と認知症の問題行動の多寡や介護提供状況との関連を検討し、認知症介護を始めとした介護におけるデイリーデータ把握による介護の個別支援の可能性について検討している。進捗は当初の予定よりやや遅れている。

②在宅・施設介護におけるICT導入への課題の把握

一般住民、家族介護者、介護職を対象に質問紙調査を実施し、在宅・施設介護におけるICT導入の実態とニーズ、今後のICT導入における課題を把握し、今後の介護におけるICT導入施策の可能性を検討している。今年度は、一般住民調査の解析から、介護におけるICT導入の促進に関連する特性を明らかにするとともに、家族介護者を対象とする調査を実施しており、進捗は概ね予定通りである。

③認知症独居高齢者を支える別居介護における課題の把握と支援方策の提言

独居高齢者が急速に増加している現状に即し、別居介護における課題の把握と支援方策の提言を目的に、本年度は文献調査を行った。進捗は概ね予定通りである。

3) 医療と介護の連携に関する研究

①老人保健施設（老健施設）の入所直後の入院とその関連要因の検討

全国介護レセプトデータと厚生労働省介護サービス施設・事業所調査個票データの連結データベースを開発し、介護老人保健施設（老健）の入所直後の入院発生に関連する施設要因と個人要因を検討した。英文原著論文を1編報告し、進捗状況は予定通りである。

②退院直後のリハビリテーションサービス利用による要介護度悪化の予防効果

柏市医療・介護レセプトデータ（3年分）を使って、退院直後のリハビリテーションサービス（リハサービス）が要介護度悪化に与える効果を、傾向スコアマッチングを用いて検討した。進捗状況は予定通りである。

【その根拠】

1) 医療システムに関する研究

①レセプトデータを用いたelectronic Frailty Indexの開発

全国の市町村が利用可能な国保データベース（KDB）システムの集計表に登録されている23疾患を対象に、2017年1月～4月に登録された疾患数が、その後の要介護認定（要支援1・2、要介護1～5）、死亡発生に関連するかどうか分析した結果、疾患数が多くなるにつれ、要介護認定・死亡リスクは増加していた。

②多病・多剤処方フレイル・生活機能自立度への影響

長期縦断研究SONIC研究に参加した70歳群・80歳群を対象に、ベースライン時点における内服薬数が3年後の客観的身体能力（握力、歩行速度）の低下、身体的フレイルの発生（握力・歩行速度が基準値より劣っている状態）、健康度自己評価に影響を及ぼすかどうか分析した。慢性疾患数の影響を取り除いても、薬剤数が多いことは客観的身体能力低下や身体的フレイル発生、健康度自己評価低下のリスク要因であった。現在、論文執筆中である。

③歯科受診による急性期全身疾患発生の予防効果

北海道の後期高齢者医療制度の全被保険者で、2016年9月から2017年2月（ベースライン期間）に医療機関を受診した者（748, 113名）のうち、除外基準（ベースライン期間中の入院経験・在宅医療利用・歯髄炎受診・要介護認定・死亡・データ欠損）の非該当者（436, 021名）を分析対象とした。追跡期間（2017年3月～2019年3月）に発生した全身疾患による急性期入院（肺炎、尿路感染症、急性冠症候群、脳卒中発作）を把握し、傾向スコアマッチング法を用いて歯科受診の有無で比較した。現在、論文執筆中である。

2) 介護システムに関する研究：多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築

①在宅介護のデイリーデータ取得による家族介護支援方策の検討

家族介護者の睡眠における個人内変動（個人内のばらつき）の実態と介護負担感との関連を検討し、国内学会・国際学会での報告を行った。

②在宅・施設介護におけるICT導入への課題の把握

一般住民約4000名を対象に実施した質問紙調査を解析し、国際学会での報告、論文投稿を行った。

③認知症独居高齢者を支える別居介護における課題の把握と支援方策の提言

本年度は文献調査を行うとともに、次年度に向けた別居による介護者へのインタビュー調査および質問紙調査の計画を策定している。進捗は概ね予定通りである。

3) 医療と介護の連携に関する研究

①老健施設への入所直後の入院とその関連要因に関する検討

全国全ての老健施設に2016年10月から2018年2月の間に入所していた者（282,991人）のうち、入所直後（30日以内）に発生した入院の関連要因を、個人要因と施設要因に分けて分析した。本研究成果は、国際学術誌「Geriatrics & Gerontology International」に掲載された。

②退院直後のリハビリテーションサービス利用による要介護度悪化の予防効果

2012年4月から2014年3月の間に、入退院した要介護認定のある高齢者を対象に、退院直後（退院月とその翌月）のリハサービス（医療保険・介護保険）が退院後1年以内の要介護度悪化に及ぼす影響を検討した。研究成果は、リハビリテーション医学の世界的トップジャーナル「Archives of Physical Medicine and Rehabilitation」に掲載された。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢発症リウマチ患者における生活機能改善を目的とする治療戦略の評価研究＞

【センター内】膠原病・リウマチ科

【センター外】東京医科歯科大学、聖マリアンナ医科大学

＜細胞診検査所見を用いた膵臓癌リスクスコアの開発＞

【センター内】病理診断科

【センター外】香川大学

＜認知症独居高齢者を支える別居介護における課題の把握と支援方策の提言＞

【センター内】研究所副所長

【センター外】桜美林大学、東京大学

＜地域高齢者の幸福感に関する研究＞

【センター外】亀岡市高齢福祉課

＜和光市：フィールド調査データ＋医療費・介護費データ突合分析＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム

＜草津町・鳩山町：フィールド調査データ＋医療費・介護費データ突合分析＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（ヘルシーエイジングと地域保健研究）

【センター外】早稲田大学

＜病院DPCデータとDASC-21連結データベースの分析＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム、精神科、認知症支援推進センター、糖尿病・代謝・内分泌内科、高齢診療科

＜全国介護レセプトデータ分析：老健の入所直後の入院と関連要因＞

【センター外】筑波大学

＜医療・介護レセプトデータの突合・分析＞

【センター外】筑波大学、東京大学

介護・エンドオブライフ

構成メンバー

テーマリーダー：井藤佳恵

研究員：菊地和則、池内朋子

非常勤研究員：小野真由子

1 令和3年度の研究成果

当テーマは、2021年4月にテーマリーダーが変わったことを機に研究計画の大幅な見直しを行った。

【令和3年度の進捗状況】

1) 老いを自覚しつつある自立高齢者のwell-beingに関わる研究

A. 老年期のアイデンティティの確立に関する研究

背景：多くの人が超高齢期を生きようになり、私たちは、生き方のモデルも死に方のモデルもない超高齢期をどう生ききるのかという課題を抱えている。老年期のwell-beingの実現のためには、老年期のアイデンティティの確立が必要と考えられる。

A-1. 中高年の老いの自覚とその関連要因研究

老いの自覚が高齢者のwell-beingと関連することが先行研究で明らかになっている。縦断研究（草津縦断研究、鳩山コホート研究）のデータから、老いの自覚に関連する要因を分析している。

A-2. 老年期のアイデンティティの確立を促す支援に関する研究

「高齢者の自伝的記憶の再構築がアイデンティティの再構築を促し、老年期の人生の再設計の支援につながる」という仮説を立て、その検証を行う。地域在住の前期高齢者40人を対象として、①自伝的記憶刺激型プログラム、②知識提供型プログラムを実施した。今後、アイデンティティの構成要素、介入によるアイデンティティの再構築、変化、発達の可能性、それらの実現による自己肯定感を含む心理的効果の分析を行う。

A-3. デス・エデュケーション（死の準備教育）がエンドオブライフの意思形成に与える影響に関する研究

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を広めようとする機運が高まっている。ACPは、人が自らの死に主体的に関わろうとする試みである。しかし国民の約75%が病院で死を迎える我が国では、死にゆく過程を現実的な感覚として知らない人も増え、それは現実的なACPを行うことを困難にしている。本研究は、「ACPを行うためには、基盤としてデス・エデュケーション（死の準備教育）によるデス・リテラシーの獲得が必要であり、デス・エデュケーションを受けることがエンドオブライフ・ケアの意思形成に影響を与える」という仮説を立て、これを検証する。

なお、デス・エデュケーションの場としてデスカフェを運営する。デスカフェは継続性が大きな課題であることから、デスカフェの継続に必要な要件を明らかにするための調査に着手した。今後は、デスカフェの参加者のなかで個別支援の希望がある者を対象として個別のACPを行い、その実現のための「意思実現支援モデル」の構築を目指す。

B. 老年期のwell-beingに関する研究

背景：身体機能や認知機能の低下が避けられない超高齢者のwell-beingの実現は、人生100年時代の老年学の大きな課題である。

B-1. 超高齢者のwell-beingの関連要因研究

超高齢者のwell-beingに関する知見はほとんどない。今回、長期縦断研究SONIC研究のデータを用いて90代高齢者の心理的well-beingの関連要因研究を行った結果、90代高齢者の心理的well-beingの関連要因には明確な男女差が認められた。超高齢者の心理的well-beingは、男性では家族との同居や経済的安定といった、物質的でドメスティックなものと、女性では誰かの役に立っているという主観的感覚と外界への志向と、強く関連した。

B-2. 高齢者の「感謝」感情が高齢者のwell-beingに与える影響に関する研究

「感謝」感情をもつことは、高齢者のwell-beingの維持向上に寄与すると考えられる。高齢者の感謝感情の研究をはじめにあたり、「感謝」感情と身体的健康、精神的健康、well-beingとの関連を扱った論文のスコーピング・レビューを行った。その結果、高齢者の感謝感情に関する研究がほとんど行われていないことが明らかになった。

次に、感謝の程度を測定する尺度開発を行う。65歳以上の健康な高齢者20人を対象としたインタビュー調査で得られたデータの質的分析から「感謝」の構成概念のアイテムプールを抽出し、そこから感謝の程度を測定するための評価尺度を作成した。

今後は、65歳以上の健康な高齢者550人に実施し、信頼性・妥当性の検討を行う。

2) 自立が困難になりつつある高齢者の実態把握と権利擁護に関わる研究

C. 複雑な支援ニーズをもつ高齢者の実態把握に関する研究

背景：認知症、身体疾患、身体障害、家族介護者の不在、経済困窮などの困難事象が重畳した高齢者は、医療機関においては退院困難事例、地域においては支援困難事例等として顕在化する。彼らは意思決定の機会を与えられずに地域社会から排除されるなど、権利侵害をうけやすい。権利擁護に配慮した支援体制の構築が必要であるが、この領域は系統的研究が国内外ともにほとんどなく、実態把握が最初の課題である。

C-1. 全国の行方不明認知症高齢者の調査研究

全国の市町村を対象としたアンケート調査（回収率32.3%）から集積した150事例の分析を行った。

独居認知症高齢者の行方不明に気づいたのは、別居の家族（40％）と介護保険サービス担当者（30％）で約7割を占めた。これらの結果から、身寄りがなく、介護保険サービスを利用していない独居認知症高齢者では、行方不明になっても気づかれないケースがあると推察される。

今回の調査では、発見されてから行方不明に気づかれたケースが22％、発見時の死亡（5％）と未発見（2％）を併せると1割弱に上がることが明らかになった。行方不明高齢者の死亡率は発見までの時間経過に伴い高くなるため（菊地、2019）、いかに早期に行方不明に気づけるかということに焦点をあてた方策が求められる。今年度は自治体に対する提言を行い、自治体支援ハンドブックを作成する。

C-2. 地域における高齢者困難事例の長期予後研究

ディオゲネス症候群—いわゆる「ごみ屋敷症候群」—は、洋の東西を問わず地域保健のなかの大きな課題である。今回、東京都市部のディオゲネス症候群の臨床的特徴と長期予後を明らかにすることを目的とした研究を行った。

自治体が介入した地域における高齢者支援困難事例270人を、標準化された住環境評価スケール（Environmental Cleanliness and Clutter Scale: ECCS）によって、ディオゲネス症候群61人と非ディオゲネス症候群209人に層別化して分析を行った。その結果、社会的孤立、独居、認知症が中等度以上に進行していること、BADL、とくに歩行機能の低下が、ディオゲネス症候群の関連要因であることが明らかになった。さらに、生存分析から早期の死亡率が高いことが明らかになった。

D. 専門職による意思決定支援へのあり方に関する研究

背景：意思決定支援のためには、高い専門スキルと多職種連携スキル、および倫理観をもつ専門職育成が不可欠である。

D-1. 専門職成年後見人等による医療上の意思決定への関わりに関する研究

日本弁護士連合会高齢者・障害者権利支援センター、リーガルサポート（司法書士会）、日本社会福祉士会ばあとなあとの3団体の協力を得て、専門職後見人を対象とした調査の準備を進めている。

D-2. 施設職員による、高齢者施設入所中の認知症高齢者の意思決定への関わりに関する研究

在宅での看取りを行っている小規模多機能事業所1か所、施設での看取りを行っている認知症対応グループホーム1か所の、管理者および職員計15人を対象としたインタビューとフォーカス・グループ・ディスカッションを行った。現在その内容の質的分析を進めており、高齢者施設入所中の認知症高齢者に対する、施設職員による意思決定支援とは、何に対するどのような支援なのか、明らかにする。

D-3. 地域包括ケアシステムに関わる専門職を対象とした多職種連携教育プログラムの開発

東京都健康長寿医療センターに設置されている認知症疾患医療センター^{*1}および認知症支援推進センター^{*2}が主催する、7種類年間20回の研修の受講者延べ2500人を対象として、2021年度から2か年計画で、多職種連携に関するアンケート調査を行っている。2021年度は「他機関・他職種に期待する役割」についての調査（調査①）、2022年度は「多職種連携のなかで自認する役割」に関する調査（調査②）を行う。調査①と調査②から明らかになる「期待される役割と自認する役割のギャップ」が多職種連携の阻害要因であるという仮説を立て、これを埋めることを目的とした研修プログラムを開発し、両センターで主催する研修プログラムに還元する。

※1 認知症医療の専門医療機関として専門医療を提供するとともに、地域連携を推進する立場から、地域包括ケアシステムに関わる多職種を対象とした教育の義務を負う。

※2 東京都独自の組織であり、認知症ケアに関わる専門職の育成を目的として設立され、都内の多職種を対象とした研修の企画運営を行う。

D-4. Dementia Behavior Disturbance Scale 5項目版（DBD5）の開発

2021年4月から、厚生労働省によって、「エビデンスに裏付けられた介護」の実現を目指した、科学的介護情報システム：通称LIFEの運用が開始された。LIFEには、介護保険サービス提供事業所と介護施設から、サービス利用者と提供しているサービスに関する膨大なデータが集積される。そのため、各項目を測定する尺度としては、介護職員が簡便に施行できるボリュームの少ないものが求められる。今回、認知症疾患医療センターと共同で、BPSDの代表的尺度のひとつである13項目版Dementia Behavior Disturbance Scale（DBD）から5項目DBD5を開発した。

3) 高齢者医療の臨床倫理に関わる研究

E. エンドオブライフ・ケアの臨床倫理に関する研究

背景：看取りに医療者が関わるのが想定されるが、急性期医療機関のなかの看取りには急性期医療と、well-beingな状態で生を締めくくるとの間に強い倫理的葛藤がある。

E-1. 急性期医療機関のなかにある倫理的課題の抽出

2021年11月より、当センター緩和ケア内科主催のエンドオブライフ・ケア研修会の一環として「臨床

倫理講座」をシリーズで開催している。その受講者を対象としたアンケート調査とインタビュー調査の質的分析から、急性期医療機関のなかにある倫理的課題の抽出を行っている。

E-2. 急性期医療機関において老衰死を看取ることをめぐる医師の倫理的葛藤に関する研究

当センター高齢診療科、神経内科、緩和ケア内科の医師、計13人を対象として、老衰死を看取ることをめぐる倫理的葛藤についてインタビュー調査を行った。今後、インタビュー調査の質的分析から、急性期医療機関において老衰死を看取ることをめぐる医師の倫理的葛藤を構成する要素を明らかにする。

【その根拠】

1) 老いを自覚しつつある自立高齢者のwell-beingに関わる研究

B-1: 研究成果をGeriatric Gerontology International (GGI) に投稿中。B-2: 研究成果を応用老年学誌上で報告した。

2) 自立が困難になりつつある高齢者の実態把握と権利擁護に関わる研究

C-1: 研究成果を老年精神医学雑誌で報告、別稿をGGIに投稿中。C-2: 研究成果をInternational Journal of Geriatric Psychiatryで報告、また、日本認知症ケア学会にて石崎賞を受賞した。D-1: 研究成果を投稿中。D-4: 研究成果をGGIにて報告した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<老いを自覚しつつある自立高齢者のwell-beingに関わる研究>

【センター内】医療・介護システム、ヘルシーエイジングと地域保健、社会参加と地域保健研究チーム

【センター外】公立環境研究所、産業技術総合研究所、桜美林大学、佐久大学、文京学院大学、University of Hawaii(USA)、University of Pittsburgh(USA)、Weill Cornell Medical College (USA)

<自律が困難になりつつある高齢者の実態把握と権利擁護に関わる研究>

【センター内】認知症と精神保健研究、自立促進と精神保健研究チーム、認知症支援推進センター、認知症疾患医療センター

【センター外】板橋区、東京都、高崎健康福祉大学、日本弁護士連合会高齢者・障害者権利支援センター、リーガルサポート（司法書士会）、日本社会福祉士会ぱあとなあ

<高齢者医療の臨床倫理に関わる研究>

【センター内】緩和ケア内科、高齢診療科

論文・学会発表

介護予防

1 学会発表

(1) 海外

1. Yuki Ohara, Maki Shirobe, Masanori Iwasaki, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Yoshinori Fujiwara, Kazuhige Ihara, Yutaka Watanabe, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano: Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: the Otassha Study, ECG Annual Conference 2021, Bern, Switzerland (hybrid), 2021.4.9-10.
2. Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Mitsugu Hachisu, Hiroyuki Suzuki, Hisashi Kawai, Ryota Sakurai, Hirohiko Hirano, Paulo H. M. Chaves, Masahiro Hashizume, Shuichi Obuchi: Higher Serum BDNF Levels are Associated with Lower Risk of Cognitive Decline: A 2-year Follow Up Study in Community-Dwelling Older Adults, GSA 2021 Annual Scientific Meeting, Phoenix, USA, 2021.11.10-14.

(2) 国内

1. 大淵修一, 河合 恒, 西田和正, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: 通常歩行速度は何を測定しているのか. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.
2. 河合 恒, 大淵修一, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: 新型コロナウイルス感染拡大による高齢者の歩行への影響. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.
3. 江尻愛美, 河合 恒, 解良武士, 井原一成, 藤原佳典, 渡邊 裕, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 新型コロナウイルス感染拡大による行動制限前後の精神的健康にウォーキングが及ぼす影響. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.
4. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦, 上田貴之: 口腔機能低下症とサルコペニアの関連の検討 The Otassha Study. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.

5. 小原由紀, 白部麻樹, 岩崎正則, 枝広あや子, 本川佳子, 渡邊裕, 大淵修一, 平野浩彦: 口腔乾燥感が身体的フレイルの発現に与える影響の検討 地域在住高齢者における5年間の縦断研究. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021. 6. 11-27.
6. 江尻愛美, 河合 恒, 解良武士, 井原一成, 藤原佳典, 渡邊 裕, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 外出自粛要請下に心身の健康を保つためにウォーキングを行った高齢者の特徴. 日本老年社会科学会第63回大会, Web開催, 2021. 6. 11-27.
7. 五十嵐憲太郎, 小原由紀, 星野大地, 釘宮嘉浩, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 飯塚晃司, 伊藤誠康, 大淵修一, 渡邊裕, 平野浩彦, 河相安彦: 地域在住高齢者の口腔機能低下の実態調査 パーセンタイル曲線による描出. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
8. 目黒郁美, 五十嵐憲太郎, 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 伊藤誠康, 大淵修一, 渡邊裕, 平野浩彦, 河相安彦: 口腔機能低下と低栄養の重複がフレイルに及ぼす影響 2年間の縦断調査による検討. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
9. 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦, 大淵修一: 高齢期の食欲が唾液分泌に与える影響の検討 地域在住高齢者における6年間の縦断研究. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
10. 弘中早苗, 釘宮嘉浩, 渡邊裕, 本川佳子, 平野浩彦, 大淵修一, 柿木保明: 地域在住高齢者におけるオーラルフレイル、社会的フレイルと身体的フレイルの関係. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
11. 本川佳子, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 釘宮嘉浩, 大淵修一, 渡邊裕, 平野浩彦: 後期高齢者健診質問票の口腔機能項目と栄養指標の関連. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
12. 五十嵐憲太郎, 小原由紀, 釘宮嘉浩, 星野大地, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 伊藤誠康, 大淵修一, 渡邊裕, 平野浩彦, 河相安彦: 地域在住高齢者の口腔機能低下症の有病率および栄養関連指標の検討. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, Web開催, 2021. 6. 11-13.
13. 藤原佳典, 鈴木宏幸, 河合 恒, 小川 将, 桜井良太, 金 憲経, 渡邊 裕, 平野浩彦, 井原一成, 大淵修一: 社会参加は認知機能のいかなるドメインの低下を抑制するか?: 社会活動のタイプに着目した検討, 第10回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2021. 6. 24-26.
14. 山下真里, 北村明彦, 阿部 巧, 稲垣宏樹, 大須賀洋祐, 河合 恒, 増井幸恵, 金 憲経, 石崎達郎, 大淵修一, 平野浩彦, 栗田圭一, 鳥羽研二: 認知症リスクチャート開発のためのコホートデータ統合研究: IRIDE Cohort Study, 第10回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2021. 6. 24-26.
15. 阿部 巧, 北村明彦, 山下真里, 稲垣宏樹, 大須賀洋祐, 河合 恒, 鈴木宏幸, 大淵修一, 金 憲経, 平野浩彦, 藤原佳典, 栗田圭一, 鳥羽研二: 認知機能低下者のスクリーニングモデルの開発: IRIDE Cohort Study, 第10回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2021. 6. 24-26.
16. 大淵修一, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 猪股高志, お達者健診メンバー: 地域在住高齢者のCOVID-19に対するコピーンクとその促進要因. 日本予防理学療法学会第6回サテライト集会, Web開催, 2021. 7. 3-4.
17. 河合 恒, 西原 賢, 解良武士, 江尻愛美, 伊藤久美子, 猪股高志, 大淵修一, 板橋お達者健診2011コホートメンバー: 大腿四頭筋厚と筋輝度は地域高齢者の新規サルコペニアの予測に有用か. 日本予防理学療法学会第6回サテライト集会, Web開催, 2021. 7. 3-4.
18. 解良武士, 江尻愛美, 河合 恒, 藤原佳典, 渡邊 裕, 平野浩彦, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一: 新型コロナウイルスの感染拡大下の地域高齢者の不安と、感染に関する理解・情報・行動との関係について. 日本予防理学療法学会第6回サテライト集会, Web開催, 2021. 7. 3-4.
19. 五十嵐憲太郎, 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 白部麻樹, 枝広あや子, 本川佳子, 河合 恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊 裕, 伊藤誠康, 河相安彦, 平野浩彦: 地域在住高齢者の口腔機能低下症の有病率と評価項目間の関連性の検討: お達者健診研究, 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会, Web, 2021. 8. 21-22.
20. 釘宮嘉浩, 五十嵐憲太郎, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊 裕, 河合 恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 上田貴之, 平野浩彦, サルコペニアと関連する口腔機能低下症の下位症状の検討: お達者健診研究, 第14回日本口腔検査学会総会・学術大会, Web, 2021. 8. 21-22.
21. 河合 恒, 大淵修一, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: COVID-19感染拡大による歩行行動の変化. 第76回日本体力医学会大会, 三重, 2021. 9. 17-19.
22. 河合 恒, 大淵修一: Measurement of daily living walking speed using smartphone application, 2021年度第4回ヒューマンロコモーション拡張技術協議会, オンライン, 2021. 10. 14.
23. 上田高志, 王 悠, 外山 琢, 荒木章之, 白矢智靖, 加藤 聡, 沼賀二郎, 河合 恒, 渡邊 裕, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一: 高齢者における前糖尿病と網膜微細血管構造の変化, 第75回日本臨床眼科学会, 福岡, 2021. 10. 28-31.
24. 岩崎正則, 平野浩彦, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 小原由紀, 河合 恒, 小島基永, 大淵修一, 村山洋史, 藤原佳典, 井原一成, 新開省二, 北村明彦: 咬筋量は全身の骨格筋量および口腔機能と関連するか: 日本人地域在住高齢者を対象とした横断研究, 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021. 11. 6-7.
25. 釘宮嘉浩, 岩崎正則, 小原由紀, 本川佳子, 枝広あや子, 白部麻樹, 渡邊 裕, 河合 恒, 大淵修一, 藤原佳典, 井原一成, 上田貴之, 平野浩彦: サルコペニアが口腔機能に与える影響の縦断的検討: お達者健診研究, 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021. 11. 6-7.
26. 白部麻樹, 本川佳子, 小原由紀, 岩崎正則, 枝広あや子, 渡邊裕, 井原一成, 金憲経, 大淵修一, 藤原佳典, 平野浩彦: 通いの場に参加している地域在住高齢者の口腔機能に関する検討, 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021. 11. 6-7.

27. 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンと総死亡との関連. 第16回応用老年学会大会, Web開催, 2021. 11. 6-7.
28. 伊藤久美子, 河合 恒, 江尻愛美, 大淵修一: 通所介護事業所における介護サービス教育を受けた地域住民の活用ニーズ. 第16回応用老年学会大会, Web開催, 2021. 11. 6-7.
29. 解良武士, 河合 恒, 本川佳子, 江尻愛美, 平野裕彦, 渡邊 裕, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一: 呼吸筋サルコペニアと栄養指標との関係～お達者健診研究～. 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会, 高松, 2021. 11. 12-13.
30. 解良武士, 河合 恒, 江尻愛美, 平野裕彦, 渡邊 裕, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一: 呼吸筋サルコペニア定義に関する検討～日本リハビリテーション栄養学会の定義との比較～. 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会, 高松, 2021. 11. 12-13.
31. 解良武士, 河合 恒, 江尻愛美, 平野裕彦, 渡邊 裕, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一: 糖尿病をもつ地域高齢者の身体機能の低下; 縦断的研究による結果. 第8回予防理学療法学会, Web開催, 2021. 11. 13.
32. 西田和正, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 大淵修一: グループ活動に参加している一般高齢者と要支援者の移動手段の違い. 第8回予防理学療法学会, Web開催, 2021. 11. 13.
33. 河合 恒, 大淵修一, 渡邊裕, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経: 日常生活歩行における歩行比とフレイルとの関係, 第8回日本予防理学療法学会学術大会, web開催, 2021. 11. 13.
34. 河合 恒, 大淵修一: スマートフォンアプリによる日常生活歩行速度測定とヘルスケアへの応用第42回バイオメカニズム学術講演会(SOBIM2021), オンライン, 2021. 11. 27-28.
35. 外山 琢, 王 悠, 白矢智靖, 加藤 聡, 沼賀二郎, 河合 恒, 渡邊 裕, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 大淵修一, 上田高志: 高齢者における糖尿病/前糖尿病による網膜内層の構造変化: お達者健診コホート研究より, 第60回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2021. 12. 3-5.
36. 大淵修一, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 平野浩彦: バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係 お達者健診研究. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
37. 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
38. 江尻愛美, 河合 恒, 藤原佳典, 井原一成, 渡邊 裕, 平野裕彦, 金 憲経, 大淵修一: 独居高齢者における社会的孤立の修正可能な関連要因の特徴: お達者健診研究. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12. 21-23.
39. 江尻愛美, 河合 恒, 解良武士, 伊藤久美子, 井原一成, 藤原佳典, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 新型コロナウイルス感染症流行下における高齢者の精神的健康の変化と心身の健康を保つためのコーピング行動の変化. 第23回日本健康支援学会年次学術集会・第9回日本介護予防・健康づくり学会大会・京都滋賀体育学会第151回大会, Web開催, 2022. 3. 5-6

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎★Manami Ejiri, Hisashi Kawai, Kaori Ishii, Koichiro Oka, Shuichi Obuchi: Predictors of older adults' objectively measured social isolation: A systematic review of observational studies. Arch Gerontol Geriatr. 94, May-June 2021, 104357. (査読あり) (IF: 3.250, 2020)
2. ◎★河合 恒, 西田和正, 江尻愛美, 解良武士, 佐藤和之, 中田晴美, 大淵修一: コミュニティアズパートナーを活用した地域診断による住民主体のフレイル予防活動支援プログラムの効果. 日本老年医学会雑誌, 58, 272-283, 2021. (査読あり)
3. ◎★江尻愛美, 河合 恒, 安永正史, 白部麻樹, 伊藤久美子, 植田拓也, 大淵修一: 住民主体の通いの場における活動期間に応じた継続支援方法の考察. 日本公衆衛生雑誌, 68(7), 459-467, 2021. (査読あり)
4. Junta Takahashi, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Manami Ejiri, Kaori Ishii, Koichiro Oka, ★Shuichi Obuchi: Association between activity diversity and frailty among community-dwelling older Japanese: A cross-sectional study. Arch Gerontol Geriatr. 95, July-August 2021, 104377. (原著、査読あり) (IF: 3.250, 2020)
5. Misato Hayakawa, Keiko Motokawa, Yurie Mikami, Kaori Yamamoto, Maki Shiroye, Ayako Eda Hiro, Masanori Iwasaki, Yuki Ohara, Yutaka Watanabe, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Hiroki Inagaki, Shoji Shinkai, Shuichi Awata, Atsushi Araki, Hirohiko Hirano: Low Dietary Variety and Diabetes Mellitus are Associated with Frailty Among Community-Dwelling Older Japanese Adults: A Cross-Sectional Study. Nutrients 2021, 13(2), 641. (査読あり) (IF: 5.717, 2020)
6. Tetsuya Ozawa, Masashi Yamashita, Satoshi Seino, Kentaro Kamiya, Nobuyuki Kagiya, Masaki Konishi, Hiroshi Saito, Kazuya Saito, Yuki Ogasawara, Emi Maekawa, Takeshi Kitai, Kentaro Iwata, Kentaro Jujo, Hiroshi Wada, Takatoshi Kasai, Shin-ichi Momomura, Nobuaki Hamazaki, Kohei Nozaki, HunKyung Kim, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Akihiko Kitamura, Shoji Shinkai, Yuya Matsue: Standardized gait speed ratio in elderly patients with heart failure. ESC Heart Failure, 8, 3557-3565, 2021. (査読あり) (IF: 4.411, 2020)
7. ◎Shuichi P. Obuchi, ★Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Kumiko Ito, Kenji Murakawa: Change in outdoor walking behavior during the coronavirus disease pandemic in Japan: a longitudinal study. Gait & Posture, 88, July 2021, 42-46, 2021. (査読あり) (IF: 2.840, 2020)
8. ◎Shuichi P. Obuchi, ★Hisashi Kawai, Juan C. Garbalosa, Kazumasa Nishida, Kenji Murakawa: Walking is regulated by environmental temperature. Scientific Reports, 11, 12136, 2021. (査読あり) (IF: 4.379, 2020)

9. Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Mitsugu Hachisu, Hiroyuki Suzuki, Hisashi Kawai, Ryota Sakurai, Hirohiko Hirano, Paulo H. M. Chavesf, Masahiro Hashizume, Shuichi Obuchi: Higher serum BDNF levels are associated with lower risk of cognitive decline: A 2-year follow up study in community-dwelling older adults. *Front. Behav. Neurosci.* 15:641608. (査読あり) (IF: 3.558, 2020)
10. Masanori Iwasaki, Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Maki Shirobe, Yuki Ohara, Ayako Edahiro, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano: Oral hypofunction and malnutrition among community-dwelling older adults: evidence from the Otassha Study. *Gerodontology*, 2022 Mar;39(1):17-25. doi: 10.1111/ger.12580. (査読あり) (IF: 2.980, 2020)
11. ◎★Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Ryo Hirayama, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Yoshiyuki Kobayashi, Masaaki Mochimaru, Eiki Tsushima, Kozo Nakamura: Intra-day variation in daily outdoor walking speed among community-dwelling older adults. *BMC Geriatr*, 2021, 21:417. (査読あり) (IF: 3.921, 2020)
12. Yoshihiro Kugimiya, Masanori Iwasaki, Yuki Ohara, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Yutaka Watanabe, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Takayuki Ueda, Hirohiko Hirano: Relationship Between Oral Hypofunction and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: The Otassha Study. *Int J Environ Res Public Health*, 2021, 18, 6666. (査読あり) (IF: 3.390, 2020)
13. ◎★Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Junta Takahashi, Kazumasa Nishida, Akihiro Harai, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatrics & Gerontology International*, 2021, 21(11):1053-1059. (査読あり) (IF: 2.730, 2020)
14. ◎★Manami Ejiri, Hisashi Kawai, Takeshi Kera, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi: Exercise as a coping strategy and its impact on the psychological well-being of Japanese community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Psychology of Sport & Exercise*, 57, 102054, 2021. (査読あり) (IF: 4.785, 2020)
15. Ken Nishihara, Hisashi Kawai, Takeshi Kera, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi: Comparisons of muscle thicknesses, echo intensities, and motor functions between community-dwelling older Japanese adults with and without diabetes. *Arch Gerontol Geriatr*. Nov-Dec 2021;97:104516. (査読あり) (IF: 3.250, 2020)
16. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Shuichi Yanai, Hiroyuki Suzuki, Susumu Ogawa, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Masatoshi Takahashi, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara: Gait and age-related hearing loss interactions on global cognition and falls. *Laryngoscope*. 2022 Apr;132(4):857-863. doi: 10.1002/lary.29898. (査読あり) (IF: 3.325, 2020)
17. Masanori Iwasaki, Hirohiko Hirano, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Yuki Ohara, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Hiroshi Murayama, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shoji Shinkai, Akihiko Kitamura: Interrelationship among whole-body skeletal muscle mass, masseter muscle mass, oral function, and dentition status in older Japanese adults, *BMC Geriatr*, 2021 Oct 20;21(1):582. doi: 10.1186/s12877-021-02552-9. (査読あり) (IF: 3.921, 2020)
18. 西田和正, 河合 恒, 伊藤久美子, 江尻愛美, 大淵修一: 住民主体での活動を目指した介護予防事業終了後の介護予防活動への参加に関連する要因の検討. *日本公衆衛生雑誌*, 69(1), 17-25, 2022. (査読あり)
19. Yuki Ohara, Hisashi Kawai, Maki Shirobe, Masanori Iwasaki, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Hunkyung Kim, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yutaka Watanabe, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano: Association between dry mouth and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: The Otassha Study. *Gerodontology*. 2022 Mar;39(1):41-48. doi: 10.1111/ger.12605. (査読あり) (IF: 2.980, 2020)
20. Yuki Ohara, Masahori Iwasaki, Maki Shirobe, Hisashi Kawai, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano: Xerostomia as a key predictor of physical frailty among community-dwelling older adults in Japan: a five year prospective cohort study from The Otassha Study. *Arch Gerontol Geriatr*. Mar-Apr 2022;99:104608. (査読あり) (IF: 3.250, 2020)
21. Yukiko Nishita, Hyuma Makizako, Seungwon Jeong, Rei Otsuka, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara, Yuki Ohara, Shuichi Awata, Minoru Yamada, Katsuya Iijima, Hiroyuki Shimada, Takao Suzuki: Temporal Trends in Cognitive Function Among Community-Dwelling Older Adults in Japan: Findings from the ILSA-J Integrated Cohort Study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2022 May 11;102:104718. doi: 10.1016/j.archger.2022.104718. Online ahead of print. (査読あり) (IF: 3.250, 2020)
22. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Junta Takahashi, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi: Development of a screening formula for sarcopenia using ground reaction force during sit-to-stand motion. *Gait Posture*. 2022 Mar;93:177-182. (査読あり) (IF: 2.840, 2020)
23. Kumiko Ito, Yasutake Tomata, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shu Zhang, Toshimasa Sone, Yumi Sugawara, Ichiro Tsuji: Time spent walking and disability-free survival in older Japanese: The Ohsaki Cohort 2006 Study. *Scand J Med Sci Sports*. 2022 Mar 5. doi: 10.1111/sms.14150. (査読あり) (IF: 4.221, 2020)

24. Masanori Iwasaki, Yuki Ohara, Keiko Motokawa, Misato Hayakawa, Maki Shirobe, Ayako Eda Hiro, Yutaka Watanabe, Shuichi Awata, Tsuyoshi Okamura, Hiroki Inagaki, Naoko Sakuma, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Kumiko Ito, Yoshinori Fujiwara, Akihiko Kitamura, Yu Nofuji, Takumi Abe, Katsuya Iijima, Tomoki Tanaka, Bo-Kyung Son, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano: Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants. J Prosthodont Res. 2022 Jan 27. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272. (査読あり)(IF: 4.642, 2020)
25. You Wang, Taku Toyama, Yohei Hashimoto, Hisashi Kawai, Kunihiro Azuma, Tomoyasu Shiraya, Satoshi Kato, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Jiro Numaga, Shuichi Obuchi, Takashi Ueta: Association of prediabetes with retinal microvasculature on swept-source optical coherence tomography angiography in the elderly: OTASSHA study. Retina. 2022 Jan 20. doi: 10.1097/IAE.0000000000003416. (査読あり)(IF: 4.256, 2020)
26. Yohei Masugi, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Tomoki Tanaka, Katsuya Iijima, Takashi Inomata, ★Shuichi P Obuchi: Early strong predictors of decline in instrumental activities of daily living in community-dwelling older Japanese people. PLOS ONE, 2022 Apr 5;17(4):e0266614. doi: 10.1371/journal.pone.0266614. (査読あり)(IF: 3.240, 2020)
27. ◎★解良武士, 河合 恒, 江尻愛美, 平野浩彦, 渡邊 裕, 藤原佳典, 金 憲経, 井原一成, 大淵修一: 地域在住高齢者における非糖尿病, 前糖尿病及び糖尿病と転倒との関係と身体機能の変化について. 日本予防理学療法学会雑誌, 1, 3-9, 2022.

(2) 総説

1. 本川晃一, 大淵修一: 介護予防に資する通いの場における仏教の慈悲の実践: 陰陽からの考察. 応用老年学 15(1), 97-104. (総説、査読あり)

3 著書等

1. 大淵修一: 第12章 フレイルと高齢者スポーツ. フレイル予防と予防医学—諸研究分野の視点から「フレイル予防」及び「予防医学」を考える—, 矢澤一良(監), 102-110, 2021. シーエムシー出版, 2021.6.23 (著書、査読なし)
2. 大淵修一: <フレイル/サルコペニアの予防指導>サルコペニア・フレイル指導士、介護予防運動指導員の役割を踏まえて. WOC Nursing, Vol.9, No.7, 37-42, 2021. (総説、査読なし)
3. 大淵修一: 老年症候群(含むフレイル) 対策・転倒予防等の予防的リハビリテーション事業. 臨床リハ, Vol130, No.13, 1359-1366, 2021. (総説、査読なし)
4. 大淵修一: 地域包括ケアシステムの中における予防的リハビリテーションの意義. ディサースリア臨床研究, Vol111, No1, 17-22, 2021. (総説、査読なし)
5. 大淵修一: 介護予防領域でのリハビリテーションの現状と課題. 総合リハビリテーション, Vol149, No12, 1137-1144, 2021. (総説、査読なし)

医療・介護システム

1 学会発表

(1) 海外

1. Wakui T, Tamiya N, Ishizaki T, Kai I. Impacts of Relational Changes in Family on Long-term Care Policy in Japan. 2021 International Association for Relationship Research Virtual Conference. June 16-September 21, 2021.
2. Wakui T. Within-person Variation In Emotional Exhaustion Among Caregivers For Older Adults. Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting. Online conference, USA. November 10-14, 2021.
3. Wakui T, Hirayama R, Kai I. Role Of Emotional Attachment And Reciprocity In Sons' Perceived Care Motivation For Parental Figures. Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting. Online conference, USA. November. 10-14, 2021.
4. Wakui T, Ikeuchi T, Itoh S, Miwa H, Watanabe K. Preferable Use Of Information And Communication Technologies In Long-term Care Settings: A Vignette Survey Of Japan. Gerontological Society of America 2021 Annual Scientific Meeting. Online conference, USA. November 10-14, 2021.
5. Itoh S, Watanabe K, Miwa H, Ikeuchi T, Wakui T. Factors related to Acceptance to Use Care Technologies for Bathing among Middle-Aged Adults: A Cross-Sectional Study. Medinfo 2021. Online conference. October 2-4, 2021.

(2) 国内

1. 増井幸恵. 高齢者、百寿者の幸福感や心理的well-beingを支える老年的超越. シンポジウム「百寿者 (centenarian) に訊く健康づくり～歯科が支援できることを考える～. 日本老年歯科医学会第32回学術大会, 2021.6.11-13 (オンライン開催).

2. 呉代華容、樺山舞、神出計、赤坂憲、安元佐織、増井幸恵、池邊一典、石崎達郎、樂木宏実、榎藤恭之。地域在住高齢者における新型コロナウイルス感染症予防のための活動自粛に伴う主観的な心身機能の変化。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
3. 小林慶吾、呉代華容、樺山舞、赤坂憲、榎藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出計。地域在住高齢者の高血圧とうつ傾向の関連性の検討。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
4. 田村彩乃、樺山舞、呉代華容、赤坂憲、榎藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出計。地域在住高齢者における疾患の種類と主観的健康感の関連の検討 SONIC研究。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
5. 野上素子、樺山舞、呉代華容、赤坂憲、榎藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出計。地域在住高齢者高血圧患者における経済状況と血圧コントロールの関連。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
6. 大畑裕可、樺山舞、呉代華容、赤坂憲、榎藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出計。骨関節疾患を有する地域在住高齢者における身体的フレイルの要因についての検討。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
7. 井口真由香、樺山舞、呉代華容、赤坂憲、榎藤恭之、増井幸恵、新井康通、石崎達郎、樂木宏実、神出計。地域在住高齢者の血糖コントロール状況が認知機能に及ぼす影響 SONIC研究。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
8. 中村祐子、樺山舞、呉代華容、赤坂憲、榎藤恭之、新井康通、増井幸恵、石崎達郎、樂木宏実、神出計。地域在住高齢者における血清LDL値と脳梗塞・虚血性心疾患、動脈硬化発症との関連における縦断解析 SONIC研究。第63回日本老年医学会学術総会。2021.6.11-7.4（オンライン開催）。
9. 崔煌、榎藤恭之、増井幸恵、中川威、安元佐織、小野口航、池邊一典、神出計、樺山舞、石崎達郎。高齢者における社会参加、ソーシャル・キャピタル、主観的幸福感の関連。第63回日本老年社会学会大会 2021.6.12-7.27（オンライン開催）。
10. 春日彩花、榎藤恭之、菊地亜華里、増井幸恵。高齢者の健康行動の個人差 潜在クラス分析による検討。第63回日本老年社会学会大会 2021.6.12-7.27（オンライン開催）。
11. 増井幸恵。高齢者のパーソナリティと健康：SONIC & NLS-LSA共同研究の展開 SONIC研究における性格と認知機能と食品摂取の検討。シンポジウム「高齢者のパーソナリティと健康：SONIC & NLS-LSA共同研究の展開」。第63回日本老年社会学会大会 2021.6.12-7.27（オンライン開催）。
12. 三浦ゆり、川上恭司郎、井出野佑太、増井幸恵、稲垣宏樹、津元裕樹、梅澤啓太郎、新井康通、池邊一典、石崎達郎、神出計、榎藤恭之、遠藤玉夫。縦断コホートをを用いた糖尿病性認知機能低下のグライコプロテオミクス。日本プロテオーム学会2021年大会。2021.7.19-21（オンライン開催）。
13. 増井幸恵、榎藤恭之、中川威、小川まどか、稲垣宏樹、吉田祐子、石岡良子、春日彩花、蔡羽淳、松本清明、菊地亜華里、程雨田、武藤拓之、小野口航、堀紀子。後期高齢者・超高齢者における老年的超越がその後精神的健康に及ぼす影響の年齢差の検討 SONIC研究データを用いた縦断的検討。日本心理学会第85回大会。2021.9.1-9.8（オンライン開催）。
14. 涌井智子。介護負担感に関連する仕事と介護のコンフリクト要因の解明。第31回日本家族社会学会大会。2021.9.4-5（オンライン開催）。
15. 涌井智子、平山亮、甲斐一郎。日本語版介護レディネス尺度の作成：就業者における信頼性・妥当性の検討。第63回日本老年社会学会大会。2021.6.12-13。（オンライン開催）
16. 池内朋子、涌井智子、三輪洋靖、渡辺健太郎、伊藤沙紀子。中高年の主観年齢と健康感—全国オンライン調査の結果—。第63回日本老年社会学会大会。2021.6.12-13（オンライン開催）。
17. 関野明子、涌井智子。別居介護継続のプロセスと将来展望—高齢の親を別居で支える子ども介護者へのインタビュー調査から—。第63回日本老年社会学会大会。2021.6.12-13（オンライン開催）。
18. 吉田祐子、金憲経、岩佐一、鈴木隆雄。高齢者の身体機能と neutrophil to lymphocyte ratio との関連、第76回日本体力医学会大会。2021.9.17-20（オンライン開催）。
19. 堀紀子、石崎達郎、増井幸恵、井藤佳恵、樺山舞、神出計、榎藤恭之。後期高齢者の健康診査で使われる質問票によるフレイルの評価：SONIC研究。第80回日本公衆衛生学会総会。2021.12.21-12.23（オンライン開催）。
20. Wakui T. Sleep Patterns in Caregivers: Examining Between-and Within-person Associations. 第80回日本公衆衛生学会総会。2021.12.21-12.23（オンライン開催）。

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Mitsutake S., Ishizaki T., Yokoyama Y, Nishi M, Koohsari MJ, Oka K, Yano S., Abe T, Kitamura A. Do Walking-Friendly Built Environments Influence Frailty and Long-Term Care Insurance Service Needs? Sustainability 2021, 13(10):5632. (原著・査読あり、IF: 3.251)
2. ★◎Mitsutake S., Ishizaki T., Yano S, Tsuchiya-Ito R, Jin X, Watanabe T, Uda K, Livingstone I, Tamiya N., Characteristics associated with hospitalization within 30 days of geriatric intermediate care facility admission. Geriatr. Gerontol. Int. 2021;21: 1010-1017. (原著・査読あり、IF: 2.730)
3. Handa N, Mitsutake S., Ishizaki T., Nakabayashi T, Akishita M, Tamiya N, Yoshie S, Iijima K. Associations of co-prescribed medications for chronic comorbid conditions in very old adults with clinical dementia: a retrospective cohort study using insurance claims data. BMJ Open 2021;11:e043768. (原著・査読あり、IF: 2.692)
4. Sugihara T, Ishizaki T., Onoguchi W, Baba H, Matsumoto T, Iga S, Kubo K, Kamiya M, Hirano F, Hosoya T, Miyasaka N, Harigai M. Effectiveness and safety of treat-to-target strategy in elderly-onset rheumatoid arthritis: a 3-

- year prospective observational study. *Rheumatology (Oxford)*. 2021 Sep 1;60(9):4252-4261. (原著・査読あり、IF : 7.580)
5. 崔 煌, 権藤 恭之, 増井 幸恵, 中川 威, 安元 佐織, 小野口 航, 池邊 一典, 神出 計, 樺山 舞, 石崎 達郎. 高齢者における社会参加、ソーシャル・キャピタル、主観的幸福感の関連, 老年社会科学, 43 (1), 5-14, 2021.04. (原著・査読あり、IFなし).
 6. Miki K, Kitamura M, Hatta K, Kamide K, Gondo Y, Yamashita M, Takedachi M, Nozaki T, Fujihara C, Kashiwagi Y, Iwayama T, Takahashi T, Sato H, Murotani Y, Kabayama M, Takeya Y, Takami Y, Akasaka H, Yamamoto K, Sugimoto K, Ishizaki T, Masui Y, Rakugi H, Ikebe K, Murakami S. Periodontal inflamed surface area is associated with hs-CRP in septuagenarian Japanese adults in cross-sectional findings from the SONIC study. *Sci Rep*. 2021 Jul 14;11(1):14436. (原著・査読あり、IF : 4.379)
 7. Klinpuattan N, Allsopp RC, Kabayama M, Godai K, Gondo Y, Masui Y, Akagi Y, Srithumsuk W, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Yasumoto S, Ogawa M, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H, Chen R, Willcox BJ, Willcox DC, Kamide K.J. The association between longevity associated FOXO3 allele and heart disease in Septuagenarians and Octogenarians: The SONIC study. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2021 Jul 13;glab204. (in press) (原著・査読あり、IF : 6.053)
 8. Fukutake M, Takahashi T, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Matsuda KI, Enoki K, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Sato H, Murotani Y, Hagino H, Kabayama M, Ishizaki T, Sugimoto K, Rakugi H, Maeda Y, Moynihan P, Ikebe K. Impact of occlusal force on decline in body mass index among older Japanese adults: Finding from the SONIC study. *J Am Geriatr Soc*. 2021 Jul;69(7):1956-1963. (原著・査読あり、IF : 5.562)
 9. Klinpuattan N, Kabayama M, Godai K, Gondo Y, Masui Y, Akagi Y, Srithumsuk W, Kiyoshige E, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Yasumoto S, Ogawa M, Inagaki H, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H, Kamide K. Association between physical function and onset of coronary heart disease in a cohort of community-dwelling older populations: The SONIC study. *Arch Gerontol Geriatr*. 2021 Jul-Aug;95:104386. (原著・査読あり、IF : 3.250)
 10. Tanaka K, Kabayama M, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Sekiguchi T, Kiyoshige E, Akagi Y, Godai K, Yasumoto S, Masui Y, Gondo Y, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K; SONIC study group. Association between uric acid and atherosclerosis in community-dwelling older people: The SONIC study. *Geriatr Gerontol Int*. 2021 Jan;21(1):94-101. (原著・査読あり、IF : 2.730)
 11. Kitamura M, Ikebe K, Kamide K, Gondo Y, Yamashita M, Takedachi M, Nozaki T, Fujihara C, Yamada S, Kashiwagi Y, Miki K, Iwayama T, Hatta K, Mihara Y, Kurushima Y, Takeshita H, Kabayama M, Oguro R, Kawai T, Akasaka H, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Ishizaki T, Arai Y, Masui Y, Takahashi R, Rakugi H, Maeda Y, Murakami S. Association of periodontal disease with atherosclerosis in 70-year-old Japanese older adults. *Odontology*. 2021 Apr;109(2):506-513. (原著・査読あり、IF : 2.634)
 12. Hatta K, Murotani Y, Takahashi T, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Ogata S, Matsuda KI, Mihara Y, Fukutake M, Nishimura Y, Hagino H, Higashi K, Maeda Y, Ikebe K. Decline of oral functions in old-old adults and their relationship with age and sex: The SONIC study. *J Am Geriatr Soc*. 2021 Nov 1. (原著・査読あり、IF : 5.562)
 13. Itoh S, Miwa H, Wu, V. X, Okuyama, A, Watanabe K, Ikeuchi T, Wakui T. Acceptance of care technologies to support activities of daily living by middle-aged and older adults in Japan: A cross-sectional study. *International Journal of Nursing Studies Advances*, 2021. 3, 100042. (原著・査読あり、IF:なし)
 14. ◎Yoshida Y, Iwasa H, Ishioka Y, Suzukamo Y. Leisure activity moderates the relationship between living alone and mental health among Japanese older adults. *Geriatr Gerontol Int*, 21(5):421-425, 2021 (原著・査読あり、IF : 2.730)
 15. Iwasa H, Yoshida Y, Ishii K, Yasumura S. Factors associated with cognitive failure among mothers involved in child care. *Cogent Psychology*, 8, 1896119, 2021. (原著・査読あり、IF : なし)
 16. Okumatsu K, Osuka Y, Suzuki T, Kim M, Kojima N, Yoshida Y, Hirano H, Kim H. Urinary incontinence onset predictors in community-dwelling older women: A prospective cohort study. *Geriatr Gerontol Int*, 21(2):178-184, 2021. (原著・査読あり、IF : 2.730)
 17. ◎Mitsutake S, ★Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, Awata S, Toba K, Ito H. Agreement on dementia severity levels between the 8-item and 21-item Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System. *Geriatr Gerontol Int*. 2021;21: 748-749 (査読あり・IF : 2.730)
 18. ★◎光武誠吾, 石崎達郎, 土屋瑠見子, 吉江悟, 飯島勝矢, 田宮菜奈子. 介護保険サービス限度額内で通所リハビリテーションの利用が難しい外来維持期リハビリテーション患者の実態と特性. *医療と社会*, 31(4): 573-582, 2022 (原著・査読あり、IFなし)
 19. ★◎Mitsutake S, Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Uda K, Jinnouchi H, Ueshima H, Matsuda T, Yoshie S, Iijima K, Tamiya N. The effects of early post-discharge rehabilitation services on care-needs level deterioration in older adults with functional impairment: A propensity score-matched study. *Arch Phys Med Rehabil*, (in press) (原著・査読あり、IF: 3.966)
 20. 横川吉晴, 中村慶佑, 佐々木友紘, 林寛人, 横内忍, 涌井智子. 日本語版高齢者運動セルフエフィカシー尺度の信頼性と妥当性の検証. *理学療法学*, Online. (原著・査読あり、IFなし)

21. Kiso Y, Matsuda Y, Esaka S, Nakajima Y, Shirahata H, Fujii Y, Matsukawa M, Kakizaki M, Ishizaki T, Arai T. Cytological scoring for pancreatic specimens obtained by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration. *Cytopathology*. 2022 Mar;33(2):206-215. (査読あり・IF: 2.073)
22. Murotani Y, Hatta K, Takahashi T, Gondo Y, Kamide K, Kabayama M, Masui Y, Ishizaki T, Matsuda KI, Mihara Y, Fukutake M, Nishimura Y, Akema S, Hagino H, Higashi K, Togawa H, Maeda Y, Ogata S, Moynihan P, Ikebe K. Oral Functions Are Associated with Muscle Strength and Physical Performance in Old-Old Japanese. *Int J Environ Res Public Health*. 2021 Dec 15;18(24):13199. (査読あり・IF: 3.390)
23. Suzuki A, Jin X, Ito T, Yoshie S, Ishizaki T, Iijima K, Tamiya N. Factors Affecting Care-Level Deterioration among Older Adults with Mild and Moderate Disabilities in Japan: Evidence from the Nationally Standardized Survey for Care-Needs Certification. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Mar 5;19(5):3065. doi: 10.3390/ijerph19053065. (査読あり・IF: 3.390)
24. Akagi Y, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Yasumoto S, Klinpuatan N, Srithumsuk W, Godai K, Ikebe K, Akasaka H, Yokoyama S, Nozato Y, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Arai Y, Inagaki H, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. Alcohol drinking patterns have a positive association with cognitive function among older people: a cross-sectional study. *BMC Geriatr*. 2022 Feb 28;22(1):158. (査読あり・IF: 3.921)
25. Sekiguchi T, Kabayama M, Ryuno H, Tanaka K, Kiyoshige E, Akagi Y, Godai K, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Yasumoto S, Masui Y, Ikebe K, Gondo Y, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. Association between protein intake and changes in renal function among Japanese community-dwelling older people: The SONIC study. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 (in press) (査読あり・IF: 2.730)
26. Ito K, Okamura T, Awata S, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Kamide K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T. Factors associated with psychological well-being among nonagenarians: Well-being in the era of 100 years of life. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Feb 16. (in press) (査読あり・IF: 2.730)
27. Abe T, Kitamura A, Yamashita M, Kim H, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, Awata S, Toba K; IRIDE Cohort Study investigators. Simple screening models for cognitive impairment in community settings: The IRIDE Cohort Study. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Feb 20. (in press) (査読あり・IF: 2.730)

3 著書等

1. 石崎達郎. フレイル健診 高齢者を対象とする多病・多剤処方の保健指導実施の際の情報活用. 日本老年医学会雑誌 2021; 58巻2号:214-218. (査読なし)
2. 涌井智子. 在宅介護における家族介護者の負担感規定要因. 社会保障研究, 6(1), 33-44, 2021. DOI: doi/10.50870/00000217. (査読なし)
3. 石崎達郎, 光武誠吾, 矢野翔平. 介護老人保健施設に入所直後の入院に関連する要因の検討. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業) 分担研究報告書, 2021年(査読なし)
4. 石崎達郎. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて「後期高齢者の保健指導: 低栄養防止と生活習慣病の重症化予防」. 房総の国保 2021, Vol. 711 (9月号), p. 4-8. (査読なし)
5. 石崎達郎, 池内智子, 小野真由子. 独居認知症高齢者等のエンドオブライフケアの実態に関する文献調査. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業) 分担研究報告書. 2021. 5. (査読なし)
6. 石崎達郎, 増井幸恵. 後期高齢者の質問票の因子構造の検討: SONIC研究. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施推進のための後期高齢者の質問票活用に向けた研究」. 厚生労働科学特別研究事業分担研究報告書. 2021. 5. (査読なし)
7. 枝広あや子, 光武誠吾, 平田匠, 北村明彦, 斎藤淳, 石崎達郎. 歯周病関連診療行為と全身疾患発生(入院)の関連に係る分析. 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 分担研究報告書, 2021年(査読なし)
8. 石崎達郎, 平田 匠, 枝広あや子, 北村明彦, 光武誠吾, 齋藤 淳. 後期高齢者の歯科受診による全身疾患の予防効果に関する研究: 傾向スコアを用いた共変量調整法による因果効果の推定. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 総括研究報告書. 2021. 5. (査読なし)
9. 光武誠吾, 枝広あや子, 平田 匠, 北村明彦, 齋藤 淳, 石崎達郎. 後期高齢者における歯科受診による全身疾患の予防効果に係る分析. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 分担研究報告書. 2021. 5. (査読なし)
10. 石崎達郎. 医科歯科連携における「行動」と連携促進のための情報交換・情報提供のあり方. 令和2年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 分担研究報告書. 2021. 5. (査読なし)

介護・エンドオブライフ

1 学会発表

(1) 海外

1. Ito K. Supporting older adults with complex mental health and social care needs. TAGD International Symposium of Gerodontology of Dementia; Online. 2021.7.18
2. Ito K, Okamura T, Tsuda S, Awata S. Factors associated with mortality in older adults with complex mental health and social care needs. Regional IPA/JPS Meeting Online. 2021.9.16-11.30
3. Edahiro A, Shirobe M, Hirano H, Iwasaki M, Motokawa K, Ohara Y, Oohori Y, Ito K, Okamura T, Awata S. A qualitative

analysis of difficulties experienced by people living with dementia and their families while visiting the dentist. Regional IPA/JPS Meeting Online. 2021.9.16-11.30

4. Itoh S, Watanabe K, Miwa H, Ikeuchi T, Wakui T. Factors related to Acceptance to Use Care Technologies for Bathing among Middle-Aged Adults: A Cross-Sectional Study, Medinfo2021 Online. 2021.10.2-4
5. Ito K. Ethical and Sociological aspects related to End of Life Care issues in Japan. IPA Debate Series: End of Life Care- Transcultural Perspectives; IPA Debate Series Online. 2021.10.15
6. Ikeuchi T, Suzuki M, Kikuchi K, Kan A, Shimada C. Challenges in caring for people with dementia during the COVID-19 pandemic: Findings from long-term care facilities across Japan. Gerontological Society of America (GSA) 's Annual Scientific Meeting; Online. 2021.11.10-13
7. Wakui T, Ikeuchi T, Itoh S, Miwa H, Watanabe K. Preferable Use of Information and Communication Technologies in Long-term Care Settings: A Vignette Survey of Japan. The 73rd Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA); Online. 2021.11.10-13

(2) 国内

1. 井藤佳恵, 岡村毅, 津田修治. 本邦におけるディオゲネス症候群—いわゆる「ごみ屋敷症候群」—の臨床的特徴と長期予後. 第22回日本認知症ケア学会大会; (web開催). 2021.6.5-9.6
2. 畠山啓, 井藤佳恵, 古田光, 扇澤史子, 今村陽子, 岡本一枝, 齋藤久美子, 白取絹恵, 栗田主一. コロナ禍における医療従事者等向け研修の現状と課題. 日本認知症ケア学会; (web開催). 2021.6.5-10.5
3. 杉山美香, 岡村毅, 枝広あや子, 宮前史子, 中山莉子, 宇良千秋, 小川まどか, 多賀努, 井藤佳恵, 栗田主一. コロナ禍の認知症支援拠点の役割とその実践〜第2回目の緊急事態宣言下での地域拠点の取り組み〜. 第22回認知症ケア学会; オンラインによる誌上発表. 2021.6.5-10.5
4. 菊地和則, 大口達也, 池内朋子, 栗田主一. 独居認知症高齢者の行方不明発生率に関する研究. 第63回日本老年医学会学術集会; (web開催、名古屋). 2021.6.11-27
5. 池内朋子, 涌井智子, 三輪洋靖, 渡辺健太郎, 伊藤沙紀子. 中高年の主観年齢と健康感—全国オンライン調査の結果—. 日本老年社会学会第63回大会; (web開催). 2021.6.12-13
6. 井藤佳恵. 認知症医療・ケアにおける医科歯科連携、多職種連携. 第32回日本老年歯科医学会 シンポジウム5:認知症の人の口を支えるために; (web開催). 2021.6.13
7. 多賀努, 井藤佳恵, 宇良千秋, 枝広あや子, 岡村毅, 岡村睦子, 釘宮由紀子, 見城澄子, 杉山美香, 津田修司, 中山莉子, 宮前史子, 山下真理, 栗田主一. 心身の機能の低下した高齢者の「尊厳」観に関する実証的な研究:認知機能の低下した高齢者の尊厳観に立った支援の予備的な調査. 第36回老年精神医学会; (web開催、京都). 2021.9.16-9.18
8. 森倉三男, 井藤佳恵, 宇良千秋, 岡村毅, 見城澄子, 釘宮由紀子, 杉山美香, 多賀努, 永瀬雅子, 中山莉子, 宮前史子, 栗田主一. 地域の居場所」の利用によるフォーマルサービスの利用支援. 第36回老年精神医学会; (web開催、京都). 2021.9.16-9.18
9. 菊地和則, 島田千穂. 認知症高齢者をエンドオブライフまでその人らしく生きる権利を擁護する専門職後見人の取り組み状況. 日本エンドオブライフケア学会第4回学術集会; (web開催、岡山). 2021.9.18-19
10. 井藤佳恵. 重い精神疾患を抱える人の身体合併症医療:医療上の意思決定に関わる課題. 第34回日本総合病院精神医学会総会; (web開催、福井). 2021.11.19-11.20
11. 堀紀子, 石崎達郎, 増井幸恵, 井藤佳恵, 樺山舞, 神出計, 権藤恭之. 後期高齢者の健康診査で使われる質問票によるフレイルの評価:SONIC研究. 第80回日本公衆衛生学会総会; 京王プラザホテル、東京大学伊藤国際学術研究センター. 2021.12.21-23

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★Ikeuchi T, Taniguchi Y, Abe T, Seino S, Shimada CK, A., Shinkai S: Association between Experience of Pet Ownership and Psychological Health among Socially Isolated and Non-Isolated Older Adults. Animals, Animals;11(3):595 2021 (査読あり) (IF: 2.752)
2. ◎★Ito K, Ogisawa F, Furuta K, Awata S, Toba K: Development of a five-item short-form version of the Dementia Behavior Disturbance Scale, Geriatr Gerontol Int;21(9):870-1 2021 (査読あり) (IF: 2.730)
3. ◎★Ito K, Okamura T, Tsuda S, Awata S: Diogenes syndrome in a 10-year retrospective observational study: An elderly case series in Tokyo, Int J Geriatr Psychiatry 2021 (査読あり) (IF: 3.485)
4. Itoh S, Miwa H, Wu V, Okuyama A, Watanabe K, Ikeuchi T, Wakui T: Acceptance of care technologies to support activities of daily living by middle-aged and older adults in Japan: a cross-sectional study. International Journal of Nursing Studies Advances, International Journal of Nursing Studies Advances;3:10042 2021 (査読あり) (IF: NA)
5. Miwa H, Watanabe K, Itoh S, Ikeuchi T, Wakui T: Analysis on interaction experiences with intelligent technology and preference of technology use in nursing care, 30th IEEE International Conference on Robot & Human Interactive Communication (RO-MAN):559-64 2021 (査読あり) (IF: 3.46)
6. Okamura T, Shimada C, Ito M, Ito K: Analysis of challenges faced by care managers in providing end-of-life care

- for older people with terminally ill cancer and dementia, *Psychogeriatrics*;21(5):854-5 2021 (査読あり) (IF: 2.440)
7. Okamura T, Ura C, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Eda Hiro A, Taga T, Ito K, Awata S: After 5 years, half of people with cognitive impairment were no longer living in the community: A community observational survey, *Int J Geriatr Psychiatry* 2021 (査読あり) (IF: 3.485)
 8. 稲熊徳也, 井藤佳恵: 東京都立松沢病院における身体合併症病棟の取り組みと課題, *精神神経学雑誌*;123(4):169-78 2021 (査読あり) (IF:NA)
 9. ◎★菊地和則, 大口達也, 池内朋子, 栗田主一: 独居認知症高齢者の行方不明の実態 150 事例からの報告, *老年精神医学雑誌*;32(4):469-79 2021 (査読あり) (IF:NA)
 10. ◎★小野真由子, 藤野秀美, 横井郁子, 長田久雄: 高齢者における「感謝」の研究の文献レビュー: ウェルビーイングおよび精神的健康との関係に着目して, *応用老年学*;15(1):75-85 2021 (査読あり) (IF:NA)
 11. 枝広あや子, 岡村毅, 杉山美香, 小川まどか, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 釘宮由紀子, 森倉三男, 岡村睦子, 中山莉子, 多賀努, 山下真理, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一: 認知症などの困難を抱えた高齢者に対する地域における歯科口腔保健相談の意義と方法論: 権利ベースのアプローチという観点から, *日本認知症ケア学会誌*;20(3):435-45 2021 (IF:NA)
 12. 稲熊徳也, 灘谷聡昭, 池本正平, 井藤佳恵: 統合失調症患者における麻痺性イレウスと向精神薬の関連, *精神神経学雑誌*;124(2):84-90 2022 (査読あり) (IF:NA)
 13. 山下真理, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 多賀努, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一: 山下真理, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 多賀努, 津田修治, 井藤佳恵, 栗田主一, 認知症ケア学会誌; 2021 (in press) (査読あり) (IF:NA)
 14. Taniguchi Y, Seino S, Headey B, Hata T, Ikeuchi T, Abe T, Shinkai S, Kitamura A: Evidence that dog ownership protects against the onset of disability in an older community-dwelling Japanese population, *PLoS One*;17(2):e0263791 2022 (IF: 3.24)
 15. ◎★Ito K, Okamura T, Awata S, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Kamide K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T: Factors associated with psychological well-being among nonagenarians: Well-being in the era of 100 years of life, *Geriatr Gerontol Int* 2022 (IF: 3.485)

3 著書等

1. 井藤佳恵: 意思が確認できないと感じる患者の看取り—医師の立場から。田代誠, 石田正人, 田辺有理子, 白石美由紀. 精神に病をもつ人の看取り: その人らしさを支える手がかり. 東京: 精神看護出版; 2021. p. 56-64.
2. 井藤佳恵, 辻本喬俊, 下山朋洋, 浅見友子, 林恵子, 橘敏子. 合併症病棟における疑い症例への対応. 齋藤正彦, 針間博彦, 杉井章二. 松沢病院発!精神科病院の COVID-19 感染症対策. 東京: 新興医学出版社; 2021. p. 71-6.
3. 齋藤正彦, 井藤佳恵編. 私たちの医療倫理が試されるとき—自己決定・自己責任論を超えて—
4. 菊地和則, 安藤千晶, 篠田浩, 田村満子, 山田祐子, 他. 高齢者虐待の実態把握のための調査研究事業報告書. 東京: 厚生労働省; 2021.
5. 菊地和則, 大口達也, 池内朋子, 栗田主一. 独居認知症高齢者の行方不明に対する市町村の取り組みに関する研究報告書. 東京: 東京都健康長寿医療センター研究所; 2021.
6. 池内朋子. 第3章5節 高齢者の感情と孤独. 杉澤秀博, 長田久雄, 渡辺修一郎, 中谷陽明. 老年学を学ぶ—高齢社会の学際的研究—. 東京: 論創社; 2021. Pp. 52-158.
7. 池内朋子. 第3章6節 人格・適応の加齢変化と高齢者の特徴. 杉澤秀博, 長田久雄, 渡辺修一郎, 中谷陽明. 老年学を学ぶ—高齢社会の学際的研究—. 東京: 論創社; 2021. p. 159-165.
8. 井藤佳恵: 【人権と共生社会】医療における人権侵害について 認知症高齢者の進行がんに関するインフォームド・コンセントと医療上の意思決定の課題, *老年精神医学雑誌*;32(2):144-51 2021
9. 井藤佳恵: 【高齢患者の精神科コンサルテーション・リエゾン (CLP) ; 精神科医が知っておくべき知識 Update】意思決定支援のあり方について, *老年精神医学雑誌*; 33(1):64-70 2022

受賞

介護予防

1. 河合 恒 第16回日本応用老年学会大会 優秀発表賞 口頭発表「地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンと総死亡との関連」2021.11.7
2. 大淵修一 2021 Healthy Aging Prize for Asian Innovation Health Promotion for Elderly in Northeastern Thailand Using Japan's Self-Sustained Movement (SSM) Program2021.7.29

医療・介護システム

1. 石崎達郎 第12回Geriatrics & Gerontology International 優秀論文賞 Ishizaki T, et al. Drug prescription patterns and factors associated with polypharmacy in over one million older adults in Tokyo. *Geriatr Gerontol Int*. 2021, Vol.20(4), 304-311.2021.6.11-27

介護・エンドオブライフ

1. 井藤佳恵 認知症ケア学会2021年度石崎賞 本邦におけるディオゲネス症候群—いわゆる「ごみ屋敷症候群」—臨床の特徴と長期予後2021.6.5

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

研究支援施設等

アイソトープ施設

1 施設紹介

施設長（安全管理責任者）：功刀正行

放射線取扱主任者（研究副部長）：三浦ゆり（兼務）

アイソトープ施設の目標は、放射線障害防止に関連した法律を遵守し、利用者や公衆の安全を確保する一方、放射線・放射性同位元素の利用促進と施設の維持管理を行うことである。放射線・放射性同位元素を利用する研究手法は、老化研究の進展に大きく貢献するものであり、本施設はその安全利用のための維持管理を行う。

2 活動概要

放射線業務従事者の管理について

- ・ 教育訓練を実施。
放射線業務従事者に対する教育訓練を病院部門と共同で実施した。
初期教育訓練 4/6、6/29、10/19、11/27、12/7、12/15
放射線安全講習（再教育訓練） ZOOM による講演の視聴とレポート提出 12 名
- ・ 健康診断（問診、血液検査）を 2 回実施。
前期：8 月 5～12 日、後期：12 月 2 日

施設管理について

- ・ 作業環境測定（毎月 1 回 / 12 回）。
- ・ 自主点検を 2 回実施（前期 9 月 17 日、後期 3 月 19 日）。
- ・ RI 管理総合システム保守点検（11 月 8～18 日）。
- ・ 排水設備点検（12 月 13～14 日）。

法令対応について

- ・ アイソトープ委員会（メール委員会）（5 月）
- ・ 原子力規制委員会に令和元年度放射線管理状況報告書を提出（6 月 8 日）。

実験動物施設

1 施設紹介

施設長：重本和宏

研究員：野田義博

非常勤研究員：根本妙子

実験動物施設概要

実験動物施設は環境省が定める「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（飼養保管基準）」に準じ、実験動物が本来の生理・生態・習性に従った行動が確保でき、病原体などに感染しないよう、最新の飼育器材や設備を導入されている。管理区域は、清浄区域と準清浄区域に分かれており、前者は、マウス飼育室4室、ラット飼育室1室、共用実験室4室、実験室6室、処置室2室、胚操作関連室3室など、より構成される。後者は、検疫室、処置室、ウサギ飼育室、検査室、洗浄室などで構成される。すべての部屋は電気錠で管理され、利用者別の動線管理を可能とした。遺伝子改変マウスの利用が大半を占めるため、この両区域は全ての飼育室、実験室等にネズミ返しの設置とエリアの境界には2重扉のパスルームが設置され、PIAレベルの拡散防止措置が講じられている。マウスとラットについては、特定の病原体を統御し、動物を感染症から防御するため、IVC（Individually Ventilated Caging）システムラックにより飼育されている。管理区域の床は全域においてUV硬化樹脂フロアコートを施工し、平滑でありながら滑りにくく、清掃消毒効果を向上させ、労働安全衛生に配慮した清浄度の高い飼育環境を維持することを可能にした。

施設の収容能力は、マウス21,700匹（4,340ケージ）、ラット840匹（280ケージ）、ウサギ9匹（9ケージ）である。飼養、保管されているマウスの大部分が遺伝子組換えマウスであり、様々な系統が維持されている。これらの貴重な系統については、凍結胚・精子によっても保管されている。また、1979年からマウス（C57BL/6NCrSlc, C57BL/6J JAX）、ラット（F344/DuCr1Cr1j）について、生涯飼育による老化動物育成事業を推進している。現在までにマウスで169ロット、ラットで147ロットの老化動物を育成し、所内に供給をし続けることで、老年学および老年医学研究の推進に重要な役割を担っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、老年病理学研究チーム、近畿大学生物理工学部 先端技術総合研究所 大学院 生物理工学研究科、日本獣医生命科学大学 獣医学科 比較動物医学研究室、東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野 神経細胞分化研究室、実験動物中央研究所、わかもと製薬株式会社、シーエル研究所、ダイセルオルネクス株式会社、アドベンチャーワールド

3 活動概要

施設管理業務は、老化動物育成供給を含む実験動物の準備供給、新規購入動物の発注、実験動物の飼育管理、実験動物感染症対策としての検疫検査、生殖工学技術による研究支援（胚・精子の凍結保存、胚移植による個体作製、遺伝子改変・ゲノム編集マウスの作製）、その他、動物実験全般に渡る技術支援、空調設備を始めとする設備機器の維持管理、施設運営予算の管理、購買物品の検収作業、また、実験動物飼育管理および建物管理を業務委託し、各社への指揮監督など多岐にわたる。これらの業務の内、特に、病原体感染事故と空調関連の事故を防止することを最優先課題とし、研究活動が円滑に行われる様、運営している。また、厚生労働省の所管する実施機関として厚生労働省動物実験基本指針に従い、動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験が実施される様、情報収集に努め、教育訓練等で利用者への周知徹底を行っている。

以下、2021年度の主な活動を述べる。

(1) 動物実験委員会、教育訓練（実験動物講習会）の実施

実験動物委員会（Zoom 開催）

第1回：2021.7.27

第2回：2022.3.9

動物実験委員会の開催

動物実験委員会の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集会による開催を自粛し、動物実験計画書の審査を中心にメールにて運営を行なった。年度を通じて、委員からは委員会招集の要請もなく、円滑な計画書の審査が行われた。

教育訓練の実施記録

実施年月日：2021.3.8、2021.4.14、2021.4.20、2021.5.14、2021.6.7、2021.8.4、
2021.9.21、2021.9.28、2021.11.1、2022.1.11、2022.3.16

実施内容の概略：実験動物と動物実験概論（ヒトへの外挿等）、動物の愛護及び管理に関する法律（動物実験に関する事項）ならびに厚労省動物実験基本指針、動物の飼養保管に関する基準、カルタヘナ法等）、倫理的な動物実験の基本について（3Rsの原則、5つの自由、苦痛度の評価、人道的エンドポイント、安楽死法のガイドライン等）、機関内規定、動物実験実施組織、実験動物ならびに遺伝子改変動物の不適切な取り扱い事例と罰則、実験動物における感染症ならびに人獣共通感染症について、動物福祉に配慮した実験計画書の立案（審査のポイント、痛みのカテゴリー等）、東京都健康長寿医療センター実験動物施設の利用法（入退室、飼育器材利用、実験室利用、提出書類等）、動物アレルギーについての注意（アレルゲンの回避、アナフィラキシー、緊急時対応、報告義務等）

参加者：100名

実験動物慰霊祭の実施

実施年月日：2022.2.8

参加者：65名

(2) 実験動物使用数

動物実験委員会にて審査され、機関長により承認された49件（新規承認25件、継続24件）の動物実験が実施された。実験動物使用数を表1に病原微生物検査数を表2に示した。

(3) 生殖工学技術を応用した研究支援業務

体外受精または凍結胚融解・胚移植による実験個体の作製（6件）。

体外受精・胚凍結による凍結胚の作製（8件）。

4 厚労省基本指針への対応

当センターは、「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本方針」（以下厚労省指針）に従い、動物実験実施規定を定めている。さらに、これら管理体制の厚労省指針への適合性について、自己点検ならびに評価を実施している。2020年1月9日には、第三者機構の調査を受け、厚労省指針への適合性に関してヒューマンサイエンス振興財団の動物実験実施施設認証センターより認証された。

5 業績

(1) 誌上発表

1). 野田義博

長寿医療研究を支える実験動物技術(II) 老年医学研究における老化動物の解析
Labio21 83, 12-16, 2021

2). 安齋政幸, 藤野奈央, 堀光一郎, 尾崎美樹, 野田義博, 松本和也

マウス血清を用いた初期の妊娠維持に必須な Dedd 遺伝子の発現解析の一例
近畿大学先端技術総合研究所紀要 26, 11-18, 2021

3). 野田義博

実験動物施設への二酸化塩素ガス滅菌法の導入と運用

(2) 学会・講演会発表

- 1). Nobuhiro Watanabe, Yoshihiro Noda, Taeko Nemoto, Kaori Iimura, Takahiko Shimizu, Harumi Hotta
Influence of amyloid β deposition around the cerebral artery on cerebrovascular response during transient ischemia
令和3年6月11日(土)～13日(日)第32回日本老年医学会総会・第44回日本基礎老化学会大会
2021 愛知
- 2). Kazuhiro Shigemoto, Taichi Fukunaga, Shuuichi Mori, Takuya Omura, Yoshihiro Noda, Yasunori Fujita, Ikuroh Ohsawa
Muscle fiber type specific alterations of mitochondrial respiratory function and morphology
令和3年6月11日(土)～13日(日)第32回日本老年医学会総会・第44回日本基礎老化学会大会
2021 愛知
- 3). 野田 義博
マウスのハンドリング使い分けていますか？
令和3年8月18日(水) マーシャル・バイオリソーシス・ジャパン株式会社主催 ウェブ座談会
- 4). 野田 義博
餌にまつわるあんなこと、こんなこと
令和3年9月8日(水) マーシャル・バイオリソーシス・ジャパン株式会社主催 ウェブ座談会
- 5). Yoshihiro Noda, Taeko Nemoto, Tamao Endo, and Ikuroh Ohsawa
Molecular hydrogen protects mouse sperm mitochondria from oxidative stress and improves sperm motility
72nd American Association for Laboratory Animal Science Virtual National Meeting 2021
October 17- 21, 2021
- 6). 野田 義博
動物福祉に配慮した自然老化動物の育成
令和3年11月19日(金) 日本実験動物学会 令和3年度維持会員懇談会

表1. 2021年度実験動物使用数

(匹)

		マウス		ラット	ウサギ
		一般	組換え		
実験動物施設	研究チーム	1,374	698	25	—
	老化動物	613	—	69	—
合計		1,987	698	94	—
		2,685			

表2. 2021年度病原微生物検査数

(匹)

	定期検査	検疫	合計
マウス	128	0	128
ラット	18	0	18
合計	146	0	146

高齢者健康増進事業支援室

1 施設紹介

研究部長：大淵修一

技術員：伊藤久美子

非常勤研究員：関口晴子、佐藤和之、今村慶吾、中田晴美、坂井志麻

非常勤技術員：原井瑛広

非常勤事務員：高島明子、佐藤由紀子

高齢者健康増進事業支援室では、高齢者の介護予防・健康増進を目的として、1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証、2) 介護予防の専門職である介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ、3) 民間企業との共同研究を行っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター
- ・自立促進と介護予防研究チーム
- ・社会参加と地域保健研究チーム
- ・福祉と生活ケア研究チーム

3 活動概要

- 1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証（自治体支援プロジェクト）

多摩市「介護予防リーダー養成講座」、東大和市「介護予防リーダー養成講座修了論文作成指導」、北区「介護予防事業評価」などの事業を受託し、自治体の介護予防事業支援を実施した。

また、小金井市では「生活支援体制基盤整備支援委託」の学術指導において、生活支援サービスに係るボランティア等の担い手を養成するための研修に対する支援を通じて、介護サービス事業者の負担軽減、受講者を担い手とする通いの場の体制整備を一体的に図ることにより、地域包括ケアシステムの構築を推進した。

- 2) 介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ

Zoomを用いたWEBによる介護予防主任運動指導員フォローアップ研修やホームページやツイッターによる定期的な情報提供、介護予防運動指導員養成のeラーニング導入、介護予防主任運動指導員・指定事業者との協力による学会や展示会での普及活動などを行った。

- 3) 民間企業との共同研究

太陽生命保険株式会社「日常歩行速度の基準値の確立と季節変動に関する研究」、株式会社ブリヂストン「膝痛予防のための歩行改善プログラムのリスク判定ロジックの検証」、旭化成ホームズ株式会社「高齢者向け自立型賃貸住宅居住者への健康長寿に資するサービス評価と指導」、野村不動産ライフ&スポーツ株式会社「フィットネスクラブの退会率、復会率、新規入会率を改善するためのプログラム開発」など民間企業との共同研究や学術指導を行った。

4 業績

誌上発表

1. 江尻愛美, 河合 恒, 安永正史, 白部麻樹, 伊藤久美子, 植田拓也, ★大淵修一: 住民主体の通いの場における活動期間に応じた継続支援方法の考察. 日本公衆衛生雑誌, 68(7), 459-467, 2021. (査読あり)

2. ©Shuichi P. Obuchi, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Kumiko Ito, Kenji Murakawa : Change in outdoor walking behavior during the coronavirus disease pandemic in Japan: a longitudinal study. *Gait & Posture*, 88, July 2021, 42-46, 2021. (査読あり) (IF: 2.840, 2020)
3. ©Kumiko Ito, Yasutake Tomata, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shu Zhang, Toshimasa Sone, Yumi Sugawara, Ichiro Tsuji : Time spent walking and disability-free survival in older Japanese: The Ohsaki Cohort 2006 Study. *Scand J Med Sci Sports*. 2022 Mar 5. doi: 10.1111/sms.14150. (査読あり) (IF: 4.221, 2020)
4. Masanori Iwasaki, Yuki Ohara, Keiko Motokawa, Misato Hayakawa, Maki Shirobe, Ayako Eda Hiro, Yutaka Watanabe, Shuichi Awata, Tsuyoshi Okamura, Hiroki Inagaki, Naoko Sakuma, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Kumiko Ito, Yoshinori Fujiwara, Akihiko Kitamura, Yu Nofuji, Takumi Abe, Katsuya Iijima, Tomoki Tanaka, Bo-Kyung Son, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano : Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants. *J Prosthodont Res*. 2022 Jan 27. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272. (査読あり) (IF: 4.642, 2020)
5. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Junta Takahashi, Kazumasa Nishida, Akihiro Harai, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hunkyoung Kim, Kazushige Ihara, ★Shuichi Obuchi: Change in subjective health status among frail older Japanese people owing to the coronavirus disease pandemic and characteristics of their responses. *Geriatrics & Gerontology International*, 2021, 21(11):1053-1059. (査読あり) (IF: 2.730, 2020)
6. 西田和正, 河合恒, 伊藤久美子, 江尻愛美, ★大淵修一: 住民主体での活動を目指した介護予防事業終了後の介護予防活動への参加に関連する要因の検討. *日本公衆衛生学雑誌*, 2022, 69(1), 17-25.

学会発表

1. 大淵修一, 河合 恒, 西田和正, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: 通常歩行速度は何を測定しているのか. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.
2. 河合 恒, 大淵修一, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: 新型コロナウイルス感染拡大による高齢者の歩行への影響. 第63回日本老年医学会学術集会, Web開催, 2021.6.11-27.
3. 大淵修一, 江尻愛美: フレイル/介護予防プログラムの処方と実践～post コロナに向けた高齢者の体力評価と筋力トレーニングとは. *SPORTEC2021*, 2021, 6. 19.
4. 大淵修一, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 猪股高志, お達者健診メンバー: 地域在住高齢者のCOVID-19に対するコーピングとその促進要因. 日本予防理学療法学会第6回サテライト集会, Web開催, 2021.7.3-4.
5. 河合 恒, 西原 賢, 解良武士, 江尻愛美, 伊藤久美子, 猪股高志, 大淵修一, 板橋お達者健診2011コホートメンバー: 大腿四頭筋厚と筋輝度は地域高齢者の新規サルコペニアの予測に有用か. 日本予防理学療法学会第6回サテライト集会, Web開催, 2021.7.3-4.
6. 河合 恒, 大淵修一, 江尻愛美, 伊藤久美子, 村川謙治: COVID-19感染拡大による歩行行動の変化. 第76回日本体力医学会大会, 三重, 2021.9.17-19.
7. 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンと総死亡との関連. 第16回応用老年学会大会, Web開催, 2021.11.6-7.
8. 伊藤久美子, 河合 恒, 江尻愛美, 大淵修一: 通所介護事業所における介護サービス教育を受けた地域住民の活用ニーズ. 第16回応用老年学会大会, Web開催, 2021.11.6-7.
9. 西田和正, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 大淵修一: グループ活動に参加している一般高齢者と要支援者の移動手段の違い. 第8回予防理学療法学会, Web開催, 2021.11.13.
10. 大淵修一, 三田村勉, 尾添純一, 原田利枝: 最先端の介護予防事業～超高齢社会における事業モデル創出とアジア展開～. *SPORTEC2021*, 2021, 12. 3.
11. 大淵修一, 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 金 憲経, 平野浩彦: バランス機能の低下パターンと高齢期の社会的機能の関係 お達者健診研究. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021.12.21-23.
12. 河合 恒, 江尻愛美, 伊藤久美子, 藤原佳典, 井原一成, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 地域高齢者における社会的交流の加齢変化パターンとフレイルとの関連. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021.12.21-23.
13. 江尻愛美, 河合 恒, 解良武士, 伊藤久美子, 井原一成, 藤原佳典, 平野浩彦, 金 憲経, 大淵修一: 新型コロナウイルス感染症流行下における高齢者の精神的健康の変化と心身の健康を保つためのコーピング行動の変化. 第23回日本健康支援学会年次学術集会・第9回日本介護予防・健康づくり学会大会・京都滋賀体育学会第151回大会, Web開催, 2022.3.5-6

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、©ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

研究情報管理室

1 施設紹介

室長：重本和宏

研究員：森澤拓

兼務研究員：坂田宗之（神経画像研究チームネットワーク担当）

非常勤研究員：久保田ゆかり

研究情報管理室は、研究所の情報システムの運用及び管理、また研究所の情報セキュリティの確保を行い、研究活動を支援しています。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

東京都健康長寿医療センター、医療情報戦略課情報システム係と情報システム管理を連携

東京都健康長寿医療センター病院、放射線診断科と情報システム管理を連携

3 活動概要

1) 研究所情報システムの運用・セキュリティ管理

東京都健康長寿医療センター研究所 LAN の運用を行っています。インターネットに 2Gbps で接続を行い、安定したテレビ会議を実現し、電子メールの運用管理を行っています。また、全フロアに無線アンテナを設置し、訪問者用の無線 LAN を運用管理しています。また、研究所としての情報セキュリティの向上のために、研究所情報セキュリティ対策基準を運用しています。

2) 共同利用パーソナルコンピューター・大判プリンター機器等の運用・管理

共用の Windows パソコン、MAC パソコン、カラーレーザープリンター、B0 対応大判プリンター等の運用管理を行っています。一部機器は、病院、事務からの利用要望にも対応しています。

3) 統計処理等アプリケーションソフトウェアの管理

共用パソコンに統計処理ソフトウェアの SPSS、SAS を導入し、共同利用サービスを行っています。また、個々の研究者が利用する SPSS、SAS についても計画導入、ライセンス管理を行っています。

4) 薬品管理支援サーバ、老研瓦版サーバ、共用ファイルサーバの運用

薬品管理支援サーバは、毒物及び劇物の適正な管理、その他各種薬品の適正な管理のために導入されており、運用管理を行っています。老研瓦版サーバは、研究所内のお知らせ掲示板として、実験動物施設からの動物管理情報など、研究所内部の連絡のためのホームページとして、東京都健康長寿医療センターのお知らせホームページの補完的役割を担い運用管理を行っています。さらに、共用ファイルサーバを運用管理しており、各種委員会連絡等に用いられています。

5) 文献検索

PsycINFO、AGELINE、医学中央雑誌などの文献検索データベースについて、インターネットから利用できる方式で契約を行い、管理運用を行っています。

6) その他

研究用コンピューターシステムの導入相談、パソコンの利用トラブル相談等に対応しています。

東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター

1 施設紹介

施設長：藤原佳典

研究員：植田拓也、倉岡正高、根本裕太、白部麻樹、高橋淳太、田中元基

非常勤技術員：吉田智子、本川晃市

事務職員：三木明子

東京都は、後期高齢者の増加が著しく、今後、高齢者単独・夫婦のみ世帯が増加することが予測されている。このような背景を踏まえて、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターでは、東京都の全ての自治体が、人と人とのつながりを通じて参加者や「通いの場」が継続的に拡大していくような「地域につながる介護予防」の取り組みや、住民の選好や地域特性に応じた、フレイル予防につながる「多様な主体による多様な活動の「通いの場」の展開」の取り組みを支援している。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・社会参加と地域保健研究チーム
- ・自立促進と介護予防研究チーム
- ・福祉と生活ケア研究チーム
- ・高齢者健康増進事業支援室
- ・フレイル予防センター
- ・一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構
- ・公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
- ・桜美林大学

3 活動概要

1) 人材育成

介護予防施策および介護予防・フレイル予防についての知識の習得をする「総論編」、「通いの場」の拡大・多様化を進める上で基礎となる考え方を学び、立ち上げについてノウハウを習得する「実践編Ⅰ地域づくりによる介護予防研修」、「通いの場」におけるフレイル予防の観点をふまえた予防活動の実施により、機能強化を図るためのノウハウを習得する「実践編Ⅱ多様性・機能強化研修」、「通いの場」づくりをより効果的・効率的に推進するためのノウハウを習得する「介護予防・フレイル予防推進員研修」を開催した。

2) 相談支援

①介護予防・フレイル予防全般に対しての相談支援

東京都健康長寿医療センター研究所におけるこれまでの研究成果やノウハウを活かし、介護予防・フレイル予防や事業に関する相談に対して助言をした。

②区市町村へのリハビリテーション専門職の派遣調整

区市町村が行う介護予防事業等の担い手としてリハビリテーション専門職等を紹介した。

③東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター職員及び広域アドバイザーによる現地相談支援

区市町村において介護予防事業を進めていく上での課題などに対し、経験豊富な知識と技術を有する研究員や広域アドバイザー等が区市町村へ伺い助言をした。また、高齢者の状態等のデータを、圏域ごとに分析できる形式に整理して区市町村へ提供するとともに、活用方法について助言し、戦略的な事業展開の支援を行った。

④フレイル予防活動の担い手の養成・強化支援

地域で介護予防・フレイル予防活動を普及する担い手となる住民を育成・強化する取り組みを支援した。

3) 評価・効果分析

地域特性に応じた適切な予防活動、多様な「通いの場」づくりを可能にするための地域診断指標の開発のため、指標づくりに向けて、予防活動の担い手としての活動を含む住民の活動ニーズや地域資源を把握するための住民調査（郵送調査）を墨田区と国分寺市で実施した。

4) 普及啓発

東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターによる支援内容や成果、介護予防・フレイル予防に関する有益な情報をホームページやメール配信にて発信した。

5) 運営委員会

上記4事業について、関係者間で実施状況を共有するとともに、効果的な実施に向け検討を行うことを目的とした運営委員会を設置、開催した。

4 業績

論文

1. ★◎植田 拓也, 倉岡 正高, 清野 諭, 小林 江里香, 服部 真治, 澤岡 詩野, 野藤 悠, 本川 佳子, 野中 久美子, 村山 洋史, 藤原 佳典. ;介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. 日本公衆衛生雑誌, 2022(早期公開)
2. ★◎小林 江里香, 植田 拓也, 高橋 淳太, 清野 諭, 野藤 悠, 根本 裕太, 倉岡 正高, 藤原 佳典. ;「通いの場」の類型別にみた参加者の多様性と住民の主体性：高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から. 日本公衆衛生雑誌, 2022(早期公開)
3. ★◎江尻愛美, 河合 恒, 安永正史, 白部麻樹, 伊藤久美子, 植田拓也, 大淵修一. ;住民主体の通いの場における活動期間に応じた継続支援方法の考察. 日本公衆衛生雑誌：68(7), 459-467, 2021.

学会発表

1. ★◎植田拓也. ;住民主体の通いの場の概念と多様な通いの場の類型. 第80回日本公衆衛生学会シンポジウム, 2021年12月. 東京.
2. ★◎植田拓也, 根本裕太, 高橋淳太, 白部麻樹, 倉岡正高, 吉田智子, 三木明子, 田中元基, 本川晃市, 藤原佳典. ;コロナ禍における通いの場の開催状況の経時的変化：東京都内区市町村に対する調査の報告. 第16回日本応用老年学会大会, 2021年11月, オンライン.

著書等

1. ★◎植田拓也, 藤原佳典. ;地域包括ケアにおける介護予防の役割. 老年科 2022;5(3):209-213.
2. ★◎植田拓也, 藤原佳典. フレイル予防のための社会資源の活用（通いの場など）. WOC Nursing 2021;9: 91-95.
3. ◎植田拓也, 倉岡正高, 根本裕太, 白部麻樹, 高橋淳太, 三木明子, 吉田智子, ★藤原佳典：東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター事業案内書, 2021. 6

★コレスポンディングオーサー（責任著者）、◎ファーストオーサー（第一著者）

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

Ⅱ 長期縦断研究等

SONIC研究

プロジェクトリーダー：石崎達郎

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
前期高齢者から100歳以上高齢者までに至る高齢期全体を対象とした、身体・生理機能、認知機能、感情状態、心理的well-beingの経年変化と関連要因に関する総合的・包括的検討する。	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	①70歳コホート追跡調査1（73歳：1000人）②同コホート追加サンプリング調査	①80歳コホート追跡調査1（83歳：973人）、②同コホート追加サンプリング調査	①2012年90歳コホート追跡調査1（93歳：272人）、②2012年90歳コホート追加サンプリング調査、③2015年90歳コホート初回調査	①70歳コホート追跡調査2（76歳：1229人）	①80歳コホート追跡調査2（86歳：1213人）
	2018年度（平成30年度）	2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度
	①2012年90歳コホート追跡調査2（96歳：329人）、②2015年90歳コホート追跡調査1（93歳：268人）・追加サンプリング調査、③2018年90歳コホート初回調査	①70歳コホート追跡調査3（79歳：1229人）	①全年齢群への郵送調査（対象者2653人）	①2012年90歳コホート追跡調査3（99歳：329人）、②2015年90歳コホート追跡調査2（96歳：約290人）、③2018年90歳コホート追跡調査1（93歳：約250人）④80歳コホート追跡調査3	①70歳コホート追跡調査4（82歳：1229人）

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎	福祉と生活ケア研究チーム 増井幸恵、吉田祐子、堀紀子 自立促進と介護予防研究チーム 稲垣宏樹、小川まどか 老化機構研究チーム 三浦ゆり	慶応義塾大学 新井康通、高山緑、石岡良子 大阪大学 権藤恭之、池邊一典、神出計、安元佐織 国立長寿医療研究センター 中川威、大塚礼、西田裕紀子

3 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

令和3年度は、昨年度コロナ禍により実施できなかった平成23年、26年、29年に実施した80歳コホート調

査参加者の追跡調査（今年度：90±1歳）、および平成24年、27年、30年に実施した90歳コホート調査参加者の追跡調査（今年度：99±1歳、96±1歳、93±1歳）を実施した。80歳コホートでは今回で10年間、4時点の調査となり、90歳コホートでは調査への初参加年により異なるが、3年間2時点、6年間3時点、9年間4時点でのデータが収集できた。調査は郵送調査、会場招待型調査の2段階で実施した。これにより当初計画通りの進行に戻すことができた。

また、これまで収集してきたデータについて分析を進め、①老年病態のバイオマーカー探索、②「後期高齢者の質問票」によるフレイル検出のカットオフ値に関する検討、③高齢者の多剤服用が主観的健康感に及ぼす影響、④超高齢者のwell-beingの関連要因、について知見を産出した。後期高齢者や超高齢者に関する論文やSONIC研究10年間の縦断データを用いて、多くの論文や学会での発表を行っている。

【その根拠】

80歳群、90歳群については、令和4年（2022年）3月まで調査が続くため、今年度の関東地区のみの実施状況についてまとめる。80歳群、90歳群を合わせての関東地区の追跡対象者は1013人であるが、2021年6月までに死亡、転居、要介護などでドロップアウトした人を除いた640人に、郵送アンケートおよび会場招待型調査の依頼を行った。その結果、宛所不明および返事なし：283人、死亡：26人、拒否：18人、郵送調査のみ参加：213人、郵送調査と会場調査参加：100人、となった。このように関東地区においては、会場調査による追跡率15.6%であったが、郵送調査で48.9%の追跡調査ができた。また、家族などからの情報による対象者の転帰判明率は現時点で55.7%となった。今年度は、板橋区、奥多摩町からの介護保険情報の提供依頼を進めており、関東地区全体の転帰判明率は84.7%となる予定である。

虚弱（frailty）の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究 プロジェクトリーダー：藤原佳典

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
1) 長期の経時的蓄積データを用いたフレイル・要介護化の危険因子の解明（詳細な調査・検査データによる分析） (2) 高齢者総合的機能評価やRCT（Randomized Controlled Trial）に基づく地域での介護予防対策の実施と評価 以上の成果をもって、東京都におけるヘルシー・エイジング社会の推進に資する「効果的な虚弱の予防戦術の立案」を行う。	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	・草津町会場調査 ・鳩山コホート郵送調査	・草津町会場調査 同悉皆調査 ・鳩山コホート会場調査	・草津町会場調査 ・鳩山コホート郵送調査	・草津町会場調査 ・鳩山コホート会場調査	・草津町会場調査 同悉皆調査 ・鳩山コホート郵送調査
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度 （令和2年度）	2021 年度 （令和3年度）	2022 年度
	・草津町会場調査 ・鳩山コホート会場調査（終了） ・データ分析、成果公表、社会還元 ・ツールの開発、実装化	・草津町会場調査 ・鳩山健診調査（新規） ・データ分析、成果公表、社会還元 ・ツールの開発、実装化	・草津町会場調査 同悉皆調査 ・鳩山悉皆調査 ・データ分析、成果公表、社会還元 ・ツールの開発、実装化	・草津町会場調査 ・鳩山健診調査 ・データ分析、成果公表、社会還元 ・ツールの開発、実装化	・草津町会場調査 ・鳩山健診調査 ・データ分析、成果公表、社会還元 ・ツールの開発、実装化（研究の総括）

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員	
社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典	社会科学系副所長 新開省二（～2019）、栗田主一（2020～） 社会参加と地域保健研究チーム 野藤悠、西真理子、天野秀紀、清野諭、横山友里、成田美紀、遠峰結衣、阿部巧、山下真里、藤原佳典、鈴木宏幸、桜井良太、飯塚あい 自立促進と精神保健研究チーム 平野浩彦、小原由紀、本川佳子 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎、光武誠吾、池内朋子 自然科学系副所長 重本和宏 老化制御研究チーム 藤田泰典、石神昭人 老年病態研究チーム 周赫英 神経画像研究チーム 石井賢二	顧問 稲松孝思 フレイル外来 荒木厚、田村嘉章、豊島堅志、石川譲治 眼科 沼賀二郎 放射線診断科 徳丸あや 腎臓内科 武井卓、板橋美津世 山中法子	東京農業大学 日田安寿美 国立環境研究所 谷口優 日本大学 陣内裕茂 筑波大学 山岸良匡 女子栄養大学 新開省二 八尾市保健所健康まちづくり科学センター 北村明彦 国立長寿医療研究センター 鈴木隆雄 桜美林大学 渡辺修一郎 味の素株式会社 矢野由紀、長尾健児 大塚製薬株式会社 上田敦史、甲田哲之

3 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

本研究は、草津町と鳩山町の長期の経時的蓄積データを用いた虚弱・要介護化の危険因子の解明と高齢者総合的機能評価やRCT（Randomized Controlled Trial）に基づく地域での虚弱予防対策の実施・評価を行い、その研究成果をもって東京都民及び日本国民の健康長寿実現への科学的貢献を目標とする。

2013年度から9年目にあたる今年度は、COVID-19の影響により、草津町での会場調査(にっこり健診)は規模を縮小して一部項目(体組成、握力、5回椅子立ち上がり時間)のみ実施し、会場調査と並行して郵送調査を実施した。次年度についても、今年度と同様の規模で健診を行う方向で草津町と調整中である。鳩山町では、COVID-19の影響で中止していた地域のフレイル予防教室の支援、通いの場の住民サポーター養成等の対面研修を再開した。両町ともに、介護保険情報、転帰情報、死亡票情報(人口動態調査の二次利用)の収集による要介護及び要介護認知症発生と死亡のアウトカム調査は継続して実施した。これまでの蓄積データのほか、COVID-19の感染拡大以降に収集したデータを用いた解析にも注力し、学会発表、論文文化、共同研究に一定の成果を挙げた。

【その根拠】

草津町での郵送調査は6月に実施し、2,064名に調査票が配布された。1,587名から返送があり(回収率76.9%)、COVID-19以前および、2020年に引き続き、今年調査したCOVID-19の影響についての調査では、外出頻度や対面交流の減少に歯止めがかかっていないことが明らかとなった。また、コロナ禍で健康行動を取れていないことは、生活機能の低下と関連していることが明らかとなった。

一方、会場調査(にっこり健診)は町の特健診に付帯し7月に実施し、686名が受診した。

鳩山町の調査は、2020年12月～2021年1月に実施した悉皆調査(要介護認定者を除く65歳以上の5,439名を対象に4,272名、回収率78.5%)のデータベースを作成した。また、福祉と生活ケア研究チームと連携し、国保データベース(KDB)の活用支援も進めている。

両町のデータセットは、いずれも、他の研究チームが主管する4つの長期縦断研究のコホートデータとともに統合され、認知症未来社会創造センターやフレイル予防センターで活用される予定である。当ヘルシーエイジングと地域保健RTが主に、その事務局を担当しており、統合コホートデータベースの作成を進めている。

研究成果としては、「食品摂取の多様性(DVS)の加齢変化パターンと要介護リスクの関連」、「DVSと要介護認知症リスクの関連」、「改訂版DVSの試作と評価」、「サルコペニア関連指標と要介護化・総死亡リスクの関連」、等について学会発表および論文文化を行った。

本長期縦断研究に関連した外部研究費として、基盤B「高齢者の健康余命に及ぼすフレイルと生活習慣病の中長期的影響の解明」(代表)、特別研究員奨励費「フレイル該当率の差異に関連する地域特性の解明：環境と健康行動の視点から」(代表)、日本フルハップ調査研究費「高齢期の食事パターンが介護予防・認知症予防に及ぼす影響」(代表)、長寿医療研究開発費「長寿コホートの総合的研究」(分担)等を獲得した。

板橋お達者健診（コホートおよび介入研究）

プロジェクトリーダー：金憲経

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
大都市部在住高齢者を長期的に追跡し、高齢期における健康と生活機能の自立の維持を阻害する因子を把握する。これらの結果に基づき、老年症候群を予防するためのRCT介入研究を実施する。得た成果を地域に普及し、健康期間の延伸に活用するとともに地域で安心して過ごせるように情報を提供する。	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	※2011年、既存コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度 （令和2年度）	2021 年度 （令和3年度）	2022 年度
	①2008年コホート追跡調査 ②2011年コホート追跡調査 ③郵送追跡調査 ④2017年コホート追加調査 ⑤データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③2017年コホート追跡調査 ④介入対象者選定及び介入 ⑤データ解析及び成果公表	①2011年コホート追跡調査 ②郵送追跡調査 ③2017・2018・2019年コホートの追跡調査 ④新規調査 ⑤データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③2017年コホート追跡調査 ④データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③データ解析及び成果公表

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
金憲経 ・サブリーダー 2011年コホート：大淵修一 2017年コホート：笹井浩行	社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典、村山洋史、鈴木宏幸、桜井良太 自立促進と精神保健研究チーム 小原由紀、小島成実、枝広あや子、大須賀洋祐、岩崎正則、本川佳子、岡村毅、稲垣宏樹 福祉と生活ケア研究チーム 河合恒、吉田祐子、江尻愛美 老化制御研究チーム 石神昭人 神経画像研究チーム 石井賢二	糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木厚 歯科口腔外科 平野浩彦 桜美林大学 鈴木隆雄 国立長寿医療センター研究所 島田裕之 人間総合科学大学 熊谷修 弘前大学 井原一成 東京医療学院大学 小島基永 高崎健康福祉大学 解良武士 埼玉県立大学 西原賢 北海道大学 渡邊裕 日本大学 那須郁夫

3 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

①コホート調査

- a. 追跡調査：2011年コホートの11年追跡調査を9月に、2017年・2019年コホートの2～4年目の追跡調査を10月に実施した。
- b. 新規調査：2021年12月に郵送調査、2022年2-3月に新規の会場調査を行う予定である。
- c. TMIG-CFコホートの立ち上げ：認知機能低下者を対象にCDR・ADAS-cog・MRI検査による詳細な認知機能検査を行い、その後の経過を観察する新たなコホートを立ち上げた。

②コホートデータ分析研究

- a. 咀嚼機能と低栄養傾向の関係を解析し、国際誌に掲載した。
- b. 糖尿病・食品摂取の多様性（DVS）とフレイルの関連性を解析し、国際誌に掲載した。
- c. 口腔乾燥感が身体的フレイルに及ぼす影響について、5年縦断データを解析した結果をまとめて国際誌に投稿し、現在査読中である。
- d. 新型コロナウイルス感染症蔓延による影響を横断分析し、その結果を国際誌に掲載した。
- e. サルコペニア・フレイル診断項目は認知機能低下の早期診断に活用できるかについて、縦断データを解析した。その結果を学会に報告した。
- f. 地域在住高齢女性における心理的フレイルの特徴を横断解析し、学会に報告した。

【その根拠】

①コホート調査

- a. 追跡調査：2011年コホートの追跡調査を9月23日～10月3日、2017・2019年コホートの追跡調査を10月11日～22日に行い、それぞれ642名、859名のデータを収集した。
- b. 新規調査：高島平7,298名、板橋4,337名に対する新規郵送調査を12月に、2022年2月11日～3月5日に会場調査の予定で、そのデザインについて国際学会で発表した。
- c. 追跡調査コホート及び新期コホートに参加する対象者の中からMMSE得点を基準にTMIG-CFコホート参加者を募集する。

②コホートデータ分析研究

- a. お達者健診参加者509名を対象に咀嚼機能と低栄養傾向（血中アルブミン値<4.0g/dL）の関係を解析し、IJERPH (2021) 誌に報告した。
- b. お達者健診及び高島平研究の参加者1,357名を対象に糖尿病と食品摂取の多様性とフレイルの関連について解析し、Nutrients (2021) 誌に掲載した。
- c. 2014年お達者健診参加者762名を最大5年間追跡し、口腔乾燥感が身体的フレイルに及ぼす影響の一部を解析し、2021年日本老年学会総会合同セッション発表にて優秀賞を受賞した。総合分析結果を投稿し現在査読中である。
- d. お達者健診2019年受診者720名へ追加アンケート調査を行い、新型コロナウイルス感染症蔓延が体調に及ぼす影響を解析し、Geriatr Gerontol Int誌 (2021)に掲載した。
- e. 2017-2018年お達者健診参加者を対象に2019年追跡調査を行い、MMSE≥28点からMMSE：24-27点への低下に握力と歩行速度が関連する要因を第8回日本介護予防・健康づくり学会大会 (2021)において発表し、大会優秀賞を受賞した。
- f. 65歳以上の地域在住高齢女性を対象に行ったお達者健診に参加した1,365名（2017年1,035名、2018年330名）について、心理的フレイルの特徴と関連要因を解析し、その結果を第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会に報告した (12.1-15、大阪、2021)。

認知症を中心とした老年医学・老年学研究の
プラットフォームの構築（高島平長期縦断研究）
プロジェクトリーダー：栗田圭一

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020年度 （令和2年度）	2021年度 （令和3年度）	2022 年度
板橋区行政と連携し、当センターの研究部門と臨床部門が協働して、認知症を中心とした老年医学・老年学研究のプラットフォームを構築する。 認知症・フレイル予防と地域共生社会（認知症の有無に関わらず、障害の有無に関わらず、希望と尊厳をもって暮らせる社会）の実現に向けた総合的研究を実施する。	1st Wave ①2016年コホート（会場調査群）の追跡調査 ②データ解析及び成果公表	①認知機能低下高齢者の追跡調査（訪問） ②データ解析及び成果公表	①認知機能低下高齢者の追跡調査（訪問） ②データ解析及び成果公表		
		2nd Wave ①新規調査：65歳以上高齢者に対する郵送調査（悉皆） ②対象者へ結果報告 ③データ解析及び成果公表	①会場調査 ②訪問調査 ③結果報告 ④データ解析及び成果公表 → COVID-19 感染拡大のための中止	お達者健診と協働して「板橋健康長寿縦断研究」として再開 ①質問紙調査 ②会場調査	「板橋健康長寿縦断研究」として ①質問紙調査 ②会場調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会科学系副所長 栗田圭一	社会参加と地域保健研究 藤原佳典、村山洋史、鈴木宏幸、桜井良太、北村明彦、横山友里、山下真里、成田美紀、新開省二 自立促進と精神保健研究 金憲経、大須賀洋祐、笹井浩行、小島成実、平野浩彦、岩崎正則、小原由紀、本川佳子、渡邊裕、岡村毅、稲垣宏樹、杉山美香、宇良千秋、枝広あや子、佐久間尚子 福祉と生活ケア研究 大淵修一、河合恒、江尻愛美、解良武士、石崎達郎、島田千穂	徳丸阿耶、徳丸明日香、下地啓五、亀山征史、荒木厚、田村嘉章、豊島堅志、原田和昌、石川譲治、鳥羽梓弓

3 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

本研究は、2016年度～2017年度に東京都受託研究事業「認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」で実施した板橋区高島平地区をフィールドとする地域在住高齢者の実態調査をはじめとする地域コホートである。2018年度より当センター研究所の長期縦断研究に位置づけられ、その後は社会科学系のすべてのチームと病院部門でプロジェクトチームをつくり、板橋区行政と連携して、認知症・フレイルのリスク低減と地域共生社会の実現に向けた総合的研究を進めている。長期縦断研究の4年目にあたる今年度からは、お達者健診と連携して板橋健康長寿縦断研究（通称「板橋コホート」）を立ち上げ、2021年12月に郵送調査を行い、2022年2月11日～3月5日の21日間に会場調査を実施している。2021年度に論文文化されたものを中心に報告する。

1) 会場調査参加者と訪問調査参加者の機能状態を比較分析し論文報告した。

- 2) 地域在住高齢者のTMT-A及びTMT-Bの標準データを作成し論文化した。
- 3) MMSE<24の認知機能低下高齢者198名の3年目の転帰調査の結果を論文報告した。
- 4) 上記対象の5年目の転帰調査を行い論文報告した。
- 5) 認知機能低下、世帯類型、栄養状態（血清アルブミン値）の関連を分析し論文報告した。
- 6) 2年間の縦断データを用いて、オーラルフレイルが栄養状態悪化のリスク因子になるかを分析し論文報告した。
- 7) 認知機能低下を認める地域在住高齢者を対象に訪問による口腔機能検査を行い、認知症の重症度と歯周炎症面積(PISA)の関係を調査し論文報告した。
- 8) 口腔機能と歩行機能との関連を分析し、論文報告した。
- 9) 食品多様性、糖尿病、フレイルの関係を分析し論文報告した。
- 10) 地域在住高齢者における血圧と認知機能との関連を分析し、論文報告した。
- 11) 2年間の縦断データを用いたstepping TMTの認知機能低下予測能を検証した。
- 12) MMSE24点未満の認知機能低下高齢者85人の認知機能と精神的健康度の変化を3年間にわたって追跡し、両者の関係を分析し論文報告した。

【その根拠】

- 1) Sakuma N, Inagaki H, Ogawa M, Eda Hiro A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Suzuki H, Watanabe Y, Shinkai S, Okamura T, Awata S.: Cognitive function, daily function and physical and mental health in older adults: A comparison of venue and home-visit community surveys in Metropolitan Tokyo. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 2022 May-Jun; 100: 104617. doi: 10.1016/j.archger.2021.104617. Epub 2021 Dec 28. PMID: 35074699.
- 2) Suzuki H, Sakuma N, Kobayashi M, Ogawa S, Inagaki H, Eda Hiro A, Ura C, Sugiyama M, Miyamae F, Watanabe Y, Shinkai S, Awata S.: Normative data of the Trail Making Test among urban community-dwelling older adults in Japan (in press) .
- 3) Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Miyamae F, Yamashita M, Nakayama R, Eda Hiro A, Taga T, Inagaki H, Ogawa M, Awata S. Living on the edge of the community: factors associated with discontinuation of community living among people with cognitive impairment. *BMC Geriatr.* 2021 Feb 19; 21(1):131. doi: 10.1186/s12877-021-02084-2. PMID: 33607947; PMCID: PMC7893898.
- 4) Okamura T, Ura C, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F, Eda Hiro A, Taga T, Ito K, Awata S. After 5 years, half of people with cognitive impairment were no longer living in the community: A community observational survey. *Int J Geriatr Psychiatry.* 2021 Dec; 36(12):1970-1971. doi: 10.1002/gps.5608. Epub 2021 Aug 14. PMID: 34392564.
- 5) Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y, Hayakawa M, Mikami Y, Shirobe M, Inagaki H, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Nutritional status and body composition in cognitively impaired older persons living alone: The Takashimadaira study. *PLoS One.* 2021 Nov 23; 16(11):e0260412. doi:10.1371/journal.pone.0260412. PMID: 34813604; PMCID: PMC8610283.
- 6) Iwasaki M, et al. 2-year longitudinal study of association between oral frailty and deteriorating nutritional status among community-dwelling older adults *International Journal of Environmental Research and Public Health* (in press)
- 7) Eda Hiro A, Okamura T, Motohashi Y, Takahashi C, Meguro A, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R, Yamashita M, Awata S. Severity of Dementia is Associated with Increased Periodontal Inflamed Surface Area: Home Visit Survey of People with Cognitive Decline Living in the Community. *Int J Environ Res Public Health.* 2021 Nov 14; 18(22):11961. doi: 10.3390/ijerph182211961. PMID: 34831719; PMCID: PMC8618461.
- 8) Iwasaki M, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Mikami Y, Taniguchi Y, Osuka Y, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano H, Shinkai S, Awata S. Oral frailty and gait performance in community-dwelling older adults: findings from the Takashimadaira study. *J Prosthodont Res.* 2021 Oct 15; 65(4): 467-473. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_20_00129. Epub 2021 Feb 22. PMID: 33612666.
- 9) Hayakawa M, Motokawa K, Mikami Y, Yamamoto K, Shirobe M, Eda Hiro A, Iwasaki M, Ohara Y, Watanabe Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Fujiwara Y, Kim H, Ihara K, Inagaki H, Shinkai S, Awata S, Araki A, Hirano H. Low Dietary Variety and Diabetes Mellitus Are Associated with

Frailty among Community-Dwelling Older Japanese Adults: A Cross-Sectional Study. *Nutrients*. 2021 Feb 16; 13(2):641. doi: 10.3390/nu13020641. PMID: 33669388; PMCID: PMC7920314.

- 10) Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K: The relationship between blood pressure and cognitive function. *International Journal of Cardioogy, Cardiovascular Risk and Prevention*. 2021 Aug 8; 10: 200104. doi: 10.1016/j.ijcrp.2021.200104. PMID: 35112116; PMCID: PMC8790103.
- 11) Osuka Y, Kim H, Watanabe Y, Taniguchi Y, Kojima N, Seino S, Kawai H, Sakurai R, Inagaki H, Awata S, Shinkai S. A combined stepping and visual tracking task predicts cognitive decline in older adults better than gait or visual tracking tasks alone: a prospective study. *Aging Clin Exp Res*. 2021 Jul; 33(7):1865-1873. doi: 10.1007/s40520-020-01714-w. Epub 2020 Sep 23. PMID: 32965610.
- 12) Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Edahiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, Awata S. The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition. *Psychogeriatrics*. 2021 Sep; 21(5):841-843. doi: 10.1111/psyg.12742. Epub 2021 Jul 13. PMID: 34258824.

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究（JAHEAD）

プロジェクトリーダー：小林江里香

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度 （令和2年度）	2021 年度 （令和3年度）	2022 年度
①高齢期の健康・生活の縦断的变化と関連要因の解明	第9回を含む縦断データ構築 ①②③データ解析・公表 ④第7回データ公開、セミナー開催	第9回調査研究報告書 ①②③データ解析・公表 ④二次分析研究会の開催	第10回調査項目の検討 ①②③データ解析・公表 ③体力・身体測定手引きの公開	第10回調査実施 ①②③データ解析・公表 ④第8回データ公開、セミナー開催	第10回を含む縦断データ構築 ①データ解析・公表 ④セミナー開催
②全国高齢者代表標本におけるフレイル出現率と個人・地域間格差					
③高齢者の研究手法の開発					
④データの公開と利用促進					

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会参加と地域保健研究チーム 小林 江里香	社会参加と地域保健研究チーム 村山洋史、村山陽、岡本翔平、ターン有加里ジェシカ（JAHEAD非常勤研究員） 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎 HAIC研究ユニット 深谷太郎	東京大学 秋山弘子 ミシガン大学 Jersey Liang 西武文理大学 菅原育子 桜美林大学 杉澤秀博 東京都立大学 杉原陽子 早稲田大学 津田好美 慶應義塾大学 山田篤裕 実践女子大学 原田謙 学芸大学名誉教授 直井道子 女子栄養大学 新開省二

3 令和3年度の研究成果

【令和3年度の進捗状況】

今年度は前回（第9回）より4年ぶりとなる第10回調査の実施を計画しており、新型コロナウイルス感染症流行下での調査を安全に実施することが最大の課題であった。予備調査の実施方法・スケジュールに若干の変更は生じたが、10月からの本調査は予定通り実施できた。調査の準備・実施にエフォートが割かれたため、新規論文の投稿は例年より少なかったが、第9回までの既存データの分析や発表も並行して進めた。また、今年度予定していた第8回データの公開については、SSJデータアーカイブへの寄託時期が遅れたことにより次年度前半の公開となる予定である。

【その根拠】

1) 第10回調査の準備と実施

調査方法と調査内容の確定（4～8月）

第9回までは原則として全対象者に訪問面接調査を実施してきたが、面接調査時間短縮のため、面接・留置法を併用する形式に変更した。また、予算的制約と対象者の年齢を考慮し、訪問調査（面接・留置法）の対象は、第8回調査（2012年）で追加された継続対象者（2021年時69歳以上）と、今回新たに全国より無作為抽出する新規対象者（60～92歳）のみとし、1987～1999年より追跡する継続対象者（85歳以上）は、家族等による代理記入も可能な郵送調査（健康状態や入院・入所状況の確認）を実施することとした。

訪問調査に関しては、調査手法変更による影響を最小限にとどめるため、前回までの調査票をベースとして、基本属性、変化の分析を行う項目（健康・well-beingの主要指標、社会的ネットワークなど）を中心に面接調査票に残し、残りの項目を自記式の留置調査票に作り替えた。調査票作成においては、先行研究のレビュー結果やコロナ下での社会変化を踏まえて、項目の修正・追加も行った。

さらに、当研究所の「新型コロナウイルス感染症流行下における社会科学系調査研究の指針」に基づき、訪問調査の委託会社と協議しながら安全な調査実施体制を整えた。

予備調査の実施（6～8月）

調査票や調査手順に問題がないかを確認するための予備調査を2回実施した。緊急事態宣言下での実施となったため、1回目の予備調査では訪問調査は実施せず、新しく作成した留置調査票のみ郵送式で12対象に実施した。2回目はワクチン接種済の調査員が訪問し、本調査と同様の方法で面接・留置調査を実施した（首都圏6地点、計30対象）。予備調査の結果に基づき、調査書類の修正や実施要領（調査員マニュアル）の作成を行った。

対象者名簿の作成（7～8月）

新規対象者については、全国192地点の60～92歳の男女2,700名を住民基本台帳より層化二段無作為抽出した（標準抽出は調査会社に委託）。継続対象者（郵送調査対象者を含む）については、全国307自治体に住民票（除票）交付を依頼し、転居・死亡の状況を確認した。この除票確認または家族等の連絡により死亡が判明した約500人は調査対象者から除外した。

本調査の実施（10～12月）

訪問調査は、2012年からの継続対象者934人と新規対象者2,700人に事前に依頼状を送付し、緊急事態宣言が解除された10月～12月に実施した（1,933人が面接調査に回答）。郵送調査は10月上旬に継続対象者738人に調査票を郵送し、6割超より返送があった。

2) 既存データの分析・発表

前年度掲載可となっていた3つの論文が英文誌に掲載された(a, b, c)。また、2019年より台湾の国立成功大学の研究グループと進めていた健康の加齢変化の日台比較に関する論文が公開された(d)。さらに、11月にオンラインで行われたアメリカ老年学会において、JAHEADデータを用いた4件の口頭発表（シンポジウムを含む）を行った。

論文a～dにより得られた知見は以下の通りである：

(a) 短期（3年）、中期（6-7年）、長期（12-13年）の体重変化が総死亡に与える影響を分析した結果、いずれの期間についても5%以上の体重減少は死亡のリスクを高めることが示された。この傾向には男・女、前期・後期高齢による違いはみられなかった。(Murayama H et al. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*, 76(11), 2021)

(b) 包括的な社会的孤立スコアを推計し、孤立が認知機能に与える効果を検討した。パネルデータ固定効果モデルを用いた場合、75歳以上では男女とも孤立スコアが高いほど認知機能が低いという相関が認められたが、因果推論をより厳密に行う手法（システムGMM）に基づく、孤立が認知機能を低下させるという因果効果は確認できなかった。(Okamoto S, Kobayashi E. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci*, 76(7), 2021)

(c) 認知機能およびその低下の男女差のメカニズムを明らかにするために、人口統計学的、社会的決定要因、健康に関する変数による要因分解を行った結果、教育歴や最長職といった認知的予備力(cognitive reserve)仮説に関連する要因が認知機能の男女差の一部を説明できた。(Okamoto et al. *BMC Geriatrics*, 21(38), 2021)

(d) Taiwan Longitudinal Study on Aging(TLSA)とJAHEADを用いて、ADL、IADL、身体機能（歩行、重い物を持ち上げるなど）の65歳以上の加齢変化について日本と台湾の比較を行った。ADL障害数は70歳時点では日本の高齢者の方が多く、その後増加が急な台湾が日本を上回って加齢と共に差が拡大、IADL障害は台湾の方が多い状態のまま平行的に上昇、身体機能障害は80歳代前半までは台湾の方が多く、その後日本と交差した。1項目以上のADL障害が発生する推定年齢は日台とも約77歳、3個以上のより深刻な障害は日本が86.7歳、台湾が85.0歳であった。(Chiu CJ et al. *Arch Gerontol Geriatr*, 2021)

健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）

研究統括責任者（気仙沼スタディ統括責任者）：栗田圭一

事務局長：菅原康宏

1 経過と目的

2018(平成30)年11月に、気仙沼市と東京都健康長寿医療センターは、包括的な連携・協力によって健康長寿のまちづくりを推進・構築することを目的とする「包括的連携に関する協定」を締結した。これにより、震災支援から研究へと大きな方針転換がなされた。

気仙沼市との包括連携協定に基づく本研究及びその前身である東日本大震災被災者支援プロジェクト研究では、研究所副所長の直轄事業として、被災地及び地方都市特有の課題への取り組みに加え、高齢者を中心とする保健福祉システムの再建・機能強化に資するため、要援護者・高齢者を支える福祉・介護スタッフへの支援を行ってきた。とりわけ、気仙沼市との包括連携協定は、災害公営住宅等に暮らす高齢者への支援を通して、継続的な支援のための拠点づくりを図るとともに、健康長寿のまちづくり（気仙沼モデル）の着実な推進・構築を目指し、これまでに得られた知見を首都圏防災及び首都圏における孤立対策等の社会問題の解決に役立てることを目的として推進されるものである。

気仙沼市においては、2011(平成23)年3月11日の震災直後からこれまで、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体（略称；5団体）」の代表を務める機関として、他の支援組織と共同で活動を行ってきた。5団体は、乳幼児から高齢者まで、専門的な立場から幅広くカバーできるような団体構成になっていた。活動スタイルは、地元の自治体や社協、医師会等との共催であり、内容は、介護予防及びフレイル予防サポーター養成事業、看護師養成事業（看護学校支援）、専門職向けの研修・講演・相談会、市民公開講座、健康相談会、お達者出前講座、保育所・児童福祉施設支援など多種多彩であった。

5団体は、東日本大震災から10年目の令和3年3月に解散した。その後は、気仙沼市との包括連携協定に依拠する健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）に道を譲るかたちで、「旧5団体」として細々と震災支援活動を続けている。

2 2021年度（令和3年度）の健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）の内容と成果

2021（令和3）年度は、コロナ禍による大きな変化の真只中であつたため、「共同研究」は一時的に凍結し、2022（令和4）年度の締結に向けて継続協議することとした。

〔協議ほか〕

7月2日・・・気仙沼市との協議、市長表敬訪問

9月30日・・・気仙沼市との協議（オンライン）

12月24日・・・気仙沼市との協議（オンライン）

2月7日・・・気仙沼市との協議（オンライン）

市長表敬訪問では、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」記念誌～2011-2021年の軌跡～を贈呈した。また、気仙沼市より、宮城県気仙沼市東日本大震災災害対応記録集及び気仙沼市東日本大震災復興記録誌『海と生きる』の寄贈があった。

協議内容の中心は、2022(令和4)年度に実施される「気仙沼市健康長寿のまちづくり生活実態調査2022」に関することであった。

またこの間の具体的な事業として、福寿草フレイル予防啓発講座、唐桑地区社協向けの講座が緊急事態宣言、まん延防止等重点措置で中止となり、1)フレイル予防サポーター養成講座(全9回4名派遣)、2)介護予防サポーター養成講座(全3回1名派遣)、3)気仙沼市医師会付属看護学校への講師派遣(全6講座4名派遣)、4)障がい児施設向けの職員研修(全3講座4名派遣)、5)生活支援体制整備事業に係る研修会・地域支え合い推進員スタッフ研修(全3講座1名派遣)、6)気仙沼市医師会会員の医療機関支援(週2回の代理診察)を実施するに止まった。

産業の衰退、少子高齢化、地理的ハンデなど、東北地方、とりわけ三陸沿岸地域は震災前から課題先進地域と言われていた。大震災で各課題の深刻さが増し、10年分一挙に進むだろうとも言われていた。2020(令和2)年度以降はコロナ禍が震災からの復興に追い打ちをかけた。気仙沼市では長引く新型コロナウイルス感染症による消費低迷や、復興需要の終息、人口減少に伴う地域経済の縮小が見られる中、高齢化率は2022(令和4)年3月末現在で39.5%まで上昇しており、団塊の世代が75歳を迎える今後においては、介護需要や多様な生活課題が見込まれている。また、健康面では生活習慣病である心疾患、脳血管疾患の出現割合が全国平均・県平均と比較し高い状況となっている。

震災以降継続して、人材の発掘・育成を柱とする市民が主役のまちづくり、あるいは、関係団体と連携し、健康づくり活動等を進めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業規模の縮小や、交流サロン等「集う」形での開催が難しく、新たな生活様式や価値観の広がりなど、多方面に影響し、市民生活に様々な変化がもたらされている。

厳しい社会状況の中でも、将来にわたって気仙沼市民が健康に暮らすことができるまちづくりや持続可能な行政運営をサポートするため、ウィズコロナ・ポストコロナに対応する「新たな連携」の構築に向けて、これまでに得られた知見、新しい知見の活用を推進しなければならない。

東京都健康長寿医療センターとの包括連携協定を背景として、2022(令和4)年度の健康長寿のまちづくり研究事業(気仙沼モデルの創生)に向けて下記事項を共同研究として実施し、その効果を検証していく予定である。

- ①気仙沼市健康長寿のまちづくり実態調査(中間調査)の実施と活用
- ②健康長寿新ガイドラインの実装化(フレイル予防サポーター等の養成と活用)
- ③ウィズコロナ・ポストコロナに向けたステイホーム型教材(『ピコトレ』)の活用
- ④生活支援体制整備事業、健康ポイント事業の展開及び医療体制と地域包括ケアとが連携したシステムの強化
- ⑤健康寿命の延伸と医療経済的評価

3 業績

論文(誌上发表):原著

- 1) Mari Yamashita, Satoshi Seino, Yu Nofuji, Yasuhiro Sugawara, Kanna Fujita, Akihiko Kitamura, Shoji Shinkai, Yoshinori Fujiwara. Examining apathy prevalence and associated factors among older adults after Great East Japan Earthquake : A mixed-methods study. International Psychogeriatric Association International Congress. Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan. Poster. R3.9.16-18.
- 2) 山下 真里、清野 諭、野藤 悠、菅原 康宏、阿部 巧、西 真理子、秦 俊貴、新開 省二、藤原 佳典、北村 明彦. 地域在住高齢者における性格特性とフレイルの関連. 老年社会科学 43(2) 204-204 2021年6月(著作等)
- 3) 山下 真里、清野 諭、野藤 悠、菅原 康宏、新開 省二、藤原 佳典、気仙沼スタディ 特集 日本における高齢者コホート研究の成果と現状 老年内科 第4巻第4号(2021年10月発行)(著作等)
- 4) 山下 真里、清野 諭、野藤 悠、菅原康宏、成田美紀. 東日本大震災から8年後の被災地におけるアパシーの実態とフレイルとの関連. 第32回日本疫学会学術総会(オンライン開催). 示説. R4.1.26-28.
- 5) [監修]井藤英喜、新開省二 [編者・編集委員]北村明彦、藤原佳典、大淵修一、高橋龍太郎、菅原康宏 [ワーキングチーム]菅原康宏、桑田直弥、山下真里、牧田彩加、持丸由紀子、岩崎由利恵、清野諭、野藤悠、江尻愛美、稲松孝思; 頭の健康体操・認知トレーニング教材『ピコトレ』シリーズ(著作等)
 - ・頭の健康体操・認知トレーニング教材『ピコトレ』 標準版・3ヵ月バージョン(第1巻~12巻). 2021年3月発行
 - ・その他、ノート簡易版・初級・第1巻~第6巻、標準版・3ヵ月バージョン(第1巻~12巻)、標準版・6ヵ月バージョン(第1巻~12巻)、課題別問題集(1)~(15)の全CD-ROM版データ(2022年3月. 気仙沼市に寄贈)。
- 6) 山下真里、清野諭、野藤悠、菅原康宏、成田美紀、横山友里、西真理子、秦俊貴、北村明彦、新開省二、藤原佳典. 東日本大震災被災地における高齢住民の孤独感の実態とその関連要因. 厚生指標. 68(13).

13-20. 2021. (論文)

7) Yamashita M, Seino S, Nofuji Y, et al. (2021). The Kesennuma study in Miyagi, Japan: study design and baseline profiles of participants. Journal of Epidemiology. Epub ahead of print 2021/04/13. DOI: 10.2188/jea.JE20200599. (論文)

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

III 普及活動等

1 新聞・雑誌・テレビ等

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
社会科学系副所長	アデュカヌマップとこれからの認知症治療	栗田主一	日本記者クラブ
	薬審査大詰め難しい判断	栗田主一	読売新聞
	認知症薬継続審議に	栗田主一	朝日新聞
	新規認知症薬の導入めぐり社会政策面に課題	栗田主一	メディカルトリビューン
	「認知症」診断 希望につながるには	栗田主一	朝日新聞
老化脳神経科学 研究チーム	会陰さすりでピタリと止まる！	堀田晴美	株式会社主婦と生活社
	咀嚼にとまなう脳血流量増加のメカニズムの解明	堀田晴美	株式会社ハースト婦人画報社
	「皮膚刺激による鎮痛作用」について	堀田晴美	NHK
	「歩き方で変わる認知症のリスク」について	堀田晴美	朝日新聞
	「砂浜を裸足でウォーキングすることは健康にも良い」 科学的根拠について	堀田晴美	NHK
	夜間頻尿対策としての「骨盤さすり」について	堀田晴美	女性セブン
	中高年女性の生活の質にも影響する「夜間頻尿」、 とくに過活動膀胱の改善によいとされる「会陰さすり」の セルフケアについて	堀田晴美	日本共産党中央委員会
	「冬のトイレでの突然死を防ぐ」	堀田晴美	小学館
神経画像研究チーム	認知症診療におけるバイオマーカーの展望	石井賢二	メディカルトリビューン
	認知症診療におけるバイオマーカーの展望	石井賢二	ラジオNIKKEI
	アルツハイマー病疾患修飾薬治療への課題	石井賢二	メディカルトリビューン
社会参加と地域 保健研究チーム	私たちの流儀 ー長年取り組む世代間交流プログラムで「三方よし」の効果が判明ー	藤原佳典	総合メディカル株式会社
	70歳定年でも高齢者が活躍できる職場づくりに向けた工夫と ステップ(前編)～高齢期の仕事探しの難しさ	藤原佳典	ジョブズリサーチセンター
	70歳定年でも高齢者が活躍できる職場づくりに向けた工夫と ステップ(後編)～働くつもりがなかった高齢者が働きかけとは	藤原佳典	ジョブズリサーチセンター
	コロナ禍で深まる高齢者と若者の孤立を防ぐには？	藤原佳典	株式会社日本医事新報社
	幸福長寿のすすめ(5) 社会参画身近なことから	藤原佳典	読売新聞
	健康長寿の秘訣はフレイル予防	藤原佳典	株式会社サンケイリビング新聞社
	「介護手前のフレイル予防」:運動・栄養・社会参加	藤原佳典	テレビ朝日
	長年取り組む世代間交流プログラムで「三方よし」の効果が判明	藤原佳典	総合メディカル株式会社
	今日からはじめよう! 認知症予防とケア	藤原佳典	朝日新聞Reライフ.net
	コロナ禍 在宅で看取る	藤原佳典	読売新聞
	シニアの住まい多様化:孤立避けシェア生活	藤原佳典	日本経済新聞
	知的好奇心を高めて「社会活動」に参加しよう!	藤原佳典	日本航空健康保険組合
	シニアの活き活き生活	村山洋史	小田急不動産株式会社
	孤独の健康影響と日本における孤独対策について	村山洋史	TOKYO FM
	コロナによる「社会的孤立者」の増加、男性と高齢者で顕著に!	村山洋史	講談社
	コロナが奪う心のよりどころ「いばしょ」作った大学生	村山洋史	朝日新聞
	社会参加の認知機能抑制効果について	村山洋史	日本経済新聞
	孤独感の健康影響について	村山洋史	株式会社扶桑社
	日本における孤独の現状について	村山洋史	テレビ朝日
	コロナ禍における孤独・孤立の増加について	村山洋史	ABEMA TV
	コロナ禍の社会的孤立	村山洋史	読売新聞
	フレイル予防について	村山洋史	STVラジオ
	地域のソーシャルキャピタルと新型コロナウイルス感染症 死亡率の関連について	村山洋史	読売新聞
	働き世代のコロナ禍での孤独感	村山洋史	日本経済新聞
	働き世代のコロナ禍での孤独感	村山洋史	読売新聞
	フレイル予防について	村山洋史	北海道新聞
	フレイル予防について	村山洋史	北海道新聞
	“助け合いの精神”がコロナ死亡を減らす!?	村山洋史	メディカルトリビューン
	中高年の孤独について	村山洋史	朝日新聞出版
	延ばそう! 健康寿命	村山洋史	NHK出版
	コロナ死亡 「互酬性の規範」高いほど低下	村山洋史	メディカルトリビューン
	絵本読み聞かせ 健康づくり	高橋知也	読売新聞
	2カ月続けると、長寿遺伝子のスイッチが入る	青柳幸利	株式会社法研
	もっと筋トレ効果を上げるウォーキングのコツ	青柳幸利	株式会社学研ホールディングス
	健康寿命を延ばす、ウォーキングの新常識	青柳幸利	株式会社ハースト婦人画報社
	活動しやすいときに、歩数を伸ばしておこう	青柳幸利	株式会社法研
	歩いて健康寿命を延伸	青柳幸利	株式会社ドラッグマガジン社
	「一日8,000歩、早歩き20分」こそ健康長寿への近道	青柳幸利	株式会社潮出版社
	「一日8,000歩」で生活習慣予防	青柳幸利	ウェザーニューズ

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
社会参加と地域 保健研究チーム	ウォーキングで体調改善	青柳幸利	株式会社ドラッグマガジン社
	歩けば歩くほど健康になる、この考え方は捨てましょう	青柳幸利	株式会社法研
	群馬県中之条町について	青柳幸利	SDGs JAPAN ポータル
	フレイル講座「肩回りをほぐす」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「腰回りの筋肉をほぐす」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「座りながらも上げ」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「スクワット筋トレの王様」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「脚の横上げ」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「太ももの内側を鍛える」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「太ももの裏側を鍛える」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「肩回り鍛えましょう」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「腹筋鍛えて腰痛防ぐ」	清野諭	読売新聞
	フレイル講座「背筋も鍛えて腰痛予防」	清野諭	読売新聞
	介護予防・フレイル予防 日頃の社会活動に フレイル予防を”ちょいたし”	清野諭	テレビ朝日
	介護予防・フレイル予防 運動の習慣化	清野諭	テレビ朝日
	高齢者の治療 意向や事情に沿って	清野諭	朝日新聞
	フレイル講座「レッツトライ」	清野諭	読売新聞
	ウォーキング前に実践したいストレッチ	清野諭	読売新聞
	血管力&筋力若返り習慣	北村明彦	株式会社KADOKAWA
	長寿を支える「食」と「栄養」	成田美紀	株式会社新広社
	不信強まり、援助求めず：単身中高年者の心理を分析	村山陽	共同通信社
自立促進と精神保健 研究チーム	かかと伸ばしウォーキング	金憲経	株式会社主婦の友社
	「生涯現役のための筋肉の重要性」について	金憲経	株式会社世界文化ホールディングス
	「サルコペニア肥満」について	金憲経	メディカルトリビューン
	中高年層の転倒と予防	金憲経	地方公務員災害補償基金東京都支部
	ラジオ体操は“全入り”。運動不足解消に最適です	大須賀洋祐	マガジンハウス社
	わが家が一番危ない！人は口から老化する オーラルフレイル万全対策	平野浩彦	毎日新聞出版株式会社
	「のど自慢」になる7つの方法教えます！	平野浩彦	小学館
	オーラルフレイルをご存知ですか？	平野浩彦	東京都後期高齢者医療広域連合
	オーラルフレイル予防の心得「歯の根元のむし歯」	小原由紀	公明新聞
	オーラルフレイル予防の心得「口呼吸で機能低下」	小原由紀	公明新聞
	オーラルフレイル予防の心得「健康寿命延ばす」	小原由紀	公明新聞
	オーラルフレイル予防の心得「歯科衛生士の指導」	小原由紀	公明新聞
	オーラルフレイル予防の心得「人生100年時代」	小原由紀	公明新聞
	低栄養予防パンフレットについて	本川佳子	株式会社高齢者住宅新聞社
	認知症と共生する社会へ	岡村毅	岩手日日新聞社
	認知症と共生する社会へ	岡村毅	八重山毎日新聞社
	看取りと宗教考える	岡村毅・宇良千秋	株式会社上越タイムス社
	原因疾患を踏まえての、認知症の方の食支援	枝広あや子	環境新聞社
	地域に暮らす認知症の高齢者とそれを支える 高島平ココからステーションの役割	宮前史子	朝日新聞
福祉と生活ケア 研究チーム	いわゆるごみ屋敷症候群について	井藤佳恵	共同通信社
	いわゆるごみ屋敷症候群について	井藤佳恵	東京新聞
	誰もが“ごみ屋敷症候群”になる可能性あり…どう支援すべき？ 調査した医師に聞いた「認知症との関係」	井藤佳恵	FNNプライムオンライン
	いわゆるごみ屋敷症候群について	井藤佳恵	産経新聞
	いわゆるごみ屋敷症候群について	井藤佳恵	北海道新聞
	熱中症を未然に防ぐコツ	野本茂樹	株式会社毎日が発見
	お家でトライ・今こそ知りたい正しいかかと落とし	大淵修一	マガジンハウス社
高齢者健康増進 事業支援室	「筋トレ」で健康寿命を延ばす	大淵修一	日経Gooday(グッデイ)
	出前講座について	大淵修一	読売新聞
	役割付与した住民主体の活動でフレイル改善	大淵修一	メディカルトリビューン
	ストレッチについて	大淵修一	NHK
	流行下での親の寝たきりリスク	大淵修一	株式会社講談社
	昨年7月にリリースした「農作業、知的活動、社会参加が フレイルから健常への改善へ寄与」について	阿部 巧	読売新聞
認知症未来社会 創造センター	交通格差とフレイルについて	阿部 巧	読売新聞

2 プレス発表

	プレス発表日	発表者	件名
1	令和3年4月22日	福祉と生活ケア研究チーム 医療・介護システム研究 研究部長 石崎達郎	中等度以上認知症の可能性がある入院患者は退院直後の再入院予防策が必要
2	令和3年4月23日	自立促進と精神保健研究チーム 医療・介護システム研究 研究員 本川佳子	通いの場等、地域で活用できる低栄養予防パンフレットを作成しました
3	令和3年5月6日	糖尿病・代謝・内分泌内科 副院長・内科統括部長 荒木厚 研究員・医員 大村卓也	高齢者糖尿病の新しいエビデンス「カテゴリー分類」の考え方を日本の臨床データで検証 8つの質問で死亡リスクを予想 生活機能の維持の重要性
4	令和3年5月19日	老化機構研究チーム システム加齢医学研究 研究部長 井上聡 専門副部長 高山賢一	ホルモン療法が効かない前立腺がん・乳がんへの新しい治療薬候補の発見
5	令和3年6月18日	老化機構研究チーム システム加齢医学研究 研究部長 井上聡 専門副部長 高山賢一	病期特異的な“相分離”を介した新しい遺伝子情報を制御する仕組み
6	令和3年6月25日	センター長 許俊鋭 HAIC 研究開発ユニット長 金井信雄 東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合 理事 芝崎太	クラスター抑制を目的とする共同実証研究について
7	令和3年8月19日	社会参加と地域保健研究チーム 社会参加と社会貢献研究 研究副部長 村山洋史	コロナ禍では男性・高齢であるほど社会的孤立に陥りやすく、孤独感に深刻な影響：約3万人への全国調査にて判明
8	令和3年8月24日	老化機構研究チーム システム加齢医学研究 研究部長 井上聡	ホルモン療法が効きにくい乳がんの原因を発見
9	令和3年9月2日	株式会社ヤクルト本社 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター	乳酸菌ラクチカゼイバチルス パラカゼイ シロタ株を含む乳製品の習慣的摂取が高齢者の腸内細菌叢を安定化する可能性
10	令和3年10月11日	株式会社かんぽ生命保険 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 学校法人東京医科大学 NPO 法人全国ラジオ体操連盟	ラジオ体操の健康効果の検証に向けた共同研究開始
11	令和3年10月20日	老化制御研究チーム 分子老化制御研究 研究部長 石神昭人	高齢の慢性腎臓病患者は血中ビタミンC濃度が低く、血液透析によりビタミンCが減少する

12	令和3年10月21日	福祉と生活ケア研究チーム 医療・介護システム研究 研究員 光武誠吾	歯科衛生士の配置や言語聴覚士等の配置の多さは 介護老人保健施設における入所直後の入院を抑制
13	令和3年10月28日	福祉と生活ケア研究チーム 介護・エンドオブライフ研究 研究部長 井藤佳恵	いわゆるごみ屋敷症候群は、一人暮らしの高齢者が、認知症が進行し身体機能が衰えてきたときに適切な支援が得られないことと深く関連する：10年間の追跡調査にて判明
14	令和3年11月18日	社会参加と地域保健研究チーム 研究副部長 村山洋史	「住民同士のつながりが強く、政府信頼が高い都道府県ほど、新型コロナウイルス感染症による死亡率が低い」
15	令和4年1月13日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 藤原佳典 研究員 桜井良太	「三方よし」の高齢期の福祉就労—高齢介護助手の導入は介護スタッフの身体的・精神的負担感の緩和につながる可能性がある—
16	令和4年3月4日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 藤原佳典 研究員 清野諭	高齢期の体組成・体力とその健康影響 —男性では骨格筋量、女性では脂肪量が筋力・歩行能力と独立して余命に影響—
17	令和4年3月11日	高齢者健康増進センター 副院長 原田和昌 循環器内科医師 杉江正光	高齢化日本一の地域におけるフレイル調査から判明した 負のフレイルスパイルの存在
18	令和4年3月16日	福祉と生活ケア研究チーム 研究員 光武誠吾	退院直後のリハは要介護度悪化を抑制するか？
19	令和4年3月18日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 藤原佳典 研究員 藤田幸司	社会的孤立は、全ての世代の健康に悪影響を及ぼす 高齢者の精神的健康維持には対面接触がベスト、非対面接触のみは次善の策

3 老年学・老年医学公開講座等

令和3年度の老年学・老年医学公開講座等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、全てオンライン開催とした。また、病院及び研究所の活動を広く一般に普及させるため、研究内容紹介動画等を制作し、センター公式YouTubeへ公開した。YouTubeチャンネル登録者数は令和3年3月31時点で1万人超えを達成した。

【老年学・老年医学公開講座】

回	テーマ・講演者	日程
158	『コロナ禍でも元気に過ごす～感染を防止し、健康を保つ秘訣とは～』 司会：老年病態研究チーム研究副部長 豊田雅士 <講演> 『新型コロナウイルス感染流行の現況と高齢者が注意すべきこと』 センター長 許俊鋭 『コロナ禍でもできるロコモ・フレイル予防の知恵』 自立促進と精神保健研究チーム研究部長 金憲経	令和3年 9月12日（日）

159	『食べて、祈って、耕して～「食」と「寺院」と「農園」が創る認知症共生社会～』 司会：副所長 栗田主一 ＜講演＞ 『食べてEat:食べて育む生きるチカラ』 自立促進と精神保健研究チーム研究員 枝広あや子 『祈ってPray:寺院が担う共生のカタチ』 自立促進と精神保健研究チーム研究副部長 岡村毅 『耕してFarm:農園で育む人とのキズナ』 自立促進と精神保健研究チーム研究員 宇良千秋	令和3年 12月1日（水）
160	『あなたの息切れは肺の病気でしょうか？高血圧や弁膜症による心不全かもしれません』 ＜講演＞ 『高齢者高血圧に関する最近の話題』 循環器内科部長 石川譲二 『弁膜症からくる息切れは要注意！？～TAVI治療に至るまで～』 循環器内科専門医長 村田哲平 『あなたの息切れは、心不全の症状かも？心不全の息切れは運動と自己管理で改善できる～心臓リハビリテーションとは～』 循環器内科専門医長 小川雅史	令和4年 3月1日（火）

行 週 科 事 間 学 参 技 加 術	講演 『水素医学研究はどこまで進んでいるのか』 老化制御研究チーム研究員 池谷真澄	令和3年4月30日（金）

【病院・研究所動画】

	公開日	出演	動画名
1	令和3年4月12日	生体調節機能研究	ミトコンドリアと水素の世界 生体調節機能研究
2	令和3年7月14日	記憶神経科学研究	記憶神経科学研究
3	令和3年7月30日	緩和ケア内科	緩和ケア病棟のご紹介
4	令和3年9月15日	高齢者がん研究	膵臓がんの早期診断法 高齢者がん研究
5	令和4年2月16日	認知症と精神保健研究	新しい認知症ケア～開発研究を追う～ 認知症と精神保健研究

4 友 の 会

「東京都健康長寿医療センター研究所友の会」は、老化、老年病、高齢者問題の最新成果をお知らせし、民間企業や個人との情報交換や交流、老年学に関する知識の共有および研究所の活動にご支援・ご賛同いただくことを目的とした会員制度。平成14年4月より開始。なお、令和2年4月より「東京都総合老人研究所友の会」から「東京都健康長寿医療センター研究所友の会」へ名称変更した。

1. 活動内容

- ・研究所と会員との交流および会員相互の親睦
- ・研究所の主催する行事への招待
- ・講演会、セミナー等の開催
- ・会員のための情報の提供
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

2. 会員特典

- 1 会員相互の交流の場の提供
- 2 会員向け機関誌の提供
- 3 東京都健康長寿医療センター研究所発行「研究所NEWS」の提供
- 4 研究所が開催する講演会、セミナーに関する情報の提供
- 5 東京都健康長寿医療センター研究所発行の出版物の会員割引（2割引）

3. 年会費

- ・個人会費：年会費 一口3,000円で一口以上
- ・法人会員（団体含む）：一口10,000円で二口以上

4. 会員構成（令和4年3月31日現在）

個人会員：167名

法人会員：5社

5. 友の会交流会

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、無観客開催とした。講演の内容をまとめた動画を作成し、友の会会員へ先行配信をした。

第四部 病院・研究所連携部門

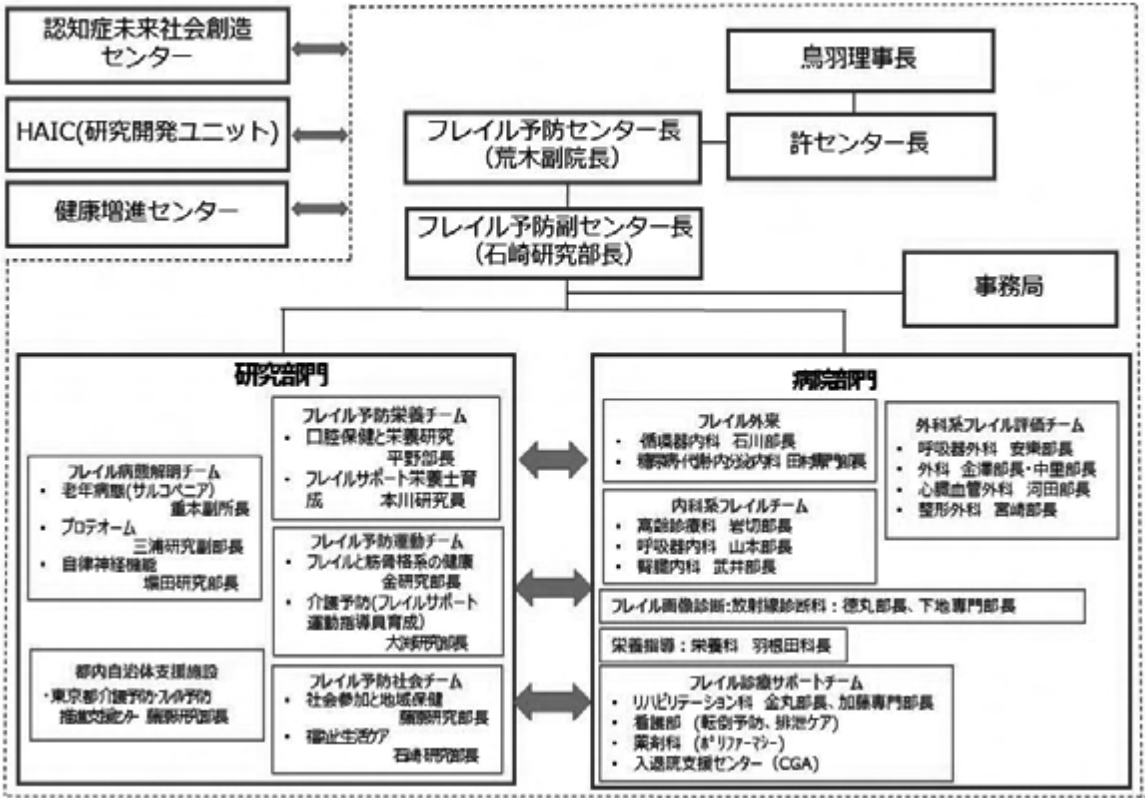
フレイル予防センター

1 施設紹介

センター長：荒木厚
副センター長：石崎達郎
事務局：佐野健二

組織：病院のフレイル外来、外科系フレイル評価チーム、フレイル画像診断や研究所のフレイル予防栄養チーム、フレイル予防社会チーム、フレイル予防運動チーム、フレイル病態解明チームなどからなる。

フレイル予防センター組織図



フレイル予防センターは、医療、介護、福祉が連携し、病院と地域で一体化したフレイル対策を行うことで、高齢者の健康寿命の延伸を図る目的で、令和2年4月に発足した。板橋区医師会、板橋区健康生きがい部、板橋区社会福祉協議会、東京都医師会、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター、日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会、東京都栄養士会、女子栄養大学と連携し、下記の種々の活動を行った。

2 活動概要

- ・フレイルサポート医、フレイルサポート栄養士等の研修会開催や教育資料の作成
- 1) 昨年度の板橋区医師会とのフレイルサポート医研修会に参加した 20 名をフレイルサポート医として認定
- 2) 2021 年 4 月 21 日：第 2 回 板橋区におけるフレイル対策に関する意見交換会を行った。
- 3) 2021 年 7 月 22 日：東京都医師会と東京都におけるフレイルサポート医事業の戦略会議：フレイル健

診の現状、フレイルサポート医研修の内容について討議を行った。

- 4) 2021年8月13日～29日：東京都栄養士会と連携し、e-learningとワークショップをオンラインで行い、フレイルサポート栄養士を73名認定した。
- 5) 2021年12月21日：フレイルサポート医に関する松本市民病院のスタッフの見学
- 6) 2021年12月24日、1月25日：看護師フレイル予防セミナーを開催した。
- 7) 2021年12月～2022年3月当センター医師が中心となり、「フレイルサポート医のための疾患治療マニュアル」を執筆し、日本老年医学会に査読を依頼し、来年度に出版予定である。

・研究所と病院の連携や院内でのフレイル対策

- 1) 2021年6月18日：病院と研究所でフレイル研究に係る意見交換会を行った。
- 2) 2021年6月18日、6月22日、7月1日：院内フレイル研修会を開催した。
- 3) 2021年12月15日：病院・研究所のネットワーク研究発表会を開催し、それぞれ2名が発表し、活発な討論が行われた。
- 4) 入院中のフレイル対応食を開始した。
 - ・フレイル外来：医師5～6名、臨床心理士2名の体制で週5日の外来で生活習慣病の外来患者や術前後の患者、および入院患者のフレイルを含めた高齢者総合機能評価を行い、1年間で838名の患者のフレイル評価を行った。高齢者診療科外来からの紹介患者も増加している。
 - ・英文誌にフレイル関連の論文が8編掲載された。

4 業績

1. ★Toyoshima K, Seino S, Tamura Y, Ishikawa J, Chiba Y, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinkai S, Kitamura A, Araki A. Difference between “Physical Fitness Age” Based on Physical Function and Chronological Age Is Associated with Obesity, Hyperglycemia, Depressive Symptoms, and Low Serum Albumin. *J Nutr Health Aging* 2022 (in press).
2. ★Oba K, Tamura Y, Ishikawa J, Suzuki H, Fujiwara Y, Tachibana A, Kodera R, Toyoshima K, Chiba Y, Araki A. Dynapenic abdominal obesity is associated with mild cognitive impairment in patients with cardiometabolic disease: a cross-sectional study. *BMC Geriatr.* 2022;22(1):255.
3. ◎Omura T, ★Araki A. Skeletal muscle as a treatment target for older adults with diabetes mellitus: The importance of a multimodal intervention based on functional category. *Geriatr Gerontol Int* 22(2):110-120, 2022.
4. ★Tamura Y, Shimoji K, Ishikawa J, Matsuo Y, Watanabe S, Takahashi H, Zen S, Tachibana A, Omura T, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Tokumaru AM, Araki A. Subclinical atherosclerosis, vascular risk factors, and white matter alterations in diffusion tensor imaging findings of older adults with cardiometabolic diseases. *Front Aging Neurosci* 13:712385, 2021.
5. ★Ishikawa J, Seino S, Kitamura A, Toba A, Toyoshima K, Tamura Y, Watanabe Y, Fujiwara Y, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Araki A, Harada K. The relationship between blood pressure and cognitive function. *Int J Cardiol Cardiovasc Risk Prev* 10: 200104, 2021.
6. ★Tamura Y, Shimoji K, Tachibana A, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Ishikawa J, Tokumaru AM, Araki A. Associations between sarcopenia and white matter alterations in older adults with diabetes mellitus: A diffusion tensor imaging study. *J Diabetes Investig* 12(4):633-640, 2021.
7. ◎Omura T, Tamura Y, Sakurai T, Umegaki H, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, ★Araki A; the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Functional categories based on cognition and activities of daily living predicts all-cause mortality in older adults with diabetes mellitus: The Japanese Elderly Diabetes Intervention. *Geriatr Gerontol Int* 21(6):512-518, 2021.
8. ◎Omura T, Ito H, ★Araki A. Which is a better predictor for adverse events in older adults with diabetes, frailty or higher-level functional incapacity? *Geriatr Gerontol*

Int 21(6):541-542, 2021.

講演

1. 荒木 厚：中年期から取り組むフレイル予防～元気でいきいき暮らすための生活習慣管理. 令和3年度年度 健康づくり事業推進指導者育成研修. web 配信. 東京都福祉保健財団主催、10月1日, 2021.
2. 荒木 厚：いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養方法～フレイル（虚弱）の対策を立てよう. Web 配信, 令和3年度区西北部合同糖尿病区民公開講座. 11月1日～11月30日, 2021.
3. 荒木 厚：いつまでも自立した生活を送るための糖尿病の療養のこつ～フレイル（虚弱）対策の重要性. 区中央部糖尿病医療連携検討会主催 市民講座. Web 開催, 2月5日, 2022.
4. 荒木 厚：地域連携によるフレイル予防. 在宅医療ネットワークの会. 板橋区, Web 開催, 2月18日, 2022.

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
 二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

認知症未来社会創造センター

1 施設紹介

センター長：栗田主一

副センター長：金井信雄、岩田淳、石井賢二、藤原佳典、古田光、井藤佳恵

事務局：佐野健二、小俣恵巳、合田昌司

これまで培った膨大な臨床・研究データを活用し、AI など先端技術も取り入れた認知症の共生と予防の取組を推進するため、令和2年4月「認知症未来社会創造センター」を設置した。認知症未来社会創造センターでは主に以下の取り組みを行う。

1) オープン・データベース

- ・ 未来に向けた認知症研究の基盤を確立するために、東京都健康長寿医療センターが保有するビッグデータのデータベースやバイオバンクを構築し、認知症研究のプラットフォームと確立する。
- ・ 構築したデータベースやバイオバンクは、大学・研究機関、企業等に開示することで、新たな診断手法の開発、創薬および新規治療の開発につなげる。

2) メディカルゲノム／バイオマーカー

- ・ 血液等を用いた、低コスト・低侵襲のバイオマーカーを開発し、実用化することによって、地域医療の場での質の高い認知症診断を支援する。
- ・ 新たなバイオマーカーの開発研究を通して、さまざまな認知症疾患の病態解明を促進し、新たな診断手法の開発、創薬および新規治療の開発につながる基礎的なデータを集積する。

3) AI 診断システム

- ・ 東京都健康長寿医療センターが保有するMRI 神経画像等の既存データを用いてAI 画像診断支援システムを構築し、これを広く普及することによって、地域医療の場での質の高い認知症診断を支援する。
- ・ AI 会話システム（チャットボット）を開発し、地域社会に実装することによって、地域レベルでの認知症の気づきや早期支援を促進する。

4) コホート研究統合活用

- ・ 地域コホートから得られたデータを統合的に活用できる体制を確立し、高齢者の生活習慣や身体的・精神的・社会的特徴・要因が、将来の認知機能の低下、生活機能の低下、認知症の発症、認知症と診断された後の生活の質（QOL）や生活の継続に及ぼす影響を明らかにする。
- ・ これに基づいてリスクチャートの作成とリスク低減に向けた総合的なプログラムの開発を行い、自治体の公的事業、民間企業、関係諸機関と連携して都内全域への普及を図る。

5) 認知症疾患医療センター

- ・ もの忘れ外来受診者のデータベースを構築し、認知症の共生と予防に資する臨床研究の基盤を構築する。

6) 認知症支援推進センター

- ・ 認知症未来社会創造センターの知見を認知症支援に関わる都内の専門職へ普及するための研修体制の基盤を構築する。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

日本医師会、東京都医師会、日本看護協会、全国老人福祉施設協議会、日本認知症グループホーム協会、国立長寿医療研究センター、女子栄養大学、全国老人保健施設協会、日本認知症本人ワーキンググループ、日本老年医学会、慶應大学医学部

3 活動概要

- ・ 「TOKYO 健康長寿データベース」の基盤整備および過去データの格納、前向きデータの収集を進めている。令和3年度はオンプレ環境の整備を完了し、クラウド環境の整備を着手している。過去データに関して

は統合コホートデータを格納し、前向き研究のデータ収集を開始した。

- ・認知症バイオマーカー開発では測定システムの構築に着手し、動物等を用いた検証を開始している。また、既存の生体試料や前向きに収集される生体試料を用いたバイオマーカー開発に関しても、産学連携で進めていけるよう整備を進めている。
- ・メディカルゲノムセンター事業では、TOKYO メディカルバイオバンク研究を立案し、前向き研究として予定登録症例数 3,000 例を設定し、共通の研究用情報の取得、研究用として利活用が可能な生体試料の品質管理および保存の基盤整備を進めた。本年度より症例の集積を開始しており、今後解析を進めていく。さらに当センター過去生体試料（ブレインバンク・バイオリソース）等の管理においても集約化した統合バイオバンクの整備を進めていく。また、各種新規企業との共同研究を一層進めていく。
- ・AI による認知症診断支援システムでは、東京大学松尾研究室との共同研究にて、脳微小出血が判定できる AI システムのプロトタイプの実証が完了している。
- ・AI チャットボットのプロトタイプの実証を実施した。今後、音声認識の精度向上のための機械学習を継続しトライアルを実施する。
- ・地域コホート研究では、過去データの横断データセットを完成させ、認知機能低下の関連要因を明らかにした。縦断データセット作成が完了し、現在解析中である。
- ・日本語版及び英語版のリーフレットを更新
- ・ホームページ更新
- ・3.0T MRI 導入（令和 3 年 7 月納入）

4 業績

認知症未来社会創造センター運営会議 11 回

認知症未来社会創造センターステアリングコミッティ 8 回

センター紹介リーフレット（日本語・英語）更新

論文 24 件

学会発表 59 件

誌上発表 22 件

著書 1 件

講演 3 件

健康長寿イノベーションセンター

1 施設紹介

高齢者医療・研究を拠点とした特色を生かし、数多くのイノベーションを創出、健康長寿社会の実現に貢献するため、2018年8月に健康長寿イノベーションセンター(Healthy Aging Innovation Center: HAIC)を創設した。研究開発ユニットは、研究推進部門、産学連携・知財部門、健康データ科学研究室の2部門1研究室の構成となる。

また、健康データ科学研究室では、多様化・多次元化する医療・医学・健康科学分野の研究目的に応じた測定手法、測定から蓄積されたデータを科学的に分析する方法論について研究を実施している。

センター長：原田和昌（副院長兼務）

副センター長：栗田主一（副所長兼務）

■研究開発ユニット長：金井信雄

リサーチアドミニストレーター：長井慈

顧問：芝崎太（非常勤）

■産学連携・知財部門

福島成人（兼務）、山口聖司（兼務）、深谷太郎、吉川万美（業務委託）

協力研究員：木ノ内万里子

■健康データ科学研究室

室長：田中紀子

非常勤研究員：中村優一、井手圭吾、木村哲也

特別研究員（PD）：山崎茉莉亜

協力研究員：三重野牧子、竹内文乃

■研究推進部門

<事務局>

吉岡まみ（薬剤科兼務）、宮本俊一（薬剤科兼務）、長谷川菜生美（兼務）、伊藤理子（兼務）、廣瀬典子（非常勤）、工藤友美（非常勤）、八代嘉美（非常勤）

<CRC>

遠藤洋美、大島優江、権守寿一（非常勤）、野田香苗（非常勤）、村上直子（非常勤）

■事務ユニット長：高橋大輔（経営企画課長兼務）

■事務ユニット

足立真弓、福島成人、佐野健二、木村俊晴、鶴間賢太、岡田佳生、谷正隆、三木明子、萩原麻貴、長谷川菜生美、小俣恵巳、伊藤理子、吉田理沙、須永智奈都、宮下秋一、中村光佑、合田昌司、山口聖司（シニア）、近澤輝人（非常勤）、小暮幸治（非常勤）、三森弓恵（非常勤）、赤川多美子（非常勤）、田中美絵（非常勤）、東美幸（非常勤）、山田瑠香（非常勤）

<研究活動の推進に向けた取組>

研究活動の推進に向けて、研究関係諸会議（研究推進会議、研究所幹部会議、研究審査委員会、外部評価委員会、研究不正防止委員会、研究部門倫理委員会、研究員等選考委員会等）を運営するとともに、協力研究員・研究生・連携大学院生、特別研究委員（PD）の受入や、平成27年度に構築した研究費不正使用防止対策のもと、研究費の受入・執行（契約・検査を含む。）等に係る諸手続きを行った。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、東京都医学総合研究所、東京都産業技術研究センター、東京都立大学、大阪大学、神奈川県立保健福祉大学、早稲田大学、東京医科歯科大学、慶応大学など

3 活動概要

1. 知的財産に関する相談窓口（ライセンス契約含む）
2. 共同・受託研究、学術指導等に関する相談窓口
3. 再生医療、先端医療、IoT×AI、医療機器などに関する研究
4. 以降連携窓口（東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合：TOBIRA、東京都医工連携 HUB 機構）
5. トランスレーショナル・リサーチ課題研究助成金の配布及び執行管理
6. 新規医療研究開発に関する相談
7. 臨床試験の立案、文書作成、体制構築、マネジメント等の相談および支援

4 業績

<産学連携・知財部門>

1. 特許等状況
特許：17 件（単独出願 12、共同出願 5）
2. 職務発明審査会：11 回開催（うち書面開催 2 回）
3. 利益相反管理委員会：2 回開催
4. 契約等：包括連携協定等：2 件、秘密保持契約：11 件、成果有体物提供契約：15 件、覚書：4 件、技術供与契約：1 件、名称及び氏名使用許諾契約：1 件
5. ワンストップ支援窓口における相談対応件数：139 件

<研究推進部門>

研究倫理から病院倫理まで倫理審査の事務局を一括で管理し、あらゆる倫理審査に対応した。特に研究倫理は研究部門の申請も一部対応したことや、外部からの審査依頼に対応したため審査件数は増加した。

一方、特定臨床研究は当センターで実施する研究が増え、CRC がサポートする案件が増加した、CRC がサポートすることで研究が適切に実施され、研究の質の確保につながっている。この他、倫理審査前の研究相談については、プロトコルや同意説明文書の作成支援から、データマネジメントまで対応した。院内でモニタリングを行った。次年度以降も、モニタリングや監査の相談を受け付け、適切なアドバイスができるよう支援するとともに、データマネジメントも強化して、より適切に研究が実施されるよう研究者の教育活動を強化した。

1. 治験・特定臨床研究の進捗状況（添付資料 1）、及び製造販売後調査実施状況
 - 1) 企業主導治験の進捗状況：18 試験
内訳 組入進行中：11 試験、組入終了：3 試験、終了：4 試験
 - 2) 医師主導治験：1 試験
内訳 組入進行中：0 試験、組入終了：1 試験
 - 3) 製造販売後調査：31 件（実施中のみ）
 - 4) 特定臨床研究：4 試験
内訳 組入進行中：3 試験、組入終了：1 試験
 - 5) 共同研究：0 件
2. 各種委員会審査実績
 - 1) 治験審査委員会 審査件数：207 件（緊急審査 0 件） 報告件数：84 件
 - 2) 認定臨床研究審査委員会 審査件数：29 件 報告件数：8 件
内訳 当センター：10 件、小児：18 件、多摩総合：5 件、墨東：1 件、駒込：1 件、東北大学：2 件
 - 3) 研究倫理審査委員会 申請件数：454 試験 審査件数：208 件 報告件数：91 件
内訳 病院部門 申請件数：138 試験 審査件数：47 件 報告件数：91 件
研究部門 申請件数：316 試験 審査件数：161 件 報告件数：155 件
 - 4) 未承認新規医薬品等評価委員会 審査件数：18 件
 - 5) 高難度新規医療技術評価委員会 審査件数：3 件
3. 治験・製造販売後調査請求金額及び認定臨床研究審査委員会審査手数料請求金額

- 1) 治験・製造販売後調査請求金額 156,973,246 円
- 2) 認定臨床研究審査委員会審査手数料請求金額 1,498,000 円 (内部 420,000 円、外部 1,078,000 円)
- 3) 研究費 2,858,500 円 (AMED : JTRC)
- 4) 共同研究 4,500,000 円

4. 令和3年度 研究倫理研修開催実績及び出席者数

研究倫理研修開催状況

第1回 参加者 49 人 令和3年6月23日 浅野健人

「研究計画書の作成、記載方法について (基礎編)」

第2回 参加者 54 人 令和3年7月16日 渡邊達也

新指針「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に関する最新の動向と研究倫理 (基礎編)

臨床研究セミナー

今年度は実施せず

5. 臨床研究支援状況

- 1) CRC 支援 (被験者対応、症例報告書記載、データ入力等) : 14 試験
内訳 製造販売後調査 : 3 試験 (6 例)、臨床研究 : 11 試験 (126 例)
- 2) モニタリング支援 : 2 試験
- 3) 研究相談 : 45 試験
内訳 病院部門 : 11 件、研究所部門 : 34 件
- 4) 看護研究相談 5 試験
- 5) 研究開発支援 : 8 試験 (内、特定臨床研究 0 試験)

論文・学会発表

1 学会発表

(1) 学会発表 (国際)

なし

(2) 学会発表 (国内)

1. 上野 悟, 金井 信雄, 栗田 圭一

疾患横断的にデータ利活用を可能にする国際標準を用いた研究基盤の構築

第80回日本公衆衛生学会総会 2021.12.21-23

2. 金井 信雄, 「間葉系幹細胞・体幹細胞4」, 第21回日本再生医療学会総会, 一般口演, 座長, オンライン開催, 2022.3.19

3. 深谷 太郎, 岡本 翔平, 菅原 育子, 小林 江里香

友人関係の満足度に電子メール利用が与える影響～全国調査データを用いて～、日本老年社会学会第63回大会、Web開催、2021.6.12-27

4. 小林 江里香, 岡本 翔平, 菅原 育子, 深谷 太郎

子ども・孫への経済的・非経済的支援の提供と趣味・学習活動とのコンフリクト: well-beingとの関連による検討、日本老年社会学会第63回大会、Web開催、2021.6.12-27

5. 藤原 佳典, 長谷部 雅美, 根本 裕太, 村山 陽, 西 真理子, 成田 美紀, 箕浦 明, 松永 博子, 深谷 太郎, 小林 江里香

首都圏郊外における近所の子どものとの交流の状況と関連要因: 世代別にみた検討、日本老年社会学会第63回大会、Web開催、2021.6.12-27

6. 深谷 太郎, 小林 江里香, 西 真理子, 齊藤 雅茂, 藤原 佳典

独居高齢者の対面・非対面接触が孤立感に与える影響の予備的分析、第80回日本公衆衛生学会総会、東京、2021.12.21-23

2 誌上発表

(1) 原著

1. Akihiro Fujino, Yasushi Fuchimoto, Yoshiyuki Baba, Nobutaka Isogawa, Takanori Iwata, Katsuhiro Arai, Makoto Abe, Nobuo Kanai, Ryo Takagi, Masanori Maeda, Akihiro Umezawa. First-in-human autologous oral mucosal epithelial sheet transplantation to prevent anastomotic re-stenosis in congenital esophageal atresia. Stem cell research & therapy 13(1) 35-35 2022 ※Impact Factor 7.153

2. Erika Kobayashi, Ikuko Sugawara, Taro Fukaya, Shohei Okamoto, Jersey Liang

Retirement and Social Activities in Japan: Does Age Moderate the Association?, Research on Aging, 2021.4.13 (原著、査読あり) (IF:2.585、2021)

3. 藤原 佳典, 長谷部 雅美, 根本 裕太, 村山 陽, 西 真理子, 成田 美紀, 箕浦 明, 松永 博子, 深谷 太郎, 小林 江里香

【HAIC 研究開発ユニット（研究推進）】

1 学会発表

(1) 学会発表(国際)

1. Yoshimi Yashiro, Study of the development of ECO-SYSTEM to accelerate the spread of Regenerative Medicine. ISSCR 2021 Annual meeting virtual, 2021.6.21-26、オンライン開催
2. Yoshimi Yashiro, Considering The Gap Between Scientists and The General Public's Perception of Regenerative Medicine, ISSCR/JSRM 2021 Tokyo International Symposium, 2021.10.28、オンライン開催

(2) 学会発表(国内)

1. 宮本俊一、上野悟、吉岡まみ, データウェアハウス (DWH) から抽出したスコアリング情報の利用、第42回臨床薬理学会学術総会、2021.12.9-11
2. 八代嘉美, 日本再生医療学会が倫理的・法的・社会的課題において果たしてきた役割、第21回日本再生医療学会総会 2022.3.19
3. 八代嘉美, 再生医療ナショナルコンソーシアムの社会学連携活動、第21回日本再生医療学会総会 2022.3.19

2 誌上発表

(1) 原著

1. 渡部沙織, 武藤香織, 八代嘉美、希少難治性疾患と再生医療の ELSI (倫理的法的社会的課題) ~ISSCR ガイドラインを手がかりに、再生医療 再生医療 21(1) 52-59 2022 年 1 月 (査読付)
2. 由井秀樹, 武藤香織, 八代嘉美, 渡部沙織, 木矢幸孝, 神里彩子, 井上悠輔, 山縣然太郎. 国際幹細胞学会 (ISSCR) 2021 年版ガイドラインにおける実験室で行うヒト幹細胞、胚関連研究の取扱い—日本の関連指針との比較検討, CBEL Report 4(2) 13-33 2022 年 1 月 (査読付)

【HAIC 健康データ科学研究室】

1 学会発表

(1) 学会発表(国際)

1. Doi K, Sakabe K, Tanaka N, Yoshinaga S, Kai M. A new approach for risk estimation of low dose-rate radiation adjusting the effect of age at exposure: the overview of the approach and its implementation. The 64th Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society. Ibaraki. September, 2021.
2. Sato K, Ide K, Tanaka N. Evaluation of the impact of genetic diversity on PIWI-interacting RNA analysis. The Annual Meeting of the American Society of Human Genetics, Virtual meeting 2021, October 2021
3. 山崎茉莉亜、三重野牧子、新井富生、沢辺元司、田中紀子、LPA, KIV2, serum Lp(a), and the risk for Cancer and Cardiovascular disease related pathologies: A retrospective autopsy study、アメリカ人類遺伝学会、オンライン開催、2021.10.18-10.21
4. Keigo Ide, Yohei Nishikawa, Masato Kogawa, Ryota Wagatsuma, Yuko Tsukada, Masahito Hosokawa, Yoshikatsu Nakano, Shoichiro Suda, Haruko Takeyama, "Single-cell genomics reveals diversity in host adaptation of the symbiotic bacteria *Endozoicomonas* in *Acropora tenuis* coral", Session: Microbial Evolution and Comparative Genomics, 2021 World Microbe Forum, 2021/6/26, Online

(2) 学会発表(国内)

1. 菊池浩明、荒井ひろみ、井口誠、小栗秀暢、黒政敦史、千田浩司、中川裕志、中村優一、西山賢志郎、野島良、波多野卓磨、濱田浩気、古川諒、馬瑞強、前田若菜、村上隆夫、山岡裕司、山田明、渡辺知恵美。
PWS Cup 2021 - 糖尿病罹患リスクを予測するヘルスケアデータの匿名化コンテスト、情報処理学会 Computer Security Symposium 2021, Vol.2021、オンライン開催、2021.10.29.
2. 山崎茉莉亜、三重野牧子、新井富生、沢辺元司、田中紀子、がん及び循環器疾患と血中Lp(a)濃度、LPA遺伝子との統合的な関連の探索、第32回日本疫学会学術総会、オンライン開催、2022.1.26-1.28
3. 田中紀子、三重野牧子。潜在アウトカムの誤分類が及ぼすオッズ比の推定値への影響。日本疫学会、オンライン、2022年1月
4. 三重野牧子、八木澤隆、湯沢賢治、西慎一。マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究 生体腎移植マージナルドナー安全性検証。第54回日本臨床腎移植学会、オンライン、2021年2月17日～19日。
5. 三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、大金美和、岡慎一、岡本学、湯永博之、福武勝幸、日笠聡、八橋弘、白阪琢磨。血液製剤によるHIV感染者の調査成績(第3報) 悩みやストレスの状況。
第35回日本エイズ学会学術集会・総会 (ワークショップ「薬害」)、東京、2021年11月21日～23日。

2 誌上発表

(1) 原著

1. Nakamura Y, Nishi H. Digital Watermarking for Anonymized Data With Low Information Loss, in IEEE Access, vol. 9, pp. 130570-130585, 2021, doi: 10.1109/ACCESS.2021.3110984. (査読有り: IF:3.367)
2. Aizawa M, Utano K, Nemoto D, Isohata N, Endo S, Tanaka N, Hewett DG, Togashi K. Risk for Delayed Hemorrhage after Cold Snare Polypectomy in Patients with Antithrombotic Therapy. Digestive Diseases and Sciences. 2021. (In

- Press) (査読有り : IF : 2.937)
3. Matsubara T, Kameyama M, Tanaka N, Sengoku R, Orita M, Furuta K, Iwata H, Arai T, Maruyama H, Saito Y, Murayama S. Autopsy validation of the diagnostic accuracy of 123I-meta-iodobenzyl-guanidine myocardial scintigraphy for Lewy body disease. *Neurology*. 2022. (In Press) (査読有り : IF : 9.91)
 4. Sanno, R., Kataoka, K., Hayakawa, S., Ide, K., Nguyen, C. N., Nguyen, T. P., Le, B. T. N., Kim, O. T. P., Mineta, K., Takeyama, H., Takeda, M., Sato, T., Suzuki, T., Yura, K. & Asahi, T. (2021). Comparative Analysis of Mitochondrial Genomes in Gryllidea (Insecta: Orthoptera): Implications for Adaptive Evolution in Ant-loving Crickets. *Genome Biology and Evolution*, 13 (10), evab222-. (査読あり、IF=3.416)
 5. Arikawa, K., Ide, K., Kogawa, M., Saeki, T., Yoda, T., Endoh, T., Matsushashi, A., Takeyama, H. & Hosokawa, M. (2021). Recovery of strain-resolved genomes from human microbiome through an integration framework of single-cell genomics and metagenomics. *Microbiome*, 9 (1), 202. (査読あり、IF= 14.65)
 6. Hayase T, Mieno M, Kobayashi K, Mori N, Lebowitz AJ, Kato Y, Saito Y, Yuza Y, Sano H, Osone S, Hori T, Shinkoda Y, Yamamoto N, Hasegawa D, Yano M, Ashiarai M, Hasegawa D, Sawada A, Yamaguchi T, Morimoto A, Fukushima K. Reliability and Validity of the Japanese Pediatric Version of Memorial Symptom Assessment Scale. *J Pain Symptom Manage* 2022 Jan 11;S0885-3924(21)00706-5 (査読有り : IF : 3.249)
 7. Nishi S, Goto S, Mieno M, Yagisawa T, Yuzawa K. The Modified Chronic Kidney Disease Epidemiology Collaboration Equation for the Estimated Glomerular Filtration Rate is Better Associated with Comorbidities than Other Equations in Living Kidney Donors in Japan. *Intern Medicine*. 2021 Sep 1;60(17):2757-2764. (査読有り : IF : 1.271)
 8. Kanda N, Okamoto K, Okumura H, Mieno M, Sakashita K, Sasahara T, Hatakeyama S. Outcomes associated with treatment change from tenofovir disoproxil fumarate to tenofovir alafenamide in HIV-1-infected patients: a real-world study in Japan. *HIV Medicine* 2021 Jul;22(6):457-466 (査読有り : IF : 3.1850)
 9. Ishibashi Y, Harada S, Takeuchi A, Iida M, Kurihara A, Kato S, Kuwabara K, Hirata A, Shibuki T, Okamura T, Sugiyama D, Sato A, Amano K, Hirayama A, Sugimoto M, Soga T, Tomita M, Takebayashi T. Reliability of urinary charged metabolite concentrations in a large-scale cohort study using capillary electrophoresis-mass spectrometry. *Scientific Reports*. 2021.11:7407. (査読有り : IF : 4.379)
 10. Hasunuma H, Takeuchi A, Ono R, Amimoto Y, Hwang HY, Uno I, Shimizu A, Nishiwaki Y, Hashizume M, Askew DJ, Odajima H. Effect of Asian dust on respiratory symptoms among children with and without asthma, and their sensitivity. *Science of The Total Environment*. 2021.753. (査読有り : IF : 7.963)
 11. Sata M, Okamura T, Harada S, Sugiyama D, Kuwabara K, Hirata A, Takeuchi A, Iida M, Kato S, Matsumoto M, Kurihara A, Takebayashi T. Association of the Estimated Coronary Artery Incidence Risk According to the Japan Atherosclerosis Society Guidelines 2017 with Cardio-Ankle Vascular Index. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 2021. E-pub ahead of print. (査読有り : IF : 3.70)
 12. Nakano M, Shinagawa T, Eitaki Y, Omae K, Takeuchi A, Iwasawa S, Fukai K, Yoshioka N, Tanaka S, Koda S, Sobue T, Takebayashi T. Risk of bladder cancer in male Japanese workers exposed to ortho-toluidine and other aromatic amines. *International Archives of Occupational and Environmental Health*. 2021. (査読有り : IF : 3.015)
 13. Takebayashi T, Taguri M, Odajima H, Hasegawa S, Asakura K, Milojevic A, Takeuchi A, Konno S, Morikawa M, Tsukahara T, Ueda K, Mukai Y, Minami M, Nishiwaki Y, Yoshimura T, Nishimura M, Nitta H. Exposure to PM2.5 and lung function growth in pre- and early adolescent schoolchildren. *Annals of the American Thoracic Society*. 2021. In Press. (査読有り : IF : 6.831)
 14. Tatsuta N, Nakai N, Nakayama SF, Takeuchi A, Arima T, Yaegashi N, Kamijima M. Effects of maternal exposure to lead on secondary sex ratio in Japan: The Japan Environment and Children's Study Journal: *Science of the Total Environment*. 2021. Accepted. (査読有り : IF : 7.963)
 15. Takeuchi A, Yokota S, Tomotaki A, Fukahori H, Shimpuku Y, Yoshinaga N. Relationship between research activities and individual factors among Japanese nursing researchers during the COVID-19 pandemic. *PLOS ONE*. Accepted. (査読あり : IF : 3.240)
 16. Minako Matsumoto, Sei Harada, Miho Iida, Suzuka Kato, Mizuki Sata, Aya Hirata, Kazuyo Kuwabara, Ayano Takeuchi, Daisuke Sugiyama, Tomonori Okamura, Toru Takebayashi
Validity Assessment of Self-reported Medication Use for Hypertension, Diabetes, and Dyslipidemia in a Pharmacoepidemiologic Study by Comparison With Health Insurance Claims. *Journal of epidemiology* 31(9) 495-502 (査読有り : IF : 3.211)

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

第五部 補助金等

研究補助金・助成金等受入状況

1 受託研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化制御研究チーム	脳梗塞tPA療法での水素ガス吸入による予後改善効果検証	地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所
2		社会参加と地域保健研究チーム	現役勤労者による地域包括ケアシステム推進に関する研究	公益財団法人さわやか福祉財団
3			板橋区シニアの絵本読み聞かせ事業研究委託	東京都板橋区
4			コロナ禍における自立相談支援機関の課題と展望に関する調査研究：援助要請の観点から	一般財団法人 全国勤労者福祉・共済振興協会
5			おおたフレイル予防事業	大田区
6			現役勤労者による地域包括ケアシステム推進に関する社会実装型研究	公益財団法人さわやか福祉財団
7			高齢者のための絵本読み聞かせ講座による認知症予防研究事業業務委託	八王子市
8			介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（豊島区高齢者における介護予防の取り組みの効果検証）業務委託	豊島区
9			シニア向けマンション入居者の社会関係が心身の健康状態に及ぼす影響	株式会社コスモスイニシア
10			MCI/認知症対応型趣味教室の開発	株式会社オールアバウト
11		自立促進と精神保健研究チーム	令和3年度 介護予防把握事業	千代田区
12			認知症支援サービス推進調査業務	千代田区
13			乳製品の認知機能に及ぼす影響についての調査研究	学校法人桜美林学園

2 共同研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化制御研究チーム	ヒト表皮三次元培養モデルを用いたビタミンCによるエピジェネティクス変化	ロート製薬株式会社
2		老化脳神経科学研究チーム	加齢性疾患における老化促進分子の病的意義の解明	学校法人順天堂
3			人參養榮湯の脳血流増加機序の解明	ツムラ株式会社 ツムラ漢方研究所

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
4	研究部門	老化脳神経科学研究チーム	神経筋接合部の老化変性を抑制する食素材の研究	一般財団法人糧食研究会/明治ホールディングス株式会社 価値共創センター
5		神経画像研究チーム	18F-flutemetamolを用いた脳PET検査における診断補助法の開発	日本メジフィジックス株式会社
6			アミロイドPET視覚読影支援技術の開発	㈱Splink
7		社会参加と地域保健研究チーム	地域在宅高齢者における犬または猫の飼育経験が健康余命に及ぼす影響	一般社団法人ペットフード協会
8			鳩山町健康長寿のまちづくり共同研究事業	鳩山町
9			地域における「高齢期のフレイルを予防する社会システム（大都市モデル）の開発」と職域における「健康保持・増進施策」の橋渡しモデルの構築に係るICTシステムの構築	都築電気株式会社
10			渋谷区高齢者における介護予防の取組効果の検証に関する研究	渋谷区
11			乳酸菌飲料摂取と健康に関する疫学調査	株式会社ヤクルト本社中央研究所
12			眼球運動に基づく認知機能評価法の研究開発	大日本印刷株式会社
13		自立促進と精神保健研究チーム	ラジオ体操を活用したフレイル対策の科学的根拠の創出と社会実装	(3者) 株式会社かんぽ生命/NPO法人全国ラジオ体操連盟/学校法人東京医科大学
14			ラジオ体操習慣者の健康状態を明らかにする包括的実態調査	株式会社かんぽ生命保険
15			地域在住高齢者を対象とした栄養摂取状況とオーラルフレイルに関する研究	森永乳業株式会社
16			地域在住高齢者を対象とした栄養摂取状況とバイオマーカーに関する研究	森永乳業株式会社
17		福祉と生活ケア研究チーム	膝痛予防のための歩行改善プログラムのリスク判定ロジックの検証	株式会社ブリヂストン

3 奨学寄附

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化機構研究チーム	男性および女性がんの治療抵抗性メカニズムの解明とその診断・治療への応用	第一三共株式会社
2			男性・女性ホルモン作用の骨粗鬆症・ロコモティブ症候群における役割の解明とその応用	帝人ファーマ株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
3	研究部門	老化制御研究チーム	分子老化制御に関する研究「悪性腫瘍のエピゲノムに対する加熱式たばこの影響」	日本たばこ産業株式会社
4		老化制御研究チーム	分子老化制御に関する研究	ハウスウェルネスフーズ株式会社
5			分子状水素の機能性に関する研究	株式会社伊藤園 中央研究所
6		老化脳神経科学研究チーム	自律神経機能に関する研究「大脳新皮質・海馬・嗅球の局所血流に対する加熱式たばこの影響」	日本たばこ産業株式会社
7		老年病理学研究チーム	膵癌細胞の形態的、機能的多様性と可変性の解析	第一三共株式会社
8			膵臓がん細胞の老化誘導剤および老化細胞死誘導薬の探索	協和キリン株式会社
1	病院部門	膠原病・リウマチ科	リウマチ性多発筋痛症の身体機能評価としてのBarthel Indexの有用性	旭化成ファーマ株式会社
2		腎臓内科	高齢CKDとフレイルの臨床的検証	中外製薬株式会社
3		血液透析科	高齢透析患者におけるビタミン動態	中外製薬株式会社
4		糖尿病・代謝・内分泌内科	縦断研究における高齢糖尿病患者における血中GDF15値とサルコペニアや認知機能低下との関連について研究	日本ベーリンガーインゲルヘルム株式会社
5		呼吸器内科	内科全体で診療する肺炎患者の予後解析(適正なTBNA針洗浄回数に関する研究)	一般社団法人日本内科学会
6		脳神経内科	視神経脊髄炎患者の認知機能と運動機能予後についての検討	中外製薬株式会社
7			アルツハイマ病の血液バイオマーカーの探索的研究	塩野義製薬株式会社
8			前臨床期アルツハイマ ー病で使用する認知機能検査の開発	協和キリン株式会社
9			末梢血におけるneuron derive extracellular vesicleを用いたアルツハイマ病のバイオマーカー研究	第一三共株式会社
10			超高齢者脳卒中患者のSCU管理中のせん妄予防	田辺三菱製薬株式会社
11			「超早期アルツハイマ病診断のための認知機能検査の標準化」	エーザイ株式会社
12		血液内科	高齢者血液悪性疾患に対する臍帯血ミニ移植の確立	中外製薬株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
13	病院部門	血液内科	高齢者血液疾患に対する臍帯血ミニ移植の安全性の確立	旭化成ファーマ株式会社
14			高齢者血液疾患に対する同種造血幹細胞移植の安全性の確立	大日本住友製薬株式会社
15		輸血・細胞療法科	高齢者ハプロ移植の拡大に向けての至適前処置の工夫と成績向上に関する研究	中外製薬株式会社
16		心臓血管外科	心臓血管外科に関する研究	松本 洋一郎
17		整形・脊椎外科	PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	ネクスメッドインターナショナル株式会社
18			PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	日本リマ株式会社
19			PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	帝人ファーマ株式会社
20			「骨代謝における骨細胞ミトコンドリアの機能解析」に関する研究	スミス・アント・ニュー株式会社
21			「人工股関節カップの超高齢者変性臼蓋への初期設置安定性の検討」に関する研究	スミス・アント・ニュー株式会社
22		皮膚科	高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的解析	鳥居薬品株式会社
23		泌尿器科	高齢者前立腺肥大症における外科学的治療効果の検討	日本新薬株式会社 東京支店
24			高齢者の結石性急性腎盂腎炎に関する研究	中外製薬株式会社
25			高齢者の結石性急性腎盂腎炎に関する研究	塩野義製薬株式会社
26			高齢者BPH外科的治療効果の検討	あすか製薬株式会社
27			排尿障害の研究	杏林製薬株式会社
28		眼科	眼科研究 臨床と基礎	HOYA株式会社
29			眼科研究 臨床と基礎	千寿製薬株式会社
30			眼科研究 臨床と基礎	参天製薬株式会社
31		放射線診断科	ドパミントランスポーターSPECTの形態の定量	大塚製薬株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
32	病院部門	放射線診断科	顔で認知症をスクリーニングする安定したAIモデルの開発	塩野義製薬株式会社
33			グリコアルブミンが血糖変動を反映するメカニズムの解明	田辺三菱製薬株式会社
34		化学療法科	高齢者血液疾患症例における分子標的治療の適応に関する研究	全薬工業株式会社
35			高齢者悪性リンパ腫及び骨髄腫症例に対する治療適応に関する研究活動	中外製薬株式会社
36		病理診断科	①下垂体腫瘍切除検体、②剖検下垂体組織、および③ヒトiPS細胞由来下垂体組織を用いた組織標本相互利用のため病理組織学的検討、組織データベース構築研究助成	帝人ファーマ株式会社

4 国庫補助

No.	部門	研究チーム	所管省庁等	研究課題
1	研究部門	社会科学系副所長	厚生労働省	認知症疾患医療センター運営事業の事業評価のあり方に関する調査研究事業
2		自立促進と精神保健研究チーム		居宅系サービス利用者等の口腔の健康状態の維持向上等に関する調査研究事業
3		自立促進と精神保健研究チーム		認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理に関する調査研究事業

5 民間助成金

No.	部門	研究担当者	研究チーム・診療科	助成機関	研究課題
1	研究部門	川上 恭司郎	老化機構研究チーム	公益財団法人 小柳財団	血中エクソソームによる診断を目指した組織特異的エクソソーム精製法の確立
2		今江 理恵子		日本新薬株式会社	筋ジストロフィー症に関わる糖鎖構成因子リビトール-5-リン酸の生合成機構の解明
3		佐藤 薫		公益財団法人 興和生命科学振興財団	新たな認知症の病態生理機構の解明に向けたストレス顆粒構成因子G3BPが制御する生理活性RNA分子の機能解析とその臨床応用
4				公益財団法人 神澤医学研究振興財団	女性ホルモンによる抗酸化ストレス機構の解明と更年期の認知症発症予防への臨床応用
5		内田 さえ	老化脳神経科学研究チーム	公益財団法人 喫煙科学研究財団	嗅神経・三叉神経を介する嗅覚刺激による嗅球応答とニコチン反応性
6		瀧川 健司		公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団	新規GABA蛍光プローブによる自閉症スペクトラム障害の感覚過敏状態メカニズム解析
7		内田 さえ		公益財団法人 三島海雲記念財団	味覚・嗅覚統合中枢のコリン作動性調節機構の解明

No.	部門	研究担当者	研究チーム・診療科	助成機関	研究課題
8	研究部門	石渡 俊行	老年病理学研究チーム	公益財団法人 三井住友海上福祉財団	膵臓がん細胞の老化誘導と老化細胞除去療法の開発
9		横山 友里	社会参加と地域保健研究チーム	公益財団法人 日本中小企業福祉事業財団（略称/日本フルハップ）	高齢期の食事パターンが介護予防・認知症予防に及ぼす影響
10		村山 陽		公益財団法人 電気通信普及財団	単身中高齢者の社会的孤立予防に向けた世代間オンラインコミュニケーションの検討
11		阿部 巧		日本体育測定評価学会	高齢者における交通行動評価の補正方法に関する研究：大規模調査データ活用のための基礎的検討
12		飯塚 あい	社会参加と地域保健研究チーム	公益財団法人 前川ヒトづくり財団	共生的囲碁プログラムの開発：囲碁を通じた生涯学習・互助関係の創出の試み
13		村山 陽		三井住友信託銀行 公益信託グループ	保育現場における多職種・地域連携教育を含めた世代間交流プログラムの検討
14		山下 真里		一般社団法人 日本心理臨床学会	認知症家族介護者の心理的支援：電話を活用した診断前・診断後支援の体系化
15		山下 真里		公益財団法人 ユニバーサル財団	認知症の人とその家族への心理的支援の体系化：電話を活用した受診前・診断後支援手引書の作成
16		桜井 良太		公益財団法人 三菱財団	高齢者が転倒しやすい障害物とは？－形状および色相特性に着目した検討－
17		大須賀 洋祐		公益財団法人 長寿科学振興財団	高齢者の就労現場で簡便に評価可能な労働安全指標の開発
18		大須賀 洋祐		公益財団法人 健康・体力づくり事業財団	シルバー人材センターを拠点とする就業寿命延伸システムの構築と効果検証：予備的ランダム化比較試験
19		笹井 浩行		公益財団法人 明治安田厚生事業団	コロナ禍における都内在住高齢者の運動・栄養・社会参加の変化と認知機能低下の関連-2019~2022年の4時点データを用いた縦断研究-
20		岡村 毅		公益財団法人 明治安田こころの健康財団	超高齢社会における住まい喪失の研究－社会的に脆弱な集団における共生の実現－
21		岩崎 正則		公益財団法人 8020推進財団	透析患者におけるオーラルフレイル：有病率の把握と栄養状態との関連の解明
22		岡村 毅		公益社団法人 三井住友海上福祉財団	若年性認知症をもつ人のための診断後支援のための地域のシステム作り
23		涌井 智子	福祉と生活ケア研究チーム	公益財団法人 三菱財団	認知症介護における睡眠障害の実態把握とICT技術を用いたテラーメイド支援モデルの検討
24		井藤 佳恵		公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団	認知症高齢者のアドバンス・ケア・プランニング
25		菅重 希子		公益財団法人 太陽生命厚生財団	地域で在宅介護を支援する介護家族サポーター養成にかかる課題の精査と評価指標の開発

No.	部門	研究担当者	研究チーム・診療科	助成機関	研究課題
26	研究部門	池内 朋子	福祉と生活ケア研究チーム	公益財団法人 トヨタ財団	社会的孤立高齢者が支援を拒む要因の解明-迷惑をかけてもいい社会をめざして
27		井藤 佳恵		公益財団法人 ファイザーヘルス リサーチ振興財団	死を取り戻す-学際的チームによるデス・エデュケーションの効果に関するパイロットスタディ
28	病院部門	岩田 淳	脳神経内科	アッヴィ合同会社	前臨床期アルツハイマー病で実施可能な認知機能検査の確立

6 受託事業

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
1	研究部門	神経画像研究チーム	豊原 淳	住友重機械工業株式会社	[18F]MK6240及び[18F]NAV4694合成用カセット 新材料チューブによる合成性能評価
2			石井 賢二	学校法人東京医科大学	神経変性疾患患者におけるPET検査の実施
3		社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	立川市	立川市認知症予防教室事業委託（絵本読み聞かせ講座）
4			藤原 佳典	大田区福祉部	大田区地域支え合い推進事業運営補助
5			鈴木 宏幸	練馬区	令和3年度認知症予防プログラム（絵本読み聞かせ編）事業の業務委託
6			鈴木 宏幸	新宿区	令和3年度シニアの絵本読み聞かせ講座業務委託
7			鈴木 宏幸	新宿区	令和3年度 囲碁による多世代交流支援フォローアップ講座業務委託
8			鈴木 宏幸	稲城市役所高齢福祉課	絵本読み聞かせ講座運営業務委託
9			藤原 佳典	草津町	令和3年度 国庫補助事業 草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務委託
10			鈴木 宏幸	狛江市	絵本読み聞かせ講座業務委託
11			鈴木 宏幸	北区	絵本読み聞かせ教室の運営委託
12			鈴木 宏幸	目黒区	シニア向け絵本読み聞かせ講座による認知症予防事業業務委託
13			鈴木 宏幸	文京区	絵本読み聞かせ講座運営委託

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
14	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	新宿区	令和3年度 囲碁講座
15			鈴木 宏幸	新宿区社会福祉事業団	令和3年度 絵本読み聞かせ講座
16			藤原 佳典	東京都	令和3年度介護予防・フレイル予防普及啓発事業実施委託
17		福祉と生活ケア研究チーム	大淵 修一	東大和市	東大和市介護予防リーダー養成講座修了論文作成指導業務委託
18			増井 幸恵	亀岡市	高齢期の幸福度に関する調査に係る分析業務委託
19			光武 誠吾	鳩山町	鳩山町国保ヘルスアップ事業「高齢者のフレイル対策」
20			涌井 智子	港区	高齢介護家族サポーター養成講座事業委託
21			大淵 修一	多摩市	介護予防リーダー養成講座実施業務委託
22			大淵 修一	北区	北区介護予防事業評価業務委託
23			河合 恒	一般財団法人日本規格協会	フレイルに関する測定方法・高齢者実データとの比較に関する調査
24			石崎 達郎	東京都	令和3年度高齢者の保健事業に関わる医療専門職の人材育成事業実施委託
25		介護予防・フレイル予防推進支援センター	藤原 佳典	東京都	令和3年度東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター運営業務委託

7 学術指導

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
1	研究部門	理事長	鳥羽 研二	キリンホールディングス株式会社	キリンホールディングス株式会社実施の臨床研究結果に関する学術指導
2		老化制御研究チーム	石神 昭人	株式会社資生堂 みらい開発研究所 シーズ開発センター	ペプチジルアルギニンデイミナーゼ(PAD)研究における学術指導
3		社会参加と地域保健研究チーム	藤原 佳典	株式会社博報堂	ユニ・チャーム株式会社 フレイル・認知症予防プロジェクトに関する監修
4			藤原 佳典	日清オイリオグループ株式会社	スマホ・アプリケーション「バランス日記」の改良と普及を目的とした学術指導

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
5	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	(株)キャピタルメディアカ	認知機能評価と生活機能に関する学術指導
6			清野 諭	株式会社カナミックネットワーク	年齢及び性別のフレイル状態評価、チェックデータの統計処理に係る学術指導
7			小川 将	株式会社ケイ・エス・オー	認知機能評価検査に関する学術指導
8			鈴木 宏幸	株式会社ケイ・エス・オー	認知機能評価検査に関する学術指導
9		自立促進と精神保健研究チーム	宇良 千秋	特定非営利活動法人認知症予防サポートセンター	認知症予防事業研修 講師派遣と研修に係る助言
10			金 憲経	花王株式会社 サニタリー研究所 革新ウェルネスプロジェクト	歩行及び筋力改善に伴う尿失禁症状改善に関する研究に対する学術指導
11			笹井 浩行	ユニアデックス株式会社	末病ケアマネジメント及び関連事業の効果検証に関する設計および分析の指導
12		自立促進と精神保健研究チーム	大淵 修一	株式会社ブリヂストン	小平市における住民レジストリ作成、及びスポーツクラブや小平市の施設などを活用した研究調査に関わる学術指導
13			大淵 修一	小金井市	生活支援体制基盤整備支援委託
14			大淵 修一	旭化成ホームズ株式会社	高齢者向け自立型賃貸住宅居住者への健康長寿に資するサービス評価と指導
15			大淵 修一	野村不動産ライフ＆スポーツ(株)	フィットネスクラブの退会率、復会率、新規入会率を改善するための老年学の観点から新たなプログラムを開発するための学術指導
16			大淵 修一	野村不動産ウェルネス株式会社	サービス付き高齢者向け住宅（オウカス）における健康評価に関する助言・指導
17			大淵 修一 河合 恒	株式会社ケプロ	歩行速度健康促進アプリを用いた介入によるブレフレイルの改善と検討
18		実験動物施設	野田 義博	パーソルテンブススタッフ株式会社	動物実験に関する知識、技術を修得ならびにそれらを評価するための助言・指導
19			野田 義博	株式会社夏目製作所	実験動物飼育管理の自動化に関する製品開発・評価への助言・指導
20		介護予防研究テーマ・高齢者健康事業支援室	大淵 修一	一般社団法人健康長寿支援センター	「高齢者の包括的な健康測定会」実施に関わる助言・指導

8 科学研究費

(1) 文部科学省: 科学研究費助成事業【研究代表者】※繰越課題・延長課題を除く

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究(S)	遠藤 玉夫	シニアフェロー	糖アルコールリン酸修飾のバイオロジー
基盤研究(A)	小林 江里香	社会参加と地域保健研究チーム	高齢期の家族・仕事・地域・経済と健康のダイナミクス：コホート・年齢差の研究
	井上 聡	老化機構研究チーム	呼吸鎖超複合体形成因子Cox7rpの作用機構の解明と標的臓器・長寿における役割
基盤研究(B)	清野 諭	社会参加と地域保健研究チーム	大都市在住高齢者のフレイル予防のための地域介入研究：5年間の有効性評価
	石神 昭人	老化制御研究チーム	老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定とその除去による個体寿命延長効果
	石崎 達郎	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者における多剤処方の健康影響評価と服薬指導プログラムの研究開発
	光武 誠吾	福祉と生活ケア研究チーム	医療・介護ビッグデータを用いた再入院発生予測モデルの開発と再入院予防策への提案
	北村 明彦	社会参加と地域保健研究チーム	フレイル発症に及ぼす生活因子、医学的因子、社会的因子の影響：年齢層による差異
	桜井 良太	社会参加と地域保健研究チーム	高齢期の聴覚障害が歩行機能と認知機能に及ぼす複合的影響の解明
	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	シルバー人材センター会員に着目した高年齢就業者の安全・健康管理に向けた要因の解明
	涌井 智子	福祉と生活ケア研究チーム	インフォーマルケアにおける介護者の生活実態の解明と在宅介護支援方策の検討
	村山 洋史	社会参加と地域保健研究チーム	介護助手に焦点を当てた高齢期就労の健康影響に関する包括的エビデンスの構築
	萬谷 博	老化機構研究チーム	O-マンノース型糖鎖の構造多様性とその決定機構の解明
	村山 陽	社会参加と地域保健研究チーム	貧困と社会的孤立状態にある単身男性高齢者からの援助要請を促すための支援方法の検討
	遠藤 昌吾	老化脳神経科学研究チーム	認知的フレイルとシグナル伝達機能低下ー早期発見から予防と克服へー
	重本 和宏	老年病態研究チーム	骨格筋の代謝の可塑性に基づくサルコペニアの病態解明と応用
	岩田 淳	脳神経内科	BRCA1の機能回復に基づいたアルツハイマー病神経細胞DNA傷害の修復機構の解明
	平野 浩彦	自立促進と精神保健研究チーム	高齢者の口腔機能・摂食嚥下機能の実態把握と包括的評価システム考案に関する調査研究

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究(B)	堀田 晴美	老化脳神経科学研究チーム	嚥下にもなう自律神経の活性化が骨格筋におよぼす作用とサルコペニア予防への応用
	大澤 郁朗	老化制御研究チーム	老化と関連疾患における免疫恒常性維持に対する分子状水素の作用とその分子機構解明
	大須賀 洋祐	自立促進と精神保健研究チーム	通いの場の機能を強化する包括的フレイル解消プログラムの開発と有効性検証
	涌井 智子	福祉と生活ケア研究チーム	ケアのサイエンスを実現する介護とテクノロジー融合が福祉のトラストに与える影響
	上住 聡芳	老年病態研究チーム	筋再生システムの老化を若返らせる分子機構
基盤研究(C)	多賀 努	自立促進と精神保健研究チーム	行動分析学理論を援用した介護保険サービス事業所の離職率ゼロの実現方策に関する研究
	佐久間 尚子	自立促進と精神保健研究チーム	高齢者が住み慣れた地域社会で暮らし続けるための生活機能評価法の開発
	今江 理恵子	老化機構研究チーム	グリセロールリン酸含有糖鎖の生物学的意義の解明
	井下 尚子	病理診断科	ヒトiPS細胞由来3次元培養下垂体組織の超微形態学的検討
	新井 富生	病理診断科	高齢者胃癌の分子病理学的特徴に基づく治療戦略の探索
	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム	嗜銀顆粒性認知症の随伴神経・精神症状と責任病巣に関する臨床神経病理学的研究
	石橋 賢士	神経画像研究チーム	新規PETリガンドによるグリアイメージング：種々の脳疾患における臨床応用の試み
	枝広 あや子	自立促進と精神保健研究チーム	認知症とともに暮らす地域高齢者の口腔衛生および口腔機能把握に向けた訪問調査研究
	井上 律子	老化脳神経科学研究チーム	コエンザイムQ10投与による運動野の可塑性変化を介した老齡期の運動学習向上
	増井 幸恵	福祉と生活ケア研究チーム	高齢期に老年的超越は発達するかーその個人差と関連要因の解明ー
	佐藤 薫	認知症未来社会創造センター	piRNAクラスターにおけるヘテロクロマチン依存的な転写活性化機構の解明
	高山 賢一	老化機構研究チーム	老年病の発生に関わるアンドロゲン受容体下流遺伝子と細胞特異的エピゲノム制御機構
	伊藤 雅史	老化制御研究チーム	エクソソームを利用したアルツハイマー病の新規診断法の開発
	吉田 祐子	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者における抑うつと炎症の関連に及ぼす運動、身体機能の影響

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究 (C)	藤田 泰典	老化制御研究チーム	ミトコンドリア多様性の理解と臓器老化メカニズムの解明
	川上 恭司郎	老化機構研究チーム	認知機能低下の早期バイオマーカー探索：長期縦断研究の検体を用いた細胞外小胞の解析
	河合 恒	福祉と生活ケア研究チーム	長期・継続的健康モニタリングを可能とする日常生活歩行速度測定確立のための研究
	西 真理子	社会参加と地域保健研究チーム	地域在住高齢者の主観的ウェルビーイングの維持・向上を目的としたアクションリサーチ
	豊原 潤	神経画像研究チーム	AQP4に対する高感度かつ選択的な高品質のPET薬剤の実用化
	下地 啓五	放射線診断科	先端脳MRIと疾患進行モデリングを用いた神経変性疾患の進行予測
	志智 優樹	老年病理学研究チーム	膵癌細胞の可変性制御による新規治療法の研究
	五味 不二也	老年病理学研究チーム	幹細胞表面特異的糖鎖を標的とした膵癌の新規治療法の開発
	大瀬 賢介	認知症未来社会創造センター	心筋細胞におけるミトコンドリア恒常性維持機構の加齢変化の解析
	河田 光弘	心臓血管外科	急性大動脈解離での肺酸化障害抑制に向けた水素ガス吸入療法の検討
	小原 由紀	自立促進と精神保健研究チーム	高齢期における口腔機能低下と腸内細菌叢との関連性の探索に関する研究
	渡邊 信博	老化脳神経科学研究チーム	皮膚刺激によるメラトニン分泌促進作用の神経性機序の解明と高齢者の睡眠ケアへの応用
	板倉 陽子	老年病態研究チーム	心不全パンデミックの予防を目指した高齢者心疾患に関わる糖鎖関連因子の解明
	池谷 真澄	老化制御研究チーム	脂質変化とエンドソーム変化を介する水素投与によるストレス耐性獲得機構の解明
	内田 さえ	老化脳神経科学研究チーム	高齢者の認知機能を活性化する最適な嗅覚刺激法の開発研究
	津元 裕樹	老化機構研究チーム	特異的誘導体化法を用いた新規シアリル化糖鎖・糖ペプチド解析法の開発と応用
	萬谷 啓子	老化機構研究チーム	O型糖鎖修飾によるAPP代謝制御機構の解明
	吉田 敦	老年病態研究チーム	抗酸菌のnon-coding RNA解析を発展させた新たな治療手段の開発
	石渡 俊行	老年病理学研究チーム	膵癌の癌幹細胞特異的糖鎖による早期診断法と新規治療法の開発

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究 (C)	梅澤 啓太郎	老化機構研究チーム	ケミカルツールを駆使したミトコンドリア機能制御因子の探索
	周 赫英	老年病態研究チーム	高品質な培養ヒト筋細胞を用いたサルコペニアの予防・治療法の開発
	三浦 ゆり	老化機構研究チーム	健康長寿糖鎖を介した慢性炎症の制御メカニズムの解明
	佐々木 紀彦	老年病態研究チーム	老化血管内皮細胞由来因子を介した心血管系細胞間ネットワーク機構の解明
	吉本 由紀	老年病態研究チーム	腱・靱帯老化の基礎的解析と腱・靱帯機能不全が筋骨格系組織へ及ぼす影響
	上住 円	老年病態研究チーム	加齢に伴う筋再生能力低下の機序解明と抑制法の開発
	上野 悟	認知症未来社会創造センター	臨床試験の効率化に向けた中央モニタリング手法の開発
若手研究	宮前 史子	自立促進と精神保健研究チーム	DFC構築のための基盤的研究；認知症当事者の回復と参画のプロセスの可視化
	江尻 愛美	福祉と生活ケア研究チーム	独居高齢者の社会的孤立を予防する修正可能な要因の解明
	高瀬 麻以	社会参加と地域保健研究チーム	施設入居高齢者が食生活で重視する項目の具現化および、現在の食生活との関係の究明
	田中 元基	介護予防・フレイル予防推進支援センター	児童生徒の自己肯定感に影響する都市部の就学前父子関係支援の在り方
	高橋 知也	社会参加と地域保健研究チーム	都市における高齢者の被援助志向性および優れた高齢者支援の在り方に関する総合的研究
	松永 博子	社会参加と地域保健研究チーム	都市部における勤労世代の生活困窮者が適切な支援に繋がる総合的支援モデルの構築
	野中 敬介	老年病理学研究チーム	ヒト副腎組織を用いた慢性ストレスの病態に関する検討
	松川 美穂	脳神経外科	エオジン好性核内封入体病(NIID)の臨床・病理連関と病態機序
	野藤 悠	社会参加と地域保健研究チーム	シルバー人材センターを基軸としたフレイル予防の介護認定・給付費抑制効果と波及効果
	高橋 淳太	介護予防フレイル予防推進支援センター	「生活活動の多様性」は健康寿命延伸における新たな評価概念となり得るか
	大村 卓也	老年病態研究チーム	骨格筋の質に注目したサルコペニアの病態解明
	瀧川 健司	老化脳神経科学研究チーム	単一シナプスレベルでの蛍光GABAイメージングによる開口放出制御機構の解明

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
若手研究	小林 聖未	膠原病・リウマチ科	巨細胞性動脈炎の末梢血RNA-seqによる病態病勢関連因子探索と治療最適化の検討
	大堀 薫（飯野 薫）	薬剤科	大腸がん組織におけるNONOの転写後機構の解析と革新的臨床応用
	竹岩 俊彦	老化機構研究チーム	卵巣がんにおける長鎖非コードRNA複合体の同定および機能解明と診断・治療への応用
	池内 朋子	福祉と生活ケア研究チーム	「自立」意識が高齢者の意思決定プロセスに与える影響
	横山 友里	社会参加と地域保健研究チーム	地域高齢者のたんぱく質摂取量の不足を防ぐための効果的なアプローチ方法の開発
	佐藤 綾美	老化制御研究チーム	表皮角化のエピジェネティクス制御機構及びその加齢変化におけるビタミンCの意義
	白部 麻樹	自立促進と精神保健研究チーム	アルツハイマー病を中心とした認知症高齢者に対する円滑な口腔衛生管理方法の開発
	根本 裕太	介護予防・フレイル予防推進支援センター	地域在住高齢者を対象とした社会経済的地位別の身体活動・座位行動の関連要因の検討
	阿部 巧	社会参加と地域保健研究チーム	フレイル高齢者の健康行動：環境要因の影響と予後への影響
	多胡 哲郎	神経画像研究チーム	脳内HDAC6PETプローブとしての18F標識テトラヒドロキノリン誘導体の開発
挑戦的研究 （萌芽）	我妻 慧	神経画像研究チーム	アルツハイマー型認知症を対象としたタウPETの標準化手法の確立
	石崎 達郎	福祉と生活ケア研究チーム	学際的アプローチによるポリファーマシー発生機序の探求
	村山 陽	社会参加と地域保健研究チーム	単身男性中高年者の将来展望を促すプログラムの開発：貧困と孤立の早期予防に向けて
	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	高齢者ボランティア活動のネガティブ効果とその要因：社会参加のダークサイドに挑む
	野中 久美子	社会参加と地域保健研究チーム	プロボノと協働する地域包括ケアシステム構築に向けた基礎的研究
	岩田 淳	脳神経内科	末梢血からの中枢神経由来exosome精製方法の確立
	宇良 千秋	自立促進と精神保健研究チーム	都市部で認知症とともに暮らす人を包摂する電話によるピアサポートの構築
	村山 洋史	社会参加と地域保健研究チーム	ナッジを活用した特定健康診査の受診率向上にむけたモデル開発
	遠藤 昌吾	老化脳神経科学研究チーム	記憶を担う活性酸素種一連合性検出機としての8-ニトロ-cGMP系の研究一

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
挑戦的研究 (萌芽)	豊田 雅士	老化病態研究チーム	血管ダメージによる組織機能低下が導く不定愁訴の分子基盤確立
	井上 聡	老化機構研究チーム	難治性前立腺がん患者由来モデルによるスーパーエンハンサー動態解析と治療法開発
	上住 聡芳	老年病態研究チーム	骨格筋が運動刺激を感知する新規メカニズム
研究活動スタート支援	瀧川 健司	老化脳神経科学研究チーム	新規GABA蛍光プローブ開発による自閉症スペクトラム障害の病態メカニズム解析
特別研究員奨励費	岡本 翔平	社会参加と地域保健研究チーム	高齢期の就労と健康：メカニズムの解明と社会経済への影響に関する研究
国際共同研究加速基金（帰国発展研究）	西宗 裕史	老化脳神経科学研究チーム	シナプス分化因子と間葉系幹細胞によるALS神経変性の抑制メカニズムの解析
学術変革領域研究（A）	内田 さえ	老化脳神経科学研究チーム	嗅神経・三叉神経を介する嗅覚の感度と認知機能の相関性の解析

(2) 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担	氏 名	所属研究チーム	研究課題
難治性疾患政策研究事業	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学研究チーム	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究
難治性疾患政策研究事業	研究分担者	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム	神経変性疾患領域の基盤的調査研究
長寿科学政策研究事業	研究代表者	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	PDCAサイクルに沿った介護予防の取組推進のための通いの場等の効果検証と評価の枠組み構築に関する研究
認知症政策研究事業	研究分担者	藤原 佳典 ※直接、厚労省から受領する分担者	社会参加と地域保健研究チーム	軽度認知障害の人における進行予防と精神心理的支援のための手引き作成と介入研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	研究分担者	横山 友里	社会参加と地域保健研究チーム	栄養素及び食品の適切な摂取のための行動変容につながる日本版栄養プロフィール策定に向けた基礎的研究
認知症政策研究事業	研究代表者	栗田 圭一	社会科学系副所長	独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究
長寿科学政策研究事業	研究代表者	平野 浩彦	自立促進と精神保健研究チーム	高齢者の口腔管理等の充実のための研究
長寿科学政策研究事業	研究代表者	本川 佳子	自立促進と精神保健研究チーム	高齢者の自立支援・重度化防止を効果的に進めるための栄養専門職と介護職等による栄養・食生活支援体制の効果検証のための研究

研究事業	代表・分担	氏 名	所属研究チーム	研究課題
労働安全衛生総合研究事業	研究分担者	大須賀 洋祐	自立促進と精神保健研究チーム	労働災害防止を目的とした高年齢労働者の身体機能を簡易に測定するためのプログラム開発と実装検証
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	研究分担者	岩崎 正則	自立促進と精神保健研究チーム	成人期における口腔の健康と全身の健康の関係性の解明のための研究
政策科学推進研究事業	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施推進に係る検証のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア研究チーム	在宅医療を必要とする患者像の検討と地域特性に合わせた在宅医療提供体制の構築に関する研究
難治性疾患政策研究事業	研究分担者	上野 悟	認知症未来社会創造センター	痙攣性発声障害疾患レジストリを利用した診断基準及び重症度分類の妥当性評価と改訂に関する研究
認知症政策研究事業	研究分担者	田村 嘉章	糖尿病・代謝・内分泌内科	併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究
認知症政策研究事業	研究分担者	石川 譲治	循環器内科	併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究
難治性疾患政策研究事業	研究分担者	井下 尚子	病理診断科	間脳下垂体機能障害に関する調査研究

9 日本医療研究開発機構委託研究開発【研究代表者・研究分担者】

研究事業	研究課題	代表・分担	氏 名	所属研究チーム
長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業	認知症臨床研究・治験参加者に対する画像・バイオマーカー結果開示の現状と課題に関する調査研究	代 表	石井 賢二	神経画像研究チーム
		分 担	岩田 淳	脳神経内科
		分 担	井原 涼子	脳神経内科

研究事業	研究課題	代表・分担	氏 名	所属研究チーム
認知症研究開発事業	疾患修飾薬の実用化を見据えた認知症性疾患の標準的診断方法の標準化と普及を目指す研究	代 表	岩田 淳	脳神経内科
		分 担	石井 賢二	神経画像研究チーム
		分 担	井原 涼子	脳神経内科
医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業	Harnessing Digital Technology in Detecting Oral Frailty and Enabling Healthy Aging	代 表	池内 朋子	福祉と生活ケア研究チーム
革新的先端研究開発支援事業	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	分 担	萬谷 博	老化機構研究チーム
難治性疾患実用化研究事業	福山型筋ジストロフィーおよび類縁の糖鎖異常型筋ジストロフィーに対する糖鎖補充療法の開発	分 担	萬谷 博	老化機構研究チーム
再生医療実用化研究事業	先天性食道閉鎖症術後の小児を対象とした自己上皮細胞死一都による再生治療のFIH臨床研究	分 担	金井 信雄	認知症未来社会創造センター
難治性疾患実用化研究事業	進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核変性症を対象とした多施設共同前向きコホート研究による質の高い診療エビデンスの構築	分 担	徳丸 阿耶	放射線診断科
次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業	患者層別化マーカー探索技術の開発／医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	分 担	石井 賢二	神経画像研究チーム
長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業	国際共同研究ネットワークによる家族性アルツハイマー病に関する多元的臨床データ収集とトランスレーショナル研究	分 担	石井 賢二	神経画像研究チーム
認知症研究開発事業	画像・バイオマーカー縦断コホート研究によるプレクリニカルアルツハイマー病進行機序の解明	分 担	石井 賢二	神経画像研究チーム

研究事業	研究課題	代表・分担	氏 名	所属研究チーム
認知症研究開発事業	反応性アストログリオシスを定量化する新規画像バイオマーカーの研究開発	分 担	石井 賢二	神経画像研究チーム
長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業	アポE遺伝子型と性差にかかわる認知症リスクを低減する食品関連因子の解明	分 担	石神 昭人	老化制御研究チーム
革新的がん医療実用化研究事業	可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	分 担	角 美奈子	放射線治療科
認知症研究開発事業	認知症プレクリニカル期・プロドローマル期を対象とするトライアルレディコホート構築研究	分 担	岩田 淳	脳神経内科
ロボット介護機器開発等推進事業	マルチセンシング技術を用いた介護現場のアセスメントおよび個別ケア支援に関わる研究開発	分 担	亀山 征史	放射線診断科
革新的先端研究開発支援事業インキュベータタイプ (LEAP)	重症筋無力症・難治性神経筋疾患の画期的治療に向けた筋特異的受容体チロシンキナーゼ活性化剤の開発	分 担	重本 和宏	自然科学系副所長
難治性疾患実用化研究事業	痙攣性発声障害レジストリを活用した診断基準及び重症度分類のバリデーション評価研究	分 担	上野 悟	認知症未来社会創造センター
医薬品等規制調和・評価研究事業	リアルワールドエビデンスの薬事制度化での利活用促進と国際規制調和に向けての課題整理と国内におけるあるべき体制の提言に向けた研究	分 担	上野 悟	認知症未来社会創造センター
脳とこころの研究推進プログラム 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト	認知症モデルマウスセットの産出と評価	分 担	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム
脳とこころの研究推進プログラム (精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト)	日本ブレインバンクネット (JBBN) による精神・神経疾患死後脳リソース基盤の強化に関する研究開発	分 担	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム
認知症研究開発事業	網羅的ゲノム解析とインフォマティクス統合解析による認知症の新規病態解析	分 担	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム

研究事業	研究課題	代表・分担	氏 名	所属研究チーム
認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業	認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究	分 担	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム
		分 担	鈴木 宏幸	社会参加と地域保健研究チーム
再生医療実現拠点ネットワークプログラム再生医療の実現化支援課題	再生医療研究とその成果の応用に関する倫理的課題の解決支援	分 担	八代 嘉美	認知症未来社会創造センター

10 研究委託費

事業名等	事業実施機関	研究担当者	研究チーム	研究課題
精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療センター	齊藤 祐子	老年病理学研究チーム	NCNPブレインバンクの運営および生前登録システムの推進
		上住 聡芳	老年病態研究チーム	疾患モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発
長寿医療研究開発費	国立長寿医療研究センター	荒木 厚	副院長	フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究
		石川 譲治	循環器内科	高齢者の認知症及びフレイルの発症・悪化を予防する、適切な循環器疾患（高血圧・心不全・心房細動等）の管理法を確立するための長期縦断観察研究
		鳥羽 梓弓		
		荒木 厚	副院長	認知症の共生と予防に関するエビデンス構築研究
		齊藤 祐子	老年病理学研究チーム	糖尿病や加齢、APOE遺伝子多型等の危険因子にも着目したアルツハイマー病の病態研究と治療標的の同定、次世代治療薬の開発

事業名等	事業実施機関	研究担当者	研究チーム	研究課題
長寿医療研究開発費	国立長寿医療研究センター	金 憲経	老年病態研究チーム	長寿コホートの総合的研究（ILSA-J） - 2 次的データ収集と分析 -
		藤原 佳典	老年病理学研究チーム	
		鈴木 宏幸	社会参加と地域保健研究チーム	
		大淵 修一	福祉と生活ケア研究チーム	
		小原 由紀	自立促進と精神保健研究チーム	
革新的自殺研究推進プログラム研究事業	一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター	藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム	多世代共生型地域包括ケアに向けたソーシャル・キャピタル醸成プログラムの開発
		鈴木 宏幸	社会参加と地域保健研究チーム	
イノベーション創出強化研究推進事業	生物系特定産業技術研究支援センター	本川 佳子	自立促進と精神保健研究チーム	米粉を使用した嚥下障害者のための嚥下食の開発
連携研究スキームによる研究	農林水産政策研究所	岡村 毅	自立促進と精神保健研究チーム	農福連携効果の学際的かつ定量的研究
WHO神戸センター研究事業	WHO神戸センター	岡本 翔平	社会参加と地域保健チーム	関西圏における高齢者の経済的保護についての研究

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報

2022年9月発行

この年報について、ご意見・お問い合わせ等がございましたら、下記までお寄せください。

編集・発行 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
経営企画局事務部総務課

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号

☎03 (3964) 1141 (代)